

基本計画書

基本計画書										
事項		記入欄							備考	
計画の区分		学部の学科の設置								
フリガナ		カクコホカクシン カクシヨシカクイ								
設置者		学校法人 相模女子大学								
フリガナ		カクシヨシカクイ								
大学の名称		相模女子大学（Sagami Women's University）								
大学本部の位置		神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号								
大学の目的		本学は、女子に広く高度な知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道德的および応用的能力を展開させ、建学の精神「高潔善美」にもとづく教養ある人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的		【人間社会学部】 社会人としての教養とマナーを身につけてもらい、これからの社会とその国際化に対応でき、精神的にも社会的にも自立した個性豊かな人材、さらに、これからの社会に求められるその場、その場での的確な判断力を兼ね備え、家族、コミュニティ、地域、職場、国際社会などの様々な場で自らの知識、技術、資質などに応じてできることを自発的に実行し、社会の発展と人類・地球全体の平和に貢献できる女性を養成する。 【地域クリエーション学科】 地域固有の資源を発掘し、地域の食、観光についてのグローバルな視点からの専門的知見をもとに地域の持続可能なウェルビーイングを総合的に分析、実践し、取組みをストーリー化して広く地域内外に発信できる人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	人間社会学部 [Faculty of Human Society] 地域クリエーション学科 [Department of Regional Development and Creativity]	年	人	年次人 3年次5	人 250	学士 （地域クリエーション学） 【Bachelor of Regional and Creativity Studies】	社会学・社会福祉学関係 家政関係	年 月 第 年次 令和8年4月 第1年次 令和10年4月 第3年次	神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号	
	計		60	5	250					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		相模女子大学 令和7年4月 収容定員の変更に係る学則変更届出予定 学芸学部 日本語日本文学科〔定員減〕（△25）（令和8年4月） 英語文化コミュニケーション学科（廃止）（△110）（令和8年4月） （3年次編入学定員）（△5） ※令和8年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は令和10年4月学生募集停止） 生活デザイン学科〔定員増〕（35）（令和8年4月） 人間社会学部 社会マネジメント学科〔定員減〕（△20）（令和8年4月） 人間心理学科〔定員減〕（△10）（令和8年4月） 学芸学部 国際コミュニケーション学科（60）（令和7年4月届出予定） （3年次編入学定員）（5） 相模女子大学短期大学部（廃止） 食物栄養学科（廃止）（△80） ※令和8年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数						卒業要件単位数		
	人間社会学部 地域クリエーション学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）		
新	人間社会学部 地域クリエーション学科	人	人	人	人	人	人	人	人	
		6 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	9 (8)	0 (0)	103 (86)		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	9 (8)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	6 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	9 (8)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	6 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	9 (8)					

設	学芸学部 国際コミュニケーション学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	105 (89)	令和7年4月届出済み		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)					
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	小計（a～b）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)					
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計（a～d）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)					
	計	14 (13)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	19 (18)	0 (0)	— (—)			
	既	学芸学部 日本語日文学科	10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)		140 (140)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数5人
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a～b）		10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）		10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)					
子ども教育学科		9 (9)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	143 (143)			
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		9 (9)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	134 (134)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数8人		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a～b）	9 (9)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (19)						
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
計（a～d）	9 (9)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (19)						
メディア情報学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)				138 (138)	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	138 (138)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数8人			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
小計（a～b）	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)						
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
計（a～d）	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)						
生活デザイン学科	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)				0 (0)	138 (138)	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	138 (138)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数8人		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
小計（a～b）	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)						

職 種				専 属		その他		計										
事 務 職 員				57 (57)		74 (76)		131 (133)										
技 術 職 員				0 (0)		0 (0)		0 (0)										
図 書 館 職 員				2 (2)		0 (0)		2 (2)										
そ の 他 の 職 員				0 (0)		0 (0)		0 (0)										
指 導 補 助 者				0 (0)		0 (0)		0 (0)										
計				59 (59)		74 (76)		133 (135)										
校 地 等	区 分			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計								
	校 舎 敷 地			106,722㎡		6,461㎡		0㎡		113,183㎡								
	そ の 他			11,555㎡		0㎡		0㎡		11,555㎡								
	合 計			118,277㎡		6,461㎡		0㎡		124,738㎡								
校 舎				専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計								
				47,992.14㎡ (47,992.14㎡)		1,497.32㎡ (1,497.32㎡)		0㎡ (0㎡)		49,489.46㎡ (49,489.46㎡)								
教 室 ・ 教 員 研 究 室				教 室		172室		教 員 研 究 室		9室	大学全体							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	学部等単位で の特定不能な ため、大学全 体の数					
	地域クリエーション 学科		327,824 [47,743] (326,944 [47,666])		822 [0] (602 [0])		7,137 [2,677] (7,136 [2,675])		2,285 [2,285] (2,285 [2,285])		118 (73)	0 (〃)						
	計		327,824 [47,743] (326,944 [47,666])		822 [0] (602 [0])		7,137 [2,677] (7,136 [2,675])		2,285 [2,285] (2,285 [2,285])		118 (73)	0 (〃)						
	スポーツ施設等		スポーツ施設		0㎡		講堂		0㎡		厚生補導施設 7,751㎡							
経費 の見 積り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次		図書購入費に は電子ジャー ナル・データ ベースの整備 費（運用コス ト含む）を含 む	
		教員1人当り研究費等			460千円		460千円		460千円		460千円		— 千円		— 千円			
		共同研究費等			400千円		400千円		400千円		400千円		— 千円		— 千円			
		図 書 購 入 費	1,085千円		1,085千円		1,085千円		1,085千円		1,085千円		— 千円		— 千円			
		設 備 購 入 費	3,000千円		3,000千円		3,000千円		3,000千円		3,000千円		— 千円		— 千円			
		学生1人当り 納付金			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次			
					1,468千円		1,187千円		1,170千円		1,168千円		— 千円		— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			経常費補助金、雑収入、資産運用収入、手数料等															
大 学 等 の 名 称			相模女子大学															令和6年度より 入学定員減 (△20人)
学 部 等 の 名 称			修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地	神奈川県相模原市南区 文京2丁目1番1号							
学芸学部			年	人	年次 人	人		倍										
日本語日本文学科			4	110	3年次 5	490	学士(文学)	0.59	昭和 24年度									
英語文化コミュニケーション学科			4	110	3年次 5	470	学士(文学)	0.45	昭和 42年度									
子ども教育学科			4	100	2年次 3年次 5	416	学士(子ども教育)	0.75	平成 20年度		令和6年度より 入学定員減 (△10人)							

既設大学等の状況	メディア情報学科	4	95	3年次 5	360	学士(メディア情報学)	1.12	平成20年度		令和6年度より入学定員減(15人)
	生活デザイン学科	4	45	3年次 5	190	学士(生活デザイン学)	1.18	平成25年度		
	人間社会学部						0.77			
	社会マネジメント学科	4	110	3年次 10	480	学士(社会マネジメント学)	0.63	平成20年度		令和6年度より入学定員減(△10人)
	人間心理学科	4	120	3年次 10	480	学士(人間心理学)	0.91	平成20年度		令和6年度より入学定員増(10人)
	栄養科学部						0.85			
	健康栄養学科	4	80	3年次 8	336	学士(栄養学)	0.82	平成20年度		
	管理栄養学科	4	100	3年次 10	420	学士(栄養学)	0.88	平成20年度		
	相模女子大学大学院									
	栄養科学研究科									
	栄養科学専攻 (M)	2	6	—	12	修士(栄養科学)	0.25	平成20年度		
	栄養科学専攻 (D)	3	2	—	6	博士(栄養科学)	0	平成22年度		
	社会起業研究科									
	社会起業専攻 (P)	2	30	—	60	社会起業修士(専門職)	0.81	令和2年度		
既設大学等の状況	大学等の名称 相模女子大学短期大学部									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	食物栄養学科	年	人	年次人 —	人	短期大学士(栄養学)	0.52	平成15年度	神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号	
附属施設の概要		名称：相模女子大学日本学国際研究所 目的：本学を拠点として日本の文化・社会を軸とした国際的な研究を推進すると共に、日本の文化・社会の国際的な理解を促進することを目的とする。 所在地：神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号 設置年月：令和6年4月 規模等：28㎡ 名称：教職センター 目的：教職課程運営に関する全学的な業務を統括し、教員養成教育の整備・充実を図り、優秀な教員の輩出に努めること。 所在地：神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号 設置年月：平成28年4月 規模等：83㎡（マーガレット本館1階） 名称：子育て支援センター 目的：子どもの健やかな育ちと親の子育てを支援するために、研究活動、教育活動、臨床活動を行うことを目的とする。 所在地：神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号 設置年月：平成22年5月 規模等：・子育て支援センター 81㎡（1号館1階） ・子育て支援相談室 32㎡（想定：守衛横）								

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については，専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」，専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 7 空欄には，「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人間社会学部 地域クリエーション学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（ 教助手以外を除く） 教員	
基礎科目	さがみ総合講座	1前		2			○			1						メディア
	基礎教育講座	1前		2			○			3		1				
	コンピュータリテラシー	1前・後		2				○							1	メディア
	小計（3科目）	—	—	6	0	0	—	—	—	3	0	1	0	0	1	—
教養科目	法学	1後			2		○								1	メディア
	日本国憲法	1前・後			2		○								1	メディア
	倫理学	1前・後			2		○								2	メディア
	経済学	1前・後			2		○			1					1	メディア
	社会学	1前・後			2		○								1	メディア
	心理学	1前・後			2		○								2	メディア
	言語学	1前・後			2		○								2	メディア
	文学	1前・後			2		○								2	メディア
	諸外国の社会と文化	1前・後			2		○								2	メディア
	メディアと文化	1前・後			2		○			1					2	
	アート	1前・後			2		○								2	オムニバス
	情報処理概論	1後			2		○								1	メディア
小計（12科目）	—	—	0	24	0	—	—	—	2	0	0	0	0	16	—	
発想・実践科目	地域から学ぶ知の実践	1前			2		○								1	メディア
	社会貢献・地域連携	1前			2		○			1					1	オムニバス
	地域協働活動	2通			1				○						1	標準外
	さがみ発想講座	1後			2		○								9	オムニバス、メディア
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ	3通			1			○							1	標準外
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ	4通			1			○							1	標準外
	ジェンダー論	1前			2		○								1	メディア
	くらしと文化	1前・後			2		○								2	メディア
	日本の社会と文化	1前・後			2		○								2	メディア
	データサイエンス	1前・後			2		○								1	
	AIと社会	1前・後			2		○								1	
	情報リテラシー	1前・後			1			○							2	メディア
	書道	1前・後			2		○								4	
	小計（13科目）	—	—	0	22	0	—	—	—	1	0	0	0	0	23	—
全学共通科目	キャリア・プランニング	1前・後			2		○			1					1	メディア
	ビジネス実務総論	1前・後			2		○								2	メディア
	SPI対策講座	3前			2		○								1	メディア
	就職支援講座	3前			2		○								1	メディア
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—	—	—	1	0	0	0	0	4	—
	健康・スポーツ科目	ウェルネス	1前・後			2		○							1	メディア
	身体科学	1前			2		○								1	メディア
	球技スポーツ	1前・後			1				○						2	メディア
	ラケットスポーツ	1前・後			1				○						4	メディア
	健康スポーツ	1前・後			1				○						5	メディア
シーズンスポーツ	1通			1				○						1	メディア、標準外	
小計（6科目）	—	—	0	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	9	—	
語学科目	言語と異文化	1前			2		○								5	オムニバス・共同（一部）、 メディア
	英語Ⅰ	1前・後			1			○							8	メディア、標準外
	英語Ⅱ	1前・後			1			○							6	メディア、標準外
	英語Ⅲ	1前・後			1			○							2	メディア
	英語Ⅳ	1前・後			1			○							2	メディア
	韓国／朝鮮語Ⅰ	1前・後			1			○							3	メディア、標準外
	韓国／朝鮮語Ⅱ	1後・2前			1			○							2	メディア、標準外
	韓国／朝鮮語Ⅲ	2前			1			○							1	メディア
	韓国／朝鮮語Ⅳ	2後			1			○							1	メディア

		中国語Ⅰ	1前・後		1		○								4	標準外
		中国語Ⅱ	1後・2前		1		○								5	標準外
		中国語Ⅲ	2前		1		○								1	メディア
		中国語Ⅳ	2後		1		○								1	
		フランス語Ⅰ	1前・後		1		○								4	メディア、標準外
		フランス語Ⅱ	1後・2前		1		○								3	メディア、標準外
		フランス語Ⅲ	2前		1		○								1	メディア
		ドイツ語Ⅰ	1前・後		1		○								3	標準外
		ドイツ語Ⅱ	1後・2前		1		○								2	標準外
		ドイツ語Ⅲ	2前		1		○								1	
		イタリア語Ⅰ	1前・後		1		○								1	標準外
		イタリア語Ⅱ	1後・2前		1		○								1	標準外
		スペイン語Ⅰ	1前・後		1		○								2	メディア、標準外
		スペイン語Ⅱ	1後		1		○								2	メディア、標準外
		海外研修Ⅰ	1後		2			○							1	標準外
		海外研修Ⅱ	2前		2			○							1	標準外
		海外研修Ⅲ	2後		2			○							1	標準外
		日本語Ⅰ	1前		1		○								1	
		日本語Ⅱ	1後		1		○								1	
		小計（28科目）	—	—	0	32	0	—		0	0	0	0	0	34	—
基礎科目	総合	地域クリエーション学入門	1前	○	2		○			6	1	2				オムニバス
		地域クリエーション学実践	1前	○	1				○	6	1	2				標準外、共同
		ライフデザイン	1後	○	2		○			6	1	2				オムニバス
		小計（3科目）	—	—	5	0	0	—		6	1	2	0	0	0	—
	観光	観光学概論	1前	○	2		○			1						メディア
		食文化論	1前	○	2		○				1					
		映像制作入門	1前	○	2		○			1						
		観光地理学	2前	○	2		○			1						
		ホスピタリティ概論	1後	○	2		○			1						
		ウェルビーイングと観光	2前	○	2		○			1						
		ホスピタリティ産業論	2前	○	2		○			1						
		地域コミュニティ論	2後	○	2		○			1						
		小計（8科目）	—	—	16	0	0	—		5	1	0	0	0	0	—
	ビジネス	プレゼンテーション入門	1前	○	2		○								1	
		データ分析入門	1前	○	2			○		1						
		マクロ経済学	1前	○	2		○			1						
		経営理論	1後	○	2		○			1						
		会計学	2後	○	2		○								1	
		小計（5科目）	—	—	10	0	0	—		3	0	0	0	0	2	—
	食	基礎化学	1前	○	2		○				1					
		食品の化学	1前	○	2		○				1					
		公衆衛生学	1後	○	2		○					1				
		食品衛生学	1後	○	2		○					1				
		調理科学	1後	○	2		○			1						
		食品安全学	2前	○	2		○					1				
		健康と栄養	2前	○	2		○					1				
		小計（7科目）	—	—	14	0	0	—		0	1	2	0	0	1	—
	観光と政策	グローバリゼーションとローカリゼーション	1後		2		○								1	メディア
		アニマルウェルフェア	1後		2		○								1	
		交通・ロジスティクス論	1後		2		○			1						
		エスニシティと地域社会	2前		2		○								1	メディア
		映像で学ぶ社会の進歩	2前		2		○			1						
		公共経済学	2前		2		○			1						
		公共政策論	2後		2		○			1						メディア
		生物と生態系	2後		2		○								1	
		小計（8科目）	—	—	0	16	0	—		2	0	0	0	0	4	—
		民法（契約法）	1後		2		○								1	
		ミクロ経済学	1後		2		○			1						
		消費者問題と政策	2前		2		○								1	

専門 教育 科目	基 幹 科 目	ビ ジ ネ ス ツ ー ル	流通論	2 前			2	○								1	メディア
			ベンチャー論	2 前			2	○								1	
			経営組織・人事管理論	2 前			2	○								1	
			マーケティング・経営戦略論	2 前			2	○								1	
			広報と広告	2 前			2	○								1	
			消費者行動論	2 後			2	○								1	
			ブランド戦略・商品開発論	2 後			2	○								1	
			小計（10科目）	—	—	0	20	0	—		1	0	0	0	0	6	—
		情 報	社会調査法入門	1 後			2	○								1	標準外、メディア、※講義
			ドローン操縦技術	1 後			1			○	1						
			映像制作演習（基礎）	2 前			2		○		1						
			プレゼンテーションⅠ（言語と身体表現）	2 前			2		○		1						
			無線通信技術と法	2 前			2	○			1						
			映像メディア論	2 後			2	○			1						
			地域データ分析	2 後			2		○		1						
			気候変動と気象予測	2 後			2	○							1	メディア	
			映像制作演習（発展）	2 後			2		○		1						
			プレゼンテーションⅡ（PCと視覚資料）	2 後			2		○		1						
			知的財産権法	2 後			2	○								1	
			小計（11科目）	—	—	0	21	0	—		2	0	0	0	0	3	—
	食 品 の 科 学		生化学	1 後			2	○								1	メディア ※演習
			微生物学	1 後			2	○								1	
			栄養機能学	1 後			2	○				1					
			栄養生理学	2 前			2	○				1					
			食と環境	2 前			2	○				1					
			食品加工と保蔵	2 前			2	○			1						
			フードブランニング論	2 前			2	○				1					
			発酵・醸造学	2 後			2	○			1						
			食品分析学	2 後			2	○								1	
			メニュー開発論	2 後			2	○								1	
			小計（10科目）	—	—	0	20	0	—		0	1	2	0	0	4	—
	観 光		観光ビジネス論	2 前			2	○			1						メディア
			エンターテインメント産業論	2 前			2	○								1	
			情報通信産業論	2 前			2	○			1						
			ホスピタリティマネジメント	2 前			2	○			1						
			日本文化演習	2 前			1		○		1						
			世界遺産入門	2 前			2	○			1						
			旅行業概論	2 後			2	○			1						
			フードツーリズム論	2 後			2	○			1						
			エンターテインメント特講	2 後			2	○			1						
			スポーツ産業論	2 後			2	○								1	
			地域資源発掘活用演習	2 通			1		○		1						標準外、メディア
			小計（11科目）	—	—	0	20	0	—		5	0	0	0	0	2	—
	展 開 科 目	食・ 農	フードデザイン実習（基礎調理）	1 後			1			○		1					メディア
			食文化と伝承	2 前			2	○								1	
			基礎化学実験	2 前			1			○						1	
			ライフステージと食	2 前			2	○				1					
			フードデザイン実習（応用調理）	2 前			1			○		1					メディア
			農水産業と地域社会	2 後			2	○								1	
			農水産物の加工と流通	2 後			2	○								1	
			食品衛生学実験	2 後			1			○						1	
			栄養マネジメント実習	2 後			1			○			1				メディア
			地域栄養学	2 後			2	○				1					
			食品加工学実習	2 後			1			○		1					
			食育活動	2 後			1		○				1				
			食安全マネジメント演習	3 前			1		○				1				メディア
			フードブランニング実習Ⅰ	3 前			1			○			1				
			フードブランニング実習Ⅱ	3 後			1			○			1				

実務	フードプランニング実習Ⅲ	3後			1			○				1			1	メディア ※演習	
	テーブルコーディネート論（演習含む）	3後			2		○										
	小計（17科目）	—	—	0	23	0	—			0	1	2	0	0	6	—	
	ファシリテーション	2前			2			○		1						標準外	
	ホスピタリティ実践	2後			1				1								
	資格支援講座	2後			2		○		1								
	インターンシップⅠ	2通			2			○	1								
	キャリア実践Ⅰ	3前			1			○	1								
	キャリア実践Ⅱ	3後			1			○	1								
	インターンシップⅡ	3通			2			○	1							標準外	
	小計（7科目）	—	—	0	11	0	—			4	0	0	0	0	0	—	
	完成科目	ゼミナールⅠ	3前	○	2				○		6	1	2				
		ゼミナールⅡ	3後	○	2				○		6	1	2				
		卒業研究Ⅰ	4前	○	3				○		6	1	2				
		卒業研究Ⅱ	4後	○	3				○		6	1	2				
小計（4科目）		—	—	10	0	0	—			6	1	2	0	0	0	—	
合計（167科目）		—	—	61	225	0	—			6	1	2	0	0	103	—	
学位又は称号		学士（地域クリエーション学）			学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係、家政関係								
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
必修科目61単位、選択必修科目23単位以上、全学共通科目及び専門教育科目の選択科目16単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。（履修科目の登録の上限：48単位（年間）） なお、全学共通科目の教養科目で4単位以上、キャリア支援科目で2単位以上、健康・スポーツ科目で1単位以上、語学科目の日本語Ⅰ・Ⅱ以外の科目で4単位以上（うち最低2科目は英語Ⅰ～Ⅳを選択）を選択必修とする。 専門教育科目の基幹科目の観光と政策の科目で2単位以上、ビジネスツールの科目で2単位以上、情報の科目で1単位以上、食品の科学の科目で2単位以上、展開科目で5単位以上を選択必修とする。									1学年の学期区分				2期				
									1学期の授業期間				14週				
									1時限の授業の標準時間				100分				

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人間社会学部 社会マネジメント学科）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学 共通科目	基礎 共通科目	さがみ総合講座Ⅰ	1前	2			○					1				メディア・標準外
		さがみ総合講座Ⅱ	1後	2			○					1				メディア・標準外
		基礎教育講座	1前	2			○			3	2					
		小計（3科目）	—	—	6	0	0	—		3	2	1	0	0	0	—
共通 教養科目	教養 科目群 （人文科学）	哲学	1前・後		2		○								2	メディア
		倫理学	1前・後		2		○								2	メディア
		音楽	1前・後		2		○								2	メディア・オムニバス・標準外
		美術	1前		2		○								1	
		書道	1前・後		2		○								3	
		文学	1前・後		2		○								2	メディア
		言語学	1前・後		2		○								2	
		文化人類学	1前・後		2		○								2	メディア
		臨床心理学入門	1前・後		2		○								2	メディア
		小計（9科目）	—	—	0	18	0	—		0	0	0	0	0	16	—
	教養 科目群 （自然科学）	数理の科学	1前・後		2		○								2	メディア
		生命の科学	1前		2		○								1	メディア
		宇宙の科学	1前		2		○								1	メディア
		行動の科学	1前・後		2		○								5	メディア
		生活の科学	1前・後		2		○								2	メディア
		栄養の科学	1前・後		2		○								1	
		基礎統計学	1前・後		2		○								1	
		情報ネットワーク論	1前・後		2		○								1	
		情報システム論	1前・後		2		○								1	
		情報処理概論	1前		2		○								1	メディア
		小計（10科目）	—	—	0	20	0	—		0	0	0	0	0	13	—
	教養 科目群 （社会科学）	法学	1後		2		○								1	メディア
		日本国憲法	1前・後		2		○								1	メディア
		社会福祉行政論	1前・後		2		○								1	
		経済学	1前・後		2		○			1					1	メディア
		社会学	1前・後		2		○			1					1	メディア
		現代教育論	1前・後		2		○								2	メディア
		メディアと文化	1前・後		2		○			1					2	
		日本の社会と文化	1前・後		2		○								2	メディア
		諸外国の社会と文化	1前・後		2		○								2	メディア
		小計（9科目）	—	—	0	18	0	—		3	0	0	0	0	11	—
	健康・ スポ ーツ 科目 群	健康管理	1前・後		2		○								1	メディア
		身体科学	1前・後		2		○					1			1	メディア
		球技スポーツ	1前・後		1				○			1			2	
		ラケットスポーツ	1前・後		1				○			1			4	
		健康スポーツ	1前・後		1				○						5	メディア
		シーズンスポーツ	1通		1				○			1				標準外
		小計（6科目）	—	—	0	8	0	—		0	0	1	0	0	9	—
	社会人 基礎力 向上科 目群	数理リテラシー	1前・後		2		○								1	メディア
		言語リテラシー	1前・後		2		○								3	メディア
		情報リテラシーⅠ	1前		1			○			1				2	メディア
		情報リテラシーⅡ	1後		1			○							1	メディア
		キャリアプランニング	1前		2		○								1	メディア
		ビジネス実務総論	1前・後		2		○								2	メディア
		小計（6科目）	—	—	0	10	0	—		0	1	0	0	0	9	—

語学科目	英語Ⅰ	1前・後			1			○								8	メディア・標準外
	英語Ⅱ	1前・後			1			○								5	メディア・標準外
	英語Ⅲ	1前・後			1			○								2	メディア
	英語Ⅳ	1前・後			1			○								2	メディア
	中国語Ⅰ	1前・後			1			○								4	標準外
	中国語Ⅱ	1後・2前			1			○								5	標準外
	中国語Ⅲ	2前			1			○								1	
	中国語Ⅳ	2後			1			○								1	
	韓国／朝鮮語Ⅰ	1前・後			1			○								3	メディア・標準外
	韓国／朝鮮語Ⅱ	1後・2前			1			○								2	メディア・標準外
	韓国／朝鮮語Ⅲ	2前			1			○								1	メディア
	韓国／朝鮮語Ⅳ	2後			1			○								1	メディア
	フランス語Ⅰ	1前・後			1			○								4	メディア・標準外
	フランス語Ⅱ	1後・2前			1			○								3	標準外
	フランス語Ⅲ	2前			1			○								1	メディア
	ドイツ語Ⅰ	1前・後			1			○								3	標準外
	ドイツ語Ⅱ	1後・2前			1			○								2	標準外
	ドイツ語Ⅲ	2前			1			○								1	
	イタリア語Ⅰ	1前・後			1			○								1	標準外
	イタリア語Ⅱ	1後・2前			1			○								1	標準外
	スペイン語Ⅰ	1前・後			1			○								2	メディア・標準外
	スペイン語Ⅱ	1後			1			○								2	メディア・標準外
	海外語学集中講座Ⅰ	1後			2				○							1	標準外
	海外語学集中講座Ⅱ	2前			2				○							1	標準外
	海外語学集中講座Ⅲ	2後			2				○							1	標準外
	日本語Ⅰ	1前			1			○								1	
	日本語Ⅱ	1後			1			○								1	
	小計（27科目）	—	—	0	30	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	31	—
実践科目	地域協働活動	1通			1			○								1	標準外
	さがみ発想講座	1後			2			○								9	メディア・オムニバス
	ビジネスのための経済・経営学	1前・後			2			○								1	メディア
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ	3通			1			○								1	標準外
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ	4通			1			○								1	標準外
	小計（5科目）	—	—	0	7	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	—
専門教育科目	基礎科目	社会マネジメント学入門Ⅰ	1前		2			○								2	メディア
		日本語スキルアップ講座	1後		2			○								3	
		地域で学ぶ社会のしくみ	1通		1					○						8	オムニバス
		映像で学ぶ近現代史Ⅰ	2後		2			○								1	
		社会人デビュー講座（基礎編）	1前		1				○							1	
		社会人デビュー講座（中級編）	2前		1				○							1	
		社会人デビュー講座（応用編）	3前		1				○							1	メディア
		社会人デビュー講座エクストラ	1後		2			○								1	
		社会マネジメント学入門Ⅱ	1前		2			○								1	メディア
		映像で学ぶ近現代史Ⅱ	2前		2			○								1	メディア
	小計（10科目）	—	—	10	6	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—
基幹科目	情報	統計基礎	1後		2			○								1	
		プレゼンテーション概論	1前		2			○									1
		コンピュータ概論	1後		2			○								1	メディア
		情報技術と人間	1後		2			○								1	メディア
		日本語表現法	2前		2			○									1
		応用統計学	2後		2			○								1	メディア
		集計・分析の技法	2後		2			○								1	メディア
		小計（7科目）	—	—	2	12	0	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—
	社会	グローバリズムとナショナリズム	1後		2			○								1	
		遊びと人間	1後		2			○								1	
		マス・コミュニケーション理論	2前		2			○								1	メディア
		社会調査法概論	1後		2			○								1	メディア
		社会調査法演習	2後		2					○						1	
		フィールドワークの技法	2前		2			○								1	
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	1後		2			○								1	メディア・オムニバス
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	2前		2			○								1	メディア・オムニバス
		小計（8科目）	—	—	0	16	0	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—
	法律・政治	憲法Ⅰ	1後		2			○								1	
		憲法Ⅱ	2前		2			○								1	
		刑法	1後		2			○								1	
		民法（契約法）	1後		2			○								1	メディア
		民法（家族法）	2後		2			○									1
		労働法	2前		2			○									1
		社会保障法Ⅰ	2前		2			○								1	メディア
		社会保障法Ⅱ	2後		2			○								1	
		政治学	1前		2			○								1	
		小計（9科目）	—	—	0	18	0	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—
	経済・経営	ミクロ経済学	1後		2			○								1	メディア
		マクロ経済学	1前		2			○								1	メディア
		公共経済学	2前		2			○								1	メディア
		経営学	1後		2			○									1
		簿記論	1後		2			○									1
		会計学	2後		2			○								1	
		小計（6科目）	—	—	0	12	0	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—

展 開 科 目	世 界 と 日 本	世界の民族問題	2前			2		○				1				1	メディア メディア メディア メディア・標準外 メディア		
		世界の経済問題	2前			2		○								1			
		世界の環境問題	2後			2		○								1			
		日本をとりまく国際情勢	2前			2		○				1							
		国際交流演習	2後			2			○				1						
		海外調査演習	3通			2			○				1						
		TOEIC I	1前			1			○							2			
		TOEIC II	1後			1			○							1			
		Comprehensive English I	3前			1			○							2			
		小計（9科目）	—	—	0	15	0	—				0	1	1	0	0		6	—
	コ ミ ュ ニ テ ィ	家族論	2前			2		○				1					1	メディア メディア メディア	
		地域社会論	2後			2		○					1						
		現代社会論	2前			2		○					1						
		行政法	2後			2		○								1			
		公共政策論	2後			2		○								1			
		地方自治論	2前			2		○								1			
		NPO概論	2後			2		○					1						
		交通・ロジスティクス論	2後			2		○				1							
		小計（8科目）	—	—	0	16	0	—				2	1	1	0	0	3		—
		消 費 者 と 企 業	消費者行動論	2後			2		○										1
	流通論		2前			2		○									1		
	ベンチャー論		2前			2		○									1		
	ブランド戦略・商品開発論		2後			2		○			1								
	経営組織・人事管理論		2前			2		○									1		
	マーケティング・経営戦略論		2前			2		○			1								
	広報論		2前			2		○			1								
	広告論		2前			2		○			1								
	消費者問題と政策		2前			2		○			1								
	消費者取引と法		2後			2		○			1								
	企業法		2後			2		○									1		
	経済法		3前			2		○			1								
	税制度論		2後			2		○									1		
	資産運用演習		2後			2			○								1		
	小計（14科目）		—	—	0	28	0	—				3	0	0	0	0	6	—	
	エ ン タ ー テ ィ メ ン ト ・ ホ ス ピ タ リ テ ィ	エンターテインメント産業論	2前			2		○									1	メディア メディア	
		ホスピタリティ産業論	2前			2		○			1								
		情報通信産業論	2後			2		○									1		
		スポーツ産業論	2後			2		○									1		
		エンターテインメント特講	2後			2		○			1								
		小計（5科目）	—	—	0	10	0	—				2	0	0	0	0	3		—
	メ デ ィ ア と 表 現	クリエイティブ技法Ⅰ（構成）	2前			2			○		1							メディア メディア メディア メディア メディア メディア	
		クリエイティブ技法Ⅱ（撮影）	2前			2			○		1								
		クリエイティブ技法Ⅲ（制作）	2後			2			○								1		
		クリエイティブ技法Ⅳ（サウンド）	2前			2			○								1		
		プレゼンテーション演習Ⅰ	2前・後			2			○		2								
		プレゼンテーション演習Ⅱ	2前・後			2			○		1	1							
		プレゼンテーション演習Ⅲ	3前・後			2			○		2								
		プログラミング演習Ⅰ	2前			2			○				1						
		プログラミング演習Ⅱ	2後			2			○				1						
		ジャーナリズム論	2後			2			○		1								
		地域メディア論	2後			2			○		1								
		テレビ番組論	2後			2			○		1								
		知的財産権法	2後			2			○								1		
		小計（13科目）	—	—	0	26	0	—				3	1	0	0	0	3		—
	心 理	社会・集団・家族心理学	2前			2		○									1	メディア メディア メディア メディア メディア メディア	
		知覚・認知心理学Ⅰ	2前			2		○									1		
		知覚・認知心理学Ⅱ	2後			2		○									1		
		社会倫理学	1後			2		○									1		
		応用倫理学	2後			2		○									1		
		産業・組織心理学	3後			2		○									1		
		司法・犯罪心理学	3後			2		○									1		
		現代の癒し文化	1後			2		○									1		
		小計（8科目）	—	—	0	16	0	—				0	0	0	0	0	6		—

地域と福祉	人体の構造と機能及び疾病	1後			2	○								1	メディア	
	心理学概論	1前			2	○								1		
	社会学と社会システム	1前			2	○								1	メディア	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1後			2	○								1		
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2前			2									1	メディア	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2前			2									1	メディア	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2後			2	○								1	メディア	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3前			2	○								1	メディア	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3後			2	○								1	メディア	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	1後			2					1					メディア	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2前			2	○									メディア	
	福祉サービスの組織と経営	3後			2	○								1	メディア	
	高齢者福祉	2後			2									1		
	障害者福祉	2前			2	○								1	メディア	
	児童・家庭福祉	2後			2	○								1		
	生活保護制度	2後			2									1		
	保健医療と福祉	3前			2	○								1	メディア	
	権利擁護を支える法制度	3後			2									1		
	刑事司法と福祉	3前			2	○								1		
	ソーシャルワーク演習（基礎）	2後			1		○							1	メディア	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2後			1		○							2	メディア・共同		
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前			1		○				1			1	メディア・共同		
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後			1		○				1			1	共同		
社会福祉士試験対策講座Ⅰ	4前			2		○							1	メディア		
社会福祉士試験対策講座Ⅱ	4後			2		○				1			2	共同		
小計（25科目）	—	—	0	46	0	—				0	1	0	0	0	14	—
完成科目	ゼミナールⅠ	3前			2		○			8	2	2				メディア
	ゼミナールⅡ	3後			2		○			8	2	2				メディア
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	2後			1		○							1		
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	3前			2		○				1					メディア
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	3後			1		○				1					メディア
	卒業研究Ⅰ	4前			3		○			8	2	1			1	メディア・標準外
	卒業研究Ⅱ	4後			3		○			8	2	1			1	メディア
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2後			2			○			1				2	共同・標準外
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3通			6			○			1				2	共同・標準外
	インターンシップ	2通			2			○				1				メディア・標準外
	地域連携プロジェクト演習Ⅰ	3前			2			○				1				
	地域連携プロジェクト演習Ⅱ	3後			2			○				1				
社会調査法実習Ⅰ	3前			2				○		1						
社会調査法実習Ⅱ	3後			2												

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(栄養科学部 健康栄養学科)																	
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹+教助手を 除く教員	
全学共通科目	基礎共通科目	さがみ総合講座Ⅰ	1前		2			○			1						メディア・標準外
		さがみ総合講座Ⅱ	1後		2			○			1						メディア・標準外
		基礎教育講座	1前		2			○			2		1				オムニバス
		小計（3科目）	—	—	6	0	0	—			3	0	1	0	0	0	—
共通教養科目	教養科目群（人文科学）	哲学	1前・後		2			○								2	メディア
		倫理学	1前・後		2			○								2	メディア
		音楽	1前・後		2			○								2	メディア・オムニバス・標準外
		美術	1前		2			○								1	
		書道	1前・後		2			○								3	
		文学	1前・後		2			○								2	メディア
		言語学	1前・後		2			○								2	
		文化人類学	1前・後		2			○								2	メディア
		臨床心理学入門	1前・後		2			○								2	メディア
		小計（9科目）	—	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	16	—
	教養科目群（自然科学）	数理の科学	1前・後		2			○								2	メディア
		生命の科学	1前		2			○								1	メディア
		宇宙の科学	1前		2			○								1	メディア
		行動の科学	1前・後		2			○								5	メディア
		生活の科学	1前・後		2			○								2	メディア
		栄養の科学	1前・後		2			○								1	
		基礎統計学	1前・後		2			○								1	
		情報ネットワーク論	1前・後		2			○								1	
		情報システム論	1前・後		2			○								1	
		情報処理概論	1前		2			○								1	メディア
	小計（10科目）	—	—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	13	—	
	教養科目群（社会科学）	法学	1後		2			○								1	メディア
		日本国憲法	1前・後		2			○								1	メディア
		社会福祉行政論	1前・後		2			○								1	
		経済学	1前・後		2			○								2	メディア
		社会学	1前・後		2			○								2	メディア
		現代教育論	1前・後		2			○			1					1	メディア
		メディアと文化	1前・後		2			○								3	
		日本の社会と文化	1前・後		2			○								2	メディア
		諸外国の社会と文化	1前・後		2			○								2	メディア
		小計（9科目）	—	—	0	18	0	—			1	0	0	0	0	13	—
	健康・スポーツ科目群	健康管理	1前・後		2			○								1	メディア
		身体科学	1前・後		2			○			1					1	メディア
		球技スポーツ	1前・後		1											3	
		ラケットスポーツ	1前・後		1						1					4	
健康スポーツ		1前・後		1						1					4	メディア	
シーズンスポーツ		1通		1											1	標準外	
小計（6科目）		—	—	0	8	0	—			1	0	0	0	0	9	—	
社会人基礎力向上科目	数理リテラシー	1前・後		2			○								1	メディア	
	言語リテラシー	1前・後		2			○								3	メディア	
	情報リテラシーⅠ	1前・後		1					○						5	メディア	
	情報リテラシーⅡ	1前・後		1					○						4	メディア	
	キャリアプランニング	1前		2			○								1	メディア	
	ビジネス実務総論	1前・後		2			○								2	メディア	
	小計（6科目）	—	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	12	—	

語 学 科 目	英語Ⅰ	1前・後			1			○							8	メディア・標準外	
	英語Ⅱ	1前・後			1			○							5	メディア・標準外	
	英語Ⅲ	1前・後			1			○							2	メディア	
	英語Ⅳ	1前・後			1			○							2	メディア	
	中国語Ⅰ	1前・後			1			○							4	標準外	
	中国語Ⅱ	1後・2前			1			○							5	標準外	
	中国語Ⅲ	2前			1			○							1		
	中国語Ⅳ	2後			1			○							1		
	韓国／朝鮮語Ⅰ	1前・後			1			○							3	メディア・標準外	
	韓国／朝鮮語Ⅱ	1後・2前			1			○							2	メディア・標準外	
	韓国／朝鮮語Ⅲ	2前			1			○							1	メディア	
	韓国／朝鮮語Ⅳ	2後			1			○							1	メディア	
	フランス語Ⅰ	1前・後			1			○							4	メディア・標準外	
	フランス語Ⅱ	1後・2前			1			○							3	標準外	
	フランス語Ⅲ	2前			1			○							1	メディア	
	ドイツ語Ⅰ	1前・後			1			○							3	標準外	
	ドイツ語Ⅱ	1後・2前			1			○							2	標準外	
	ドイツ語Ⅲ	2前			1			○							1		
	イタリア語Ⅰ	1前・後			1			○							1	標準外	
	イタリア語Ⅱ	1後・2前			1			○							1	標準外	
	スペイン語Ⅰ	1前・後			1			○							2	メディア・標準外	
	スペイン語Ⅱ	1後			1			○							2	メディア・標準外	
	海外語学集中講座Ⅰ	1後			2				○						1	標準外	
	海外語学集中講座Ⅱ	2前			2				○						1	標準外	
	海外語学集中講座Ⅲ	2後			2				○						1	標準外	
	日本語Ⅰ	1前			1			○							1		
	日本語Ⅱ	1後			1			○							1		
	小計（27科目）	—	—	0	30	0		—			0	0	0	0	0	31	—
	実 践 科 目	地域協働活動	1通			1				○						1	標準外
		さがみ発想講座	1後			2			○		2					8	メディア・オムニバス
		ビジネスのための経済・経営学	1前・後			2			○							1	メディア
問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ		3通			1			○							1	標準外	
問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ		4通			1			○							1	標準外	
小計（5科目）		—	—	0	7	0		—		2	0	0	0	0	10	—	
専 門 教 育 科 目	公衆衛生学	3後			2			○			1					メディア	
	社会福祉論	1前			2			○							1		
	解剖生理学	1前			2			○			1						
	解剖生理学実習	1後			1					○				1	1		
	運動生理学	2前			2			○							1		
	生化学	1後			2			○			1						
	生化学実験	2前			1					○				1	1		
	臨床医学	1後			2			○			1						
	食品学総論	1後			2			○			1						
	食品学各論	2前			2			○			1						
	基礎化学実験	1前			1					○				1	1		
	食品学実験Ⅰ	3前			1					○	1			1			
	食品学実験Ⅱ	3後			1					○	1			1			
	食品官能評価・鑑別演習	3後			2			○			1			1			
	食品衛生学	2前			2			○			1					メディア	
	食品衛生学実験	2後			1					○	1			1		メディア	
	微生物学	1前			2			○			1					メディア	
	栄養学総論Ⅰ	1前			2			○			1						
	栄養学総論Ⅱ	1後			2			○			1						
	ライフステージの栄養学Ⅰ	2前			2			○				1					
	ライフステージの栄養学Ⅱ	2後			2			○				1				メディア	
	ライフステージの栄養学実習	2後			1					○		1		1		メディア	
	運動栄養学	2後			2			○			1						
	臨床栄養学Ⅰ	2前			2			○			1						
	臨床栄養学Ⅱ	2後			2			○			1						
	臨床栄養学実習	3前			1					○	1			2			
	公衆栄養学	3前			2			○				1				メディア	
	栄養士入門	1前			2			○			2					共同・メディア	
	栄養指導論	3後			2			○				1				メディア	
	栄養士基礎実習	2前			1					○	1			2			
	栄養指導論実習	4後			1					○		1		1		メディア	
	給食管理論	2前			2			○				1				メディア	
	給食管理演習	2後			2					○		1		1		メディア	
	給食管理実習（校内）	3前			2					○		1		2	1	メディア	
	給食管理実習（校外）	3通			1					○	1	1	1			共同・標準外	
	校外実習事前事後指導	3通			1			○			1	1	1			共同・メディア・標準外	
調理学	1前			2					○		1				メディア		
調理科学演習	1後			2					○		1		2				
調理学実習Ⅰ	1後			1					○		1		1				
調理学実習Ⅱ	2前			1					○		1		2				
小計（40科目）	—	—	66	0	0		—			8	3	1	0	5	6	—	

学 科 専 門 科 目	有機化学	1前		2		○				1					1	メディア 共同・メディア 共同・メディア 共同・メディア 共同・メディア 共同・メディア 共同・メディア メディア メディア 標準外・メディア 標準外・メディア 共同・標準外・メディア
	スポーツ栄養学	3前		2		○				1						
	スポーツ栄養学実習	3後		1					○	1				1		
	健康運動指導論	4前		2		○									1	
	健康運動指導論実習	4後		1					○						1	
	食育プラクティス	4前		2		○				1					1	
	製菓実習	2後	1						○	1				1	2	
	食品加工学実習	4前		1					○		1			1		
	試験対策講座Ⅰ	3後		1				○		3						
	試験対策講座Ⅱ	3後		1				○		2	1					
	試験対策講座Ⅲ	4前		1				○		1	1	1				
	試験対策講座Ⅳ	4前		1				○		1	1					
	試験対策講座Ⅴ	4後		1				○		2						
	ゼミナールⅠ	3前		1				○		10	3	1				
	ゼミナールⅡ	3後		1				○		10	3	1				
	卒業研究Ⅰ	4前			2			○		7	3	1				
	卒業研究Ⅱ	4後			2			○		7	3	1				
	キャリア形成プラクティス（インターンシップを含む）	2通			1				○	1	1					
	小計（18科目）	—	—	10	14	0		—		11	3	1	0	2	4	
副 資 格 科 目	食品機能論	4前			2		○			1						共同・メディア メディア メディア 標準外 メディア メディア メディア メディア メディア メディア
	フードスペシャリスト論	3後			2		○				1					
	フードコーディネーター論	3前			2		○								1	
	フードコーディネーター論実習	3後	1						○					1	1	
	消費者商品学	4前			2		○								1	
	消費経済学	2後			2		○								1	
	学校栄養教諭論	3前			2		○			1					1	
	学校食育指導論	3後			2		○								1	
	家族関係	2後			2		○								1	
	家庭経営（家庭経済学を含む）	1前			2		○								1	
	衣生活論（衣科学を含む）	1後			2		○								1	
	被服構成（被服製作実習を含む）Ⅰ	3前			1				○						1	
	被服構成（被服製作実習を含む）Ⅱ	3後			1				○						1	
	住生活論	2前			2		○			1						
	住居学（製図を含む）	2後			2			○		1						
	保育学（実習および家庭看護を含む）	3前			2			○							1	
	消費者問題論	1後			2		○								1	
	家庭科教育法（中）Ⅰ	2前			2		○			1						
	家庭科教育法（中）Ⅱ	2後			2		○			1						
	家庭科教育法（中・高）Ⅰ	3前			2		○			1						
	家庭科教育法（中・高）Ⅱ	3後			2		○			1						
	小計（21科目）	—	—	1	38	0		—		3	1	0	0	1	10	

教職課程	教育に関する基礎的科目理解	教育の原理	1前・後			2		○			1						メディア
		教職論	2前・後			2		○			1						メディア
		教育の制度	1前・後			2		○					1				メディア
		教育心理学	1前・後			2		○					1				メディア
		特別支援教育概論	2前・後			2		○					1				メディア
		カリキュラム論	1前・後			1		○					1				メディア
	小計（6科目）		—	—	0	11	0	—			1	0	0	0	0	4	—
	道徳、生徒等に関する指導の合指的な学相及習	道徳教育論	1前・後			2		○								1	メディア
		総合的な学習の時間の指導	2前・後			2		○								1	標準外
		特別活動論	1前・後			2		○								1	メディア
		教育方法論	1前・後			1		○								1	
		情報通信技術の活用	3前・後			1		○								1	メディア・標準外
		生徒・進路指導	1前・後			2		○								2	メディア
	教育相談		1前・後			2		○								2	
	小計（7科目）		—	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	7	—
	教育実践に関	教育実習Ⅰ	4通			4				○	1						標準外
		教育実習Ⅱ	4通			2				○						1	標準外
事前・事後指導		4前・後			1			○		1					1	メディア・標準外	
教職実践演習（中・高）		4後			2			○		1					1	メディア・共同	
小計（4科目）		—	—	0	9	0	—			1	0	0	0	0	1	—	
合計（171科目）			—	—	83	195	0	—			11	3	1	0	5	124	—
学位又は称号		学士（栄養学）				学位又は学科の分野				家政関係							
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
必修科目83単位、選択必修科目13単位以上、全学共通科目及び専門教育科目の選択科目18単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） なお、全学共通科目の共通教養科目の教養科目群（人文科学）の科目で2単位以上、教養科目群（自然科学）の科目で2単位以上、教養科目群（社会科学）の科目で2単位以上、健康・スポーツ科目群の科目で1単位以上、社会人基礎力向上科目群の科目で2単位以上を選択必修とする。全学共通科目の語学科目において、日本語Ⅰ・Ⅱ以外の科目で4単位以上（同一言語のⅠ及びⅡを一つ以上履修すること）を選択必修とする。										1 学年の学期区分				2期			
										1 学期の授業期間				15週			
										1 時限の授業の標準時間				90分			

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校学科の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要					
(人間社会学部 地域クリエーション学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	基礎科目	さがみ総合講座		建学の精神、本学の歴史などの知識を習得し、本学の学生であることの自覚を涵養するための必修科目である。この授業を通して大学教育の意味、本学の教育の特徴を知り、キャリアデザインのための教養と知識の手がかりを得る。	
		基礎教育講座		この授業では、高校までの教科書中心の受動的な学びと大きく異なる大学での学びの基礎となるノートテイキングや自主学習、グループ学習やディスカッションなどの手法を学びます。また、成人年齢が18歳に引き下げられたことに伴い、社会人としての義務や権利、メディアリテラシーなど注意すべき点についても学びます。3クラス、各20人程度にクラス分けすることにより、ホームルームでの代わりとして学生どうし、学生と教員との間の人間関係の構築にも資するようにします。全クラス共通で専用の独自の教科書を用いる予定です。	
		コンピュータリテラシー		日常生活および学生として活動する上で必要とされるコンピュータリテラシーの習得を目標とする。具体的には、1)学内のコンピュータ環境の利用方法を知る、2)インターネットに関する基礎的な仕組みを理解する、3)文書・レポートの作成、データの集計および発表資料の作成に関わる文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を身に付ける。 この授業では毎回、インターネットに接続されたパソコンを使った演習を通して、情報社会で不可欠なICT活用の基礎を習得する。具体的には、タイピング練習から始めて、コンピュータ、インターネットの基礎知識やブラウザを使ったWeb上の操作を学び、Microsoft Word（文書作成）、Excel（表計算）、PowerPoint（プレゼンテーション）の基本的な機能を使った演習を行う。	
	教養科目	法学		この授業では以下の知識、能力を身につけることを目標とする。 ・人間生活の基礎となる法律について、日常の市民生活に必要な最低限の知識を示すとともに、法的な思考方法の基礎を身につけることができる。 ・本学のディプロマポリシーに基づき、社会生活上に起こりうる法律問題を通して、その問題解決の方法を法的な側面から自ら考え、自ら調べることで、多角的な視点で、考えることができる。それにより、社会人としての法的知識を身につけ、大学での学習基盤となるアカデミックスキルを身につける。	
		日本国憲法		憲法は、国家の組織の基本法である。それだけに我々は新聞・テレビなどで憲法問題を目にする機会が多い。しかしこのような意味で馴染み深い憲法も、学ぶことなしには理解できない。そして、憲法を理解するには、ある程度深い法的な考察が必要となる。そこで本講義では、日本国憲法の成立過程、日本国憲法の具体的内容（国民主権と天皇制・絶対平和主義・基本的人権・国会・内閣・司法）などから、日本国憲法の全体像と条文の意味内容を明らかにする。	

倫理学		倫理学は、人の生き方や行為、社会に関わる様々な問題について、その是非を理論的に考える学問である。本授業では、様々な倫理学的問題を理解するための基礎となる哲学、倫理学や思想史の基本的な知識を習得するとともに、そうした知識を用いて、現実の様々な倫理的諸問題について、その論点を理解したうえで、筋道だった仕方ですそうした問題について自らの考えを語ることができる能力を身に着けることを目指す。	
経済学		私たちの消費生活や買物などから垣間見る企業戦略を通じて、経済の諸問題を学習するとともに、ミクロ経済学、マクロ経済学、応用経済学の諸領域の入口の部分を紹介する。ミクロ経済学の領域では、消費者行動、生産者行動、市場分析、厚生経済、市場メカニズムの限界と新たな経済学の動向などを、マクロ経済学の領域では、IS-LM分析、AD-AS分析、景気変動、国際経済などを扱う。これらの経済学の理論的事項と関係づけながら、マーケティング、産業組織論、公共経済学、国際経済学など応用領域で採り上げられる諸テーマを示す。	
社会学		この講義は、社会学という学問に対する基礎的な知識の習得と包括的な理解を深めることを目的とする。学説史もまじえながら、これまでの社会学における諸議論を紹介し、社会学という学問の発想法に対する理解を深める。そのうえで、労働、グローバルイゼーション、文化、コミュニケーション、メディア等のトピックを取り上げ、それらに対する社会学的な議論の方法を学ぶ。これらを通して、教養としての社会学を身につけることを、またより専門的な下位・隣接領域の研究や社会調査法などを効果的に学習できるようになることを目指す。	
心理学		「心理学」では、心や行動の基本的な理解を深めるため、心理学の理論や概念を学びます。知覚や記憶、感情などのしくみあるいは、ストレスや不適応行動といった心の健康に関連するテーマを取り上げ、これらが日常生活や対人関係にどのように影響するかを考察します。心理学的な視点を通じて、心のはたらきや行動を理解し、問題解決に応用できる基礎力を身につけることを目指します。	
言語学		「言語学」の基本的な考え方を学び、さまざまな観点から「ことば」を観察する。授業では、各テーマに基づき、様々な言語現象や問題を、用例などを挙げながら紹介していく。私たちが無意識に扱っている「ことば」について意識的に見直す機会となることを期待したい。授業は言語現象の分析等のタスクを通して、各自の意識と理解を確認しながら、進めていく。	
文学		日常生活で使用する言語は、話し手の考えなり、意志なりを相手に伝達する道具にすぎない。そのような言語が、どうして文学という芸術作品となるのか、その仕組みについて基本的な理解を得ようとする。文学作品を成り立たせるのは、その素材・モチーフ・思想であるより、言葉そのものであり、その事情を、詩および小説の具体的な作品例に則して明らかにするとともに、作品の読み方を学んでゆく。	

	諸外国の社会と文化		日本と深い繋がりのある韓国、中国、台湾を中心としたアジアの国や地域、もしくはヨーロッパ社会の文化や風習について理解を深め、それらの国や地域の現状、そして文化の多様性について考えられるようになることを目的とする。全般的な歴史の流れに沿って主要な出来事を確認し、それぞれの時代に生きた人々が何を考え、どのような生活を送っていたのかを解説する。さらに日本の文化や社会を再確認し、日本と各国々の文化や風習などとはどのように影響し合っているのかということを見つめて、文化を通して日本と世界との関わりを考えられるようにする。	
	メディアと文化		この講義ではメディアと文化の関係について考えるための視点や概念や方法についての基本的な知識を獲得し、具体的なメディア文化を分析・考察していく。文化の特徴や成り立ちについて、メディアという観点から捉えることができ、メディアは表現文化の形式を根本的なところで規定しているといえる。本講義では、特に社会学をベースとした文化現象の捉え方を理解したり、映像作品の社会や文化に対する影響を分析し、映像の力の可能性と同時に危険性も考察しながら、リテラシー能力を高めたりすることを目指す。	
	アート		アートは、様々な美的経験を私たちに与えてくれるものであるとともに、感性を通じて人間や社会についての問いやその問いを紐解く手がかりを与えてくれる。つまり、アートは今日の私たちの生活と深く結びついている。この授業は、こうした現代の私たちの生活に不可欠なものとなったアートについて、それを味わい楽しむ能力を身に付けるとともに、その根底にある人間の美的経験をもたらす心のあり方について深く理解することを目標とする。 (オムニバス方式／全14回) (12 伊東 俊彦／7回) アートの文化的・社会的意義について筋道だった仕方考える。 (39 山本 絵里子／7回) 人間の美的判断や美的体験を支える心の仕組みについて、心理学や美学等の知見を基に、深く理解する。	オムニバス方式
	情報処理概論		情報通信技術の基礎を学ぶ講義であり、一般教養としての情報学を学ぶ。内容としては、情報とその媒体の特徴を理解し、現在の技術の中心であるマルチメディアの処理技術や処理ソフト・装置について学習する。さらにマルチメディアの応用システムの紹介と著作権を中心にインターネット社会の問題点について考える。具体的には、情報のデジタル表現について学び、これをもとに情報のデジタル化と処理について学習する。以上のようなことを学び、現在の情報通信技術に対応できる知識を身につける。	
発 想 ・ 実 践 科 目	地域から学ぶ知の実践		本授業は、本学が位置する相模原市やその周辺地域で行われている知的実践を知ることを通じて、地域をより深く知ることを目的とした授業である。相模原市にやその周辺地域で活動する方に講師をお願いし、携わっている様々な実践について知り、相模原の地域資源の豊かさを理解することを目的とする。	

社会貢献・地域連携		相模女子大学の一つの大きな特徴であり、社会的にも評価を受けている社会貢献・地域協働活動に参加する意義を「地域や社会」、「自身の学びやキャリア形成」の視点から示し、学生自身の参加やグループ活動が継続するための方策や地域との関係づくりの方策と同時に、自身の成長と社会貢献の両立性を考えていく。抽象的総論だけではなく、具体的各論として、夢をかなえるセンターがキャリア形成支援ポリシーの下で正課外活動として提供している「Sagamiチャレンジプログラム」を中心に、活動内容や意義、成果を紹介し、教員が直接かかわっている活動に関し教育的、研究的視点から講義する。また、活動に参加している／いた学生たちや受入れ先など多様なゲストも交えて、学生たちがより実感をもって活動の意義を理解できる講義とする。 (オムニバス方式／全14回) (1 湧口清隆／9回) 地域活性化やそのための商品開発の意義や、継続性を確保するための手法について講義する。 (18 久保 康彦／5回) 女性の多様な働き方と地域との関係や、地域の関係構造とイノベーションの関係性を講義する。	オムニバス方式
地域協働活動		本学が提携している日本の各地域や企業、NPO等の団体との交流事業や体験学習、地元の農産物を使った商品開発など、学生が各地へ出向いて現場体験を行い、人々の多様な考え方、生き方を学ぶことで、①社会・対人間関係力、②自己成長及び他者貢献を継続・向上させる力、③ファシリテーション力、④課題解決に対する行動力を身に付け、今後の社会活動に活かす素養を得ることを目標とする。また、事前事後指導を設け、事前では提携先より地域の情報や事業、体験の説明・指導を受け、活動後は体験や反省を報告会ならびに報告書にて振り返り、社会貢献の重要性を学ぶ。	

さがみ発想講座		「発想力」は、本学の学生としてどの学科に所属していても共通して必要とされる能力である。この授業では、受講者ひとりひとりが対象を「見つめ」、答えを「見つけ」るための発想法の基礎を身につける。大学のディプロマポリシー「社会におけるさまざまな場において多角的視点でものごとを見つめ、身につけた知識や技能と柔軟な発想力を活用して社会や生活に役立つ新しいことを生み出すことができる」に関連する。 複数の教員が、それぞれの領域における「発想法」を紹介し、講義とともに具体的な作業を行いながら発想技術を学ぶ。外部講師を招くことがある。期末には最終成果物の準備を行い、成果物は学内で公表する場合がある。 (オムニバス方式／全14回) (10 池田 仁人／4回) 人間の様々な年代における「見え方」について学び、人のために何かをするとき、どのようなことに留意したら良いのかを考える。具体的には幼児の見え方、高齢者の見え方動き方を体験することを通して考察していく。 最終成果物の準備。発想法の選択、構想を練る。 最終成果物の準備。発想法を活かした成果物の製作、報告の準備。 まとめ、最終成果物の経過報告。履修者の成果物や発想法からお互いに発想力を学ぶ。 (13 稲田 大祐／1回) 「音」からの発想をする。見えない音を色と形にして視覚化。オノマトペからの想像と創造を学ぶ。オノマトペから抽象画の理解、音による体への刺激と制作活動。 (18 久保 康彦／1回) 基礎的発想法を学ぶ。「強制連想法」と「類比法」を学ぶ。属性列挙法、チェックリスト法、欠点列挙法、希望点列挙法、ゴードン法、MN法を使って新しい製品を考えてみる。 (19 桑原 茂／3回) ・全体のガイダンス「発想講座とは？」を解説し、今後のままナビの方向性について定めていく。アーティスト・芸人・美術家・起業家・デザイナー・エンジニア・科学者etc、立場は違っても発想の過程はとも似ている。彼らの迷いの過程から発想に至る過程を読み解く。 ・デザイン思考で発想力を鍛える。デザイナーの作業工程は「観察・仮説・試行・検証」の繰り返しである。その工程を紐解いていく。 ・デザイン思考で発想力を鍛える。固定観念に捉われない、セレンディビティに出会える暮らし方を学ぶ。思考と試行を掛け合わせ、偶発性を楽しんでみる。デザイナー的な思考プロセスを用いて、発想力を鍛える。 (24 堤 龍一郎／1回) 社会課題を発見し捉えなおす意味のイノベーションとアート思考を学ぶ。 (29 水上 由紀／1回) アルコールにまつわる社会問題について学ぶ。最近の企業の取組みを紹介し、どのような飲料が提案できるか考える。 (32 渡辺 幸倫／1回) 新しい昔話。日本の昔話を新しい視点（舞台の転換：イタリア版桃太郎、韓国版浦島太郎、ジャンルの転換：ホラー版鶴の恩返し、コメディ版傘地蔵）、で再構築し、創造的なストーリーテリングを通じて発想力を養う。 (39 山本 絵里子／1回) 「発想力」を測る方法。発想力を測ることはできるだろうか。心理学の視点からこの問題に取り組む。 (40 藤田 佑／1回) まずは、ことばとしての「発想」の意味を考える。そのうえで、日本文学・日本語の例を扱いながら、ことばを通じた世界の見方＝「発想」について考える。	オムニバス方式
問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ		学科横断プログラムの指定科目の大半を履修し、各コースで求められる知識や能力を獲得したであろうことを踏まえ、指定プロジェクトに参加して、これらの知識や能力を実践的に活用する体験をすることにより、社会人基礎力の習得を確実なものにし、将来の就職やキャリアを想定した実践力を身につけることを目標とする。 学科横断プログラムの各プログラムが指定するプロジェクトに参加し、最後まで活動を終えた後、担当教員が指定する報告を行うとともに、活動内容等をカルテに記載する。この科目は、担当教員が学科内の正課として行う「ゼミナール」「卒業研究」以外のプログラムとしてプロジェクトに参加した場合にのみ、単位認定される（担当教員所属学科以外の学生、担当教員所属学科の学生で当該教員がその「ゼミナール」「卒業研究」以外に実施したプログラムに参加した学生）。	

問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ		3年生で学科横断プログラムの指定プロジェクトに参加した人が、4年生になって関連する指定プロジェクトに参加し、3年生の指導を行うことにより、社会人基礎力の習得を確実なものにし、将来の就職やキャリアを想定した実践力を身につけることを目標とする。 学科横断プログラムの各プログラムが指定するプロジェクトに参加し、3年生の指導を含めて最後まで活動を終えた後、担当教員が指定する報告を行うとともに、活動内容等をカルテに記載する。この科目は、担当教員が学科内の正課として行う「ゼミナール」「卒業研究」以外のプログラムとしてプロジェクトに参加した場合にのみ、単位認定される（担当教員所属学科以外の学生、担当教員所属学科の学生で当該教員がその「ゼミナール」「卒業研究」以外に実施したプログラムに参加した学生）。	
ジェンダー論		これまでに社会的、歴史的、文学的になど様々な形でジェンダーにまつわる課題が描出されてきたかについて解説していく。どのような課題がこれまでにあったか、どのように扱われてきたかを知り、これからの課題に対してどのように対応していくかについて、心理学的な要素も含めて考える。社会や家庭などにおける女性の立場、自らがすべきことについても考えを深め、主体的に動くこれからの女性像について考察していく。	
くらしと文化		この授業では、文化とは何かという視点から各トピックにおいて人びとの暮らしのありようを学び、人の営みや心、文化についての理解を深めていくことを目的とする。私たちが慣れ親しんできた文化について異なる視点や基準を学び、文化の意味をあらためて考え、異なる文化に属する人びとを理解するための想像力を養う。文化や常識について多様な視点から切り込み、人間同士、自然との関わりについて再考する。切り口の一つとして現代社会における食と農の諸問題についての理解も深める。	
日本の社会と文化		私たちが生まれ育った日本の社会や文化の成り立ちについて、特定の時期・テーマに関して客観的な知識を身につけていく。現在とは価値観やとりまく環境が異なる、過去の社会を生きていた人々の心について、共通する部分、異なる部分を認識し、社会におけるさまざまな場において多面的・多角的な視点でものごとを見つめることとする。そして、この日本の歴史を知ること、現在の私たちの生き方についても振り返り、各自の専攻を学ぶための意欲を高めていく。	
データサイエンス		現在ICTやAI技術が急激に発展・普及したことで、人々の行動履歴など、膨大で多様なデータ（ビッグデータ）を収集・蓄積・活用できるようになった。これらのビッグデータを分析することで新しい価値を生み出す学問をデータサイエンスという。私たちが自らデータに基づいて現状を理解でき、更には未来を予測できる知識やスキルを身に付けておくことが、今後を生きるために必須になる。この授業では、データサイエンスの基礎（リテラシー）として、統計学の基本的な内容を学ぶ。	
AIと社会		情報システムとは、組織体（または社会）の活動に必要な情報の収集・処理・伝達・利用にかかわる仕組みである。これらは、私達が生活する社会において、すでに無くてはならないものとなっている。更に今日、生成AI等のAI技術の進歩、普及が著しい。そこで、AIを含む情報システムを利用するために必要とされる、正しい知識とシステムを構成する基礎技術に関して学び、これらと社会との関わりについて考察する。	

キャリア支援科目	情報リテラシー		表計算ソフトの利用やWebページの基本的仕組みと制作について学ぶ。主な内容は、セルの操作、計算機能、集計機能、関数の利用法、グラフ機能、データベース機能、罫線とレイアウト、印刷、Webページの仕組みとタグ、簡易Webページ作成、リンクなどである。これらを通して、情報社会の基盤への知見を養うことを目標とする。	
	書道		書は文字を素材とする芸術であり、文字は長い年月をかけて書写され、人々の美意識を反映して、その造形や、美しさの内容などさまざまな表情をみせている。 漢字には、篆書・隸書・楷書・行書・草書の五体や、草書から生まれた日本独自のかなもある。書の基本を筆で学習しながら、書が生活の中でどのように生かせるか、楽しめるかということを考える。書家・画家・小説家・詩人などの書作品を鑑賞したり、書に関する随筆や評論を読んだり、多様な視点から取り組み、書を通して自分の表現をしていきます。	
	キャリア・プランニング		大学生活の先には、人生の長い期間を費やす「職業生活」が待っています。では、人々はどのようにして職業のスキルを身につけ、仕事のおもしろさを見出していくのでしょうか。この授業では人々が歩む「キャリア」について学び、大学生活から既に始まっている自分自身の「キャリア・プランニング」に取り組みます。 自己のキャリアを主体的に歩むためには、1年次から目標や将来像を描き、その実現に向けて学修やアルバイトなどの活動に計画的に取り組むことが重要です。目的意識をもち、自己の能力開発に積極的に取り組んでいくために、職業とキャリアに関する理論と現状を学びます。 さらに、さまざまな生き方、働き方、キャリア形成について知るために「キャリアモデル」を紹介していきます。メディアに取り上げられた職業人の生き方を参考にしたり、時には社会人の講演なども予定して、多くのキャリアモデルを知る機会を持ちます。	
	ビジネス実務総論		社会人として円滑にものごとを進めることができるように、社会人基礎力を身につけることを目的とする。組織システムの理解を通じて、実践的なビジネス実務能力が発揮できるような考え方や技術を学ぶ。具体的なビジネス事例を用いて、基礎的な知識の理解を深める。ビジネスマナーの基本をしっかりと習得することも目指す。	
	SPI対策講座		公務員試験に現れる数的推理の問題やSPIの問題を解きながら、小・中・高等学校で学んだ算数・数学の総復習をし、数理科学に現れる基礎的な用語理解ならびに数理判断力を養う。毎回ごとに配布されたプリントを解きながら、計算演習、数的論理、基本用語について学習する。	

健康・スポーツ科目	就職支援講座		就職活動、就職試験、インターンシップなどに臨む上での態度や心構えについて解説していく。マナーや身だしなみなど基本的なことからはじめ、自己分析や業界職種企業研究などを通して自らを正しく表現していく手法について学び、実際の就職活動に活かす。お互いに情報交換もしながら就職活動へのモチベーションを高め、望む職種への就職を支援していく。	
	ウエルネス		健康を多角的に捉え理解を深化させる。授業では健康の社会的決定要因、ヘルスリテラシー、予防医学、メンタルヘルス、がん予防、生活習慣病など多様な健康のテーマを扱う。また、日常生活や社会環境における健康の社会課題について批判的に思考する。	
	身体の科学		運動生理学を基礎として、ダイエットやスポーツ選手の体力といった、身体活動とそれによる身体の適応現象を科学的視点から学習します。自分自身の身体を考え、スポーツの実践や身体を動かすことの大切さの再認識とその実践意欲の高揚化をはかり、学んだ内容を自らの健康の維持、増進に生かしていく能力を養うことを目標とする。	
	球技スポーツ		ボールを用いたスポーツ(球技)を実施する。本授業では最終的にゲームを楽しむことができる技術を身に着けることに加え、学生間のコミュニケーションの活性化を目指す。毎回、基本的な技術練習をグループ単位で取り組んでいく。またルールや審判法などについても随時学習する。	
	ラケットスポーツ		テニス、バドミントンといったラケットを使用して行うスポーツを実践し、その運動を実践するために必要な技術要素、体力要素、そしてルール・マナーについて学修する。これらの学修を通じてスポーツの楽しさを理解し、健康の保持増進を目的とした運動の一つとして利用できるようになることを目的とする。	
	健康スポーツ		心身の健康を保持増進するための運動として、競技性を伴わないダンスなどのエクササイズを行い、体を巧みに動かすことや、自身の心身が変化する事の楽しさを体験する。この体験を基に、自ら健康の保持増進を目的とした運動の一つとして利用できるようになることを目的とする。	

	シーズンスポーツ		アウトドアアクティビティの基本的スキルを習得する。また非日常的集団体験を通じて非認知スキルの習得・向上を目指す。実習後のリフレクションにおいて自己成長や共生などについて理解を深化させる。	
語 学 科 目	言語と異文化		この授業の目的は、海外の言語をめぐる諸相を学ぶことを通じて異文化理解を深めることである。そのためにはまず、その国や地域の言葉を知ることが肝要であり、それぞれの言語の構造や表現を学ぶことで、各国の文化的背景や価値観を理解し、国際的な視野を広げることができる。英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国／朝鮮語など、本学の全学共通科目で扱っている外国語を例に取り、その言葉を通して各国の文化について理解することを目標とする。 さらに食文化をテーマに取り上げ、異文化理解を深める。 (オムニバス方式／全14回) (14 岡部 芳広／1回) 一般的に「中国語」と呼ばれる「北京語」以外にも多く話されている中華文化圏の言語状況について概説するとともに、本学とも関わりの深い台湾の、更に複雑な言語状況について触れ、隣人への理解を深めてもらいたい。 (20 坂本 佳子／2回) フランス語を例に、文法や語彙と社会構造の相関関係について考える。また、フランス語と英語の各文化圏に関して、言語の成立過程や植民地をめぐる争いの歴史を概観し、異文化理解の条件を探る。 (26 中林 正身／3回) 英語という言語の約1500年にわたる変遷を概説し、そしてイギリス英語とアメリカ英語の分岐についての歴史的背景を知る。さらに、文学作品にみられる「(英語の) 方言」の文化的意義を学ぶ。 (26 中林 正身・28 松永 幸子・29 水上 由紀／1回) (共同) 外国語について知ることが異文化理解につながるということを本講義では学んでもらう、その内容を概説する。 (28 松永 幸子／3回) 具体を抽象化したいという人間の欲求流れを体験する。異文化コミュニケーションに必要なもの、ヘイトスピーチなど、その欠乏により起こりえる現象について、また、異文化理解のために必要なものについて探究するための講義を行う。 (29 水上 由紀／4回) ヒトはなぜ食べるのか？地域や時代によって食べ物の認識が変わるのはなぜか？を考え、さらに地理、文化、歴史が食事にどのような影響を与えてきたのかについて学ぶ。	オムニバス方式・共同 (一部)
	英語 I		基礎的な英語力を身につけることを目標とする。そのため、大学入学までの学習の過程において習得しておくべきであるスキルの学び残しを見直しつつ、「聞く、話す、読む、書く」という四方面の能力をバランスよく向上させる授業を行う。主として日本語母語者が授業を担当し、英語学習において日本語母語者が陥りやすい問題を確認しつつ、各スキル習得のために、日常生活や職場、海外旅行などで頻用される実用的な英語表現を中心として、社会生活に役立つ英語を学ぶ。	

英語Ⅱ		基礎的な英語力を身につけることを目標とする。そのため、大学入学までの学習の過程において習得したコミュニケーションスキルを見直しつつ、「聞く、話す、読む、書く」という四方面の能力をバランスよく向上させる授業を行う。主として英語母語者が授業を担当し、英語母語者の英語に触れながら、各スキル習得のために、日常生活や職場、海外旅行などで頻用される実用的な英語表現を中心として、社会生活に役立つ英語を学ぶ。	
英語Ⅲ		基礎的な英語力をすでに修得している学生を対象とし、日常生活、異文化理解から、研究活動に及ぶまで、必要とされる場面において幅広く用い得る英語運用能力の養成を目標とする。主として日本語母語者が授業を担当し、日本語母語者の英語学習において看過されやすい問題点を認識させつつ、実際の運用能力の養成の一環として、実用英語検定やTOEIC等の資格・検定試験を視野に入れた、文法、語彙、読解、聴解その他の演習も含めつつ授業展開を行う。	
英語Ⅳ		基礎的な英語力をすでに修得している学生を対象とし、日常生活、異文化理解から、研究活動に及ぶまで、必要とされる場面において幅広く用い得る英語能力の養成を目標とする。主として英語母語者が授業を担当して、さまざまな話題に関してディベートできるコミュニケーション能力を身につけるように展開し、併せて異文化に対する深い理解が得られることを目指す。	
韓国／朝鮮語Ⅰ		韓国／朝鮮語を初めて学ぶ学生を対象とする。他言語に比して文法が日本語のものにはるかに似ていることを利点とし得る一方で、発音は母音・子音ともに日本語より多く複雑であるので、発音の習得をまずは第一の目的とする。また、隣国であることから歴史的にも日本との関わりが深いことは明白であり、日韓の交流は近年ますます活発化してきている。発音の習得に続いては、実際の交流を念頭に置きつつ会話の学習を中心として授業展開をする。	
韓国／朝鮮語Ⅱ		「韓国／朝鮮語Ⅰ」の学習を通して身につけたことを基として、読む・書く・聴く・話すという四つの能力のバランスに意を払いつつ、より具体的な場面を設定しつつ柔軟に対応できる会話能力と、今日の韓国／朝鮮語の文化圏に対する理解につながる基本的な文献が理解できる文章能力の獲得を目的とする。また、日本との関係や比較に関する知見も紹介して、言語のみならず、文化や歴史等に対する深い理解が得られるようにする。	
韓国／朝鮮語Ⅲ		「韓国／朝鮮語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ学習内容をより発展・応用させ、コミュニケーション能力の向上を目標とする。日常生活に必要な基礎的な会話を駆使でき、身近な話題の内容を理解、表現でき、またより広い範囲の語彙と文法を習得し、自分の考えや意見を表現できることを目標とする。 「韓国語Ⅰ／Ⅱ」で学習した知識をもとに、中級レベルで必要となる新しい語彙や文型を学ぶとともに、より広い範囲の会話の練習と韓国・朝鮮の文化コンテンツを楽しめるための学習も行う。授業に歌やドラマなどを取り入れて、楽しみながら勉強できるよう工夫をする。また学生の意見を積極的に取り入れて学習内容やコンテンツを柔軟に活用する。	

韓国／朝鮮語Ⅳ		「韓国／朝鮮語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の読解力、作文力、会話力をより一層発展させ、実際に活用できるまでの実力向上をめざす。日常会話を超えて、韓国朝鮮語で書かれたテキストを読む、ニュースを聞いて理解できる、今日の韓国／朝鮮語関係の話題で会話ができることを目標とする。 いままでの学習をふまえて、講読力、会話力、作文力をより深めていく。新聞・小説などあらゆるジャンルの資料を教材として、映画やドラマなどの映像教材なども使って、総合的な言語運用能力の向上を目指す。授業では学習したものを応用し作文とディスカッションなども行う。	
中国語Ⅰ		中国語を初めて学ぶ学生を対象として、読む、書く、話す、聴くという四つの能力をバランスよく身につけながら、日常的な会話や基礎的な文章を使えるようにすること。また、わが国と長く深い関わりのある中国についての理解を深めるのに資するような語学力の基礎を確立することを目的とする。具体的には、ピンイン（中国語発音ローマ字表記）の修得を通じた音の理解を基盤として、基礎的な会話や文章を理解する力を開発する。	
中国語Ⅱ		「中国語Ⅰ」で学んだ基礎を踏まえて、会話については、より具体的な場面を設定しつつ柔軟に対応できる能力を身につけることを目標とする。また、読解については、新聞や雑誌等の記事も含めた文章がある程度理解できることを目標とする。そして、こうした学習や日本との比較に関する知見を紹介すること等を通して、今日の中国の言語のみならず、文化や制度等に対する、広く深い理解の一步を踏み出せるように授業を展開することとする。	
中国語Ⅲ		・「中国語Ⅰ・Ⅱ」の学習を踏まえて、より高度な中国語の運用を目標とする。 ・語彙力を増やし、文法に対する理解を深め、日常会話文を作文することが出来る。 ・聴き取る力を養い、簡単な日常会話を行うことができる。 中国語Ⅰ・Ⅱでの学習を踏まえて、発音・文法・作文・会話などをより発展的に学ぶ。その際、中国や台湾の風俗や文化についても触れながら、多面的な理解を促す。本学との協定校である台湾の文藻外語大学での語学研修の概要にも触れ、机上の語学学習にとどまらず、広いアプローチで中国語や中華文化、華人社会に対する関心を高めてもらいたい。そのために、授業内で語学研修に関する授業を行うこともある。	
中国語Ⅳ		・「中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の学習を踏まえて、より高度な中国語の運用ができることを目標とする。 ・語彙力を増やし、文法に対する理解を深め、日常会話文を作文することが出来る。 ・聴き取る力を養い、簡単な日常会話を行うことができる。 中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学習を踏まえて、発音・文法・作文・会話などをより発展的に学ぶ。その際、中国や台湾の風俗や文化についても触れながら、多面的な理解を促す。本学との協定校である台湾の文藻外語大学での語学研修の概要にも触れ、机上の語学学習にとどまらず、広いアプローチで中国語や中華文化、華人社会に対する関心を高めてもらいたい。そのために、授業内で語学研修に関する授業を行うこともある。	

フランス語Ⅰ		フランス語を初めて学ぶ学生を対象とし、「聞く」「話す」「読む」「書く」の各技能の基礎を身につけさせる。視聴覚教材の使用により、他者とのコミュニケーションの成立を体験、理解させる。フランス語圏文化に関する情報を提供して語学学習の動機づけを行うとともに、自己の文化を客観化する契機を獲得させる。	
フランス語Ⅱ		「フランス語Ⅰ」で扱った初歩的な事項を随時確認しながら、動詞の時制や各種機能語の習得により、初級文法の理解を深め、語彙を増やす。視聴覚教材を使用して臨場感と実用性に配慮し、日常会話や平易な文章の読解など運用面の訓練を行う。フランス語圏の文化と社会への関心を通して、異文化理解の課題を認識させる。	
フランス語Ⅲ		「フランス語Ⅰ」、「フランス語Ⅱ」で扱った事項を随時確認しながら、動詞の時制や法、各種機能語の理解をさらに深めるとともに、語源にも注意を払い、語彙力の増強を図る。視聴覚教材を使用し、会話、読解、作文の訓練を通して、趣味、旅行、研究、仕事などでフランス語を運用する能力を開発する。フランス語圏の文化と社会に関する理解を深め、多文化共生への展望を持たせる。	
ドイツ語Ⅰ		ドイツ語を初めて学ぶ学生を対象とし、日常生活、異文化理解、研究活動に資する語学力の獲得をめざして、その基盤を構築することを目的とする。読む、書く、話す、聞く能力の各々をバランスよく開発し、学習意欲を高めながら、ドイツ語の理解能力と運用能力の基礎を着実に固める。また、ドイツ語圏文化の諸様相にも触れ、国際的な出来事やその背景に対する関心を深める。	
ドイツ語Ⅱ		ドイツ語Ⅰを履修済み、または同程度のドイツ語基礎をすでに習得している学生を対象とする。読む、書く、話す、聞く能力の各々をバランスよく開発、発展させ、短文あるいは平易な文を使いこなせるよう演習する。また、ドイツ語圏の文化と諸社会のダイナミズム、他言語文化圏との対立あるいは共存関係の歴史と現状、日本文化との比較をも取り上げ、異文化への理解と国際的視野を得るための契機を提供する。	
ドイツ語Ⅲ		「ドイツ語Ⅱ」を履修した学生が、ドイツ語のしぐみをさらに理解し、ドイツ語の基礎力をつけることをめざす。それによって、ドイツ語の文章を読む力や、会話力の向上を目標とする。「ドイツ語Ⅱ」で学んだ内容をふまえて、さらに着実に力がつくように演習形式で授業を進める。必要に応じて音声・映像教材なども用い、読む・書く・聞く・話す練習をバランスよく行う。	

イタリア語Ⅰ		イタリア語を初めて学ぶ学生を対象として設定する。アルファベットから始めて、基本的な発音・語彙・文法等の学習を積み重ねてゆき、初歩的な会話の習得を目的とする。また、イタリアは、衣食の文化をはじめとする日常生活の面において日本との関わりが少なくないので、学習においては言語にのみ特化せず、これらの面についても視覚教材も使用しながら紹介して、多彩なイタリア文化にも親しむこととしたい。	
イタリア語Ⅱ		「イタリア語Ⅰ」で学んだ基礎を踏まえて学習を進め、読む・書く・聴く・話すという四つの能力をバランスよく身につけることを意識しながら、より具体的な場面にも柔軟に対応できる会話能力と基礎的な文献が読解できる文章能力を育てることを目的とする。また、イタリアの今日的面や文化的な面に加えて、国際的な面や歴史的な面にも意識を向けつつイタリア語という言語の習得における深化を図ることとしたい。	
スペイン語Ⅰ		スペイン語の初修者を対象として設定し、発音・文法・基礎的会話を学習することを通して、将来における社会的・経済的交流に資する基盤の第一歩とすることを目的とする。スペイン語が中国語・英語に次ぐ世界言語であることは多様な文化を伝えるものであることを物語ってもらい、広範で多様な文化について、視聴覚教材等も使用しながら紹介して親しませ、スペイン語の言語学習がより有機的なものとなるようにする。	
スペイン語Ⅱ		「スペイン語Ⅰ」の学習を通して身につけたことを基として、より具体的な場面を設定しつつ柔軟に対応できる会話能力と、今日のスペイン語文化圏の理解に繋がる基本的な文献が読解できる文章能力の獲得を目的とする。授業展開においては、国際的な広がりの中でスペイン語文化を捉えながら、日本との比較に関する知見を紹介すること等も通して、スペイン語のみならず、歴史や制度等に対する広い理解の一助となるよう心がけることとする。	
海外研修Ⅰ		この科目は、本学で実施している夏季・春季外国語研修プログラム等に参加し、所定の成果を修めた場合に単位を認定するものである。研修や留学プログラムは、現地での学修・集中トレーニングを通じた外国語運用能力やコミュニケーション能力の向上、異文化への理解の深化・適応力の向上を目的として実施する。期間中の学修成果やレポートにより評価を行い、基準を満たした学生に対して単位を認定する。	
海外研修Ⅱ		この科目は、本学で実施している夏季・春季外国語研修プログラム等に参加し、所定の成果を修めた場合に単位を認定するものである。研修や留学プログラムは、現地での学修・集中トレーニングを通じた外国語運用能力やコミュニケーション能力の向上、異文化への理解の深化・適応力の向上を目的として実施する。期間中の学修成果やレポートにより評価を行い、基準を満たした学生に対して単位を認定する。	

			海外研修Ⅲ		この科目は、本学で実施している夏季・春季外国語研修プログラム等に参加し、所定の成果を修めた場合に単位を認定するものである。研修や留学プログラムは、現地での学修・集中トレーニングを通じた外国語運用能力やコミュニケーション能力の向上、異文化への理解の深化・適応力の向上を目的として実施する。期間中の学修成果やレポートにより評価を行い、基準を満たした学生に対して単位を認定する。	
			日本語Ⅰ		日本語を母語としない留学生を対象に、基礎的な日本語能力を身につけることを目指す科目である。授業では、日常生活や学習に必要な基本的な文法、語彙、表現を学び、聞く・話す・読む・書くの4技能を総合的に伸ばす。日本語を母語とする学生や教職員との交流を通じて、実践的な日本語の運用力を高める機会を提供し、クラス内外での積極的なコミュニケーションを促す。	
			日本語Ⅱ		初級を修了した学生が中級レベルの日本語能力を習得することを目的とする。授業では、より複雑な文法や語彙を学び、自己表現力を高める。授業では、日本語の実践的な使用を促進し、学内の様々な場面で日本語を使う機会を提供する。実践的な資料を使って、読解力やライティング力を強化することにも重点を置く。	
専門 教育 科目	基礎 科目	総合	地域クリエーション学入門	○	食や観光などの地域資源を発掘、再発見し、これらを活用したおもてなしを展開することにより地域活性化を図ることを目的とする学科の学びの概要をオムニバス形式で紹介していきます。現在、わが国や各地域がどのような社会課題に直面しているのか、その背景は何かを学生たちどうしが話し合って考えるとともに、各教員が自らの専門性を活かして、課題解決策となるどのような事例が既に存在しているのか、どのような方法が論理的に考えられるのかを紹介していきます。 (オムニバス方式/全14回) (1 湧口清隆/2回) 経済学、ロジスティクスの観点から、地域資源を活用した商品開発の方法について教授します。 (2 井坂聡/2回) 映画監督としての経験を活かして、地域課題の解決のためのストーリー作りを教授します。 (3 小泉京美/1回) 航空会社での経験を活かして、訪問者を満足させるホスピタリティの方法について教授します。 (4 田中啓之/2回) 中央省庁での経験を活かして、地域課題の解決のための行政との連携や政策作りの方策を教授します。 (5 羽田利久/1回) 旅行会社での経験を活かして、地域資源を観光商品に造成する方法について教授します。 (6 依田真美/1回) 観光学の観点から、地域資源の発掘、再発見の方策を教授します。 (7 柳内志織/2回) 調理学の観点から、地域の特産物を活用する調理法や伝統食について教授します。 (8 篠原暁子/2回) 公衆栄養学、栄養指導の観点から、住民、観光客の健康に役立つ食の取組みについて教授します。 (9 高橋孝太/1回) 大量調理の観点から、経済性と美味しさを両立させた安心安全な食の提供方法について教授します。	オムニバス方式

	地域クリエーション学実践	○	食や観光などの地域資源を発掘、再発見し、これらを活用したおもてなしを展開することにより地域活性化を図ることを目的とする学科の学びの概要を入学当初に体験的に学ぶための実習科目です。大学が位置する相模原市内を主なフィールドに、学内での事前学習の後、日帰り2日もしくは1泊2日の日程で、学生たちが教員と一緒に、社会課題やその背景を発見し、課題解決のための方法を提案し、地元の人たちから講評を得ます。地域の歴史や風土が食や自然、文化財などの観光資源とどのように結びつき、地域活性化のためにその資源をどのように活用すれば良いかを実践的に学びます。	共同
	ライフデザイン	○	食や観光などの地域資源を発掘、再発見し、これらを活用したおもてなしを展開することにより地域活性化を図ることを目的とする学科の学びを就職活動や、将来の仕事や生活にどのように活かしていけば良いのかを学生たちに考えてもらうための科目です。食品衛生管理者・監視員、フードコーディネーター、旅行業務取扱管理者、ドローン操縦免許や無線通信資格を仕事や地域生活でどのように活用できるのか、就職のみならず、起業や副業などでの活かし方を紹介していきます。 (オムニバス方式/全14回) (1 湧口清隆/2回) 経済学、ロジスティクスの観点から、地域資源を活用した商品開発の方法について教授します。 (2 井坂聡/1回) 映像制作を活かした仕事やメディア業界の仕事について教授します。 (3 小泉京美/2回) 航空、ホテルなどホスピタリティ業界でのキャリア形成について教授します。 (4 田中啓之/1回) 公務員としての仕事のやりがいやキャリアについて教授します。 (5 羽田利久/2回) 旅行業界でのキャリア形成や旅行業務管理者試験の概要について教授します。 (6 依田真美/2回) 住民、来訪者双方のウェルビーイングを意識した地域資源活用型まちづくりの方法について教授します。 (7 柳内志織/1回) 調理学での学びを活かしたキャリアや食文化の伝承方法について教授します。 (8 篠原暁子/1回) 栄養学での学びを活かしたキャリアや地域での役割について教授します。 (9 高橋孝太/2回) 学校給食や飲食店、惣菜調理業などでのキャリア形成について教授します。	オムニバス方式
観光	観光学概論	○	観光現象は、環境・社会・経済に大きく関わり合いがある分野横断的に広がる領域です。この講義では、観光学の基礎となる概念や歴史、各領域（観光行動、観光情報産業、観光と交通、観光地・観光資源・観光施設、観光と環境、観光と文化、経済効果、観光政策、観光と地域社会との関係）の概要を学び、観光学という学術領域と社会現象である観光現象の基礎的な知識の習得をめざします。他の観光学系科目における理解を深めるための入口となる講義です。	
	食文化論	○	ヒトにとって「食」は単なる生命維持活動のためだけでなく、調理や調味の技術を通じて「おいしさ」という嗜好性を追求する文化的な要素を持ちます。歴史とともに変遷する「食」の概念は、常に「おいしさ」を追い求め、料理の味を変化させ、時には安全性を確保しながら多様な料理を生み出してきました。この講義では、「食文化」を歴史的背景や自然環境との関連性を含めて、日本を中心に世界にも目を向けて考察し、その特徴や課題について深く理解することを目的とします。	

映像制作入門	○	映像の持つ圧倒的な情報量と発信力は、今や広報・宣伝には欠かせないツールとなっています。本科目では講義とグループワークを組み合わせながら、自分たちの興味・関心に他者を惹きつけ、理解や共感を得るための技法の基礎を学んでいきます。それと同時に、その情報量と発信力は「諸刃の剣」で、取り扱いを誤るとフェイクや炎上に繋がりがかねません。そのためにしっかりと映像リテラシーを身につける必要があります、そこについても重視した授業展開を行います。	
観光地理学	○	この講義では、観光地理学を体系的に学びます。地域の環境・文化・資源など様々な視点から、観光についての知識を深めることを目標とします。観光分野を通して、物事を広く捉え、自らの仮説を立証していく力を養うことに重きを置きます。 前半は、テキストに沿って、観光学を学ぶ上で重要な専門用語、概念を都度確認しながら講義を進め、後半に総括として自ら分析を行うケーススタディをグループワークで実施する予定です。さまざまな人と議論を交わし、多様な価値観を受け入れることで学びの質を高めることができますので、積極的に授業に臨んでください。	
ホスピタリティ概論	○	この授業では、ホスピタリティ（おもてなし）の本質とその重要性について学びます。ホスピタリティとは、単にサービスを提供することに留まらず、心からのおもてなしや、相手に満足と感動を与えることを意味します。講義では、ホスピタリティの歴史的背景や文化的差異について理解を深めるとともに、現代社会におけるホスピタリティの役割についても考察します。また、実際のホスピタリティ業界の事例や、ホスピタリティを発揮するために必要なスキルや態度についても学びます。学生は、理論的な知識だけでなく、実践的なアプローチを通じて、相手の立場に立ったコミュニケーションやサービス提供の方法を習得します。最終的には、ホスピタリティの重要性を理解し、様々な場面で応用できる力を身につけることが目標です。	
ウェルビーイングと観光	○	この科目では、観光を地域内外の人びとの交流と捉え、地域内外の人びと双方のウェルビーイングならびに地域の自然や文化の持続可能性と観光の関係について、関連する理論や事例に基づき考えていきます。 ウェルビーイングの概要や観光の社会的経済的特徴を理解することをから始め、オーバーツーリズムなどの観光による地域への弊害を単に最小化するのではなく、交流を通じて得られる楽しさや思考の進化、多様性に対する受容度の高まり、経済的効果など観光の持つポジティブな力をどのように活かすかについて考えます。その際、理解を深めるために、国内外の観光や地域づくりの実例を見ていきます。また、学んだことを実践に結び付けるために、学生自身が特定の地域について調査し、発表やダイアログを実践する機会を設けます。	
ホスピタリティ産業論	○	ホスピタリティを日本語に訳すと「おもてなし」です。この講義では、観光関連産業のほか、レストラン、リフレクソロジーなど、接客サービスが重要視される多くの産業がホスピタリティ産業に該当します。この産業の全体像と分野別動向を紹介すると同時に、全国各地で地域活性化の手段として注目されている背景を考察していきます。 とくに、温泉（Spa）は、古くからこの産業の中核をなし、わが国でも外国でもまちづくりの核に利用されてきました。希望者にはバルネオセラピスト養成講習会を組み込み、温泉学を実践的に学ぶと同時に資格取得を可能としています。	
地域コミュニティ論	○	地域コミュニティのなかでの住民たちの役割分担や社会構造の変化に注目し、地縁・血縁から同志による共同体（非営利組織）への変化の要因を検討していきます。人口減少、高齢化、過疎化が進む中で、地域課題の解決法として自助、共助、公助の役割分担がどのように変化してきたのか、兼業や分散自立という地域内での相互扶助や集約化だけではなく、地域間連携や広域対応という方法や、個別対応、スポット対応などのしくみがあることを、具体例を交えて享受します。	

ビジネス	プレゼンテーション入門	○	自分の主張や意見を説明し、相手に理解し納得してもらい、最終的に自分の意図した方向へ相手を導くためには、プレゼンテーションの能力が不可欠です。プレゼン技法を修得し、情報を効果的に伝える力を養います。プレゼンテーションについて基本的知識を修得することにより、この知識を実際に使ってプレゼンテーションができるようになるとともに、他者のプレゼンテーションを見て客観的にアドバイスができるように誘います。	
	データ分析入門	○	統計の基礎である平均・分散、度数分布、相関等の概念を学ぶとともに、実際にEXCELを用いて統計分析の演習を行い、「現実の問題に統計を適用する力」の習得を図ります。また、実際の統計データ等を用いて、「社会の中で統計がどのように用いられているのか」を知り、「統計データからどのようなことが言えるのか」を導出する演習を行います。それにより、学生は、統計グラフを作成する能力、基本統計量を計算する能力、統計データを解釈する能力を身につけられます。	
	マクロ経済学	○	マクロ経済学は近代経済学の2つの理論体系（ミクロ経済学とマクロ経済学）のうち、家計や企業、政府、国など、大きな経済単位の動向を通じて、経済や社会がどのように動いていくのかを、分析する学問です。経済統計をもとに動向を把握すると、日本経済や世界経済がどのような動きをするのかを予想し、金利や物価水準、為替相場などの方向性を見ることができるようになります。それにより、訪日外国人の動向や、企業の原材料の調達や価格設定などを予測するだけでなく、「貯蓄から投資へ」という国のスローガンのもとで個人が必要となる知識を身につけることができます。この講義ではマクロ経済学の理論を実践的に学んでいきます。	
	経営理論	○	この授業では、企業が成長を続けるための戦略や基本的な考え方を学びます。まず、競争に勝つための方法を分析手法を用いて理解します。次に、組織論を通じて、企業内部の構造や文化が経営に与える影響について学び、リーダーシップや意思決定の重要性を考察します。また、企業が社会的責任を果たしつつ、持続可能な経営を実現する方法についても学びます。これらの理論を、ディスカッションやグループワークを通じて実際のビジネスケースに適用することで、現実の企業経営に必要なスキルを身につけます。	
	会計学	○	会社の利益や損失というニュースに対し、なぜ、どのように利益(損失)になったのかと考えることのできる素養を身につけることを目標に、会計分析の仕方の基本を学習し、主として決算書を用いながら複数の会社の分析を行います。それにより、同じ利益金額でも利益の生み出し方は会社によって異なることや、目先だけの儲けなのかい長い目で見て生み出した儲けなのかの違いを理解することができます。決算書の分析に先立ち、複式簿記の基本的な内容を確認します。また、会計用語は分析に必要な範囲にとどめます。	
食	基礎化学	○	化学の基本的な概念を幅広く学びます。食品のもつ栄養素や各種成分変化など化学は食の学びの基礎となります。講義では化学の土台となる原子の構造や電子配置、元素の周期律を高等学校より専門的に理解することを重視し、これらの知識が有機化学や無機化学の基盤となることを解説します。また、原子量や分子量、物質量、溶液の濃度、化学結合の種類や特徴を理解したうえで、化学変化を化学反応式で考えることができる力を養うことで、食品分析につながることを理解し、より専門的な学びへと繋げる土台を築きます。	

食品の化学	○	食品が人間の生命維持、成長、健康維持に不可欠であることを前提に、日常的に摂取する食品の成分を化学的および栄養学的な側面から詳しく解説します。食品の多くは何らかの調理や加工を経て摂取されるため、各成分（タンパク質、脂質、炭水化物、ビタミン、ミネラルほか）の化学的特性とこれらの工程が食品の多種多様な味、香り、テクスチャー、保存性に及ぼす影響について理解を深めます。また、生体内での機能についても考察を行います。	
公衆衛生学	○	公衆衛生とは、Public Healthから日本語に翻訳されたもので、「みんなの健康」を意味しています。個々の人々が健康であるためには、単に病気にならないための対策だけでなく、早期発見や社会復帰に向けた支援を含む、多角的アプローチが求められます。そして、これらの取り組みは、それぞれの生活の質（Quality of Life : QOL）の向上につながります。公衆衛生学の授業では、健康増進や病気予防の取り組みが個人から社会全体にどのような影響を与えるかについて学び、理解を深めます。身近な健康問題を例に取りながら、広い視野で健康の保持・増進に向けたさまざまなアプローチを探索していきます。	
食品衛生学	○	食品衛生とは食糧の生産から加工、貯蔵、流通、摂取までの段階において、食品の安全性、健全性、および悪化防止をはかる手段のことです。この授業では食中毒事例と予防の方法を説明するための基礎知識を学び、飲食による危害を未然に防ぐことを目的として、食中毒や有害化学物質などの危害物質について学習します。食中毒の病因物質について学習し発生原因を掘り下げるとともに、予防対策としての衛生管理法（HACCPシステム）について学習します。	
調理科学	○	私たちが日常的に摂取する食品や料理は、さまざまな食材から成り立ち、それぞれの化学的性質、物理的性質、組織構造が調理過程で複雑に変化しています。また、食品は栄養的・生理的な価値に加え、「おいしさ」という嗜好的な価値も重要です。この授業では、調理過程における食品の化学的変化、物理的変化、および組織の変化を科学的根拠に基づいて学び、これらの理解を深めることによって、適切な調理法の選択と実践をめざします。	
食品安全学	○	食品が安全であるとは、「予期された方法や意図された方法で作ったり、食べたりした場合に、その食品が食べた人に害を与えないという保証」があるということです。この授業では、食品を安全に消費者の元へ届けるために必要な食品衛生や食品安全の基本的な知識や法律を理解するとともに、食品開発に必須となる食品の安全性試験、食品添加物、遺伝子組み換え食品等の知識、リスク管理の手法、ならびにリスクコミュニケーションについて学習します。	
健康と栄養	○	栄養学の基本的概念や理論を学ぶための基礎的な科目です。この授業では、私たちに必要な栄養素（糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質）の種類や機能、役割について学び、それらが体内でどのように利用されるかを理解します。さらに、日本における食生活の変遷、食生活の変化に伴う現代社会における健康・栄養問題、食生活状況、それに伴う食物アレルギーについて学びます。栄養学の応用分野を学ぶための基礎的授業として、健康と栄養と食生活の関係性について理解を深めることを目標とします。	

基 幹 科 目	観 光 と 政 策	グローバルゼーションとローカリゼーション		21世紀はグローバル化の掛け声とともに はじまりました。しかし、それはいったいどのようなものなのでしょう。そしてすでにグローバル化が進んだ社会はどのような課題に直面し、どのような対応を市場、国家、家族、そして個人がしているのでしょうか。 この授業では、ヒトやモノ、カネなどの移動と家族、教育、環境・観光、医療などの接点について受講生とともに考えていきます。 また、臨時講師を招いて、具体的な現場の声と課題についてお話をうかがい、考えを深めていくことも予定しています。	
		アニマルウェルフェア		世界の動物衛生の向上を目的とする国際機関でわが国も加盟している国際獣疫事務局（WOAH）の勧告で、「アニマルウェルフェアとは、動物が生きて死ぬ状態に関連した、動物の身体的及び心的状態をいう」と定義されています。家畜飼養、ペット飼育、動物園・水族館・ペットショップでの展示・ふれあいも含めて、アニマルウェルフェアの遵守が国際的に強く求められるようになりました。そのことにより、食材の供給や観光施設の運営、さらには伝統的な祭事のあり方にまで大きな影響を受けています。この授業では、アニマルウェルフェアの定義や歴史、さまざまな施設での実践事例などを学びます、	
		交通・ロジスティクス論		この講義では、日常生活に不可欠な交通問題を、旅客交通、貨物交通の両面から論じます。高齢社会を迎えて、情報通信と並んで交通の安定的、持続的な供給問題はますます重要になっています。交通需要を確認したのち、交通サービスやそのためのインフラの供給をどのように行うべきかを、実態と理論の両面から学んでいきます。貨物交通においては、企業の生産から販売、回収過程における物流を体系的、戦略的にとらえるロジスティクスの思想にも触れながら、環境にやさしい交通システムを考えてもらうことを目的にしています。	
		エスニシティと地域社会		21世紀はグローバル化の掛け声とともに はじまり、国際的なヒト・モノ・カネ・情報などの移動がますます盛んになっています。とりわけ、ヒトの移動において、人々は交流のみならず、排斥や包摂、新たな文化や社会の創造など様々な動きももたらすため、20世紀半ば以降に生まれたエスニシティという概念が注目されてきました。 エスニシティは、言語、宗教、生活様式、帰属意識などで分類される社会集団を分析する概念で、個人のアイデンティティ形成に大きな影響を及ぼしながら人々を集団化し、各集団にさまざまな意味付け（政治的・経済的・社会的・文化的付け）を与えてきました。一方、エスニシティは固定的ではなく、人間集団間の関係の柔軟さや流動性によって変容して、創造的でもあります。 この授業では、こうした概念を確認し、「人の移動」と「食」のテーマを中心に社会学や国際学などの学際的な視点から日本の内外で生活する人びとのこれまでとこれからの営みについて、受講生とともに考えていきます。	
		映像で学ぶ社会の進歩		この授業では、現代の政治、経済、社会、文化などを形作ることになる欧米を中心とした近現代200年間の歴史を、記録映像のみならず、ハリウッドを中心とした映画やテレビ・ドラマ、文学作品、絵画などを通じて学んでいきます。1800年代から今日に至る政治、経済、社会、文化などの変化を見ることを通じて、身分制社会から階級社会へ、さらに脱階級社会へと移行したきっかけや、そのような移行過程が人類にとって幸せだったのかを読み解いてもらいます。 年号の暗記ではなく「時代の相」をつかむことにより、現代社会に内在する問題や危険性を読み解き、「コロナ禍」後の生き方を考えてもらうことを目的にしています。	

ビ ジ ネ ス ツ ー ル	公共経済学		この講義では、公共サービス・公共財を供給するための制度的なデザインや、年金、社会福祉も含む国や地方の財政運営について学びます。これらの財・サービスをムダなく供給するためのしくみはいくつか考案されていますが、ただ乗りする人が生ずるために過少供給になりやすいことが知られており、税金に加え、民間の力を借りた供給システムなどが導入されています。この場合、どのような価格設定が望ましいのか、どのような財・サービスの供給を行政、民間、非営利組織が担うのか、そのための意思決定はどのようにすればよいのかなどについて考えてもらいます。	
	公共政策論		本科目では、社会問題を解決するための「公共政策」の立案から実施までのプロセスを学びます。「社会問題には様々な解決方法があること」を理解し、「問題を分析して解決策を提案する」力を身につけることを目標に、身近な社会問題を事例として、問題分析、原因探求、解決方法の企画、政策として立案、実施するまでのプロセスを理解してもらいます。さらに、各学生の視点で問題分析や企画を行い、その結果をクラス全体で共有し、様々な視点があることを理解し「より良い政策」導き出せるようにします。	
	生物と生態系		地球上には多様な環境が存在し、そこには生物が様々な形で適応している。生物の個体間や種間、環境との間の相互作用には、様々な物質や行動、生態が関与している。人間は意図的にも非意図的にも、そこから得られた知見や物質、あるいは生物そのものを使用して、生活を豊かにしている。例えば、我々が日々摂取している食品は、その最たる例と言える。この科目では、我々の身近なものから世界のものまで、生物や生態系のなかで見られるあらゆる現象を紹介する。生物はそれぞれが多数の細胞の集合である一方で、他の生物とかかわり合いながら生態系を構成する重要な要素となる。ヒトが持続可能な生活を送る上で重要な生物多様性や環境保全についても言及する。そのため、生物体内のミクロな環境から、個体や種が影響し合うマクロな環境や生態系まで、生物学・生態学の全般について学ぶ。	
	民法（契約法）		私たちの生活と「法」とのかかわりについて、経済生活関係を規律する民法（契約法）を通して学びます。ものを買ったり、サービスを利用したりするなど、私たちは日常生活において様々な契約を行っています。社会における取引の実情に目を向けながら、契約が持つ意味や契約を支えるルール・制度についてとり上げ、考えていきます。それにより、法・制度の側面から社会のしくみを理解し、社会生活上の問題について、法的な視点に立って対応する力を養うことを目標にしています。	
	ミクロ経済学		この授業では、消費者行動、企業の行動（生産量や価格の決定、原材料の選定など）、市場構造やその評価、市場や政府、非営利組織の役割など、ミクロ経済学の理論の主要トピックをほぼ網羅する形で紹介していきます。食や交通といった身近な事例を採り上げ、企業行動の裏にあるカラクリを見せながら理論を説明していくことにより、個人や企業の行動が如何に経済学と密接な関係にあるのかを理解してもらうことを期待しています。 それにより、ミクロ経済学の枠組みに基づいて、消費者行動や企業戦略など日常生活で見られる経済現象を分析できる能力を獲得し、現代社会を動かす原動力となっている市場メカニズムがどのようなシステムなのか、その中で自分自身がどのように生きていくのかを理解することができるようになることを目的としています。	
	消費者問題と政策		消費生活は豊かとなる一方、経済・社会の環境の変化とともに、さまざまな『消費者問題』が発生しています。消費者問題には、どのような問題があり、何が問題なのかについて、生産・流通と消費との関係において分析し、理解するとともに、問題に対応する法・制度として、消費者基本法ほかの消費者関連法について学びます。法・制度の側面から社会のしくみを理解し、自らの生活上の問題・課題を、社会との関係においてとらえ、考える力を養うことを目標にします。	

流通論		この授業は、「流通業とは何か」「自分と流通業の関わりは何か」について考えながら、流通業と自分について関心を持ち、流通業とまち・流通業と人との関わりを考える経験を通して、流通業を体系的に捉えられるようになるとともに、利用する流通業、自分のまちの流通業、働く先としての将来の流通業についてそれぞれの違いを学ぶことを目的としています。授業の前半では、テキストを用いて流通業の体系を用いて学習する一方、後半では流通業の実態について、学生にアンケート（無記名）しながら2世代のまち及び流通業の関わり方を検証し、将来の流通業に求められる機能を考えます。	
ベンチャー論		急激な経済や社会、技術の環境変化によって、いわゆる大企業に就職しても必ずしも長く安定的に働けるわけではなくなっています。そのような状況の中、ベンチャー企業には経済を活性化させる起爆剤として関心が集まっています。 この授業では、企業を立ち上げるために必要となる経営の基礎知識を身につけるとともに、起業することやベンチャー企業で働くことの魅力とリスクについて適切に理解することを目的とします。ビジネスプランの作成や経営シミュレーション・ゲームを通じて経営者の立場で考えることで、社会に出てから役立つ思考法を身につけることをめざしています。	
経営組織・人事管理論		組織はさまざまな人の活動によって成り立っており、その活動の成果をより大きなものにするように日々大きな努力をしています。この科目では、組織を構成している要素や組織を動かしている仕組みや制度について基本的な理論を理解したうえで、事例を題材に考察し、経営者の視点で組織の設計や採用を考えることにより、組織活動を体験的に学んでいきます。学生が会社側の視点で人事や採用を捉えることにより、キャリア選択や就職活動に役立てられることも期待しています。	
マーケティング・経営戦略論		企業が市場環境を分析し、経営資源を整え、競争優位を確立して維持していくための、様々な定石（法則）について学ぶことを目的にした授業です。経営戦略論にはポジショニング論（マーケティング戦略）、資源論、能力・学習論、ゲーム論など複数のアプローチが存在することから、ポジショニング論については沼上（2008）などを、それ以外については主に十川（2013）などをもとに各アプローチを学習します。途中、外部講師を招き、実際の企業の経営戦略を聞く機会を設けることも見込んでいます。	
広報と広告		企業などの組織にとって、社会といかに信頼関係を築き維持し続けていけるかは、その組織の存続に関わる永遠の課題です。この課題解決には、組織のコミュニケーションをいかにおこなっていけるかが重要であり、その組織においてその中核となる機能が広報になります。また、企業活動において組織の構成員のベクトルをあわせ、理念や施策の方向性を共有する組織内に向けた広報も重要です。一方、広告は、対象となる消費者に商品やサービスなどの情報を告知し、望ましい態度や行動を形成する目的をもっています。 この講義では、広報と広告の基本や違いを学び、これらの仕事のイメージを具体的に理解し、広報、広告とは何かについて自分の言葉で説明できることを到達目標とします。	
消費者行動論		この授業は、消費者行動論の基礎を理解し、消費者行動の視点をもとに普段から目にする商品やサービスのマーケティング戦略の評価をしたり、改善アイデアが考えられるようにしたりすることを目的としています。そのために、消費者行動の観察方法について学び、学生たちにその方法を実践してもらいます。現実起こっている事実／現象を自ら調べ、考えるだけではなく、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、その内容を人に伝え、議論していきます。	

	ブランド戦略・商品開発論		企業活動の本質は「顧客価値の創造」であるが、それは具体的には商品開発です。その商品が「売れ続ける」ための仕組みがブランドになります。 商品開発の基礎を学び、合わせてブランド・マネジメントの手法を身に付けることを目標に、前半では商品開発の基礎理論と応用的実践について学び、後半ではブランド・マネジメントの手法と管理組織について紹介します。商品開発については見目・神原・大原・朴・大平（2010）などをもとに、ブランド戦略については各種資料をもとに講義を行います。途中、外部講師をお招きし、商品開発やブランド展開の具体的事例について話をうかがうことも想定しています。	
情報	社会調査法入門		社会科学の研究に社会調査は欠くことはできません。問題発見や仮説検証を行うための基礎的な方法を習得することを目標に、社会調査の目的や方法などを学びます。 具体的には、社会調査の意義・目的・手順の基本的な考え方、調査の企画からデータファイル作成までの狭義の社会調査法、調査データの基本的な統計分析の方法、質的な研究の方法について学社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基本的事項を学びます。	
	ドローン操縦技術		ドローンはインフラの保守、農作業、運搬、映像制作の現場などで用いられ、人口減少社会における省力化への期待が高まっています。この授業では、登録講習機関と連携して、ドローン活用事例を紹介するとともに、ドローン操縦の国家資格である「二等無人航空機操縦士」資格取得のために必要な知識や技能を学びます。法令に定められた時間の学習と資格取得に必要な技能を修了すると「修了証」が発行され、それを以ってこの授業の単位を付与します。学生は指定試験機関で学科試験を受験し、合格すると資格を取得できます。	実験・実習：8/14 回 講義：6/14回
	映像制作演習（基礎）		スマートフォンなどの普及で、今や誰でも気軽に動画撮影が出来る時代になりました。そうなる次は、よりよい画を撮りたくなるし、作品に仕上げたいという望みも出てくるのではないかと思います。この授業では、そのための撮影技法の基礎知識を学び、より豊かな映像体験に結びつけてもらうことを目的としています。 授業では、各自がカメラマンとして撮影していく実技が中心となります。基礎的な撮影理論、機材の取り扱い方から始まって、撮った映像の試写（ラッシュ）で検証しながら、編集や最終の仕上がりを意識した画面構成などの指導も行います。	
	プレゼンテーションⅠ（言語と身体表現）		言葉と身体表現を中心としたプレゼンテーション能力の向上を図ります。プレゼンテーションの目的は、自分の考えや気持ちを的確に相手に伝えて、共有・共感してもらうことです。そのために必要なことは、常に相手の立場になって考える癖を身につけること。「もし自分が相手だったら、それで分かるだろうか？」ということを意識するだけで、言葉の選び方も表情、身振り手振りも自然と変わってきます。 参考ビデオを見ながら良いプレゼンテーションの手本を示すとともに、ビデオカメラでプレゼンテーションの様子を撮影し、それを見ながら自分の頭の中のイメージと現実の表現のギャップを確認してもらう実践型の人前で話すことを中心にした授業を展開します。	
	無線通信技術と法		地域課題の解決、地域の情報発信等のために、ドローンを利用した空撮、移動系業務用無線システムの運用等を行うためには、多くの場合、「第三級陸上特殊無線技士」等の無線従事者の国家資格が必要となります。本授業では、「第三級陸上特殊無線技士」の資格取得のための国家試験に合格するために必要な力を養うことを目標とします。 授業では、①地域で運用されている無線通信システムの概要、②無線通信技術の基礎（電波の性質、無線通信機器の性質、運用方法）、③通信法規の基礎（電波法等）等を学びます。	

映像メディア論		この科目は、「テレビを含めたメディアからの情報は事実そのものではなくメディアが『伝えたい』事実である」という映像を見るなかでもすると忘れがちになる点に着目して、テレビニュースやドキュメンタリー番組を中心に、何が語られ何が抜け落ちているのかを見抜く力を養うことを目標にしています。その時々タイムリーなテレビニュース・ドキュメンタリー番組を素材に講義を展開し、ベーシックな基礎知識としてテレビに囚われずに映画も含めた映像が切り取る世界とは何なのかを論じていきます。また、講師自身が監督している作品の鑑賞を通じて、制作の具体的なプロセスや作品に込められた意図などの解説を行います。	
地域データ分析		この授業では、地域課題の解決、食や観光に関連するサービス開発等のために必要な地域データ分析のスキルを習得することを目標とします。地域データの分析においては、通常のデータ分析スキルに加え、空間的なデータ分析スキルが必要となります。授業では、①地域課題の解決等を行うために必要な地域データの特定、収集、整理の方法、②地域データの分析に必要な統計学（記述統計、推測統計、空間統計）の手法、③RESAS（地域経済分析システム）、オープンデータ（国や地方公共団体が公開している公共データ）、GIS（地理情報システム）などの活用方法、④地域課題解決のための地域データ分析の具体的な分析方法を学びます。	
気候変動と気象予測		観光関連産業のみならず、農林水産業をはじめ、工業、サービスにおいて、天気や気候は業務・業績に大きな影響を与えています。さらに、地球温暖化の影響を受けて気象災害が頻発するなかで、気象についての知識を持つ重要性はますます高まっています。天気図や気象情報を正確に理解するとともに、身近な事象から（気象法に抵触しない範囲で）天気を予測できる能力を身につけます。また、地球環境問題と日々の気象との関係についても学びます。	
映像制作演習（発展）		映像制作演習（基礎）で得た知識と技術を基に、概ね1分程度の短編PR動画制作を行います。各自の興味に合わせて題材を決め、グループで役割を交互に分担しながら全員が1本ずつの「作品」を完成させます。そのプロセスを通じて（特に編集の繰り返し）何かを人に「伝える」時に最も重要なことは、構成であることを学びます。構成＝論理が正しい加減だと折角の思いが人に伝わりません。撮影する映像のワンカットごとに意味を積み上げていく作業を通じて、人に「伝わった」喜びや達成感を体得してもらうことが授業の目標となります。	
プレゼンテーションⅡ（PCと視覚資料）		PCを活用したプレゼンテーションに重点を置いて効果的なプレゼンテーションの方法を学び、各自がそれを実践します。具体的には、プレゼンテーションに対する基礎的な知識、プレゼンテーションの準備の仕方、発表の作法、効果的なプレゼンテーションの仕方などを習得したうえで、学生自身が複数回にわたってプレゼンテーションを行い、講評を受ける形をとります。プレゼンテーション能力の上達のためには、単に知識を習得することでは事足りず、各自が積極的に実践し、数をこなすことが求められます。	
知的財産権法		この講義では、非常に多岐にわたる「知的財産」に関わる法制度全般を鳥瞰的に説明するとともに、書く法制度の特徴的部分を紹介していきます。「知的財産」とは何か、なぜこれらを保護しなければならないのか、これらの保護のためにどのような仕組みが用意されているのかなどを学び、知的財産に関する法制度の理解を深めることにより、しばしば話題にのぼる知的財産の問題について自ら考えていくことができるようになることを目標とします。	

食品の科学	生化学		生化学は、生物に特有な生命現象の仕組みを科学的手法により、分子レベルで説明しようとする学問です。生物が生きていくために必要な、糖、脂質、たんぱく質の基本について学び、その代謝の流れと相互作用を理解することで、栄養と生活習慣病との関係が明確になる科目です。また、細胞内で繰り返される化学反応に触媒として働く酵素と補酵素について学ぶことにより、生命活動の基本的知識を身に付け、普段の食事から摂取する各栄養素が、どのように生体内で利用されているかを理解できる科目でもあります。	
	微生物学		この授業では、目に見えない微生物の基本的な生物学的特性とその生態系内での役割について学びます。微生物には、真菌（カビや酵母）、細菌、さらにはウイルスなどが含まれます。これらは、食中毒などの病気の原因となる一方で、腸内細菌としてエネルギー源を生体に供給したり、食品の発酵や保存に寄与したり、バイオマス資源として利用されるなど、人々の生活に多大な影響を与えています。微生物の分類、代謝機構、相互作用などの基礎知識を深め、その実際の応用や生活への影響を知ることを目的とします。	
	栄養機能学		食や身体活動などの環境変化に応じて、体内では極めて複雑な化学反応が生じています。この授業では、食品に含まれる栄養素が摂取された後、体内でどのように処理され身体機能にどのような影響を与えるか、代謝過程における生体反応の調節機構について学びます。体内での食に関わるメカニズムを学ぶことで、私たちの栄養摂取方法が身体にどのような影響を及ぼしているのか、現代の食と栄養に関する課題にも目を向け、私たちにとって必要な食とは何かを考えます。	
	栄養生理学		栄養生理学では、生体の構造と機能を学び、人体の働きのもととなる生命現象がどのような機能システムで行われているか理解することを目的とします。この授業では、神経の情報伝達、内分泌機能、筋が収縮する仕組み、神経系の働きによる身体運動の調整などを学び、生体の構造と機能を理解します。さらに、食品から摂取する栄養素の代謝と生理作用を通じて、体内の生理反応と栄養素との関係を学び、栄養素が健康の維持や疾病予防にどのように寄与するかを理解します。	
	食と環境		現在の日本では、食の選択肢が豊富で、必要な食品を容易に手に入れることができる一方で、私たちの食生活は多くの環境要因に影響されています。この授業では、公衆衛生的視点を取り入れながら、食生活が引き起こす環境問題や、誤った食情報・不適切な食環境によってもたらされる衛生管理や健康に及ぼす影響について学びます。環境負荷や持続可能な食生活の在り方を多角的に検討し、食と環境の相互関係を理解することで、現代の食環境問題に対する解決策を考える力を養うことを目指します。	
	食品加工と保蔵		食品の加工原理や工程、保存法について講義を行います。食品加工技術は、寒冷地域などで食料が乏しい冬を乗り越えるための知恵でもあったように、食料資源が乏しい地域や季節における資源の有効利用が始まりとされ、偶発的に発見された加工法により、食に適さなかった食材が安全な食材に変化している食品も存在します。また、研究の進展に伴い、加工工程や食品の包装規格、表示が厳格化されていることについても理解することで、より豊かな日常の食生活をめざします。	

		フードプランニング論		飲食サービス施設において、飲食物を提供する際に考慮・検討しなければならない事項は数多くあり、提供するメニューや衛生・安全管理、調理・生産・品質管理、施設・設備管理、人事管理、原価管理、地域特性など多岐にわたります。この授業では大勢の方に向けた食事の調理・提供に関わる基本的な知識や技術と関連法規について理解するとともに、飲食物の提供における計画から調理や洗浄などの実施、評価と改善までの一連の流れを学習します。	
		発酵・醸造学		この授業では、微生物を利用した食品、特に発酵食品と醸造品について、科学的に関与する微生物の種類とそれぞれの至適生育環境を学びます。日本は高温多湿の気候条件により、多様な発酵食品が存在し、醸造技術も高度な技術力を用いていることから、日本独自の発酵文化と産業をより理解することができます。具体的な発酵食品を例に、微生物による食品の物理的变化や成分変化を科学的に探究し、発酵と醸造の技術とその応用についての知識を深めることを目的としています。	
		食品分析学		食品の品質と安全性を確保するために用いる分析機器の原理と応用方法を学びます。HPLC（高速液体クロマトグラフィー）、GC-MS（ガスクロマトグラフィー質量分析計）、吸光度計などの主要な食品分析機器について、各機器の基本原理、データ解析の技術を解説します。それぞれの機器が食品成分の分析にどのように活用され、市場に出回っているか、また分析結果が食品の品質管理や規制に影響を与える影響を学ぶことにより、食品業界における分析技術の実践的な意義を理解することをめざします。	
		メニュー開発論		飲食サービス施設において商品（メニュー）は、経営上、最も大きな役割を担っているものの1つです。新メニューの開発や既存メニューの改良によって、新規の顧客の獲得や既存の顧客のリピート率の増加から、その施設の収益の増加にもつながります。この授業では、飲食サービス施設における商品開発の流れを、アイデア検討からマーケティング活動、コンセプト決定、価格設定、仮メニューの考案、試作、評価・検討などを通じて、消費者に提供されるのかを理解します。	講義10回/14回 演習4回/14回
展 開 科 目	観 光	観光ビジネス論		この科目では、観光ビジネスを理解するための基本的なフレームワークとして、ペルソナ、共感マップ、バリュープロポジションキャンパス、ビジネスモデルキャンパス、カスタマージャーニーマップについて学びます。観光ビジネスの多様な事業内容や経営的特徴を理解し、分析的な視点を養うことをめざします。 授業を通じて、観光ビジネスの基礎知識を習得し、経営特性や課題を考えます。講義とケーススタディーを中心に、顧客志向のビジネス分析の基本的フレームワークなどの分析フレームワークを用いて、事業の分析や立案ができる力を養います。	
		エンターテインメント産業論		近年、放送業界には「配信」という劇的な変化が訪れ、「放送の戦国時代」に突入しました。長年、テレビ局でディレクター・プロデューサーとして働いてきた講師が、リアルタイムの情報や現場のエピソード、隠れた逸話を実例としながら、エンターテインメント業界の「代表格」と言える「放送」の現状や特徴と機能、社会的影響力、問題点、そして「配信との攻防」をわかりやすく伝えます。それより、学生たちは「明日から使える、実践的な力を育み、自らの作品を自由自在に発信し、人に「感動」を与えることをめざします。	

情報通信産業論		技術進歩により、インターネット、スマホ、ネットショッピング、SNS、ネット配信等の情報通信産業が発展するとともに、「産業構造の変化」、「社会経済活動の効率化や高度化」、「消費者の行動変容」等が起きています。 本授業では、具体的な情報通信サービスをとりあげ、その構造や社会経済への影響等を分析を行うとともに、情報通信産業に関する理論の紹介を行います。それにより、学生は、情報通信産業の構造やビジネスモデル」、「情報通信技術の社会経済に及ぼす影響」、「情報通信分野における政策課題」、「デジタル社会における消費者利益の保護」等について、企業・政府・消費者の観点から、基本的な理解を得るとともに、「情報通信技術を社会にどう生かしていくべきか」ということに関し、自分なりの考え方を確立することができるようになることが期待されます。	
ホスピタリティマネジメント		この講義では、ホスピタリティ業界におけるマネジメントの基本的な概念と実践的なアプローチについて学びます。ホスピタリティマネジメントとは、顧客満足度を最大化するために、リーダーシップ、組織運営、サービス品質の管理を行うプロセスです。 講義では、まずホスピタリティ業界の特性や市場動向を理解し、業界に特有の課題や機会について分析します。次に、効果的なマネジメント戦略の策定、リソースの最適な配分、そしてサービス品質の維持・向上のための手法について詳しく学びます。 学生は、理論的な知識だけでなく、ケーススタディやグループディスカッションを通じて、実際のマネジメント課題に対する解決策を考え、実践的なスキルを養うことができます。最終的には、ホスピタリティ業界でリーダーシップを発揮し、持続可能なビジネスを構築するための基礎を身につけることが目標です。	
日本文化演習		グローバル社会では、自国の文化を相手に説明することができる能力も必要です。 この講義では、日本文化の伝統的な側面を深く理解し、実技を通じてその魅力を体験します。主な内容として、和食、茶道、着付けの三つのテーマに焦点を当て、知識と実技の両方を学びます。理論的な学びと実践的な体験を通じて、日本の伝統文化を深く理解し、その価値を自らの手で感じ取ることができます。最終的には、日本文化に対する豊かな知識と実技スキルを身につけることが目標です。	
世界遺産入門		旅行業はじめ各種企業で取り組まれている世界遺産検定において、130件程の世界遺産を対象とする「3級検定」の合格を目標とし、7月頃に実施される検定試験の結果を成績に反映させます。世界遺産を通しての学びには、世界史や日本史、地理、生物、建築等だけではなく、世界の環境や情勢、時事や平和問題などとも深く結びついています。世界遺産の学修を通してこれらを学び、今後、観光・旅行業界やその他の業界で活躍するうえで必要な知識や教養と、人々との交流を深めるコミュニケーション力など、総合的な基礎力の習得もめざします。	
旅行業概論		この授業では、旅行業の機能や役割、旅行業の歴史的発展過程などについての旅行業の基本的な知識の整理と解説を行うとともに、旅行業の発展や実態を通じて現代の旅行業の可能性や課題について考えることを目的としています。 現代の旅行業は観光を支える基幹産業に発展してきましたが、消費者保護などの観点から法規等のもとで、観光ビジネスを行っており、この授業では事例を交えながら旅行業の今日的話題にも触れています。旅行業務取扱管理者資格取得のための実務部分を学ぶ講義科目になります。	
フードツーリズム論		この科目では、地域における食を、自然、文化、遺産、伝統など共同体の個性を反映するものとして捉え、食の魅力をどのように観光につなげ、地域内外の人びとの健康や幸福、経済に活かすことができるのか、関連する理論や事例に基づき考えていきます。 初めに、地域における食の個性の重要性について、ウェルビーイングや社会的経済的側面から理解した上で、地域の食が活かされている暮らしや観光の事例について考えます。その際、地域での食の展開には目的、内容、頻度や価格帯など複数の側面があることを踏まえ、国内外の多様な実例を見ていきます。また、学んだことを実践に結び付けるために、学生自身が特定の地域の食について調査し、発表やダイアログを実践する機会を設けます。	

			エンターテイメント特講 自分だけが楽しいのはエンターテイメントではありません。他人がそこに喜びを感じた時、初めてエンターテイメントとなります。 この講義は、そのためにどういう創意工夫が必要なのかを発見する授業です。短い台本を使用して実際に演技を行いながら、感受性を深め、豊かな表現力を身につけるワークショップ形式の授業を行います。配付されるお芝居の台本の役柄を演じることにより、表現力だけでなく、相手役や観客（他の受講者）との協働、協調の感覚を磨くことにつながります。	
			スポーツ産業論 近年、スポーツの商業化と他産業との複合化が急速に進む中で、スポーツ産業は独特な進化を遂げながら新たな事業領域を形成しています。本授業では、スポーツ産業に含まれる様々な領域がどの様に形成され機能しているのか、また構造的な課題を抱えつつも新たな時代の変化に沿ってどの様に進化を続けているのかを、最新の知見をもとに解説することを目的としています。また、本講義では日本や海外の実例をとりあげながら、スポーツ関連産業が持続的に発展するために克服すべき課題とその解決策についての議論を行います。	
			地域資源発掘活用演習 この科目では、観光や交流において基盤となる地域資源を発見し、活用する方法の具体的な方法を実践を通して学びます。その際、社会的な意味やインパクトを深めるために、参加型のプロセスを採用することの意味や方法も学びます。 初めに、地域資源の意味や資源発見・活用プロセスの概要について学んだ上で、実例や方法について学びます。その上で、具体的な地域を取り上げ、実際に調査をし、地域資源を発見すると同時に、地域のエコシステムについて理解をし、地域資源を地域内外の人びとのウェルビーイングのためにどのように活用できるか具体的な方法について考えます。	
食・農	フードデザイン実習（基礎調理）		基礎的な調理技術を身につけ、調理の意義や役割について理解する実践的な授業です。日常的な料理について基本的な包丁技術および調理技術を体得しながら、安心・安全な調理を出来るように、徹底した衛生管理のもと、衛生面についても体得することにより、自信をもって調理に積極的に取り組める能力を修得します。また、日本、西洋、中国料理で異なる食事様式や、それぞれの料理の文化的背景を学修することで、食への理解度を深めます。	
	食文化と伝承		この授業では、各地域の風土や文化に根差した伝統食や特産品をどのように継承していくのかについて学ぶとともに、各地域が開発・導入を進める新たなブランドや特産品をどのように地域内外で展開しているのかについて具体的に学んでいく。事例として、百年以上続く駅弁をとりあげ、弁当の内容が、社会や交通の変化、消費者のニーズ、地産地消の考慮、食材調達の高コストなどを理由にどのように変化してきたのか、その中で事業者はどのような努力をしてきたのかを具体的に学びます。	
	基礎化学実験		基礎化学実験では分析化学における基本的な技術と理論を体系的に学びます。初期は実験器具の適切な取り扱い方法や基本操作について体得し、化学実験の基礎を習得します。その後、各種栄養素や食品成分の検出、分離、定性・定量分析に関する基本的技術を実践、さらに高度な分析機器の使い方を学び、データ取得や解析能力を養います。実験器具や分析機器の使用意義を理解し、正確な実験を遂行するための理論的知識と方法論を修得します。また、得られたデータの解析や結果の解釈に関するスキルも養い、科学的思考を深化させます。この授業を通じて、分析化学の基盤を確立し、将来の研究や実務における応用能力を高めることが期待されます。	

ライフステージと食		この授業では、栄養学の知識を実生活に活かすため、各ライフステージ（乳幼児期、学童期・思春期、成人期、高齢期など）におけるさまざまな健康状態や生活環境に応じた栄養管理の重要性を理解し、身体の特性と問題点、疾病との関連を学びます。さらに、適切な栄養摂取をするための食品の選び方や調理方法の工夫など学ぶことで、対象者に対する現代の栄養問題に対応する力を養います。より良い健康維持と疾病予防を目指すための実践的な知識を深めます。	
フードデザイン実習（応用調理）		フードデザイン実習では調理実習を行います。基礎調理から発展させた応用的な調理能力の向上をめざします。諸外国の特徴的な食材や、目的に応じた調理法を実践的に学び、バラエティ豊かな食卓を作り出す技術を身につけていきます。さらに、各国の多様な料理の調理技術や調理性や、食事様式に応じたテーブルコーディネートや食卓の整え方を喫食者目線からも学びます。これにより、喫食者の嗜好に合わせた食卓の重要性を理解し、豊かな食生活に貢献できる能力を養います。	
農水産業と地域社会		農業や水産業、畜産業は単に食料供給という側面だけではなく、地域の文化や社会構造とも密接にかかわってきました。祭りや行事は豊作祈願や収穫への感謝と密接に結びついてきたほか、神々に供える日本酒やその作り手という形で食や特定の人と切り離せない関係が存在していました。このようにして、食べ物ひとつひとつにさまざまな想いが内在し、食、農水産業、地域文化が重層的に継承されてきました。しかし、大量生産・大量消費時代を迎えるとともに、少子高齢化・人口減少・過疎化が進む中で、このような三者の関係は薄れてきました。この科目では、「和食」を中心に、農水産業と食、地域文化、社会との関係を明らかにし、伝統食をどのように継承するのか、新たな食文化をどのように創出していくのかを考えていきます。	
農水産物の加工と流通		農水産物の流通、物流は時代とともに大きな変化を遂げてきました。また、流通する食材も、消費される食材も、さまざまな加工技術の登場やロジスティクスの発展に加え、気候変動や国際政治、世界経済の情勢に大きく翻弄されてきました。この科目では、このような変化の概要や要因、そのなかで安定供給を確保するためのさまざまな方策などを学びます。 また、生産者の生活ややる気にも目を向け、自らが生産した食材が無駄なく販売、加工されるために6次産業化を進めている過程にも着目し、その可能性と限界を考えます。	
食品衛生学実験		この実験では「食品衛生学」の授業で学んだ知識を背景に、実際の体験を通じて食の安全を総合的に理解するとともに実験器具や試薬の取り扱いに親しみ、食品を安全に設計・管理するために必要な基礎技能を習得します。食品の安全性の重要性の認識と衛生管理方法の理解のために、食品添加物、食品の鮮度、細菌性食中毒、その他食品の衛生にかかわる実験を行い、学んだ知識を実証し、実験の内容・結果を理解するとともに、科学的な考察ができるようにします。	
栄養マネジメント実習		偏った食生活、肥満など、さまざまな栄養・健康問題がある中で、日常生活に役立つ栄養管理の基本的な知識と技術を実践的に学びます。この授業では、身近な食事や健康に関するテーマを取り上げ、個々の健康状態や生活習慣に合わせた栄養バランスの良い食事や、特定の栄養素を意識した食事について考えます。さらに、無理なく続けられる健康管理や食生活の工夫、栄養バランスの整え方についても学びます。現代社会の食に関する問題に目を向けながら、実社会での栄養管理に必要な知識と技術を身につけることをめざします。	

地域栄養学		近年、家族の形態や食生活が大きく変化している中で、生活習慣病の増加や食の外部化といった問題が顕在化しています。このような現代社会においては、家庭だけでなく地域社会全体を考慮した「食育」の重要性が高まっています。この授業では、地域の食へ目を向け、地域の食や健康・栄養問題に焦点を当て、地域住民の栄養状態や健康課題を把握するための調査手法や、対象者の行動変容を促すための理論、さらには健康・栄養政策について学びます。「食育」に役立つ実践的な知識を深め、地域の健康増進・食環境に必要な食とは何かを考えます。	
食品加工学実習		食品の生産・加工、及びその安全性や保存性についての基本的な特性を実践的に体感します。実際に加工食品を製造し、加工工程による食品の物理的・化学的变化を学びながら、嗜好性に影響を与える要素を理解します。さらに、適切な保存容器の選択や安全性に関する留意点についても学び、加工技術の実践を通じて食品の保存性と安全性に対する理解を深めます。この知識を活かして、地域社会における食の可能性を探求し、洞察できる力を養います。	
食育活動		この授業では、現代社会が抱えている食に関する課題とその原因を理解し、問題解決に必要な食育とは何かを考えます。子どもにとっての食事は栄養摂取だけでなく、食事を感覚的に楽しむこと、食事のマナーを学ぶ場、行事食を通じた文化の継承など、多くの学びの要素があります。一方、成人にとっての食事は、健康維持と密接な関係があることから、ライフスタイルに応じた食育の重要性を考える必要があります。この授業では、グループワークを通じて子どもと成人の食生活に関する資料を収集し、食育の媒体を作成する演習を行い、実践的な食育のスキルを広く学びます。	
食安全マネジメント演習		食品を安全に提供するためには、従業員の体調・衛生管理や使用食材の管理、温度管理、職場環境の整備、異物混入の防止、機器類の正しい使用法の指導、作業マニュアルや事故が発生した際の対応マニュアルの作成など様々な事項に注意を払わなければなりません。 この授業では「食品衛生学」や「食品安全学」で学んだ内容を基に、実際の作業・調理工程に対してHACCPシステムに基づく衛生・安全管理手法を体験的に学習することで、一連の流れをより深く理解し身に付けることを目的とします。	
フードプランニング実習Ⅰ		この実習では「メニュー開発論」や「フードプランニング論」などで学んだ内容をもとに、女子大学生をターゲットとした商品を自分たち自身で提供するためのメニュー案の作成、調理指示や作業工程などの生産・品質管理、人員配置などの計画、試作や評価、改善点の検討などを行います。実際に一連の流れを体験することで、これまでに学習した基本的な知識や技術を実際の食事の提供という形にしていくために必要な応用力や実践力を身に付け、養うことを目的としています。	
フードプランニング実習Ⅱ		この実習では「フードプランニング実習Ⅰ」で計画したメニューや作業計画と「食安全マネジメント実習」で計画した衛生・安全管理手法を基に、実際に大勢の方に向けた食事の調理・提供を行います。限られた時間の中で作業を行うための作業・時間・人員・品質管理、一歩間違えれば大勢の方に影響が出てしまうことを意識した衛生・安全管理、実際に消費者の反応・評価を踏まえた商品の改善計画の立案など、より実際に近い環境の中で体験することで、社会に出るために必要な臨機応変な対応力やコミュニケーション能力を身に付け、養うことを目的としています。 実習の準備、片付けにも時間を要することから、ⅡとⅢを連続開講します。	

	フードプランニング実習Ⅲ		この実習では「フードプランニング実習Ⅰ」で計画したメニューや作業計画と「食安全マネジメント実習」で計画した衛生・安全管理手法を基に、実際に大勢の方に向けた食事の調理・提供を行います。限られた時間の中で作業を行うための作業・時間・人員・品質管理、一歩間違えれば大勢の方に影響が出てしまうことを意識した衛生・安全管理、実際に消費者の反応・評価を踏まえた商品の改善計画の立案など、より実際に近い環境の中で体験することで、社会に出るために必要な臨機応変な対応力やコミュニケーション能力を身に付け、養うことを目的としています。また、提供終了後の洗浄・清掃や、次の準備といった補助的な作業にも取り組んでいただき、主な作業と補助的な作業の組み合わせ方や、日々のルーティーンの構築などといった、実務において必要不可欠な内容についても学習します。 実習の準備、片付けにも時間を要することから、ⅡとⅢを連続開講します。	
	テーブルコーディネート論(演習含む)		この授業では主に食事を演出するためのテーブルセッティングの基本と応用を実践的に学びます。食器、カトラリー、グラス、ナプキンの選び方や配置を理解し、色彩やテーマに基づくデザインの創出方法を解説します。また、異なる文化や季節、イベントに応じたコーディネートのアプローチや、食事の演出における食空間の視覚的要素の重要性についても掘り下げながら、食事の演出によるコミュニケーションの強化の重要性について理解を深め、実際にコーディネートを自身で計画・実施し、フードコーディネーターとしての専門的な視点を養います。	講義8回/14回 演習6回/14回
実務	ファシリテーション		多様性が大切にされる社会では様々な価値基準が並立、時に対立して存在しています。そのような社会で何かの協働活動を実施するにあたっては、到達する目標を明確にした上で、個々の考えの共通点あるいは相違点を整理し、ゴールへの最適な道筋を共有できるように導いていくことが重要になります。これがファシリテーション能力です。 本科目では、ケーススタディや実践的な演習を繰り返し行ない経験値を上げることを通じて、ファシリテーション能力に欠かさない情報収集力、観察力、判断力、会話力などを開発向上させると共に、副次的効果として、学生の多面的多角的思考の拡大へと繋げてまいります。	
	ホスピタリティ実践		この講義では、ホスピタリティの理論を学び、それを実際のサービスに応用する方法を探究します。特に、顧客との関係構築や文化的背景を考慮したサービス提供に焦点を当て、現場での課題解決能力を養います。具体的には、ホスピタリティの基本概念、顧客ニーズの理解、業界トレンド、持続可能なサービス、異文化理解などを学習します。授業は講義に加え、グループディスカッションやケーススタディも取り入れ、テーブル・マナーやサービス・マナーを含む実践的なスキルを磨きます。インターンシップを考える学生や、ホスピタリティ業界でリーダーシップを発揮したい人に最適な内容です。	
	資格支援講座		この授業は、国家資格である旅行業務取扱管理者資格を取得するための学習を支援することを目的としています。「旅行業概論」や「民法（契約法）」「消費者問題と政策」などで学んだ知識を活用して「旅行業法」や各種約款の理解を深めていきます。毎年夏に試験が実施されることから、過去問題などを通じて出題のポイントを押さえながら、試験対策を行います。「国内旅行業務取扱管理者試験」合格をめざしますが、余力がある学生には「総合旅行業務取扱管理者試験」対策も実施します。	

	インターンシップⅠ		この授業は、2年次に行うインターンシップを対象としており、企業等での実習に加え、前後指導や発表会、レポート提出を通じた振り返りにより、将来のキャリア形成につなげることを目的としています。 1年次秋学期に「二等無人航空機操縦士」の資格取得をめざすことから、資格取得後の操縦技術の向上をめざし、実際に企業や団体等においてドローンの操縦、利活用を学ぶことを想定しています。また、食品分野では授業で学んだ調理学や食品衛生の知識を実践的に学ぶことを目的に、飲食店や弁当・総菜製造事業者で実践経験を積むことを想定しています。	
	キャリア実践Ⅰ		社会でよりよく生きる力をつけるためには、周囲との信頼関係が不可欠です。その基盤となるコミュニケーションスキルとビジネスマナーを習得し、ビジネスマナー検定の取得も目指します。授業は実習中心で進め、インターンシップや就職活動を想定した実践的な内容です。フィードバックを通じて客観的な視点を得るとともに、自分自身と向き合い、自分を言葉で表現する力を養います。ⅠとⅡを通じて、時期に応じた学びや動機付けを支援し、就職活動につなげます。	
	キャリア実践Ⅱ		社会でよりよく生きるためには、自らの価値観や能力を深く理解し、他者と共に成長する力が求められます。Ⅰで培ったコミュニケーションスキルやビジネスマナーを基盤に、Ⅱでは企業研究や仕事研究、自己分析を通じて、より実践的な内容に焦点を当てます。具体的には、エントリーシート（ES）の書き方や面接準備など、就職活動に必要なスキルを習得します。グループワークや個人ワークを通じて自己理解を深め、社会人としての目標や方向性を明確にし、インターンシップや就職活動に備える準備を進めます。	
	インターンシップⅡ		この授業は、3年次に行うインターンシップを対象としており、企業等での実習に加え、前後指導や発表会、レポート提出を通じた振り返りにより、将来のキャリア形成につなげることを目的としています。 将来の就職、起業を具体的にイメージして、働き方を理解するために、企業や自治体、団体等での1週間以上のインターンシップを行うことを想定しています。単に受入れ先の業務を知るだけでなく、その業界の仕事の内容を理解するために、できるだけ2週間以上の長期インターンシップに誘導するようにします。	
完成科目	ゼミナールⅠ	○	ゼミナールⅠ、Ⅱは、通年で同一教員のもと、教員の専門性を活かした学習計画や指導により、少人数でのディスカッションやさまざまな体験を通じて、理論的に学んできたことを実践し、学生自身が自らの学びと社会との関係を認識するとともに、将来の生き方を考えるための場を提供することを目的としています。4年次に卒業制作（論文、作品、実践記録）を行うことを念頭において、そのために必要な学びを深め、現地調査や地域活動などの体験に挑戦します。担当教員により方法は異なりますが、日常の授業では卒業制作を行ううえで基本となる事項をディスカッション中心に学んでいきます。	
	ゼミナールⅡ	○	ゼミナールⅠ、Ⅱは、通年で同一教員のもと、教員の専門性を活かした学習計画や指導により、少人数でのディスカッションやさまざまな体験を通じて、理論的に学んできたことを実践し、学生自身が自らの学びと社会との関係を認識するとともに、将来の生き方を考えるための場を提供することを目的としています。4年次に卒業制作（論文、作品、実践記録）を行うことを念頭において、そのために必要な学びを深め、現地調査や地域活動などの体験に挑戦します。春学期に学び、夏休みに体験等を通して深めた知識をもとに、知識をより具体化かつ体系化していきます。	

		卒業研究Ⅰ	○	4年間、理論的、実践的に学んできたことの総括として、卒業制作（論文、作品、実践記録）を行います。3年次のゼミナールと同一教員のもとで卒業制作を行う場合のほか、3年時の教員と異なる教員のもとで卒業制作を行う場合も想定しています。春学期には卒業制作のテーマや概要・骨組みを決め、資料収集を始めいきます。学生たちは、3年次の体験、調査で不足する場合には、夏季休暇を用いて追体験、追加調査を行い、制作のための材料を揃える一方、教員の指導のもとで社会貢献に資するような論文、作品、活動成果を残します。	
		卒業研究Ⅱ	○	4年間、理論的、実践的に学んできたことの総括として、卒業制作（論文、作品、実践記録）を行います。3年次のゼミナールと同一教員のもとで卒業制作を行う場合のほか、3年時の教員と異なる教員のもとで卒業制作を行う場合も想定しています。学生たちは、夏季休暇を用いて実施した追体験、追加調査をもとに、秋学期には、論文執筆や制作に本格的に着手します。卒業制作の実施形態は各指導教員の方針に委ねられます。最後に卒業制作の発表会を実施します。	

（注）

- 1 開設する授業科目の教に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

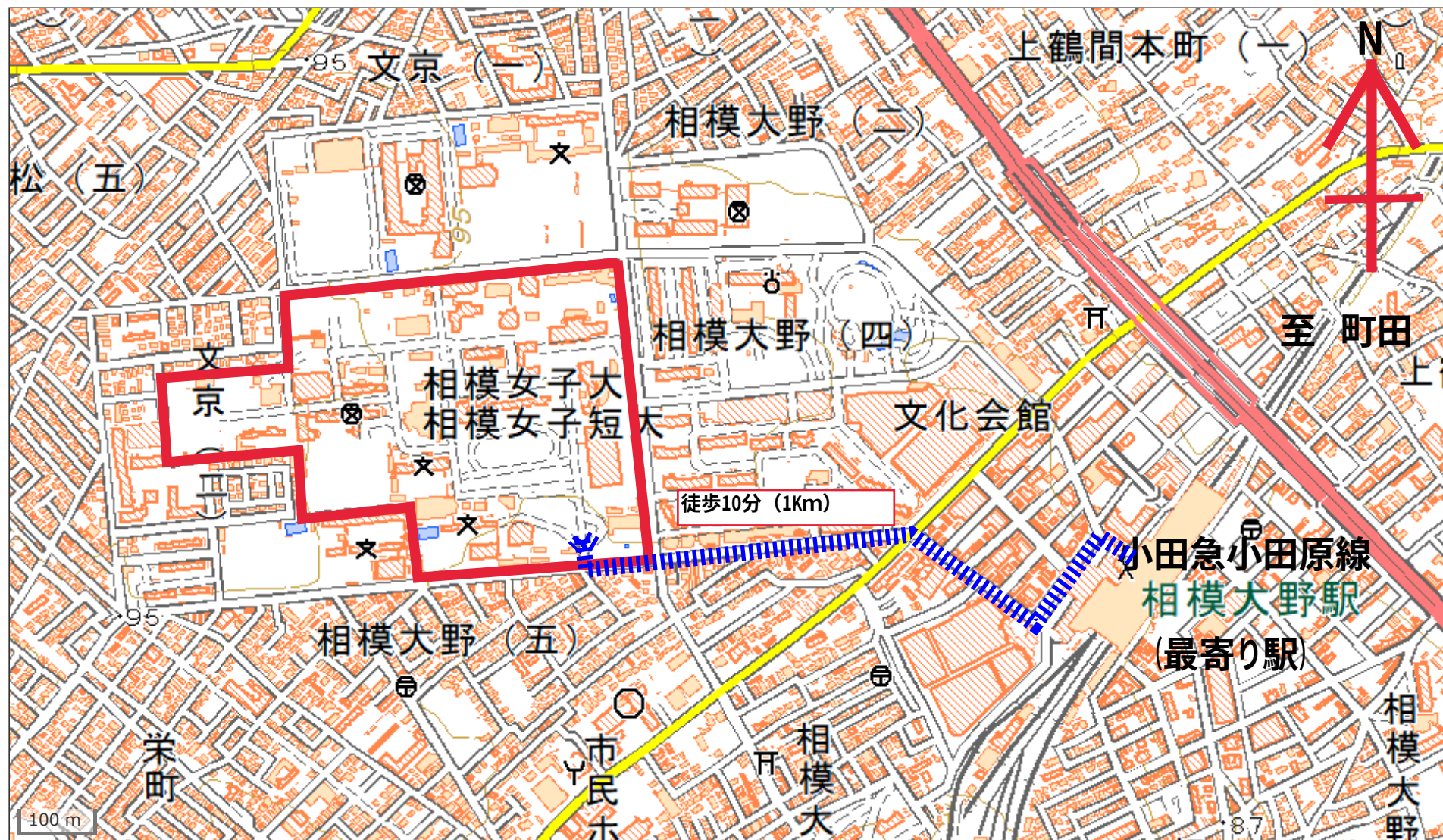
学校法人 相模女子大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度				令和8年度			
入学定員				入学定員			
編入学定員				編入学定員			
収容定員				収容定員			
変更の事由				変更の事由			
相模女子大学				相模女子大学			
学芸学部				学芸学部			
日本語日本文学科	110	3年次 5	450	日本語日本文学科	85	3年次 5	350 定員変更(△25)
英語文化コミュニケーション学科	110	3年次 5	450		0	3年次 0	0 令和8年4月学生募集停止 令和10年4月3年次編入学募集停止
				国際コミュニケーション学科	60	3年次 5	250 学科の設置(届出)
子ども教育学科	100	2年次 2 3年次 5	416	子ども教育学科	100	2年次 2 3年次 5	416
メディア情報学科	95	3年次 5	390	メディア情報学科	95	3年次 5	390
生活デザイン学科	45	3年次 5	190	生活デザイン学科	80	3年次 5	330 定員変更(35)
人間社会学部				人間社会学部			
社会マネジメント学科	110	3年次10	460	社会マネジメント学科	90	3年次10	380 定員変更(△20)
人間心理学科	120	3年次10	500	人間心理学科	110	3年次10	460 定員変更(△10)
				地域クリエーション学科	60	3年次5	250 学科の設置(届出)
栄養科学部				栄養科学部			
健康栄養学科	80	3年次 8	336	健康栄養学科	80	3年次 8	336
管理栄養学科	100	3年次10	420	管理栄養学科	100	3年次10	420
計	870	2年次 2 3年次 63	3,612	計	860	2年次 2 3年次 68	3,582
相模女子大学大学院				相模女子大学大学院			
栄養科学研究科				栄養科学研究科			
栄養科学専攻(M)	6	—	12	栄養科学専攻(M)	6	—	12
栄養科学専攻(D)	2	—	6	栄養科学専攻(D)	2	—	6
社会起業研究科 社会起業専攻(P)	30	—	60	社会起業研究科 社会起業専攻(P)	30	—	60
計	38	—	78	計	38	—	78
相模女子大学短期大学部				相模女子大学短期大学部			
食物栄養学科	80	—	160		0	—	0 令和8年4月学生募集停止
計	80	—	160	計	0	—	0

神奈川県相模原市南区文京2-1-1
学校法人 相模女子大学



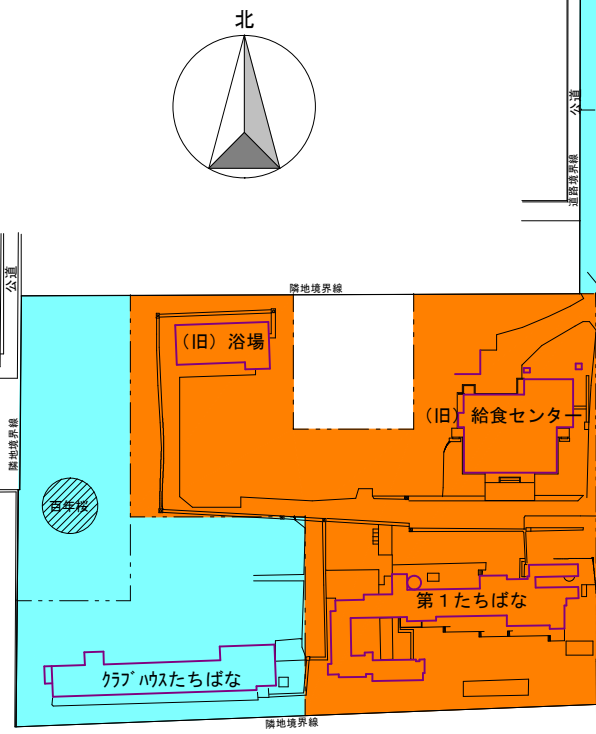
出典：国土地理院ウェブサイト 地理院地図Globeを加工して作成
https://maps.gsi.go.jp/globe/index_globe.html#46469/35.4382089/139.4311134/1/360/-90/0/&base=std&ls=std&disp=1&lcd=



出典：国土地理院ウェブサイト 地理院地図Globeを加工して作成

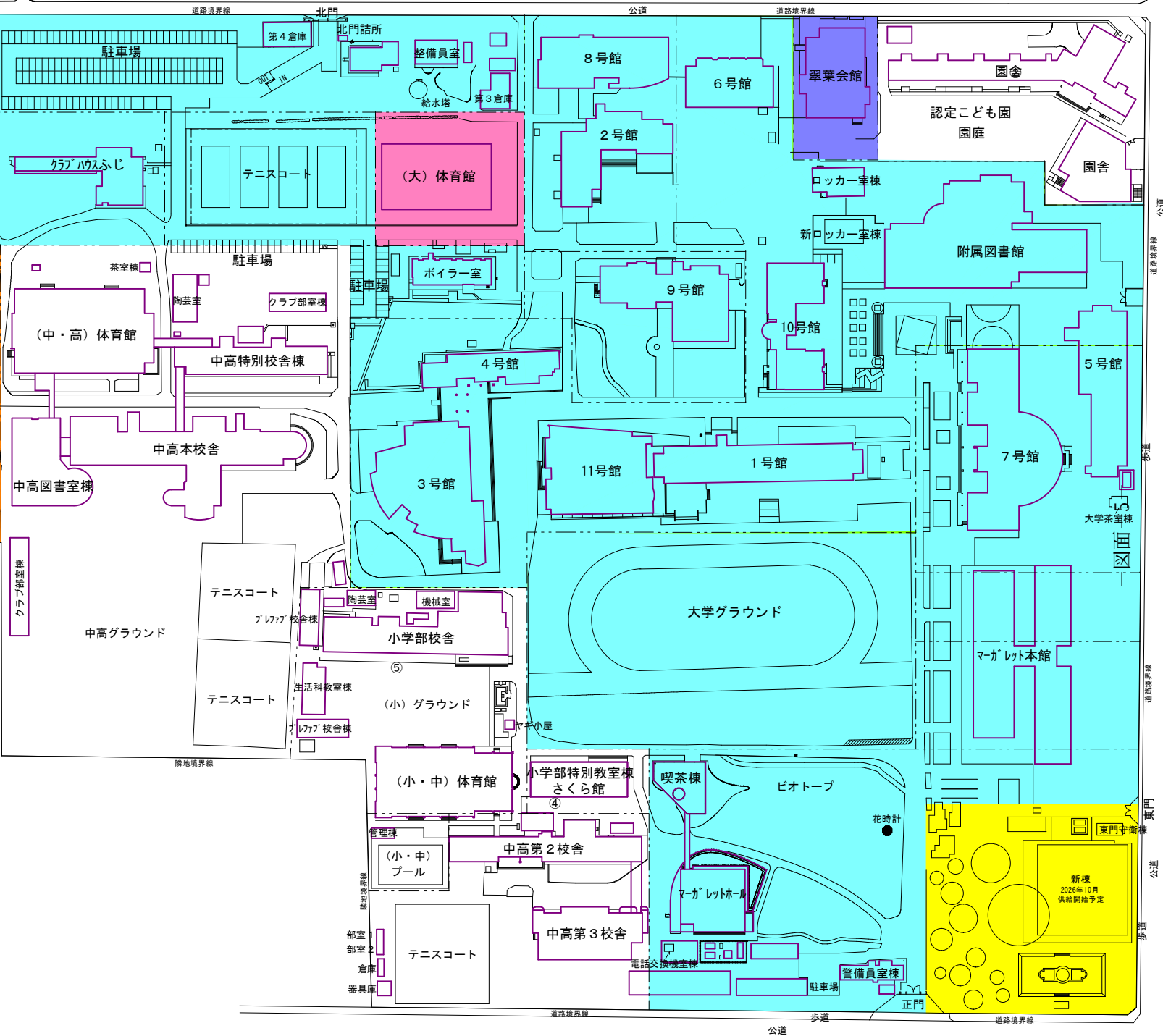
https://maps.gsi.go.jp/globe/index_globe.html#2528/35.53398444/139.42910773/1/360/-90/0/&base=std&ls=std&disp=1&lcd

(3) 校舎、運動場等の配置図（完成年度のもの）



凡 例	校 地	運動場
	= 大学	110,664㎡ (15,946㎡)
	= 体育館	2,519㎡
	= 旧寄宿舍	10,211㎡
	= 同窓会	1,344㎡
	= 大学・学園共有	6,461㎡
小 計		124,738㎡
	= 中高等部	31,236㎡ (14,713㎡)
	= 中学部	2,510㎡ (4,600㎡)
	= 小学部	8,421㎡ (2,178㎡)
	= 幼稚部	6,184㎡ (1,581㎡)
合 計		173,089㎡

校地区画図



（仮称）相模女子大学125周年記念事業キャンパス整備事業計画工程表（案）

20240703（第4版）

年	2024												2025								2026	
月	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	～8		
打合	設計・監理契約			基本設計図書説明 内外装仕上材提案				実施設計図書説明			金額調整提案		工事契約									
																					設計定例会議（頻度：0.5～1回/週）	
学園側承認	▼運営者の選定・契約			▼基本設計内容の承認 ▼内外装・構造方針・設備環境方針の承認			▼相見積業者のリストアップ		▼最終方針の承認		▼実施設計内容の承認			▼VE内容の承認		▼工事金額及び契約条件の承認			▼中間検査			
建築設計	基本設計（3ヶ月）			実施設計（5か月）					見積質疑対応・見積査定・VE調整			現場監理業務（14か月）										
	方針決定		基本設計図書作成		基本設計図書提出	コスト調整（1カ月）		実施設計図書作成		実施設計図書提出												
申請・協議	法規・条例整理		審査機関事前相談					確認申請準備			中間検査								完了検査			
																				役所協議		省エネ申請
			開発許可 照会申請	開発許可申請（必要な場合要調整）																		
建築 施工・積算	敷地測量・地質調査			大概算積算（適宜）				現場説明会		見積提出			地鎮祭								2026年10月中旬供給開始予定	
ランドスケープ 設計	基本設計（3ヶ月）			実施設計（5か月）					見積質疑対応・見積査定・VE調整			現場監理業務（14か月）										
		方針決定		基本設計図書作成		基本設計図書提出	コスト調整（1カ月）		実施設計図書作成		実施設計図書提出											
ランドスケープ 施工・積算	敷地測量・地質調査			大概算積算（適宜）				現場説明会		見積提出												
																					大概算積算	質疑

※学園承認スケジュールによって以降の工程は変動します。

相模女子大学学則（案）

第 1 章 総 則

第1条 相模女子大学は、女子に広く高度な知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、建学の精神「高潔善美」にもとづく教養ある人材を育成することを目的とする。

第1条の2 本学は、教育研究の向上を図り、前条の目的および社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その教育研究活動等の改善・充実に努める。

2 前項の自己点検・評価に関する規程は別に定める。

第2条 本学に学芸学部、人間社会学部および栄養科学部を置く。

2 学芸学部には日本語日本文学科、国際コミュニケーション学科、子ども教育学科、メディア情報学科、生活デザイン学科を置く。

3 人間社会学部に社会マネジメント学科、人間心理学科、地域クリエーション学科を置く。

4 栄養科学部に健康栄養学科、管理栄養学科を置く。

5 各学部の修業年限は4年とする。ただし、在学期間は8年を超えることはできない。

第2条の2 本学に大学院及び専門職大学院を置く。

2 大学院及び専門職大学院の学則は、別に定める。

（学芸学部の目的）

第2条の3 学芸学部は、真に自立した人間の育成を目指し、人文科学系の学問を中心に、総合的な知識・教養・倫理を教授し、情報化・国際化社会に対応できるコミュニケーション能力を養成することを目的とする。

2 前項の目的を達成するため、学芸学部各学科の目的は次に掲げるとおりとする。

（1）日本語日本文学科

日本語日本文学科は、日本語・日本文学の探究を基盤として、日本の文化について幅広くとらえ、その更なる創造と発展に寄与することのできる人間を育成する。

（2）国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科は、自身の特性を最大限に活かし、他者と協働する力、生涯にわたり学ぶ力、を身に着け、グローバルにコミュニケーションできる人材を育成する。

（3）子ども教育学科

子ども教育学科は、現代社会における教育・保育のあり方を問い直し、新しい子育てのシステムおよび教育・学習システムを構築することを目指し、幅広い教養を基礎に、実践的な教育力のある人間を育成する。

（4）メディア情報学科

メディア情報学科は、メディアに対する深い知識を身につけ、その内容である情報を文化的・社会的に幅広く理解し、メディアクリエイターとして実践的に情報発信に携わることのできる人間を育成する。

(5) 生活デザイン学科

生活デザイン学科は、生活者としての視点で、社会を的確に捉え、読み解く力を養うと共に、社会での自立を目標に幅広い知識や教養を身につけ、人の生活を基盤とした生活のしくみ、環境、情報、モノをデザインする力を養い、クリエイションを通して社会で活躍できる人材を育成することを目的にする。

(人間社会学部の目的)

第2条の4 人間社会学部は、社会の動きやしくみを的確に把握する力、感性を生かして人の心を敏感に感じ取る力を育むとともに、社会人としてあるべき教養とマナーを身につけ、自立の実現をめざし、社会の発展と人類の平和に貢献できる人材の育成を目的とする。

2 前項の目的を達成するため、人間社会学部各学科の目的は、次に掲げるとおりとする。

(1) 社会マネジメント学科

社会マネジメント学科は、社会を通じて自らの存在を理解し、多様な社会生活の場で必要とされる企画、運営、実行の基礎となる能力を修得することにより、実際の社会で生き生きと活躍できる女性を養成する。

(2) 人間心理学科

人間心理学科は、多様な視点から現代人の心を探求することにより、他者の心を理解しつつ自分自身の感覚と判断に従って自立的に生きる態度を培い、社会において幅広く活躍できる女性を養成する。

(3) 地域クリエイション学科

地域クリエイション学科は、現在、地域が抱えている諸問題を再認識し、食や観光についての専門的知見やデータをもとに、新旧さまざまな地域固有の資源に多様な形で光を当て、地域振興に貢献することを第一に考える。すなわち、食や文化、景観などの地域資源を活かしながら、居住者と国内外からの訪問者が共に豊かに暮らし滞在することのできる持続可能な観光のあり方を提案し、実践するとともに、取組みをストーリー化して地域内外に発信できる人材を育成する。

(栄養科学部の目的)

第2条の5 栄養科学部は、食による健康維持、疾病の予防と治療が実践できる質の高い専門知識と技術を習得し、食の現場で活躍できる人材、かつ教職の場で栄養指導ができる人材、さらに食の安全衛生に関する監視・指導を行うことのできる人材を育成することを目的とする。

2 前項の目的達成のために、栄養科学部を健康栄養学科と管理栄養学科の2学科より編成し、それぞれの学科の特色に沿った授業科目を設定する。

(1) 健康栄養学科

健康栄養学科は、地域社会で暮らす人々を対象に、栄養・食と運動による健康維持・増進や、健康を支える食品開発・流通を学び、健康維持・増進の指導ができる人材、食品開発・流通に携わる人材、家政教育や保健体育教育に携わる人材の育成を目的とする。

(2) 管理栄養学科

管理栄養学科は、臨床の現場で、食による病気の予防と治療が実践でき、かつ教職の場で食教育の指導ができる人材の育成を目的とする。

第3条 本学は、神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号に置く。

第4条 本学は、図書館、研究室、実験実習室、体育館を設け附属として高等部、中学部、小学部、幼稚部を置く。

第 2 章 学年、学期、休業日

第5条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第6条 学年は、これを分けて春学期、秋学期とする。

春学期 4月1日より9月23日に至る。

秋学期 9月24日より3月31日に至る。

第7条 学年中休業日は次のとおりとする。

(1)日曜日

(2)国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3)本学創立記念日 10月18日

(4)春季休業 自 3月21日 至 3月31日

(5)夏季休業 自 8月1日 至 9月23日

(6)冬季休業 自 12月21日 至 1月9日

ただし、休業日でも実習を課し、または特別講義を聴講させることがある。

2 前項の休業日ならびに休業期間については、学長は必要と認めた場合臨時に変更し、または臨時の休業日を定めることができる。

第 3 章 授業科目および教育課程

第8条 学芸学部授業科目は全学共通科目、専門教育科目に分け、別に教職・教科に関する科目および特別支援教育に関する科目、司書・司書教諭・学校司書に関する科目、保育士に関する科目、学芸員に関する科目、情報処理士、上級情報処理士に関する科目、ビジネス実務士に関する科目、ウェブデザイン実務士に関する科目、一級・二級建築士試験指定科目、インテリアプランナー登録資格科目、商業施設士（補）に関する科目を置く。

2 授業科目は、必修科目または選択必修科目・選択科目として指定される。

第8条の2 人間社会学部授業科目は全学共通科目、専門教育科目に分け、別にプレゼンテーション実務士、社会調査士および社会福祉士国家試験受験に関する科目、公認心理師国家試験受験資格に関する科目、准学校心理士に関する科目、ピアヘルパーに関する科目、フードコーディネーター3級に関する科目、食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する科目、二等無人航空機操縦士に関する科目、温泉保養士に関する科目、情報処理士に関する科目を置く。

2 授業科目は、必修科目または選択必修科目・選択科目として指定される。

第8条の3 栄養科学部授業科目は全学共通科目、専門教育科目に分け、別に栄養士・管理栄養士に関する科目、食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する科目、教職・教科に関する科目および栄養教諭に関する科目、フードスペシャリスト・専門フードスペシャリストに関する科目、情報処理士に関する科目を置く。

2 授業科目は、必修科目または選択必修科目・選択科目として指定される。

第9条 授業科目を履修した学生には、修了認定の上授業科目ごとに単位が与えられる。

2 各授業科目の単位は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の基準により計算する。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、大学が別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、大学が別に定める授業科目については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習および実技については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、大学が別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第9条の2 前条第2項に規定する講義、演習、実験、実習又は実技による授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

- 2 前項に規定する授業の方法により修得できる単位数は、60単位を限度とする。

第10条 各学部学科の授業科目および単位数は別表のとおりとする。

- 2 教授会は、必要に応じて、前項の別表に定めた授業科目以外の授業科目およびその単位数を定めることができる。

第11条 学生は、履修しようとする授業科目を、毎学期の初めの所定の期間内に届け出なければならない。

- 2 各学部の授業科目の履修方法は次のとおりとする。

- (1) 学芸学部の卒業に要する単位は、次のとおりとする。（別表第1、2）

学科 授業科目区分		日本語日 本文学科	国際コミュニ ケーション学科	子ども教 育学科	メディア 情報学科	生活デザ イン学科
全学共通 科目	必修	6	6	6	6	6
	選択必修	11	11	11	11	11
	選択	7	7	7	7	7
小 計		24	24	24	24	24
専門教育 科目	必修	28	12	11	26	25
	選択必修	36	9	7	38	34
	選択	16	59	62	16	21
小 計		80	80	80	80	80
自由科目		20	20	20	20	20
合 計		124	124	124	124	124

自由科目は、全学共通科目および専門教育科目の卒業要件となる単位数を超える科目単位数並びに資格科目・単位互換科目等を認定する単位数である。

- (2) 人間社会学部の卒業に要する単位は、次のとおりとする。（別表第1、2）

学科		社会マネジメント学科	人間心理学科	地域クリエイション学科
授業科目区分				
全学共通科目	必修	6	6	6
	選択必修	11	11	11
	選択	7	7	7
小 計		24	24	24
専門教育科目	必修	13	28	55
	選択必修	56	14	12
	選択	7	38	9
小 計		76	80	76
自由科目		24	20	24
合 計		124	124	124

自由科目は、全学共通科目および専門教育科目の卒業要件となる単位数を超える科目単位数並びに資格科目・単位互換科目等を認定する単位数である。

(3) 栄養科学部の卒業に要する単位は、次のとおりとする。(別表第1、2)

学科		健康栄養学科	管理栄養学科
授業科目区分			
全学共通科目	必修	6	6
	選択必修	11	11
	選択	7	5
小 計		24	22
専門教育科目	必修	62	83
	選択必修	—	—
	選択	13	6
小 計		75	89
自由科目		25	13
合 計		124	124

自由科目は、全学共通科目および専門教育科目の卒業要件となる単位数を超える科目単位数並びに資格科目・単位互換科目等を認定する単位数である。

2年次までに配当されている専門教育科目の中で、健康栄養学科においては50単位中33単位を、管理栄養学科においては58単位中39単位を取得することを、3年次への進級要件とする。

(4) 学芸学部および栄養科学部において教育職員免許状を得ようとする者は、(1)、(3)

の規定によるほか、教育職員免許法および同法施行規則の定める科目（別表第3、4）を履修し、単位を修得しなければならない。

各学部学科において取得できる教育職員免許状の種類と教科は次のとおりである。

学芸学部

日本語日本文学科	中学校教諭1種免許状	国語
	高等学校教諭1種免許状	国語、書道
国際コミュニケーション学科	中学校教諭1種免許状	外国語（英語）
	高等学校教諭1種免許状	外国語（英語）
子ども教育学科	小学校教諭1種免許状	
	幼稚園教諭1種免許状	
	特別支援学校教諭1種免許状	知的障害者、 肢体不自由者、病弱者
メディア情報学科	高等学校教諭1種免許状	情報

栄養科学部

健康栄養学科	中学校教諭1種免許状	家庭、保健体育
	高等学校教諭1種免許状	家庭、保健体育
管理栄養学科	栄養教諭1種免許状	

- (5) 学芸学部日本語日本文学科、国際コミュニケーション学科およびメディア情報学科において図書館司書の資格を得ようとする者は、(1)の規定によるほか、図書館法および同法施行規則の定める所定の科目（別表第5）を履修し、単位を修得しなければならない。
- (6) 学芸学部日本語日本文学科、国際コミュニケーション学科、子ども教育学科およびメディア情報学科において司書教諭の資格を得ようとする者は、(1)の規定によるほか、(4)の規定による教職・教科に関する科目を履修するとともに、学校図書館司書教諭講習規程に基づく所定の科目（別表第5）を履修し、単位を修得しなければならない。
- (7) 学芸学部日本語日本文学科、国際コミュニケーション学科、子ども教育学科およびメディア情報学科において学校司書モデルカリキュラムに準拠した所定の科目の単位を得ようとする者は、(1)の規定によるほか、学校司書に関する所定の科目（別表第5）を履修し、単位を修得しなければならない。
- (8) 学芸学部子ども教育学科において保育士の資格を得ようとする者は、(1)の規定によるほか、児童福祉法施行規則第6条の2第1項第3号の規定に基づき、厚生労働大臣の定める修業教科目および単位数（別表第6）を修得しなければならない。
- (9) 学芸学部メディア情報学科において学芸員の資格を得ようとする者は、(1)の規定によるほか、博物館に関する科目（別表第7）を履修し、単位を修得しなければならない。
- (10) 学芸学部メディア情報学科において上級情報処理士の資格を得ようとする者は、(1)の規定によるほか、上級情報処理士に関する科目（別表第8）を履修し、単位を修得しなければならない。
- (11) 学芸学部メディア情報学科においてビジネス実務士の資格を得ようとする者は、(1)の規定によるほか、ビジネス実務士取得に関する科目（別表第9）を履修し、単位を修

得しなければならない。

- (12) 学芸学部メディア情報学科においてウェブデザイン実務士の資格を得ようとする者は、
（１）の規定によるほかウェブデザイン実務士取得に関する科目（別表第10）を履修し、
単位を修得しなければならない。
- (13) 学芸学部生活デザイン学科において一級建築士、二級建築士の受験資格を得るためには
（１）の規定によるほか一級・二級建築士試験指定科目（別表第11）を履修し、単位
を修得しなければならない。
- (14) 学芸学部生活デザイン学科においてインテリアプランナーの登録資格を得るためには、
（１）の規定によるほか、インテリアプランナー登録資格科目（別表第12）を履修し、
単位を修得しなければならない。
- (15) 学芸学部生活デザイン学科において商業施設士（補）の資格を得るためには、（１）
の規定によるほか、商業施設士（補）に関する科目（別表第13）を履修し、単位を修得
しなければならない。
- (16) 人間社会学部社会マネジメント学科においてプレゼンテーション実務士の資格を得よ
うとする者は、（２）の規定によるほか、プレゼンテーション実務士に関する科目（別
表第14）を履修し、単位を修得しなければならない。
- (17) 人間社会学部社会マネジメント学科において社会調査士の資格を得ようとする者は、
（２）の規定によるほか、社会調査士に関する科目（別表第15）を履修し、単位を修得
しなければならない。
- (18) 人間社会学部社会マネジメント学科および人間心理学科において社会福祉士国家試験
の受験資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、社会福祉士国家試験の受験
資格に関する科目（別表第16）を履修し、単位を修得しなければならない。
- (19) 人間社会学部人間心理学科において准学校心理士の資格を得ようとする者は、（２）
の規定によるほか、准学校心理士に関する科目（別表第17）を履修し、単位を修得しな
ければならない。
- (20) 人間社会学部人間心理学科においてピアヘルパーの受験資格を得ようとする者は、（２）
の規定によるほか、ピアヘルパーに関する科目（別表第18）を履修し、単位を修得しな
ければならない。
- (21) 人間社会学部人間心理学科において公認心理師国家試験の受験資格を得ようとする者
は、（２）の規定によるほか、公認心理師国家試験の受験資格に関する科目（別表第19）
を履修し、単位を修得しなければならない。
- (22) 人間社会学部地域クリエーション学科においてフードコーディネーター３級の資格を
得ようとする者は、（２）の規定によるほか、フードコーディネーター３級に関する科
目（別表第20）を履修し、単位を修得しなければならない。
- (23) 人間社会学部地域クリエーション学科において食品衛生管理者および食品衛生監視員
の資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、食品衛生管理者および食品衛生
監視員に関する科目（別表第23）を履修し、単位を修得しなければならない。
- (24) 人間社会学部地域クリエーション学科において二等無人航空機操縦士の受験資格を得
ようとする者は、（２）の規定によるほか、「ドローン操縦技術」を履修し、単位を修
得しなければならない。
- (25) 人間社会学部地域クリエーション学科において温泉保養士の資格を得ようとする者は、

(2)の規定によるほか、「ホスピタリティ産業論」を履修し、単位を修得しなければならない。

(26) 栄養科学部健康栄養学科において栄養士の資格を得るためには、(3)の規定によるほか、栄養士法、同法施行令および同法施行規則に定める所定の科目(別表第21)を履修し、単位を修得しなければならない。

(27) 栄養科学部健康栄養学科においてフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの受験資格を得ようとする者は、(3)の規定によるほか、フードスペシャリスト・専門フードスペシャリストに関する科目(別表第22)を履修し、単位を修得しなければならない。

(28) 栄養科学部健康栄養学科および管理栄養学科において食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格を得ようとする者は、(3)の規定によるほか、食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する科目(別表第23)を履修し、単位を修得しなければならない。

(29) 栄養科学部管理栄養学科において栄養士の資格を得るためには、(3)の規定によるほか、栄養士法、同法施行令および同法施行規則に定める所定の科目(別表第24)を履修し、単位を修得しなければならない。

(30) 栄養科学部管理栄養学科において管理栄養士国家試験の受験資格を得るためには、(3)の規定によるほか、栄養士法、同法施行令、同法施行規則および管理栄養士学校指定規則に定める所定の科目(別表第25)を履修し、単位を修得しなければならない。

(31) 学芸学部、人間社会学部、栄養科学部において情報処理士の資格を得ようとする者は、(1)(2)(3)の規定によるほか、情報処理士に関する科目(別表第26)を履修し、単位を修得しなければならない。

第11条の2 本学は、学生が各学期にわたって適切に授業科目を履修するために、卒業要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めることができる。

2 本学は、その定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を越えて履修科目の登録を認めることができる。

3 本条に関する規程は別に定める。

第11条の3 本学は、他学科の専門教育科目を履修させることができる。

2 他学科科目履修に関し必要な事項は、別に定める。

第12条 本学が教育上有益と認めるときは、他の大学または短期大学との協議により、学生に当該大学または当該短期大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、60単位を限度として本学において修得した単位として認定できる。

3 前2項の規定は、学生が外国の大学または短期大学に留学する場合に準用する。

第12条の2 本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

2 前項により認定できる単位数は、前条第2項および第3項の単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第13条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む)を、

本学に入学者後の本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

- 2 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学者前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。
- 3 前1項および2項により認定できる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き本学において修得した単位以外のものについては、第12条第2項および第3項ならびに前条第2項の単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第4章 入学、留学、転学部転学科、休学、復学、退学、転学、再入学および編入学

第14条 入学の時期は4月とする。

第15条 収容定員は次のとおりとする。

	入学定員	編入学定員		収容定員
		(第2年次)	(第3年次)	
学芸学部				
日本語日本文学科	85名		5名	350名
国際コミュニケーション学科	60名		5名	250名
子ども教育学科	100名	2名	5名	416名
メディア情報学科	95名		5名	390名
生活デザイン学科	80名		5名	330名
小計	420名	2名	25名	1,736名
人間社会学部				
社会マネジメント学科	90名		10名	380名
人間心理学科	110名		10名	460名
地域クリエーション学科	60名		5名	250名
小計	260名		25名	1,090名
栄養科学部				
健康栄養学科	80名		8名	336名
管理栄養学科	100名		10名	420名
小計	180名		18名	756名
合計	860名	2名	68名	3,582名

- 2 学芸学部子ども教育学科および栄養科学部健康栄養学科、管理栄養学科の学級数は、1学年各2学級、4学年合計各8学級とする。

第16条 本学に入学者できる者は、女子にして次の各号の1に該当する者でなければならない。

- (1) 高等学校を卒業した者または中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む)
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程

による大学入学資格検定に合格した者を含む)

(6) 相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学において認めた者

(7) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(8) 個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者

第17条 前条の入学志願者の数が定員を超えるときは、選抜試験の上、学長は入学を許可することができる。

第18条 入学志願者は、所定の様式の入学願書に別に定めるところの書類その他を添えて提出しなければならない。

第19条 入学を許可された者は、速やかに本学所定の在学保証書を保証人および副保証人連署の上提出しなければならない。

第20条 保証人は、父母またはこれに準ずる者で本人在学中における一切の事項について責任を負うものとする。副保証人は、独立の生計を営む者でなければならない。

第21条 保証人または副保証人が死亡し、または前条の要件を失った場合には、さらに保証人または副保証人を定め在学保証書を提出しなければならない。保証人または副保証人を変更しようとするときも同様とする。保証人または副保証人が転居したときは、速やかに届け出なければならない。

第22条 保証人または副保証人が長期にわたり不在のときは、あらかじめ相当の代理保証人を定め届け出なければならない。

第23条 本学に在学する者は、自宅または学寮以外から通学する場合は、居住先を学長に届け出なければならない。

第24条 本学の学生が、本学との間であらかじめ留学に関する協議が成立しているか、または教授会の議を経て学長が認定した外国の大学または短期大学の授業科目を履修するため、当該大学等への留学を希望するときは、審査の上、学長はこれを許可することができる。

2 留学期間は、1年以内とする。ただし、特別の事情があると認められる場合は、通算して2年を超えない範囲で留学期間の延長ができる。

3 留学期間は、修業年限および在学年限に算入する。

第24条の2 本学の学生が特別の事情により、他の学部の学科、同一学部内の他の学科を志望するときは、選考の上、学長はこれを許可することができる。

2 前項に関する規程は、別に定める。

第25条 病気その他やむを得ない事情により2カ月以上休学する者は、その理由を記し、保証人連署の上願出なければならない。

2 休学期間は、継続して1年以内とする。ただし、特別の事情があると認められる場合は、通算して4年を超えない範囲で休学期間の延長ができる。

3 休学期間は、修業年限および在学期間に算入しない。

4 休学の理由が消滅して出校する場合は、保証人連署の上復学を願出なければならない。

5 復学は、学期の始めとする。

第26条 退学および転学を望む者は、その理由を記し、保証人連署の上願出なければならない。

第27条 本学を退学した者が再入学を希望するときは、選考の上、学長はこれを許可することができる。

できる。

第28条 次に掲げる者に対しては、欠員または編入学定員のある場合に限り、選考の上、学長は転入学または編入学を許可することができる。

- (1) 他の大学から本学に転入学を志望する者
- (2) 大学、短期大学または編入学に関する法令に定める教育課程の卒業者で本学に編入学を希望する者

第29条 次の各号の1に該当する者は、教授会の議を経て学長が退学を命ずることができる。

- (1) 第2条第5項に定める在学年限を超えた者
- (2) 第25条第2項に定める休学期間を超えた者
- (3) 授業料等納付金を滞納し、督促を受けてもなお納入しない者
- (4) 長期間行方不明の者

第30条 学生の入学、留学、転学部転学科、休学、復学、退学、転学、再入学および編入学は、教授会の議を経て学長が許可することができる。ただし、教授会での審議に当たっては、第52条の2第3項、第4項および第5項によるものとする。

第5章 委託生、外国学生、科目等履修生、単位互換履修生、研究生、聴講生

第31条 公共団体その他の機関から本学の特定科目につき研究を委託された者があるときは、教授会の議を経て学長は委託生として許可することができる。外国学生の場合は大学評議会の議を経て学長はこれを許可することができる。

2 委託生、外国学生に関しては、本学則および規則を適用する。

第32条 本学に開設されている授業科目のうち、1または複数の科目の履修を希望する者に対しては、正規課程の学生の教育に支障が生じない場合に限り、教授会において選考の上、学長は科目等履修生としてこれを許可することができる。

2 科目等履修生として願い出ることのできる者は、第16条に規定する入学資格を有する者とする。ただし、教授会が当該授業科目を履修することのできる十分な学力を有すると認める者については、この限りではない。

3 履修を希望する者は、所定の期日までに願書等必要書類に検定料10,000円を添えて願い出なければならない。

4 履修を許可された者は、所定の期日までに登録料10,000円、履修料1単位につき15,000円を納入しなければならない。実験実習費は別途徴収する。一度納入した学費は一切返還しない。

5 科目等履修生の在学期間は、6カ月とする。ただし、引き続き履修しようとする者は、新たに願い出て許可を受けなければならない。

6 科目等履修生は、その履修する科目について正規の学生に準じ単位を修得することができる。

7 科目等履修生に関する規程は別に定める。

第32条の2 本学と単位互換協定を締結している大学および短期大学に在籍し、本学に単位互換科目として開設されている授業科目の履修を希望する者に対しては、正規課程の学生の教育に支障が生じない場合に限り、教授会の議を経て、学長は単位互換履修生としてこれを許可することができる。

2 単位互換履修生に関する規程は、別に定める。

第32条の3 本学において特定の事項について研究を行うことを希望する者があるときは、教授

会の議を経て、学長は研究生としてこれを許可することができる。

2 研究生に関する規程は、別に定める。

第32条の4 本学の学生以外の者で、本学に開設されている授業科目のうち、1または複数の科目の聴講を希望する者があるときは、正規課程の学生の教育に支障が生じない場合に限り、教授会において選考の上、学長は聴講生としてこれを許可することができる。

2 聴講生に関する規程は別に定める。

第 6 章 試験および卒業

第33条 授業科目の終了は、試験によって認定する。

第34条 試験は、毎学期の終わりの所定の期間に行う。ただし、授業科目により特別の事情がある場合は他の時期に行うことができる。

2 試験等に関する事項は、別に定める。

第35条 試験は、筆記試験、論文試験または口述試験および実習、実験とする。

第36条 試験の成績は、S、A、B、C、D又はP、Fの7種類の評語をもって表し、S、A、B、C、Pを合格とする。

第37条 病気その他やむを得ない事情により試験に欠席した者に対しては、追試験を行うことができる。

第38条 休学した者は、その学期の試験を受けることができない。

第39条 削除

第40条 本学に4年以上、途中編入の場合はそれぞれ指定された期間在学し、所定の科目および単位数を修得した者に対して学長は、教授会の議を経て卒業証書を授与する。

2 卒業の時期は、学年の終了日とする。ただし、春学期終了日までに卒業要件を充たした場合は、春学期の終了日とすることができる。

3 本学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

4 前項の学位の表記は、次のとおりとする。

学芸学部

日本語日本文学科	学士（文 学）
国際コミュニケーション学科	学士（国際コミュニケーション学）
子ども教育学科	学士（子ども教育）
メディア情報学科	学士（メディア情報学）
生活デザイン学科	学士（生活デザイン学）

人間社会学部

社会マネジメント学科	学士（社会マネジメント学）
人間心理学科	学士（人間心理学）
地域クリエーション学科	学士（地域クリエーション学）

栄養科学部

健康栄養学科	学士（栄養学）
管理栄養学科	学士（栄養学）

第 7 章 検定料、入学金および授業料その他

第41条 本学に入学を志願する者は、入学検定料35,000円を納めなければならない。

第42条 入学金および授業料等の学費は別表第27のとおりとする。

第43条 本学に入学を許可された者は、第42条の別表第27に定める入学金および授業料等の学費を納めなければならない。

第44条 授業料、施設設備費、実験実習費は半額ずつ春学期分は4月30日まで、秋学期分は10月31日までに納めなければならない。

第45条 一度納入した学費その他の納入金は返還しない。ただし、入学時の学費については、本人及び保証人の連署で所定の期間内に入学辞退の申し出のあった者に限り入学金以外の納入金を返還する。

第46条 休学を許可された者は、学期ごとに在籍料100,000円を納めなければならない。

第47条 授業料等の学費を納めない者は、納めた後でなければ試験を受けることができない。

第48条 実験、実習等に必要な費用は別に徴収する。

第 8 章 賞 罰

第49条 本学学生中品行方正、学業優秀な者は、授業料を免除し、あるいは奨学金を貸与または給与することがある。

第50条 本学に在学する者で本学の学則および規則に反し、または学生の本分にもとり本学の名誉を毀損する行為ある者および成業の見込みのない者は、教授会の議を経て学長がこれを懲戒する。

2 懲戒は、譴責、謹慎、停学および退学とする。ただし、退学は、次の各号の1に該当する者についてのみ行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなく出席常でない者
- (4) 学校の秩序を乱しその本分に反した者

3 学生の懲戒の手続については別に定める。

第 9 章 職員組織その他

第51条 本学に学長、副学長、学部長、学科長、附属図書館長を置く。

2 学長、副学長、附属図書館長の職務は別に定める。

3 学部長は、学部に関する校務をつかさどる。

4 学科長は、学科に関する校務をつかさどる。

第51条の2 本学に教授、准教授、講師、助教、助手、図書館司書および事務職員を置く。

第51条の3 本学に特任教員を置く。

2 特任教員の職務については別に定める。

第52条 本学に大学評議会（以下「評議会」という。）を置く。

2 評議会は、学長が招集し、その議長となる。

3 評議会は、大学、短期大学部および研究科に関し、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 学事に関する重要事項
- (2) 学生の身上に関する事項
- (3) 学則その他重要な規則の制定又は改廃に関する事項
- (4) 大学予算の原案に関する事項
- (5) その他、学長の諮問事項

4 評議会に関する規程は、別に定める。

第52条の2 各学部教授会を置く。

2 教授会は、教授、准教授および講師をもって構成する。

3 教授会は、次に掲げる事項について審議し、学長がそれらの事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
- (2) 学位の授与
- (3) 教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

4 教授会は、次に掲げる事項について審議し、学長に対して意見を述べることができる。

- (1) 教授、准教授、講師、助教および助手の任用、昇任の際の教育研究業績に関する事項
- (2) 学部学科の教育課程に関する事項
- (3) 授業科目の種類および編成に関する事項
- (4) 各種委員の選出に関する事項
- (5) 学術研究に関する事項
- (6) 学生の学籍に関する事項
- ただし、前項で規定する事項を除く
- (7) 学生の賞罰に関する事項
- (8) その他教育研究に関する事項および学長からの諮問事項

5 前項で規定される事項について、教授会が長期に亘り開催されないことで、学生に不利益が生ずる場合は、必ずしも教授会の議を経ることなく、学長はこれを決定することができる。

6 学部教授会に関する規程は、別に定める。

第 10 章 図 書 館

第53条 本学に図書館を置く。

2 図書館の規程は、別に定める。

第 11 章 附属施設

第54条 本学に日本学国際研究所を置く。

2 日本学国際研究所の規程は、別に定める。

第55条 本学に教職センター及び子育て支援センターを置く。

2 教職センター及び子育て支援センターの規程は、別に定める。

附 則

1. 昭和31年4月1日一部改正

本学則は昭和31年4月1日からこれを適用する。但し昭和30年度以前の入学者については、従前の学則による。

2. 昭和35年4月1日一部改正

本学則は昭和35年4月1日からこれを適用する。但し昭和34年度以前の入学者については、従前の学則によるが教育職員免許状を取得する者は本学則による。

3. 昭和36年4月1日一部改正

本学則は昭和36年4月1日からこれを適用する。但し昭和35年度以前の入学者については、従前の学則によるが教育職員免許状を取得する者は本学則による。

4. 昭和37年4月1日一部改正

本学則は昭和37年4月1日からこれを適用する。但し昭和36年度以前の入学者については、従来の学則によるが教育職員免許状を取得する者は本学則による。

5. 昭和39年4月1日一部改正

本学則は昭和39年4月1日からこれを適用する。但し昭和38年度以前の入学者については、従来の学則による。

6. 昭和40年4月1日一部改正

本学則は昭和40年4月1日からこれを適用する。但し昭和39年度以前の入学者については、従来の学則による。

7. 昭和41年4月1日一部改正

本学則は昭和41年4月1日からこれを適用する。

8. 昭和42年4月1日一部改正

本学則は昭和42年4月1日からこれを適用する。ただし第2条・第11条・第13条ならびに第36条については昭和41年4月1日からこれを適用する。

9. 昭和43年4月1日一部改正

本学則は昭和43年4月1日からこれを適用する。ただし第2条・第11条・第13条ならびに第36条については昭和41年4月1日からこれを適用する。

10. 昭和44年4月1日一部改正

本学則は昭和44年4月1日からこれを適用する。ただし第2条・第11条・第13条ならびに第36条については昭和41年4月1日からこれを適用する。

11. 昭和46年4月1日一部改正

本学則は昭和47年4月1日からこれを適用する。ただし「別表第3」英米文学科専門教育科目中英語学関係科目の単位数については、昭和42年4月1日よりこれを適用する。

12. 昭和47年4月1日一部改正

本学則は昭和47年4月1日からこれを適用する。

13. 昭和48年4月1日一部改正

本学則は昭和48年4月1日からこれを適用する。

14. 昭和49年4月1日一部改正

本学則は昭和49年4月1日からこれを適用する。

15. 昭和50年4月1日一部改正

本学則は昭和49年4月1日からこれを適用する。

16. 昭和51年4月1日一部改正

本学則は昭和51年4月1日からこれを適用する。

17. 昭和52年4月1日一部改正

本学則は昭和52年4月1日からこれを適用する。

18. 昭和53年4月1日一部改正

本学則は昭和53年4月1日からこれを適用する。ただし授業科目およびその単位数、ならびに授業料は、昭和52年度以前の入学生についてはなお従前の学則を適用する。

19. 昭和54年4月1日一部改正

本学則は昭和54年4月1日からこれを適用する。ただし授業科目およびその単位数、ならびに授業料は、昭和53年度以前の入学生についてはなお従前の学則を適用する。

20. 昭和56年4月1日一部改正

本学則は昭和56年4月1日からこれを適用する。ただし授業科目およびその単位数、ならびに授業料は、昭和55年度以前の入学生についてはなお従前の学則を適用する。

21. 昭和57年4月1日一部改正

本学則は昭和57年4月1日からこれを適用する。ただし、授業科目およびその単位数ならびに授業料は、昭和56年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

22. 昭和60年4月1日一部改正

本学則は昭和60年4月1日からこれを適用する。ただし、授業科目およびその単位数ならびに授業料は、昭和59年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

23. 昭和62年4月1日一部改正

本学則は昭和62年4月1日からこれを適用する。ただし、授業科目およびその単位数ならびに授業料は、昭和61年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

24. 昭和63年4月1日一部改正

本学則は昭和63年4月1日からこれを適用する。ただし、授業科目および単位数は、昭和62年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

25. 平成元年4月1日一部改正

本学則は平成元年4月1日からこれを適用する。ただし、昭和63年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

26. 平成2年4月1日一部改正

本学則は平成2年4月1日からこれを適用する。ただし、平成元年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

27. 平成3年4月1日一部改正

本学則は平成3年4月1日からこれを適用する。ただし、平成2年度以前の入学生については、第12条、第24条および第30条の規定を除き、なお従前の学則を適用する。

28. 平成4年4月1日一部改正

本学則は平成4年4月1日からこれを適用する。ただし、平成3年度以前の入学生については、従前の入学年度の学則を適用する。

29. 平成5年4月1日一部改正

本学則は平成5年4月1日から施行する。ただし、平成4年度以前の入学生の授業科目、単位数、授業料ならびに第13条に規定する既修得単位の認定については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

30. 平成6年4月1日一部改正

本学則は平成6年4月1日から施行する。ただし、平成5年度以前の入学生の授業科目、単位数、入学金および授業料等の学費については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

31. 平成7年4月1日一部改正

本学則は平成7年4月1日から施行する。ただし、平成6年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

32. 平成8年4月1日一部改正

本学則は平成8年4月1日から施行する。ただし、授業科目およびその単位数ならびに卒業に要する単位数は、平成7年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

33. 平成9年4月1日一部改正

本学則は平成9年4月1日から施行する。ただし、授業科目およびその単位数ならびに卒業に要する単位数は、平成8年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

34. 平成10年4月1日一部改正

本学則は平成10年4月1日から施行する。ただし、別表第6（図書館学に関する科目）以外の授業科目およびその単位数ならびに卒業に要する単位数は、平成9年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

35. 平成11年4月1日一部改正

本学則は平成11年4月1日から施行する。ただし、別表第6（図書館学に関する科目）以外の授業科目およびその単位数ならびに卒業に要する単位数は、平成10年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

36. 平成12年4月1日一部改正

本学則は平成12年4月1日から施行する。ただし、平成11年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

英米文学科の学科名称を英語英米文学科に変更する。

37. 平成12年4月1日一部改正

本学則は平成12年4月1日から施行する。ただし、平成11年度以前の入学生については、第12条、第12条の2および第13条の規定を除き、なお従前の入学年度の学則を適用する。

38. 平成13年4月1日一部改正

本学則は平成13年4月1日から施行する。ただし、平成12年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。また、第15条の規定にかかわらず、食物学科食物学専攻および食物学科管理栄養士専攻の収容定員は次のとおりとする。

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
食物学科食物学専攻	205名	210名	210名	210名
食物学科管理栄養士専攻	260名	320名	370名	420名

39. 平成13年4月1日一部改正

本学則は平成13年4月1日から施行する。ただし、平成12年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

40. 平成14年4月1日一部改正

本学則は平成14年4月1日から施行する。ただし、平成13年度以前の入学生については、授業科目およびその単位数ならびに卒業に要する単位数は、なお従前の入学年度の学則を適用する。

41. 平成15年4月1日一部改正

本学則は平成15年4月1日から施行する。ただし、平成14年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

42. 平成15年4月1日一部改正

本学則は平成15年4月1日から施行する。ただし、平成14年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

国文学科の学科名称を日本語日本文学科に変更する。

43. 平成15年4月1日一部改正

本学則は平成15年4月1日から施行する。ただし、平成14年度以前の入学生については、第6条、第44条、第46条、第51条および第52条の規定を除き、なお従前の入学年度の学則を適用する。また、第15条の規定にかかわらず人間社会学科の収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
人間社会学科	100名	200名	300名	400名
計	1,980名	2,130名	2,230名	2,330名

44. 平成16年4月1日一部改正

本学則は平成16年4月1日から施行する。ただし、第32条の3の規定を除き、なお従前の入学年度の学則を適用する。

45. 平成17年4月1日一部改正

本学則は平成17年4月1日から施行する。ただし、平成16年度以前の入学生については、授業科目およびその単位数ならびに卒業に要する単位数は、なお従前の入学年度の学則を適用する。

また、第15条の規定に拘わらず、日本語日本文学科、英語英米文学科、人間社会学科の収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
日本語日本文学科	660名	640名	620名
英語英米文学科	640名	630名	620名
人間社会学科	200名	310名	420名
計	2,130名	2,210名	2,290名

46. 平成18年4月1日一部改正

本学則は平成18年4月1日から施行する。ただし、平成17年度以前の入学生については、授業科目およびその単位数ならびに卒業に要する単位数は、なお従前の入学年度の学則を適用する。

47. 平成19年4月1日一部改正

本学則は平成19年4月1日から施行する。ただし、平成18年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

48. 平成20年4月1日一部改正

本学則は平成20年4月1日から施行する。ただし、平成19年度以前の入学生については、

第9条、第11条の3、第24条の2、第25条、第27条、第30条、第32条の規定を除き、なお従前の入学年度の学則を適用する。

英語英米文学科の学科名称を英語文化コミュニケーション学科に変更する。

平成20年度より学芸学部人間社会学科、食物学科の学生募集を停止する。

また、第15条の規定にかかわらず収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
学芸学部				
日本語日本文学科	600名	580名	560名	540名
英語文化コミュニケーション学科	610名	600名	595名	590名
人間社会学科	320名	220名	110名	－
食物学科食物学専攻	160名	110名	55名	－
食物学科管理栄養士専攻	320名	220名	110名	－
子ども教育学科	100名	200名	300名	400名
メディア情報学科	95名	190名	295名	400名
人間社会学部				
社会マネジメント学科	140名	280名	440名	600名
人間心理学科	110名	220名	350名	480名
栄養科学部				
健康栄養学科	80名	160名	248名	336名
管理栄養学科	100名	200名	310名	420名
合 計	2,635名	2,980名	3,373名	3,766名

49. 平成21年3月12日一部改正

平成21年4月1日から施行する。

50. 平成22年3月18日一部改正

平成22年4月1日から施行する。ただし、平成21年度以前の入学生については、第3条および第40条第2項の規定を除き、なお従前の入学年度の学則を適用する。

51. 平成22年10月21日一部改正

平成23年4月1日から施行する。ただし、平成22年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

52. 平成24年2月9日一部改正

平成24年4月1日から施行する。ただし、同学則第11条第2項第6号の規定を除き、平成23年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

53. 平成24年9月27日一部改正

平成25年4月1日から施行する。ただし、同学則第11条第2項第6号の規定を除き、平成24年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

54. 平成25年2月28日一部改正

平成25年4月1日から施行する。ただし、平成24年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。また、第15条の規定にかかわらず収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
学芸学部				

日本語日本文学科	535名	530名	530名	530名
英語文化コミュニケーション学科	560名	530名	510名	490名
子ども教育学科	400名	400名	400名	400名
メディア情報学科	380名	360名	345名	330名
生活デザイン学科	45名	90名	140名	190名
人間社会学部				
社会マネジメント学科	570名	540名	520名	500名
人間心理学科	480名	480名	480名	480名
栄養科学部				
健康栄養学科	336名	336名	336名	336名
管理栄養学科	420名	420名	420名	420名
合 計	3,726名	3,686名	3,681名	3,676名

55. 平成25年12月19日一部改正

平成26年4月1日から施行する。ただし、同学則第11条第2項第6号の規定を除き、平成25年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

56. 平成26年2月27日一部改正

平成26年4月1日から施行する。ただし、同学則第11条第2項第6号の規定を除き、平成25年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

57. 平成26年3月20日一部改正

平成26年4月1日から施行する。ただし、同学則第11条第2項第6号の規定を除き、平成25年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

58. 平成27年2月26日一部改正

平成27年4月1日から施行する。ただし、同学則第11条第2項第13号の規定を除き、平成26年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。また、第15条の規定にかかわらず、子ども教育学科、人間心理学科の収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学芸学部			
子ども教育学科	407名	414名	416名
小 計	1,932名	1,954名	1,956名
人間社会学部			
人間心理学科	472名	464名	464名
小 計	992名	964名	964名
合 計	3,680名	3,674名	3,676名

59. 平成28年2月25日一部改正

平成28年4月1日から施行する。ただし、同学則第11条第2項第13号の規定を除き、平成27年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

60. 平成29年12月21日一部改正、平成30年4月1日から施行する。ただし、第46条の規定を除き、平成29年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

61. 平成30年2月22日一部改正

平成30年4月1日から施行する。ただし、第46条の規定を除き、平成29年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

62. 平成30年9月27日一部改正

平成31年4月1日から施行する。ただし、第46条の規定を除き、平成30年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

63. 平成31年2月28日一部改正

平成31年4月1日から施行する。ただし、第11条第2項第19号および第46条の規定を除き、平成30年度の入学生については、なお従前の学則を適用する。また、第46条の規定を除き、平成29年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

64. 令和元年12月19日一部改正

令和2年4月1日から施行する。ただし、第11条第2項第19号および第46条の規定を除き、平成30年度の入学生については、なお従前の学則を適用する。また、第46条の規定を除き、平成29年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

65. 令和2年2月27日一部改正

令和2年4月1日から施行する。ただし、令和元年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。また、第46条については、本改正後の規定を適用、別表第11（一級・二級建築士試験指定科目）および別表第16（社会福祉士国家試験の受験資格に関する科目）については、平成28年度以降の入学生より本改正後の規定を適用、さらに別表第18（公認心理師国家試験の受験資格に関する科目）については、平成30年度以降の入学生より本改正後の規定を適用する。

66. 令和2年10月29日一部改正

令和3年4月1日から施行する。ただし、令和2年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。また、第46条については、本改正後の規定を適用、別表第18（公認心理師国家試験の受験資格に関する科目）については、平成30年度以降の入学生より本改正後の規定を適用する。

67. 令和3年1月28日一部改正

令和3年4月1日から施行する。ただし、令和2年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。また、第46条については、本改正後の規定を適用、別表第18（公認心理師国家試験の受験資格に関する科目）については、平成30年度以降の入学生より本改正後の規定を適用する。

68. 令和3年2月25日一部改正

令和3年4月1日から施行する。ただし、令和2年度以前の入学生については、別表18（公認心理師国家試験の受験資格に関する科目）を除き、なお従前の入学年度の学則を適用する。

69. 令和3年3月17日一部改正

令和3年4月1日から施行する。ただし、令和2年度以前の入学生については、別表18（公認心理師国家試験の受験資格に関する科目）を除き、なお従前の入学年度の学則を適用する。

70. 令和3年7月29日一部改正、令和4年4月1日から施行する。ただし、第9条の2および別表18（公認心理師国家試験の受験資格に関する科目）を除き、令和3年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

71. 令和4年1月27日一部改正、令和4年4月1日から施行する。

72. 令和4年2月24日一部改正、令和4年4月1日から施行する。ただし、第9条の2および別表18（公認心理師国家試験の受験資格に関する科目）を除き、令和3年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。また、別表第12（インテリアプランナー登録資格に関する科目）については、令和3年度の入学生より本改正後の規定を適用する。

73. 令和5年2月22日一部改正、令和5年4月1日から施行する。令和4年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。ただし、別表第3のうち、教育の基礎的理解に関する科目等（小）および教育の基礎的理解に関する科目等（中高）については、令和4

年度の入学生より本改正後の規定を適用する。

74. 令和5年3月23日一部改正

本学則は令和6年4月1日から施行する。ただし、令和5年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。また、第15条の規定にかかわらず収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
学芸学部				
日本語日本文学科	510名	490名	470名	450名
英語文化コミュニケーション学科	480名	470名	460名	450名
子ども教育学科	416名	416名	416名	416名
メディア情報学科	345名	360名	375名	390名
生活デザイン学科	190名	190名	190名	190名
人間社会学部				
社会マネジメント学科	490名	480名	470名	460名
人間心理学科	472名	480名	490名	500名
栄養科学部				
健康栄養学科	336名	336名	336名	336名
管理栄養学科	420名	420名	420名	420名
合 計	3,659名	3,642名	3,627名	3,612名

75. 令和6年2月22日一部改正

令和6年4月1日から施行する。令和5年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

76. 令和6年3月21日一部改正

令和6年4月1日から施行する。令和5年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

77. 令和6年5月23日一部改正

令和6年4月1日から施行する。令和5年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

78. 令和7年2月27日一部改正

令和7年4月1日から施行する。令和6年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

79. 令和7年2月27日一部改正

令和8年4月1日から施行する。令和7年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

令和8年度より学芸学部英語文化コミュニケーション学科の学生募集を停止する。

また、第15条の規定にかかわらず収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
学芸学部				
日本語日本文学科	445名	400名	375名	350名
英語文化コミュニケーション学科	350名	230名	115名	－
国際コミュニケーション学科	60名	120名	185名	250名
子ども教育学科	416名	416名	416名	416名
メディア情報学科	375名	390名	390名	390名
生活デザイン学科	225名	260名	295名	330名
人間社会学部				
社会マネジメント学科	450名	420名	400名	380名

人間心理学科	480 名	480 名	470 名	460 名
地域クリエーション学科	60 名	120 名	185 名	250 名
栄養科学部				
健康栄養学科	336 名	336 名	336 名	336 名
管理栄養学科	420 名	420 名	420 名	420 名
合 計	3,617 名	3,592 名	3,587 名	3,582 名

別表第1 全学共通科目

学部学科	授 業 科 目	単位	備考
学芸学部	全学共通科目		
日本語日文学科	基礎科目		
国際コミュニケーション学科	さがみ総合講座	2	必修
子ども教育学科	基礎教育講座	2	必修
メディア情報学科	コンピュータリテラシー	2	必修
生活デザイン学科	教養科目		
人間社会学部	法学	2	4単位必修
社会マネジメント学科	日本国憲法	2	
人間心理学科	倫理学	2	
地域クリエーション学科	経済学	2	
	社会学	2	
	心理学	2	
	言語学	2	
栄養科学部	文学	2	
健康栄養学科	諸外国の社会と文化	2	
管理栄養学科	メディアと文化	2	
	アート	2	
	情報処理概論	2	
	発想・実践科目		
	地域から学ぶ知の実践	2	2単位必修
	社会貢献・地域連携	2	
	地域協働活動	1	
	さがみ発想講座	2	
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ	1	
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ	1	
	ジェンダー論	2	
	くらしと文化	2	
	日本の社会と文化	2	
	データサイエンス	2	
	AIと社会	2	
	情報リテラシー	1	1単位必修
	書道	2	
	キャリア支援科目		
	キャリア・プランニング	2	
	ビジネス実務総論	2	
	SPI対策講座	2	
	就職支援講座	2	4単位必修
	健康・スポーツ科目		
	ウエルネス	2	
	身体の科学	2	
	球技スポーツ	1	
	ラケットスポーツ	1	
	健康スポーツ	1	4単位必修
	シーズンスポーツ	1	
	語学科目		
	言語と異文化	2	
	英語Ⅰ	1	
	英語Ⅱ	1	
	英語Ⅲ	1	
	英語Ⅳ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅰ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅱ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅲ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅳ	1	
	中国語Ⅰ	1	4単位必修
	中国語Ⅱ	1	
	中国語Ⅲ	1	
	中国語Ⅳ	1	
	フランス語Ⅰ	1	
	フランス語Ⅱ	1	
	フランス語Ⅲ	1	
	ドイツ語Ⅰ	1	
	ドイツ語Ⅱ	1	
	ドイツ語Ⅲ	1	
	イタリア語Ⅰ	1	
	イタリア語Ⅱ	1	4単位必修
	スペイン語Ⅰ	1	
	スペイン語Ⅱ	1	
	海外研修Ⅰ	2	
	海外研修Ⅱ	2	
	海外研修Ⅲ	2	
	日本語Ⅰ	1	4単位必修
	日本語Ⅱ	1	
	計	100	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
学芸学部	専門教育科目		
日本語日本文学科	コア科目		
	入門ゼミナール	2	必修
	基礎ゼミナールⅠ	2	必修
	基礎ゼミナールⅡ	2	必修
	専門ゼミナールⅠ	2	必修
	専門ゼミナールⅡ	2	必修
	卒業研究・卒業制作ゼミナールⅠ	3	必修
	卒業研究・卒業制作ゼミナールⅡ	3	必修
	古典文学入門	2	必修
	古典文学講読Ⅰ	2	必修
	近現代文学入門	2	必修
	近現代文学講読Ⅰ	2	必修
	日本語学概論Ⅰ（含音声言語学）	2	必修
	日本語学概論Ⅱ	2	必修
	文章表現講座	2	8単位必修
	日本語教育入門	2	
	情報と日本語	2	
	社会人基礎力講座	2	
	実用書道講座	2	
	基礎科目		
	近現代文学講読Ⅱ	2	12単位必修
	近現代文学講読Ⅲ	2	
	現代文化論入門	2	
	現代文化論Ⅰ	2	
	現代文化論Ⅱ	2	
	文学と文化の理論	2	
	中国古典文学入門（含漢文学）	2	
	中国古典文学概論	2	
	古典文学講読Ⅱ	2	
	古典文学講読Ⅲ	2	
	出版文化論	2	
	メディア文化論	2	
	日本古典文学史	2	16単位必修
	日本近現代文学史	2	
	日本語古典文法	2	
	現代日本語文法	2	
	書写・書道Ⅰ	1	
	書写・書道Ⅱ	1	
	朗読	1	
	特講・研究科目		
	現代文化研究Ⅰ	2	
	現代文化研究Ⅱ	2	
	現代文化研究Ⅲ	2	
	現代文化研究Ⅳ	2	
	近現代文学研究Ⅰ	2	
	近現代文学研究Ⅱ	2	
	近現代文学研究Ⅲ	2	
	近現代文学研究Ⅳ	2	
	近現代文学研究Ⅴ	2	
	近現代文学研究Ⅵ	2	
	伝統文化研究Ⅰ	2	
	伝統文化研究Ⅱ	2	
	古典文学研究Ⅰ	2	
	古典文学研究Ⅱ	2	
	古典文学研究Ⅲ	2	
	古典文学研究Ⅳ	2	
	古典文学研究Ⅴ	2	
	古典文学研究Ⅵ	2	
	メディア文化研究Ⅰ	2	
	メディア文化研究Ⅱ	2	
	日本語研究Ⅰ	2	
	日本語研究Ⅱ	2	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
学芸学部 日本語日本文学科	日本語研究Ⅲ	2	
	日本語研究Ⅳ	2	
	伝統文化特講Ⅰ	2	
	伝統文化特講Ⅱ	2	
	近現代文学特講Ⅰ	2	
	近現代文学特講Ⅱ	2	
	作家・作品精読Ⅰ	2	
	作家・作品精読Ⅱ	2	
	古典文学特講Ⅰ	2	
	古典文学特講Ⅱ	2	
	中国古典文学特講Ⅰ	2	
	中国古典文学特講Ⅱ	2	
	中国古典文学研究Ⅰ	2	
	中国古典文学研究Ⅱ	2	
	日本語学特講Ⅰ	2	
	日本語学特講Ⅱ	2	
	展開科目		
	映像と文学	2	
	近現代文学（童話・児童文学）	2	
	創作実習Ⅰ	1	
	創作実習Ⅱ	1	
	創作実習Ⅲ	1	
	創作実習Ⅳ	1	
	伝統文化実習Ⅰ	1	
	伝統文化実習Ⅱ	1	
	中国書道史	2	
	日本書道史	2	
	書論・鑑賞Ⅰ	2	
	書論・鑑賞Ⅱ	2	
	書誌学	2	
	古文書学	2	
	図書館概論	2	
	図書館情報資源概論	2	
	生涯学習概論	2	
	図書館サービス概論	2	
	学校図書館サービス論	2	
	出版流通論	2	
	編集実務	2	
	古文教材特講	2	
	漢文教材特講	2	
	小説教材特講	2	
	評論教材特講	2	
	日本語史Ⅰ	2	
	日本語史Ⅱ	2	
	日本語教授法Ⅰ	2	
	日本語教授法Ⅱ	2	
	日本語教授法Ⅲ	2	
	日本語教育実習Ⅰ	1	
	日本語教育実習Ⅱ	1	
	対照言語学	2	
	日本語コミュニケーション論Ⅰ	2	
	日本語コミュニケーション論Ⅱ	2	
	楷書（書道実習A）	1	
	行書（書道実習B）	1	
	草書（書道実習C）	1	
	隸書（書道実習D）	1	
	篆書（書道実習E）	1	
	篆刻（書道実習F）	1	
	かなⅠ（書道実習G）	1	
	かなⅡ（書道実習H）	1	
	漢字かな交じりの書Ⅰ（書道実習I）	1	
	漢字かな交じりの書Ⅱ（書道実習J）	1	
	作家・作品Ⅰ（書道実習K）	1	
	作家・作品Ⅱ（書道実習L）	1	
	日文校外研修	1	
	国語科教育法（中）Ⅰ	2	
	国語科教育法（中）Ⅱ	2	
	国語科教育法（中・高）Ⅰ	2	
	国語科教育法（中・高）Ⅱ	2	
	書道科教育法Ⅰ	2	
	書道科教育法Ⅱ	2	
	国語教員能力養成講座Ⅰ	2	
	国語教員能力育成講座Ⅱ	2	
	計	240	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
学芸学部 国際コミュニケーション学科	専門教育科目		
	導入科目		
	基礎		
	国際教養入門	2	必修
	異文化コミュニケーション	2	必修
	文化・社会科目		
	基礎		
	グローバル文化Ⅰ（伝統的英語圏）	2	
	グローバル文化Ⅱ（フィリピン、タイ）	2	
	グローバル文化Ⅲ（韓国、台湾）	2	
	専門		
	アジアパシフィック・スタディーズ	2	
	国際日本学	2	
	国際韓国学	2	
	統合		
	映像文化コミュニケーション	2	
	文化演習Ⅰ	2	2単位必修
	文化演習Ⅱ	2	2単位必修
	アート科目		
	基礎		
	芸術作品鑑賞（英語文学）	2	
	ポピュラーアート（韓国系）	2	
	専門		
	英語文学	2	
	映像芸術	2	
	統合		
	複合芸術	2	
	アート&コミュニケーション演習Ⅰ	2	
	アート&コミュニケーション演習Ⅱ	2	
	教育科目		
	基礎		
	英語科教育法（中）Ⅰ	2	
	英語科教育法（中）Ⅱ	2	
	専門		
	英語科教育法（中・高）Ⅰ	2	
	英語科教育法（中・高）Ⅱ	2	
	統合		
	国際教育論Ⅰ	2	
	国際教育論Ⅱ	2	
	国際教育論Ⅲ	2	
	教育演習Ⅰ	2	
	教育演習Ⅱ	2	
	言語科目		
	基礎		
	英語文章読解	2	必修
	英語文章表現	2	必修
	専門		
	英語音声学	2	
	英語学概論	2	
	応用言語学	2	
	統合		
	上級英語読解・表現	2	
	コースワーク演習Ⅰ	2	
	コースワーク演習Ⅱ	2	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
学芸学部 国際コミュニケーション学科	表現・スキル科目		
	基礎		
	Speaking Skills I	1	必修
	Speaking Skills II	1	必修
	Speaking Skills III	1	必修
	Speaking Skills IV	1	必修
	専門		
	English for Advanced Speaking I	2	
	English for Advanced Speaking II	2	
	English for Presentation	2	
	English for Relationship-building	2	
	English for Translation	2	
	English for Hospitality	2	
	English for Business	2	
	統合		
	Integrated Communication I	2	
	Integrated Communication II	2	
	Integrated Communication III	2	
	Integrated Communication IV	2	
	探究・研究科目		
	深める		
	地域研究：韓国 I	2	2単位必修
	地域研究：韓国 II	2	2単位必修
	耕す		
	グローバル教育 I	2	
	グローバル教育 II	2	
	コミュニケーション・デザイン I	2	
	コミュニケーション・デザイン II	2	
	極める		
	Advanced English Studies I	2	
	Advanced English Studies II	2	
	コースワーク・デザイン I	2	
	コースワーク・デザイン II	2	
	実践科目		
	オンキャンパス		
	TOEIC I	1	
	TOEIC II	1	
	TOEIC III	1	
	越境・協働学習教育 I	1	
	越境・協働学習教育 II	1	
	グローバル		
	スクール・インターンシップ I	1	
	スクール・インターンシップ II	1	
	短期英語研修 I	1	
	短期英語研修 II	1	
	短期韓国語研修 I	1	
	短期韓国語研修 II	1	
	長期語学留学 I	6	
	長期語学留学 II	6	
	長期語学留学 III	12	
	長期語学留学 IV	12	
	特別研修 I	1	
	特別研修 II	1	
	ボランティア研修 I	1	
	ボランティア研修 II	2	
	インターンシップ I	1	
	インターンシップ II	1	
	インターンシップ III	2	
	計	172	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備考
学芸学部 子ども教育学科	専門教育科目		
	基礎科目		
	子ども教育の基礎		
	基礎理論		
	生涯発達心理学	2	} 4単位必修
	保育の原理	2	
	教育の原理	2	
	教育の歴史	2	
	教育の制度	2	
	教育心理学	2	
	子育て支援の心理学	2	
	教職論	2	
	保育者論	2	
	教育とジェンダー	2	
	特別支援教育論	2	
	子ども理解		
	子どもの理解と援助	2	
	乳児保育Ⅰ	2	
	乳児保育Ⅱ	1	
	特別支援教育・保育Ⅰ	1	
	特別支援教育・保育Ⅱ	1	
	子どもの保健	2	
	子ども家庭福祉	2	
	基礎技能		
	音楽表現活動	1	} 1単位必修
	絵画・造形表現活動	1	
	運動・身体表現活動	1	
	保育表現活動	1	
	音楽Ⅰ	1	
	音楽Ⅱ	1	
	音楽Ⅲ	1	
	音楽Ⅳ	1	
	手話の基礎	1	
	点字の基礎	1	
	展開科目		
	学習支援		
	教育内容（国語）	2	
	教育内容（社会）	2	
	教育内容（算数）	2	
	教育内容（理科）	2	
	教育内容（生活）	2	
	教育内容（音楽）	2	
	教育内容（図画工作）	2	
	教育内容（家庭）	2	
	教育内容（体育）	2	
	教育内容（英語）	2	
	教育課程論	2	
	保育カリキュラム論	2	
	幼児指導論	2	
	国語科指導法	2	
	社会科指導法	2	
	算数科指導法	2	
	理科指導法	2	
	生活科指導法	2	
	音楽科指導法	2	
	図画工作科指導法	2	
	家庭科指導法	2	
	体育科指導法	2	
	英語科指導法	2	
	総合的な学習の時間の指導法	2	
	教育の方法	2	
	道徳教育論	2	
	特別活動論	2	
	教育相談	2	
	生徒・進路指導	2	
	英語遊び指導法	1	
	授業研究	2	
	介護等体験の指導	1	
	知的障害教育	2	
	肢体不自由教育	2	
	病弱教育	2	
	LD・ADHD等の理解と指導法	1	
	情緒障害児の理解と指導法	1	
	重複障害児の理解と指導法	1	
	視覚障害児の理解と指導法	1	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備考
学芸学部	聴覚・言語障害児の理解と指導法	1	
子ども教育学科	子どもの教育とメディア	2	
	子ども・家庭支援		
	社会福祉	2	
	社会的養護Ⅰ（原理）	2	
	社会的養護Ⅱ（内容）	1	
	子育て支援	1	
	子どもの健康と安全	1	
	子どもの食事と栄養	2	
	保育内容総論	1	
	子どもと健康	2	
	保育内容指導法（健康）	1	
	子どもと人間関係	2	
	保育内容指導法（人間関係）	1	
	子どもと環境	2	
	保育内容指導法（環境）	1	
	子どもと言葉	2	
	保育内容指導法（言葉）	1	
	子どもと表現	2	
	保育内容指導法（表現）	1	
	子ども家庭支援論	2	
	知的障害児の心理	2	
	知的障害児の生理・病理	2	
	肢体不自由児の心理	2	
	肢体不自由児の生理・病理	2	
	病弱児の心理	2	
	病弱児の生理・病理	2	
	子育て支援実践研究	1	
	発展科目		
	実践的指導力		
	教育コミュニケーション	1	
	実践遊び学	1	
	“楽”習教材研究(文系)	2	} 2単位必修
	“楽”習教材研究(理系)	2	
	“楽”習活動研究(表現系)	2	
	“楽”習プロジェクト演習	1	
	教育指導法実践研究Ⅰ	1	
	教育指導法実践研究Ⅱ	1	
	保育指導法実践研究	1	
	保育・教職実践演習	2	
	教職実践演習(小学校)	2	
	子ども教育ゼミナールⅠ	2	必修
	子ども教育ゼミナールⅡ	2	必修
	卒業研究Ⅰ	2	必修
	卒業研究Ⅱ	2	必修
	体験・活動・実習		
	教育インターンシップ（小学校）	1	
	教育インターンシップ（幼稚園）	1	
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	1	
	保育実習指導Ⅰ（施設）	1	
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	1	
	保育実習指導Ⅲ（施設）	1	
	保育実習Ⅰ（保育所）	2	
	保育実習Ⅰ（施設）	2	
	保育実習Ⅱ（保育所）	2	
	保育実習Ⅲ（施設）	2	
	教育実習ⅠⅠ（幼稚園）事前・事後指導	1	
	教育実習ⅡⅠ（幼稚園）	2	
	教育実習ⅡⅡ（幼稚園）	1	
	教育実習ⅠⅡ（小学校）事前・事後指導	1	
	教育実習ⅢⅠ（小学校）	2	
	教育実習ⅢⅡ（小学校）	2	
	教育実習ⅠⅢ（特別支援学校）事前・事後指導	1	
	教育実習Ⅳ（特別支援学校）	2	
	総合演習		
	子ども教育基礎演習Ⅰ	1	必修
	子ども教育基礎演習Ⅱ	1	必修
	子ども教育基礎演習Ⅲ	1	必修
	子ども教育特別演習Ⅰ	1	
	子ども教育特別演習Ⅱ	1	
	子ども教育特別演習Ⅲ	1	
	計	214	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授業科目	単位数	備 考
学芸学部	専門教育科目		
メディア情報学科	基礎科目		
	情報・メディア論	2	必修
	メディアの英語	2	必修
	アカデミックライティング	2	必修
	メディアと法	2	必修
	デジタルデザイン	2	必修
	情報社会論	2	必修
	メディア文化史	2	必修
	コンセプト構想論	2	必修
	デザイン概論	2	6単位必修
	色彩文化論	2	
	ミュージアム概論	2	
	メディアアート概論	2	
	インターネットとビジネス	2	4単位必修
	文章作法	2	
	デジタルプレゼンテーション演習	2	
	メディアアート演習	2	
	ポートフォリオ制作	2	
	基幹科目		
	人文		
	言語とメディア	2	2単位必修
	多文化共生とメディア	2	
	モードとメディア	2	
	世界における日本文化	2	
	サブカルチャーとメディア	2	4単位必修
	ポピュラー音楽論	2	
	映像史	2	
	アニメーション史	2	
	マンガ史	2	
	出版文化史	2	
	絵本文化論	2	
	ゲームメディア論	2	
	ミュージアム教育論	2	2単位必修
	アーカイブ論	2	
	マンガ制作 I	2	
	社会		
	マスメディア論	2	2単位必修
	メディアの行動と心理	2	
	広告とメディア	2	2単位必修
	流通論	2	
	マーケティング論	2	
	情報管理論	2	
	知的財産と法 I	2	
	情報		
	電子メディア論	2	2単位必修
	メディアデザイン	2	
	Webデザイン基礎	2	2単位必修
	プログラミング基礎	2	
	3DCG基礎	2	
	サウンドデザイン基礎	2	
	ゲーム制作演習	2	
	エディトリアルデザイン基礎	2	
	写真技法	2	
	動画編集基礎	2	
	展開科目		
	人文		
	デジタルコミュニケーションと言語	2	
	言語文化論	2	
	パフォーマンスと言語	2	
	芸能文化論	2	
	パフォーマンスメディア論	2	
	モードと社会	2	
	メディア文化演習 I	2	
	メディア文化演習 II	2	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授業科目	単位数	備 考
学芸学部 メディア情報学科	エンターテインメント論	2	6単位必修
	現代映像論	2	
	アニメーション論	2	
	マンガ論	2	
	雑誌文化論	2	
	ゲームメディア演習	2	
	アーカイブ管理論	2	
	生涯学習とメディア	2	
	空間プレゼンテーション論	2	
	ストーリーライティング	2	
	メディアライティング	2	
	声優の発声法と演技	2	
	マンガ制作Ⅱ	2	
	博物館実習	3	
	社会		4単位必修
	ミュージアム経営論	2	
	コミュニケーション論	2	
	メディアコミュニケーション論	2	
	プロモーションとサービス	2	
	マネジメント論	2	
	データ分析演習	2	
	マーケティングリサーチ	2	
	情報環境論	2	
	知的財産と法Ⅱ	2	
	情報セキュリティと法	2	
	メディアビジネスプロジェクトⅠ	2	
	メディアビジネスプロジェクトⅡ	2	
	広告制作演習	2	4単位必修
	番組制作演習	2	
	情報		
	ITマネジメント論	2	
	ネットワークセキュリティ論	2	
	情報通信ネットワーク論	2	
	情報通信ネットワーク演習	2	
	データベース論	2	
	データベース演習	2	
	プログラミング応用	2	
	プログラミング実践	2	
	3DCG応用	2	
	Webデザイン応用	2	
	Webデザイン実践	2	
	アプリケーション開発	2	
	サウンドデザイン応用	2	
	エディトリアルデザイン応用	2	
	エディトリアルデザイン実践	2	
	動画撮影	2	
	動画編集応用	2	
	ビジュアルエフェクト演習	2	
	アニメーション技法	2	
	情報科教育法Ⅰ	2	
	情報科教育法Ⅱ	2	
	総合科目		
	メディアワークⅠ	2	
	メディアワークⅡ	2	
	メディアワークⅢ	2	
	プロジェクトワークⅠ	2	
	プロジェクトワークⅡ	2	
	完成科目		
	ゼミナールⅠ	2	
	ゼミナールⅡ	2	
	卒業研究Ⅰ	3	必修
	卒業研究Ⅱ	3	必修
計		233	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備考
学芸学部	専門教育科目		
生活デザイン学科	新領域創造科目		
	横断統合		
	デザインの入り口	2	必修
	デザイン概論	2	必修
	デザインワークⅠ-1	1	
	デザインワークⅠ-2	1	
	デザインワークⅡ-1	1	
	デザインワークⅡ-2	1	
	デザインワークⅢ-1	1	
	デザインワークⅢ-2	1	
	デザインプロジェクトⅠ	2	必修
	ゼミ		
	デザインプロジェクトⅡ	4	必修
	デザインプロジェクトⅢ	6	必修
	生活デザイン総合科目		
	デザイン教養科目		
	デザイン史Ⅰ	2	4単位必修
	デザイン史Ⅱ	2	
	イメージと言葉	2	
	環境学	2	
	スモールビジネス	2	
	基礎講義科目		
	色彩論	2	8単位必修
	人間工学	2	
	ファブリック概論	2	
	空間デザインと環境	2	
	住宅デザインの歴史	2	
	造形心理	2	
	住宅計画	2	
	建築の歴史	2	
	ファッションデザイン史	2	
	デザインとビジネス	2	
	基礎演習科目		
	デザイン基礎	2	必修
	空間構成	2	
	立体構成	1	
	グラフィックデザインⅠ	2	
	グラフィックデザインⅡ	2	
	ファッションメイキングⅠ	2	6単位必修
	ファッションメイキングⅡ	2	
	空間デザイン	2	
	モデルメイキングⅠ	2	
	モデルメイキングⅡ	2	
	ディスプレイデザイン	1	
	基礎技法科目		
	デジタルペインティング	1	必修
	コンピュータスキルⅠ	2	
	コンピュータスキルⅡ	1	
	コンピュータスキルⅢ	2	
	コンピュータスキルⅣ	2	
	プレゼンテーションスキル	1	
	3DCG演習	2	
	WEBスキル	1	
	素材実習(布・プリンティング)	1	
	素材実習(メタルワーク)	1	
	CADⅠ	2	8単位必修 (必修科目は除く)
	CADⅡ	2	
	CADⅢ	2	
	アパレルCADⅠ	2	
	アパレルCADⅡ	2	
	製図Ⅰ	1	必修
	製図Ⅱ	1	
	デザインスケッチ	1	
	写真表現	2	
	ファッションドローイング	1	
	テキスタイルデザイン	2	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備考
学芸学部	生活デザイン各論		
生活デザイン学科	建築デザインⅠ	2	8単位必修
	建築デザインⅡ	2	
	建築デザインⅢ	2	
	インテリアデザインⅠ	2	
	インテリアデザインⅡ	2	
	建築構法演習	1	
	ファッションデザインⅠ	2	
	ファッションデザインⅡ	2	
	ファッションデザインⅢ	2	
	プロダクトデザインⅠ	2	
	プロダクトデザインⅡ	2	
	プロダクトデザインⅢ	2	
	WEBデザインⅠ	2	
	WEBデザインⅡ	2	
	アートディレクションⅠ	2	
	アートディレクションⅡ	2	
	アートディレクションⅢ	2	
	DTP	1	
	インタラクティブデザイン	2	
	空間デザインと材料	2	
	空間デザインと構造	2	
	空間デザインと構法	2	
	空間デザインと計画	2	
	空間デザインと設備	2	
	建築施工	2	
	建築法規	2	
	建築構造	2	
	資格支援科目		必修
	カラーコーディネート演習	1	
	ファッションビジネス演習	1	
	インテリアコーディネート演習	1	
	福祉住環境演習	1	
	デザイン研修		
	デザインキャリア研修	2	
	デザイン見学	1	
	デザインインターンシップ	1	
	作品発表	1	
	デザインスキルアップ	1	
	計	166	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
人間社会学部	専門教育科目		
社会マネジメント学科	基礎科目		
	社会マネジメント学入門	2	必修
	日本語スキルアップ講座	2	必修
	地域で学ぶ社会のしくみ	1	必修
	映像で学ぶ近現代史1	2	必修
	社会人デビュー講座（基礎編）	1	必修
	社会人デビュー講座（応用編）	1	必修
	社会人デビュー講座エクストラ	2	
	フィールドワーク実習	2	
	映像で学ぶ近現代史2	2	必修
	統計基礎	2	必修
	基幹科目		
	情報		
	プレゼンテーション概論	2	4単位必修
	コンピュータ概論	2	
	情報技術と人間	2	
	日本語表現法	2	
	応用統計学	2	
	集計・分析の技法	2	
	情報メディアリテラシー論	2	
	社会		
	グローバルゼーションとローカリゼーション	2	4単位必修
	遊びと人間	2	
	身体とセクシャリティ	2	
	社会調査法概論	2	
	社会調査法演習	2	
	フィールドワークの技法	2	
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	
	法律・政治		
	憲法Ⅰ	2	4単位必修
	憲法Ⅱ	2	
	刑法	2	
	民法（契約法）	2	
	民法（家族法）	2	
	労働法	2	
	社会保障Ⅰ	2	
	社会保障Ⅱ	2	
	政治学	2	
	経済・経営		
	ミクロ経済学	2	4単位必修
	マクロ経済学	2	
	公共経済学	2	
	行動経済学	2	
	経営学	2	
	簿記論	2	
	会計学	2	
	展開科目		
	国際社会と私たち		
	多民族社会と共生	2	
	経済発展と国際社会	2	
	地球環境と私たち	2	
	エスニシティとナショナリズム	2	
	国際交流演習	2	
	海外調査演習	2	
	TOEICⅠ	1	
	TOEICⅡ	1	
	Comprehensive EnglishⅠ	1	
	コミュニティ		
	家族論	2	
	地域社会論	2	
	現代社会論	2	
	行政法	2	
	公共政策論	2	
	地方自治論	2	
	NPO概論	2	
	交通・ロジスティクス論	2	
	消費者と企業		
	消費者行動論	2	
	流通論	2	
	ベンチャー論	2	
	ブランド戦略・商品開発論	2	
	経営組織・人事管理論	2	
	マーケティング・経営戦略論	2	
	広報・広告論	2	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
人間社会学部 社会マネジメント学科	消費者問題と政策	2	30単位必修
	消費者取引と法	2	
	企業法	2	
	経済法	2	
	税制度論	2	
	資産運用演習	2	
	エンターテインメント・ホスピタリティ		
	エンターテインメント産業論	2	
	ホスピタリティ産業論	2	
	情報通信産業論	2	
	スポーツ産業論	2	
	エンターテインメント特講	2	
	メディアと表現		
	クリエイティブ技法Ⅰ（構成）	2	
	クリエイティブ技法Ⅱ（撮影）	2	
	クリエイティブ技法Ⅲ（制作）	2	
	クリエイティブ技法Ⅳ（サウンド）	2	
	プレゼンテーション演習Ⅰ	2	
	プレゼンテーション演習Ⅱ	2	
	プレゼンテーション演習Ⅲ	2	
	プログラミング演習Ⅰ	2	
	プログラミング演習Ⅱ	2	
	ジャーナリズム論	2	
	地域社会と情報	2	
	映像メディア論	2	
	知的財産権法	2	
	心理		
	社会・集団・家族心理学	2	
	知覚・認知心理学Ⅰ（知覚心理学）	2	
	知覚・認知心理学Ⅱ（認知心理学）	2	
	社会倫理学	2	
	応用倫理学	2	
	産業・組織心理学	2	
	司法・犯罪心理学	2	
	現代の癒し文化	2	
	地域と福祉		
	人体の構造と機能及び疾病	2	
	心理学概論	2	
	社会学と社会システム	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	
	福祉サービスの組織と経営	2	
	高齢者福祉	2	
	障害者福祉	2	
	児童・家庭福祉	2	
	生活保護制度	2	
	保健医療と福祉	2	
	権利擁護を支える法制度	2	
	刑事司法と福祉	2	
	ソーシャルワーク演習（基礎）	1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	
	社会福祉士試験対策講座Ⅰ	2	
	社会福祉士試験対策講座Ⅱ	2	
	完成科目		4単位必修
	ゼミナールⅠ	2	
	ゼミナールⅡ	2	
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	1	
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	1	
	卒業研究Ⅰ	3	6単位必修
	卒業研究Ⅱ	3	
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	6	
	地域連携プロジェクト演習Ⅰ	2	
	地域連携プロジェクト演習Ⅱ	2	
	社会調査法実習Ⅰ	2	
	社会調査法実習Ⅱ	2	
	資格科目		
	資格支援講座1	2	
	資格支援講座2	2	
	計	268	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
人間社会学部	専門教育科目		
人間心理学科	基礎科目		
	心理学概論	2	必修
	臨床心理学概論	2	必修
	ソマティック心理学概論	2	必修
	人間文化概論	2	必修
	心理学研究法	2	必修
	心理学統計法Ⅰ	2	必修
	心理学実験演習Ⅰ	2	必修
	心理的アセスメント	2	必修
	キャリアデザイン	2	必修
	展開科目		
	心理		
	発達心理学	2	6単位必修
	社会・集団・家族心理学	2	
	学習・言語心理学	2	
	知覚・認知心理学Ⅰ（知覚心理学）	2	
	知覚・認知心理学Ⅱ（認知心理学）	2	
	心理学的支援法	2	
	人体の構造と機能及び疾病	2	
	精神疾患とその治療	2	
	感情・人格心理学	2	
	神経・生理心理学	2	
	障害者・障害児心理学	2	
	健康・医療心理学	2	
	福祉心理学	2	
	教育・学校心理学	2	
	司法・犯罪心理学	2	
	産業・組織心理学	2	
	心理学史	2	
	トラウマの心理学	2	
	コミュニケーションの心理学	2	
	トランスパーソナル心理学	2	
	ポジティブ心理学	2	
	宗教心理学	2	
	青年心理学	2	
	動物心理学	2	
	環境心理学	2	
	カウンセリング・スキル	2	
	心理療法演習Ⅰ	2	
	心理療法演習Ⅱ	2	
	心理療法演習Ⅲ	2	
	心理療法演習Ⅳ	2	
	心理療法演習Ⅴ	2	
	心理療法演習Ⅵ	2	
	ソマティックス演習Ⅰ	2	
	ソマティックス演習Ⅱ	2	
	ソマティックス演習Ⅲ	2	
	ソマティックス演習Ⅳ	2	
	ソマティックス演習Ⅴ	2	
	心理学統計法Ⅱ	2	
	心理学実験演習Ⅱ	2	
	心理調査法演習	2	
	公認心理師の職責	2	
	関係行政論	2	
	心理演習	2	
	心理実習指導Ⅰ	1	
	心理実習指導Ⅱ	1	
	心理実習	2	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
人間社会学部 人間心理学科	人間文化		
	医療人類学	2	8単位必修
	ケアの人類学	2	
	スピリチュアリティ	2	
	現代の癒し文化	2	
	身体の人類学	2	
	代替医学	2	
	社会倫理学	2	
	応用倫理学	2	
	心身の哲学	2	
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	
	家族論	2	
	地域社会論	2	
	エスノグラフィ論	2	
	エスノグラフィ演習	2	
	社会福祉		
	社会調査法概論	2	
	社会学と社会システム	2	
	福祉サービスの組織と経営	2	
	社会保障法Ⅰ	2	
	社会保障法Ⅱ	2	
	高齢者福祉	2	
	障害者福祉	2	
	児童・家庭福祉	2	
	生活保護制度	2	
	保健医療と福祉	2	
	権利擁護を支える法制度	2	
	刑事司法と福祉	2	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	6	
	社会福祉士試験対策講座Ⅰ	2	
	社会福祉士試験対策講座Ⅱ	2	
	ソーシャルワーク演習（基礎）	1	
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	1	
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	1	
	完成科目		
	ゼミナールⅠ	2	必修
	ゼミナールⅡ	2	必修
	卒業研究Ⅰ	3	必修
	卒業研究Ⅱ	3	必修
	計	208	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
人間社会学部 地域クリエーション学科	専門教育科目		
	基礎科目		
	総合		
	地域クリエーション学入門	2	必修
	地域クリエーション学実践	1	必修
	ライフデザイン	2	必修
	観光		
	観光学概論	2	必修
	食文化論	2	必修
	映像制作入門	2	必修
	観光地理学	2	必修
	ホスピタリティ概論	2	必修
	ウェルビーイングと観光	2	必修
	ホスピタリティ産業論	2	必修
	地域コミュニティ論	2	必修
	ビジネス		
	プレゼンテーション入門	2	必修
	データ分析入門	2	必修
	マクロ経済学	2	必修
	経営理論	2	必修
	会計学	2	必修
	食		
	基礎化学	2	必修
	食品の化学	2	必修
	公衆衛生学	2	必修
	食品衛生学	2	必修
	調理科学	2	必修
	食品安全学	2	必修
	健康と栄養	2	必修
	基幹科目		
	観光と政策		
	グローバリゼーションとローカリゼーション	2	} 2単位必修
	アニマルウェルフェア	2	
	交通・ロジスティクス論	2	
	エスニシティと地域社会	2	
	映像で学ぶ社会の進歩	2	
	公共経済学	2	
	公共政策論	2	
	生物と生態系	2	
	ビジネスツール		
	民法（契約法）	2	} 2単位必修
	ミクロ経済学	2	
	消費者問題と政策	2	
	流通論	2	
	ベンチャー論	2	
	経営組織・人事管理論	2	
	マーケティング・経営戦略論	2	
	広報と広告	2	
	消費者行動論	2	
	ブランド戦略・商品開発論	2	
	情報		
	社会調査法入門	2	} 1単位必修
	ドローン操縦技術	1	
	映像制作演習（基礎）	2	
	プレゼンテーションⅠ（言語と身体表現）	2	
	無線通信技術と法	2	
	映像メディア論	2	
	地域データ分析	2	
	気候変動と気象予測	2	
	映像制作演習（発展）	2	
	プレゼンテーションⅡ（PCと視覚資料）	2	
	知的財産権法	2	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考	
人間社会学部 地域クリエーション学科	食品の科学		2単位必修	
	生化学	2		
	微生物学	2		
	栄養機能学	2		
	栄養生理学	2		
	食と環境	2		
	食品加工と保蔵	2		
	フードプランニング論	2		
	発酵・醸造学	2		
	食品分析学	2		
	メニュー開発論	2		
	展開科目			
	観光			5単位必修
	観光ビジネス論	2		
	エンターテイメント産業論	2		
	情報通信産業論	2		
	ホスピタリティマネジメント	2		
	日本文化演習	1		
	世界遺産入門	2		
	旅行業概論	2		
	フードツーリズム論	2		
	エンターテイメント特講	2		
	スポーツ産業論	2		
	地域資源発掘活用演習	1		
	食・農			
	フードデザイン実習（基礎調理）	1		
	食文化と伝承	2		
	基礎化学実験	1		
	ライフステージと食	2		
	フードデザイン実習（応用調理）	1		
	農水産業と地域社会	2		
	農水産物の加工と流通	2		
	食品衛生学実験	1		
	栄養マネジメント実習	1		
	地域栄養学	2		
	食品加工学実習	1		
	食育活動	1		
	食安全マネジメント演習	1		
	フードプランニング実習Ⅰ	1		
	フードプランニング実習Ⅱ	1		
	フードプランニング実習Ⅲ	1		
	テーブルコーディネート論（演習含む）	2		
	実務			
	ファシリテーション	2		
	ホスピタリティ実践	1		
	資格支援講座	2		
インターンシップⅠ	2			
キャリア実践Ⅰ	1			
キャリア実践Ⅱ	1			
インターンシップⅡ	2			
完成科目				
ゼミナールⅠ	2		必修	
ゼミナールⅡ	2		必修	
卒業研究Ⅰ	3		必修	
卒業研究Ⅱ	3		必修	
	計	186		

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
栄養科学部	専門教育科目		
健康栄養学科	栄養士資格科目		
	公衆衛生学	2	必修
	社会福祉論	2	必修
	解剖生理学	2	必修
	解剖生理学実習	1	必修
	運動生理学	2	必修
	生化学	2	必修
	生化学実験	1	必修
	臨床医学	2	必修
	食品学総論	2	必修
	食品学各論	2	必修
	食品学実験	1	必修
	食品衛生学	2	必修
	食品衛生学実験	1	必修
	微生物学	2	必修
	栄養学総論	2	必修
	ライフステージの栄養学Ⅰ	2	必修
	ライフステージの栄養学Ⅱ	2	必修
	ライフステージの栄養学実習	1	必修
	運動栄養学	2	必修
	臨床栄養学	2	必修
	臨床栄養学実習	1	必修
	公衆栄養学	2	必修
	栄養士入門	2	必修
	栄養指導論	2	必修
	栄養士基礎実習	1	必修
	栄養指導論実習	1	必修
	給食管理論Ⅰ	2	必修
	給食管理論Ⅱ	2	必修
	給食管理実習(校内)	2	必修
	給食管理実習(校外)	1	必修
	校外実習事前事後指導	1	必修
	調理学	2	必修
	調理科学実験	1	必修
	調理学実習Ⅰ	1	必修
	調理学実習Ⅱ	1	必修
	学科専門科目		
	有機化学	2	必修
	食育プラクティス	2	選択
	試験対策講座	1	必修
	ゼミナールⅠ	1	必修
	ゼミナールⅡ	1	必修
	卒業研究Ⅰ	2	選択
	卒業研究Ⅱ	2	選択
	キャリア形成プラクティス (インターンシップを含む)	1	選択

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
栄養科学部 健康栄養学科	食ビジネスコース科目		
	食品機能論	2	選択
	食品官能評価・鑑別演習	2	選択
	フードスペシャリスト論	2	選択
	専門フードスペシャリスト試験対策講座	1	選択
	フードコーディネータ論	2	選択
	フードコーディネータ論実習	1	選択
	製菓実習	1	選択
	食品加工学	2	選択
	食品加工学実習	1	選択
	消費者商品学	2	選択
	消費経済学	2	選択
	食品開発概論	2	選択
	食品開発演習	1	選択
	ブランド戦略・商品開発論	2	選択
	マーケティング・経営戦略論	2	選択
	マーケティング論	2	選択
	プロモーションとサービス	2	選択
	流通論	2	選択
	生活科学コース科目		
	家族関係	2	選択
	家庭経営（家庭経済学を含む）	2	選択
	衣生活論（衣料学を含む）	2	選択
	被服構成（被服実習を含む）1	1	選択
	被服構成（被服実習を含む）2	1	選択
	住生活論	2	選択
	住居学	2	選択
	保育学	2	選択
	消費者問題論	2	選択
	家庭科教育法（中）Ⅰ	2	選択
	家庭科教育法（中）Ⅱ	2	選択
	家庭科教育法（中・高）Ⅰ	2	選択
	家庭科教育法（中・高）Ⅱ	2	選択
	スポーツ健康科学コース科目		
	体育実技（陸上）	1	選択
	体育実技（水泳）	1	選択
	体育実技（体づくり運動・器械運動）	1	選択
	体育実技（武道）	1	選択
	体育実技（球技）	1	選択
	体育実技（ダンス）	1	選択
	地域健康スポーツ演習	1	選択
	体育原理	2	選択
	体育心理学	2	選択
	体育経営管理学	2	選択
	スポーツ社会学（体育社会学を含む）	2	選択
	スポーツ栄養学	2	選択
	スポーツ栄養学実習	1	選択
	体育史	2	選択
	運動学（運動方法学を含む）	2	選択
	運動生理学・トレーニング実習	1	選択
	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全を含む）	2	選択
	スポーツ医学（救急処置を含む）	2	選択
	保健体育科教育法（中）Ⅰ	2	選択
	保健体育科教育法（中）Ⅱ	2	選択
	保健体育科教育法（中・高）Ⅰ	2	選択
	保健体育科教育法（中・高）Ⅱ	2	選択
	計	159	

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
栄養科学部 管理栄養学科	専門教育科目		
	基礎導入科目		
	食べ物の基礎	1	
	栄養の基礎	2	
	基礎科学実験	1	
	微生物学	2	
	専門基礎分野		
	社会・環境と健康		
	公衆衛生学Ⅰ	2	必修
	公衆衛生学Ⅱ	2	必修
	保健統計学実習	1	必修
	保健介護福祉論	2	必修
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち		
	生化学Ⅰ	2	必修
	生化学Ⅱ	2	必修
	生化学実験	1	必修
	解剖生理学Ⅰ	2	必修
	解剖生理学Ⅱ	2	必修
	解剖生理学実習	1	必修
	臨床医学Ⅰ	2	必修
	臨床医学Ⅱ	2	必修
	臨床検査実習	1	必修
	「身体活動」の生理学	2	必修
	食べ物と健康		
	食品学総論	2	必修
	食品学各論	2	必修
	食品学実験Ⅰ	1	必修
	食品学実験Ⅱ	1	必修
	調理科学	2	必修
	調理学実習	1	必修
	応用調理学実習	1	必修
	調理科学実験	1	必修
	食品衛生学	2	必修
	食品衛生学実験	1	必修
	専門分野		
	基礎栄養学		
	基礎栄養学	2	必修
	基礎栄養学実験	1	必修
	応用栄養学		
	応用栄養学Ⅰ	2	必修
	応用栄養学Ⅱ	2	必修
	応用栄養学実習	1	必修
	食事摂取基準論	2	必修
	栄養ケアマネジメント実習	1	必修
	栄養教育論		
	栄養教育論Ⅰ	2	必修
	栄養教育論Ⅱ	2	必修
	栄養教育実践活動論	2	必修
	栄養教育実習	1	必修

別表第2 専門教育科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
栄養科学部 管理栄養学科	臨床栄養学		
	臨床栄養管理学Ⅰ	2	必修
	臨床栄養管理学Ⅱ	2	必修
	臨床栄養管理学Ⅲ	2	必修
	病態栄養治療学演習	2	必修
	臨床栄養管理実習	1	必修
	食事療法実習	1	必修
	公衆栄養学		
	公衆栄養学Ⅰ	2	必修
	公衆栄養学Ⅱ	2	必修
	公衆栄養学実習	1	必修
	給食経営管理論		
	給食経営管理論Ⅰ	2	必修
	給食経営管理論Ⅱ	2	必修
	給食経営管理実習	2	必修
	総合演習		
	管理栄養士演習Ⅰ	1	必修
	管理栄養士演習Ⅱ	1	必修
	管理栄養士演習Ⅲ	1	必修
	管理栄養士演習Ⅳ	1	
	管理栄養士演習Ⅴ	2	必修
	臨地実習		
	臨地実習Ⅰ（給食の運営）	1	必修
	臨地実習Ⅱ（臨床栄養学）	2	
	臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1	
	専門発展分野		
	実践実習科目		
	応用食事療法実習	1	
	福祉栄養管理実習	1	
	フードマネジメント実習	1	
	フードサービスマネジメント実習	1	
	地域保健活動実習	1	
	地域の食・健康活動実習	1	
	共通選択科目		
	卒業研究Ⅰ	1	
	卒業研究Ⅱ	1	
	卒業研究Ⅲ	1	
	特別講義Ⅰ	2	
	特別講義Ⅱ	2	
	特別講義Ⅲ	2	
	特別講義Ⅳ	2	
	特別講義Ⅴ	2	
	特別講義Ⅵ	2	
	特別講義Ⅶ	2	
	特別講義Ⅷ	2	
	栄養教諭選択科目		
	学校栄養教諭論	2	
	学校食育指導論	2	
	計	122	

別表第3 教育の基礎的理解に関する科目等（幼）

施行規則に定める科目区分等			本学における科目等			
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数		履修方法等
				必	選	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育の原理	2		1科目2単位必修
	教育の歴史			2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論		2	
	保育者論			2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の制度	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		生涯発達心理学		2	
	教育心理学		2			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育・保育Ⅰ	1		
等指指学道に導導習徳、関、法の時総す教及時総る育び間合科相生等的目談徒のな	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	教育の方法	2		
	幼児理解の理論及び方法		子どもの理解と援助	2		
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習Ⅰ1（幼稚園）事前・事後指導	1	1	
	学校体験活動		教育実習Ⅰ2（小学校）事前・事後指導	2		
			教育実習Ⅱ1（幼稚園）	1		
			教育実習Ⅱ2（幼稚園）	2		
教育実習Ⅲ1（小学校）	2					
教育実習Ⅲ2（小学校）	2					
教育インターンシップ（幼稚園）	1					
教職実践演習	2	保育・教職実践演習		2	1科目2単位必修	
教職実践演習（小学校）			2			
領域及び保育内容の指導法に関する科目	指導領域及び関係する内容の科目	（保育内容の情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容総論	1	2	
	幼児指導論		2			
	保育内容指導法（健康）		1			
	保育内容指導法（人間関係）		1			
	保育内容指導法（環境）		1			
	保育内容指導法（言葉）		1			
	保育内容指導法（表現）		1			
	子どもの教育とメディア		2			
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	子どもと健康	2	1	
		人間関係	子どもと人間関係	2		
		環境	子どもと環境	2		
		言葉	子どもと言葉	2		
		表現	子どもと表現	2		
			音楽表現活動	1		
			絵画・造形表現活動	1		
			運動・身体表現活動	1		
			実践遊び学			
		領域及び保育内容の指導法に関する複数の事項を合わせた内容に係る科目				
計			39	25		

別表第3 教育の基礎的理解に関する科目等（小）

施行規則に定める科目区分等			本学における科目等				
科目	各科目に含めることが 必要な事項		単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		10	教育の原理 教育の歴史	2	2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			教職論	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			教育の制度	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			生涯発達心理学 教育心理学	2	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育・保育Ⅰ	1		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			教育課程論	2		
の道徳、相談法等に及びる関連する科目	道徳の理論及び指導法		10	道徳教育論	2		
	総合的な学習の時間の指導法			総合的な学習の時間の指導法	2		
	特別活動の指導法			特別活動論	2		
	教育の方法及び技術			教育の方法	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			ICT教育実践研究	1		
	生徒指導の理論及び方法			生徒・進路指導	2		
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			教育相談	2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
教育実践に関する科目	教育実習		5	教育実習Ⅰ 1（幼稚園）事前・事後指導		1	
				教育実習Ⅰ 2（小学校）事前・事後指導	1		
				教育実習Ⅱ 1（幼稚園）		2	
				教育実習Ⅲ 1（小学校）	2		
				教育実習Ⅲ 2（小学校）	2		
	学校体験活動			教育インターンシップ（小学校）		1	
教科及び教科の指導法に関する科目	教職実践演習		2	教職実践演習（小学校）	2		
	教科に関する専門的事項	国語（書写を含む。）	教育内容（国語）		2	4科目8単位以上必修	
		社会	教育内容（社会）		2		
		算数	教育内容（算数）		2		
		理科	教育内容（理科）		2		
		生活	教育内容（生活）		2		
		音楽	教育内容（音楽）		2		
		図画工作	教育内容（図画工作）		2		
		家庭	教育内容（家庭）		2		
		体育	教育内容（体育）		2		
外国語	教育内容（英語）	2					
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
教科及び教科の指導法に関する科目	及び各教科教材の指導用法を含む。機器	国語（書写を含む。）	国語科指導法	2			
		社会	社会科指導法	2			
		算数	算数科指導法	2			
		理科	理科指導法	2			
		生活	生活科指導法	2			
		音楽	音楽科指導法	2			
		図画工作	図画工作科指導法	2			
		家庭	家庭科指導法	2			
		体育	体育科指導法	2			
		外国語	英語科指導法	2			
大学が独自に設定する科目			授業研究		2		
			教育指導法実践研究Ⅰ		1		
			教育指導法実践研究Ⅱ		1		
計				53	30		

別表第3 特別支援教育に関する科目

免許法施行規則に定める 科目区分		単位数	本学における科目等			
			授業科目	単位数		履修方法等
				必	選	
特別支援教育の基礎理論に関する科目		2	特別支援教育論	2		
特別 支 援 の 教 育 科 目 領 域 に 関	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	16	知的障害児の心理	2		
			知的障害児の生理・病理	2		
			肢体不自由児の心理	2		
			肢体不自由児の生理・病理	2		
			病弱児の心理	2		
			病弱児の生理・病理	2		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		知的障害教育	2		
			肢体不自由教育	2		
			病弱教育	2		
域特れ免 関以別る許 す外支こ状 るの援とに 科領教と定 目域育なめ に領るら	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	5	LD・ADHD等の理解と指導法	1		
			重複障害児の理解と指導法	1		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		視覚障害児の理解と指導法	1		
			聴覚・言語障害児の理解と指導法	1		
			情緒障害児の理解と指導法	1		
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習		3	教育実習Ⅰ 3（特別支援学校）事前・事後指導	1		
			教育実習Ⅳ（特別支援学校）	2		
			計	28		

別表第3 教育の基礎的理解に関する科目等（中高）

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学授業科目			
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数		履修方法等
				必	選	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育の原理	2		栄
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論	2		栄
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の制度	2		栄
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2		栄
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	2		栄
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論	1		栄
道徳、生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳教育論	2		栄 中免のみ
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導	2		栄
	特別活動の指導法		特別活動論	2		栄
	教育の方法及び技術		教育方法論	1		栄
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		情報通信技術の活用	1		
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導	2		栄 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む。
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		栄
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	教育実習Ⅰ		4	中一種免については「教育実習Ⅰ」必修、高一種免については「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」から1科目選択必修
			教育実習Ⅱ		2	
			事前・事後指導	1		
	学校体験活動					
	教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2		
			計	26	6	

別表第4 教育の基礎的理解に関する科目等（栄養教諭）

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学授業科目			
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数		履修方法等
				必	選	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育の原理	2		中・高
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論	2		中・高
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の制度	2		中・高
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2		中・高
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	2		中・高
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論	1		中・高
道徳、総合的な学習の時間、生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育論	2		中・高
			総合的な学習の時間の指導	2		
			特別活動論	2		
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法論	1		中・高
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導	2		中・高
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		中・高
関連する実践科目	栄養教育実習	2	栄養教諭教育実習	1		
			栄養教諭教育実習事前・事後指導	1		
	教職実践演習	2	教職実践演習（栄養教諭）	2		
			計	26		

別表第5 図書館学に関する科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考		
			司書	司書教諭	学校司書
学芸学部	生涯学習概論	2	必修		
日本語日本文学科	図書館概論	2	必修		
国際コミュニケーション学科	図書館制度・経営論	2	必修		
子ども教育学科	図書館情報技術論	2	必修		必修
但し子ども教育学科は司書教諭、学校司書科目に限る	図書館サービス概論	2	必修		
メディア情報学科	情報サービス論	2	必修		
	児童サービス論	2	必修		
	情報サービス演習Ⅰ	1	必修		
	情報サービス演習Ⅱ	1	必修		
	図書館情報資源概論	2	必修		必修
	情報資源組織論Ⅰ	2	必修		必修
	情報資源組織論Ⅱ	2	必修		必修
	情報資源組織演習Ⅰ	1	必修		必修
	情報資源組織演習Ⅱ	1	必修		必修
	図書館基礎特論	2	選択必修4		
	図書館サービス特論Ⅰ	2			
	図書館サービス特論Ⅱ	2			
	図書館施設論	2			
	図書・図書館史	2	必修		
	図書館実習（事前・事後の指導を含む）	2			
	学校経営と学校図書館	2		必修	必修
	学校図書館メディアの構成	2		必修	
	学習指導と学校図書館	2		必修	必修
	読書と豊かな人間性	2		必修	必修
	情報メディアの活用	2		必修	
	学校図書館サービス論	2			必修
	学校図書館情報サービス論	2			必修
	学校教育概論	2			必修
	計	52	30	10	22

別表第6 保育士に関する科目

学部学科	告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					授業 時間 (時間)	備 考	
	系列	教科目	授業 形態	開 設 単位数	左に対応して開設されている 教科目	授業 形態	配当 年次	単位数				
								必修	選択			
学芸学部 子ども教育学科	教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	さがみ総合講座	講義	1	2			6単位必修	
					基礎教育講座	講義	1	2				
					日本国憲法	講義	1		2			
	教養科目	外国語	演習	2以上	英語Ⅰ	演習	1		1			2単位必修
					英語Ⅱ	演習	1		1			
					英語Ⅲ	演習	1		1			
					英語Ⅳ	演習	1		1			
					中国語Ⅰ	演習	1		1			
					中国語Ⅱ	演習	1		1			
					中国語Ⅲ	演習	1		1			
					中国語Ⅳ	演習	1		1			
					韓国／朝鮮語Ⅰ	演習	1		1			
					韓国／朝鮮語Ⅱ	演習	1		1			
					韓国／朝鮮語Ⅲ	演習	1		1			
					韓国／朝鮮語Ⅳ	演習	1		1			
					フランス語Ⅰ	演習	1		1			
					フランス語Ⅱ	演習	1		1			
					フランス語Ⅲ	演習	1		1			
					ドイツ語Ⅰ	演習	1		1			
					ドイツ語Ⅱ	演習	1		1			
					ドイツ語Ⅲ	演習	1		1			
					イタリア語Ⅰ	演習	1		1			
					イタリア語Ⅱ	演習	1		1			
					スペイン語Ⅰ	演習	1		1			
					スペイン語Ⅱ	演習	1		1			
		体育	講義	1	ウェルネス	講義	1		2		2単位必修	
					身体の科学	講義	1		2			
			実技	1	球技スポーツ	実技	1		1		1単位必修	
					ラケットスポーツ	実技	1		1			
					健康スポーツ	実技	1		1			
						シーゾンスポーツ	実技	1			1	
		10単位以上				計			4		32	
	24（≥10単位）											

別表第6 保育士に関する科目

学部学科	告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					授業 時間 (時間)	備 考
	系列	教科目	授業 形態	開 設 単位数	左に対応して開設されている 教科目	授業 形態	配当 年次	単位数			
								必修	選択		
学芸学部 子ども教育学科	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育の原理	講義	1	2		30	
		教育原理	講義	2	教育の原理	講義	1	2		30	
		子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	1	2		30	
		社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2	2		30	
		子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2	2		30	
		社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ(原理)	講義	2	2		30	
		保育者論	講義	2	保育者論	講義	1	2		30	
	保育の 対象の 理解に 関	保育の心理学	講義	2	生涯発達心理学	講義	1	2		30	
		子ども家庭支援の心理学	講義	2	子育て支援の心理学	講義	2	2		30	
		子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助	演習	2	2		30	
		子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2	2		30	
		子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食事と栄養	演習	3	2		30	
	保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育カリキュラム論	講義	2	2		30	
		保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	1	1		30	
		保育内容演習	演習	5	保育内容指導法(健康)	演習	1	1		30	
					保育内容指導法(人間関係)	演習	2	1		30	
					保育内容指導法(環境)	演習	2	1		30	
					保育内容指導法(言葉)	演習	2	1		30	
					保育内容指導法(表現)	演習	3	1		30	
		保育内容の理解と方法	演習	4	音楽表現活動	演習	2	1		30	
					絵画・造形表現活動	演習	2	1		30	
					運動・身体表現活動	演習	1	1		30	
					保育表現活動	演習	3	1		30	
		乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	1	2		30	
		乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	2	1		30	
		子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	3	1		30	
		障害児保育	演習	2	特別支援教育・保育Ⅰ	演習	2	1		30	
					特別支援教育・保育Ⅱ	演習	2	1		30	
		社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ(内容)	演習	3	1		30	
		子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	3	1		30	
	保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ(保育所)	実習	3	2		90	
					保育実習Ⅰ(施設)	実習	3	2		90	
		保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ(保育所)	演習	3	1		30	
					保育実習指導Ⅰ(施設)	演習	3	1		30	
	総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習	演習	4	2		30	
	合 計			5 1 単位	計			52	0		
					5 2 単位 (≧ 5 1 単位)						

別表第6 保育士に関する科目

学部学科	告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等						授業時間 (時間)	備 考
	系列	教科目	授業 形態	開 設 単位数	左に対応して開設されている 教科目	授業 形態	配当 年次	単位数				
								必修	選択			
学芸学部 子ども教育学科	に質保 科関・育 目す目的本	各指定保育士 養成施設に おいて設定	15 単 位 以 上	教育とジェンダー	講義	3		2	30	13単位必修 (保育実習 2単位、保 育実習指導 1単位以上 含む)		
				教育心理学	講義	1		2	30			
				子どもの教育とメディア	講義	2		2	30			
				保育指導法実践研究	演習	3	1		30			
				幼児指導論	講義	3		2	30			
	保育の 内容・方 法に関 する科 目			子育て支援実践研究	演習	3	1		30			
				英語遊び指導法	演習	4		1	30			
				音楽Ⅰ	演習	1		1	30			
				音楽Ⅱ	演習	1		1	30			
				音楽Ⅲ	演習	2		1	30			
				音楽Ⅳ	演習	2		1	30			
				実践遊び学	演習	1	1		30			
				手話の基礎	演習	2	1		30			
				点字の基礎	演習	2	1		30			
	保育 実習			保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習Ⅱ（保育所）	実習	4			2
		保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅲ（施設）	実習	4		2	90		
		保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習指導Ⅱ（保育所）	演習	4		1	30	1単位必修	
		保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅲ（施設）	演習	4		1	30		
	合 計			18単位以上	計				5	19		
					24単位（≧18単位）							
注記。 児童福祉法施行規則第6条の2第1項第6号に基づき、保育士に関する演習・実習科目の履修生数は、50人以下とする。												

注記. 児童福祉法施行規則第6条の2第1項第6号に基づき、保育士に関する演習・実習科目の履修生数は、50人以下とする。

別表第7 博物館に関する科目

学部学科	施行規則に定める科目		本学における科目		
	科目名	単位数	授業科目	単位数	備考
学芸学部 メディア情報学科	生涯学習概論	2	生涯学習とメディア	2	必修
	博物館概論	2	ミュージアム概論	2	必修
	博物館経営論	2	ミュージアム経営論	2	必修
	博物館資料論	2	アーカイブ論	2	必修
	博物館資料保存論	2	アーカイブ管理論	2	必修
	博物館展示論	2	空間プレゼンテーション論	2	必修
	博物館教育論	2	ミュージアム教育論	2	必修
	博物館情報・メディア論	2	情報・メディア論	2	必修
	博物館実習	3	博物館実習	3	必修
	計	19	計	19	

別表第8 上級情報処理士に関する科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
学芸学部 メディア情報学科	領域1		
	情報処理概論	2	必修
	インターネットとビジネス	2	
	メディアデザイン	2	
	デジタルデザイン	2	
	プログラミング基礎	2	
	電子メディア論	2	
	デジタルプレゼンテーション演習	2	
	情報管理論	2	
	領域2		
	メディアと法	2	必修
	情報社会論	2	必修
	Webデザイン基礎	2	
	アニメーション技法	2	
	データベース論	2	
	データベース演習	2	
	Webデザイン応用	2	
	プログラミング応用	2	
	情報通信ネットワーク論	2	
	情報通信ネットワーク演習	2	
	ビジュアルエフェクト演習	2	
	アプリケーション開発	2	
	領域3		
	ゼミナールⅠ	2	必修
	メディアワークⅠ	2	
	メディアワークⅡ	2	
	メディアワークⅢ	2	
	プロジェクトワークⅠ	2	
	プロジェクトワークⅡ	2	
	ゼミナールⅡ	2	
	合 計	54	必修科目を含め合計24単位以上

別表第9 ビジネス実務士取得に関する科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
学芸学部 メディア情報学科	領域 1		
	ビジネス実務総論	2	必修
	マーケティング論	2	
	マネジメント論	2	
	領域 2		
	流通論	2	必修
	プロモーションとサービス	2	
	マーケティングリサーチ	2	
	領域 3		
	ゼミナールI	2	必修
	ゼミナールII	2	
	合計	16	総計10単位以上

別表第10 ウェブデザイン実務士取得に関する科目

学部学科	規則等に規定する教育内容	該当授業科目	必修・選択の別	単位数	備考
学芸学部 メディア情報学科	必修科目	領域 1			
		Webデザイン基礎	必修	2	
		情報リテラシー	必修	1	
		領域 2			
		デジタルデザイン	必修	2	
		Webデザイン応用	必修	2	
		領域 3			
		Webデザイン実践	必修	2	
		小計		9	
	選択必修科目	領域 1			12単位必修
		メディアと法	選択必修	2	
		領域 2			
		色彩文化論	選択必修	2	
		3DCG基礎	選択必修	2	
		アニメーション技法	選択必修	2	
		アプリケーション開発	選択必修	2	
		領域 3			
		コンセプト構想論	選択必修	2	
		小計		12	
		合計		21	

別表第11 一級・二級建築士試験指定科目

学部学科	分 野	授 業 科 目 名	単位数	一級建築士				二級建築士			
学芸学部	①建築設計 製図	製図Ⅱ	1	7 単位 必修	7 単位 必修	3 単位 必修	3 単位 必修	3 単位 必修			
		空間デザイン	2								
		建築デザインⅡ	2								
		インテリアデザインⅡ	2								
		建築デザインⅢ	2								
	②建築計画	住宅デザインの歴史	2	7 単位 必修	7 単位 必修	2 単位 必修	2 単位 必修	2 単位 必修			
		建築の歴史	2								
		住宅計画	2								
		空間デザインと計画	2								
	③建築環境 工学	空間デザインと環境	2	2	2						
	④建築設備	空間デザインと設備	2	2	2						
	⑤構造力学	空間デザインと構造	2	4 単位 必修	50 単位 必修	4 単位 必修	40 単位 必修	40 単位 必修	30 単位 必修		20 単位 必修
		建築構造	2								
	⑥建築一般 構造	空間デザインと構法	2	3 単位 必修		3 単位 必修	3 単位 必修	3 単位 必修	3 単位 必修		
		建築構法演習	1								
	⑦建築材料	空間デザインと材料	2	2	2						
	⑧建築生産	建築施工	2	2	2	2		2		2	
	⑨建築法規	建築法規	2	2	2	2	2		2		2
	⑩その他	空間構成	2								
		製図Ⅰ	1								
		CADⅠ	2								
		CADⅡ	2								
		CADⅢ	2								
		人間工学	2								
		インテリアデザインⅠ	2								
		福祉住環境演習	1								
		建築デザインⅠ	2								
合計単位数			50								
免許登録時に必要となる建築実務の経験			3年	4年	0年	1年	2年				

別表第12 インテリアプランナー登録資格に関する科目

学部学科	区分	科目名称	単位数	備考
学芸学部 生活デザイン学科	インテリア関連科目	デザイン史Ⅰ	2	A (36単位-B-C) 単位以上
		デザイン史Ⅱ	2	
		色彩論	2	
		空間構成	2	
		立体構成	1	
		デザインスケッチ	1	
		モデルメイキングⅠ	2	
		建築の歴史	2	
		住宅デザインの歴史	2	
		デザインの入り口	2	
	インテリア専門科目	住宅計画	2	B (24単位-C) 単位以上
		人間工学	2	
		空間デザインと環境	2	
		空間デザインと設備	2	
		造形心理	2	
		空間デザインと材料	2	
		ファブリック概論	2	
		空間デザインと構法	2	
		建築構法演習	1	
		空間デザインと構造	2	
		建築施工	2	
		建築法規	2	
		建築デザインⅠ	2	
		空間デザイン	2	
		製図Ⅰ	1	
		CADⅠ	2	
		CADⅡ	2	
		CADⅢ	2	
		空間デザインと計画	2	
		インテリアデザインⅠ	2	
		インテリアコーディネート演習	1	
		インテリアデザインⅡ	2	C (1単位以上必修)
		製図Ⅱ	1	
		建築デザインⅡ	2	
		建築デザインⅢ	2	
	合計		64	36単位以上

別表第13 商業施設士（補）に関する科目

群	区分	内容／考えられる科目の一例	科目名称	単位数	備考
A-1	商業一般	商業一般に関する科目 《考えられる科目名の一例》 消費経済学 生活概論 マーケティング論 流通論 など	環境学	2	2区分以上にわたり 30単位以上
			スモールビジネス	2	
			デザインとビジネス	2	
			デザインの入り口	2	
A-2	業態計画	商業施設の構成に関する科目 《考えられる科目名の一例》 まちづくり論 商空間計画論 空間演出論 スペースデザイン論 など	色彩論	2	
			人間工学	2	
			造形心理	2	
A-3	計画一般	商業施設の企画、商業施設の計画、法規、安全計画、展示・装置計画、設計に関する科目 《考えられる科目名の一例》 インテリアデザイン 店舗(小売業)計画 安全設備論 展示学 など	空間構成	2	
			立体構成	1	
			モデルメイキングⅠ	2	
			モデルメイキングⅡ	2	
			インテリアデザインⅠ	2	
			インテリアデザインⅡ	2	
			デザイン史Ⅰ	2	
			デザイン史Ⅱ	2	
A-4	施設計画	建築一般に関する科目 《考えられる科目名の一例》 建築計画学 建築法規 建築史 都市計画 など	空間デザインと環境	2	
			住宅デザインの歴史	2	
			住宅計画	2	
			建築の歴史	2	
			空間デザイン	2	
			建築デザインⅠ	2	
			建築デザインⅡ	2	
			空間デザインと構造	2	
			空間デザインと計画	2	
			建築法規	2	
A-5	監理・施工	商空間の工事監理・施工に関する科目 《考えられる科目名の一例》 建築施工 材料 積算・見積り 安全管理 など	建築構法演習	1	どちらかの区分で 4単位以上
			プロダクトデザインⅠ	2	
			プロダクトデザインⅡ	2	
			空間デザインと材料	2	
			空間デザインと構法	2	
			空間デザインと設備	2	
			建築施工	2	
			建築構造	2	
B-1	図案表現	設計・製図・CAD・CGなどにより、商業施設を構想し表現することに関する科目 《考えられる科目名の一例》 インテリアデザイン演習 表現法演習 設計・製図実習 CADなど	製図Ⅰ	1	
			CADⅠ	2	
			製図Ⅱ	1	
			デザインスケッチ	1	
B-1	文章表現	プレゼン・マーケティング・コンサルにより、商業施設を構想し表現することに関する科目 《考えられる科目名の一例》 マーケティング戦略演習 プレゼン力 分析・解析技法 など	CADⅡ	2	
			プレゼンテーションスキル	1	
			CADⅢ	2	
			3DCG演習	2	

別表第14 プレゼンテーション実務士に関する科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
人間社会学部 社会マネジメント学科	1. 領域1		
	プレゼンテーション概論	2	必修
	プレゼンテーション演習Ⅰ	2	}
	プレゼンテーション演習Ⅱ	2	
	日本語表現法	2	
	2. 領域2		
	プレゼンテーション演習Ⅲ	2	必修
	社会人デビュー講座（基礎編）	1	}
	社会人デビュー講座（応用編）	1	
	統計基礎	2	
	映像で学ぶ近現代史Ⅰ	2	
	3. 領域3		
	基礎教育講座	2	必修
	地域で学ぶ社会のしくみ	1	}
	日本語スキルアップ講座	2	
計		21	

別表第15 社会調査士に関する科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
人間社会学部			
社会マネジメント学科	A 社会調査の基本的事項に関する科目 社会調査法概論	2	必修
	B 調査設計と実施方法に関する科目 社会調査法演習	2	必修
	C 基本的な資料とデータの分析に関する科目 統計基礎	2	必修
	D 社会調査に必要な統計学に関する科目 応用統計学	2	必修
	E 量的データ解析の方法に関する科目 集計・分析の技法	2	} 2単位必修
	F 質的な分析の方法に関する科目 フィールドワークの技法	2	
	G 社会調査の実習を中心とする科目 ゼミナールⅠ	2	} 4単位以上 ただし同一科目をⅠ・Ⅱ連続で履修し単位を修得しなければならない
	ゼミナールⅡ	2	
	社会調査法実習Ⅰ	2	
	社会調査法実習Ⅱ	2	
	地域連携プロジェクト演習Ⅰ	2	
	地域連携プロジェクト演習Ⅱ	2	
	計	24	

別表第16 社会福祉士国家試験の受験資格に関する科目

学部学科	項目		該当授業科目	授業形態	単位数	時間数	備考
人間社会学部 社会マネジメント学科 人間心理学科	規則等に規定する教育内容	一 医学概論	人体の構造と機能及び疾病	講義	2	30	必修
		二 心理学と心理的支援	心理学概論	講義	2	30	必修
		三 社会学と社会システム	社会学と社会システム	講義	2	30	必修
		四 社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策Ⅰ	講義	2	30	必修
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	講義	2	30	必修
		五 社会福祉調査の基礎	社会調査法概論	講義	2	30	必修
		六 ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2	30	必修
		七 ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2	30	必修
		八 ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	講義	2	30	必修
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	講義	2	30	必修
		九 ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	講義	2	30	必修
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	講義	2	30	必修
		十 地域福祉と包括的支援体制	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	講義	2	30	必修
			地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	講義	2	30	必修
		十一 福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	講義	2	30	必修
		十二 社会保障	社会保障法Ⅰ	講義	2	30	必修
			社会保障法Ⅱ	講義	2	30	必修
		十三 高齢者福祉	高齢者福祉	講義	2	30	必修
		十四 障害者福祉	障害者福祉	講義	2	30	必修
		十五 児童・家庭福祉	児童・家庭福祉	講義	2	30	必修
		十六 貧困に対する支援	生活保護制度	講義	2	30	必修
		十七 保健医療と福祉	保健医療と福祉	講義	2	30	必修
		十八 権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	講義	2	30	必修
		十九 刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	講義	2	30	必修
		二十 ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習（基礎）	演習	1	30	必修
		二十一 ソーシャルワーク演習（専門）	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	演習	1	30	必修
			ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	演習	2	60	必修
			ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	演習	1	30	必修
		二十二 ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	演習	1	30	必修
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		演習	1	30	必修	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		演習	1	30	必修	
	二十三 ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習Ⅰ	実習	2	60	必修	
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	実習	6	180	必修	
本学独自に規定する教育内容		社会福祉士試験対策講座Ⅰ	講義	2	30		
		社会福祉士試験対策講座Ⅱ	講義	2	30		
	計				68	64単位以上	

別表第17 准学校心理士に関する科目

学部学科	授業科目	単位数	備考
人間社会学部人間心理学科	教育・学校心理学	2	必修
	発達心理学	2	必修
	障害者・障害児心理学	2	必修
	福祉心理学	2	必修
	心理的アセスメント	2	必修
	心理学的支援法	2	必修
	計	12	

別表第18 ピアヘルパーに関する科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
人間社会学部			
人間心理学科	心理学的支援法	2	} 4単位必修
	青年心理学	2	
	カウンセリング・スキル	2	
	計	6	

別表第19 公認心理師国家試験の受験資格に関する科目

学部学科	公認心理師法施行規則に定める科目	学則に定める本学開講科目	単位数	備考
人間社会学部 人間心理学科	公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	必修
	心理学概論	心理学概論	2	必修
	臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	必修
	心理学研究法	心理学研究法	2	必修
	心理学統計法	心理学統計法Ⅰ	2	必修
	心理学実験	心理学実験演習Ⅰ	2	必修
	知覚・認知心理学	知覚・認知心理学Ⅰ（知覚心理学）	2	必修
		知覚・認知心理学Ⅱ（認知心理学）	2	必修
	学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	必修
	感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	必修
	神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	必修
	社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	必修
	発達心理学	発達心理学	2	必修
	障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	必修
	心理的アセスメント	心理的アセスメント	2	必修
	心理学的支援法	心理学的支援法	2	必修
	健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	必修
	福祉心理学	福祉心理学	2	必修
	教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	必修
	司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	必修
	産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	必修
	人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	必修
	精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2	必修
	関係行政論	関係行政論	2	必修
	心理演習	心理演習	2	必修
	心理実習	心理実習指導Ⅰ	1	必修
		心理実習指導Ⅱ	1	必修
		心理実習	2	必修
	計		54	

別表第20 フードコーディネーター3級に関する科目

学部学科	授業科目	単位数	備 考
人間社会学部 地域クリエーション学科	食文化論	2	必修
	ホスピタリティ概論	2	必修
	フードデザイン実習（応用調理）	1	必修
	メニュー開発論	2	必修
	テーブルコーディネート論(演習含む)	2	必修
	ホスピタリティ実践	1	必修
	フードデザイン実習（基礎調理）	1	必修
	食品の化学	2	必修
	公衆衛生学	2	必修
	食品衛生学	2	必修
	調理科学	2	必修
	フードプランニング論	2	必修
	健康と栄養	2	必修
	計	23	

別表第21 健康栄養学科における栄養士免許取得に関する科目

学部学科	規則等に規定する教育内容	単位数		該当授業科目	単位数		
		講義 又は 演習	実験 又は 実習		講義 又は 演習	実験又 は実習	
栄養科学部 健康栄養学科	社会生活と健康	4	4	公衆衛生学	2		
				社会福祉論	2		
				社会生活と健康の小計		4	
	人体の構造と機能	8		解剖生理学	2		
				解剖生理学実習		1	
				運動生理学	2		
				生化学	2		
				生化学実験		1	
				臨床医学	2		
	人体の構造と機能の小計			8	2		
	食品と衛生	6	食品学総論	2			
			食品学各論	2			
			食品学実験		1		
			食品衛生学	2			
			食品衛生学実験		1		
			微生物学	2			
			食品と衛生の小計		8	2	
	栄養と健康	8	10	栄養学総論	2		
				ライフステージの栄養学Ⅰ	2		
				ライフステージの栄養学Ⅱ	2		
				ライフステージの栄養学実習		1	
				運動栄養学	2		
				臨床栄養学	2		
臨床栄養学実習					1		
栄養と健康の小計				10	2		
栄養の指導	6	公衆栄養学		2			
		栄養士入門		2			
		栄養指導論	2				
		栄養士基礎実習		1			
		栄養指導論実習		1			
栄養の指導の小計		6	2				
給食の運営	4	給食管理論Ⅰ	2				
		給食管理論Ⅱ	2				
		給食管理実習（校内）		2			
		給食管理実習（校外）		1			
		校外実習事前事後指導	1				
		調理学	2				
		調理科学実験		1			
		調理学実習Ⅰ		1			
		調理学実習Ⅱ		1			
		給食の運営の小計		7	6		
小計	36	14	小計	43	14		
合計	50		合計	57			

別表第22 フードスペシャリスト・専門フードスペシャリストに関する科目

学部学科	規定科目	単位数	該当授業科目	単位数	備 考
栄養科学部 健康栄養学科	フードスペシャリスト論	2 単位以上	フードスペシャリスト論	2	必修
	食品の官能評価・鑑別論 〔統計処理を含む〕	次のいずれかを含む授業が行われること (1) 演習 2 単位以上 (2) 講義 2 単位以上及び演習 1 単位以上 (3) 講義 1 単位以上及び実験もしくは実習 1 単位以上	食品官能評価・鑑別演習	2	必修
	食物学（食品学、食品加工学、食商品学等）に関する科目	講義 4 単位以上及び実験又は実習 1 単位以上	食品学総論	2	必修
			食品学各論	2	必修
			食品学実験	1	必修
	食品の安全性（食品衛生、食中毒、有害物質、食品添加物、水質等）に関する科目	2 単位以上	微生物学	2	必修
			食品衛生学	2	必修
			食品衛生学実験	1	必修
	調理学（調理科学を含む）に関する科目	講義 2 単位以上及び実験又は実習 2 単位以上	調理学	2	必修
			調理科学実験	1	必修
			調理学実習Ⅰ	1	必修
			調理学実習Ⅱ	1	必修
	栄養と健康に関する科目 〔食品機能論を含む〕	2 単位以上	栄養学総論	2	} 2単位以上
食品機能論			2		
食品流通・消費に関する科目 〔マーケティングリサーチを含む〕	2 単位以上	消費者商品学	2	} 2単位以上	
		消費経済学	2		
		ブランド戦略・商品開発論	2		
		マーケティング・経営戦略論	2		
		マーケティング論	2		
		プロモーションとサービス流通論	2		
フードコーディネート論	2 単位以上	フードコーディネート論	2	} 2単位以上	
		フードコーディネート論実習	1		
計				40	

別表第23 食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する科目

学部学科	規則等に規定する科目群	基本科目名	左記基本科目に該当する 本学の授業科目名	単位数	地域クリエーション学科	健康栄養学科	管理栄養学科		
人間社会学部 地域クリエーション学科 栄養科学部 健康栄養学科 管理栄養学科	A群 化学関係	分析化学	基礎化学	2	○				
			基礎化学実験	1	○				
			基礎科学実験	1			○		
		有機化学	有機化学	2		○			
	B群 生物化学 関係	生物化学	生化学	2	○	○			
			生化学Ⅰ	2			○		
			生化学Ⅱ	2			○		
			生化学実験	1		○	○		
		生理学	栄養生理学	2	○				
		食品化学	食品学総論	2		○	○		
			食品学各論	2		○	○		
			調理科学	2			○		
			食品の化学	2	○				
		食品分析学	食品学実験Ⅰ	1			○		
			食品学実験Ⅱ	1			○		
			食品学実験	1		○			
			調理科学実験	1		○			
			食品官能評価・鑑別演習	2		○			
	C群 微生物学 関係		微生物学	微生物学	2	○	○	○	
		食品製造学	食品加工学	2		○			
			食品加工学実習	1		○			
		食品微生物学	発酵・醸造学	2	○				
	D群 公衆衛生学 関係	公衆衛生学	公衆衛生学	2	○	○			
			公衆衛生学Ⅰ	2			○		
			公衆衛生学Ⅱ	2			○		
			食と環境	2	○				
		食品衛生学	食品衛生学	2	○	○	○		
			食品衛生学実験	1	○	○	○		
	食品安全学	2	○						
	合計（A群+B群+C群+D群）					22単位以上			
	E群 その他の 関連科目	水産化学、畜産化学、放射線化学、乳化学、食肉化学、高分子化学、生物有機化学、環境汚染物質分析学、酵素化学、食品理化学、水産生理学、家畜生理学、植物生理学、環境生物学、応用微生物学、酪農微生物学、病理学、医学概論、解剖学、医科学、産業医学、血液学、血清学、遺伝学、寄生虫学、獣医学、栄養化学、衛生統計学、栄養学、環境保健学、衛生管理学、水産製造学、畜産品製造学、農産物製造学、醸造調味食品製造学、乳製品製造学、缶詰工学、食品工学、食品保存学、冷凍冷蔵学、品質管理学、等	●講義科目						
			栄養学総論	2		○			
			ライフステージの栄養学Ⅰ	2		○			
			ライフステージの栄養学Ⅱ	2		○			
			臨床医学	2		○			
			臨床栄養学	2		○			
			公衆栄養学	2		○			
			解剖生理学	2		○			
			運動栄養学	2		○			
			基礎栄養学	2			○		
応用栄養学Ⅰ			2			○			
応用栄養学Ⅱ			2			○			
解剖生理学Ⅰ			2			○			
解剖生理学Ⅱ			2			○			
臨床医学Ⅰ			2			○			
臨床医学Ⅱ			2			○			
公衆栄養学Ⅰ			2			○			
健康と栄養			2	○					
栄養機能学			2	○					
ライフステージと食			2	○					
地域栄養学			2	○					
生物と生態系			2	○					
食品加工と保蔵			2	○					
調理科学			2	○					
食品分析学			2	○					
フードプランニング論			2	○					
●実習科目									
ライフステージの栄養学実習			1		○				
応用栄養学実習			1			○			
臨床栄養学実習			1		○				
解剖生理学実習			1		○				
保健統計学実習			1			○			
基礎栄養学実験			1			○			
栄養マネジメント実習			1	○					
食品加工学実習			1	○					
食安全マネジメント演習			1	○					
合計（E群）			20単位以上	18単位以上					
最低必要単位数 総合計（A群+B群+C群+D群+E群）					42単位以上	40単位以上			

別表第24 管理栄養学科における栄養士免許取得に関する科目

学部学科	規則等に規定する講義内容	単位数		該当授業科目	単位数	
		講義 又は 演習	実験又 は実習		講義 又は 演習	実験 又は 実習
栄養科学部 管理栄養学科	社会生活と健康	4	4	公衆衛生学Ⅰ	2	
				保健介護福祉論	2	
				社会生活と健康の小計		4
	人体の構造と機能	8		解剖生理学Ⅰ	2	
				解剖生理学Ⅱ	2	
				解剖生理学実習		1
				生化学Ⅰ	2	
				生化学実験		1
				臨床医学Ⅰ	2	
				人体の構造と機能の小計		8
	食品と衛生	6		食品学総論	2	
				食品学各論	2	
				食品学実験Ⅰ		1
				食品衛生学	2	
				食品衛生学実験		1
				食品と衛生の小計		6
	栄養と健康	8		基礎栄養学	2	
				基礎栄養学実験		1
				食事摂取基準論	2	
				応用栄養学Ⅰ	2	
				応用栄養学Ⅱ	2	
				応用栄養学実習		1
	栄養と健康の小計			8	2	
栄養の指導	6	10	栄養教育論Ⅰ	2		
			栄養教育実践活動論	2		
			栄養教育実習		1	
			食事療法実習		1	
			臨床栄養管理実習		1	
			公衆栄養学Ⅰ	2		
			公衆栄養学実習		1	
			栄養の指導の小計		6	4
給食の運営	4		給食経営管理論Ⅰ	2		
			給食経営管理論Ⅱ	2		
		給食経営管理実習		2		
		調理学実習		1		
		臨地実習Ⅰ（給食の運営）		1		
		給食の運営の小計		4	4	
小計	36	14	小計	36	14	
合計	50		合計	50		

別表第25 管理栄養学科における管理栄養士国家試験の受験資格を得るための科目

学部学科	規則等に規定する教育内容	単位数		該当授業科目	単位数	
		講義 又は 演習	実験 又は 実習		講義 又は 演習	実験 又は 実習
栄養科学部 管理栄養学科	専門基礎分野	社会・環境と健康	6	公衆衛生学Ⅰ 公衆衛生学Ⅱ 保健統計学実習 保健介護福祉論 社会・環境と健康の小計	2 2 2 2 6	1
		人体の構造と機能 及び疾病の成り立ち	14	生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実験 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 臨床医学Ⅰ 臨床医学Ⅱ 解剖生理学実習 臨床検査実習 「身体活動」の生理学 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちの小計	2 2 2 2 2 2 2 2 2 14	1 1 1 1 1 3
		食べ物と健康	8	食品学総論 食品学各論 食品学実験Ⅰ 食品学実験Ⅱ 調理科学 調理学実習 応用調理学実習 調理科学実験 食品衛生学 食品衛生学実験 食べ物と健康の小計	2 2 2 2 2 1 1 1 2 2 8	1 1 1 1 1 1
		小計	28	10	28	10
	専門分野	基礎栄養学	2	基礎栄養学 基礎栄養学実験 基礎栄養学の小計	2 2 2	1
		応用栄養学	6	応用栄養学Ⅰ 応用栄養学Ⅱ 応用栄養学実習 食事摂取基準論 栄養ケアマネジメント実習 応用栄養学の小計	2 2 2 2 2 6	1 1 1
		栄養教育論	6	栄養教育論Ⅰ 栄養教育論Ⅱ 栄養教育実践活動論 栄養教育実習 栄養教育論の小計	2 2 2 2 6	1
		臨床栄養学	8	臨床栄養管理学Ⅰ 臨床栄養管理学Ⅱ 臨床栄養管理学Ⅲ 病態栄養治療学演習 臨床栄養管理実習 食事療法実習 臨床栄養学の小計	2 2 2 2 2 2 8	1 1 1
		公衆栄養学	4	公衆栄養学Ⅰ 公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習 公衆栄養学の小計	2 2 2 4	1
		給食経営管理論	4	給食経営管理論Ⅰ 給食経営管理論Ⅱ 給食経営管理実習 給食経営管理論の小計	2 2 2 4	2
		総合演習	2	管理栄養士演習Ⅰ 管理栄養士演習Ⅱ 管理栄養士演習Ⅲ 管理栄養士演習Ⅳ 管理栄養士演習Ⅴ 総合演習の小計	1 1 1 1 2 6	
		臨地実習		4	臨地実習Ⅰ（給食の運営）※ 臨地実習Ⅱ（臨床栄養学） 臨地実習Ⅲ（公衆栄養学） 臨地実習の小計	1 2 1 4
		専門分野の小計	32	12	36	13
		累計	60	22	64	23
		合計	82		87	

※給食の運営に係る校外実習

別表第26 情報処理士に関する科目

学部学科	授 業 科 目	単位数	備 考
学芸学部	領域1		
日本語日本文学科	情報リテラシー	1	
国際コミュニケーション学科	AIと社会	2	
子ども教育学科	コンピュータリテラシー	2	必修
メディア情報学科			
生活デザイン学科	領域2		
人間社会学部	情報処理概論	2	必修
社会マネジメント学科	データサイエンス	2	
人間心理学科	SPI対策講座	2	
地域クリエーション学科	キャリア・プランニング	2	
栄養科学部	ビジネス実務総論	2	
健康栄養学科	倫理学	2	
管理栄養学科	経済学	2	
	メディアと文化	2	
	社会学	2	
	領域3		
	基礎教育講座	2	必修
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ	1	
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ	1	
	計	27	必修科目を含め合計16単位以上

別表第27 入学金、授業料等の学費

(単位 円)

	学 芸 学 部				
	日本語日本文学科	国際コミュニケーション学科	子ども教育学科	メディア情報学科	生活デザイン学科
入 学 金 (入学時)	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000
授 業 料 (年 額)	765,000	765,000	770,000	765,000	785,000
施設設備費 (年 額)	350,000	350,000	390,000	350,000	390,000

(単位 円)

	人間社会学部		
	社会マネジメント学科	人間心理学科	地域クリエーション学科
入 学 金 (入学時)	260,000	260,000	260,000
授 業 料 (年 額)	765,000	765,000	770,000
施設設備費 (年 額)	350,000	350,000	390,000

(単位 円)

	栄養科学部	
	健康栄養学科	管理栄養学科
入 学 金 (入学時)	260,000	260,000
授 業 料 (年 額)	785,000	785,000
施設設備費 (年 額)	390,000	390,000

相模女子大学人間社会学部教授会規則（案）

昭和45年 2 月 25 日

制定

（趣旨）

第 1 条 相模女子大学学則第52条の 2 第 6 項の規定に基づき、人間社会学部教授会（以下「教授会」という。）の組織及び運営等について必要な事項を定める。

（組織）

第 2 条 教授会は専任の教授、准教授、講師並びに特任教授（基幹教員に限る）、特任准教授（基幹教員に限る）をもって組織する。

（審議事項）

第 3 条 教授会は次の事項を審議し、学長がそれらの事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

（1）学生の入学（再入学及び編入学を含む）、卒業及び課程の修了

（2）学位の授与

（3）教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は次の事項を審議し、学長に対して意見を述べることができる。

（1）学部長の選定に関する事項

（2）学科長の選定に関する事項

（3）教授、准教授、講師、助教及び助手の任用、昇任の際の教育研究業績に関する事項

（4）名誉教授の推薦に関する事項

（5）学則の改正に関する事項

（6）学部学科の教育課程に関する事項

（7）授業科目の種類及び編成に関する事項

（8）各種委員の選出に関する事項

（9）学術研究に関する事項

（10）学生の留学、転学部転学科、休学、復学、退学、転学に関する事項

（11）学生の試験及び単位修得に関する事項

（12）委託生、外国学生、科目等履修生、単位互換履修生、研究生、聴講生に関する事項

（13）学生の賞罰に関する事項

（14）学生団体、学生活動、学生生活に関する事項

（15）その他、教育研究に関する事項および学長からの諮問事項

（学部長及び学科長の選定）

第4条 第3条第1号、第2号に掲げる学部長及び学科長の選定に関しては別に規則を定める。

(各種委員の選出)

第5条 第3条第8号に掲げる各種委員の選出に関しては別に規則を定める。

(議長)

第6条 教授会は学部長がこれを招集し、その議長となる。

- 2 議長に事故あるときは、議長があらかじめ教授会の議を経て指名した教授会員が、その職務を代行する。

(会議の招集)

第7条 学部長は原則として月1回定例教授会を招集しなければならない。

- 2 学部長は必要と認めたとき臨時教授会を招集しなければならない。
- 3 専任の教授、准教授、講師並びに特任教授（基幹教員に限る）、特任准教授（基幹教員に限る）の3分の1以上の者から附議すべき事項を示して教授会招集の請求があったときには、学部長は10日以内にこれを招集しなければならない。
- 4 教授会を招集するには3日以上前に会議の目的たる事項及び日時、場所を通知しなければならない。ただし、教授会の決議による承認があるときは、予告された附議事項を変更し、又は予告された附議事項以外につき審議することができる。

(定足数)

第8条 教授会は専任の教授、准教授、講師並びに特任教授（基幹教員に限る）、特任准教授（基幹教員に限る）の過半数の出席がなければ成立しない。ただし、休職・休業者、研究専念期間利用者、6ヶ月以上にわたる海外出張者並びに6ヶ月以上にわたる長期欠勤者はこの定足数の計算に加えない。

(議事)

第9条 議事は出席者の過半数によって決する。ただし、出席者の過半数がとくに重要と認めた事項に関しては、出席者の3分の2以上の同意を得て決議する。

(事務処理)

第10条 教授会に書記を置きその事務を処理する。書記は議長が委嘱する。

(議事録)

第11条 学部長は教授会の議事録を作成し、決議事項及びその他の重要事項については、次回教授会の確認をうけ、学部長がこれを保管する。

(細則)

第12条 この規則に定めるもののほか、教授会の運営その他に関する細則は別に定めることができる。

(疑義の解釈)

第13条 この規則に疑義を生じた場合は、その解釈は教授会においてこれを決する。

(雑則)

第14条 この規則の改正及び改廃は大学評議会の決議を経るものとする。

附 則

- 1 この規則は、昭和45年 2 月25日より適用する。
- 2 平成 9 年 2 月21日一部改正、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 平成20年12月24日一部改正、平成20年 4 月 1 日から施行する。
- 4 平成23年 2 月 9 日一部改正、平成23年 4 月 1 日から施行する。
- 5 平成24年11月 1 日一部改正、平成24年11月 1 日から施行する。
- 6 平成27年 2 月 5 日一部改正、平成27年 4 月 1 日から施行する。
- 7 平成28年12月 1 日一部改正、平成29年 1 月 1 日から施行する。
- 8 令和 7 年 3 月 4 日一部改正、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類 目次

I 設置の趣旨及び必要性	3
1. 本学の沿革	3
2. 学科設置理由および必要性	3
3. 養成する人材像.....	5
4. 3つのポリシー.....	5
5. 組織として研究対象とする中心的な学問分野.....	7
II 学部・学科等の特色.....	7
III 大学、学部・学科等の名称及び学位の名称	7
IV 教育課程の編成の考え方及び特色	8
V 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件	13
1. 授業内容に応じた授業の方法、学生数の設定、配当年次について	13
2. 卒業要件について.....	14
3. 卒業研究への単位付与について	14
4. CAP 制について.....	14
5. 他学部における授業科目の履修について.....	15
6. 他大学における授業科目の履修等について	15
7. 履修モデル.....	15
8. メディア授業と卒業要件の関係	16
9. 指導補助者について	16
VI 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	17
VII 編入学定員を設定する場合の具体的計画	18
1. 既修得単位の認定方法	18
2. 履修指導方法.....	19
3. 教育上の配慮.....	19
VIII 企業実習(インターンシップを含む)や海外研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	19
IX 取得可能な資格	21
X 入学者選抜の概要	21
XI 教育研究実施組織の編制の考え方及び特色.....	26
XII 研究の実施についての考え方、体制、取組.....	27
XIII 施設, 設備等の整備計画.....	28

1. 校地、運動場の整備計画	28
2. 校舎等施設の整備計画	28
3. 図書等の資料及び図書館の整備計画	29
XIV 管理運営	30
XV 自己点検・評価	32
XVI 情報の公表	33
XVII 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	37
XVIII 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	38
1. 教育課程内の取組について	39
2. 教育課程外の取組について	39
3. 適切な体制の整備について	40

I 設置の趣旨及び必要性

1. 本学の沿革

相模女子大学は、1900 年に西澤之助が当時の東京市本郷区龍岡町(現在の東京都文京区湯島)に設立した日本女学校を起点として創立され、1909 年に本学の前身となる帝国女子専門学校を開設、戦災により 1946 年に現在地の神奈川県相模原市に移転し、1949 年に相模女子大学学芸学部を開設した。1951 年に相模女子大学短期大学部、2008 年に相模女子大学人間社会学部、栄養科学部、大学院栄養科学研究科、2020 年に専門職大学院社会起業研究科を開設し、時代の変革とともに社会のニーズに合わせて学部学科の改組を進め、現在は、学芸学部 5 学科、人間社会学部 2 学科、栄養科学部 2 学科の計 3 学部 9 学科が置かれ、大学院 1 研究科、専門職大学院 1 研究科、相模女子大学短期大学部に 1 学科を有し、2025 年に創立 125 周年を迎える。

本学は、女子に広く高度な知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、建学の精神「高潔善美」にもとづく教養ある人材を育成することを目的としている。「高潔善美」とは、「固き心を以て、やさしき行いをせよ」のもと、女子の地位が確立されていなかった時代において自立した女性を育成するために 1900 年に設立した日本女学校の理念であり、「品格ある美しさを備え、先進的に行動できる女性」を育成するという、本学の教育の基本を表している。

2010 年には、創立 110 周年の節目として新たなスローガン「見つめる人になる。見つける人になる。」を掲げ、「女性ならではのしなやかな発想力、豊かな包容力を身につけながら、地域社会の未来を女性ならではの着眼点で発想し、貢献する女性を育成すること」を具体的な目標として定め、本学の理念・目的の達成に向けてさまざまな教育研究活動を展開している。

2. 学科設置理由および必要性

(1) 地域の食、観光をめぐる現状と課題

地球規模での気候変動、地震、津波、火山噴火、感染症などに起因する自然災害が繰り返し発生し、その対応は世界的な共通課題となっている。また、国内に目を向けると、急速に人口減少や少子高齢化が進む一方で、最近の円安を受けて訪日外国人観光客(インバウンド)が増加しており、人手のみならずさまざまな資源の不足が顕在化しつつある。このような状況の中で、わが国も持続可能な開発目標(SDGs)や環境・社会・企業統治(ESG)を考慮した企業活動を行うことが求められ、国内に点在する地域の零細事業者であってもそれらの遵守が不可欠になっている。企業や組織のみならず個人一人ひとりも、居住者や国内外からの訪問者、生き物のウェルビーイングに配慮して行動することが必要であり、これは世界的な共通認識となっていると言えるだろう。

以上のような自然環境、社会環境を背景に、防災、減災、感染症拡大抑制に向けた事前の対策に加え、ひとたび災害が発生した際に住民や訪問客が安心・安全に避難できる体制がとれることが、ますます重要になってきた。また、地球温暖化の結果、各地で生態系が大きく変化し、農林水産業に大きな影響を及ぼすとともに、食中毒の増加など食の安全を揺るがす事故も頻発している。さらに、人口減少やそれに伴う過疎化の進展は耕作放棄地を増加させるとともに獣害を増加させ、食

料生産や食糧確保の問題だけではなく、日常生活にも深刻な影響を及ぼし、郷土食やその調理法、祭りに代表される地域文化の伝承が困難になりつつある。

交流人口の増大は人口減少地域における公共交通の維持や経済活性化に貢献するものの、他方でオーバーツーリズム問題を引き起こし、住民生活を脅かす要因としてみなされるようになってきた。地域住民の安寧な生活や健康寿命の延長を確保しつつ、どのように来訪者をおもてなしするのかは、今日の大きな課題となっている。

以上のような課題は全国レベルで生じていることであるが、大学所在地である相模原市および神奈川県、隣接する東京都、山梨県、静岡県においても大きな課題となっている。

(2) 課題解決の方法

上述のような課題を解決するためには、地域の新旧さまざまな資源に多様な形で光を当て、居住者と国内外からの訪問者が共に豊かに暮らし滞在することのできる持続可能な地域を創成できるように、食や観光のポジティブな力を活用することが求められるだろう。そこでは、効率化や標準化された社会で失われた地域の固有性を再発見し、付加価値を加えて提供するしくみづくりが必要である。

具体的には、地域内において農林水産業やその生産物の6次産業化の担い手が確保され、安心・安全で健康に資するおいしい食が供給される体制が確立されるとともに、伝統文化のみならず、その土地固有の特性を活かした新たな資源を発掘し、ストーリー化して居住者、訪問者双方に伝えていくことが望まれる。農林水産業と言っても旧来のような労働集約型の生産システムに代わり、最新の情報通信技術やテクノロジーを活用した省力型のシステムが必要である。6次産業化を通じた食の生産・提供においては、インバウンドの増加を受けてアレルギーや宗教的忌避、さらにはアニマルウェルフェアをより一層考慮することが求められる。持続可能な生産体制の構築のためには、何よりそれにかかわる労働者や経営者自身が無理のない働き方ができることが必要であろう。このような基盤が整うことにより、居住者相互間の、あるいは国内外からの来訪者に対する優しいおもてなしが可能になるだろう。

また、ひとたび有事の際には、起こりうるリスクをあらかじめ予測して、居住者のみならず来訪者にも目配りして、安全な避難ができるようにならなければならないし、避難後も被災状況を把握し危急を外部に適切に伝えるとともに、少しでも安心できるような避難所運営が行われることが求められるだろう。

地域の食、観光についての専門的知見をもとに地域の持続可能なウェルビーイングを総合的に分析、実践し、取組みを地域内外に発信し、かつ有事の際にも活躍できるような人材を育成することは、課題解決策の重要な一歩となるであろう。

(3) 人材育成の方向性

地域クリエーション学科では、短期大学部食物栄養学科、学芸学部英語文化コミュニケーション学科、人間社会学部社会マネジメント学科でのこれまでの教育・研究・人材育成の特徴的な実績、

すなわち、企業と連携した商品開発や子ども食堂の経験、国境を越えたボランティア活動や地域活性化活動、映像制作、学際的な研究成果に加え、相模女子大学において社会マネジメント学科が中心となって取り組んできた全国各地との地域連携活動の経験をもとに、地域固有の資源を発掘し、地域の食、観光についてのグローバルな視点からの専門的知見をもとに地域の持続可能なウェルビーイングを総合的に分析、実践し、取組みをストーリー化して地域内外に発信できるような人材を育成する。

そのような人材として、平時には地域の食、観光、食料生産・加工、データ分析、情報発信などの業務を担いつつ、居住者や国内外からの来訪者が安心・安全に過ごせるようにおもてなしする一方、有事にはリスクを予見して臨機応変な対応をとることにより安全に避難誘導できる人材を想定している。

3. 養成する人材像

上述の人材育成の方向性をもとに、地域クリエーション学科が養成する人材像は次のようなものである。

地域固有の資源を発掘し、地域の食、観光についてのグローバルな視点からの専門的知見をもとに地域の持続可能なウェルビーイングを総合的に分析、実践し、取組みをストーリー化して広く地域内外に発信できる人材を育成する。

4. 3つのポリシー

(1) ディプロマ・ポリシー

- ア 食文化、食材、調理、食品衛生、公衆衛生など食に関する広範な基礎知識に加え、地域における持続可能な食の供給および観光サービスの提供を担えるような地域文化、気象・環境、経済・経営、法律・倫理などの基礎知識を習得する。
- イ これらの知識をもとに、居住者および国内外からの来訪者がともに安心・安全に過ごせるようなおもてなしを実践できる能力を有する。
- ウ 地域資源を発掘し、活用するとともに、当該資源にまつわるストーリーを構築して、居住者および国内外からの来訪者双方に対しわかりやすく情報発信できる能力を有する。
- エ ひとたび有事の際には、食品衛生、公衆衛生、情報発信などの知識を活かして、居住者および国内外からの来訪者双方を安全に避難させられるような潜在力を持つ。

(2) カリキュラム・ポリシー

地域クリエーション学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を達成するため、以下の方針で教育課程を編成・実施する。

- ア 観光学、食物学、政策学およびこれらを学ぶために必要となる社会学、経済学、経営学、法学、行政学、情報学などに関する専門教育科目を設置する。これらの科目を全学生が修得すべき基礎的知識や能力を教授する基礎科目、さまざまな事象の背景を論理的に考察でき

る能力を涵養する基幹科目、実務的知識や実践的能力を修得する展開科目に分けて配置する。

イ 外国人に対するおもてなしや国際的な情報発信に不可欠な英語力を修得するために、全学共通科目において各学生の英語力に応じた英語2科目の履修を必修とする。また、講義だけではなく、演習、実習、実験、実技などを採用するとともに、オンライン授業、集中講義、現地訪問などを活用した実務家による授業を設け、実践的な能力を修得できるようにする。

ウ 学際的な学びを総括し、社会で活用できるようにするために、全学生が3～4年次に観光コースまたは食・農コースのいずれかに属するゼミナールに所属し、教員の専門的指導のもとでさまざまなプロジェクトに取り組み、卒業研究の形でその成果をまとめる。

エ ゼミナールおよび卒業研究においてプロジェクト型教育を実施するにあたり、さまざまな授業で修得した知識や能力の防災面および有事の際の活用方法についても指導する。

(3) アドミッション・ポリシー

地域クリエーション学科では、カリキュラム・ポリシーに掲げた教育課程を履修するにあたり、入学者が以下のような関心および能力を有することを期待する。

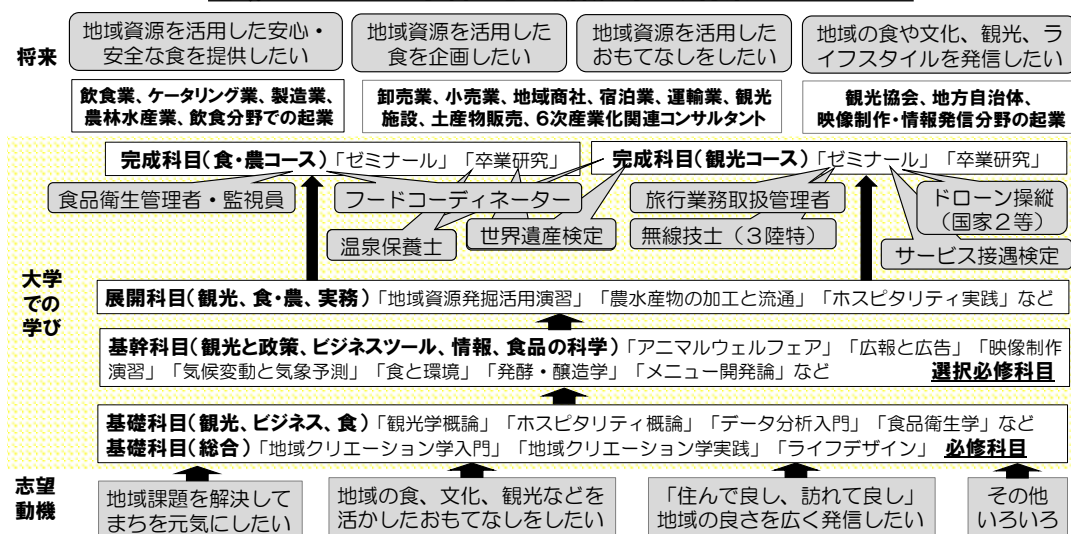
ア 地域振興に対して熱意を持って取り組める者。また、地域が抱えている諸課題の解決のために自らの考えを実践してみたいと思う者。

イ 地域の食や文化、観光などに関心を持ち、居住者や国内外からの来訪者を温かく迎える気持ちを持ち、有する者。

ウ 地域とのかかわりのなかで、グローバルな視点から地域文化やウェルビーイングを実践し、広く地域内外に発信することに関心を持つ者。

エ これらの関心を深め、実践するために必要な言語、人文・社会・自然科学の能力を有する者。

地域クリエーション学科の志望動機、学び、将来のライフプラン



5. 組織として研究対象とする中心的な学問分野

地域クリエーション学科は、食、観光を中心とした地域固有の資源の発掘をはかり、それをもとに地域創造、地域活性化に取り組むことを目的としている。そのため、単一の学問分野ではなく、文理さまざまな学問分野にわたる学際的な学問分野となる。具体的には、観光学、食物学、政策学が中心分野となる。これらの分野を結合することにより、地域創造や地域活性化のための政策を生み出していくことになる。

II 学部・学科等の特色

地域クリエーション学科は、食、観光分野を中心に地域資源を発掘し、それらを活用するために地域資源をストーリー化し、地域内外に向けて広く情報発信を行うことを特色としている。すなわち、地域の伝統的食材や調理法、行事が気候変動や人口減少で失われていく現代において、食・文化・観光など地域資源を発掘し、活用するとともに、ストーリー化して世界に発信できる人材を養成することを目的とし、そのために、食品衛生、調理、観光、データ分析、ビジネスなどに関する実践的学びや、映像制作体験、ドローン操縦資格の取得などを通じ、訪問者への安心・安全なおもてなしと地域住民のウェルビーイングとの両立をめざす。

このような人材を育成し、能力の質を保証するために、地域クリエーション学科は学生に国家資格取得を強く推奨し、かつ資格取得後、実践力を向上させるために企業実習（インターンシップ）を活用するように誘導する。また、他大学の同領域の学科と異なり、旅行関係の資格のみならず、食関連の資格、ドローン操縦や無線機器の操作にかかる資格取得も同時にめざせる点が大きな特色となっている。

具体的には、「食品衛生管理者・監視員」（養成施設に登録予定）、「二等無人航空機操縦士」「第三級陸上特殊無線技士」「旅行業務取扱管理者」の資格取得、資格取得支援をカリキュラム内に包含しているほか、わが国固有の地域資源発掘という観点から民間資格の「温泉保養士」資格も取得できるようにしている。

III 大学、学部・学科等の名称及び学位の名称

学科の名称：地域クリエーション学科

学位の名称：学士（地域クリエーション学）

地域クリエーション学科は、食、観光を中心とした地域固有の資源の発掘をはかり、それをもとに地域創造、地域活性化に取り組むという目的をもっていることから、学科名称には最終目的である地域創造、地域活性化を意味する言葉である「地域クリエーション」を用いた。カタカナ用語にした理由として、新たな価値を創造するだけでなく、既存の価値を再評価し再活性化させることも包含することを想定しているため、どちらかを意味する「創造」「活性化」という言葉の使用を控えたことが挙げられる。

また、学位の名称についても、上述のとおり、単一の既存の学問分野に収まらず学際的であることから、学科の最終目的である「地域クリエーション」を用い、学際性を示す新たな学問として、「地域クリエーション学」とした。

IV 教育課程の編成の考え方及び特色

カリキュラム・ポリシー

地域クリエーション学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を達成するため、以下の方針で教育課程を編成・実施する。

- ア 観光学、食物学、政策学およびこれらを学ぶために必要となる社会学、経済学、経営学、法学、行政学、情報学などに関する専門教育科目を設置する。これらの科目を全学生が修得すべき基礎的知識や能力を教授する基礎科目、さまざまな事象の背景を論理的に考察できる能力を涵養する基幹科目、実務的知識や実践的能力を修得する展開科目に分けて配置する。
- イ 外国人に対するおもてなしや国際的な情報発信に不可欠な英語力を修得するために、全学共通科目において各学生の英語力に応じた英語2科目の履修を必修とする。また、講義だけではなく、演習、実習、実験、実技などを採用するとともに、オンライン授業、集中講義、現地訪問などを活用した実務家による授業を設け、実践的な能力を修得できるようにする。
- ウ 学際的な学びを総括し、社会で活用できるようにするために、全学生が3～4年次に観光コースまたは食・農コースのいずれかに属するゼミナールに所属し、教員の専門的指導のもとでさまざまなプロジェクトに取り組み、卒業研究の形でその成果をまとめる。
- エ ゼミナールおよび卒業研究においてプロジェクト型教育を実施するにあたり、さまざまな授業で修得した知識や能力の防災面および有事の際の活用方法についても指導する。

地域クリエーション学科の専門教育課程は、(i) 1～2年次を対象にすべて必修科目から構成される基礎科目群、(ii) 1～2年次に配当され1～3年次の履修を想定した選択必修科目から構成される基幹科目群、(iii) 1科目を除く全科目が2～3年次に配当され2～4年次の履修を想定した選択必修科目から構成される展開科目群、(iv) 3～4年次を対象にすべて必修科目から構成される完成科目群の4つの科目群から成立している。

(i) の基礎科目群は、全学生が修得すべき基礎的知識や能力を教授することを目的としており、「総合」「観光」「ビジネス」「食品」の4区分にわかれ、「総合」では地域クリエーション学科の学びおよびキャリア形成の全体像を教授する「地域クリエーション学入門」「地域クリエーション学実践」「ライフデザイン」の3科目から構成される。

「地域クリエーション学入門」および「ライフデザイン」はオムニバス形式の講義科目で、地域クリ

ーション学科の設置の趣旨、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、地域クリエーション学科がめざす人材育成を実現するために、各教員の研究・教育の学問分野からどのような学びのアプローチが可能であるか、学びを活かして想定されるキャリアがどのようなものであるかを紹介する内容となっている。「地域クリエーション学実践」では、大学所在地である相模原市内や隣接する町田市など近隣地域に出かけ、地域資源の発掘、ストーリー化および発信の体験をしたり、バーベキューなどの体験を通じて衛生面も考慮した調理を実践的に学んだりすることにより、有事の際の臨機応変な対応も含めた卒業時に身につくだろう能力を具体的にイメージさせる実習を計画している。

一方、「観光」「ビジネス」「食品」の3区分は、食や観光などの地域資源を発掘し、安心・安全なおもてなしを提供し、情報発信するために必要な基礎知識を教授する科目から構成されている。観光、ホスピタリティ、地域文化、映像制作、データ分析、経営、食の安全、健康、調理に関する広範な領域をカバーしている。これらの科目はディプロマ・ポリシーに沿った人材を輩出するうえで必要不可欠な知識を伝授することを目的としているため、必修科目としている。

(ii)の基幹科目群は、「観光と政策」「ビジネスツール」「情報」「食品の科学」の4区分にわかれている。これらの科目は、基礎科目の履修を踏まえ、基礎知識の背景にあるさまざまな考え方や理論を既存の学問分野に沿って深く学ぶことを目的としている。例えば、観光資源の一つとされる動物園・水族館の飼育生物に関して繁殖制限をかけたり、園館どうして飼育個体を交換したりする背景には生物多様性や飼育環境の確保があることを「生物と生態系」「アニマルウェルフェア」から学ぶことを期待している。また、調理法の多様性や変化の背景にはエスニシティや気候、流通、加工・保存技術などが存在することを「エスニシティと地域社会」「流通論」「気候変動と気象予測」「食品加工と保蔵」から学んでもらうことを期待している。このように、基幹科目は、物事の現状だけではなく、その背景にある要因をしっかりとらえ、分析できるようになるための考え方や理論を伝授することを目的としている。

学生の食や農、観光に対する個別の関心に応じて多面的に学びを深めてもらえるように必修ではなく選択必修とし、「観光と政策」「ビジネスツール」「情報」「食品の科学」の各区分のなかから最低1科目を履修してもらう編成とした。

また、(ii)の基幹科目群には、「ドローン操縦技術」「無線通信技術と法」「生化学」「微生物学」「栄養機能学」など、国家資格である「二等無人航空機操縦士」「第三級陸上特殊無線技士」「食品衛生管理者・食品衛生監視員」資格を取得するために必要な、あるいは資格取得の学習をするために必要な科目も含まれている。さらに「社会調査法入門」「地域データ分析」「プレゼンテーション I/II」「映像制作演習(基礎)(応用)」など、国家資格とは結びつかないが、地域資源の発掘、情報発信に不可欠な知識の習得につながる科目も設置している。

(iii)の展開科目群は、「観光」「食・農」「実務」の3区分にわかれており、観光・ホスピタリティ、食品衛生、大量調理、食料生産分野での実践的な能力を獲得させ、キャリア形成につなげることを主眼に置いた科目を配置している。「観光」では、食、文化、エンターテインメント、スポーツなど幅広い観光資源を活用した観光ビジネスの実践に必要な科目を設定した。「食・農」区分は、「食品

衛生管理者・食品衛生監視員」資格取得のために必要な実験系科目に加え、資格取得後活躍が期待されるケータリングや大規模レストランなど大量調理の現場で求められる実務能力を身につけられる科目、地域社会と食・農との関係についての実践的知識の獲得を狙った科目から構成されている。「実務」では、「インターンシップ I/II」「ホスピタリティ実践」「ファシリテーション」「キャリア実践 I/II」の科目を配置し、学生たちがより実践的におもてなしの実践力を磨くことを狙っている。

資格取得やより細分化された分野での能力獲得に対するニーズは学生一人ひとりに応じて大きく異なることが見込まれることから、区分ごとに科目履修を選択必修とするのではなく、展開科目群全体から3科目以上を選択必修とすることにより、学生が希望する専門分野において、基礎科目、基幹科目を通じて獲得した知識や資格を将来のキャリア形成に活かせる能力を獲得させることを意図している。

(iv)の完成科目群は、「ゼミナール I/II」「卒業研究 I/II」から構成されており、必修科目となっている。原則として2年間、同一教員のゼミナールに所属し、1～2年次に修得した知識や能力を活用しながら、地域や企業と連携した実践的体験を通して、食や観光の分野でのおもてなしや情報発信を学んでいく。各ゼミナールは概ね10人以下の学生で構成されることを想定している。

「ゼミナール I/II」では、指導教員のもと、学生たちは文献を輪読したり、企業や自治体と連携して地域の食や観光資源を発掘し、ストーリーを作り、発信したりするようなプロジェクトに参加することを想定している。本学では組織的なリスク対応体制が未整備で、対応が実質的に担当教員に委ねられていることから、大半のゼミナールにおいてプロジェクト型学習を実施するにあたり、自らの安全を確保する観点からも、担当教員と学生を交えてリスク管理について議論し、対策を検討したうえで実行してもらう。その中で、地域クリエーション学科として、リスク管理に加え、さまざまな授業で修得した知識や能力の防災面および有事の際の活用方法について指導方針を定め、ゼミナールでの議論に資するようにする。また、「卒業研究 I/II」では、「ゼミナール I/II」での学修や経験を卒業論文、卒業制作、企業や自治体と連携してゼミナールで実施したプロジェクト等諸活動およびその記録を、卒業研究として提出することを学生に義務づけている。その過程の中で必要となる知識や能力の獲得のため、基幹科目群や展開科目群に配当された科目を履修することを想定している。

少人数でのプロジェクト型学習を実施することにより、ディプロマ・ポリシーで謳う「地域資源を発掘し、活用するとともに、当該資源にまつわるストーリーを構築して、居住者および国内外からの来訪者双方に対しわかりやすく情報発信できる能力」だけではなく、「居住者および国内外からの来訪者がともに安心・安全に過ごせるようなおもてなしを実践できる能力」および「ひとたび有事の際には、食品衛生、公衆衛生、情報発信などの知識を活かして、居住者および国内外からの来訪者双方を安全に避難させられるような潜在力」を合わせ有することを可能とする。

体系的な学びとするために、同一系統の科目については、基礎科目、基幹科目、展開科目と履修していけるように、学年配当を工夫しているほか、段階的に学べるように配当セメスタも工夫している。すなわち、基礎科目群のなかでも高大接続的要素を含む科目を1セメスタに配置し、基礎を前提に学ぶ科目を2セメスタ以降に配置している。基礎科目群の履修を踏まえて、その背景にある

考え方、理論を学べるように2セメスタから基幹科目の履修をはじめ、理論や考え方を理解したうえで実践的な能力も学べるように3セメスタから展開科目が始まるという構成になっている。展開科目のうち、「フードデザイン実習(基礎調理)」のみ2セメスタに配当している理由は、選択必修科目ではあるものの、食分野に関心を持つ学生だけでなく、観光分野に関心を持つ学生にも調理の基礎を学ぶ実習に参加してもらうことにより、食中毒やアレルギーなどの観光にも密接にかかわる問題を体験的に学び、対策法を理解してもらうためである。安心・安全な観光を実現する基礎知識を体験的に習得することを狙っている。

また、専任教員と非常勤講師教員との役割分担も考慮している。専任教員は自らの専門分野の研究活動を活かしつつ、相互に連携しながら地域クリエイションに必要な知識や能力を育成するための総合力を大所高所から計画し、自らも学生の教育に当たる一方、それぞれの分野で顕著な能力を有する第一線で活躍する／してきた非常勤教員を確保し、学生が個別具体的に「現場での知」や実践を学ぶ機会を確保している。

以上のような専門教育科目のほか、全学共通科目および自由科目が設定されている。専門教育科目は最低76単位、全学共通科目は最低24単位の履修を必須とし、卒業に必要な124単位のうち残り24単位は自由科目として、専門教育科目、全学共通科目のほか、他学部他学科科目、相模原・町田地域教育連携単位互換制度に加盟する大学の互換科目などの履修を可能としている。自由科目を24単位設定する理由として、食文化や地域の伝統など、食、観光分野を幅広く学ぶうえで必要になる文学や思想、健康などに関する幅広い知識や能力を獲得するためには、地域クリエイション学科が開設する科目では分野面で不十分となることを見越した考え方に基づいている。

■ 全学共通科目

本学の共通教育科目は2025年度にカリキュラム改定を実施したところであるが、その際に、本学学生に必要な資質・能力の再検討(課題解決能力・表現力・発信力、国際的感覚、語学力)および、文部科学省の要請にもある「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を正課に導入することを柱として設定をしている。さらに本学学生がそれら資質能力を獲得して社会や地域に貢献できる人間となるための科目/活動の設置の検討を行った。また、本学の大きな特徴の一つに社会・地域貢献が挙げられるが、この点にも関連し、正課科目と正課外活動とが有機的に連関できるように配慮している。元より、共通教育科目は単体で独立しているのではなく、「地域クリエイション学科」をはじめとして、各学科で必要な教養・能力を培うためにこの科目群も位置づけられている。特に地域クリエイション学科の学びと深い関連を持つ科目も配されていて、学生が自ら学びを構成し、社会的・職業的自立を実現できるように、当該学科の専門科目と連携できるようにしている。

共通教育の科目群は「基礎科目」「教養科目」「発想・実践科目」「キャリア支援科目」「健康・スポーツ科目」「語学科目」から構成される。

「基礎科目」では「さがみ総合講座」にて大学生・社会人としての一般教養・一般常識等を学ぶとともに本学学生としての発想力や企画力を磨いていく。また、「コンピュータリテラシー」は必修科目として配置し、未来に繋がるデジタル技術を安全に使いこなすための基礎的な知識・技術・情報活

用能力を培う。

「教養科目」には「日本国憲法」「法学」「心理学」「アート」「メディアと文化」などを配し、幅広い教養を得ることができるようにしている。

「発想・実践科目」には「地域から学ぶ知の実践」「社会貢献・地域連携」「問題発見・解決型プロジェクトⅠ・Ⅱ」「さがみ発想講座」などがあり、地域クリエーション学科にも深くかかわってくる実際の・実践的な科目が展開されている。当該学科の専門科目と関連させ、ここで培った能力や学習成果などを上級学年で発展させることを目指している。また、本学の連携教育推進課や生涯学修支援課の協力を得て、これら科目の履修を通し、学生が社会的・職業的自立を図れるように努める。一方で「ジェンダー論」「データサイエンス」など、今日的でもあり、将来に繋がる課題について考える科目も配し、さらに発想力を広げることができるようにしている。

「キャリア支援科目」には、「キャリア・プランニング」「ビジネス実務総論」「SPI 対策講座」「就職支援講座」等を配し、キャリア教育、就職対策だけでなく、社会人としての基礎的な力を養う。特に「就職支援講座」では本学就職支援課とも連携して、当該学科に必要なキャリア教育に力を入れる。

「健康・スポーツ科目」には「球技スポーツ」「ラケットスポーツ」「健康スポーツ」など、実際に体を動かし、心身の健康の維持・増進につとめ、健康への意識を高める科目群と、「身体の科学」「ウェルネス」等、健康維持に必要な知識及び方法論を習得することができる科目を配している。

「語学科目」は「英語」「中国語」「韓国/朝鮮語」「ドイツ語」など、様々な言語を習得できる演習科目を配している。このうち、特に地域コミュニケーション学科では、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」のうち、2科目以上を必修としている。これは将来、観光の現場に立った際のインバウンド対応や、地域での外国籍の人との協業、海外での活躍などを想定し、国際的に共通して用いられている言語を習得しておくことが望ましいからである。また「海外研修Ⅰ～Ⅲ」といった、海外研修に取り組むことにより認定される科目など実践的な科目も展開する。一方で、この科目群には「言語と異文化」といった、多様な文化を学ぶことができるような科目も設置し、多角的に国際感覚を身につけていくことができるようにしている。

■ 主要授業科目

次に、地域クリエーション学科の主要授業科目は、基礎科目群および完成科目群に区分される全科目(27科目、55単位)としている。「地域固有の資源を発掘し、地域の食、観光についてのグローバルな視点からの専門的知見をもとに地域の持続可能なウェルビーイングを総合的に分析、実践し、取組みをストーリー化して広く地域内外に発信できる人材を育成する」という目的上、地域クリエーション学科の学生全員に必要な不可欠な基礎知識と実践的能力を獲得するための科目となっているためである。したがって、主要授業科目の設定は、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに即して妥当なものと判断している。また、アドミッション・ポリシーは、生徒の興味・関心および能力を期待するものとなっているが、入学者全員に文理双方、とくに食品衛生を学ぶために必要な化学基礎や生物基礎の知識や、高等学校では全員が履修しない政治・経済、地理の知識を求めている。そのため、これらの科目を必修科目として主要授業科目とすることにより、円滑な高大接続を図ることを狙っている。

■ 単位数についての考え方

相模女子大学は 2026 年度から1コマ 100 分、14 回授業に変更される(従前は 90 分、15 回授業)。1コマの授業で 1,400 分、すなわち 23.3 時間の学修を主として教室内で実施することになる。

1単位につき 45 時間の学修を必要とするなかで、講義科目および下記以外の演習科目は、教室内での教員の指導下での学修に加え、授業に臨むにあたり1回 4 時間程度の予習・復習を前提とし、レポートおよび試験準備に 10 時間程度の学修を必要とすることを想定して 2 単位=1 コマ(23.3 時間)と設定している。

食関係の実習、演習は主に教室(調理室)内での作業が中心となることから、1単位=1.5 コマ(35 時間)としている。一方、「日本文化演習」「ホスピタリティ実践」「キャリア実践 I/II」は、着付、おもてなし、マナーなどの教室内での実践に加え、自宅での文化的側面に関する事前・事後学習を考慮して、1単位=1 コマ(23.3 時間)と設定した。「地域クリエイション学実践」および「地域資源発掘演習」は教室での事前・事後学習に加え、学外での探究・実践的活動を考慮して、1単位=1 コマ(23.3 時間)と設定した。また、「ドローン操縦技術」は「二等無人航空機操縦士」資格取得科目で、航空法および関連法令に定める学科講習 10 時間、実地講習 10 時間、実地試験 2 時間程度および学科試験に向けた学修時間を考慮して、1単位=1 コマ(23.3 時間)と設定した。さらに「インターンシップ I/II」は企業等での1週間以上の実習(1 日あたり 7.5 時間×5 日間=37.5 時間)に加え、事前・事後指導および業界研究、業務研究などの自宅での学修を前提として 2 単位と設定した。

「卒業研究」については、前述のとおり卒業研究を必須とすることから研究、実践にあたる時間を考慮して 3 単位と設定した。

1年間の授業期間はオリエンテーション、試験期間、補講期間、集中講義期間などを含め 35 週間、うち授業は春学期および秋学期において各 14 週間である。1コマ 100 分、14 回授業(1,400 分)を基本としていることから、1コマ 90 分、15 回授業(1,350 分)を基本とする「大学設置基準」に定める標準的な学修時間を超えるものであり、十分な教育効果を確保できる設定となっていると考えられる。

V 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 授業内容に応じた授業の方法、学生数の設定、配当年次について

講義科目、教室内での演習科目は適宜アクティブ・ラーニングを活用しながら座学により実施する。相模女子大学では、座学の最大受講者数は 175 人としているが、地域クリエイション学科の入学定員が 60 人であること、専門教育科目の卒業単位数 76 単位のうち 55 単位が必修科目となっていることを鑑みると、10 人以下で実施する予定の「ゼミナール I/II」および「卒業研究 I/II」を除き、1クラスの受講者数は最大でも 100 人を超えないものと想定している。

一方、学外での活動を伴う演習科目および実験・実習科目は座学に加え、学外、調理室、実験室等で少人数のグループにわかれた演習、実習授業となる。理論上、入学定員の 60 人に編入学

者、再履修者を加えた約 70 人が最大受講者数となるが、学科全専任教員(9 人)が参加する「地域クリエーション学実践」を除き、これらの科目は選択必修科目となっていることから、最大でも受講者数は約 40 人と想定しており、主に食関係の実習でも「栄養士法」および関係法令に定められる受講者上限の 40 人に比して著しく多くはならない。

各科目の配当年次については上述のとおりである。

2. 卒業要件について

卒業要件は、専門教育科目を 76 単位以上、全学共通科目を 24 単位以上および自由科目を 24 単位以上履修し、計 124 単位以上の単位を取得することとなっている。専門教育科目の卒業要件についての考え方は上述のとおりである。なお、全学共通科目に関して、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」のうちいずれか 2 科目以上の単位を修得することという条件を課している。これは急増するインバウンド客に対応するためには最低限の英語力が必要であるという考え方に基いており、学生の留学などの個別事情を考えると、学生個人の英語力に対応したレベルの科目(クラス)の選択ができることを考慮して、特定レベルの科目に限定しなかった。

3. 卒業研究への単位付与について

地域クリエーション学科は上述のとおり、卒業論文、卒業制作、企業や自治体と連携してゼミナールで実施したプロジェクト等諸活動およびその記録を、「卒業研究」として提出することを義務づけている。プロジェクトを実施したり、ストーリーを構築し撮影し編集を行い、動画を制作したり、20,000 字を超える論文をまとめるために担当教員の指導のもと学生が個別に資料を収集し分析を行い、文章を執筆したりするためには、最低でも6か月を要することが想定される。したがって、卒業研究のためには、270 時間(週当たり 10 時間)相当の学修は最低必要となると考えられることから、「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」それぞれに 3 単位付与することとし、合計 6 単位と設定した。

4. CAP 制について

本学では、単位の実質化を図るため、学生が過剰に履修することを防ぎ、1 単位の修得に必要な学修時間(自学自習時間を含めて 45 時間)を確保できるよう、履修科目の登録上限(CAP制)を導入している。1 学期に履修登録できる単位数は、原則として 24 単位を上限としており、下記は「履修単位数制限規程」の抜粋である。

なお、学生の学修意欲の向上や資格取得の促進のため、次の(1)と(2)に該当する場合は 27 単位までを上限としており、対象の学生には、各授業のシラバス確認や履修カルテの活用を通じて計画的に学修するよう注意喚起をしている。

【相模女子大学履修単位数上限制限規定】

1 学期に履修登録できる単位数は、原則として 24 単位を上限とする。ただし、次の各号の一に該当するときは、上限を超えて 27 単位まで履修登録を認めることができる。

- (1) 前学期において GPA3.2 以上の者。
- (2) 全学共通科目及び専門教育科目以外の資格科目を履修するとき。

5. 他学部における授業科目の履修について

本学では、所属する学部学科の科目以外に、他学部や他学科で開講されている一部の科目を履修できる「他学部他学科履修」という制度を設けている。これにより学生は、在学中に学部や学科を問わず様々な学問分野を学ぶことができるので、自身の専門科目以外の知識も幅広く養うことができる。本制度を通して修得した単位は、卒業要件における自由科目の修得単位に算入される。

6. 他大学における授業科目の履修等について

本学では、他大学で開講されている授業科目を履修し、そこで修得した単位を本学の自由科目の修得単位として認定することができる。これにより学生は、他大学において本学にはない特色ある学びを得ることができ、幅広い教養と知見を養うことができる。

ただし、本学での授業を優先とするため、1 年次の春学期は出願できない等の注意点を設けている。

7. 履修モデル

地域クリエーション学科は「地域固有の資源を発掘し、地域の食、観光についてのグローバルな視点からの専門的知見をもとに地域の持続可能なウェルビーイングを総合的に分析、実践し、取り組みをストーリー化して広く地域内外に発信できる人材を育成する」ことを目的とし、卒業後の進路として、

- (1) 地域における観光・ホスピタリティ関連産業（宿泊業、飲食業、運輸業、小売業、観光施設、観光協会など）
- (2) 農林水産業・6次産業関連（製造業、卸売業、地域商社、土産物販売業など）
- (3) 飲食、映像制作、情報発信などの分野での起業を挙げている。

そこで、卒業後、(ア)例えば耕作放棄地の害獣対策としてジビエ商品を製造・開発し観光客向けに売り出すことを通して地域課題を解決できるようなオールマイティ型の活躍をめざす学生向け（食品衛生管理者・食品衛生監視員とフードコーディネーター、ドローン操縦資格を取得）、(イ)食品衛生管理者資格を取得して獣肉や魚肉、乳製品などを使った食品加工に従事する学生向け（食品衛生管理者・食品衛生監視員資格取得）、(ウ)食品コンサルティング・専門商社をめざす学生向け（フードコーディネーター資格取得）、(エ)ホテル、旅行業、観光協会などをめざす学生向け（旅行業務取扱管理者、温泉保養士、ドローン操縦資格取得）、(オ)映像制作分野で起業（ドローン操縦、無線通信資格取得）、5つの進路を想定して、必要

な知識、能力を獲得できる履修モデルを作成した。

学科専門教育科目に加え、自由科目もすべて地域クリエーション学科の専門教育科目を履修するものとして 100 単位分の科目を配置した。また、全学共通科目 24 単位については、学科での学びと関連づけるような履修モデルとしている【資料 1】。

8. メディア授業と卒業要件の関係

本学では、同時性又は即応性を持つ双方向性(対話性)を有し、面接授業に相当する教育効果を有すると認められる科目について、オンライン授業を導入している。全学共通科目および専門教育科目のそれぞれで、オンライン授業として科目設定できる単位数には、上限を設けている。上限の詳細は、下記の通りである。

オンライン授業を開講できる単位数 上限一覧表

全学共通科目	24 単位
専門教育科目	32 単位

卒業要件は「2. 卒業要件について」に記載の通りであり、上記表の通り、全学共通科目および専門教育科目のオンライン授業科目を全て履修したとしても、オンライン授業科目の修得単位数合計が 60 単位を上回ることはいない。

【相模女子大学学則 第 3 章 授業科目および教育課程 第 9 条の 2】

前条第2項に規定する講義、演習、実験、実習又は実技による授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

2 前項に規定する授業の方法により修得できる単位数は、60 単位を限度とする。

9. 指導補助者について

本学では、授業担当者に代わり、独立して授業を担う指導補助者は設置していないが、下記のような場合に、SA(スチューデント・アシスタント)等の授業補助者を設置することがある。

(1) 授業前後の補助

授業実施に必要な準備作業・片付け(演習結果等の整理、教材の準備・片付け)を行う場合。

(2) 授業中の補助

授業中の受講者補助作業(グループワークにおける各グループの進め方のサポート、PC 等の操作や演習課題の進め方のサポート)を行う場合。

【教員の授業補助者への指導計画】

学科長および共通教育機構長は、SA 業務が適切に運用されているかを適時に確認し、不適切な運用がなされていた場合には、当該授業の担当者にその是正を指導するとともに、学科長においては学部長に報告する。

SA による授業補助が実施された学科を有する学部長および共通教育機構長は、SA制度の運用状況に関するレビューを定期的に行い、制度の適正な運用に努めるとともに、必要な見直し検討等を行うものとする。

【教員と授業補助者の責任関係と役割分担】

SA は授業担当者に代わり独立して授業を担うことはなく、授業担当教員の指示を受けて補助業務を行う。なお、SA は授業補助によって知り得た個人情報等を他に漏らしてならず、また、授業内容や授業中の出来事等について SNS 等で公開をしてはならない等の守秘義務を負う。

VI 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、同時性又は即応性を持つ双方向性(対話性)を有し、面接授業に相当する教育効果を有すると認められる科目について、オンライン授業を導入している。

【実施場所】

オンライン授業を実施する場所は、授業を行う教員と授業に参加する学生のそれぞれが所在する場所とする。本学では、パソコンやインターネット環境が整わない学生のために、学内の情報処理教室の開放やラーニングコモンズでのパソコン貸出、Wi-Fi 整備等を行っており、オンライン授業の開講によって学生に不利益が生じないようにしている。

【学則における規定】

「相模女子大学学則 第3章 授業科目および教育課程 第9条の2」
前条第2項に規定する講義、演習、実験、実習又は実技による授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

2 前項に規定する授業の方法により修得できる単位数は、60 単位を限度とする。

【告示の要件を満たすものであることの説明】

「08. メディア授業と卒業要件の関係」に記載の通り、オンライン授業科目を全て履修したとしても、60 単位を上回ることは無い。

【授業科目名、授業内容】

「教育課程等の概要 別記様式2号(その2の1) 備考欄」において「メディア」と記載した授業において、オンライン授業を実施することがある。また、その授業内容については、「授業科目の概要 別記様式第2号(その3の1)」にて示す。

【授業内容を踏まえた実施方法】

1. オンデマンド型授業

授業資料や動画を学習管理システム(LMS)上で配信し、学生が自分のペースで学修できる環境を提供する。学生はLMS上で授業に関する十分な指導(レポート課題に対する質疑応答や添削指導)を受けることができ、常時、教員との意見交換が可能である。

2. リアルタイム型授業

Zoomなどのオンライン会議ツールを利用し、対話型授業を実施する。特に「短期語学研修」などでは現地とのリアルタイム連携を図ることを目指す。

3. オンライン英会話

海外の講師とリアルタイムで会話練習をする機会を授業内外で設け、実践的な会話力の要請を図る。

なお、オンデマンド型とリアルタイム型それぞれの実施回数を予めシラバスに明示することにより、学生の主体的な科目選択や計画的な学修を支援している。

VII 編入学定員を設定する場合の具体的計画

本学科は、3年次に5人の編入学定員を設定している。既修得単位の認定方法、履修指導方法、教育上の配慮等は以下のとおりである。

1. 既修得単位の認定方法

学生が本学に入学する前に大学又は短期大学及び大学以外の教育施設等において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む)について、本学の授業科目の履修により修得したとみなし、単位を認めることができる。全学共通科目の単位認定にあたっては、予め定められた認定可能上限単位数に基づき最大限包括的な認定を行う。科目ごとの個別認定を行う場合は共通教育機構運営委員会にて本学の授業科目に読み替えができるか判断し、認定案を作成する。専門教育科目の単位認定にあたっては、編入学先の学科専任教員が本学の授業科目に読み替えができるか判断し、予め定められた認定可能上限単位数の範囲内で認定案を作成する。認定の

可否の判断には、既修得科目の記載された成績証明書および履修科目のシラバスを用いる。認定案は教授会にて諮り承認を得た後、学長により最終決定がなされる。成績評価は、他大学等で修得した単位等の認定を意味する「TC」を付す。

2. 履修指導方法

入学年度当初に編入学生を対象とした新入生オリエンテーションを実施し、本学における履修制度(履修登録の方法やポータルサイトの使用方法など)および卒業要件について説明を行う。また、年間の履修計画等について所属学科の指導教員と面談を行う。特に免許や資格取得を目指す学生には、個別認定可能な科目を確認し、取得に向けた履修計画が不利にならないよう指導する。編入学後の履修モデル(卒業要件単位数で作成したものは【資料 2】のとおり。

3. 教育上の配慮

編入学生がスムーズに学科の教育プログラムに適応できるよう、以下の配慮を行う。

(1) 演習科目の優先配属

3 年次から履修が始まる「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」について、編入決定時点から学生に科目内容や履修方法を詳細に説明し、学生の興味・関心やキャリア目標に応じた演習科目に優先的に配属する。

(2) 事前オリエンテーションの実施

編入学生を対象とした事前オリエンテーションを実施し、学科の教育方針や学修内容を説明する。これにより、編入学生が円滑に学修を進められる環境を整える。

(3) 個別相談の実施

編入学後の不安を軽減するため、学科の教員や学修・生活支援課の職員が個別に学修計画やキャリア設計について適切な指導を行う。

Ⅷ 企業実習(インターンシップを含む)や海外研修等の学外実習を実施する場合の具体的な計画

企業実習(インターンシップ)については、食、観光分野で即戦力として活躍できる人材を育成するために、資格取得等を踏まえて実務経験を積ませるという観点から積極的に推奨していきたい。しかし、学生の興味・関心および経済状況を踏まえて実施することとするため、卒業に際し必修というものではなく、任意参加として、下記一定の条件を満たした際に選択必修科目「インターンシップⅠ」(1 回目、2 年次を想定)、「インターンシップⅡ」(2 回目、3 年次を想定)の単位を付与する。したがって、入学定員 60 人に対し、最大でも半数程度 30 人程度の実施・履修を見込んでいる。

単位付与条件として、(ア)インターンシップ実施期間が同一組織で最低でも1週間(5日)以上(2週間以上が望ましい)で、当該組織で複数の業務またはプロジェクト型の業務を体験できること、(イ)事前・事後指導に参加すること、(ウ)日誌およびそれを踏まえた報告書を提出すること、(エ)学内で実施する報告会に参加すること、(オ)受入れ先から学生の業務に対するフィードバックが得られることのすべてを満たす必要がある。

そのため、単位取得を前提とする企業実習に参加する学生は実習参加前に科目担当教員に申し出て、担当教員から事前指導を受けるとともに、学科長と実習受入れ担当者との間で「実習に関する覚書」を交換することが必要になる。また、実習後、担当教員は学生から日誌および報告を受け取るとともに、それらをもとにした事後指導を行うとともに、受入れ先からフィードバックを文書またはヒアリングを通じて得ることになる。また、担当教員は、実習に参加した学生たちに実習内容、反省点、今後のキャリアでの実習の活かし方などに関する報告会を開催する(実施時期として年度末を想定)。

受入れ先として学科で準備している分野、企業、実習内容については下記の表の通りである。その他、学生自身が見つけてきた実習先についても上記(ア)から(オ)の条件が満たされる場合には「インターンシップ I/II」の単位付与を行う。

分野	想定人数	実習内容	備考
農業	5人程度	栽培、収穫、出荷体験等	熊野市ふるさと振興公社における香酸柑橘「新姫」の収穫・出荷等(毎年約6人【実績ベース】)
ケータリング	5人程度	駅弁の製造、販売等	秋田県大館市「花善」における大館ふるさとワーキングホリデーを活用した駅弁製造・販売・配達等の実習(毎年若干名【実績ベース】) 三重県松阪市「あら竹」における駅弁製造・販売・イベント開催等の実習(毎年若干名)
ドローン運用	10人程度	ドローンを用いた業務体験、講習会補助等	相模原市内等のドローン発着場における業務体験、講習会補助等
観光業・ コンサル ティング	10人程度	チケット発券、ツアー企画、地域特産品の6次産業化に向けた提案等	2026年中に相模原市に相模女子大学関係者が中心となって設立予定の株式会社サガジョ・サポート隊(仮称)が受入れ予定。

IX 取得可能な資格

地域クリエーション学科を履修することで取得可能な資格を下記の表にまとめる。なお、これらの資格はいずれも卒業の必須要件ではない。

資格・免許の種類	取得条件等
	ア:国家資格か民間資格か イ:資格取得可能か受験資格取得可能か ウ:修了要件か追加科目履修が必要か
食品衛生管理者・食品衛生監視員	ア:国家資格 イ:資格取得可能(任用資格) ウ:修了要件ではない
二等無人航空機操縦士	ア:国家資格 イ:受験資格取得可能 ウ:修了要件ではない
温泉保養士	ア:民間資格 イ:資格取得可能 ウ:修了要件ではない
フードコーディネーター3 級	ア:民間資格 イ:資格取得可能 ウ:修了要件ではない
情報処理士	ア:民間資格 イ:資格取得可能 ウ:修了要件ではない(情報処理士関連科目を履修し、一般財団法人全国大学実務教育協会へ申請することで取得できる)
社会福祉主事	ア:国家資格 *1 イ:資格取得可能(任用資格) ウ:修了要件ではない(社会福祉主事関連科目を履修し、卒業後に該当の業務についた場合に効力を得る任用資格)

*1 社会福祉主事は国の資格制度が規定する国家資格ではなく、社会福祉法に基づき各種行政機関等が任命する任用資格であるが、本表では便宜的に国家資格に分類した。

X 入学者選抜の概要

1. アドミッション・ポリシー

人間社会学部および地域クリエーション学科のアドミッション・ポリシーは次のとおりである。

[人間社会学部のアドミッション・ポリシー]

人間社会学部では、全学のアドミッション・ポリシーを前提に、以下の姿勢を持ち、積極的に入学を希望する人を求めます。

- 1 .人間社会におけるさまざまな営みに興味・関心をもっている。
- 2 .人間社会の理解に資する専門知識・技能を身につけ、自立した女性を目指している。
- 3 .人間社会が内包する諸問題を分析し、実践的な解決につなげたいと考えている。

[地域クリエーション学科のアドミッション・ポリシー]

地域クリエーション学科では、カリキュラム・ポリシーに掲げた教育課程を履修するにあたり、入学者が以下のような関心および能力を有することを期待する。

- ア 地域振興に対して熱意を持って取り組める者。また、地域が抱えている諸課題の解決のために自らの考えを実践してみたいと思う者。
- イ 地域の食や文化、観光などに関心を持ち、居住者や国内外からの来訪者を温かく迎える気持ちを持ちを有する者。
- ウ 地域とのかかわりのなかで、グローバルな視点から地域文化やウェルビーイングを実践し、広く地域内外に発信することに関心を持つ者。
- エ これらの関心を深め、実践するために必要な言語、人文・社会・自然科学の能力を有する者。

2. 入学者選抜の方法

地域クリエーション学科の入学者選抜は、アドミッション・ポリシーを踏まえ、次の選抜方法で、文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する。

(1) 【一般選抜】募集人員 14 名

アドミッション・ポリシーを踏まえ、高等学校までに学んだ主要科目(国語、英語、数学、地理歴史、生物、化学)を幅広く試験科目とし、以下の基礎知識や応用力等を多面的、総合的に評価・判定する。なお、A・B・C日程のうち、B・C日程については1科目での選抜とする。

ア 大学での専門的な学びにスムーズに移行するための準備段階として、高校までに習得すべき基礎学力を問う。

イ 単なる知識の暗記ではなく、それらを活用して問題を解く力を評価する。

【A日程】

選択科目(国語、外国語(英語)、数学、地理歴史、生物、化学)から2科目を選択し、合計 200 点満点で可否を判定する。なお、(国語、外国語(英語)、数学)から1科目は必須とする。地区会場として静岡会場での選抜を実施する。

【B日程】

選択科目(国語、英語、数学、地理歴史、生物、化学)から1科目を選択し、100 点満点で可否を判定する。

【C日程】

選択科目(国語、英語、数学、地理歴史、生物、化学)から1科目を選択し、100 点満点で可否を判定する。

(2) 【学校推薦型選抜】募集人員 30 名

学校推薦型選抜は、指定校推薦、公募制推薦、高等部(内部)推薦があり、学校長からの推薦と調査書によって高等学校での学びや活動を重視するほか、面接では志望動機や入学後に本学科で学ぶことへの意欲、卒業後の進路についてどのように考えているか等を中心に確認し、アドミッション・ポリシーで定めたことへの意欲や関心、知識等について求められる水準にあるかを評価する。受験生はオープンキャンパスや個人見学、高等学校でのガイダンスや進学説明会に参加し、当学科への理解を深める必要がある。

【学校推薦型選抜(指定校)】

学校長からの推薦と、高等学校での成績(調査書による全体の学習成績の状況)及び学習態度のほか、集団面接にて学科への適性を評価・判定する。

【学校推薦型選抜(公募制)】

学校長からの推薦と高等学校での成績(調査書による全体の学習成績の状況)及び学習態度、高等学校での各科目の評価を重視するほか、個人面接によって学科への適性を評価・判定する。

【学校推薦型選抜(高等部)】

学校長からの推薦と、本学の教育理念を理解し共感して入学を強く希望する者を対象とし、選抜する。

【前期】

併設高等部での成績(調査書による全体の学習成績の状況)及び学習態度のほか、個人面接によって学科への適性を評価・判定する。

【後期】

併設高等部での成績(調査書による全体の学習成績の状況)及び学習態度のほか、個人面接によって学科への適性を評価・判定する。

【同窓生特別推薦選抜】

本学の在学生または卒業生の4親等以内にあたる者(子ども、姉妹、孫、姪、従姉妹など)、または本学の卒業生が現在高等学校の教員(専任・臨時)または講師(専任・非常勤)として教育した者で、本学の教育理念を理解・共感して入学を強く希望し、学校長の推薦を受けた者。なお、非常勤講師からの推薦の場合は、学校長の推薦のほかに受験生の担任教員もしくは進路指導部長の推薦もあわせて必要となる。

【A日程】

高等学校での成績(調査書による全体の学習成績の状況)及び学習態度のほか、個人面接によって学科への適性を評価・判定する。

【B日程】

高等学校での成績(調査書による全体の学習成績の状況)及び学習態度のほか、個人面接によって学科への適性を評価・判定する。

(3) 【総合型選抜(9月・10月・11月・12月・3月実施)】募集人員 16 名

一般選抜では測りにくい個性や可能性、そしてアドミッション・ポリシーに関わる秀でたものを受験生が自らアピールし、それらを多面的に評価することで、大学に多様な人材を集めることを目的とする。

【アピールシート方式】

アピールシートと面接で評価する。面接では事前に公表している課題についての発表を評価する。

【調査書方式】

調査書・作文・面接で評価する。評価における調査書の割合は 30%。作文は決められたテーマについて作成した 600 字から 800 字のものを提出する。面接では当学科の学問分野についての興味や関心について確認し評価する。

【探究シート方式】

出願時に高等学校の探究学習の授業の中で作成した成果物と、探究学習の中で自身が担当した役割や、その取り組みによって得たもの、そして当学科の志望動機を記した探究シートを評価する。面接では提出された成果物をもとにしたプレゼンテーションも評価する。

【部活動等シート方式】

高等学校における部活動・クラブ活動や委員会活動について、目的・目標に対してどのように努力をし、何を得、どのような成果を上げることができたか。また、活動で得た経験やスキルを大学進学後はどのように活かしていきたいのかを記した部活動シートと面接で評価する。

【基礎学力方式】

高等学校での学習に真摯に取り組み、基礎学力に一定の自信をもつ受験生が力を発揮できる選抜制度として実施する。基礎学力試験の成績と調査書で評価を行う。試験科目は国語、外国語(英語)から 1 科目を選択する。

(4) 【社会人特別選抜(11月・2月実施)】募集人員若干名

すでに社会人経験を持つ者を対象とした選抜制度であり、これまでの職務経験や学びの成果を重視してアドミッション・ポリシーを踏まえ選抜を行う。通常の入学者選抜とは異なり、社会での実績や人生経験を生かして、大学での学びに取り組む意欲と当学科への適性を評価する。

以上の各入試制度は、下記の表のとおり、アドミッション・ポリシー(AP)と合致するように配慮している。

AP の項目 選抜方式	ア～ウ(関心に関する事項)	エ(能力に関する事項)
(1) 一般選抜	選抜過程では確認できないため、受験者本人によるオープンキャンパス等への参加や大学ウェブサイトでの学科の学びの事前調査を奨励	筆記試験により確認
(2) 学校推薦型選抜 指定校 公募制	調査書の記述内容を参考にしながら、主に面接により確認	調査書により確認
(2) 学校推薦型選抜 高等部 同窓生特別推薦選抜	高等部教員や推薦者との事前意見交換を通じて学科の学びの特徴を理解してもらい、学科の3ポリシーに合致した生徒を推薦してもらう体制を整備したうえで、面接により確認	調査書により確認
(3) 総合型選抜 アピールシート方式	アピールシートの記載内容および面接により確認	面接時の課題(600字程度の文章の音読および内容の質疑応答)により、主に言語力を確認
(3) 総合型選抜 調査書方式	作文(学科での学びと将来を問う内容)および面接により確認	作文により言語力を、調査書で言語力および言語力以外の能力を確認
(3) 総合型選抜 探究シート方式	探究シートおよび面接により確認	探究学習の成果物により確認
(3) 総合型選抜 部活動等シート方式	面接により確認	面接時の自己申告により確認

(3) 総合型選抜 基礎学力方式	選抜過程では確認できないため、受験者本人によるオープンキャンパス等への参加や大学ウェブサイトでの学科の学びの事前調査を奨励	基礎学力試験で国語または外国語の言語力を、調査書で言語力および言語力以外の能力を確認
(4) 社会人特別選抜	面接により確認	面接時の自己申告により確認

3. 入学者選抜の実施体制

総務担当副学長を委員長とした全学入学委員会を設置し、入学者選抜の全体的な方針の策定、入学者選抜の全般的な実務の調査及び実施にあたっている。

合格者の決定は、教授会の議を経て学長が行う。

一般選抜の入試問題作成および採点業務については、出題委員会において各科目の出題責任者、出題者、採点者等を選定する。出題及び採点にあたっては、予め定められた手順で業務を行うことにより、ミスの防止及び公平性の確保に努めている。

4. 正規学生以外(科目等履修生、聴講生)の受入について

科目等履修生・聴講生については、受入人数は特に定めず、正規課程の学生の教育に支障が生じない場合に限り受講を認める。春学期・秋学期の年2回募集を行い、教授会又は共通教育機構運営委員会にて選考の上、学長が受入を許可する。

XI 教育研究実施組織の編制の考え方及び特色

1. 教育研究実施組織編成の考え方及び特色

地域クリエーション学科においては、養成する人材像を踏まえ、豊富な教育・研究実績のみならず、様々な分野での実務経験を持ち合わせた教員を中心に配置する特色を有する。その組織構成は、教授6名、准教授1名、講師2名であり、基幹教員の年齢構成は、30代1名、40代1名、50代3名、60代1名、70代3名である。本学科における実績豊かな教員を中心としたこの配置は、地域の方々と協働したより実践的な教育を以って地域振興・地域活性化に貢献できる人材を育成することが目的であることに他ならない。また教員の定年については、本学就業規則第32条に「職員の定年は、満65歳とする。ただし、大学教育職員(助手を除く)にあつては満67歳とする。」と規定【資料3】されている。これに基づき、地域クリエーション学科において、完成年度末までに定年に達する基幹教員は4名いるが、本学特任教員に関する規程第6条第2項に「特任教員は、満75歳で定年とし、定年に達した日の年度の末日をもって退職するものとする。」と規定【資料4】されているように、引き続き特任教員として本学科の教育研究に従事する予定であり、教育研究水準の維持向上を考慮した組織編成の維持を図っている。完成年次以降においては、年齢層の若い世代を中心とした教員組織に段階的に移行することで、これまでの取り組みを継承し

つつも、新たなニーズも取り入れた形で発展させ、教育研究水準を向上させる将来構想を策定している。

2. 本学科において中心となる研究分野と研究体制

「地域クリエーション学科は、食、観光を中心とした地域固有の資源の発掘をはかり、それをもとに地域創造、地域活性化に取り組むことを目的としている。そのため、単一の学問分野ではなく、観光学、食物学、政策学を中心とした文理にまたがる学際的な学問分野となる。これら中心分野を核として関連領域を含めた俯瞰的、学際的な研究を進め、各分野における基礎知識とその活用技術を反映させることにより、より実践的で専門的な研究を展開し、その成果を以って地域振興に還元する。また、研究体制としては、各分野の教員がこれまでの研究を通して築き上げてきた人的基盤や研究支援を目的とした本学助成金制度を自由に利活用できる体制が整備されているほか、『相模女子大学紀要』に加え、人間社会学部の紀要『人間社会研究』を通じて研究成果の発表の場が確保されている。」

3. 教員及び事務職員等の協働や組織的な連携体制

本学科の教員は実績豊かな教員を中心に構成されており、これまでの取り組みから、すでに教員間のみならず、事務職員等との連携体制を確立している。本学事務組織には、連携教育を専門に扱う部署が設置されており、学生の主体的な学びを支援している。具体的には、社会貢献・地域協働活動を推進することにより、学生自身が「社会と自分自身をしっかりと見つめ、自らの進む道を見つけ出し、人生を前向きに生きてゆくこと」を学生自身の「キャリア形成」として位置付け、この「キャリア形成」を支援するため教職協働で取り組む連携体制を維持・継続している。

XII 研究の実施についての考え方、体制、取組

1. 研究の実施についての考え方、実施体制、環境整備等

本学では、教員の研究活動を推進するための事務組織として、大学事務部学術研究支援課があり、「相模女子大学紀要」の発行、科学研究費を含む外部研究費の執行管理や、科学研究費獲得支援、研究倫理の遵守などにあたっている。

研究活動を推進するための施策等を検討、決定する機関として、学長、副学長、各学部長、各研究科長、各学科長、学術研究支援課長から構成される研究推進委員会があり、学長が委員長を担っている。

教員の研究活動を支援するため、教育研究費及び研究出張助成費が一律に配分されている他、学術的又は社会的要請の極めて強い領域における焦点のしぼられた具体的な研究課題の研究を行うものを対象とした特定研究助成費や、海外出張助成費、学術図書刊行助成費などの研究助成制度がある。

なお、本学の研究公正について「相模女子大学・相模女子大学短期大学部における研究活動に関する行動規範」を定め、研究者としての責務等を明確にしているほか、「研究倫理委員会」「ヒトを対象とする研究に関する倫理審査委員会」「利益相反マネジメント委員会」「遺伝子組換え実験安全委員会」「動物実験委員会」を設置し、研究倫理遵守のための体制を整備している。

2. 研究活動をサポートする技術職員や URA の配置状況、役割、責任等

本学には URA は配置しておらず、他機関との共同研究や受託研究などは学術研究支援課がサポートを行っている。

XIII 施設、設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

本学の校地、運動場は、神奈川県北部に位置する相模原市の南の玄関口、小田急線相模大野駅から徒歩 10 分の神奈川県相模原市南区文京に位置し、新宿から最速で 32 分、横浜から 35 分と立地環境が良好なキャンパスである。

本学の校地面積等の面積は 124,738 m²を有しており、マーガレット本館の 1 階テラスや 2 階屋外テラスなど学生の憩いのスペースを設け、休息スペースやその他の利用のための適当な空地を含め、大学設置基準を十分に確保している。

また、キャンパスの桜並木や銀杏並木など、緑豊かな四季折々の表情を見せる景観は学生の安らぎと快適な空間を創出するキャンパスとなっている。

運動場は、15,946 m²の面積を確保しており、設備としては、体育館、テニスコート 4 面(ナイター設備有)を備え、授業及び課外活動などに有効に活用されている。

本学は、相模原市広域避難場所に指定されており、自然災害時においては、近隣の住民が身の安全を確保できる場所となっている。

2. 校舎等施設の整備計画

校舎面積は、49,489.46 m²となっており、敷地内には、15 棟の建物を有している。その施設には、講義室 46 室、演習室 43 室、実験実習室 73 室、情報処理学習施設 10 室など、各学科の教育に資する施設が整備されており、校舎等施設の整備計画において教育研究上支障のないものとなっている【資料 5】。

マーガレットホールは、学生食堂として「カフェテリア 101」(310 席)、軽食・喫茶スペースとして「ティーラウンジ 2002」(140 席)を設置している。マーガレットホールの外壁は全面ガラス張りで開放感のあるデザインとなっている。一部は、ファミリーレストラン風のテーブルやベンチシートになっており、電源タップも備えていることから、食堂の営業時間内でも学生のグループワークや自学学習スペース、学生同士のコミュニケーションの場として利用されている。また、4 階に設置してある「ガーデンホール」は、講演や講義、催しなどフレキシブルに対応できる空間となっている。

3号館には、文具類・日用品・大学指定教科書・一般図書などを販売しているブックセンター(紀伊國屋書店)や飲食類を販売している売店を設置し、売店機能を充実させている。

また、飲料等の自動販売機(18台)を配置し、学生生活の利便性を支援している。主たる講義棟にはラウンジを設置し、休憩はもとより学生同士のコミュニティーの場として学生が自由に使用できるように環境を整備している。授業時間外の自主学習やオンライン授業への対応を考慮して、マーガレット本館1階の個人ブース(6席)や2階ラウンジや11号館1階のStudy Roomに持参したノートパソコン・タブレット等も利用できるように電源を完備し、学びのスペースが充実している。各建物の外部テラスやピロティーにテーブル、椅子を設置し四季の空気を感じながらくつろげるスペースを提供している。

また、2025年に創立125周年を迎え、地域社会に開かれたキャンパスを目指し、キャンパス整備事業として、新棟を建設(2026年度8月完成予定)する。その施設には、学生等が利用できるラーニングcommons、セミナールーム、プロジェクトルーム等の設置を予定している。

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は学芸学部、人間社会学部、栄養科学部の3学部及び大学院栄養科学研究科、専門職大学院社会起業研究科の2研究科を設置しているため、教育研究に必要な図書・文献については本学附属図書館に既に十分所蔵しているが、必要に応じて、「相模女子大学附属図書館収書方針」に基づき、図書・文献の充実化を図っている【資料6】。

附属図書館には約40万冊の蔵書があり、システムで管理している。また、大学全体で7,137タイトルの学術雑誌(そのうち電子ジャーナル2,285タイトル)の閲覧が可能である。データベースにおいては、国内の総合データベース「日経BP」「日経テレコン21」等をそろえ、新聞データベース「朝日新聞クロスサーチ」「ヨミダス」「毎索」等とともに各種学習・研究のサポートをしている。さらに、雑誌記事検索・全文データベース・書籍情報として、「PressReader」や「EBSCO eBooks」、「ジャパンナレッジ Lib」等の利用が可能である。電子ジャーナルや電子ブック、データベースといった電子コンテンツは、館内だけでなく自宅等からもオンラインで情報を検索・入手することが可能となっている。図書館で所蔵していない資料については、該当資料を所蔵している他機関への文献複写依頼や貸借依頼、紹介状や県内大学図書館共通閲覧証発行等の支援をしている。学生は10冊まで貸出可能であり、和書は卒業年次生が4週間、1～3年生が2週間貸出可能となっており、全学年ともに洋書は4週間まで貸出可能である。これら図書・電子資料の利用に際して、カウンターでのレファレンスサービス以外に、オリエンテーションやガイダンス等を適宜実施し、基本的な利用から発展的な利用まで対応できるサポート体制を整えている。図書館の各種催事やサービス関係の情報は、相模女子大学附属図書館 Web サイトと本学ホームページにて適宜広報している他、学生用ポータルサイト「Smile Sagami」より学生宛に直接周知し、利用を促している。開館時間は授業期間中の平日(月～金曜日)は9時から20時まで、土曜日は9時から17時まで、開館日数は学年暦に沿った開閉館を原則として、日曜日と授業のない祝日、創立記念日である10月18日は閉館している。

館内には、蔵書検索や学内外の電子データ利用のため 111 台の端末機を設置しているほか、学生自身のパソコンからも接続できるよう Wi-Fi 環境を整備している。また、館内にはグループ学習室があり、自由に使えるホワイトボードや電子黒板、ノートパソコンやプリンターを備え、希望者にはプロジェクターを貸し出し、グループ学習ができる環境を整えている。また、個室の読書室や畳の閲覧席、飲食可能なライブラリー・カフェや資格取得に必要な資料を置いた資格・検定学習室、視聴覚資料を閲覧できる視聴室や視聴覚ホールを備え、利用者の目的や用途によって使い分けができるようにしている。

XIV 管理運営

1. 教学面における管理運営体制について

本学の教授会は、学則第 52 条の2項に基づいて各学部を設置され、専任の教授、准教授、講師並びに特任教授(基幹教員に限る)、特任准教授(基幹教員に限る)をもって組織する。

運営等については「教授会規則」で定められており、学部長が議長となつて、原則として月1回定例教授会を開催するほか、必要に応じて臨時教授会を開催する。定足数は専任の教授、准教授、講師並びに特任教授(基幹教員に限る)、特任准教授(基幹教員に限る)の過半数とし、議事は出席者の過半数によって決せられ、審議事項については学則と教授会規則に以下の通り定められている。

教授会は次の事項を審議し、学長がそれらの事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学(再入学及び編入学を含む)、卒業及び課程の修了
- (2) 学位の授与
- (3) 教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

教授会は次の事項を審議し、学長に対して意見を述べることができる。

- (1) 学部長の選定に関する事項
- (2) 学科長の選定に関する事項
- (3) 教授、准教授、講師、助教及び助手の任用、昇任の際の教育研究業績に関する事項
- (4) 名誉教授の推薦に関する事項
- (5) 学則の改正に関する事項
- (6) 学部学科の教育課程に関する事項
- (7) 授業科目の種類及び編成に関する事項

- (8)各種委員の選出に関する事項
- (9)学術研究に関する事項
- (10)学生の留学、転学部転学科、休学、復学、退学、転学に関する事項
- (11)学生の試験及び単位修得に関する事項
- (12)委託生、外国学生、科目等履修生、単位互換履修生、研究生、聴講生に関する事項
- (13)学生の賞罰に関する事項
- (14)学生団体、学生活動、学生生活に関する事項
- (15)その他教育研究に関する事項および学長からの諮問事項

2. 教授会以外に関連する委員会の役割について

(1) 全学教務委員会・共通教育機構運営委員会

学長は、大学及び短期大学部を包括する全学的な管理運営に関して必要と認めた全学委員会を、大学評議会の議を経て、設置することができる。

その中の 1 つである全学教務委員会は、教育担当副学長を委員長とし、学部代表の委員、共通教育機構代表委員及び各学科代表のオブザーバーで構成されており、教育課程の編成、シラバス作成方法、オンライン授業の選定等、本学の授業運営方針及び教務事項に関する審議をおこなっている。

また、共通教育機構運営委員会は、教育担当副学長を委員長とし、共通教育の科目を分野ごとに分けた部会の代表(部会長)を委員として構成されており、共通教育内の採用人事、教育課程の編成、シラバス作成方法等、全学的視点に基づき共通教育の在り方や運営に関する審議をおこなっている。

(2)大学評議会

相模女子大学学則第 52 条の規定に基づき、大学評議会を設置している。

大学評議会は、開催の 3 日以上前に会議の目的たる事項及び日時、場所を通知した上で学長が招集し、その議長となる。学長に事故があるときは、予め学長が指名した副学長がその職務を代行する。原則として毎月 1 回開催することとしているが、必要に応じて臨時に開催することもできる。学長、副学長、学部長、研究科長、学科長(各学部から 1 名)、学園事務部長、大学事務部長、夢をかなえるセンター部長を委員として組織し、3 分の 2 以上の出席をもって成立するとしている。なお、議長が必要と認めたときは、委員以外の教職員に出席を求め、意見を聞くことができる。

大学評議会では、(1)学事に関する重要事項、(2)学生の身上に関する事項、(3)学則その他重要な規則の制定又は改廃に関する事項、(4)大学予算の原案に関する事項、(5)その他、学長の諮問事項を審議する。議決は、出席者の過半数で決し、可否同数の場合は議長が決することとしている。議案および議決の結果については、学部長または各学部から選出された学科長が教授会で報告している。

(3) 科会

科会は当該学科に所属する専任教員(教授、准教授、講師、助教)、非常勤教員(基幹教員に限る)、その他学科長が指名する当該学科所属の特任教員をもって組織し、当該学科に所属する専任教員である教授、准教授、講師の中から学科長を選挙する。

学科長は科会の承認を得て次の事項を行う。

ア 当該学科の人事に関して教授会に提案。ただし、人事の取扱いに関しては、各教授会規則第3条第3号及び第9条の定めを準用し、出席者の過半数をもって決する。

イ 次学年度の授業時間割の作成

ウ カリキュラムの改訂原案の作成

エ 当該学科の共通施設の運営管理

オ その他

XV 自己点検・評価

1. 実施体制

「相模女子大学内部質保証に関する規程」に基づき、全学における内部質保証の推進に責任を負う組織として「質保証委員会」、自己点検・評価の実施に関する事項を審議・運営する組織として「自己点検評価委員会」を設置している。

質保証委員会は、内部質保証について責任と権限を有する組織であり、同委員会が自己点検・評価に係る基本方針の策定、点検及び調整、改善活動の監理、結果の公表を審議する役割を担っている。学長を委員長とし、副学長4名、事務局長(総務担当理事)、学園事務部長、大学事務部長、夢をかなえるセンター部長、学事企画課長、その他学長が委嘱する者若干名を構成員としている。

自己点検評価委員会は、質保証委員会で策定した方針や計画に基づき、自己点検・評価に係る項目及び実施体制を審議・決定し、各機関での自己点検・評価活動を推進するとともに、自己点検・評価の結果をとりまとめている。副学長(総務担当)を委員長とし、研究科長、学部長、事務局長、学園事務部長、大学事務部長、夢をかなえるセンター部長、学事企画課長、その他学長が委嘱する者若干名を構成員としている。

また、自己点検・評価の客観性・妥当性を確保するため、産業界等による外部評価や学生代表からの意見聴取を実施している。

2. 実施方法

本学の自己点検・評価は、「相模女子大学内部質保証に関する規程」に基づき、質保証委員会が定めた「相模女子大学内部質保証の基本方針」に沿って毎年度実施しており、自己点検評価委員会から学部学科・研究科及び事務部門(以下、各機関)へ依頼し、各機関において自己点検・評価を実施している。各機関が実施した自己点検・評価の結果は、点検評価報告書として自己点

検評価委員会がとりまとめ、質保証委員会に報告し改善を図る仕組みとなっている。

質保証委員会は、提出された点検評価報告書が内部質保証の基本方針に基づいた内容であるかを検証し、その結果を各機関にフィードバックするとともに、改善が必要であると判断した場合には、期限を定めた上で改善を指示し、半期毎に改善報告書の提出を求めることにより教育研究活動の質の向上に努めている。また、事務部門の自己点検・評価に基づく課題については、次年度の事業計画に盛り込んでいる。そこから所属部署の組織目標、個人目標へと紐づけられ課題の改善を図っている。

3. 点検項目

学部・学科・研究科及び事務部門の点検項目は、公益財団法人大学基準協会の評価基準に基づいて次のとおり定めている。

学部学科・研究科の点検項目は、主に教育活動に関する項目を評価対象として、「1.教育課程」、「2.学習成果」、「3.学生の受け入れ」、「4.教員・教員組織」、「5.学生支援」、「6.社会連携・社会貢献(学園連携)」とし、3つのポリシーを踏まえて自己点検・評価を実施している。

事務部門の点検項目は、基準1「理念・目的」、基準2「内部質保証」、基準3「教育研究組織」基準4「教育課程・学習成果」、基準5「学生の受入れ」、基準6「教員・教員組織」、基準7「学生支援」、基準8「教育研究等環境」、基準9「社会連携・社会貢献」、基準10「大学運営・財務(1)大学運営、(2)財務」としている。

4. 認証評価

2021年度に公益財団法人大学基準協会による大学の認証評価を受審し、審査の結果、同協会の定める大学基準に「適合」しているとの認定を受けた。認定の期間は2029年3月31日までである。

5. 公表・活用

本学の自己点検・評価によってとりまとめた相模女子大学点検評価報告書、大学基準協会による認証評価の結果や同協会に提出した点検・評価報告書は、本学のウェブサイトにて公表している(<https://www.sagami-wu.ac.jp/public/external-valuation/>)。

また、大学の認証評価の結果、大学基準協会より付された提言や意見については質保証委員会にて検証がなされ、改善報告書又は現況報告書の提出を求めて改善に努めている。

XVI 情報の公表

本学では、学校教育法第113条、学校教育法施行規則第172条の2に基づき、教育研究活動等に関する情報を積極的に提供するため、各種刊行物及び大学 web を利用した情報提供を行っている。

1. 大学の教育研究上の目的及び3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)に関すること

・相模女子大学学則

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/university/outline/#360c2ba0>)

トップ情報の公開＞教育研究基本情報＞教育研究上の目的＞学則

・3つのポリシー

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/university/outline/#e76989e6>)

トップ＞情報の公開＞教育研究基本情報＞教育研究上の目的＞各種ポリシー

2. 教育研究上の基本組織に関すること

・相模女子大学組織図

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/foundation/organization/>)

トップ＞情報の公開＞教育研究基本情報＞組織図＞相模女子大学組織図

3. 教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

・教員組織

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/public/policy/>)

トップ＞情報の公開＞教育研究基本情報＞専任教員数＞求める教員像と教員組織の編制方針

・教員の数

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/public/fulltime/>)

トップ＞情報の公開＞教育基本情報＞専任教員数＞専任教職員数

・各教員が有する学位及び業績に関すること

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/faculty-introduction/>)

トップ＞教員紹介

4. 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職数その他進学及び就職等の状況に関すること

・アドミッション・ポリシー

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/exam/admission-policy/>)

トップ＞情報の公開＞修学情報＞入学に関すること＞アドミッションポリシー

・入学者数・収容定員・在籍者数

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/public/capacity/>)

トップ＞情報の公開＞教育研究基本情報＞収容定員数・在籍者数＞収容定員・在籍者数

・卒業者数・修了者数

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/public/completion/>)

トップ＞情報の公開＞修学情報＞卒業に関すること＞卒業生・修了者数(学位授与者数)

・進学状況・就職状況

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/work/employment/>)

トップ＞情報の公開＞修学情報＞就職者数・就職状況＞学科別就職先

5. 授業科目, 授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

・シラバス

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/student/class/syllabus/>)

トップ＞情報の公開＞修学情報＞授業に関すること＞シラバス

・授業について

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/student/class/about/>)

トップ＞情報の公開＞修学情報＞授業に関すること＞授業について

6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

・卒業に関すること

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/university/outline/#360c2ba0>)

トップ＞情報の公開＞修学情報＞卒業に関すること＞相模女子大学学則

7. 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

・大学施設

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/campuslife/institution/facility/>)

トップ＞情報の公開＞キャンパス情報＞施設・環境＞大学施設一覧

・アクセスマップ

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/university/access/>)

トップ＞情報の公開＞キャンパス情報＞施設・環境＞交通アクセス

・学内施設(キャンパスマップ)

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/campuslife/institution/>)

トップ＞情報の公開＞キャンパス情報＞施設・環境＞校地・校舎等の施設(キャンパスマップ)

8. 授業料, 入学金その他の大学が徴収する費用に関すること

・学費について

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/student/procedure/#047edfcd>)

トップ＞情報の公開＞学生サポート情報＞学費に関すること＞学費について

9. 大学が行う学生の修学, 進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- ・奨学金

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/campuslife/scholarship/>)

トップ＞情報の公開＞学生サポート情報＞奨学金に関すること＞奨学金について

- ・進路選択

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/work/career/>)

トップ＞情報の公開＞学生サポート情報＞就職支援＞就職支援について

- ・学生相談室

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/student/support/consultation/>)

トップ＞情報の公開＞学生サポート情報＞心身の健康に関する支援＞学生相談室

- ・保健センター

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/student/support/health/>)

トップ＞情報の公開＞学生サポート情報＞心身の健康に関する支援＞保健センター

- ・障がい学生支援

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/student/support/disability-support/>)

トップ＞在学生の皆様へ＞学生生活支援＞障がい学生支援に関する基本方針

- ・ハラスメント

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/student/support/harassment/>)

トップ＞情報の公開＞学生サポート情報＞心身の健康に関する支援＞ハラスメントについて

10. その他(教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報, 学則等各種規程, 設置認可申請書, 設置届出書, 設置計画履行状況等報告書, 自己点検・評価報告書, 認証評価の結果 等)

- ・自己点検・外部認証評価

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/public/external-valuation/>)

トップ＞情報の公開＞自己点検・外部認証評価

11. 学位論文に係る評価に当たっての基準について

- ・相模女子大学学則

(<https://www.sagami-wu.ac.jp/university/outline/#360c2ba0>)

トップ＞情報の公開＞教育研究基本情報＞教育研究上の目的＞学則

12. 専門性が求められる職業についている者, 当該職業に関連する事業を行う者その他の関係者との協力の状況について

- ・社会起業研究科教員紹介

(<https://www.gsse-sagami.jp/people/>)

XVII 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

1. 授業の内容及び方法の改善を図るための取組

教員の教育研究活動の質的向上・能力開発、授業改善に資することを目的として、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会を設置し、毎年度策定する「FD 事業実施計画」に基づき、教育方法の研究、工夫を積極的に推進するための様々な取組を行っている。

具体的な取組内容は以下の通りである。2025 年度以降も引き続き全学的に同様の活動を実施していく予定である。

(1) FD 研修会

年2回、専任教職員を対象に実施している。本学教員による授業改善の事例紹介、外部講師による講演等、本学の諸課題に基づいたテーマや教員の関心が高いテーマを設定し、教育能力の向上を図っている。オンライン形式で実施した場合は録画を行い、非常勤講師の希望者にも動画を公開することで研修内容を共有している。

(2) 授業参観

授業の質的向上、教員間の交流の活性化を目的に、原則として非常勤講師も含めた全教員の全授業を通年で参観可能としている。参観後は所定の報告書を授業担当者及びFD委員会事務局に提出することを義務付けている。

(3) 学修振り返りアンケート

大学院栄養科学研究科を除く全学科・研究科の全学年を対象に、年2回、manaba を利用したWEB アンケート形式にて実施している。実施科目は原則として全科目としている(除外条件あり)。アンケートの集計結果は授業科目毎に担当教員に配付し、教員はそれに基づき授業改善を図ると共に、manaba に所見を入力し、履修学生に公開している。

2. 大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るための取組

<教員に対するSD>

毎年度策定している「SD 研修実施計画」に基づき、大学を取り巻く環境の変化や高度化・複雑化する諸課題への対応に向けた能力の開発を図るための取組を行っている。2024 年度は以下の研修を実施した。引き続き、2025 年度以降においても、大学を取り巻く環境の変化や諸課題に対応するため、教育業界の動向を探りながら、SD 研修を行う。

(1) 全体研修

- ・教員集会【対象:専任教員、事務管理職】(頻度:年2回程度)
- ・教員研修 SD 研修会【対象:専任教員、事務管理職】(頻度:年1回程度)

(2) 階層別研修

- ・大学改革懇談会【対象:大学役職者(学科長以上)、事務管理職】(頻度:年2回程度)
- ・新任教員研修会【対象:新任教員】(頻度:年1回)

(3) テーマ別研修

- ・ハラスメント防止・対策研修会【対象:専任教員、専任事務職員】(頻度:年1回)
- ・全学キャリア委員会主催勉強会【対象:専任教員、専任事務職員】(頻度:年1回)

(4) 学外研修

- ・主に本学が加盟する団体の研修会【対象:専任教員】(頻度:適宜)

<事務職員に対するSD>

毎年度策定する「事務職員研修計画」に基づき、全体、階層別、初任者、業務別など、職制や役割等級、適時必要性に応じたテーマを取り扱い実施している。2024年度は、全体研修テーマを「業務改善(業務効率化)」とし、事前学習・課題をもとに、一般職員と管理職員のそれぞれで実践可能な業務改善案を検討した。階層別では、係長は「中期的な経営視点から逆算した課題解決」、主任は「リーダーシップとフォロワーシップ」をテーマに、初任者は人事評価や学園史、各課研修、試用期間終了確認などを実施した。業務別としては、「障害者雇用」をテーマとして管理職向けの研修や全職員(非正規を含む)を対象とした「Excel講座(e-learning)」を実施した。また、大学職員としての資質向上や業務別専門知識等の修得を目的とした個別受講型の「学外研修(業務・SD)」や自部署等の課題解決を目的とした「課題解決研修」、職員の学習ニーズに応じて費用を助成する「Off-JT」のように、事務職員個々の多様なニーズに応じた研修制度を展開している。

2025年度以降もこれまでと同様に、中期計画等に基づく「全体研修」、事務職員人事制度役割等級基準に基づく「階層別研修」並びに「初任者研修」、事務職員や部署のニーズ等に応じた「業務別研修」等を企画し、また、事務職員個々の多様なニーズにも応じながら実施する予定である。

3. 授業補助者に対する取組について

前述のとおり、本学では、授業により、SA(スチューデント・アシスタント)等の授業補助者を設置することがある。SAに対しては、それぞれの授業担当教員が学期ごとの事前研修において、授業補助者の役割、学生への対応方法、ICT機器等の教育ツールの活用方法等について教授すると共に、毎回の授業後に点検等を実施している。今後、SAに対する全学的な支援方針を作成し、取り組む予定である。

XVIII 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取組について

地域クリエーション学科では、1年次に必修科目として「ライフデザイン」を開講し、学科での学びと将来のキャリアとの結びつきについて、各分野の教員からオムニバス形式で具体的に説明していく。

資格取得に関しては、指定科目の単位取得を通じて「食品衛生管理者・食品衛生監視員」資格、「二等無人航空機操縦士」資格(実地試験免除、学科試験のみ受験)、「温泉保養士」資格の取得が可能となるほか、「無線通信技術と法」を通じて「三級陸上特殊無線技士」資格の取得を、「資格支援講座」を通じて「(総合／国内)旅行業務取扱管理者」資格の取得を促すしくみを採用している。それらの資格取得により、食品製造分野、映像制作、農林水産業、旅行業などでの活躍や起業も可能になる。また、単に資格取得だけで終わらずに実践力を高める観点から「インターンシップ I/II」を活用した技術向上、現場力強化に力を入れる。

さらに、おもてなし分野では、「ホスピタリティ実践」「キャリア実践 I/II」を通じて、対人サービスの実践力強化を図り、観光、運輸関連の就職活動にも効果を発揮させる計画である。加えて、「ファシリテーション」を通じて、食や観光、おもてなしの分野で大切になるチーム力を身につけさせる訓練を行う。

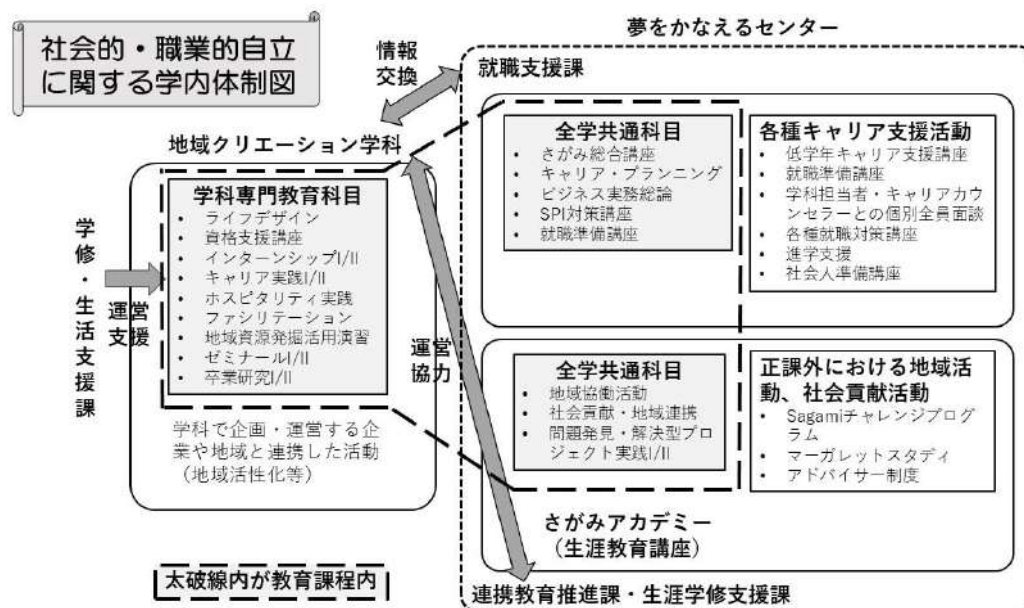
これら一連の学科専門教育科目を通じて、社会的・職業的自立を高めていく指導を実施する。

このほか、全学共通科目に置かれた「キャリア支援科目」のなかには、「キャリア・プランニング」「ビジネス実務総論」「SPI 対策講座」「就職支援講座」等を配し、キャリア教育、就職対策だけでなく、社会人としての基礎的な力を養う。特に「就職支援講座」では本学就職支援課とも連携して、当該学科に必要なキャリア教育に力を入れる。

2. 教育課程外の取組について

夢をかなえるセンターが掲げる学生のキャリア観を醸成する「キャリア形成支援ポリシー」のもと、連携教育推進課では、正課で学んだ専門知識を活かして地域活動や社会貢献活動に取り組む正課外教育プログラム「Sagami チャレンジプログラム」を全学生向けに展開している【資料 7】。活動に際しては、学生自身の目指すキャリアに敵った活動を選択し計画的に行うことができるよう、正課と同様に正課外にも「Sagami チャレンジプログラムシラバス」を策定し、入学と同時に学生に配布し指導している【資料 8】。当プログラム実施に向けた支援体制としては、教職員に加え、卒業生・自治体・企業・外部講師など、学内外の多様な立場の方々が活動の助言をする「Sagami チャレンジプログラムアドバイザー制度」を設けている。卒業生アドバイザーに関しては、在学時の活動経験が現在のキャリアにどう活かされているかなど、学生にとって社会で働く最も身近な先輩から助言を受ける貴重な機会になっている。これらのように、多様なバックグラウンドを持つ社会人が学生の教育に関わることで、学生のキャリアに対する意識が高められている。なお、これら活動の事前・事後の学びを「マーガレットスタディ」と称し、学びのPDCAサイクルを展開している。事後の学びの一例として、年度末に活動の集大成として「Sagami チャレンジプログラム活動報告会」を実施している【資料 9】。学生が、活動の学修成果をプレゼンテーションし、上述のアドバイザー等から講評・評価を受

就職支援課では、オープンカンパニーや職業体験の機会を提供し、学生が多様な働き方や職業現場を知ることで視野を広げ、自分のキャリアについて主体的に考えるきっかけを作っている。また、社会的・職業的自立を支援する講座の実施に加え、学生全員との面談を通じて自己理解を深め、一人ひとりの適性に応じた丁寧な支援を行っている。さらに、履歴書作成や面接対策など、就職活動や大学院進学を具体的にサポートするプログラムも実施している【資料 7】。



本学が第 4 のポリシーとして全学で掲げる「キャリア形成支援ポリシー」のもと、連携・キャリア担当副学長が責任者となって学内の連携を強化し、学生の社会的および職業的自立を支援する体制を整備する。「社会連携推進委員会」および「全学キャリア委員会」を通じて全学的に連携し、学生のキャリア形成業務を所管する「夢をかなえるセンター（連携教育推進課、就職支援課、生涯学修支援課）によって効果的な学生支援を推進する。

設置の趣旨等を記載した書類 資料目次

資料 1 「履修モデル」	2
資料 2 「履修モデル(編入生例)」	7
資料 3 「就業規則」	8
資料 4 「相模女子大学特任教員に関する規程」	25
資料 5 「地域クリエーション学科時間割」	26
資料 6 「主な学術雑誌」	28
資料 7 「2024 年度夢をかなえるセンター冊子」	32
資料 8 「2024 年度「Sagami チャレンジプログラム」シラバス」	64
資料 9 「2024 年度「Sagami チャレンジプログラム活動報告会」案内チラシ」	104

【資料1】

履修モデル(食・観光全般型)

		イタリアック科目は 履修上限対象外	必修科目	選択必修科目	丸数字は単位数、無記入は2単位				
		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ
専門 教育 科目	基礎 科目	総合	地域クリエイション学入門 地域クリエイション学実践①	ライフデザイン					
		観光	観光学概論 ● 食文化論 映像制作入門	● ホスピタリティ概論	観光地理学 ウェルビーイングと観光 ◆ ホスピタリティ産業論	地域コミュニティ論			
		ビジネス	プレゼンテーション入門 データ分析入門 マクロ経済学	経営理論	会計学				
		食	■ 基礎化学 ■● 食品の化学	■● 調理科学 ■● 公衆衛生学 ■● 食品衛生学	■ 食品安全学 ■● 健康と栄養				
		観光と政策		アニマルウェルフェア	■ 生物と生態系		交通・ロジスティクス論		
		ビジネスツール 情報		▲ ドローン操縦技術①		マーケティング・経営戦略論			
	基幹 科目	食品の科学		■ 微生物学 ■ 生化学 ■ 栄養機能学	■ 栄養生理学 ■ 食と環境 ■ 食品加工と保蔵	■ 発酵・醸造学 ● メニュー開発論 ■ 食品分析学			
				■● フードブランニング論					
		食・農	● フードデザイン実習(基礎調理)①	■ 基礎化学実験①	■ 食品加工学実習①	■ 食安全マネジメント演習①	フードブランニング実習Ⅱ①		
				■ ライフステージと食	■ 栄養マネジメント実習①	フードブランニング実習Ⅰ①	フードブランニング実習Ⅲ①		
	展 開 科 目		● フードデザイン実習(応用調理)①		■ 地域栄養学		● テーブルコーディネート論(演習含む)		
					■ 食品衛生学実験①				
	完成科目					ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅰ③	卒業研究Ⅱ③
全学共通科目		基礎教育講座	英語Ⅰ①	英語Ⅱ①	ウエルネス	就職支援講座			
		さがみ総合講座	球技スポーツ①	情報リテラシー①	言語と異文化	社会学			
		コンピュータリテラシー			諸外国の社会と文化	心理学			
						くらしと文化			

必修	25	12	10	4	2	2	3	3	61	単位
選択		12	14	19	12	6			63	単位
自由									0	単位
小計	25	24	24	23	14	8	3	3	124	単位

うち1単位は履修上限対象外

■ 食品衛生管理者・食品衛生監視員 ● フードコーディネーター3級 ▲ 2等無人航空機操縦士 ◆ 温泉保養士 ◇ 第3級陸上特殊無線技士 □ 旅行業務取扱管理者

履修モデル(食品衛生管理者特化型)

		イタリアック科目は 履修上限対象外	必修科目	選択必修科目	丸数字は単位数、無記入は2単位				
		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ
専門 教育 科目	基礎 科目	総合	地域クリエーション学入門 地域クリエーション学実践①	ライフデザイン					
		観光	観光学概論 ● 食文化論 映像制作入門	● ホスピタリティ概論	観光地理学 ウェルビーイングと観光 ◆ ホスピタリティ産業論	地域コミュニティ論			
		ビジネス	プレゼンテーション入門 データ分析入門 マクロ経済学	経営理論	会計学				
		食	■ 基礎化学 ■● 食品の化学	■● 調理科学 ■● 公衆衛生学 ■● 食品衛生学	■ 食品安全学 ■● 健康と栄養				
		観光と政策			■ 生物と生態系		アニマルウェルフェア		
		ビジネスツール 情報			気候変動と気象予測	消費者問題と政策			
		食品の科学		■ 微生物学 ■ 生化学 ■ 栄養機能学	■ 栄養生理学 ■ 食と環境 ■ 食品加工と保蔵 ■● フードブランニング論	■ 発酵・醸造学	● メニュー開発論		
		展開 科目	食・農		地域資源発掘活用演習①				
		完成科目			● フードデザイン実習(基礎調理)① ■ 基礎化学実験① ■ ライフステージと食 ● フードデザイン実習(応用調理)①	■ 食品加工学実習① ■ 栄養マネジメント実習① ■ 地域栄養学 ■ 食品衛生学実験①	■ 食安全マネジメント演習① フードブランニング実習Ⅰ① 食文化と伝承	フードブランニング実習Ⅱ① フードブランニング実習Ⅲ①	
	全学共通科目					ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅰ③	卒業研究Ⅱ③
			基礎教育講座	英語Ⅰ①	英語Ⅱ①	ウエルネス	就職支援講座		
			さがみ総合講座	球技スポーツ①	情報リテラシー①	言語と異文化	社会学		
			コンピュータリテラシー	日本の社会と文化		諸外国の社会と文化	心理学		

必修	25	12	10	4	2	2	3	3	61	単位
選択		11	15	19	12	6			63	単位
自由									0	単位
小計	25	23	25	23	14	8	3	3	124	単位

うち1単位は履修上限対象外

うち1単位は履修上限対象外

■ 食品衛生管理者・食品衛生監視員 ● フードコーディネーター3級 ▲ 2等無人航空機操縦士 ◆ 温泉保養士 ◇ 第3級陸上特殊無線技士 □ 旅行業務取扱管理者

履修モデル(フードコーディネーター特化型)

			イタリアック科目は 履修上限対象外	必修科目	選択必修科目	丸数字は単位数、無記入は2単位				
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ
専門 教育科目	基礎 科目	総合	地域クリエーション学入門	ライフデザイン						
			地域クリエーション学実践①							
		観光	観光学概論	● ホスピタリティ概論	観光地理学	地域コミュニティ論				
			● 食文化論		ウェルビーイングと観光					
			映像制作入門		◆ ホスピタリティ産業論					
		ビジネス	プレゼンテーション入門	経営理論		会計学				
			データ分析入門							
			マクロ経済学							
		食	■ 基礎化学	■● 調理科学	■ 食品安全学					
	■● 食品の化学		■● 公衆衛生学	■● 健康と栄養						
			■● 食品衛生学							
	基幹 科目	観光と政策		アニマルウェルフェア 交通・ロジスティクス論						
		ビジネスツール			マーケティング・経営戦略論 広報と広告	消費者行動論		ブランド戦略・商品開発論		
		情報		社会調査法入門 ▲ ドローン操縦技術①	映像制作演習(基礎) 映像制作演習(発展)	気候変動と気象予測 映像制作演習(発展)	無線通信技術と法			
						プレゼンテーションⅡ(PCと視 覚資料)				
			食品の科学			■● フードプランニング論 エンターテインメント産業論	● メニュー開発論 フードツーリズム論			
展開 科目		観光			地域資源発掘活用演習①					
	食・農		● フードデザイン実習(基礎調理)①	食文化と伝承 ● フードデザイン実習(応用調理)①	農水産業と地域社会 食育活動①	● テーブルコーディネート論(演習含む) 農水産物の加工と流通				
					● ホスピタリティ実践①					
	実務									
完成科目							ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅰ③	卒業研究Ⅱ③
全学共通科目			基礎教育講座	英語Ⅰ①	英語Ⅱ①	ウエルネス	就職支援講座	フランス語Ⅱ①		
			さがみ総合講座	球技スポーツ①	情報リテラシー①		社会学	日本の社会と文化		
			コンピュータリテラシー	諸外国の社会と文化			心理学			
							フランス語Ⅰ①			

必修	25	12	10	4	2	2	3	3	61	単位
選択		12	15	18	9	9			63	単位
自由									0	単位
小計	25	24	25	22	11	11	3	3	124	単位

うち1単位は履修上限対象外

うち1単位は履修上限対象外

■ 食品衛生管理者・食品衛生監視員 ● フードコーディネーター3級 ▲ 2等無人航空機操縦士 ◆ 温泉保養士 ◇ 第3級陸上特殊無線技士 □ 旅行業務取扱管理者

履修モデル(観光産業・政策型)

		イタリック科目は 履修上限対象外	必修科目	選択必修科目	丸数字は単位数、無記入は2単位				
		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ
専 門 教 育 科 目	基 礎 科 目	総合	地域クリエーション学入門 地域クリエーション学実践①	ライフデザイン					
		観光	観光学概論 ● 食文化論 映像制作入門	● ホスピタリティ概論	観光地理学 ウェルビーイングと観光 ◆ ホスピタリティ産業論	地域コミュニティ論			
		ビジネス	プレゼンテーション入門 データ分析入門 マクロ経済学	経営理論	会計学				
		食	■ 基礎化学 ■● 食品の化学	■● 調理科学 ■● 公衆衛生学 ■● 食品衛生学	■ 食品安全学 ■● 健康と栄養				
		観光と政策		アニマルウェルフェア 交通・ロジスティクス論					
		ビジネスツール		民法(契約法)	マーケティング・経営戦略論 消費者行動論 ブランド戦略・商品開発論	広報と広告			
	基 幹 科 目	情報		社会調査法入門 ▲ ドローン操縦技術①	映像制作演習(基礎) プレゼンテーションⅠ(言語と 身体表現)	地域データ分析 気候変動と気象予測 映像制作演習(発展) プレゼンテーションⅡ(PCと視 覚資料)			
		食品の科学					発酵・醸造学		
		観光		観光ビジネス論 ホスピタリティマネジメント 地域資源発掘活用演習①	旅行業概論 フードツーリズム論	世界遺産入門			
		実務			● ホスピタリティ実践① 資格支援講座				
	展 開 科 目	完成科目				ゼミナールⅠ 就職支援講座 情報リテラシー① 韓国／朝鮮語Ⅰ① 健康スポーツ①	ゼミナールⅡ ウェルネス アート 日本の社会と文化	卒業研究Ⅰ③	卒業研究Ⅱ③
	全 学 共 通 科 目	基礎教育講座	英語Ⅰ①	英語Ⅱ①	中国語Ⅰ①				
		さがみ総合講座	経済学	諸外国の社会と文化					
		コンピュータリテラシー							

必修	25	12	10	4	2	2	3	3	61	単位
選択		12	14	20	9	8			63	単位
自由									0	単位
小計	25	24	24	24	11	10	3	3	124	単位

うち1単位は履修上限対象外

うち1単位は履修上限対象外

■ 食品衛生管理者・食品衛生監視員 ● フードコーディネーター3級 ▲ 2等無人航空機操縦士 ◆ 温泉保養士 ◇ 第3級陸上特殊無線技士 □ 旅行業務取扱管理者

履修モデル(地域情報発信型)

		イタリアック科目は 履修上限対象外		必修科目	選択必修科目	丸数字は単位数、無記入は2単位			
		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ
専門 教育科目	基礎 科目	総合	地域クリエーション学入門	ライフデザイン					
			地域クリエーション学実践①						
		観光	観光学概論	● ホスピタリティ概論	観光地理学	地域コミュニティ論			
			● 食文化論		ウェルビーイングと観光				
			映像制作入門		◆ ホスピタリティ産業論				
		ビジネス	プレゼンテーション入門	経営理論		会計学			
			データ分析入門						
			マクロ経済学						
		食	■ 基礎化学	■● 調理科学	■ 食品安全学				
			■● 食品の化学	■● 公衆衛生学	■● 健康と栄養				
				■● 食品衛生学					
	基幹 科目	観光と政策			映像で学ぶ社会の進歩				
					広報と広告	消費者行動論	ベンチャー論		
		ビジネスツール				ブランド戦略・商品開発論	経営組織・人事管理論		
							流通論		
							マーケティング・経営戦略論		
		情報		社会調査法入門	映像制作演習(基礎)	映像メディア論			
				▲ ドローン操縦技術①	プレゼンテーションⅠ(言語と身体表現)	地域データ分析			
					無線通信技術と法	気候変動と気象予測			
						映像制作演習(発展)			
						プレゼンテーションⅡ(PGと視覚資料)			
						知的財産権法			
		食品の科学			■ 食と環境				
	科展 目開	観光			地域資源発掘活用演習①	情報通信産業論	フードツーリズム論		
		食・農			食文化と伝承				
	完成科目					ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅰ③	卒業研究Ⅱ③
全学共通科目		基礎教育講座	英語Ⅰ①	英語Ⅱ①	ウエルネス	キャリア・プランニング	法学		
		さがみ総合講座	諸外国の社会と文化		ラケットスポーツ①	情報リテラシー①			
		コンピュータリテラシー	経済学		中国語Ⅰ①	韓国／朝鮮語Ⅰ①			
			暮らしと文化						

必修	25	12	10	4	2	2	3	3	61	単位
選択		10	15	20	14	4			63	単位
自由									0	単位
小計	25	22	25	24	16	6	3	3	124	単位

うち1単位は履修上限対象外

うち1単位は履修上限対象外

■ 食品衛生管理者・食品衛生監視員 ● フードコーディネーター3級 ▲ 2等無人航空機操縦士 ◆ 温泉保養士 ◇ 第3級陸上特殊無線技士 □ 旅行業務取扱管理者

【資料2】

履修モデル(編入生例)

			1セメ		2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ
								イタリック科目は 履修上限対象外	必修科目	選択必修科目	丸数字は単位数、無記入は2単位
専門 教育科目	基礎 科目	総合						地域クリエイション学入門	ライフデザイン		
								地域クリエイション学実践①			
		観光						観光学概論	● ホスピタリティ概論	観光地理学	地域コミュニティ論
								● 食文化論		ウェルビーイングと観光	
		ビジネス						映像制作入門	経営理論	◆ ホスピタリティ産業論	会計学
								プレゼンテーション入門			
	基 幹 科目	食						データ分析入門			
								マクロ経済学			
		観光と政策						■ 基礎化学	■● 調理科学	■ 食品安全学	
								■● 食品の化学	■● 公衆衛生学	■● 健康と栄養	
		ビジネスツール							■● 食品衛生学		
									交通・ロジスティクス論		
	展 開 科目	情報							アニマルウェルフェア		
									マーケティング・経営戦略論		
		食品の科学							▲ ドローン操縦技術①		
									● メニュー開発論		
		観光									
								■● フードプランニング論			
	完成 科目	観光						地域資源発掘活用演習①		食文化と伝承	フードツーリズム論
		食・農							● テーブルコーディネート論(演習含む)	● フードデザイン実習(基礎調理)①	● フードデザイン実習(応用調理)①
		実務							● ホスピタリティ実践①		
		全学共通科目						ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅰ③	卒業研究Ⅱ③

必修						21	14	13	7	55	単位
選択						3	10	5	3	21	単位
自由										0	単位
小計						24	24	18	10	76	単位

うち1単位は履修上限対象外

■ 食品衛生管理者・食品衛生監視員 ● フードコーディネーター3級 ▲ 2等無人航空機操縦士 ◆ 温泉保養士 ◇ 第3級陸上特殊無線技士 □ 旅行業務取扱管理者

就業規則

昭和43年 2 月10日

制定

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、法令に定められるもののほか、学校法人相模女子大学（以下「本法人」という。）に勤務する職員の就業に関する基本的事項を定めることを目的とする。

(職員の定義)

第2条 本規則において職員とは、常勤者であつて、教育職員及び事務職員に任用された者をいう。

2 教育職員の種類

教育職員	学長、教授、准教授、講師、助教、助手、校長、副校長、教諭、養護教諭、司書教諭、実習助手

(適用範囲)

第2条ノ2 本規則は、前条に定める職員に適用する。ただし、管理職規程第2条に定める者については第3条を適用しない。

- 2 嘱託、非常勤職員及び臨時職員は、特に定められるもののほか、原則として本規則を準用する。
- 3 パートタイマーについては、別に定めるパートタイマー雇用・就業要項を適用する。
- 4 外国人英語指導助手については、外国人指導助手に関する要項を適用する。
- 5 認定こども園相模女子大学幼稚部に勤務する職員の就業については、認定こども園相模女子大学幼稚部就業規則を適用する。

(規則の改正について)

第2条ノ3 この就業規則に定められる労働条件及び服務規律等は、法律の改正及び本法人の経営環境の変化その他業務上の必要性により、職員の過半数で組織する労働組合がある場合においてはその労働組合、職員の過半数で組織する労働組合がない場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴いて、変更することがある。ただし、個別労働契約により、当該規則の変更により変更し得ない特約がある場合には、本条で変更された労働条件は適用されない。

第2章 勤務

(勤務時間と休憩時間)

第3条 教育職員における1週間の勤務時間は、38.5時間以内とし、原則として始業午前9時、終業午後5時（土曜日は午後0時30分）、休憩時間は午後0時30分から1時間とする。事務職員における1週間の勤務時間は、40時間以内とし、原則として始業午前9時、終業午後6時（土曜日は休日）、休憩時間は午後0時30分から1時間とする。

- 2 始業時刻とは、所定の就業場所で業務を開始する時刻をいい、終業時刻とは、業務終了の時刻をいう。

- 3 業務の都合により必要がある場合、各所属長は理事長の承認を得て、第1項の始業・終業時刻を繰り上げ、又は繰り下げることができる。
- 4 本条の適用を受ける職員の、月の平均労働時間数は、次の計算式による。
$$(\text{年間日数} - \text{年間総休日日数}) \times 1 \text{日の所定労働時間数} \div 12 \text{カ月}$$

なお、月の平均労働時間数に1未満の端数がある場合、小数点第1位を四捨五入する。
- 5 前項における年間とは、4月1日で始まり3月31日で終わる一年間をいう。
- 6 監視又は断続的な業務に従事する者が行政官庁の許可を受けた場合は、この限りでない。
(1年単位の変形労働時間制)

第3条ノ2 前条の規定にかかわらず、職員の過半数で組織する労働組合がある場合においては、その労働組合、職員の過半数で組織する労働組合がない場合においては職員の過半数を代表する者と協定を締結した場合はその定めにより、毎年4月1日を起算日とする1年単位の変形労働時間制を採用し、勤務時間は1年間を平均して1週あたり38.5時間以内とする。

- 2 1日の勤務時間は10時間以内とする。1週間の勤務時間は52時間以内とする。
- 3 各日の始業・終業の時間は、各部における「変形労働カレンダー（年間）」の勤務パターン表によるものとする。ただし、授業時間、学校行事その他の業務の都合により、これを繰り上げ、又は繰り下げることができる。この場合、所属長は、予め職員にその旨を通知するものとする。
- 4 中途採用者、中途退職者その他変形期間の中途においてこの変形労働時間制の適用を打ち切られた職員の勤務時間については、それまでの期間で算出する。
- 5 本条の適用を受ける職員の、月の平均労働時間数は、次の計算式による。
$$(\text{年間日数} - \text{年間総休日日数}) \times 1 \text{日の所定労働時間数} \div 12 \text{カ月}$$

なお、月の平均労働時間数に1未満の端数がある場合、小数点第1位を四捨五入する。

(時間外勤務、休日出勤の振替休日及び代休)

第4条 業務の都合により必要がある場合は、時間外勤務及び休日出勤をさせることがある。ただし、法定の労働時間を超える労働又は法定の休日における労働は、職員の過半数で組織する労働組合がある場合においてはその労働組合、職員の過半数で組織する労働組合がない場合においては職員の過半数を代表する者と協定を締結し、労働基準監督署に届出た協定書面に定める範囲以内とする。

- 2 本法人は、業務上の都合によりやむを得ない場合は、第6条に定める休日を同一週内の休日以外の日に振替えることができる。なお、この場合の週とは、日曜日で始まり土曜日で終わる一週間をいう。ただし、第6条第4号の休日は、同一週を超えて振替えることができるものとする。
- 3 前項により休日の振替を行うときは、所属長が前日までに振り替える休日を指定し、職員に通知する。
- 4 業務の都合により前第2項及び第3項に定める振替休日が指定できない場合に限り、当該休日後の1カ月以内において勤務に支障のない日に代休日を与えるものとする。

(勤務態様の特例)

第5条 出張その他必要があると認めたときは、就業の場所以外において勤務させることがある。

- 2 前項の場合、労働時間の全部又は一部について就業の場所以外で業務に従事した場合において、労働時間を算定しがたいときは、第3条に定める労働時間を労働したものとみなす。

(休日)

第6条 休日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日、その他国が定めた休日
- (3) 創立記念日（10月18日）
- (4) 年末年始（12月28日から1月7日まで）
- (5) その他本法人において特に定めた日

- 2 事務職員については、前項に加えて土曜日を休日とする。

(変形労働時間制の休日)

第6条ノ2 前条の規定にかかわらず、1年単位の変形労働時間制に関する協定を締結した場合、その定めにより毎年4月1日を起算日とする1週間ごとに1日以上、1年間に105日以上となるように、原則として次にとおり休日を指定して、「変形労働カレンダー（年間）」に定め、毎年3月末日までに職員に通知する。

- (1) 土曜日及び日曜日
- (2) 国民の祝日、その他国が定めた休日
- (3) 創立記念日（10月18日）
- (4) 年末年始（12月28日から1月7日まで）
- (5) その他本法人において特に定めた日

(当直)

第7条 本法人において必要があると認めた場合は、休日における日直又は夜間における宿直をさせることがある。

(大学の授業担当時間)

第8条 大学、短期大学部（以下「大学」という。）の教育職員の授業担当時間については、別に定める。

- 2 大学の助手の勤務については、学長の定めるところによる。

(授業担当時間)

第8条ノ2 授業を担当する者の授業時間は、理事長の承認を得て学校の長が定める。

(始業及び終業時刻の記録)

第9条 始業及び終業時は出退勤管理用ICカード等による打刻を行い、始業及び終業時刻を記録しなければならない。出勤記録が出勤簿による場合で、始業時刻までに出勤したときは、出勤簿に押印もしくは署名をしなければならない。

- 2 出勤記録が出勤簿による場合で、始業時刻後に出勤したときは、出勤簿に遅刻印を捺さなければならない。
- 3 出勤記録が出勤簿による場合で、特に指定された場合を除き、前第2項の定める手続きをとらないときは、出勤しても欠勤したものとして処理することがある。

(遅刻・早退)

第10条 病気その他やむを得ない緊急事由により遅刻又は早退しようとするときは、所属長の承認を得なければならない。

- 2 遅刻又は早退の取り扱いについては、勤務に関する取扱細則第4条による。

第11条 削除

(遅刻・早退の特例)

第12条 次の各号の一に該当し、所属長の承認を受けたときは、やむを得ないと認められた時間について出勤したものと認めることができる。

- (1) 公民としての選挙権その他の権利を行使するとき。ただし、公職に立候補するときもしくは公職につくときは、予め本法人の承認を受けた場合に限る。
 - (2) 裁判所に証人、鑑定人、参考人等として出頭を命ぜられたとき。
 - (3) 本人の罹病によらず学校保健安全法施行規則第18条に定める感染症(以下「感染症」という。)の予防のため出勤できなかったとき及び本法人が日時等を斡旋して行う精密検査をうけるとき。
 - (4) 交通事故もしくは交通遮断のため出勤できなかったとき。
 - (5) その他前各号に準ずるとき。
- 2 第5条により就業の場所以外において勤務する場合の取扱は、具体的事情により理事長が決める。

(育児時間)

第12条ノ2 生後1年に達しない生児を育てる職員が予め所属長に申し出た場合は、所定の休憩時間のほか、1日について2回各30分間の育児時間を受けることができる。

- 2 前項育児時間は、本人の申し出により1日1回1時間とすることができる。ただし、就業時間が4時間以内の場合は30分間とする。
- 3 前第1項の育児時間は有給とする。

(欠勤)

第13条 業務外の傷病又は事故により欠勤するときは、予め所定の願又は届を提出して所属長の承認を得なければならない。

- 2 やむを得ない事情により予め願い出又は届出ができない場合は、速やかに所属長に連絡してその承認を得、欠勤のため業務に支障を来さないように努め、その後に届けを提出し承認を得なければならない。
- 3 業務外の傷病又は事故による欠勤が引続き1週間を超えるときは、医師の診断書を提出しなければならない。また、1週間以内であっても医師の診断書を求めることがある。

- 4 前項の診断書が提出された場合であっても、必要あれば職員に対して指定する医師への受診を求めることがある。

(年次有給休暇)

第14条 職員は、4月1日から翌年3月31日までを年度として、当該年度内に20日の年次有給休暇を付与するものとする。ただし、新規採用者の付与日数は、第3項のとおりとする。

- 2 年次有給休暇の付与に係る勤続年数の算出に当たっては、1年未満の端数は1年に切り上げる。ただし、3項の当該年度に新たに採用された者は除く。また勤務日数の算定に当たっては以下の期間は出勤したものとみなす。

- (1) 業務上の負傷、疾病による療養のための休業期間
- (2) 産前産後の休業期間
- (3) 年次有給休暇を取得した期間
- (4) 慶弔休暇、特別休暇を取得した期間
- (5) 育児介護休業法に基づく育児休業及び介護休業期間

3 付与日数

- (1) 前年度以前に採用された者で、前年度の勤務日数が所定労働日数の8割以上の者

勤続年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年以上
休暇日数	12日	13日	14日	16日	18日	20日

- (2) 前年度以前に採用された者で、前年度の勤務日数が所定労働日数の5割以上8割未満の者

勤続年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年以上
休暇日数	10日	11日	12日	14日	16日	18日

- (3) 前年度以前に採用された者で、前年度の勤務日数が所定労働日数の5割未満の者

勤続年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年以上
休暇日数	8日	9日	10日	12日	14日	16日

- (4) 当該年度に新たに採用された者(その月の16日以降に採用された者については、翌月欄を適用する)

採用月	4～9月	10月	11月	12～3月
付与月	採用月～3月	10～3月	11～3月	採用月～3月
日数	10日	6日	4日	2日

- 4 年次有給休暇は、1日又は半日を単位として願い出るものとする。ただし、労使協定に基づき年次有給休暇日数のうち、1年について5日の範囲内で、1時間を単位とすることができる。

- 5 1時間を単位として使用した年次有給休暇を1日に換算する場合には、1年間における1日平均所定労働時間数をもって1日とする。

- 6 年次有給休暇は、所属に応じその業務に支障のないように受けるものとする。

7 年次有給休暇の残余日数は、当該年度分のみ次年度に繰り越すことができる。また、年次有給休暇の繰越分は、新年度分に先立って与えられるものとする。

8 所属長は、請求された時季に年次有給休暇を与えることが事業の正常な運営を妨げる場合においては、他の時季にこれを与えることができる。

(生理休暇)

第14条ノ2 生理日の就業がいちじるしく困難な職員が生理休暇を請求したときは、生理に必要な日数の有給休暇を与えることができる。

(妊娠中の通院等)

第14条ノ3 妊娠中及び出産後1年以内の女性が母子保健法による健康診査等のために勤務時間内に通院する必要がある場合は、請求により時間内通院をすることができる。

(妊娠中の通勤緩和・勤務の短縮)

第14条ノ4 妊娠中の女性に対し、医師等から通勤緩和の指導があった場合は、本人の請求により始業時間30分繰下げ、終業時間30分繰上げることができる。

2 前項通勤緩和時間は、本人の申し出により1日1時間以内を限度として時差出勤、あるいは勤務時間を短縮することができる。ただし、就業時間が4時間以内の場合は30分間とする。

3 前項の勤務時間の短縮については有給とする。

(勤務中の休憩)

第14条ノ5 妊娠中の女性に対し、医師等から休憩に関する措置について指導があった場合又は妊娠中の女性が業務を長時間継続することが身体に負担になる場合は、請求により所定の休憩時間以外に適宜休憩をとることができる。

(妊娠中及び産後の症状等に対応する措置)

第14条ノ6 妊娠中及び出産後1年以内の女性が、身体に何らかの症状又は症状が発生するおそれがあるとして、医師等から勤務状態が健康状態に支障を及ぼすとの指導を受けた場合は、本人の請求により「母性健康管理指導事項連絡カード」に基づきその指導が守れるよう、業務内容の軽減、勤務時間の短縮等の措置をとることができる。また、休業が必要な場合は、本人の申請により理事長が許可する。

2 前項の勤務時間の短縮等の措置に伴う給与の扱いについては、給与規程第18条ノ2による。

3 前第1項の休業の扱いについては、本規則第13条に準じる。

(産前産後休業)

第14条ノ7 女子職員が出産のため休業を請求したときは、出産予定日前8週間（多胎妊娠の場合は14週間）以内の休業（産前休業）を受けることができる。

2 女子職員が出産したときは、出産の翌日以後8週間は休業（産後休業）しなければならない。ただし、本人が請求し、医師が支障がないと認めた場合は産後6週間経過後に復職することができる。

3 この休業期間は、その2分の1を勤続期間に算入する。

(慶弔休暇)

第15条 次の表に該当して請求したときは、それぞれの事由に該当する日数(休日を含む)以内の慶弔休暇を受けることができる。

休暇の種類	休暇日数	備考
結婚休暇 本人	7 日	入籍当日を含み180日以内に取得するものとする。
子女	2 日	挙式当日を含む。
出産休暇 配偶者出産	3 日	事由発生日から 14 日以内に取得するものとする。
忌引き休暇 配偶者、一親等の血族	7 日	
二親等の血族、一親等の姻族	5 日	
三親等の血族、二親等の姻族	3 日	

2 慶弔休暇は、継続して受けるものとする。

3 削除

4 削除

5 職員は、第1項の慶弔休暇を取得しようとする場合、事前に書面により申請し、所属長の承認を得なければならない。ただし、やむを得ず事前に申請することができない場合、事後速やかに申請し、承認を得ることとする。

6 職員が、前項の手続きを怠った場合、原則として無断欠勤として取り扱う。

(特別休暇)

第16条 勤務に関する取扱細則第6条に定める事由により必要があるときは、理事長の許可を受けて特別休暇を受けることができる。

(休暇手続)

第17条 休暇を受けようとするときは、事前に願又は届を提出し、所属長の承認を得なければならない。ただし、やむを得ず事前に申請することができない場合、事後速やかに申請し、承認を得なければならない。

第3章 給与

(給与)

第18条 給与・退職手当に関する事項は、別に定める。

第4章 出張

(出張)

第19条 出張に関する事項は、別に定める。

第5章 人事

第20条 削除

(任用基準)

第21条 任用の基準については、別に定める。

(採用及び職種の変更)

第22条 職員の採用及び職種の変更は、関係所属長の申請に基づいて本法人が行う。

(採用手続き)

第23条 採用手続きについては、別に定める。

(提出書類)

第24条 採用された者は、誓約書・身元保証書及び住民票記載事項証明書（個人番号が記載されていないものに限る）を提出しなければならない。ただし、その一部を省略することができる。

- 2 前項の書類を提出する時には、個人番号カード又は、通知カード及び運転免許証等の写真付き身分証明証を提示しなければならない。

(試用期間)

第25条 新たに職員として採用された者には、試用期間を設ける。ただし、特に試用期間の必要がないと認められた者については、この限りでない。

- 2 試用期間は、6カ月とする。ただし、3カ月まで短縮することができる。
- 3 試用期間中に能力、人物、勤務態度、健康状態等、業務上の適格性を欠くと認められたときは、本採用を行わない。
- 4 試用期間中の者が、引続き任用されたときは、勤務年数に通算する。

(異動)

第26条 本法人は、業務の都合により職員の就業の場所及び従事する業務の変更を命ずることができる。

- 2 前項の命令を受けた者は、正当な理由がない限りこれを拒むことはできない。ただし、特に事情がある者はその理由を具した書面をもって所属長を経由して理事長に上申することができる。

(役職)

第27条 本法人は必要ある場合は、職員に役職を命じ又は免ずることができる。ただし、役職に就く者は実質的に常勤できる者でなければならない。

- 2 役職に関する事項は、別に定める。

(休職・休業)

第28条 職員が次の各号の一に該当するときは、休職を命ずることができる。ただし、試用期間中の職員については、本条を適用しない。

(1) 削除

(2) 心身の故障により長期の休養を要し、次の欠勤をしたとき。

勤続年数	欠勤期間
1年未満	継続1ヶ月
3年未満	継続3ヶ月
10年未満	継続4ヶ月

10 年以上	継続 5 ヶ月

- (3) 刑事事件に関して起訴されたとき。ただし、罪名によっては直ちに休職としないことがある。
- (4) 災害その他の事由により生死又は所在不明となり、継続 1 カ月以上欠勤したとき。
- (5) 前第 2 号における休職に至る欠勤期間の「継続」については、次のとおりとする。
- ① 欠勤（1 週間超）後、出勤した場合であっても医師の診断書により、同一傷病で 1 カ月以内に再度欠勤したときは、欠勤の継続と看做し、欠勤期間として通算する。ただし、出勤に当たって医師の診断に基づく勤務時間の短縮等の措置を行った場合は、その期間を欠勤後に含めないものとする。
 - ② 前①の出勤については、日数を以て欠勤期間から控除するものとする。
- (6) 前第 5 号①による診断書の提出に際して、本法人が診断書を作成した医師に対する事情聴取を求めた場合、当該職員はその実現に協力しなければならない。
- (7) 前第 5 号①の診断書が提出された場合でも、本法人は、その指定する医師への検診を命ずることがある。本法人は、職員が正当な理由なくこれを拒否した場合、第 5 号①の診断書を欠勤事由が消滅したか否かの判断材料として採用しないことがある。
- 2 職員が次の各号の一に該当し 3 カ月以上職務に従事できないため休職を願い出た場合は、許可することがある。
- (1) 職務に関連があると認められる事項につき、本法人以外の機関に出向をしたとき。
 - (2) 本法人が承認した公職に就任し、そのために業務遂行上支障が生ずると認められたとき。
 - (3) その他特に休職する正当な理由があると認められたとき。
- 3 本条第 1 項第 2 号により休職となった者が、復職後 1 年以内に再び傷病により継続 1 カ月以上欠勤したときは、直ちに休職を命ずることができる。ただし、復職に当たって、医師の診断に基づく勤務時間の短縮等の措置を行った場合は、その期間を復職後に含めないものとする。
- 4 職員が生後満 1 歳に達しない子を育児するための休業（育児休業）については、別に定める。
- 5 職員が要介護状態にある対象親族を介護するための休業（介護休業）については、別に定める。
- 6 休職・休業中の者は、職員としての身分を保有するが、業務に従事しない。
（休職・休業の期間）

第29条

削除

- 2 前条第 1 項第 2 号に該当する者の休職期間は、勤続年数に応じて次の期間を超えることはできない。

勤続年数	休職期間

3 年未満	9 ヶ月
10 年未満	18 ヶ月
10 年以上	24 ヶ月

- 3 本条第2項に該当した者が復職後3年以内に同一理由によって休職したときは、その期間を通算する。ただし、復職に当たって、医師の診断に基づく勤務時間の短縮等の措置を行った場合は、その期間を復職後に含めないものとする。
- 4 本条第2項以外の休職期間は以下のとおりとする。
- (1)前条第1項第3号及び第4号の場合の休職期間は、夫々の事情により理事長が定める。
- (2)前条第2項第1号の場合は、命じられた期間
- (3)前条第2項第2号及び第3号の場合は、承認された期間
- 5 休職期間中であってもその理由が消滅したと認められるときは、復職を命ずる。
- (1)前条第1項第2号及び第3項の規定に該当する休職者については、医師の診断書を付して復職を願い出て本法人がこれを許可したときは復職させる。
- (2)前条第2項第1号・第2号及び第3号までの規定に該当する休職者については、期間が満了したとき復職させる。
- (3)前条第1項第3号に該当する休職者については、判決が確定し、その結果無罪の場合及び有罪であっても復職させることが適当と認められる場合には復職させる。
- (4)前条第1項第4号に該当する休職者については、その事故欠勤に正当な理由があると認められる場合には願い出により本法人がこれを許可したときは復職できる。
- (5)第1号による診断書の提出に際して、本法人が診断書を作成した医師に対する事情聴取を求めた場合、当該職員はその実現に協力しなければならない。
- (6)第1号の診断書が提出された場合でも、本法人はその指定する医師への検診を命ずることがある。本法人は、職員が正当な理由なくこれを拒否した場合、第1号の診断書を休職事由が消滅したか否かの判断材料として採用しないことがある。
- 6 理事長が特に必要と認めた場合は、休職期間を延長することができる。ただし、40カ月を超えることはできない。
- 7 休職・休業の期間は、その2分の1を勤続期間に通算する。
- (依願退職)

第30条 退職を希望する者は、1カ月以前にその理由を記載した書面をもって申し出て、本法人の承認を得なければならない。ただし、次の第32条ノ2に定める選択退職の場合はこの限りでない。

(自然退職)

第30条ノ2 次の各号の一に該当した場合は、該当日の当日をもって自然退職とする。ただし、役員に就任した場合は、就任日の前日をもって退職日とする。

- (1) 休職・休業期間の満了直後に復職しない場合
 - (2) 行方不明になり1ヶ月が経過した場合
 - (3) 死亡した場合
 - (4) 役員に就任した場合
 - (5) (削る)
- (解雇)

第31条 次の各号の一に該当した場合は解雇とする。

- (1) 身体もしくは精神の衰弱により、故障その他、職務に堪えないとき。
 - (2) 職務に通ぜず、明らかに通常業務に支障を生じたと認めたとき。
 - (3) 試用期間の途中又は終了の際、職員として不適格と認めたとき。
 - (4) 本法人の事業不振等のため解雇の必要が生じたとき。
 - (5) その他各号に準ずるやむを得ないとき。
- (定年)

第32条 職員の定年は、満65歳とする。ただし、大学教育職員（助手を除く）にあつては満67歳とする。

2 職員が定年に達したときは、その日の属する年度の末日を退職日とする。

(選択退職)

第32条ノ2 選択退職については、別に定める。

(退職時の扱い)

第33条 退職する場合は、十分に引継ぎを行うとともに、退職後においても、業務上知り得た秘密事項及び個人情報を漏洩してはならない。

第6章 服務

(服務心得)

第34条 職員は、この規則に定められるもののほか、業務上の指示命令に従い品位を重んじ、自己の職務に専念して本法人の事業の振興をはかり、互いに協力して自他の職責を尊重し、職場の秩序の保持に努めなければならない。

(遵守事項)

第35条 職員は、次の事項を守らなければならない。

- (1) 常に品位を保ち、諸規則等をよく守って、本法人の名誉信用を傷つけるような行為はしないこと。
- (2) 職制を尊重し、互いに協調して職場の秩序を維持し、職務を誠実に行うこと。
- (3) 業務上の秘密事項及び本法人の不利益となる事項を他に洩らさないこと。また、別に定める個人情報保護規程及び特定個人情報取扱規程並びに学校法人相模女子大学情報セキュリティポリシーを遵守するとともに、学生、生徒、児童、幼児、取引先その他の関係者及び本法人の理事、職員等の個人情報及び特定個人情報等を正当な理由なく開示し、利用目的を逸脱して取り扱い、又は漏洩しないこと。
- (4) 災害等の未然防止に努め、火災等が発生したときは、万全の措置をとること。

- (5)職務上の地位を利用して私利をはからないこと。
 - (6)許可なく本法人以外の業務に従事しないこと。
 - (7)本法人の施設内で政治的活動を行わないこと。
 - (8)その他酒気を帯びて就業する等、職員として相応しくない行為をしないこと。
 - (9)職員は、本法人が貸与した電子端末を業務遂行に必要な範囲で使用するものとし、私的に利用してはならない。
- (ハラスメントの禁止)

第35条ノ2 セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント、育児休業等に関するハラスメント、その他ハラスメントにより、本学の構成員の人権を侵害したり、就学、教育、研究又は就労の環境を悪化するようなことをしてはならない。

第36条 削除

(変更の届出)

第37条 氏名、住所、扶養家族の状況、その他必要な事項に変更があった場合には、その都度届出なければならない。

(願届の手續)

第38条 本法人に、勤務管理上必要な事項に関する願又は届を提出する場合は、所属長を経由しなければならない。

(特殊勤務)

第39条 削除

第7章 安全及び衛生

(総則)

第40条 本法人は、職員が常に健康で安全に就業できるような措置を講ずるとともに、職員も自己の健康及び安全に留意して、その能率の向上に努めなければならない。

(衛生管理者及び産業医)

第41条 本法人に、法定人数の衛生管理者及び産業医を置き、その任に当たらせる。

(火災防止)

第42条 火災の防止に特に留意するため各建築物毎に防火責任者を置いてその任に当たらせる。

(危険作業)

第43条 業務上危険な設備は、その担当者以外の者が作業に従事してはならない。

(器具の使用)

第44条 職員は、消防具及び救急品の備付場所並びに使用方法を知得して臨機に万全の措置を講ずるものとする。

(健康診断)

第45条 本法人は、職員について毎年1回定期的に健康診断を行う。

- 2 健康診断は、前項に定めるときのほか、随時全部又は一部の職員に対して行うことがある。

- 3 健康診断に参加できなかった者は、他の医師の診断書を提出しなければならない。
(ストレスチェック)

第45条ノ2 本法人は、職員について毎年1回、心理的な負担の程度を把握するための検査
(ストレスチェック)を行う。

- 2 ストレスチェックの実施については、別に定める。
(防疫)

第46条 職員には、必要に応じ予防接種その他適宜の防疫措置を行う。
(感染症の届出)

第47条 職員は、自己、家族又は同居人が感染症にかかり、もしくはその疑いがある場合
には、速やかに衛生管理者に届出なければならない。
(保護措置)

第48条 衛生管理上必要と認められる者に対しては、勤務箇所の変更、職務の転換、医師
の診断に基づく勤務時間の短縮、療養、補導その他必要な保護措置を行う。

- 2 次の各号の一に該当する者は、出勤できない。
- (1) 感染症にかかっている者
 - (2) 家族、同居人が感染症にかかっている者又はこれらの感染症にかかっている疑いがある者。ただし、予防措置をしたとき、もしくは医師において感染のおそれがないと認められたときはこの限りでない。
 - (3) 精神疾患により勤務することが不相当と認められた者
 - (4) 疾病にかかっている者で勤務することによって、病性が悪化すると認められる者
- 3 前第1項における勤務時間の短縮の措置に伴う給与の扱いについては、給与規程第18条ノ2による。

第8章 災害補償

(災害補償)

第49条 職員が業務上負傷し、疾病にかかり、又は死亡した場合の災害補償については、労働基準法及び労働者災害補償保険法の定めるところによる。

第9章 賞罰

(表彰の事由)

第50条 職員が次の各号の一に該当したときは、審議の上表彰を行う。

- (1) 本法人の発展に特に功績があったとき。
 - (2) 学術上有益な研究業績があったとき。
 - (3) 教育実践上顕著な功績があったとき。
 - (4) 業務上顕著な功績があったとき。
 - (5) 永年職員として誠実に勤続したとき。
 - (6) 災害を未然に防止し、又は災害に際し特に功労があったとき。
 - (7) その他特に表彰の価値があると認められたとき。
- 2 前項の認定は、所属長の推薦によって理事会にて行う。

(表彰の内容)

第51条 表彰は、表彰状及び記念品を授与して行う。

(表彰の取消)

第52条 表彰を受けた者が懲戒を受け、もしくは被表彰者たるの体面を汚す行為があったときは、表彰を取消することがある。

(懲戒の種類)

第53条 懲戒は、譴責、減給、出勤停止、諭旨退職及び懲戒解雇とする。

2 譴責は、始末書を提出させ文書をもって将来を戒める。

3 減給は、始末書を提出させ1回につき平均賃金の1日の半額以内、月給の10分の1以内を1カ月限度として減ずる。

4 出勤停止は、始末書を提出させ1日以上6カ月以内の出勤を停止し、その間の給与を支払わない。

5 諭旨退職は、期間を設け退職を勧告する。なお、情状により所定退職金を減ずることができる。また、期間内に退職に応じないときは、懲戒解雇とし退職金は支払わない。

6 懲戒解雇は、即時解雇し退職金は支払わない。

7 前第5項後段又は第6項の解雇にあたっては、所轄労働基準監督署長の認定を受けたときは、解雇予告手当は支払わない。

(譴責、減給、出勤停止の事由)

第54条 職員が次の各号の一に該当するときは情状により譴責、減給又は出勤停止に処する。

(1) 正当な理由なく無断欠勤し、又は遅刻を繰り返したとき。

(2) 業務に不熱心なとき又は勤務状態が不良なとき。

(3) 正当な理由なく労働時間中にみだりに職場を離れたとき。

(4) 許可なく職務以外の目的で本法人の施設、物品等を使用し、又は他人にこれをなかしめたとき。

(5) 許可なく法人の敷地内で集会、演説、放送、各種印刷物の掲示・貼付・配布、署名活動、募金その他これに類する行為をしたとき。

(6) 所属職員に対する指導監督の不行き届きにより事故が発生したとき。

(7) 第35条「遵守事項」及び第35条ノ2「ハラスメントの禁止」に違反したとき。

(8) 前各号の他、就業規則並びにこれに基づく諸規程に違反したとき。

(9) その他前各号に準ずる程度の不都合な行為があったとき。

2 前項の認定は、所属長の内申により理事会にて行う。

(諭旨退職、懲戒解雇の事由)

第54条ノ2 職員が次の各号の一に該当するときは諭旨退職又は懲戒解雇に処する。ただし、情状により減給又は出勤停止にとどめることがある。

(1) 正当な理由なく無断欠勤が14日以上におよんだとき。

(2) 重要な経歴を偽り、その他不正な方法で採用されたとき。

- (3) 正当な理由なく職務上の指揮系統を乱し、又は上司の指示に従わないとき。
 - (4) 他人に暴行、脅迫その他不正な手段を加え他人の業務を妨げ、又は妨げようとしたとき。
 - (5) 本法人又は他人に対し誹謗中傷を行い、信用を失墜させ、又は名誉を傷つけたとき。
 - (6) 本法人の公金を不正に流用又は費消したとき。
 - (7) 本法人の金品、文書、データ等を許可なく持ち出し、又は搾取もしくは横領したとき、あるいはこれらの行為をしようとしたとき。
 - (8) 本法人の機密ないし業務上の重要な情報(番号利用法上の特定個人情報ファイルを含む)を外部に漏らし、又は漏らそうとしたとき。
 - (9) 故意又は重大な過失により本法人に著しい損害を与えたとき。
 - (10) 業務を利用し金品その他を授受、貸借又は搾取して私利を図ったとき。
 - (11) 自己の非行に起因して禁錮以上の刑の確定判決の言い渡しを受けたとき。
 - (12) 数回にわたり譴責、減給又は出勤停止を受けたにもかかわらず、なお改悛の見込みがないとき。
 - (13) 第35条「遵守事項」及び第35条ノ2「ハラスメントの禁止」に違反し、その情状が重く酌量の余地がないとき。
 - (14) 前条各号の事由によるものでその情状が重く酌量の余地がないとき。
 - (15) その他前各号に準ずる程度の不都合の行為があったとき。
- 2 前項の認定は、所属長の内申により理事会にて行う。

(懲戒の軽減)

第55条 懲戒は、特に情状酌量の余地があるか、もしくは改悛の情が明らかに認められるときは、事後においても軽減することができる。

(異議の申立)

第56条 懲戒に関するこの規則の適用について異議があるときは、本人は所属長を通じて発令の日から2週間以内に異議の申立をなすことができる。

第10章 福利厚生

(研究補助)

第57条 職務に関する研究に資するため、毎年一定額の研究補助を行うことがある。

(留学補助)

第58条 職務に関する研究のため国内又は国外に留学する者について理事長が特に必要と認めたときは、補助を行うことがある。

(慶弔等)

第59条 職員の慶弔等に関する事項は、別に定める。

(授業料の減免)

第60条 職員又は職員の子供が本学に在学するときは、別に定めるところにより授業料等を減免する。

附 則

- 1 この規則は、昭和43年5月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の日から、現行の「学校法人相模女子大学服務規定」はこれを廃止する。
- 3 昭和58年2月2日一部改訂
- 4 昭和62年4月16日一部改訂、昭和62年4月1日から施行する。
- 5 昭和62年10月1日一部改訂、昭和62年4月1日から施行する。
- 6 昭和63年6月30日一部改訂、昭和63年7月11日から施行する。
- 7 平成2年2月22日一部改訂、同日から施行する。
- 8 平成3年6月27日一部改訂、同日から施行する。
- 9 平成4年3月13日一部改訂、平成4年4月1日から施行する。
- 10 平成5年2月18日一部改定、平成5年4月1日から施行する。
- 11 平成5年3月25日一部改定、平成5年4月1日から施行する。
- 12 平成5年7月15日一部改定、平成6年3月31日から施行する。

(経過措置)

- 13 附則12の改定にかかわらず、大学教育職員及び事務職員については、次のとおり経過措置を講ずる。

(1) 大学教育職員（助手を除く）

定年退職後、1年更新の非常勤講師として継続採用することができる改定前の制限年齢77歳を、平成6年度76歳、7年度75歳、8年度74歳、9年度73歳とし、10年度以降継続採用は行わない。

(2) 事務職員

定年退職後、1年更新の嘱託として継続採用することができる改定前の制限年齢72歳を平成6年度71歳とし、7年度以降は継続採用は行わない。

- 14 平成8年5月22日一部改定、平成9年4月1日から施行する。ただし、第32条（定年）については、経過措置として、平成13年度までの間、下記「年度別定年退職該当年齢表」を適用する。

年度別定年退職該当年齢表（1997年～2001年）

職種 年度	大学教員 大学非常勤講師	助手・併設教員 事務職員・事務嘱託 併設非常勤講師	労務職員 労務嘱託
1997（平9）	1925年04月02日生～ 1927年04月01日生（満 72歳～満71歳）	1927年04月02日生～ 1929年04月01日生（満 70歳～満69歳）	1930年04月02日生～ 1932年04月01日生（満 67歳～満66歳）
1998（平10）	1927年04月02日生～	1929年04月02日生～	1932年04月02日生～

	1929年04月01日生（満71歳～満70歳）	1931年04月01日生（満69歳～満68歳）	1934年04月01日生（満66歳～満65歳）
1999（平11）	1929年04月02日生～ 1931年04月01日生（満70歳～満69歳）	1931年04月02日生～ 1933年04月01日生（満68歳～満67歳）	1934年04月02日生～ 1936年04月01日生（満65歳～満64歳）
2000（平12）	1931年04月02日生～ 1933年04月01日生（満69歳～満68歳）	1933年04月02日生～ 1935年04月01日生（満67歳～満66歳）	1936年04月02日生～ 1938年04月01日生（満64歳～満63歳）
2001（平13）	1933年04月02日生～ 1935年04月01日生（満68歳～満67歳）	1935年04月02日生～ 1937年04月01日生（満66歳～満65歳）	1938年04月02日生～ 1940年04月01日生（満63歳～満62歳）

- 15 平成10年 2 月12日一部改定、平成10年 4 月 1 日から施行する。
- 16 平成10年 3 月20日一部改定、平成10年 4 月 1 日から施行する。
- 17 平成11年 3 月25日一部改定、平成11年 4 月 1 日から施行する。
- 18 平成12年 1 月20日一部改定、平成12年 1 月20日から施行する。
- 19 平成13年 4 月12日一部改定、平成13年 4 月 1 日から施行する。
- 20 平成17年11月17日一部改定、平成17年 4 月 1 日から施行する。
- 21 平成21年 4 月16日一部改定、平成21年 4 月 1 日から施行する。
- 22 平成22年 4 月15日一部改正、平成22年 4 月15日から施行する。
- 23 平成24年 2 月23日一部改正、平成24年 4 月 1 日から施行する。ただし、第14条第3項の付与日数は、平成22年 4 月15日以降に採用された者に適用する。
- 24 平成28年 3 月17日一部改正、平成28年 4 月 1 日から施行する。
- 25 平成28年11月24日一部改正、平成29年 1 月 1 日から施行する。
- 26 平成28年12月15日一部改正、平成29年 1 月 1 日から施行する。
- 27 令和 2 年12月17日一部改正、令和 3 年 1 月 1 日から施行する。ただし、第14条ノ 7 については、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 28 令和 4 年 3 月24日一部改正、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 29 令和 4 年12月22日一部改正、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。
- 30 令和 5 年 2 月 22 日一部改正、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。
- 31 令和 6 年 3 月21日一部改正、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。
- 32 令和 7 年 3 月 19 日一部改正、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

【資料4】

相模女子大学特任教員に関する規程

平成 18 年 11 月 16 日

制定

(目的)

第1条 この規程は相模女子大学（以下「本学」という。）において任用される特任教員に関し定めることを目的とする。

(特任教員の定義)

第2条 この規程に定める特任教員とは、職務及び期間を限定して任用される本学の専任教員をいう。

(資格)

第3条 特任教員は、実務家、他機関などの者のうち、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

(1) 学術・芸術・文化について特に優れた業績を有する者、またはそれと同等以上の知識及び経験を有する者。

(2) 実務において特に優れた知識及び経験を有する者。

(身分)

第4条 特任教員の身分は、特任教授、特任准教授とする。

(職務)

第5条 特任教員は、本学における教育・研究、その他の職務に従事する。

(任用期間)

第6条 特任教員の任用期間は、原則として5年間を超えないものとする。

2 前項の規定にかかわらず、特任教員は、満 75 歳で定年とし、定年に達した日の年度の末日をもって退職するものとする。

(任用の手続き)

第7条 特任教員は、学長の推薦により理事長がこれを委嘱する。

(待遇)

第8条 特任教員に適用される待遇については、別に定める。

(細則の制定)

第9条 この規程の運用について必要と認める場合は、細則を定めることができる。

附則

- 1 この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 令和 5 年 6 月 29 日一部改正、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 令和 7 年 3 月 12 日一部改正、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。

【資料5】地域クリエーション学科時間割

【春学期】

曜 日	時 間	月			火			水			木			金		
		授 業 科 目	担 当 者	教 室	授 業 科 目	担 当 者	教 室	授 業 科 目	担 当 者	教 室	授 業 科 目	担 当 者	教 室	授 業 科 目	担 当 者	教 室
1 (9:00~10:30)	1 セメ	□中国語IB	熊 慧蘇	733	□ 地域から学ぶ知の実践A □ 社会貢献・地域連携 □ AIと社会A □ 英語IH □ 英語IG □ 英語IW 基礎化学	香山 純一 溝口 清隆・久保三橋 大輔 伊藤 達也 朝熊 悠 宮本 節子 伊香賀 玲奈	721 711 1126 734 1121 1122 1132	□ 経済学A □ ラケットスポーツ5 □ 韓国／朝鮮語IA □ 中国語IA □ スペイン語IA 地域クリエイション学入門	杉山 章 中村 浩平 宣 元陽 葉 会 清水 純子 オムニバス	1115 733 727 1113 721	□ ジェンダー論A □ データサイエンスA □ 健康スポーツ5 □ 英語IIA □ 中国語IC □ フランス語IG □ イタリア語IA	永山 聡子 三橋 大輔 園部 聖 Bates James William 黄 耀進 山下 雄大 Martina Diego	2131 1111 733 1141 732 1142 733	□ 言語学A □ ラケットスポーツ13 □ 英語I □ 中国語I □ フランス語IA □ ドイツ語IC	永谷 直子 泉 圭祐 石垣 弥麻 黄 耀進 大前 元伸 鈴木 里香	314 1143 723 144 1122
	2 セメ				* 流通論 ファシリテーション	山岸 道隆 井坂 聡	1123 725	広報と広告	奥山 喜文	723	□ 中国語II I	劉 靈均	736	* ベンチャー論	安藤 功	1142
	3 セメ	□就職支援講座	中村 真理	2131				キャリア実践 I	小泉 京美	725						
	4 セメ															
2 (10:40~12:10)	1 セメ	□ 身体の科学B □ 基礎教育講座Ja □ 基礎教育講座Jb □ 基礎教育講座Jc □ 基礎教育講座Jd	笹田 周作 小泉 京美 高橋 孝太 田中 啓之 羽田 利久	2131 2122 2123 2124 2125	□ 地域から学ぶ知の実践B □ AIと社会B □ 英語IM □ 英語IH □ 英語IIQ □ 英語III C 食文化論	香山 純一 三橋 大輔 伊藤 達也 朝熊 悠 D. Barnett 上原 寿和子 柳内 志織	721 1126 734 1121 144 1141 722	□ 社会学C □ 看護A □ キャリア・プランニングB □ 健康スポーツ3 □ 韓国／朝鮮語IB □ スペイン語IB 食品の化学	杉山 章 下田 章平 小泉 京美 中村 浩平 宣 元陽 清水 純子 柳内 志織	1115 1134 1133 733 733 1113 721	□ ジェンダー論B □ ラケットスポーツ7 □ 健康スポーツ1 □ 英語IB □ 韓国／朝鮮語IE □ 中国語ID □ 中国語IE □ イタリア語IB	永山 聡子 岩見 亮 山岡 若菜 Bates James William 申 明浩 黄 耀進 劉 靈均 Martina Diego	2131 733 831 1141 2141 732 736 733	□ メディアと文化C □ アートA □ くらしと文化A □ ビジネス実務総論A □ ラケットスポーツ1 □ 英語IB □ 中国語IJ □ フランス語IB	松下 優一 伊東、山本 村松 彰子 中家 八千代 泉 圭祐 三井 敏朗 黄 耀進 大前 元伸	711 133 314 2131 134 723 144
	2 セメ	□ フランス語III * マーケティング・経営戦略論 * 消費者問題と政策 * エンターテインメント産業論	坂本 佳子 金森 剛 山口 由紀子 田淵 俊彦	1113 1127 141 723	観光ビジネス論 ライフステージと食	羽田 利久 篠原 暁子	723 725	□ 中国語IIA 世界遺産入門 フードプランニング論	葉 会 羽田 利久 高橋 孝太	727 134 144	□ フランス語IB	山下 雄大	1142	食品安全学 * 経営組織・人事管理論	高橋 孝太 安藤 功	721 1142
	3 セメ															
	4 セメ															
3 (13:00~14:30)	1 セメ	□ スペイン語IC データ分析入門	松本 有希子 田中 啓之	723 2133	□ 倫理学A □ 言語と異文化 □ 英語IIV □ 英語I □ 英語IVC □ フランス語IF 映像制作入門	伊東 俊彦 松永 幸子他 朝熊 悠 伊藤 達也 上原 寿和子 平澤 暢之 井坂 聡	314 711 1121 134 1141 1142 721	□ メディアと文化A □ ウェルネスA □ 英語Ic □ 英語IIP □ 韓国／朝鮮語IC □ 韓国／朝鮮語ID □ フランス語ID □ スペイン語IG 観光学概論	塚田 修一 肥後 梨恵子 野添 緑子 上條 美和子 榎 赫麟 申 明浩 長谷川 朋太郎 清水 純子 羽田 利久	314 711 1143 2141 736 732 134 1113 722	□ 日本の社会と文化A □ キャリア・プランニングA □ ラケットスポーツ9 □ 健康スポーツ7 □ 韓国／朝鮮語IM □ 中国語IF □ 中国語IM プレゼンテーション入門	犬飼 智 木崎 英司 岩見 亮 山岡 若菜 申 明浩 黄 耀進 劉 靈均 木崎 英司	2131 731 833 2141 732 736 721	□ 諸外国の社会と文化C □ メディアと文化D □ 球技スポーツ3 □ 英語IC □ 英語IK □ フランス語IC	鄭 安君 松下 優一 肥後 梨恵子 三井 敏朗 石垣 弥麻 大前 元伸	711 314 134 1143 144
	2 セメ	日本文化演習 公共経済学 食品加工と保蔵	小泉 京美 湯口 清隆 柳内 志織	145 1131 134	□ 中国語III □ ドイツ語III 基礎化学実験 プレゼンテーション I (言語と身体表現)	園部 芳広 中川 純子 伊香賀 玲奈 井坂 聡	2141 1123 921 732	□ 韓国／朝鮮語III 栄養生理学	宣 元陽 篠原 暁子	733 723	□ ドイツ語IIA □ イタリア語IA	堀 弥子 Martina Diego	1113 733	ホスピタリティ産業論 ゼミナールIi	湯口 清隆 依田 真美	722 2122
	3 セメ				ゼミナールId	小泉 京美	2122	食安全マネジメント演習	高橋 孝太	725						
	4 セメ															
4 (14:40~16:10)	1 セメ	□ 諸外国の社会と文化A □ 健康スポーツ9 -1 □ スペイン語IH マクロ経済学	舟橋 倫子 笹田 周作 松本 有希子 湯口 清隆	732 144 723 721	□ 日本国憲法A □ 心理学A □ 英語ID □ 英語II I □ ドイツ語IB	松井 文晴 石川 勇一 上原 寿和子 上條 美和子 中川 純子	143 711 1141 2141 1123	□ 看護B □ 韓国／朝鮮語IG □ 韓国／朝鮮語IO □ フランス語IE ゼミナールIc	足立 敏子 榎 赫麟 宣 元陽 長谷川 朋太郎	1134 736 733 134	□ コンピュータリテラシーL □ 文学A □ 中国語IN □ ドイツ語IA	窪田 尚 江口 文恵 劉 靈均 堀 弥子	2133 143 736 1113	□ 身体の科学A □ 球技スポーツ1	笹田 周作 肥後 梨恵子	143 1143
	2 セメ	ホスピタリティマネジメント 食と環境	小泉 京美 篠原 暁子	144 134	□ フランス語IIA 基礎化学実験 映像制作演習(基礎)	平澤 暢之 伊香賀 玲奈 井坂 聡	1142 921 732	□ 韓国／朝鮮語IIA フードデザイン実習(応用調理) 情報通信産業論	申 明浩 柳内 志織 田中 啓之	732 511 734	□ 韓国／朝鮮語IIE 食文化と伝承	申 明浩 新竹 浩子	2141 723	ウェルビーイングと観光	依田 真美	721
	3 セメ	ゼミナールIa ゼミナールIb ゼミナールIc	高橋 孝太 田中 啓之 柳内 志織	914 2122 511	ゼミナールIe ゼミナールIf	篠原 暁子 井坂 聡	2123 2122	食安全マネジメント演習 ゼミナールIe ゼミナールIh	高橋 孝太 羽田 利久 湯口 清隆	725 2123 2124				フードプランニング実習 I ゼミナールIi	高橋 孝太 依田 真美	511 2122
	4 セメ				卒業研究Id	小泉 京美	2122									
5 (16:20~17:50)	1 セメ	□ 健康スポーツ9 -2	笹田 周作	144	□ 日本国憲法B □ 社会学B □ ドイツ語ID	松井 文晴 木本 玲一 中川 純子	144 314 1123	□ 韓国／朝鮮語IK □ 韓国／朝鮮語IQ	榎 赫麟 宣 元陽	736 733	□ 健康スポーツ11	中野渡 快人	体育館	□ 球技スポーツ7	肥後 梨恵子	体育館
	2 セメ	健康と栄養	篠原 暁子	722	観光地理学	羽田 利久	722	□ 音楽A フードデザイン実習(応用調理) 無線通信技術と法	渡邊 佐恵子 柳内 志織 田中 啓之	314 511 723			映像で学ぶ社会の進歩 エスニシティと地域社会	湯口 清隆 鄭 安君	1124 725	
	3 セメ				□ SPI対策講座	松中 玲子	2131							フードプランニング実習 I	高橋 孝太	511
	4 セメ	卒業研究Ia 卒業研究Ib 卒業研究Ic	高橋 孝太 田中 啓之 柳内 志織	914 2122 511	卒業研究Ie 卒業研究If	篠原 暁子 井坂 聡	2123 2122	卒業研究Ie 卒業研究Ih	羽田 利久 湯口 清隆	2123 2124				卒業研究Ii	依田 真美	2122
6 (18:00~19:30)	1 セメ															
	2 セメ															
	3 セメ															
	4 セメ															

【通年集中】□地域協働活動
【春学期集中】□さがみ総合講座B
【通年集中】□シニアスポーツ1
【春学期集中】□シニアスポーツ2
【春学期集中】□フランス語IN
【通年集中】□問題発見・解決型プロジェクト実践I
【通年集中】□問題発見・解決型プロジェクト実践II

【春学期集中】地域クリエーション学実践
【通年集中】地域資源活用演習
【通年集中】インターシップ I
【通年集中】インターシップ II

中村 真理 2年生
渡辺 幸倫 1年生
肥後 梨恵子 1年生
肥後 梨恵子 1年生
大前 元伸 1年生
池田 仁人 3年生
池田 仁人 4年生

オムニバス 1年生
依田 真美 2年生
田中 啓之 2年生
羽田 利久 3年生

<履修上の注意>

1. 年次配当について
この時間割表には、1～8セメスター(短期大学部は1～4セメスター)に開講される科目を載せています。1年生は、1・2セメスター開講科目のみ履修でき、2年生以上は下の学年の開講科目も受講できます。
2. 授業科目名について
()は授業科目名と一体のものです。
3. 複数クラス開講について(科目の末尾の記号A・B・・・)
同一授業科目で複数開講されているものを区別する記号です。
履修指定のないものは自由に選択できますが、専門科目において、一部の学科では、指定されたクラスを受講する必要があります。
4. □、■、★の記号について
□:全学共通科目
■:教職科目、司書・学校司書・司書教諭科目のいずれか
★:他学科が開講している、コードシェアリング科目

5. 教室欄について
(1) 授業が行われる教室の略称を示し、数字は教室番号となります。
(2) 履修学生数等の関係により、教室を変更することがありますので、各学期始業時は、掲示板にて教室変更の有無を確認してください。
(3) 1科目に対し、教室が複数掲載されている場合は、日によって使用する教室が異なることがあります。担当教員の指示、もしくは掲示板の指示に従ってください。
6. 専門教育科目について
(1) [でつながっている科目は、2限続きもしくは3限続きで授業が行われることを示します。続きの授業は「-1、-2」のようにより、科目名の末尾に数字を記載しています。
(2) ① のついている科目は、該当する時間の「前半まで授業が行われる」ということを示します。
(3) ② のついている科目は、該当する時間の「後半から授業が行われる」ということを示します。

【秋学期】

時 限	曜 日	月			火			水			木			金		
		授 業 科 目	担 当 者	教 室	授 業 科 目	担 当 者	教 室	授 業 科 目	担 当 者	教 室	授 業 科 目	担 当 者	教 室	授 業 科 目	担 当 者	教 室
1 (9:00~10:30)	1 2 セ メ	□倫理学C □中国語IH	本郷 朝香 熊 慧蘇	1115 733	□データサイエンスB □ビジネス実務総論D □英語IG □英語IV □英語IN 食品衛生学	三橋 大輔 木崎 英司 伊藤 達也 朝熊 悠 宮本 節子 高橋 孝太	1143 722 734 1121 1142 721	□経済学B □社会学D □ラケットスポーツ6 □韓国／朝鮮語IP □中国語IG □スペイン語IF 栄養機能学	湧口 清隆 杉山 章 中村 浩平 宣 元輔 栗 会 清水 純子 篠原 暁子	133 145 体育館 733 727 1113 134	□健康スポーツ6 □英語IE □中国語IC □中国語IL □イタリア語IC	園部 豊 Bates James Willem 黄 耀進 山下 雄大 Martina Diego	体育館 1141 134 1142 733	□さがみ発想講座 □書道D □球技スポーツ8 □英語IN □中国語IK □フランス語IH □ドイツ語IE	池田 仁人他 津村 幸恵 泉 圭祐 石垣 弥麻 黄 耀進 大前 元伸 鈴木 里香	1123 1134 体育館 1143 134 144 1122
	2 4 セ メ	旅行業概論	羽田 利久	725	食育活動 発酵・醸造学	篠原 暁子 柳内 志織	725 723	食品加工学実習	柳内 志織	511	食品分析学	伊香賀 玲奈	723			
	3 6 セ メ													フードプランニング実習Ⅱ	高橋 孝太	915
	4 8 セ メ															
2 (10:40~12:10)	1 2 セ メ	□ビジネス実務総論B □中国語IE 交通・ロジスティクス論	中家 八千代 熊 慧蘇 湧口 清隆	2131 733 1127	□データサイエンスC □英語IO □英語ID □英語IL ホスピタリティ概論	三橋 大輔 伊藤 達也 上原 寿和子 朝熊 悠 小泉 京美	1143 734 1141 1121 721	□キャリア・プランニングC □健康スポーツ4 □韓国／朝鮮語IB □中国語IB □スペイン語IIA 経営理論	小泉 京美 中村 浩平 宣 元輔 栗 会 清水 純子 小泉 京美	1124 体育館 733 727 1113 721	□AIと社会C □ラケットスポーツ8 □健康スポーツ2 □英語IIJ □韓国／朝鮮語ID □中国語ID □フランス語IM □イタリア語D	三橋 大輔 岩見 亮 山岡 若菜 Bates James Willem 申 明浩 黄 耀進 山下 雄大 Martina Diego	1124 フリスコト体育館 831 1141 2141 134 1142 733	□アートB □ラケットスポーツ2 □英語IJ □英語IP □中国語IH □フランス語I 調理科学	伊東、山本 泉 圭祐 三井 敬朗 石垣 弥麻 黄 耀進 大前 元伸 柳内 志織	133 1122 1143 134 144 722
	2 4 セ メ	知的財産権法 資格支援講座	石岡 克俊 羽田 利久	1121 725	食育活動 映像制作演習(発展)	篠原 暁子 井坂 聡	725 723	□中国語IV 食品加工学実習 公共政策論	岡部 芳広 柳内 志織 田中 啓之	725 511 1132	* 会計学 *	坂口 幸雄	1111	ホスピタリティ実践 農水産物の加工と流通	小泉 京美 平坂 勝也	725 723
	3 6 セ メ													フードプランニング実習Ⅱ フードプランニング実習Ⅲ	高橋 孝太 高橋 孝太	915 915
	4 8 セ メ															
3 (13:00~14:30)	1 2 セ メ	□心理学B □情報リテラシーF □書道C □ビジネス実務総論C □スペイン語IB ミクロ経済学 アニマルウェルフェア	武部 正明 佐々木 康成 早川 桂央 中家 八千代 松本 有希子 湧口 清隆 森 由民	314 2142 1134 1125 734 1114 723	□法学 □英語IY □英語IIIA □フランス語IK □ドイツ語IB □メディアと文化B 生化学 * 民法(契約法)	松井 丈晴 上原 寿和子 上條 美和子 平澤 暢之 中川 純子 井坂 聡 荒谷 康昭 山口 由紀子	134 1141 2133 1142 725 314 733 732	□言語学B □ウルネルスB □英語IVD □韓国／朝鮮語IF □フランス語IC □スペイン語II 公衆衛生学	田代 ひとみ 肥後 梨恵子 上條 美和子 榎 赫緑 長谷川 朋太郎 清水 純子 篠原 暁子	2131 711 2142 734 1114 1113 722	□コンピュータリテラシーK □ラケットスポーツ10 □健康スポーツ8 □英語Ie □韓国／朝鮮語IH □中国語IL □中国語IF □イタリア語IB	窪田 尚 岩見 亮 山岡 若菜 野添 純子 申 明浩 劉 靈均 黄 耀進 Martina Diego	2133 フリスコト体育館 831 1143 2141 725 134 733	□諸外国の社会と文化B □英語IU ライフデザイン	鄭 安君 三井 敬朗 オムニバス	1124 1122 721
	2 4 セ メ	映像メディア論	井坂 聡	732	地域コミュニティ論	湧口 清隆	721	□韓国／朝鮮語IV 地域データ分析	宣 元輔 田中 啓之	733 2133	* 消費者行動論 メニュー開発論	金城 奈々恵 中田 玲子	732 723	農水産業と地域社会	柳澤 貴雄	725
	3 6 セ メ				キャリア実践Ⅱ	小泉 京美	734							フードプランニング実習Ⅲ ゼミナールⅡd ゼミナールⅡi	高橋 孝太 小泉 京美 依田 真美	915 2122 2125
	4 8 セ メ															
4 (14:40~16:10)	1 2 セ メ	□情報リテラシーG □健康スポーツ14-1 □英語IS □スペイン語ID * グローバリゼーションとローカリゼーション	佐々木 康成 笹田 周作 宮本 節子 松本 有希子 後藤 美緒	2142 131 1114 734 1142	□日本国憲法C □くらしと文化B □日本の社会と文化B □球技スポーツ10 □英語II □英語IIa □英語IVB □フランス語IIE □ドイツ語IF 微生物学	松井 丈晴 鈴木 勝己 松下 みどり 宗野 文俊 伊藤 達也 上原 寿和子 上條 美和子 平澤 暢之 中川 純子 寺嶋 淳	134 2132 2131 体育館 144 1141 2142 1142 725 732	□情報処理概論B □英語IQ □英語IT □英語IIB □韓国／朝鮮語IJ □韓国／朝鮮語IC □フランス語ID フードデザイン実習(基礎調理)	佐々木 康成 野添 純子 中村 真理 上條 美和子 榎 赫緑 宣 元輔 長谷川 朋太郎 柳内 志織	731 723 736 2142 734 733 1114 511	□社会学A □健康スポーツ10 □韓国／朝鮮語I □中国語IJ □ドイツ語IG	松下 優一 中野達 快人 申 明浩 劉 靈均 堀 弥子	2131 体育館 2141 725 1113	□文学B □ラケットスポーツ14 □中国語IG 社会調査法入門	中林 正身 肥後 梨恵子 鄭 安君 境 真良	314 体育館 1114 722
	2 4 セ メ	気候変動と気象予測	佐々木 恭子	725	栄養マネジメント実習	篠原 暁子	511	地域栄養学	篠原 暁子	725	食品衛生学実験 *	片桐 裕史	931	フードツーリズム論 * ブランド戦略・商品開発論	依田 真美 金森 剛	725 721
	3 6 セ メ	ゼミナールⅡb	田中 啓之	2122	ゼミナールⅡf ゼミナールⅡg ゼミナールⅡh	井坂 聡 羽田 利久 湧口 清隆	2124 2125 2126	ゼミナールⅡa	高橋 孝太	2122	テーブルコーディネート論(演習含む)	中田 玲子	1121	ゼミナールⅡe ゼミナールⅡc	篠原 暁子 柳内 志織	2123 511
	4 8 セ メ													卒業研究Ⅱd	小泉 京美	2122
5 (16:20~17:50)	1 2 セ メ	□情報リテラシーH □健康スポーツ14-2 □スペイン語IE	佐々木 康成 笹田 周作 松本 有希子	2142 131 734	□日本国憲法D	松井 丈晴	134	□韓国／朝鮮語IL □フランス語IJ フードデザイン実習(基礎調理)	榎 赫緑 長谷川 朋太郎 柳内 志織	734 1114 511	□情報リテラシーE □健康スポーツ12 □韓国／朝鮮語IN □中国語IK	窪田 尚 中野達 快人 申 明浩 劉 靈均	2133 体育館 2141 725	□倫理学B □ラケットスポーツ12	伊東 俊彦 肥後 梨恵子	711 体育館
	2 4 セ メ	プレゼンテーションⅡ(PCと視覚資料)	井坂 聡	2133	栄養マネジメント実習	篠原 暁子	511	生物と生態系	山崎 和久	1124	食品衛生学実験 *	片桐 裕史	931	* スポーツ産業論 エンターテイメント特講	小松 雅樹 井坂 聡	723 725
	3 6 セ メ															
	4 8 セ メ	卒業研究Ⅱb	田中 啓之	2122	卒業研究Ⅱf 卒業研究Ⅱg 卒業研究Ⅱh	井坂 聡 羽田 利久 湧口 清隆	2122 2123 2124	卒業研究Ⅱa	高橋 孝太	2122				卒業研究Ⅱe 卒業研究Ⅱc 卒業研究Ⅱi	篠原 暁子 柳内 志織 依田 真美	2123 511 2125
6 (18:00~19:30)	1 2 セ メ															
	2 4 セ メ															
	3 6 セ メ															
	4 8 セ メ															

【資料6】主な学術雑誌（地域クリエーション学科）

No.	タイトル	電子 ジャーナル	外国書
1	亞州週刊 = The international Chinese newsweekly		
2	地方史研究 / 地方史研究協議会		
3	アジア経済 / アジア経済研究所 [編]		
4	アジ研ニュース / アジア経済研究所		
5	アジ研ワールド・トレンド：発展途上国の明日を展望する分析情報誌		
6	エコノミスト		
7	経済評論 / 日本評論社		
8	経済統計月報 = Economic statistics monthly / 日本銀行統計局 [編]		
9	小売物価統計調査報告 / 総務庁統計局 [編]		
10	経済セミナー：the keizai seminar / 日本評論社 [編]		
11	日経ビジネス = Nikkei business		
12	社会経済史学		
13	文化生活 / 文化生活研究会 [編]		
14	文化生活的基礎 / 文化生活研究会 [編]		
15	経済生活		
16	消費者レポート		
17	月刊消費者 = Consumer		
18	村落社会研究 / 村落社会研究会編		
19	消費と生活		
20	土俗と傳説		
21	風俗：日本風俗史学会会誌 / 日本風俗史学会 [編集]		
22	郷土風景		
23	郷土芸術		
24	郷土研究 / 郷土研究社 [編]		
25	民族学研究 / 日本民族学会編輯		
26	民俗学研究 / 民俗学研究所, 日本民俗学会編輯		
27	旅と傳説 / 三元社		
28	生化学 / 日本生化学会 [編]		
29	新しい飲食とサービス		
30	栄養経営エキスパート		
31	ヘルスケア・レストラン = Healthcare restaurant		
32	月刊HACCP		
33	公衆衛生 = The journal of public health		
34	日本公衆衛生雑誌 / 日本公衆衛生協会		
35	食品衛生研究 / 厚生省食品衛生課・乳肉衛生課編		
36	食品と科学 = Food and science		
37	食品と営業 / 日本食品衛生協会		
38	食品界 / 日本食品衛生協会		
39	食品衛生		
40	食品衛生学雑誌 / 日本食品衛生学会 [編]		
41	食品と暮らしの安全：市民による調査活動全記録		

【資料6】主な学術雑誌（地域クリエーション学科）

No.	タイトル	電子 ジャーナル	外国書
42	食と健康：食品衛生から健康生活		
43	ソトコト：sotokoto：ながもちする、人類のヒント。		
44	ジャパンフードサイエンス / 日本食品衛生協会		
45	New food industry / 食品資材研究会 [編]		
46	食の科学		
47	食品工業 = Food industry / 光琳書院 [編集]		
48	あまカラ：たべもの・のみもの・の楽しい雑誌		
49	調理科学 / 調理科学研究会 [編]		
50	Dancyu = ダンチュウ		
51	栄養と料理 / 栄養と料理社		
52	日本調理科学会誌		
53	日本食生活学会誌		
54	食 / 食物学教育研究会		
55	食生活：趣味と科学の栄養雑誌 / 国民栄養協会 [編]		
56	食生活研究 / 食生活研究会 [編]		
57	食べものの文化 / 生活問題研究所		
58	うかたま：季刊：ukatama：食べることは暮らすこと		
59	新日本酪農と食生活		
60	Business English / 商業英語出版社		
61	広告		
62	広報会議		
63	季刊マーケティングジャーナル = Japan marketing journal		
64	マーケティング・サイエンス		
65	宣伝会議		
66	Travel journal		
67	観光とまちづくり：tourism / 日本観光協会 [編]		
68	観光文化 / 日本交通公社		
69	運輸と経済 = Transportation & economics / 運輸調査局 [編]		
70	海 / 大阪商船 [編]		
71	Harvard business review		○
72	Journal of agricultural and food chemistry		○
73	Journal of food science		○
74	Journal of the science of food and agriculture		○
75	Nutrition and food science		○
76	Chilton's food engineering international		○
77	Food engineering		○
78	Food technology / Institute of Food Technologists		○
79	Food industries		○
80	Food engineering international		○
81	Consumer reports		○
82	International journal of consumer studies		○

【資料6】 主な学術雑誌（地域クリエーション学科）

No.	タイトル	電子 ジャーナル	外国書
83	Journal of family and consumer sciences		○
84	Journal of marketing / American Marketing Association		○
85	Annals of tourism research		○
86	Advances in Health Sciences Education	○	○
87	Agricultural Research	○	○
88	Agriculture and Human Values	○	○
89	Annals of Data Science	○	○
90	Current Food Science and Technology Reports	○	○
91	Current Nutrition Reports	○	○
92	De Economist	○	○
93	Economic Theory	○	○
94	Economic Theory Bulletin	○	○
95	European Food Research and Technology	○	○
96	European Journal of Nutrition	○	○
97	Food Analytical Methods	○	○
98	Food Biophysics	○	○
99	Food and Bioprocess Technology	○	○
100	Food Engineering Reviews	○	○
101	Food and Environmental Virology	○	○
102	Food Ethics	○	○
103	Food Science and Biotechnology	○	○
104	Food Security	○	○
105	Geography and Natural Resources	○	○
106	Geoheritage	○	○
107	Global Journal of Flexible Systems Management	○	○
108	History and Philosophy of the Life Sciences	○	○
109	Information Technology & Tourism	○	○
110	Interdisciplinary Sciences: Computational Life Sciences	○	○
111	International Advances in Economic Research	○	○
112	International Entrepreneurship and Management Journal	○	○
113	International Journal of Community Well-Being	○	○
114	International Journal of Multimedia Information Retrieval	○	○
115	International Review of Economics	○	○
116	International Review on Public and Nonprofit Marketing	○	○
117	Italian Journal of Marketing	○	○
118	The Japanese Economic Review	○	○
119	Japanese Journal of Statistics and Data Science	○	○
120	The Journal of Economic Inequality	○	○
121	Journal of the Academy of Marketing Science	○	○
122	Journal of Agricultural and Environmental Ethics	○	○
123	Journal of Business Economics	○	○

【資料6】 主な学術雑誌（地域クリエーション学科）

No.	タイトル	電子 ジャーナル	外国書
124	Journal of Consumer Protection and Food Safety	○	○
125	Journal of Cultural Economics	○	○
126	Journal of Economics	○	○
127	Journal of Food Measurement and Characterization	○	○
128	Journal of Food Science and Technology	○	○
129	Journal of Geographical Sciences	○	○
130	Journal of Geographical Systems	○	○
131	Journal of Global Entrepreneurship Research	○	○
132	Journal of Industrial and Business Economics	○	○
133	Journal of Management and Governance	○	○
134	Journal of Management Control	○	○
135	Journal of Population Economics	○	○
136	Journal of Soil Science and Plant Nutrition	○	○
137	Management International Review	○	○
138	Management Review Quarterly	○	○
139	Marketing Letters	○	○
140	Multimedia Systems	○	○
141	Plant Foods for Human Nutrition	○	○
142	Quantitative Marketing and Economics	○	○
143	Review of Agricultural, Food and Environmental Studies	○	○
144	Review of World Economics	○	○
145	Service Business	○	○
146	Small Business Economics	○	○
147	SN Business & Economics	○	○
148	Wirtschaftsinformatik & Management	○	○
149	ACS Agricultural Science & Technology	○	○
150	ACS Food Science & Technology	○	○
計		65	80



2024年度 | 相模女子大学・相模女子大学短期大学部

夢をかなえるセンター

キャリア形成支援

発想力を育て、
未来を、社会を見つめ、
道を、答えを見つける
人になる。

125th
Anniversary
since 1900
2025年、相模女子大学は
創立125周年を迎えます。



9期連続

地域貢献度ランキング
全国女子大

No.1



相模女子大学
学園キャラクター
さがっば・ジョー

地域貢献度ランキング全国女子大学No.1※1 [組織・制度分野]※2でも上位にランキング]

※1雑誌「日経グローカル」の調査「大学の地域貢献度ランキング」にて、本学は2011～2023年度(2016年度より隔年調査)の間、9期連続で全国女子大学のうち第1位を獲得しています。
※2「大学の地域貢献度ランキング」のうち、地域貢献の推進に向けた組織・制度面の取り組みを調査する項目です。

写真:[復興支援学生ボランティア委員会]の学生たち

夢をかなえるセンターは 「キャリア形成支援ポリシー」のもと

キャリア形成支援ポリシー

相模女子大学・相模女子大学短期大学部は、「社会との関わりの中で積み重ねる全ての経験を通して、社会と自分自身をしっかりと見つめ、自らの進む道を見つけ出し、人生を前向きに生きてゆくこと」を「キャリア形成」と位置付け、学生が、以下の力を身につけ、主体的に「キャリア形成」をするための「学びの場」を提供し、そこでの活動を支援します。

- ①興味・関心を幅広く持ち、物事の本質を見つめ、筋道を立てて問題を解決する力。
- ②社会との関わりにおける自分のありかたを考え、他者と柔軟なコミュニケーションをとり、協働できる力。
- ③「働くこと」の意義を理解し、自分らしい生き方を見つけ出し、プランニングできる力。

夢をかなえるセンター沿革

- 2017年3月 キャリア形成支援ポリシー制定
- 2018年3月 夢をかなえるセンター開設
- 2020年4月 「Sagamiチャレンジプログラム」新設
- 2021年1月 夢をかなえるセンター特設サイト開設

MESSAGE

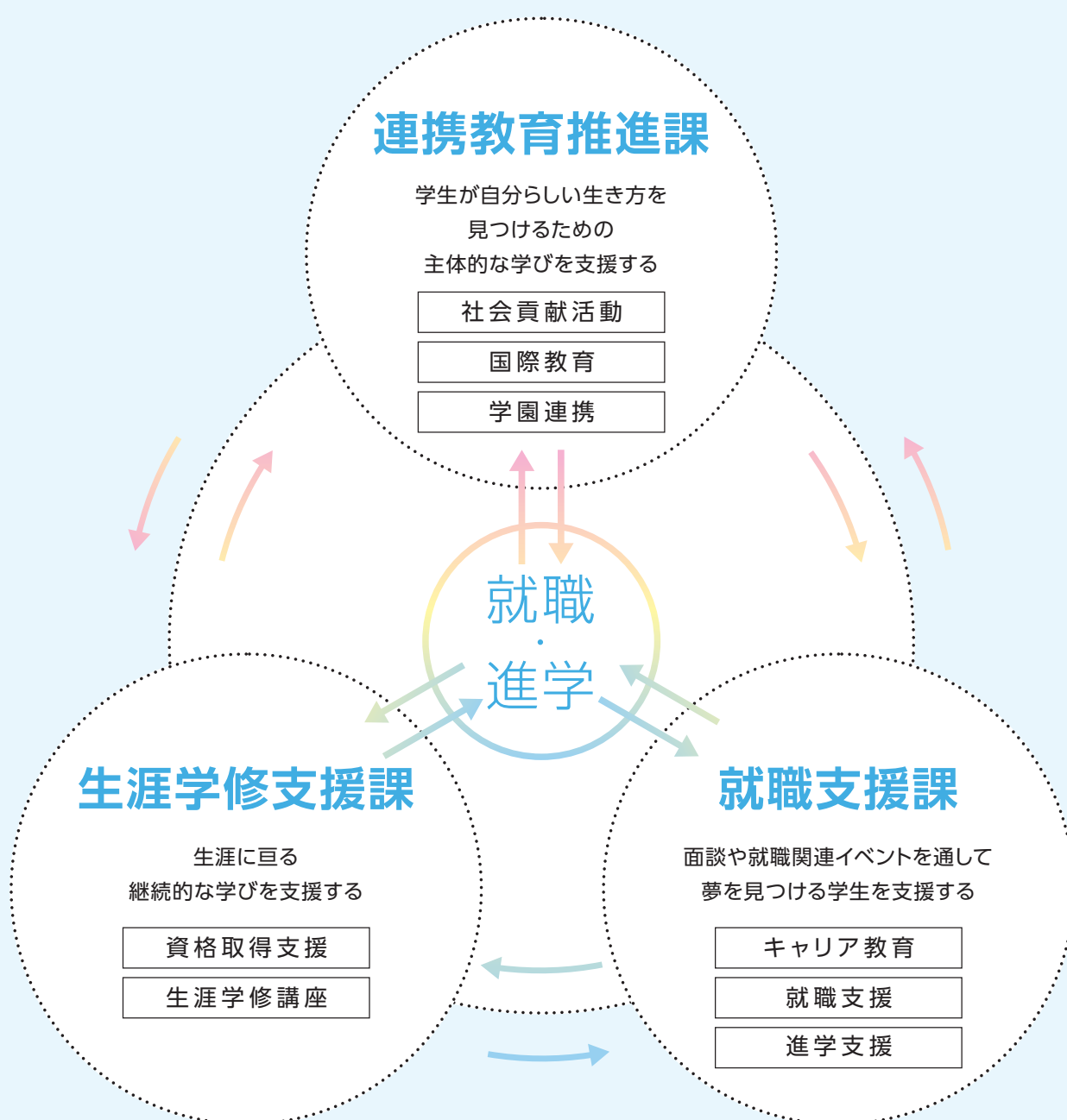
相模女子大学・相模女子大学短期大学部 学長
田畑 雅英

夢をかなえるセンターは、上に掲げた本学のキャリア形成支援ポリシーの制定を受けて、その具現化のために設立されました。このパンフレットで具体的に見ていただけますように、学生の就職支援はもとより、地域連携なども含めた正課外の活動、また広く一般対象の生涯学修などに関わる業務を担当し、多様な成果をあげてまいりました。社会の中での自己実現と他者への貢献ができるように、学生各自が、基礎的な知力だけでなく、総合的な人間力を高めることを支援するのは大学の重要な責務と考えておりますが、その実現のために、当センターはこれからもできる限りの努力をしてまいります。どうかご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



学生を支援しています。

夢をかなえるセンターにおける学びの支援体制



「Sagamiチャレンジプログラム」

本学では、学園スローガン「見つめる人になる。見つける人になる。」のもと、

「しなやかな発想力と豊かな包容力を身につけながら、未来を、社会を見つめ、道を、答えを見つける人になる。」

そのような人材を育成することを教育目標に掲げています。

「Sagamiチャレンジプログラム」は、上記の教育目標に則り「キャリア形成支援ポリシー」のもと

学生の「キャリア形成」を支援するプログラムです。

「Sagami チャレンジプログラム」における学びの仕組み

マーガレットスタディ

すべての学科・学年の学生を対象とした正課外活動における学びの仕組み「マーガレットスタディ」。

それぞれの活動においてPDCAサイクルを回すことにより、

目標の達成度を確認しながら自身の成長に気づき、弱点を補うことで次の活動につなげています。

Action

スキルの補強

- 次の活動に向けての講座
「キャリア☆カフェ」を受講し、
スキルを補強

Plan

自己分析・目標設定

- 「Sagamiチャレンジプログラム」
シラバスを使い、活動の目標や地
域の課題を共有し、参加者を募集
- 目標設定に向けた講座
「キャリア☆カフェ」の受講

Check

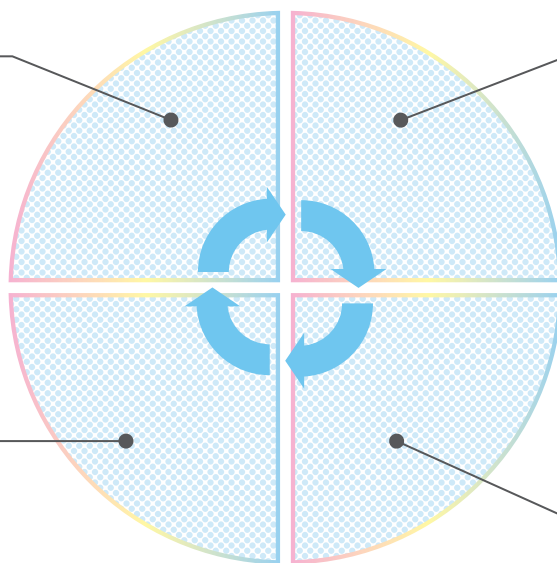
活動の振り返り

- 「活動報告書」への記載
- 「活動報告会」でのプレゼンテーション
- 目標設定に対する振り返りのための講座
「キャリア☆カフェ」の受講

Do

各フィールドでの活動

- 学内外における地域活動／
海外での語学研修・留学



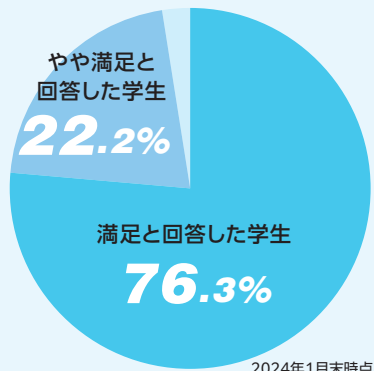
キャリア☆カフェ・ユメカナ★カフェとは？

《キャリア☆カフェ》… 外部講師、教職員、地域の方など社会で働く(働いた)大人による講座・座談会です。

《ユメカナ★カフェ》… 学生が主体となって開催する講座・座談会です。

とは？

数字で見る!! 「Sagamiチャレンジプログラム」の満足度
満足度 **98.5%** 以上!



心強いアドバイザー制度があります

「Sagami チャレンジプログラム」 アドバイザー制度

教職員、卒業生、地域や企業の方、外部講師などが
一丸となって学生を支援する制度です。

きめ細やかな支援

多様なバックグラウンドを持つ学内外様々な人がアドバイザーとなって学生が主体的に学ぶことができるよう支援します。

支援してくださる
地域の方々



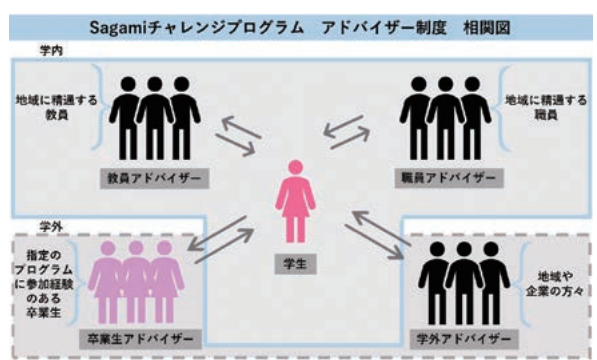
アドバイザーの役割

(例)

活動に対する指導や助言

「マーガレットスタディ」における、
各種講座の企画・運営・講話

地域の人脈を活かしながら、
関係各所と連携し、活動を企画・運営



卒業生アドバイザーからのメッセージ

学生時代に経験したことを共有し、
在学生に充実した活動を行ってほしい

福岡県糸島市 女性のはたらき方研究プロジェクト

管理栄養学科 2020年度卒業 深澤 多絵



「Sagamiチャレンジプログラム」 参加へのきっかけ

多様な働き方・生き方をする方々と関わりを持ち、自分自身のキャリア形成の軸となるものを得たかったことと、学年や学科を超えた繋がりが欲しかったことから、活動に参加しました。

卒業生アドバイザーに 登録した理由

実際に活動に参加したからこそ感じたこと、経験したことを後輩に共有することにより、学生の活動がより充実したものになれば嬉しいなと思い、登録しました。また、社会人として経験したことを後輩に何か伝えられるのではないかなと思ったのも登録した理由の1つです。

在学生へのメッセージ

活動に参加したことにより、コミュニケーション能力はもちろん、その経験で得た価値観や物事への考え方が、社会人になって活きていると感じます。また、活動で出会った糸島の地域の方々とは今でも繋がりが 있습니다。このような出会いは一生ものです。ぜひ皆さんも「Sagami チャレンジプログラム」に参加してみてください。

夢をかなえるセンターとは

「Sagamiチャレンジプログラム」に参

キャリア形成支援ポリシー

キャリア形成支援ポリシーにより学生が身につける力

- 興味・関心を幅広く持ち、物事の本質を見つめ、筋道を立てて問題を解決する力。
- 社会との関わりにおける自分のありかたを考え、他者と柔軟なコミュニケーションをとり、協働できる力。
- 「働くこと」の意義を理解し、自分らしい生き方を見つけ出し、プランニングできる力。

社会人基礎力テスト「PROG」で測定可能な9つの力

課題発見力

計画立案力

実践力

親和力

協働力

統率力

感情制御力

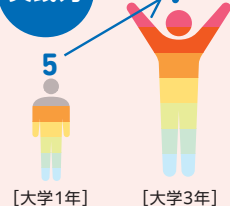
自信創出力

行動持続力

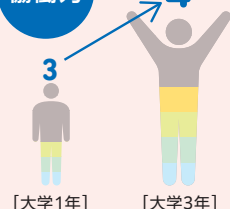
Case

1

実践力



協働力



実践力・協働力が伸びました！

Student's Voice

私はSagamiチャレンジプログラムに参加をして、「実践力」と「協働力」の2つが大きく成長したと感じています。1年生から復興支援学生ボランティア委員会に所属し、今年は委員長を務めています。

「実践力」では、4月に「どのようなことをやりたいですか？」とメンバーに聞いたところ、「学園祭で出店したい!!」と声が上がりました。そこから約半年間かけて大船渡のお菓子屋さんとのオンラインミーティング等を通し、メンバーの声を反映しながら、11月には学園祭でコラボスイーツを販売し大盛況で終わることができました。また、Instagramのフォロワーやいいねが伸び悩んでいることから、メンバーと話し合う機会を設け、更新頻度をあげることを決めました。委員長になり、私1人では思いつかないような意見とも出会い、メンバーの意見に耳を傾けながら、チームでより良い成果を上げるために行動ができるようになりました。

「協働力」ではメンバー全員が「居心地が良い」と感じるように、関係性作りも大切にしました。分かりやすい文章で連絡することはもちろんのこと、普段の何気ない会話も大切にしました。さらに自分では気づきませんでしたが、「武井さんは話しやすい雰囲気があるよね。〇〇さんは前も素敵な意見を言ってくれたから、どうかな?と聞いていてよかったよ。」と一言でいい感じになりました。その言葉を聞いて振り返ってみると、今年度行った小学校での

教育実習のことを思い出しました。指導していただいた先生から、「子どもとの関わり方が上手だね」と言っていただきました。活動を通して身につけることができた力は、活動以外でも生かすことができていました。

3年間の活動を通して自分自身を見つめ、多くの人や考えと出会うことができました。これらの体験が「実践力」と「協働力」の2つの成長に繋がったと思います。



武井 ひなきさん

学芸学部 子ども教育学科3年(撮影当時)
復興支援学生ボランティア委員会 所属



武井 真二さん(学生のご家族)
津波被害を受けた大船渡市越喜来(おきらい)地区の産業用地に建てられたイチゴ栽培ハウスでのイチゴ狩り体験

学生のキャリア形成を支援する教育プログラム「Sagamiチャレンジプログラム」の活動で学生がどのような力を身につけたか、実際に活動に同行いただきご家族の視点から評価いただく「学生活動モニター」を実施しました。今回は「復興支援学生ボランティア委員会」の活動に同行いただいた学生のお父様より、学生の成長に対する評価いただきました。

実践力については、今自分がやるべき事、任されたことについて目標を明確に持ち、それに向かい達成するための努力を惜しむことなく発揮し、親と離れて生活するようになり、改めて自立してきたように思います。今回私も活動に参加させていただきましたが、様々な場面で自分から積極的に話し掛け、地域の方々と関わっていました。また自分で決めたことに対し途中で投げ出すことのない責任感の強い面もあります。高校3年生のふとした折に「人の役に立ちたい」と話してくれたことを思い出しました。同じ志を持ったメンバーと互いに意見を出しながら計画を立て、話し合い、実行に移したのだと思います。そういったことから、相補的な協働力が身に付いていると感じました。

これから進路に向け更に多忙な毎日になると思いますが、どんなことに対しても自分から意欲的に挑戦し、夢を実現してほしいと思います。

加した学生が身につけた力

社会人基礎力テストPROGでは、9つの力を7段階で評価しています。

1～4段階：学士課程終了レベル 5～6段階：社会人1～3年目に期待されるレベル 7段階：若手リーダーレベル

対課題基礎力

- ①課題発見力
課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う
- ②計画立案力
課題解決のための適切な計画を立てる
- ③実践力
実践行動をとる

対人基礎力

- ④親和力
他者との豊かな関係を築く
- ⑤協働力
目標に向けて協力的に仕事を進める
- ⑥統率力
場をよみ、組織を動かす

対自己基礎力

- ⑦感情制御力
気持ちの揺れを制御する
- ⑧自信創出力
前向きな考え方ややる気を維持する
- ⑨行動持続力
主体的に動き、良い行動を習慣づける

※PROGについて：（株）リアセックが提供する「学生に社会が求めるジェネリックスキル（社会人基礎力）」を測定

Case

2

自信創出力・統率力が伸びました！



Student's Voice

私がこれまでのSagamiチャレンジプログラムに参加をして、特に成長を感じた部分は「自信創出力」と「統率力」の2つです。成長した過程として、年間を通じて活動する電子回路ペンプロジェクトをはじめ、様々な短期の活動に参加してきたことが大きく関わっています。

私が現在、副リーダーを務めている電子回路ペンプロジェクトの活動では、学内体験会や小学校での出前授業にて電子回路ペンを用いた講座を行っています。学内体験会では、呼び込みから会場への誘導、講座の説明までを一人で行うため、初対面の学生相手に最初のころは緊張してスムーズに行うことができませんでした。そこで、先輩方の言動を真似することや、自分なりに工夫したところ、体験した学生から「分かりやすかった」との声をいただき、また先輩からも「上手だった」と褒めていただきました。複数回行われたこの体験会を経たおかげで、人前に立つ自信が持てました。また、小学校での出前授業においても、体験会で身に付けた事をもとに、子供たちに分かりやすい言葉遣いと、講座を楽しんでもらう工夫をしたことで、「楽しかった」と喜んでもらうことができました。挑戦・工夫・達成この3つの段階を繰り返し経験したことで、「自信創出力」が身に付いたと思います。

プロジェクト活動の他にも、短期の活動に参加をするなかで、他学科の学生や後輩と交流する機会がよくありました。グループでの行動を求められる場面もあり、積極的にコミュニケーションをとることや、先輩としてサポートできる場所を探することで、円滑に活動できるよう心掛けました。全体で話し合う場面では意見を積極的に出し、関連付けて他の人に質問することで新たな視点やアイデアが出ることもありました。明確なリーダーという立場ではありませんでしたが、似たような状況を経験したことで「統率力」が身についたのだと思います。



渡邊 菜女さん
栄養科学部 健康栄養学科3年（撮影当時）
電子回路ペンプロジェクト 所属



相模原市印刷広告協同組合
山本 博之さん
（学外アドバイザー）

学生のキャリア形成を支援する教育プログラム「Sagamiチャレンジプログラム」の活動で学生がどのような力を身につけたか、今回は「電子回路ペンプロジェクト」の活動を支援いただいている学外アドバイザーより、学生の成長に対する評価いただきました。

このプロジェクトに入りたての頃と今の渡邊さんを比較すると、「自身創出力」「統率力」の成長は確かに感じたと思います。それに加えて「視野の広さ」と「積極性」という、とても素晴らしい素質を持っています。

- ・視野の広さ→「社会人」という立場の人間と接することで、違う考え方や視点があるということに気づかれたと思います。会議でも、自分の意見に対するこちら側の意見を「なるほど」と飲み込み、違う結論になることをそんなに無理なく受け入れている様子が見えます。
- ・積極性→おそらく徐々にプロジェクトへの思いが強くなったこともあり、大学内のメンバー増加のための体験会などで積極的に学生に声掛けをされています。また、新しいアイデアもたくさん、諦めずに発言されています。

来年度は4年生となり、リーダーとしてプロジェクトを引っ張る立場になります。挑戦・工夫・達成のサイクルを加速させ、更なる成長を期待しています。

「Sagamiチャレンジプログラム」

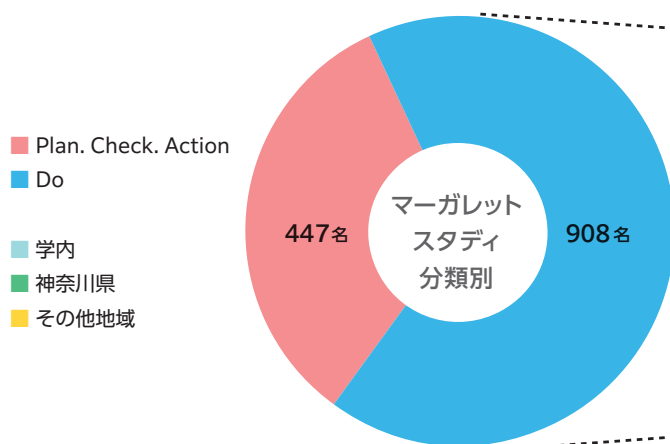
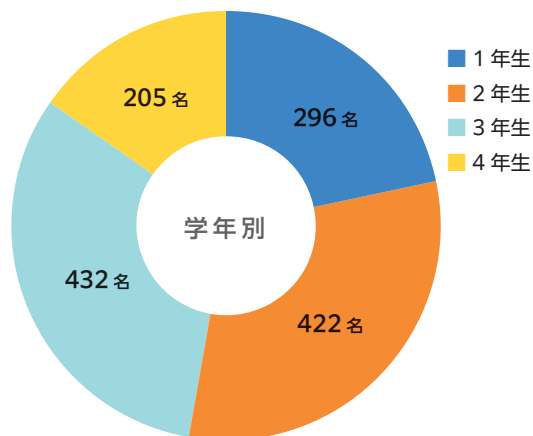
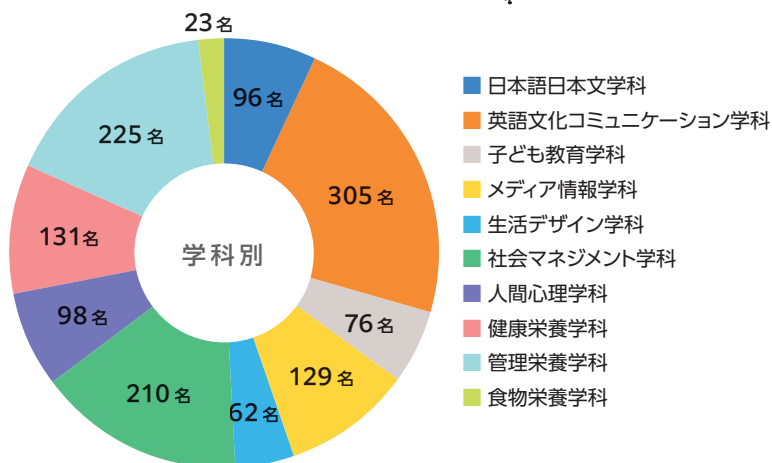
活動実績(2023年度)

「Sagamiチャレンジプログラム」の活動には、本学の大学または短期大学部に在籍している学生であれば、学年・学科問わず誰でも参加することができます。友人同士はもちろん1人で参加する学生も多く、参加した学生からは「学科・学年を越えて新しい友人ができた!」「社会人との交流が増え、ビジネスマナーが身についた」などの意見が多く寄せられていますので、安心して参加してくださいね。皆さんのチャレンジをお待ちしています!

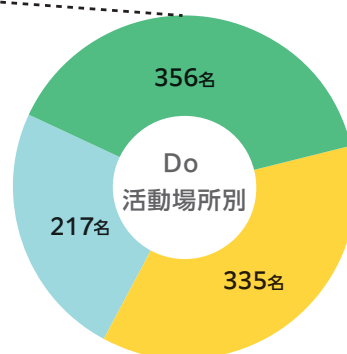


延べ参加人数：1,355 名

(2024 年 1 月末時点)



Doの活動場所を細分化



※上記表内のその他地域とは福島県、三重県、新潟県、長野県、岩手県、福岡県、群馬県、東京都、国際プログラムを含みます

「Sagami チャレンジプログラム」活動情報の入手方法

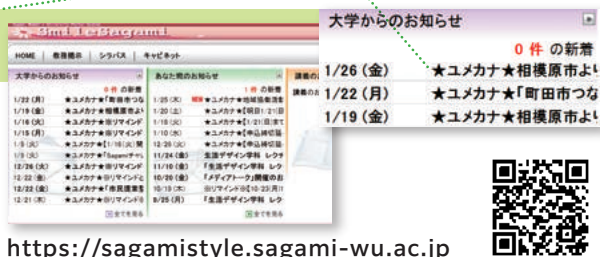
活動の様子や参加者募集に関する情報は、様々なツールを利用して発信しています。
活動への参加を希望する方、活動に興味がある方は要チェックです！

このタイトルからのお知らせを要チェック！

SmileSagami のお知らせ配信

募集説明会などの情報は、SmileSagami のお知らせ配信をチェック！

件名に、★ユメカナ★とつけて各活動の募集説明会のお知らせなどを行っています。



<https://sagamistyle.sagami-wu.ac.jp>

「Sagami チャレンジプログラム」専用掲示板

下記場所にて募集中の活動や募集説明会に関するチラシを掲載しています。

- 連携教育推進課窓口前
- English Room
- カフェテリア 101 入口
- 7 号館入口



夢をかなえるセンター特設サイト

夢をかなえるセンター特設サイトでは、「Sagami チャレンジプログラム」に関する情報や活動に参加する学生からのお知らせ、活動報告等を掲載しています。

<https://ymkn.sagami-wu.jp>



連携教育推進課 SNS 公式アカウント

X (旧ツイッター)

ユーザー名 / @sagajo_yumekana



Instagram

ユーザー名 / @sagajo_yumekana



YouTube

チャンネル名 / 相模女子大学 連携教育推進課



連携教育推進課Instagramアカウントで「プロジェクト活動」を対象としたフォトコンテストを実施しました。最もいいね！を獲得した「復興支援学生ボランティア委員会」に当冊子の表紙を飾っていただきました！



「Sagami チャレンジプログラム」への参加方法

上記の情報
発信ツールから
募集説明会の
情報を GET

募集説明会に
参加

申込み

活動への参加♪

日本全国に広がる社会貢献活動

学生たちの活躍のフィールドは、神奈川県相模原市を拠点として日本全国に広がっています。

地域との協働

相生祭(学園祭)

連携先の地域・企業が一堂に会し、地域物産展を開催。

毎年11月3・4日に開催される相生祭において、本学と交流のある地域や企業が一堂に会し、「地域物産展」を開催します。地域の特産品や企業とのコラボレーション商品の販売を通してそれぞれの魅力を発信し、日本各地の活性化を目指します。2日間で約2万人が来場する一大イベントです。



新潟県 佐渡市

伝承されている鬼太鼓や能楽を学び、島民に披露



長野県 生坂村

巨峰の収穫や出荷作業、観光資源を活かした新商品開発



京都府 和束町

お茶の収穫、加工工場での補助、清掃ボランティア活動



福岡県 糸島市

地域の人・仕事・生活にふれあい、「これからの女性のはたらき方」を研究



三重県 熊野市

田植え体験、稲刈り体験、特産品「新姫」収穫などの補助

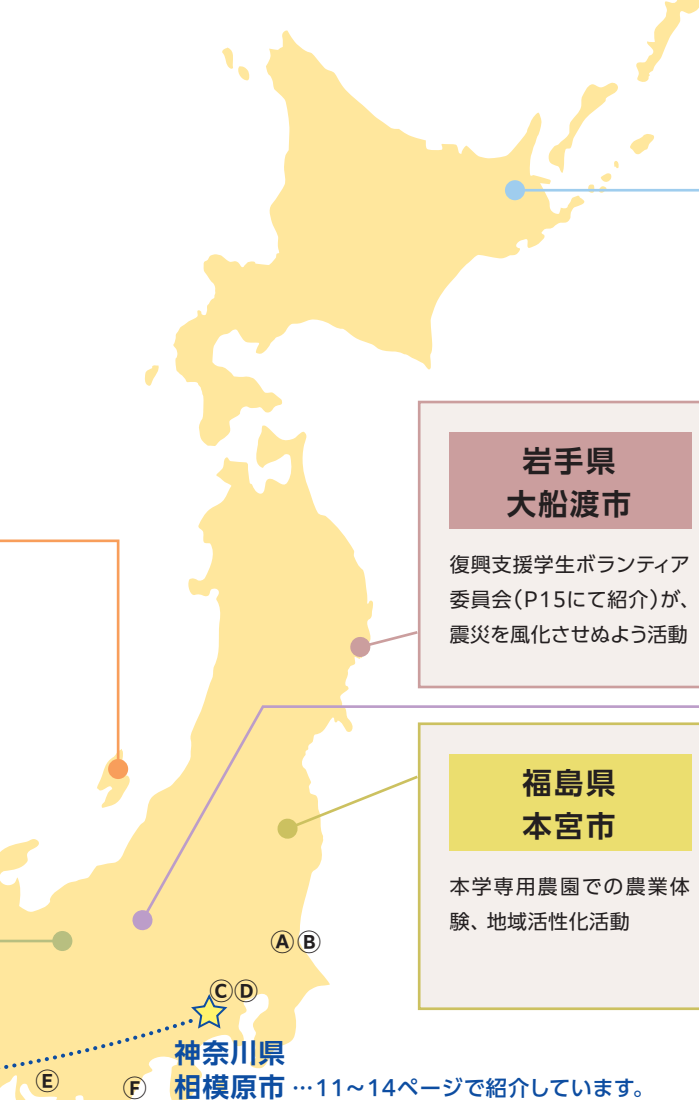


「地域貢献度ランキング」全国女子大学で第1位(※1)

「組織・制度分野」でも上位にランキング!(※2)

夢をかなえるセンターにおける活動は、本学ならではの学生の主体的な学びです。その原動力となっているのは、社会に貢献する豊かな「発想力」の育成。日本はもとより世界を舞台に、様々な課題解決に取り組んでいます。

※1雑誌「日経グローバル」の調査「大学の地域貢献度ランキング」にて、本学は2011～2023年度(2016年度より隔年調査)の間、9期連続で全国女子大学のうち第1位を獲得しています。
※2「大学の地域貢献度ランキング」のうち、地域貢献の推進に向けた組織・制度面の取り組みを調査する項目です。



北海道 標津町

衛生管理システム地域
HACCPの体験、食育活動



岩手県 大船渡市

復興支援学生ボランティア
委員会(P15にて紹介)が、
震災を風化させぬよう活動



群馬県 富岡市・沼田市

農業体験、過疎化・高齢化問題
への提案、地域活性化活動



福島県 本宮市

本学専用農園での農業体
験、地域活性化活動



神奈川県 相模原市

…11～14ページで紹介しています。

企業との協働

① 株式会社つかもと(茨城県)

社会マネジメント学科金森ゼミの学生と、茨城県龍ケ崎市の株式会社つかもとが共同で開発した、さつまいも(紫芋)の甘なっとうです。砂糖や食品添加物を一切使っていないので低カロリーで、すっきりとした甘さが魅力です。



② 株式会社ふじ屋(茨城県)

食物栄養学科の学生がレシピを提案し、コラボレーションプリンを開発しました。



③ 株式会社東京ポンパドウル(東京都)

株式会社東京ポンパドウルと、大学・短期大学部そして高等部がコラボレーションし、2015年度より毎年、オリジナルパンのレシピコンテストを開催しています。学生・生徒が独自に考えたレシピは審査によって採用・商品化が決定し、ポンパドウル町田店や大学祭・地域物産展などで販売されます。



④ 株式会社銀座甘楽(東京都)

食物栄養学科の学生が和菓子販売店「銀座甘楽」とコラボレーションし、鎌倉の美しい海をもとに真珠と貝殻をイメージした最中を開発しました。塩飴や求肥を使い「もう一つ!」とつい手が伸びてしまうような後を引く美味しさです。



⑤ 株式会社サガミホールディングス(愛知県)

⑥ 石田缶詰株式会社(静岡県)

本学と株式会社サガミホールディングス、石田缶詰株式会社の三者共同により研究開発した「サガミ純鶏 名古屋コーチン味噌煮」が、2021年1月に宇宙航空研究開発機構より「宇宙日本食」としての認証を取得しました。



神奈川県や相模原市内における 社会貢献活動

久保田酒造株式会社
×
相模原市観光協会

.....
地元酒蔵とこだわりの梅酒造り
.....



地元酒蔵「久保田酒造株式会社」とコラボし、大学内で収穫した梅を使った梅酒「翠想(すいそう)」を毎年造っています。梅の収穫からラベルのデザイン、仕込み、瓶詰めなど、全ての工程に学生が携わっています。



ノジマステラ神奈川相模原

学生ボランティア活躍中!



2013年4月に神奈川県唯一の女子プロサッカーチーム「ノジマステラ神奈川相模原」とパートナーシップ協定を締結し、スポーツを通じた地域振興に貢献しています。本学の学生は試合運営に係るボランティアスタッフとしてスタジアムの内外で活躍しています。



株式会社 3pm・さんじ

次世代型ケーキ『マーガレットケーキ』

相模女子大学の校章「マーガレット」型で焼き上げた上品なケーキを販売。厳選された国産材料に加え、大学内で収穫した梅で造った梅酒と梅の実を生地に使い、しっとりとした食感に仕上げました。



第1回神奈川なでしこ
ブランド認定商品



カゴメ株式会社 × 神奈川県

野菜がとれるおやつ・スイーツレシピコンテスト

2020年度から2021年度にかけて、神奈川県・カゴメ株式会社との産官学連携活動「野菜がとれるおやつ・スイーツレシピコンテスト～子どもたちも美味しく食べられるおやつ・スイーツで手軽に70グラムの野菜をとりよう～」を開催しました。学生は神奈川県県央地域の季節の野菜を使用した、子どもたちも美味しく食べられるおやつ・スイーツレシピを考案しました。全4回のレシピコンテストで計17作品が入賞しました。



神奈川県清川村

清川村特産品開発プロジェクト

清川村の特産品である清川茶を使った特産品開発をしています。グループに分かれレシピ開発を行い、試作品をクリスマスイベントで販売することや、村内の飲食店に完成したレシピを提案するなどしています。



神奈川県大磯町

特産品のみかんの有効活用に向けて

大磯町の特産品であるみかんを活用した様々な取り組みを行っています。これまでにアロマオイルの商品開発やPR、みかんをはじめとする柑橘類をテーマとしたレシピコンテストをしています。



神奈川産学チャレンジプログラム

毎年多くのチームが入賞しています!!

一般社団法人神奈川経済同友会の会員が所属する企業と神奈川県内の大学が協働し、産学連携による学生の人材育成を目的とした課題解決型研究プログラムです。



神奈川県住宅供給公社

「団地活性サポーター」を導入

2018年12月に相模原市内にある公営住宅「相武台団地」を運営している神奈川県住宅供給公社と包括協定を締結し、団地内にある商店街等との地域連携や、学生の活動による地域コミュニティの活性化を図っています。



神奈川つくい農業協同組合

スパークリング日本酒「HARUHIME」商品化！

相模原市津久井地域で採れたお米『はるみ』を使用したスパークリング日本酒「HARUHIME」の商品化に際し、本学の学生が瓶のラベルデザインを担当。オンラインにて何度も打合せを重ね、柔らかな優しい色合いのラベルデザインが完成しました。



CEMLA(多文化学習支援センター)

外国につながる子どもたちへの支援活動を行っています！

CEMLA(多文化学習支援センター)は、「Center for Multicultural Learning & Activities」の略で、外国につながる子どもたちの支援センターです。

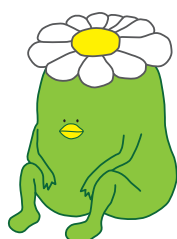
毎週土曜日、本学をはじめとする近隣大学等の学生が中心となって、日本語や教科学習の指導を行っています。



相模原市×相模原市民文化財団

相模原薪能

地域の皆様に対し、伝統芸能を鑑賞する機会を提供させていただく社会貢献事業「相模原薪能」。日本古来の伝統芸能である能楽を「相模原」に定着させ、本市の文化の向上を図ることを目的として、毎年実施している催しです。舞台上に創り出される幽玄な空間で非日常の特別な時間を体感いただけます。



神奈川県や相模原市をフィールドに様々な活動を行っています！

相模原市民文化財団

シネマ&トーク

地域の皆様に対し、映画を通じて文化・芸術を発信するイベント「シネマ&トーク」。本公演では、本学の客員教授である金子修介氏が監督を手掛けた作品を上映し、上映後は、金子監督ならびにゲストをむかえ、映画撮影時のエピソード等をテーマに対談します。



プロジェクト活動

プロジェクト活動とは、同じ想いや目的を持って集まった学生が、地域や企業等と協働しながら、それぞれが実現したいことに向けて活動を行います。メンバーの募集やプロジェクトリーダーの選出等も学生が自ら行い、連携先地域や大学内をフィールドとして年間を通じて活動します。



学生の運用しているSNSアカウントはこちらから ▶

女性のはたらき方研究プロジェクト [福岡県糸島市]

糸島市の魅力あふれる自然や歴史、そして人に囲まれながら、多様なはたらき方をする方へのインタビューを通じて、キャリアについて考えるとともに、SNSを活用して糸島市の魅力発信を行っています。



復興支援学生ボランティア委員会 [岩手県大船渡市]

東日本大震災発生後の2011年6月に炊き出しのボランティアとして訪問したことをきっかけに発足。定期的な現地訪問では、保育園や幼稚園、イベントでの市の花「椿」を活用した地域活性化活動などを行っています。近年はSNSを利用した広報活動にも力を入れており、震災を後世に伝えることを今後も継続していきます。



もとみやSMILEプロジェクト [福島県本宮市]

原発事故による風評被害で苦しむ本宮市へ“私たちができること”は何かを考えたとき、有志の学生が立ち上がり発足したのが「もとみやSMILEプロジェクト」です。本宮市にある農園「マーガレットファーム」で野菜を育て、「食」について考えるとともに、本宮市のPRを目的とした様々な広報活動を行っています。



丸山千枚田魅力発信プロジェクト [三重県熊野市]

年間計3回ほど丸山千枚田を訪れ、丸山千枚田を支援している保存会の方々と交流をしながら、田植えや稲刈り、畦そりなどに参加しています。また、大学だけでなく東京や神奈川のイベントスペースをお借りした地域のPR活動もっており、丸山千枚田を応援したいと思ってくれるような魅力発信をしています。



「海外に子ども用車椅子を届けよう!」プロジェクト [東京都・東南アジア ほか]

東日本大震災の際にタイからの支援に対する日本の「ARIGATO」を車椅子にのせて届けよう!とスタートしたプロジェクトです。日本国内において子どもの成長により不要になった車椅子を修理し、ミャンマー、ラオス、マレーシアなどに年間100台近くの子ども用車椅子を寄贈してきました。今後も沢山の「ARIGATO」を伝えていきます。



おっきリンピック宣伝部 [群馬県富岡市]

群馬県富岡市の郷土料理「おっきりこみ」の魅力を多くの人に発信する活動です。この活動を通して富岡市やおっきりこみ、人とのつながりの大切さを学ぶこと、「食」を通じた地域の活性化に関わることが出来ます。主な活動としては、SNSを活用した広報活動や、学園祭で地域の特産品を販売するお手伝い等を通じて、地域に貢献しています。



電子回路ペンプロジェクト [東京都・神奈川県 ほか]

小学生を対象に「電子回路が書けるペン」を使った講座を企画・運営して、理科の楽しさを伝えていく活動です。学生が講座の内容も含めた企画段階から関わり、実際に近隣の小学校で出張授業を行います。小学生の喜ぶ顔を間近で見ることが出来るのはもちろん、仲間や企業の方とプロジェクトを運営していくことで協働力が身につく、とてもやりがいのある活動です。



佐渡プロジェクト [新潟県佐渡市]

佐渡の魅力を首都圏の大学生や高校生に伝えるため、2020年度に学生たちが立ち上がり発足したのが「佐渡プロジェクト」です。佐渡の豊かな伝統芸能を切り口に、地域の方々との交流を深めることを通じて、佐渡の歴史や文化について深く学ぶとともに魅力を発信することを目的としています。



サガジョ盛り上げ隊プロジェクト [相模原市 ほか]

「大学をより楽しい場所だと思ってもらいたい」「相模女子大学をより好きになってもらいたい」「相模女子大学をいろんな人に知ってもらいたい」という目標を掲げ、教職員と協働して様々な活動を行っているプロジェクトです。SNSを活用した広報活動や、入学式・卒業式などの学校行事の機会を利用して、「Sagamiチャレンジプログラム」の活動、大学の魅力をPRしています。



海外をフィールドとした国際教育

国際プログラム

「国際プログラム」とは？

日本を飛び出して海外をフィールドとして異文化や語学を学ぶプログラムです。本学では、留学や研修を用意しています。

研 修

はじめての海外でも安心

夏季・春季休暇期間中に、海外の大学で実施している語学プログラムに参加する制度です。研修修了者には単位が認定されます。

学習言語	国	滞在方法	期間	特徴
英語	オーストラリア	ホームステイ	5週間(春)	英語レベル毎のクラス編成
韓国語	韓国	学生寮	2週間(夏)	現地学生との豊富な交流
中国語	台湾	ホテル	2週間(春)※	※現地学生との豊富な交流

協定校留学・認定校留学

半年～1年間集中的に

語学を学び、実践力をつけよう！

留学には、本学と協定を結んでいる大学に留学し、語学プログラムを受講する協定校留学と、協定校以外に自分が希望する大学に留学し、語学プログラムを受講する認定校留学があります。

●協定校留学先

- ・マニトバ州立大学(カナダ)
- ・ビクトリア大学(オーストラリア)

奨 学 金

留学奨励奨学金(協定・認定)

- 留学中の本学授業料相当額免除(協定)
- 留学中の本学授業料半額相当額免除(認定)

条件：詳しくは連携教育推進課にお問い合わせください。

国際交流特待奨学金(協定校留学のみ)

- 給付額 1年留学：60万円、半年留学：30万円

条件：詳しくは連携教育推進課にお問い合わせください。

交換留学

現地で正規授業を受講し、より高いレベルの実践力を身につけよう！

本学と協定を結んでいる大学に留学し、正規授業を履修する制度です。

●留学先

- ・文藻外語大学(台湾)
- 授業で使用する言語：英語

留学ロードマップ

(協定校・認定校・交換留学)

計画性をもって準備を進めることが何より重要！

1年以上前



留学の1年前
～6カ月前



留学決定後
～留学出発前

●留学計画をたてる

- ・留学の目的は？
- ・自分に適した留学制度は？
- ・費用はどのくらい必要？
- ・語学力と学内成績をのばそう

●募集説明会参加・出願 ※語学能力証明書提出

●留学決定後はスピーディに渡航準備

- ・協定校への出願や学生ビザ申請等
- ・出発までに計画的に語学の勉強を進めて留学に備えましょう

本学のサポート体制

(留学・研修共通)

万全のサポート体制で

皆さんの留学・研修を応援！

- 出発前ガイダンスで各種手続きを丁寧に説明
- 本学指定の海外旅行保険及び危機管理サポートシステムに加入
- クレジットカードやキャッシュパスポート等、海外でのお金の使い方を説明
- 現地では、24時間日本語対応のコールセンターの利用が可能

協定校一覧

※記載されている一覧は、受入れ先の都合や情勢などにより変更となる可能性があります。

マニトバ州立大学(カナダ)

英語	渡航時期	留学:1年間(4・9月出発)
研修:8月	費用	留学:約330万円
協定校留学:4・9月	滞在方法	留学:ホームステイ
	目安スコア	TOEICスコア350点

○ランゲージパートナーとの交流等、豊富なアクティビティ

○上級レベルの学生は正規授業の聴講可能



1877年創立、カナダ西部で最も伝統のある総合大学。英語とフランス語が公用語のカナダはバイリンガル教育に力を入れている。マニトバ州立大学の語学プログラムは其中でも高い評価を受けている。アクティビティ活動が盛んなのが特徴。

ビクトリア大学(オーストラリア)

英語	渡航時期	研修:2月上旬から約5週間
研修:2月	費用	留学:1年間もしくは半年間(4・9月出発)
協定校留学:4・9月	滞在方法	研修:約80万円/留学:約280万円
	目安スコア	ホームステイ(研修・協定校留学共通) TOEICスコア300点

○学習者のレベルに応じたクラス編成

○都市部に位置するキャンパスで日本人スタッフが駐在



1916年に設立された歴史ある公立大学。オーストラリア第2の都市であるビクトリアには、緑豊かな公園や庭園が多く、歴史ある建造物が混在する街並みが特徴。英語集中コース(ELICOS)として、初中級者から上級者まで学習者のレベルに合わせてクラス編成される。

ソウル女子大学(韓国)

韓国語	渡航時期	研修:8月上旬から約2週間
研修:8月	費用	研修:約30万円
	滞在方法	学生寮

○韓国語だけでなく豊富な文化体験授業

○現地学生との豊富な交流(トウミ制度)



1960年創立、プロテスタント系の女子大学。日本人大学生を対象とした特別プログラムで、韓国語と韓国文化をバランスよく学ぶことができる。共有キッチンや自習室などの設備が整った学生寮に滞在。

文藻外語大学(台湾)

中国語(研修)	渡航時期	海外研修:3月上旬から約2週間
英語(交換留学)	費用	交換留学:1年間もしくは半年間(8月出発)
研修:3月	滞在方法	研修:約27万円
交換留学:8月		交換留学:※費用については募集説明会で確認すること
		研修:ホテル/交換留学:学生寮

○中国語だけでなく豊富な文化体験授業

○現地日本語学科学生との交流



1966年創立、台湾唯一の外国語専門大学。文化体験やチュートリング、日本語学科の学生との交流などを通して中国語だけでなく台湾の伝統文化も学ぶことができる。ホテル滞在なので安心・安全。

留学・語学研修の選考スケジュール(参考)

募集説明会 ※参加必須	出願時期	選考(面接) ※留学のみ	結果通知	出発前ガイダンス
春出発 前年秋季学期開始時	10月上旬	10月下旬～11月上旬	11月中旬	11月下旬～
夏・秋出発 春季学期開始時(交換留学のみ3月中旬)	4月上旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬	5月下旬～

国内をフィールドとした国際教育

外国語・英語教育プログラム／異文化理解プログラム

「外国語・英語教育プログラム」とは？

世界の人々と英語等での確に意思疎通を図る能力を身につけるプログラムです。

「異文化理解プログラム」とは？

異文化交流を通して、自分とは何かを考え、自己を確立するとともに、自分と異なる人や社会や文化などを理解し、これらを尊重しながら共に生きていく姿勢を身につけるプログラムです。

外国語・英語教育プログラム

キャンパス留学

1日40分×年間100回、ネイティブスピーカーの講師のもと、学内で英会話レッスンを受講するプログラムです。ゲームやアクティビティはもちろん、季節ごとのイベントなどを通して、楽しく英語を学ぶことができます。また、TOEIC®セミナーやWriting添削など、アカデミックな英語力を強化することもできます。

TOEIC® IPテスト

年3回学内で実施しています。
TOEIC®公開テストよりも安価な受験料で受験することができます。



異文化理解プログラム

CEMLA

外国につながる生徒の学習支援教室・教育相談プログラム“CEMLA”で、外国につながる子供たちを対象に日本語学習や教科学習の支援を行うボランティア活動です。

「CEMLA」とは？

CEMLAは、Center for Multicultural Learning & Activitiesの略で、多文化学習活動センターという意味です。「世界の村」の「せむら」と覚えてください。高校、大学、NPO等が協働した「多文化共生の学習支援拠点」づくり事業です。

外国人 訪問学生／交換留学生 サポーター

本学の留学生との交流イベントを企画・運営したり、留学生の生活を支援する活動です。

「外国人訪問学生」とは？

海外の大学に通う学生が6～7月の2か月間本学に滞在し、異文化交流や英語教育プログラムを通して日本の文化や教育環境を学ぶ制度です。

「交換留学生」とは？

交換留学協定を結んでいる海外の大学生が、1年間または1学期間本学へ留学をするプログラムです。本学は、台湾にある文藻外語大学と交換留学協定を締結しています。

国内（学内）でも国際的な感覚を育む活動を実施しています。

横断プログラム	国際	外国語・英語教育	異文化理解

ユメカナ★カフェ

活動に参加した学生とこれから活動を行う学生が、活動体験や身につけたスキル、活動目標等を共有するイベントです。学生同士の交流を通して、主体的に学ぶ姿勢を身につけることを目的としています。

過去の実績

「自分のことを伝えてみようin English!」、
「Chat with 先輩」、
「大学入学後に私が取り組んだ活動とこれからの目標」

キャリア☆カフェ

社会で働く（働いた）大人が社会で身につけたスキルを学生と共有するイベントです。大人との交流を通して、キャリアを身近に感じてもらい、自分なりの夢を見つけることを目的としています。

過去の実績

「海外で夢を見つけよう!～モナシュ大学で学ぶ～」、
「国際交流のススメ(全5回シリーズ)」、
「私の英語勉強法」、
「『Let's try English』『Yes, We Can』オバマ大統領の就任演説を英語で聴いてみよう」

英語教材の貸出

連携教育推進課では、英語の本や漫画、TOEIC®の参考書や問題集などを取り揃えています。学生の皆さんへの貸出も行っていますので、お気軽にご利用ください。

国際教育プログラムに参加した学生に訊きました！

加門 由麗さん
(2021年度卒業生)

マニトバ州立大学
夏季英語研修参加

Q 国際教育のプログラムに参加した理由は？

A 私がマニトバ州立夏季英語研修に参加したのは自分の英語がどこまで通じるのか、どこまで自分の英語が身についているのか知りたかったからです。また、外国の寮生活がどのようなものなのか、文化の違いや生活習慣などを自分で体験してみたかったからです。

Q 活動を通して学んだことや身についた力は？

A 今回の研修を経て、リスニング力が前よりも向上しました。趣味でよく聴いている洋楽が前よりも聴きとれるようになりました。また、外国人とコミュニケーションを取る際に間違いを恐れなくなりました。

Q 後輩へのメッセージをどうぞ！

A 外国は怖いという印象が強いと思いますが、カナダはそうではありません。現地の方はとても優しく接してくれます。また、どこまで通じるのか不安だと思っている人も多いと思いますが、現地の方は理解してくれます。文法が間違っていたとしてもちゃんと会話を返してくれますし、楽しく会話をすることができます。安心して参加してください。



学園連携 幼稚部、小学部、中学部・高等部、大学間の連携



東京ドーム約4倍の広大なキャンパスの中に、幼稚部、小学部、中・高等部、大学・短期大学部、大学院までが集う総合学園です。「地域貢献度ランキング」全国女子大学で第1位にランキング※する大学の地域活動等を通じて、園児から大学院生まで、世代を超えた交流が行われています！

※雑誌「日経グローカル」の調査「大学の地域貢献度ランキング」にて、本学は2011～2023年度（2016年度より隔年調査）の間、8期連続で全国女子大のうち第1位を獲得しています。

サガジョの学び講座

高等部1・2年生を対象に、大学・短期大学部教員による講演会を定期的に行っています。大学ならびに短期大学部10学科の教員をはじめ、時には学長や副学長、教職センター長など、幅広い分野の先生方が講演を行います。高等部の生徒たちは、興味のあるひとつの講演を選択し、大学の授業がどのようなものかを体験しながら、将来を見つめる機会にしています。



ポンパドウルレシピコンテスト

2015年度より短大生を中心に株式会社東京ポンパドウルとの商品開発を行っており、近年は大学生と高校生を対象としたオリジナルパンのレシピコンテストを開催。株式会社東京ポンパドウルにより審査され、採用されたレシピは商品化し、学園祭の地域物産展ならびにポンパドウル町田店にて販売されます。



バジルチキンサンド
(2020年度高等部生考案作品)



太陽のかげやきパン
(2021年度高等部生考案作品)



クランベリーチョコレート
(2022年度高等部生考案作品)

復興支援学生ボランティア委員会×幼稚部 コラボイベント

東日本大震災をきっかけに岩手県大船渡市の地域貢献に取り組む「復興支援学生ボランティア委員会」のメンバーが、大船渡市の園児向けに開催している「震災の記憶を風化させることなく後世に伝えること」を目的とした紙芝居を使い、幼稚部の園児向けに読み聞かせ等を行いました。



学園連携♪カフェ

幼稚部・小学部・中学部・高等部・大学、それぞれの幼児・児童・生徒・学生が互いの学びを共有し、世代を越えた交流を図っています。



キャリア☆カフェ

多様なバックグラウンドや専門的知見を持つ外部講師や地域の方、教職員が主催する講座を高等部生にも参加いただきました。「チームビルディング講座」や「情報発信力アップ講座」「大人のマナー講座」など、多岐にわたる領域の講座を開講し、早い段階からキャリアを意識してもらえるよう、取り組んでいます。



何になりたい?どうになりたい?

将来の「なりたい自分」に出会えるよう就職支援課は共に走ります。

本学の就職支援プログラムは「就職準備講座」「PROG(プログ)」を通じて自己分析を行い、自分自身を知ることから始まります。そして、社会貢献活動・国際交流・学園連携などの活動に参加することにより「協働力」「文章力」「実践力」などを鍛え、さまざまな働き方を理解します。

正課で身につけた専門的知識とSagamiチャレンジプログラムで身につけた教養を基に、就職・編入学・進学など将来のなりたい自分に出会えるよう支援していきます。



このランキングは株式会社大学通信が、全国749大学(医科・歯科の単科大学などを除く)を対象に実施したものです。

- 就職準備講座
- 企業研究会
合同企業説明会
- 面談
- インターンシップ・
企業見学会
- その他

1 年次

〈大学〉

自己の適性を見つめ、将来の目標を考える。

〈短期大学部〉

希望する進路に向けて実際に行動する。

〈大学〉

■ 企業見学会

■ PROG

〈短期大学部〉

■ 就職準備講座

■ 企業研究会

■ 学科担当者との一斉面談

■ インターンシップ

■ 職業適性検査

■ 編入生との交流会

■ 就職活動用照明写真撮影会

■ PROG

■ 就職特訓講座

■ SPI模試・一般常識模試

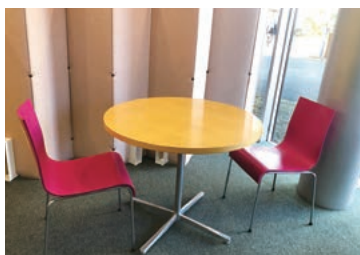
就職支援プログラム・ 3 つの柱

1 面談

学生一人ひとりと向き合う「面談」を大切にしています。対面での面談では安心して話せる面談スペースをはじめ、プライバシーに配慮した個室面談ブースも用意しています。また、学校にこない日であっても相談が出来るようにオンラインや電話での面談も行っています。

就職支援課には、就職活動全般の相談ができる「学科担当」と履歴書やエントリーシートの添削・面接練習ができる「キャリアカウンセラー」が常勤しています。大学3年生・短期大学部1年生の秋学期より、全学生を対象にした『一斉面談』を実施しており、就職活動に関

する不安や悩みなど、さまざまな相談を受け付けています。面談を通して一人ひとりに寄り添い、希望の進路に進めるように支援しています。



2 就職準備講座

大学3年生・短期大学部1年生から、就職活動に欠かせない「自己分析」「履歴書・エントリーシートの書き方」「業界研究」「面接・グループディスカッション対策」「就活メイク」等について学びます。就職準備講座では、外部講師をお招きしており、各分野の専門家から就職活動に関する話を聞くことができます。毎週木曜日にオンラインで実施しており、同じ内容を1日に3回配信するため、都合の良い時間帯に出席することができます。講座中は、講師から一方的にお話しいただくだけでなく、ワークの実践やチャット機能を利用して質問すること

2年次

〈大学〉

自己の適性を見つめ、将来の目標を考える。

〈短期大学部〉

社会にはばたく準備をする。

〈大学〉

■ 2年生から始める就職準備講座

■ SPI対策講座

■ 企業見学会

〈短期大学部〉

■ 合同企業説明会

■ 学科担当者・

キャリアカウンセラーとの個別面談

■ 未内定者支援講座

3年次

希望する進路に向けて
実際に行動する。

■ 就職準備講座

■ 面談・グループディスカッション対策

■ Uターン、Iターン、Jターンガイダンス

■ OGとの交流会

■ 就活ヘア・メイク講座

■ 筆記試験対策

■ 企業研究会

■ 学科担当者との一斉面談

■ インターンシップ

■ PROG

■ 職業適性検査

■ 就職特訓講座

■ 就職活動用証明写真撮影会

■ 公務員試験対策講座

■ SPI模試・一般常識模試

4年次

社会にはばたく
準備をする。

■ 合同企業説明会

■ 学科担当者・

キャリアカウンセラーとの個別面談

■ 未内定者支援イベント

■ 社会人準備講座

③ 企業研究会

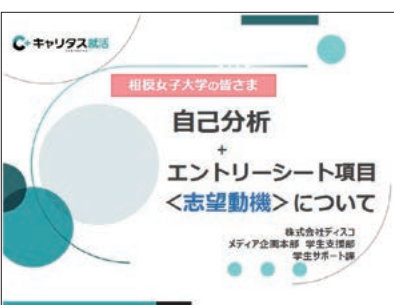
大学3年生・短期大学部1年生の秋学期に、様々な業界の人事担当者をお招きし、各業界の動向や具体的な業務内容について説明していただきます。参加企業には本学OGが在籍している企業も多く、この企業研究会を通じて選考に進む学生も少なくありません。

11月から2月の期間にオンラインおよび対面で複数回開催し、合計100社以上の企業をお招きしています。各企業からの説明後、気になったことや不明な点についてその場で質問することができます。

企業研究会に参加した学生は、大学4年生・短期大学部2年生に行われる学内合同企業説明会にも積極的に参加しています。



学内企業説明会の様子



もできます。各回、数多くの質問が寄せられることから、学生が就職活動について積極的に取り組んでいることが分かります。

就職支援・編入学・進学など

夢をかなえるお手伝いをします。

島村さんの就職活動経過



島村 純奈さん
英語文化コミュニケーション学科
4年(取材当時)
内定先:株式会社ネオキャリア/営業職



就職先一覧(過去3年間の主な就職先・順不同)

【専門職】

〈栄養士・管理栄養士〉

- ・横浜市立市民病院
- ・医療法人徳洲会湘南鎌倉総合病院
- ・IMSグループ(板橋中央総合病院グループ)
- ・国家公務員共済組合連合会横浜共済病院
- ・株式会社日本保育サービス(JPホールディングスグループ)
- ・エムサービス株式会社
- ・株式会社NECライベックス
- ・日清医療食品株式会社
- ・町田市役所
- ・小田原市役所 他

〈教諭(小・中・高)〉

- ・神奈川県教育委員会
- ・東京都教育委員会
- ・埼玉県教育委員会
- ・長野県教育委員会
- ・福島県教育委員会
- ・相模原市教育委員会
- ・横浜市教育委員会
- ・川崎市教育委員会

〈社会福祉士〉

- ・SOMPOケア株式会社
- ・社会福祉法人
横浜市社会福祉協議会
- ・横浜市役所
- ・中野区役所 他

〈食品衛生監視員〉

- ・横浜市役所

〈保育士・幼稚園教諭〉

- ・学校法人相模女子大学幼稚園部
- ・公益財団法人横浜YMCA
- ・相模原市
- ・愛川町
- ・川崎市
- ・藤沢市
- ・茅ヶ崎市
- ・小田原市
- ・世田谷区 他

【企業・団体】

- ・C-United株式会社
- ・Kato Pleasure Group
- ・TBCグループ株式会社
- ・TISソリューションリンク株式会社
- ・YKK AP株式会社
- ・オリックス・ホテルマネジメント株式会社
- ・コーナン商事株式会社
- ・コストコホールセールジャパン株式会社
- ・さがみ農業協同組合(JAさがみ)
- ・トランスコスモス株式会社
- ・トリプル・インターナショナル・ジャパン株式会社
- ・プライムデリカ株式会社
- ・マルハニチロ株式会社
- ・ユザワヤ商事株式会社
- ・ラッシュジャパン合同会社

- ・リゾートトラスト株式会社
- ・旭情報サービス株式会社
- ・横浜トヨペット株式会社
- ・横浜信用金庫
- ・横浜農業協同組合(JA横浜)
- ・横浜冷凍株式会社
- ・株式会社JR東日本ステーションサービス
- ・株式会社アダストリア
- ・株式会社イオン銀行
- ・株式会社カインズ
- ・株式会社キャン
- ・株式会社サザビーリーグ アイビーカンパニー
- ・株式会社ジェイ・エス・エス
- ・株式会社ジャックス
- ・株式会社シャトレーゼ
- ・株式会社ストライプインターナショナル
- ・株式会社チュチュアンナ

- ・株式会社トラストネットワーク
- ・株式会社ニチイ学館
- ・株式会社バリミキ
- ・株式会社ボンパドウル
- ・株式会社マイナビ
- ・株式会社ヤマダホールディングス
- ・株式会社リロパートナーズ
- ・株式会社ローソン
- ・株式会社横浜銀行
- ・株式会社京王プラザホテル
- ・株式会社共立メンテナンス
- ・株式会社小田急ビルサービス
- ・株式会社星野リゾート・マネジメント
- ・株式会社総合車両製作所
- ・株式会社大塚商会
- ・株式会社東急イーライフデザイン
- ・株式会社東急ストア

- ・株式会社日立物流南関東
- ・三井住友信託銀行株式会社
- ・社会福祉法人川崎市社会福祉協議会
- ・住友電装株式会社
- ・小田急商事株式会社
- ・神奈川県警察本部
- ・清水建設株式会社
- ・相模鉄道株式会社
- ・第一生命保険株式会社
- ・東日本三菱自動車販売株式会社
- ・日本生命保険相互会社
- ・日本赤十字社
- ・日本郵便株式会社
- ・福山通運株式会社
- ・明治安田生命保険相互会社
- ・野村不動産パートナーズ株式会社 他

進学先一覧(過去3年間の主な進学先・順不同)

【大学院】

- ・相模女子大学大学院社会起業研究科
- ・筑波大学大学院人間総合科学研究群芸術学
- ・田園調布学園大学大学院人間学研究科心理学専攻
- ・共立女子大学大学院文芸学研究科文芸学専攻
- ・国士舘大学大学院総合知的財産法学研究科修士課程
- ・國學院大学大学院文学研究科
- ・岡山大学大学院社会文化科学研究科
- ・桜美林大学大学院国際学術研究科
- ・横浜国立大学大学院先進実践学環

【専修学校・各種学校】

- ・国立障害者リハビリテーションセンター学院視覚障害学科
- ・学校法人日本リハビリテーション学舎社会医学技術学院作業療法学科
- ・茅ヶ崎リハビリテーション専門学校言語聴覚学科
- ・日本福祉教育専門学校 社会福祉士養成学科
- ・横浜高等専修学校看護科
- ・東洋美術学校夜間部グラフィックデザイン科
- ・東京デザイナー学院イラストレーション学部イラストレーション学科
- ・文化服装学院服飾研究科
- ・東京栄養食糧専門学校職業実践専門課程管理栄養士科
- ・服部栄養専門学校調理師本科

他

筆記試験対策

多くの企業が選考で取り入れている「SPI適性検査」の対策として、動画配信サイトを通じて自宅でいつでも視聴可能なオンデマンド講座を導入しています。このオンデマンド講座は、SPI適性検査の他に公務員試験対策にも導入しています。また、学生が自身の進捗度合いを測るためのライブ講座や学内模試も実施しています。



面接対策

常駐しているキャリアカウンセラーとの面談では、履歴書やエントリーシート添削のほかにも、面接の練習を受けることができます。自身の受ける選考に応じて、対面練習とオンライン練習を使い分けることができ、事前に複数回練習をしてから本番に臨む学生もいます。また、就職活動開始直前には、外部講師に依頼しグループ面接やグループディスカッションの実践ができる講座も開催しています。



就職特訓講座

就職特訓講座は、就職準備講座で学んだ知識を「実践形式」で学び直す1day集中セミナーになります。大学3年生・短期大学部1年生の夏休み期間中に、「自己分析」「面接」「グループディスカッション」をワークシートや模擬面接等の実践を通じて学んでいきます。インターンシップや選考の事前準備として、多くの学生が参加しています。



PROG〈大学生対象〉

PROGは、「社会から求められる力(リテラシー・コンピテンシー)」を測定するプログラムになります。このプログラムを通じて、自分の強みと弱みを客観的に見つめ直し、就職活動初期に必須とされる自己分析に繋げています。

*リテラシー：
知識を活用して
問題を解決する力

*コンピテンシー：
経験を積むなかで
身につけた行動特性



Uターン講座

Uターンでの就職を考えている方に就職活動の進め方を解説し、各地域の就職情報サイトを紹介しています。

[Uターン]

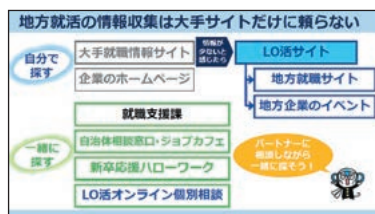
地方から都心へ移住し、再び地方へ移住すること。

[Iターン]

地方から都市へ、または都市から地方へ移住すること。

[Jターン]

地方から都市へ移住したあと、地元近くの地方都市へ移住すること。



就職活動用証明写真撮影会

証明写真の撮影に長けたプロのスタイリスト・カメラマンによる撮影会を毎年学内で実施しています。撮影にあたり、スタイリストによるヘアメイク(ポイントメイク)を行っています。証明用写真のできばえだけでなく、個別メイクアドバイスも好評で、学生からは「自分に合ったメイクが分かった」「就職活動用のメイクについて参考になった」等の声も多くいただいています。



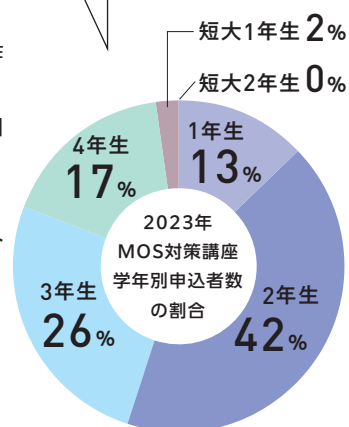
学生の資格取得を支援します！



資格取得講座・検定実施カレンダー



どの資格試験も、
インターンシップ・就職活動が
本格化する前の
1・2年生のうちの取得が
オススメです!



MOS 成績優秀者にきました!

Q 取得しようと思ったきっかけは何ですか?

A 情報科教員になる前に、必要な知識を学びたかったからです。元々パソコン操作はあまり得意ではなく、このままだと教員になった時に大丈夫なのかと焦りを感じていました。そんな時にMOS対策講座のお知らせを見て、資格取得できたらと考えたことがきっかけです。

Q 学内の対策講座の魅力は何ですか?

A 私にとっての一番の魅力は費用を抑えることができる所です。また、学内だと通いやすかったり、慣れている環境で受講できたりと安心して行うことができると思いますし、講師の方に質問しやすい環境でもあるので、途中で躓いたり分からなくなってもすぐに聞くことができます。

Q 勉強方法や試験対策のコツはありますか?

A ひたすら繰り返し問題を解くことだと思います。試験では講義で行っていない内容は出題されないの、自信をもって問題を解けるまで繰り返し解き、身に付けることができれば、問題なく資格取得できると思います。



回答者

澤口 幸里さん

学芸学部 メディア情報学科
4年(取材当時)

Q MOSを取得してよかったことは何ですか?

A 頻繁に使用するWordを操作しやすくなり、卒業論文を進めやすくなったことです。私は取得の時期が遅かったのですが、学生生活においてそこまで多くを活かすことはできませんでしたが、早く取得できれば、プレゼンテーション資料やレポート作成にも役立てることができると思います。

Q いつ頃の受験がおすすめです?

A 3年生が終わるまでに取得できると良いと思います。就職活動の自信にもなりますし、職業選択の幅も広がるからです。また、履歴書などにも書くことができるので、早く取得するに越したことはないと思います。

Q これから取得を目指す学生にメッセージをお願いします。

A 各々目的があって受講されると思いますが、どんな目的であれ資格取得すると自信につながるの、もし途中で難しいと感じても、最後まで諦めずに頑張ってください。資格取得ができるよう、陰ながら応援しています。

学生が参加できる生涯講座もご用意しています!

さがみアカデミー

本学の伝統と特質を生かしつつ、知的財産を広く社会に還元することを目的として、様々な講座をご用意しております。

*春季(5~7月)と秋季(9~12月)開催 *学生は受講料半額
*学生スタッフ(3名まで・講座前後の手伝い有)は無料



ホームページ

社会起業フォーラム

専門職大学院「社会起業研究科」主催の無料講座です。様々なジャンルで活躍する方をゲストにお招きし、現代社会の課題やその解決に向けた社会起業の在り方等について講演いただきます。



ホームページ

インクルーシブ生涯学習プログラム

相模原市と連携し、発達障害や知的障害のある若者を対象としたインクルーシブな生涯学習プログラムの研究開発に取り組んでいます。

*9月~2月にかけて開催



ホームページ



卒業生・社会人の学びも支援します!

卒業後も待っています!

未来志向の女性に向けた リーダーシップ育成講座

本講座では、段階的な学びを通して、自分自身の魅力を再発見し、自分らしいリーダーシップスキルを身につけます。



ホームページ



Instagram



夢をかなえるセンター ～学生の皆さんが自由に使う

夢をかなえるセンターには、学生の皆さんが自由に使用できる学びのスペースが用意されています。個人の学習はもちろん、グループワークに必要な設備も整えられており、各種プログラムの自主学習に役立てることができます。大学生活をより充実したものにするために、積極的に活用してください。



夢をかなえるセンターはカフェテリアのある建物です。



1F

English Room



電子黒板や可動式の机・椅子が設置されていますので、自由な発想で主体的に学ぶことができ、グループワークなどに適したスペースです。

〈利用例〉・授業の空き時間に、「ユメカナ★カフェ」「キャリア☆カフェ」「プロジェクト活動」などに参加して他学科の学生や先輩・後輩等と交流を円しましょう。

〈開室時間〉平日9:00～18:00

1F

連携教育推進課前のスペース



ユメカナの情報発信拠点として、「Sagamiチャレンジプログラム」に関する情報を常時発信しています。また、大学では、教職員・学生・卒業生・地域や企業の方・外部講師など沢山の人が、アドバイザーとなって学生を支援しています。相談や質問など、気軽に来てくださいね。

〈利用例〉・地域での活動、開発した商品、留学した学生の様子などを要チェック！
・「こんな活動があったらいいな」「活動することに不安があります」等々、ちょっと聞いてみたい時や、じっくり相談したい時など。

〈開室時間〉平日9:00～17:00

2F

カフェテリア101&ティーラウンジ2002



飲食可能な学生食堂を、昼休み(12:10～13:00)を除き、ゆっくり過ごすことができるスペースとして開放しています。電子黒板や一部テーブルにはモニターが設置されていますので、自主学習スペースとしても有効に活用してください。

〈利用例〉・「Sagami チャレンジプログラム」活動報告書を書く
・パソコンを繋げてモニターを見ながら意見交換、個人での自主学習

〈開室時間〉平日9:00～19:00

4F

ガーデンホール



開放的な広いスペースに、可動式の机・椅子が設置されています。発表会・報告会・講演会など、複数の人との集まりや、沢山の方と係わる活動に適しています。

〈利用例〉・プロジェクト活動報告会
・人前で話して、プレゼンテーションスキルを磨く
・アドバイザーの講演を聴いて、知識を深める

〈開室時間〉平日9:00～18:00

ノートPC、電子黒板、活用してください！

センター内で使用できるノートPCの無料貸出しを行っています。また、センター内に設置している電子黒板やプリンター(用紙は各自で用意)も自由に利用できます。個人やプロジェクトミーティングなどの学びに活用してください。



ユメカナからのお知らせ配信

センター内の電子黒板を利用して、ユメカナからのお知らせを中心に、学内のイベントやコンテストについて告知しています。お昼を食べながらチェックしてください！また、告知したい情報があれば、ぜひご相談ください。

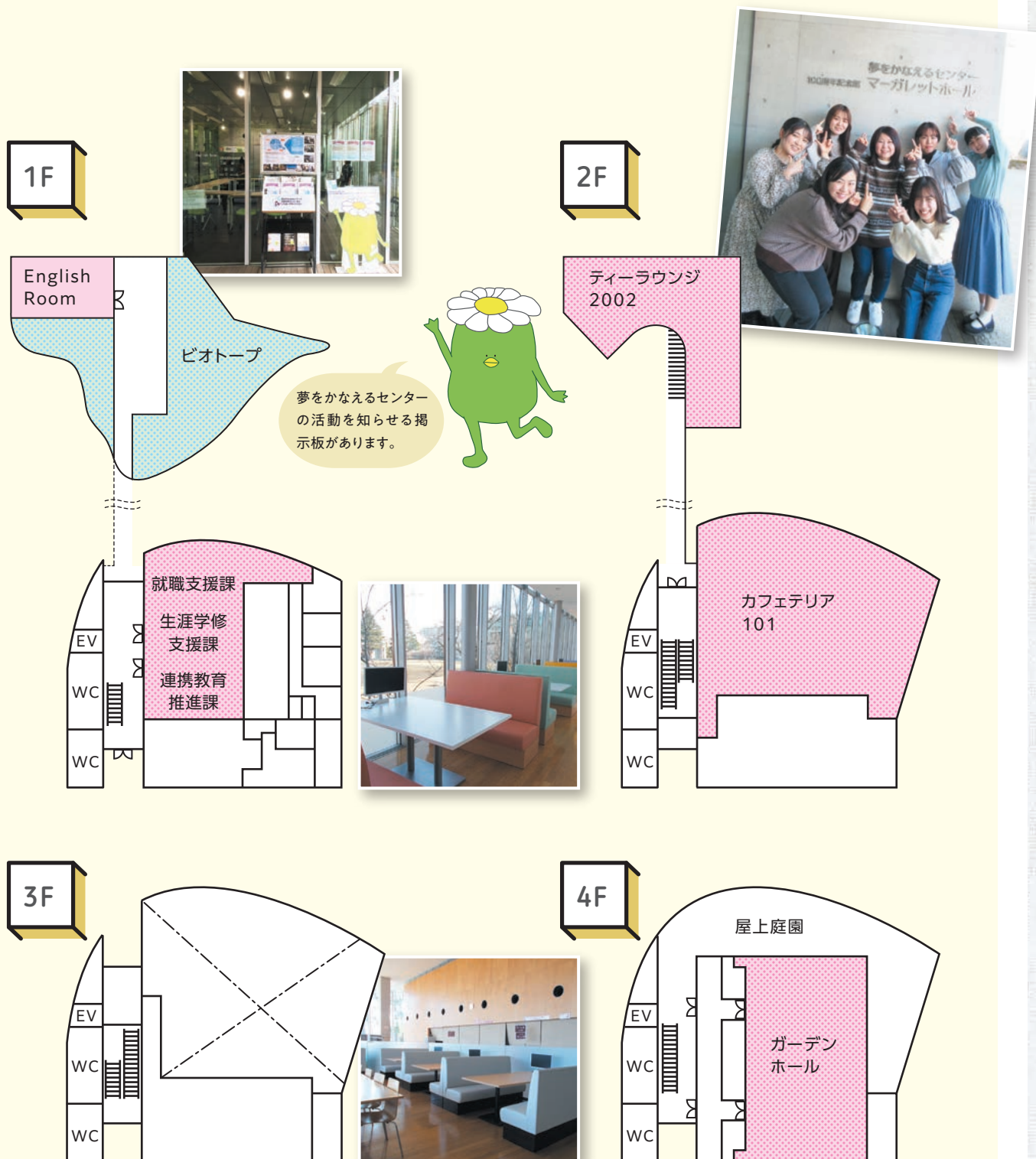


※施設使用、備品貸出しには手続きが必要です。詳しくは生涯学習支援課窓口まで。

ことができる学びのスペース～

フロアマップ

夢をかなえるセンターのフロアマップです。1階には学生・地域の皆さんを支援する「連携教育推進課」「生涯学修支援課」「就職支援課」の窓口があります。2階の食堂「カフェテリア101」「ティーラウンジ2002」や、4階の「ガーデンホール」、さらにビオトープ上にある「English Room」は学生の皆さんにも使用いただける施設です。





夢をかなえるセンター特設サイト

夢をかなえるセンターで行う社会貢献活動や
国際教育について、情報を発信しています。

<https://ymkn.sagami-wu.jp>



相模女子大学・相模女子大学短期大学部

〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL 042-742-1411(代表) / 小田急線相模大野駅下車徒歩10分

〈大学院〉栄養科学研究科 栄養科学専攻(博士前期課程・博士後期課程)・社会起業研究科 社会起業専攻(専門職学位課程) 〈大学〉[学芸学部]日本語日本文学科・英語文化コミュニケーション学科・子ども教育学科・メディア情報学科・生活デザイン学科 [人間社会学部]社会マネジメント学科・人間心理学科 [栄養科学部]健康栄養学科・管理栄養学科 〈短期大学部〉食物栄養学科

<https://www.sagami-wu.ac.jp/>



問合せ先

夢をかなえるセンター 連携教育推進課 社会連携推進室

TEL 042-813-5038 FAX 042-747-9599 renkei@mail2.sagami-wu.ac.jp

2024年4月発行



125th
Anniversary
since 1900

2024年度

「Sagami チャレンジプログラム」 シラバス



9期連続

地域貢献度ランキング
全国女子大

No.1

「活動に興味はあるけど、詳細や参加方法がわからない…」

「どこで活動の情報を入手できるの？」

「学内で活動する時に利用できる場所は？」

知りたいことがわかる「Sagamiチャレンジプログラム」徹底ガイドブックです。



「復興支援学生ボランティア委員会」の学生



相模女子大学・相模女子大学短期大学部
夢をかなえるセンター 連携教育推進課

本冊子の利用方法

「Sagami チャレンジプログラム」について知りたい

社会貢献活動や国際教育活動に興味があり、詳細について詳しく知りたい方におすすめの一冊です。本冊子では「Sagami チャレンジプログラム」のシラバスを掲載しています。シラバスとは、「Sagami チャレンジプログラム」において扱われる正課外活動の形態・目標・期間・計画などを活動の概要として示したものです。自分の気になる活動を見つけて、参加してみましょう。

〈シラバスの見方〉

オリジナル梅酒『翠想』 製造ボランティア

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	—	5月～9月の間に 3～5日間
活動フィールド	参加費の目安	
神奈川県・相模原	—	

活動計画

活動計画はおおよその目安となります。年度によっては、開催時期の変更や開催見合わせが生じる場合もありますので、連携教育推進課からのお知らせを確認してください。

参加費の目安

詳細は、募集説明会でご説明します。
気になる活動がある場合は、募集説明会に積極的に参加しましょう。

活動計画

募集説明会・事前学習
梅の実の収穫・仕込み
(生活デザイン学科のみ) ラベルデザイン考案
梅酒瓶詰め作業・販売

活動の概要

大学のキャンパスには梅の木が多くあり、5月には若々しい翠（みどり）の実をつけます。その梅の実が地元の久保田酒造（株）の「相模灘純米吟醸」に漬け込まれ、本学オリジナル梅酒『翠想』として販売されます。『翠想』の名前の由来は、梅の実の「翠」と、このキャンパスで学ぶ学生たちの「想い」を込めて「翠想（すいそう）」から名付けられました。梅酒の製造には、仕込みから瓶詰め、ラベル貼りまで携わることができます。また、ラベルが例年生活デザイン学科の学生が考案しています。

職員からのメッセージ

『翠想』は地域の方に強い人気があり、販売開始後数日で完売してしまうことがしばしばです。そんな地域の皆さんに愛される梅酒の製作に係わるボランティア活動にぜひご参加ください。

活動情報の収集方法や利用可能な設備について知りたい

夢をかなえるセンター 連携教育推進課前には、ラーニングコモンズがあります。そこでは、「Sagami チャレンジプログラム」の活動情報を収集することができ、更にはミーティングのスペースとしても利用可能な設備が整っています。積極的に活用してください。本冊子の P35 ～ 36 にて施設設備をご紹介します。

目 次

1. 「Sagami チャレンジプログラム」について知りたい		P.4 ～ P.7
2. 「Sagami チャレンジプログラム」 シラバス		P.8 ～ P.32
活動形態	活動名	ページ
ボランティア	オリジナル梅酒『翠想』 製造ボランティア/ノジマステラ試合運営ボランティア	8
ボランティア	相模原市ボランティア認定制度 / ポンパドウルレシピコンテスト	9
ボランティア	清川村特産品開発プロジェクト	10
体験活動	福島県本宮市 田植え・農家民泊体験 / 農作業・農家民泊体験	11
体験活動	福島県本宮市 稲刈り・農家民泊体験 / 秋祭り・農家民泊体験	12
体験活動	三重県熊野市 歴史巡りと丸山千枚田・田植え体験 / 稲刈り体験	13
体験活動	新潟県佐渡市 歴史的遺産巡りと伝統芸能体験 / 能楽体験	14
地域協働活動	長野県生坂村【夏季・春季】 / 群馬県富岡市【夏季・春季】	15
地域協働活動	群馬県沼田市【夏季・春季】 / 京都府和束町【夏季・春季】	16
プロジェクト活動	サガジョ盛り上げ隊プロジェクト	17
プロジェクト活動	丸山千枚田魅力発信プロジェクト	18
プロジェクト活動	もとみや SMILE プロジェクト	19
プロジェクト活動	「海外に子ども用車椅子を届けよう!」プロジェクト	20
プロジェクト活動	群馬県富岡市 おっきリンピック宣伝部	21
プロジェクト活動	福岡県糸島市 女性のはたらき方研究プロジェクト	22
プロジェクト活動	復興支援学生ボランティア委員会	23
プロジェクト活動	電子回路ペンプロジェクト	24
プロジェクト活動	佐渡プロジェクト	25
国際教育	【国際プログラム】 ビクトリア大学協定校留学 / マニトバ州立大学協定校留学	26
国際教育	【国際プログラム】 文藻外語大学交換留学 / ビクトリア大学英語研修	27
国際教育	【国際プログラム】 ソウル女子韓国語研修 / 文藻外語大学中国語研修	28
国際教育	【外国語・英語教育】 キャンパス留学 / TOEIC® IP テスト	29
国際教育	【異文化理解】 CEMLA ボランティア / 外国人訪問学生・交換留学生サポーター	30
その他	キャリア☆カフェ	31
その他	ユメカナ★カフェ	32
その他	神奈川産学チャレンジプログラム / 「Sagami チャレンジプログラム」 for kids プロジェクト	33
その他	資格取得	34
3. 利用可能なスペース・設備紹介		35 ～ 36
4. よくある質問		37

活動形態の定義

■ ボランティア

概 要	自らの意思に基づき主体的に参加する、社会貢献活動です。
参加単位	個人での参加が可能です。
活動期間	1日から数日の短期間のものや年間を通して長期間で行うものまで様々あります。

■ 体験活動

概 要	地域に赴き農作業や伝統芸能等の体験を行う、宿泊を伴う活動です。
参加単位	個人での参加が可能です。
活動期間	2～5日程度です。

■ 地域協働活動

概 要	指定されたプログラムを修了することにより、単位（1単位）を修得することができる活動です。なお、事前指導の受講・事後報告書の提出・報告会への参画が必須となります。
参加単位	個人での参加が可能です。
活動期間	夏季もしくは春季休業期間中に1週間程度、現地に滞在します。

■ プロジェクト活動

概 要	大学にプロジェクト設置の申請を行い、認められることで行うことができる活動です。同じ思いや目的を持って集まった学生が、地域や企業等と協働しながら、それぞれが目的の達成に向けて活動を行います。メンバーの募集やプロジェクトリーダーの選出等も学生自ら行い、学内外をフィールドとして年間を通して活動します。
参加単位	目的・目標をともにする仲間同士でプロジェクトを発足し、共に活動します。既存のプロジェクトに参加する場合は、個人での申込が可能です。
活動期間	プロジェクトにより様々です。

■ 国際教育活動

国際教育活動は、以下3つに分類されます。

国際プログラム	異文化理解、外国語・英語教育を海外というフィールドで行います。海外協定校への留学や語学研修プログラムが含まれます。
外国語・英語教育	国内で外国語・英語を学ぶプログラムです。世界の人々と意思疎通を図る能力を身につける活動です。
異文化理解	異文化との相互交流を通して、自分と異なる人や社会や文化などを理解し、お互いに尊重しながら共に生きていく姿勢を身につける活動です。

■ その他

「ボランティア」「体験活動」「地域協働活動」「プロジェクト活動」「国際教育活動」以外の活動

「Sagami チャレンジプログラム」 とは？

本学では、学園スローガン「見つめる人になる。見つける人になる。」のもと、「しなやかな発想力と豊かな包容力を身につけながら、未来を、社会を見つめ、道を、答えを見つける人になる。」そのような人材を育成することを教育目標に掲げています。「Sagami チャレンジプログラム」は、上記の教育目標に則り「キャリア形成支援ポリシー」のもと学生の「キャリア形成」を支援するプログラムです。

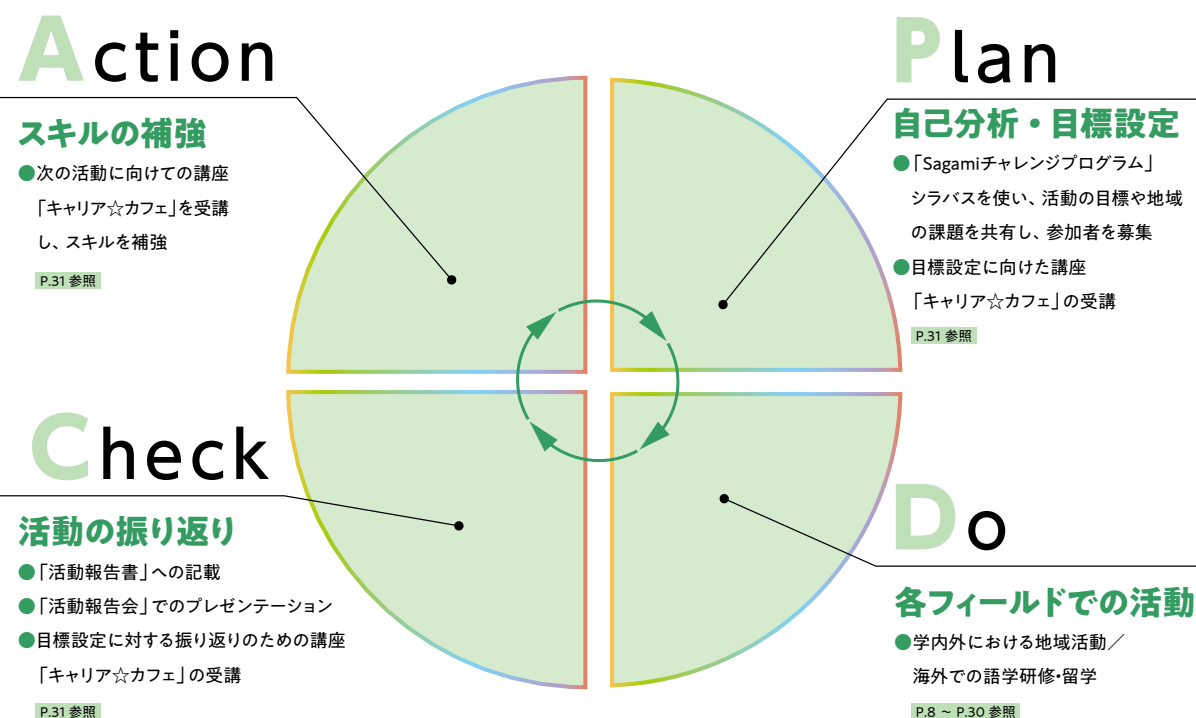
キャリア形成支援ポリシー

相模女子大学・相模女子大学短期大学部は、「社会との関わりの中で積み重ねる全ての経験を通して、社会と自分自身をしっかりと見つめ、自らの進む道を見つけ出し、人生を前向きに生きてゆくこと」を「キャリア形成」と位置付け、学生が、以下の力を身につけ、主体的に「キャリア形成」をするための「学びの場」を提供し、そこでの活動を支援します。

- ① 興味・関心を幅広く持ち、物事の本質を見つめ、筋道を立てて問題を解決する力。
- ② 社会との関わりにおける自分のありかたを考え、他者と柔軟なコミュニケーションをとり、協働できる力。
- ③ 「働くこと」の意義を理解し、自分らしい生き方を見つけ出し、プランニングできる力。

「Sagami チャレンジプログラム」における学びの仕組み 「マーガレットスタディ」

すべての学科・学年の学生を対象とした正課外活動における学びの仕組み「マーガレットスタディ」。それぞれの活動においてPDCAサイクルを回すことにより、目標の達成度を確認しながら自身の成長に気づき、弱点を補うことで次の活動につなげています。



積極的に利用しよう！

「Sagami チャレンジプログラム」 アドバイザー制度

教職員、卒業生、地域や企業の方、外部講師などが一丸となって学生を支援する制度です。

きめ細やかな支援

多様なバックグラウンドを持つ学内外様々な人がアドバイザーとなって学生が主体的に学ぶことができるよう支援します。



<支援してくださる地域の方々>

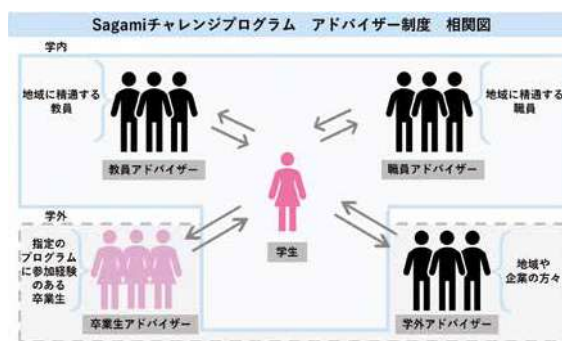
アドバイザーの役割

(例)

活動に対する指導や助言

「マーガレットスタディ」における、
各種講座の企画・運営・講話

地域の人脈を活かしながら、
関係各所と連携し、活動を企画・運営



<学生とアドバイザーの相関図>

卒業生アドバイザーからのメッセージ

学生時代に経験したことを共有し、
在学生に充実した活動を行ってほしい

福岡県糸島市 女性のはたらき方研究プロジェクト
管理栄養学科 2020 年度卒業 深澤 多絵



①「Sagami チャレンジプログラム」への参加のきっかけ

多様な働き方・生き方をする方々と関わりを持ち、自分自身のキャリア形成の軸となるものを得たことと、学年や学科を超えた繋がりが欲しかったことから、活動に参加しました。

②卒業生アドバイザーに登録した理由

実際に活動に参加したからこそ感じたこと、経験したことを後輩に共有することにより、学生の活動がより充実したものになれば嬉しいと思い、登録しました。また、社会人として経験したことを後輩に何か伝えられるのではないかと考えたのも登録した理由の1つです。

③在学生へのメッセージ

活動に参加したことにより、コミュニケーション能力はもちろん、その経験で得た価値観や物事への考え方が、社会人になって活きていると感じます。また、活動で出会った糸島の地域の方々とは今でも繋がりがあります。このような出会いは一生涯ものです。ぜひ皆さんも「Sagami チャレンジプログラム」に参加してみてください。

積極的に利用しよう！

「Sagami チャレンジプログラム」 活動情報の入手方法

活動の様子や参加者募集に関する情報は、様々なツールを利用して発信しています。

活動への参加を希望する方、活動に興味がある方は要チェックです！

1 SmileSagami のお知らせ配信

募集説明会などの情報は、SmileSagami のお知らせ配信をチェック！件名に、★ユメカナ★とつけて各活動の募集説明会のお知らせなどを行っています。 <https://sagamistyle.sagami-wu.ac.jp>



2 「Sagami チャレンジプログラム」 専用掲示板

下記場所にて募集中の活動や募集説明会に関するチラシを掲載しています。

- 連携教育推進課窓口前
- EnglishRoom
- カフェテリア 101 入口
- 7 号館入口



3 夢をかなえるセンター特設サイト

夢をかなえるセンター特設サイトでは、「Sagami チャレンジプログラム」に関する情報や活動に参加する学生からのお知らせ、活動報告等を掲載しています。

<https://ymkn.sagami-wu.jp>



▲特設サイト

4 連携教育推進課 SNS 公式アカウント



▲ X



▲ Instagram



▲ YouTube

フォトコンテスト

連携教育推進課 Instagram アカウントでプロジェクト活動を対象としたフォトコンテストを実施しました。

最いいね!を獲得した「復興支援学生ボランティア委員会」に当冊子の表紙を飾っていただきました！

「Sagami チャレンジプログラム」 活動への参加方法

上記①②の情報発信ツールから募集説明会の情報を GET

募集説明会に参加

申込み

活動への参加♪



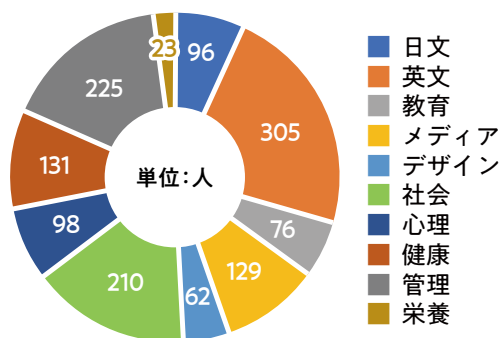
2023 年度「Sagami チャレンジプログラム」活動実績

「Sagami チャレンジプログラム」の活動には、本学の大学または短期大学部に在籍している学生であれば、学年・学科問わず誰でも参加することができます。友人同士はもちろん1人で参加する学生も多く、参加した学生からは「学科・学年を越えて新しい友人ができた!」「社会人との交流が増え、ビジネスマナーが身についた」などの意見が多く寄せられていますので、安心して参加してくださいね。皆さんのチャレンジをお待ちしています!

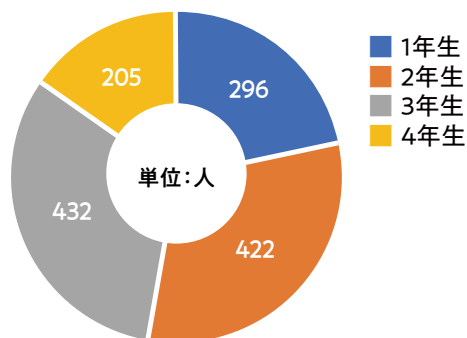


延べ参加人数：1,355 名

学科別

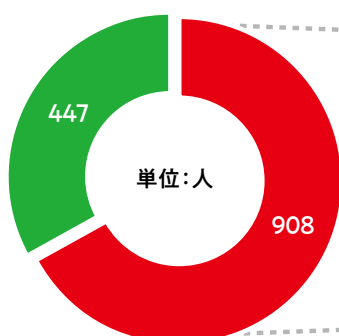


学年別



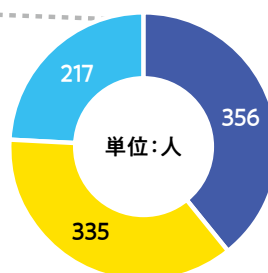
マーガレットスタディ 分類別

Plan, Check, Action
Do



Do 活動場所別

学内
神奈川県
その他地域



Doの活動場所を細分化

※上記表内のその他地域とは

福島県、三重県、新潟県、長野県、岩手県、福岡県、群馬県、東京都、国際プログラムを含みます

オリジナル梅酒『翠想』 製造ボランティア

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	—	5月～9月の間に 3～5日間
活動フィールド	参加費の目安	
神奈川県・相模原	—	



活動の到達目標

大学にある梅の木から梅の実を収穫し、地元の酒蔵である久保田酒造（株）と連携してオリジナル梅酒『翠想』を製造します。事前学習として相模女子大学と久保田酒造（株）の連携事業のきっかけや、地元の酒蔵が抱える課題についても学ぶことができます。そのうえで実際に梅の実の収穫・梅酒の仕込み作業や瓶詰め作業、販売までに携わり、地元産業への理解を深めます。

活動計画

4月	募集説明会・事前学習
5～6月	梅の実の収穫・仕込み
7月	（生活デザイン学科のみ）ラベルデザイン考案
9月	梅酒瓶詰め作業・販売

活動の概要

本学のキャンパスには梅の木が多くあり、5月には若々しい翠（みどり）の実をつけます。その梅の実が地元の久保田酒造（株）の「相模灘純米吟醸」に漬け込まれ、本学オリジナル梅酒『翠想』として販売されます。『翠想』の名前の由来は、梅の実の「翠」と、このキャンパスで学ぶ学生たちの「想い」を込めて「翠想（すいそう）」から名付けられました。梅酒の製造には、仕込みから瓶詰め、ラベル貼りまで携わることができます。また、ラベルは例年生活デザイン学科の学生が考案しています。

職員からのメッセージ

『翠想』は地域の方に根強い人気があり、販売開始後数日で完売してしまうことがしばしばです。そんな地域の皆さんに愛される梅酒の製作に関わるボランティア活動にぜひご参加ください。

ノジマステラ試合運営ボランティア

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	—	都度参加
活動フィールド	参加費の目安	
神奈川県・相模原市	—	



活動の到達目標

相模原市内にある、相模原ギオンスタジアムを主な活動フィールドとして試合運営のボランティアを行います。ボランティアには相模女子大学の学生だけではなく、様々な年齢・職業の方が参加します。様々な人とコミュニケーションを取りながら地域や社会、スポーツ振興に貢献することで自分の視野を広げ、自身を見つめ直すきっかけとします。

活動計画

4月	2023-24 シーズン募集説明会
4～6月	（都度）試合運営ボランティア
9月	2024-25 シーズン募集説明会
10～6月	（都度）試合運営ボランティア

活動の概要

女子プロサッカーチーム「ノジマステラ神奈川相模原」のホームゲームにおける運営ボランティアスタッフとして年間を通じて活動します。来場者の受付や誘導、グッズ販売等の運営を補助し、チームの勝利に貢献することができます。

職員からのメッセージ

相模原市のサッカーチームとの活動です。初めて社会貢献活動へ挑戦してみたい、と考えている方も気軽に挑戦できるボランティア活動ですので、新たなことへ挑戦してみたい方、積極的になりたい方、ぜひご参加ください。

相模原市ボランティア認定制度

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	－	1年間
活動フィールド	参加費の目安	
神奈川県・相模原市 ほか	－	



活動の到達目標
相模原市内を中心とした地域の様々な問題、課題について向き合い、社会の一員として主体的に行動することのきっかけとします。また、認定の対象となるためにはボランティア活動を継続的に行う必要があります。積極的に社会貢献活動に参加し、またその活動を継続する力を身につけます。

活動計画	
6 月	エントリー
6 月～3 月	ボランティアに参加
12 月	活動レポート・報告書を提出
3 月	認定証贈呈式

活動の概要
相模原市が認定する市民協働事業のボランティア活動、もしくは夢をかなえるセンターが提供する社会貢献活動等に参加し、一定の活動時間と活動内容が認められた後、相模原市長から地域に貢献した証として認定書が贈られます。 おもな活動事例：森林活用モデル検討事業、人と猫の共生社会支援事業など。

職員からのメッセージ
相模原市内を中心とした地域の様々な課題に向き合い、ボランティア活動を行います。活動日数・活動時間によって授与される認定証も学士、修士、博士と種類が変わります。ぜひ、博士の認定証を目指して積極的にご参加ください。

ポンパドウルレシピコンテスト

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	－	最長10ヶ月 (実際の活動期間は 2ヶ月程度)
活動フィールド	参加費の目安	
町田市・相模原市	－	



活動の到達目標
(株) 東京ポンパドウルについて企業研究を行った上で、テーマに沿ったオリジナルパンのレシピを考案することにより、主体性・行動力を身に付けます。また、自分のアイデアを形あるものとして表現し、それを他者へ正確に伝える力を身に付けることも目標とします。

活動計画	
6 月	募集説明会
6 ～ 8 月	レシピ募集
10 月	結果通知
11・3 月	商品化および販売

活動の概要
2015年度より(株)東京ポンパドウルとの産学連携活動として開催している本レシピコンテストは、学生考案のオリジナルパンのレシピを募集・商品化する取組みを行っています。応募作品は(株)東京ポンパドウルにより審査され、採用となったレシピは商品化され、相生祭やポンパドウル町田店等にて販売されます。

職員からのメッセージ
テレビ番組でも取り上げられる有名店「ポンパドウル」にて、自らが考案したレシピを審査していただける機会は滅多にありません。応募作品数に上限はありませんので、思い付き限りのレシピを応募してみてください。皆様のご応募をお待ちしています。

清川村特産品開発プロジェクト

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	15 名	1 年間
活動フィールド	参加費の目安	
清川村	—	



活動の到達目標
清川村のお茶を活用した特産品開発を行います。地域の課題を理解した上で、清川村役場や村内の協力店舗など様々の方と協力しながら、試作を重ね清川村の特産品開発を進めていただきます。この活動を通して、学年や学科が異なるメンバーと協力し課題を解決する力を磨きます。

活動計画	
4～5月	募集説明会
7～12月	レシピ試作等、活動への参加
2月	試作品の販売

活動の概要
神奈川県唯一の村である清川村を舞台に、清川村の特産品である清川茶を使用した特産品開発を行います。レシピ試作は月 1 回程度、清川村の調理室または大学内の調理室で行います。完成した試作品を村内の協力店舗で販売することを目標として活動します。

職員からのメッセージ
清川村役場や村内の協力店舗の方々にサポートいただきながら活動できるので、社会貢献活動が初めての方も安心です。栄養系に限らず幅広い学科の学生が活動しています。



福島県本宮市 田植え・農家民泊体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	20名	2日間
活動フィールド	参加費の目安	
福島県本宮市	6,500円	



活動の到達目標
福島県のほぼ中央に位置し、古くから交通の要衝であったことから「福島へのそのまち」と言われている本宮市を訪問し、田植えや農家民泊などを体験します。地域の方々と交流し、多様な考え方や生き方を学ぶことで自分の視野を広げ、自身を見つめ直すきっかけとします。

活動計画	
4 月	募集説明会
5 月	参加者対象説明会
5 月	現地訪問

活動の概要
福島県本宮市を1泊2日で訪問し、田植え体験や大学専用農地「マーガレットファーム」での農作業体験や農家民泊への宿泊を通して地域の方々と交流深め、地域の暮らしや生き方を学びます。

職員からのメッセージ
田植えや農家民泊など、普段の大学生活ではできないことを体験することで、自分の考え方や価値観に変化が出てきます。課外活動に参加したことのない学生にも参加しやすい内容となっています。

福島県本宮市 農作業・農家民泊体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	20名	2日間
活動フィールド	参加費の目安	
福島県本宮市	6,500円	



活動の到達目標
福島県のほぼ中央に位置し、古くから交通の要衝であったことから「福島へのそのまち」と言われている本宮市を訪問し、農作業や農家民泊などを体験します。地域の方々と交流し、多様な考え方や生き方を学ぶことで自分の視野を広げ、自身を見つめ直すきっかけとします。

活動計画	
5 月	募集説明会
6 月	参加者対象説明会
7 月	現地訪問

活動の概要
福島県本宮市を1泊2日で訪問し、大学専用農地「マーガレットファーム」での農作業体験や農家民泊への宿泊を通して地域の方々と交流深め、地域の暮らしや生き方を学びます。

職員からのメッセージ
農作業や農家民泊など、普段の大学生活ではできないことを体験することで、自分の考え方や価値観に変化が出てきます。課外活動に参加したことのない学生にも参加しやすい内容となっています。

福島県本宮市 稲刈り・農家民泊体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	20 名	2 日間
活動フィールド	参加費の目安	
福島県本宮市	6,500 円	



活動の到達目標
福島県のほぼ中央に位置し、古くから交通の要衝であったことから「福島へのそのまち」と言われている本宮市を訪問し、稲刈りや農家民泊などを体験します。地域の方々と交流し、多様な考え方や生き方を学ぶことで自分の視野を広げ、自身を見つめ直すきっかけとします。

活動計画	
7 月	募集説明会
9 月	参加者対象説明会
10 月	現地訪問

活動の概要
福島県本宮市を 1 泊 2 日で訪問し、稲刈り体験や大学専用農地「マーガレットファーム」での農作業体験、農家民宿への宿泊を通して地域の方々と交流深め、地域の暮らしや生き方を学びます。

職員からのメッセージ
稲刈りや農家民泊など、普段の大学生活ではできないことを体験することで、自分の考え方や価値観に変化が出てきます。特に、田植えに参加した学生は、自分が植えた苗を収穫する機会にもなっています。

福島県本宮市 秋祭り・農家民泊体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	20 名	3 日間
活動フィールド	参加費の目安	
福島県本宮市	6,500 円	



活動の到達目標
福島県のほぼ中央に位置し、古くから交通の要衝であったことから「福島へのそのまち」と言われている本宮市を訪問し、地域の祭りや農家民泊などを体験します。地域の方々と交流し、多様な考え方や生き方を学ぶことで自分の視野を広げ、自身を見つめ直すきっかけとします。

活動計画	
9 月	募集説明会
10 月	参加対象者説明会
10 月	現地訪問

活動の概要
福島県本宮市を 2 泊 3 日で訪問し、本宮市伝統の秋祭りに参加します。お揃いの化粧と法被を纏い女性しか担げない「真結女御輿」で地元の方々と一緒に祭りを盛り上げます。 また農作業体験や農家民宿への宿泊を通して地域の方々と交流深め、地域の暮らしや生き方を学びます。

職員からのメッセージ
御輿担ぎや農家民泊など、普段の大学生活ではできないことを体験することで、自分の考え方や価値観に変化が出てきます。

三重県熊野市 歴史巡りと丸山千枚田・田植え体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	30 名	3 日間
活動フィールド	参加費の目安	
三重県熊野市	11,000 円	



活動の到達目標
日本の偉大なる遺産の宝庫・三重県熊野市を訪問し、歴史的遺産等を巡り熊野市がなぜ日本の聖地とされているかを探ります。また、日本最大規模の棚田・丸山千枚田では、昔ながらの手法による手作業で田植えを行います。日常では経験することができない貴重な体験を通じて、日本の歴史や農耕文化について理解を深めます。

活動計画	
4 月	募集説明会
5 月	参加者対象説明会
5 月	現地訪問

活動の概要
熊野市の遺産等を巡り、丸山千枚田で手作業による田植えを体験します。この活動は、2008 年に農林水産省が主催する「田舎で働き隊」に 30 名の本学生が参加したことがきっかけで始まり、全国で初めて女子大生が参加するということで注目を集めました。地域の方々との協働により交流を深め、地域の暮らしや生き方を学びます。

職員からのメッセージ
2008 年から継続的に行っている、本学の学生活動を代表する取り組みです。活動の導入として初心者でも参加しやすい内容となっています。

三重県熊野市 歴史巡りと丸山千枚田・稲刈り体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	30 名	3 日間
活動フィールド	参加費の目安	
三重県熊野市	11,000 円	



活動の到達目標
日本の偉大なる遺産の宝庫・三重県熊野市を訪問し、歴史的遺産等を巡り熊野市がなぜ日本の聖地とされているかを探ります。また、日本最大規模の棚田・丸山千枚田では、昔ながらの手法による手作業で稲刈りを行います。日常では経験することができない貴重な体験を通じて、日本の歴史や農耕文化について理解を深めます。

活動計画	
7 月	募集説明会
8 月	参加者対象説明会
9 月	現地訪問

活動の概要
熊野市の遺産等を巡り、丸山千枚田で手作業による稲刈りを体験します。この活動は、2008 年に農林水産省が主催する「田舎で働き隊」に 30 名の本学生が参加したことがきっかけで始まり、全国で初めて女子大生が参加するということで注目を集めました。地域の方々との協働により交流を深め、地域の暮らしや生き方を学びます。

職員からのメッセージ
2008 年から継続的に行っている、本学の学生活動を代表する取り組みです。活動の導入として初心者でも参加しやすい内容となっています。

新潟県佐渡市 歴史的遺産巡りと伝統芸能体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	10 名程度	5 日間
活動フィールド	参加費の目安	
新潟県佐渡市	18,000 円	

活動の到達目標

広大な自然の中で展開された歴史や文化などが多様に織りなす新潟県佐渡市を訪問し、佐渡市がなぜ「日本の縮図」と言われているかを探ります。また、佐渡島内で現在も集落ごとに伝承されている伝統芸能（鬼太鼓など）を地域の方から教わります。豊かな自然の中で育った農水産物を頂いたり、歴史的遺産を巡ったりするなど地域社会を様々な角度から学び、日本の歴史や伝統文化について理解を深めます。

活動の概要

新潟県佐渡市を 4 泊 5 日で訪問し、高千地区内の集落に学生を 2 名程度ずつ受け入れていただき、各集落に伝承されている伝統芸能（鬼太鼓など）を教わります。教わった芸能を、「夏の彩典 たかち芸能祭」で島民や帰省客・観光客に披露します。
芸能体験を通して地域の方々との交流を深め、地域の暮らしや生き方を学びます。



活動計画

5 月	募集説明会
6～7 月	参加者対象
8 月	現地訪問
10 月	振り返り
11 月	相生祭での鬼太鼓披露（一部集落のみ）

職員からのメッセージ

活動期間中は公民館に泊まり込み、炊事や掃除などを協力して行います。地域の方との交流はもちろん、現地での共同生活を通して参加者同士の交流も深められます。主体的に参加することで学ぶ機会を多く得ることができます。ハードルが高いと思われがちな伝統芸能体験ですが親切・丁寧にご指導いただけるので、興味や関心がある方はぜひ挑戦してください！

新潟県佐渡市 歴史的遺産巡りと能楽体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	5 名	5 日間
活動フィールド	参加費の目安	
新潟県佐渡市	7,000 円	

活動の到達目標

広大な自然の中で展開された歴史や文化などが多様に織りなす新潟県佐渡市を訪問し、佐渡市がなぜ「日本の縮図」と言われているかを探ります。また、佐渡島内で現在も大衆に愛されている能楽を地域の方から教わります。豊かな自然の中で育った農水産物を頂いたり、歴史的遺産を巡ったりするなど地域社会を様々な角度から学び、日本の歴史や伝統文化について理解を深めます。

活動の概要

新潟県佐渡市を 4 泊 5 日で訪問し、地域の能楽団体「羽茂昭誼会」の方に能楽を教わり、草刈神社の「乙祭」の前座で仕舞を披露します。事前に能楽のお稽古を行いますので、能楽未経験学生も参加可能です。能楽や佐渡の民謡「佐渡おけさ」体験を通して地域の方々との交流を深め、地域の暮らしや生き方を学びます。



活動計画

5 月	募集説明会
6～9 月	参加説明会及び事前お稽古
9 月	現地訪問
10 月	振り返り

職員からのメッセージ

活動期間中はコテージタイプの宿舎に泊まり込み、炊事や掃除などを協力して行います。地域の方との交流はもちろん、現地での共同生活を通して参加者同士の交流も深められます。主体的に参加することで学ぶ機会を多く得ることができます。ハードルが高いと思われがちな能楽ですが親切・丁寧にご指導いただけるので、興味や関心がある方はぜひ挑戦してください！

長野県生坂村【夏季・春季】

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	5名	2ヶ月 (滞在期間は1週間)
活動フィールド	参加費の目安	
長野県生坂村	未定	



活動の到達目標
地域の人々と交流し、多様な考え方、生き方を学び、社会・対人間関係力、自己成長及び他者貢献を継続・向上させる力、ファシリテーション力、課題解決に対する行動力を身に付け、今後の社会活動に活かす素養を得ることを目標とします。

活動計画	
7・12月	募集説明会
8・2月	事前学習講座
9・3月	現地訪問
9・3月	事後学習講座・報告会

活動の概要
長野県生坂村に1週間ほど滞在します。農業体験を中心としたプログラムで、地域の農産物・温泉を活用した新商品開発や物産品の販売方法などを提案します。

職員からのメッセージ
夏季・春季休業期間を利用して行う活動です。自然豊かな生坂村での活動は、参加時期によってプログラムが自然の変化なども楽しめます。味噌づくり、おやきづくり、蕎麦打ち体験など盛りだくさんのプログラムです。

群馬県富岡市【夏季・春季】

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	5名	2ヶ月 (滞在期間は1週間)
活動フィールド	参加費の目安	
群馬県富岡市	未定	



活動の到達目標
地域の人々と交流し、多様な考え方、生き方を学び、社会・対人間関係力、自己成長及び他者貢献を継続・向上させる力、ファシリテーション力、課題解決に対する行動力を身に付け、今後の社会活動に活かす素養を得ることを目標とします。

活動計画	
7・12月	募集説明会
8・2月	事前学習講座
9・3月	現地訪問
9・3月	事後学習講座・報告会

活動の概要
群馬県富岡市には、煮込み麺を使った郷土料理「おっきりこみ」があります。地元の農産物の活用することで消費拡大に貢献し、「おっきりこみ」をさらに家庭の味としてPRしていきます。その他、現地での滞在中は「富岡製糸場」など富岡市の農文化とその歴史、自然を学び、都会からどのように観光客を誘致できるかなど、提案をしていきます。

職員からのメッセージ
夏季・春季休業期間を利用して行う活動です。世界文化遺産の町、富岡市の歴史と文化を学ぶことができます。地元の方々との交流や郷土料理「おっきりこみ」のPRなど観光客誘致の課題解決にも取り組みます。

群馬県沼田市【夏季・春季】

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	5名	2ヶ月 (滞在期間は1週間)
活動フィールド	参加費の目安	
群馬県沼田市	未定	



活動の到達目標
地域の人々と交流し、多様な考え方、生き方を学び、社会・対人関係力、自己成長及び他者貢献を継続・向上させる力、ファシリテーション力、課題解決に対する行動力を身に付け、今後の社会活動に活かす素養を得ることを目標とします。

活動計画	
7・12月	募集説明会
8・2月	事前学習講座
9・3月	現地訪問
9・3月	事後学習講座・報告会

活動の概要
群馬県沼田市に1週間ほど滞在します。観光農園・古民家を活用した農泊(ホームステイ)や現地の農作物を利用した料理作りなどを通して、観光活性化策を提案します。

職員からのメッセージ
夏季・春季休業期間を利用して行う活動です。日本有数の温泉地での活動では、観光資源の実体験や農業体験、市場体験、農泊体験など、このほかにも沢山のプログラムが用意されています。

京都府和束町【夏季・春季】

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	5名	2ヶ月 (滞在期間は1週間)
活動フィールド	参加費の目安	
京都府和束町	未定	



活動の到達目標
地域の人々と交流し、多様な考え方、生き方を学び、社会・対人関係力、自己成長及び他者貢献を継続・向上させる力、ファシリテーション力、課題解決に対する行動力を身に付け、今後の社会活動に活かす素養を得ることを目標とします。

活動計画	
7・12月	募集説明会
8・2月	事前学習講座
9・3月	現地訪問
9・3月	事後学習講座・報告会

活動の概要
京都府和束町に1週間ほど滞在します。茶畑での収穫作業を中心に加工工場での補助作業等を通して、お茶の作法や歴史・文化も学び、地域の魅力の掘り起こしや活性化に繋がる提案などを行います。

職員からのメッセージ
夏季・春季休業期間を利用して行う活動です。和束町は「宇治茶」の生産量が日本一の町です。ここでの活動は、お茶の収穫や歴史を学ぶとともに、和束カフェの運営や美味しいお茶の飲み方など地域との交流も楽しみの一つです。

サガジョ盛り上げ隊プロジェクト

活動の到達目標

「相模女子大学をさらに好きになってほしい、より多くの人に知ってもらいたい」という目標を掲げ、「Sagami チャレンジプログラム」を中心とした広報活動を行います。

目標達成に向け様々な活動に取り組む中で、主体性・発信力を身につけていきます。企画を一つ一つこなすことで、協働力を向上させ、自分自身の成長にもつながります。

活動の概要

サガジョ盛り上げ隊とは、『大学を私たちの手で盛り上げていきたい!』という想いのもと、発足したプロジェクトです。広報プランを主体的に立案し、「Sagami チャレンジプログラム」や大学にまつわるニュース記事、映像などのコンテンツ制作、SNS 運用などを行います。加えて、オープンキャンパスで受験生向けの「Sagami チャレンジプログラム」活動紹介や、社会貢献活動・国際教育コーナーにて開催するイベント企画・運営等、社会人としても必要されるコミュニケーション力や発信力を身に付けながら、活動を進めていくことができます。

活動計画

4 月	入学式登壇・募集説明会
5～8 月	歴史マッププロジェクト 企画・準備
9 月	オープンキャンパスで歴史マップイベント実施・学生考案オリジナルノベルティ配布
11 月	相生祭で「サガジョ歴史ツアー」開催
12～2 月	次年度の活動計画の立案

＊ 2023 年度の実績です。



● Instagram
運用中のアカウントは、
こちらの二次元コードより
ご覧ください。

プロジェクト学生からのメッセージ

今の自分に満足していますか？

もし何か挑戦してみたいという気持ちが少しでもあったら、是非サガジョ盛り上げ隊プロジェクトに入り、自分の可能性を広げてみませんか？

サガジョ盛り上げ隊プロジェクトは、新しい仲間をつくり、人との繋がりの大切さを学び、楽しい思い出を作り、大変なこともあるけれど職員の方も含め皆で一緒に乗り越えていくプロジェクトです。

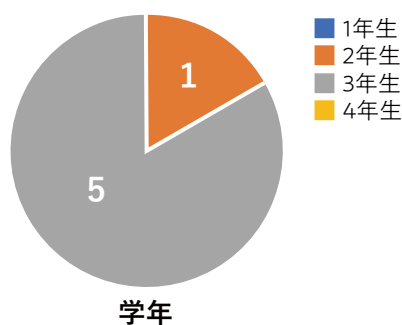
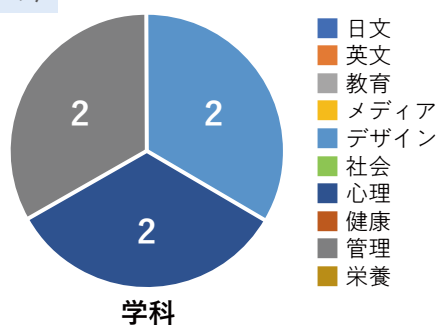
あなたは思っている以上に沢山のパワーを持っていることを忘れないで下さい！

より成長できる自分に、より成長できる相模女子大学にしていましょう！新しい冒険の始まりです！

〈活動の様子〉



〈所属学生のデータ〉



単位：人

＊ 2023年度の実績です。

丸山千枚田魅力発信プロジェクト

活動の到達目標

三重県熊野市にある棚田・丸山千枚田の保存活動に参画し「丸山千枚田を守る会」の会員を増やすことを目標としています。目標達成のために、多くの方へ丸山千枚田の情報を発信する活動を行います。この活動を通して、他者に思いを伝える「発信力」を、メンバーとともに楽しみながら養っていただきたいと思います。

活動の概要

日本の農耕文化を代々継承することで守られてきた丸山千枚田ですが、地域の過疎化や高齢化により、農業の担い手不足だけでなく、下支えるオーナーや守る会会員の減少が課題となっています。私たちはそんな丸山千枚田の課題と向き合い魅力を発信する活動を行なっています。活動の場所は学内のみならず、実際に現地を訪問し地域の方々とともに農作業を行う等、貴重な体験をしています。

活動計画

5月	田植え体験
9月	稲刈りインターンシップ（1週間程度現地滞在）
11月	相生祭での活動PRなど
2月	畦そりインターンシップ（1週間程度現地滞在）
3月	都内アンテナショップにてPR活動

* 2023年度の実績です。

上記以外にも適宜PR活動を行うことがあります。



● Instagram
運用中のアカウントは、
こちらの二次元コードより
ご覧ください。

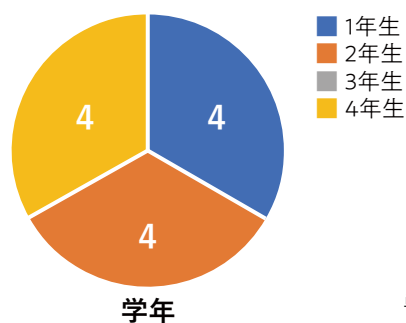
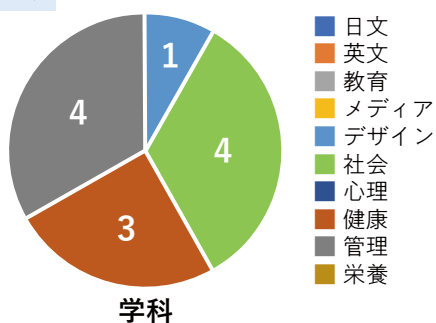
プロジェクト学生からのメッセージ

活動を通じて、実際に現地を訪問しなければわからない人の温かさや、綺麗な景観の裏側を知ったりすることができます。学部学科問わず様々な学生が在籍している為多種多様なアイデアが生まれ、助け合いながら活動をしています。農作業をしてみたい方、現地の方と交流してみたい方、PR活動をしてみたい方是非一緒に活動をしましょう！皆様のご参加をお待ちしています！

〈活動の様子〉



〈所属学生のデータ〉



単位：人

* 2023年度の実績です。

もとみや SMILE プロジェクト

活動の到達目標

本宮市とプロジェクトメンバーで1年間の活動計画を決定します。主に地域が抱える課題の解決策や地域イベント、コラボ商品開発、地域連携フェア（物産展）の開催など本宮市と連携し地域の活性化や学生個々のスキルアップを目指します。

活動の概要

相模女子大学と福島県本宮市は地域協働活動事業に係る協定を締結しています。その中で「もとみや SMILE プロジェクト」は東日本大震災や台風 19 号で被災した市民の皆さんをもっと笑顔に、もっと元気になりたい!という想いを持つ有志の学生が集まったプロジェクトです。年間を通して様々な活動やイベントに参加し本宮市の PR をしています。



● Instagram
運用中のアカウントは、
こちらの二次元コードよりご覧ください。

活動計画

5 月	本宮市訪問①（田植えや放射能についての学習）
7 月	本宮市訪問②（野菜の収穫や放射能についての学習）
8～9 月	今後の活動についての打合せ
10 月	本宮市訪問③（稲刈りや放射能についての学習）
10 月	本宮市訪問④（もとみや秋祭りへの参加や農作業）
11 月	相生祭の地域物産展への参加
11 月	相模原市農業まつりでの販売補助
11 月	福島県と安達地方の観光物産展（浅草寺）での販売補助
1～2 月	今後の活動についての打合せ
時期未定	マーガレットカフェ （開催に向けたレシピ試作、現地での試作会（本宮市訪問⑤）、カフェ当日（本宮市訪問⑥）など）

＊ 2023 年度の実績です。

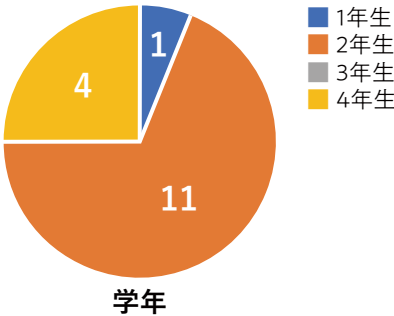
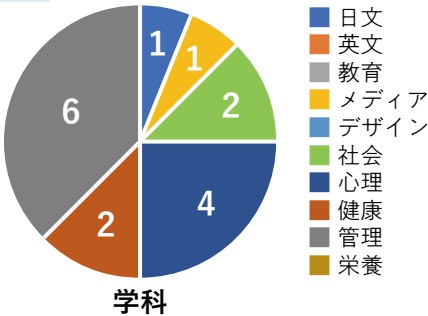
プロジェクト学生からのメッセージ

2023 年度は 4 回の本宮訪問に加え、首都圏で開催された物産展で本宮の特産物の PR を 3 回行いました。コロナ前の活動に戻しつつ、更なる活性化を目指すため、新たな取り組みも実施しており、活動の幅が広がると共に、本宮の方に直接お会いできる機会が増えています。私たちと一緒に、本宮の美味しい食材や本宮市の方のあたたかさに触れ、その良さを広げていきましょう！学生生活を彩る思い出になってくれるはずです！

〈活動の様子〉



〈所属学生のデータ〉



単位：人
＊ 2023年度の実績です。

「海外に子ども用車椅子を届けよう！」プロジェクト

活動の到達目標

「ARIGATO」を実現するため、私たちができる限りの活動を行います。車椅子は送るだけでなく、車椅子を日本で使っていた方々の思いを伝えられるように、私たちが実際に修理し現地に訪問し直接手渡しします。また、海外だけでなく、地域活動のイベントやお祭りなどにも参加し、地域の方々からの支援をいただくとともに、活動のPRを行っています。

活動の概要

東日本大震災でタイからの支援に対する日本の「ARIGATO」を車椅子にのせて届けよう！とスタートしたプロジェクトです。海外では、貧困のために沢山の障害児が車椅子もなく不自由な生活を送っています。日本国内において子どもの成長により不要になった車椅子を修理し、ミャンマー、ラオス、マレーシアなどにこれまで寄贈してきました。今後子ども達と触れ合うことを大切に、NPO 法人「海外に子ども用車椅子を送る会」のサポートをしながら沢山の「ARIGATO」を伝えていきます。

活動計画

4月	新メンバー加入
8月	「もんじえ祭り」への参加
9月	「つながりマルシェ」への参加
11月	相生祭の出店出展 「日光国立公園マウンテンランニング大会」のボランティア活動
1月	日光の「天然氷の切り出し」のボランティア活動
3月	海外（タイ）でのボランティア活動

* 2023年度の実績です。



● Instagram
運用中のアカウントは、
こちらの二次元コードより
ご覧ください。

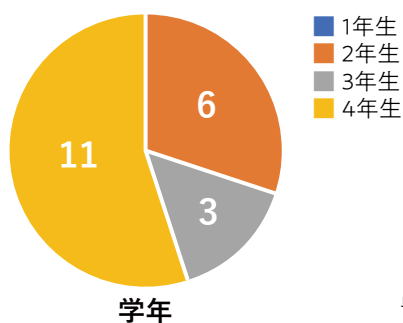
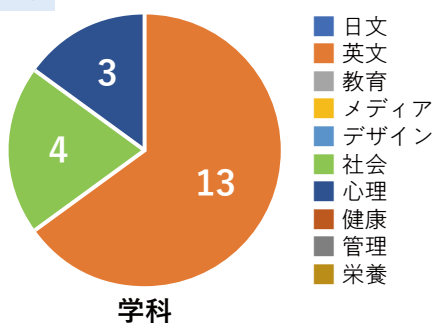
プロジェクト学生からのメッセージ

「興味はあるけどよく分からない、不安だな」という学生さんが多いと思います。質問なども受け付けていますので活動内容が気になる方は遠慮なくお声がけください。一緒に楽しみながら活動していきましょう！

〈活動の様子〉



〈所属学生のデータ〉



単位：人

* 2023年度の実績です。

群馬県富岡市 おっきりリンピック宣伝部

活動の到達目標

群馬県富岡市の郷土料理である「おっきりこみ（上州風煮込みうどん）」を調理・販売することで、富岡市や相生祭に貢献することを目指します。さらに富岡市の歴史や文化について学び、富岡市の魅力を多くの方に知ってもらえるような取り組みを企画・運営することも目標です。

活動計画

6月	募集説明会
9月	相生祭でのおっきりこみ提供に向けた試作
11月	相生祭（地域物産展）でのおっきりこみの提供
2月	富岡市訪問（おっきりこみの提供）

* 2023年度の実績です。

活動の概要

おっきりこみをはじめ、富岡市の魅力を多くの人に発信する活動です。私たちはNPO法人「ふれあいパーク岡成」の皆様のご協力をいただきながら、富岡市で行われる「おっきりリンピック」というイベントを運営しています。そのほかにも相生祭やSNSで、おっきりこみや養蚕業について発信しています。詳細は、新規メンバー募集説明会にて説明します。SNSからもお気軽にお問い合わせください！



● Instagram
運用中のアカウントは、
こちらの二次元コードより
ご覧ください。

プロジェクト学生からのメッセージ

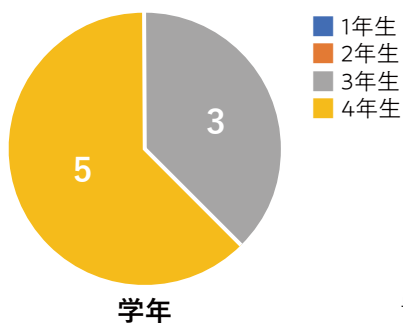
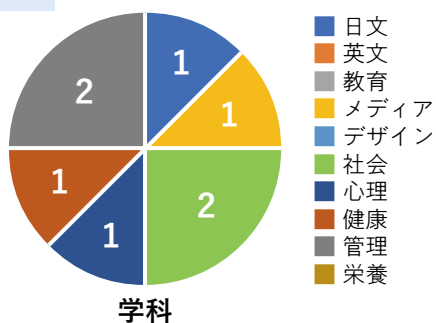
田舎が好きの方、作ること・食べることが好きな方、必見です！農村のとれたて新鮮な食材を使って、新しいおっきりこみのレシピ作成や調理・販売を経験できます。

地元愛にあふれる現地のNPO法人の方々と一緒に、富岡市を盛り上げていきましょう！

〈活動の様子〉



〈所属学生のデータ〉



単位：人

* 2023年度の実績です。

福岡県糸島市 女性のはたらき方研究プロジェクト

活動の到達目標

多様な生き方・働き方をする方々との出会いを通じて、自分自身を見つめ、自分の進路にヒントを見つけることを目標とします。また、学科・学年を問わずに集まったメンバーが、役割分担や意見交換などを通して、他者と協力する力を身につけます。

活動の概要

移住先として人気の福岡県糸島市をフィールドに「これからの女性のはたらき方」について研究します。糸島の魅力あふれる自然や歴史、人に囲まれながら、多様なはたらき方をする方へのインタビューを通じて、自分自身がどのように生きていくかを考えます。また、相生祭での商品販売やSNSでの情報発信等により、糸島の魅力を多くの人に伝えていきます。

活動計画

6月	募集説明会
7月	メンバー顔合わせ・役割分担決め
7～3月	SNSを活用した情報発信
8月	現地訪問活動（2泊3日）
9～10月	相生祭「地域物産展」準備
11月	相生祭「地域物産展」出展
3月	活動報告書の作成・活動報告会

＊2023年度の実績です。

〈活動の3本の柱〉

はたらき方研究に関するインタビュー

糸島で暮らす・働く人たちが社会に出た卒業生へのインタビューなどを通じ、これからの“女性のはたらき方”や“自らのはたらき方”について考え、将来のビジョンを確立します。

糸島の魅力発信

糸島で暮らす・働く人たちが社会に出た卒業生へのインタビューなどを通じ、これからの“女性のはたらき方”や“自らのはたらき方”について考え、将来のビジョンを確立します。

OGとのプラットフォーム作り

これまで糸島プロジェクトに参加した上級生や卒業生と交流できるプラットフォームを構築します。交流をととして、社会に出てから必要となるコミュニケーション能力の向上や人脈の構築を図ります。

プロジェクト学生からのメッセージ

このプロジェクトに参加してみて、幅広い年齢層の方々とのコミュニケーション能力が高まりました。たくさんの人生の先輩方とお話を聞くことは、自分の考え方が広がるため、とても価値があります。是非、ご参加ください！

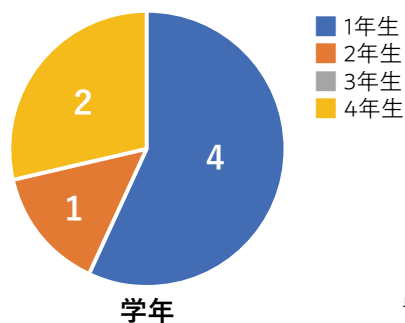
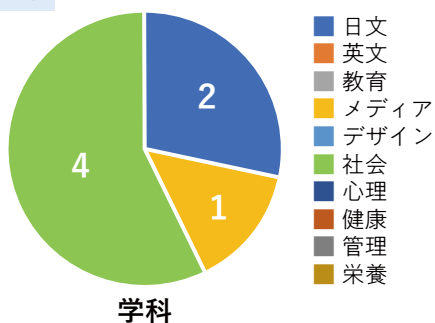


● Instagram
運用中のアカウントは、こちらの二次元コードよりご覧ください。

〈活動の様子〉



〈所属学生のデータ〉



単位：人
＊2023年度の実績です。

復興支援学生ボランティア委員会

活動の到達目標

東日本大震災の被災地である岩手県大船渡市の復興を支援するとともに、震災の記憶を風化させることなく後世に伝えることです。「被災地のために何ができるか」を自ら考え、それを実現するために行動しようとする主体性を身につけます。

活動計画

5月～11月	相生祭に向けた準備
8月	幼稚部とのコラボイベント実施、大船渡訪問
11月	相生祭にて商品開発したスイーツを販売
12月	募集説明会
2月	大船渡訪問

* 2023年度の実績です。

活動の概要

東日本大震災発生後の2011年6月に炊き出しのボランティアとして、岩手県大船渡市を訪問したことをきっかけに発足したプロジェクト団体です。定期的に岩手県大船渡市に訪問し、同市の婦人会の方々と郷土料理を教わったり、漁業体験を行っています。加えて、同市内の保育園を訪問し、同市の市花「椿」を題材とした紙芝居の読み聞かせを行う等、地域の方々との交流を深めています。2023年度は新たな取り組みとして、本学の学園祭で同市の銘菓とコラボしたオリジナルスイーツの開発・販売を行いました。その他にもYouTubeやInstagram等のSNSを活用した広報活動も行なっています。



● YouTube
運用中のアカウントは、こちらの二次元コードよりご覧ください。



● Instagram
運用中のアカウントは、こちらの二次元コードよりご覧ください。

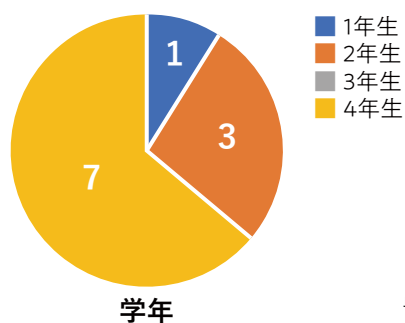
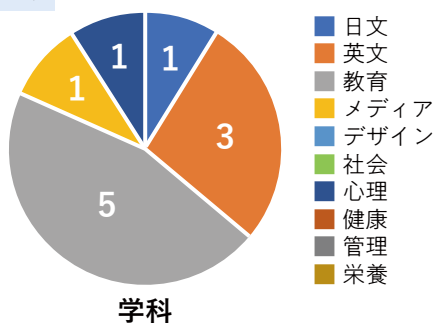
プロジェクト学生からのメッセージ

大船渡市を訪問することだけが復興支援ではありません。自分が今いる場所でできることを考えて、それを行動に移してください。復興への想いをもった学生が集まっているプロジェクトです。大船渡の魅力と一緒に広めていきましょう！皆様のご参加をお待ちしています！

〈活動の様子〉



〈所属学生のデータ〉



単位：人
* 2023年度の実績です。

電子回路ペンプロジェクト

活動の到達目標

出前授業で接する子どもたちの疑問に対して、正確に分かりやすく伝える力を身につけるとともに、学ぶことの楽しさを共有します。また、他のメンバーと協働しながら1つの授業を作り上げることで、協働・コミュニケーション力を身につけます。

活動の概要

「電子回路が書けるペン」を使った理科の授業を運営し、電気のしくみや理科の楽しさを伝えていく活動です。学生自らが企画した授業内容を、近隣の小学校で出前授業として行います。ペンで電子回路を描き、LEDランプを光らせたときの楽しさを小学生と共有することができます。「相模原市印刷広告協同組合」との連携のもと、みんなで協力して授業を作り上げています。

活動計画

4月	募集説明会
5～7月	体験会実施、出前授業の企画、講習会イベント
8月	雪谷小学校（東京都大田区）での出前授業
10月	体験会実施
11月～	次年度に向けてのミーティング

* 2023年度の実績です。

定例会は月1回ほど
実施しています。

〈活動の様子〉

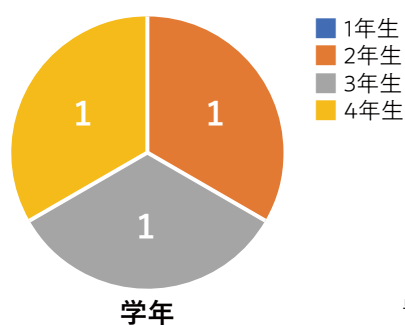
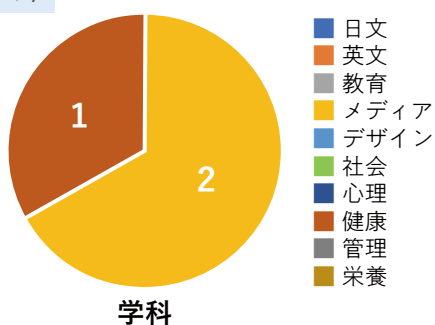


プロジェクト学生からのメッセージ

プロジェクトメンバーは、“子どもと一緒に楽しませることで学ぼう”をモットーとしています。“理科・電気系は苦手です”という学生の方も、子どもと同じ目線で楽しめて良い経験が出来ると思います。また、プロジェクト内の雰囲気は和気あいあいとしていて、メンバーで助け合いながら楽しく活動しています。学年・学科問いません。皆さんのご参加をお待ちしております！



〈所属学生のデータ〉



単位：人

* 2023年度の実績です。

佐渡プロジェクト

活動の到達目標

伝統芸能を切り口として、新潟県佐渡市の地域社会や自然、歴史を深く学び学びます。
地域の方との交流やメンバーとの共同生活を通して、社会とどのように係わり、貢献していくかなど、社会の一員として自分自身の在り方や生き方を見つめ直し、成長へつなげます。

活動の概要

佐渡島内の各集落が代々継承することで守られてきた伝統芸能ですが、地域の過疎化や高齢化により、芸能の担い手や後継者不足が課題となっています。私たちは現地で鬼太鼓や能楽を芸能を教わるだけでなく、地域の方との交流を通して佐渡島の地域社会や歴史を学び、一人一人が見つけた佐渡の魅力を発信する活動を行っています。また、芸能によって生まれた佐渡とのつながりを卒業後も継続できるような仕組みづくりにも取り組みます。

活動計画

4～5月	募集説明会、ポスター作成
7月	佐渡の伝統芸能に関する勉強会
8月	「佐渡伝統芸能（鬼太鼓）合宿」*4泊5日
9月	「佐渡能合宿」*4泊5日
10月	佐渡市立高千中学校生徒による佐渡の伝統芸能「文弥人形」鑑賞
11月	佐渡市のPRを目的とした都内イベントへの参加
2月	佐渡市内での活動報告会

* 2023年度の実績です。

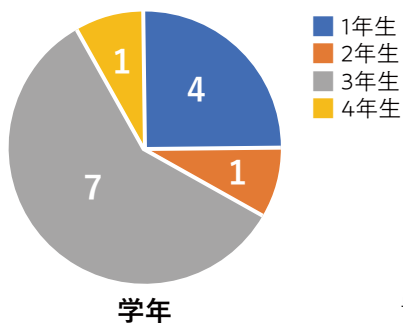
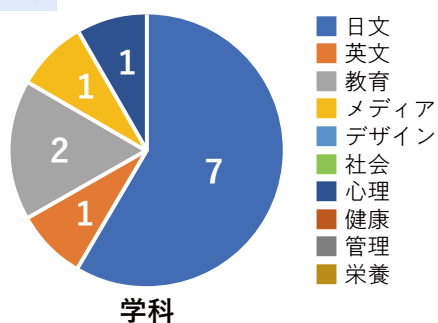


● Instagram
運用中のアカウントは、
こちらの二次元コードより
ご覧ください。

〈活動の様子〉



〈所属学生のデータ〉



単位：人

* 2023年度の実績です。

【国際プログラム】 ビクトリア大学協定校留学

参加対象	定員	活動期間
相模女子大学・ 相模女子大学短期大学 部留学規程に準ずる	なし (選考結果による)	半年 又は 1 年間
活動フィールド	参加費の目安	滞在形式
ビクトリア (オーストラリア)	半年間：約 160 万円 1 年間：約 280 万円	ホームステイ

活動の到達目標

半年間又は1年間の留学を通して、英語で的確に意思疎通を図る能力を身につけることはもちろん、様々な国から集まった他国の学生と交流を深めることにより、異なる文化や価値観を知ることができます。また、海外で過ごすにあたって自身の暮らす日本という国や地域のことを改めて見つめ、伝統や文化、歴史等に対する理解を深めることに繋がります。

活動の概要

語学プログラムを半年間又は1年間履修します。週末のアクティビティ活動が盛んで、授業で学んだ語学を発揮する機会がたくさん設けられています。英語を学ぶために世界各国から学生が集まっており、様々なバックグラウンドを持った留学生との交流を深めることができます。募集説明会に必ず参加してください。欠席した場合は留学に申込みすることは出来ません。



活動計画

4・9月	募集説明会、出願
5・10月	選考、出発前ガイダンス（～8月）
9・4月	出発
翌年9・4月	帰国後ガイダンス

職員からのメッセージ

プログラムに参加する際に大切なことは、なぜ留学をしたいのか、留学した後にどんなビジョンを描いているのか等、留学に対する目標をしっかりと設定し、プログラムに対して主体的に動くための原動力とすることです。現地でのプログラムをより充実させるためには、準備から丁寧に行うことが大切です。より良い留学となるように、がんばりましょう。

【国際プログラム】 マニトバ州立大学協定校留学

参加対象	定員	活動期間
相模女子大学・ 相模女子大学短期大学 部留学規程に準ずる	なし (選考結果による)	1 年間
活動フィールド	参加費の目安	滞在形式
ウィニペグ (カナダ)	約 280 万円	ホームステイ

活動の到達目標

1年間の留学を通して、英語で的確に意思疎通を図る能力を身につけることはもちろん、様々な国から集まった他国の学生と交流を深めることにより、異なる文化や価値観を知ることができます。また、海外で過ごすにあたって自身の暮らす日本という国や地域のことを改めて見つめ、伝統や文化、歴史等に対する理解を深めることに繋がります。

活動の概要

語学プログラムを1年間履修します。平日午後や週末のアクティビティ活動が盛んで、授業で学んだ語学を発揮する機会がたくさん設けられています。英語を学ぶために世界各国から学生が集まっており、様々なバックグラウンドを持った留学生との交流を深めることができます。募集説明会に必ず参加してください。欠席した場合は留学に申込みすることは出来ません。



活動計画

4・9月	募集説明会、出願
5・10月	選考、出発前ガイダンス（～8月）
9・4月	出発
翌年9・4月	帰国後ガイダンス

職員からのメッセージ

プログラムに参加する際に大切なことは、なぜ留学をしたいのか、留学した後にどんなビジョンを描いているのか等、留学に対する目標をしっかりと設定し、プログラムに対して主体的に動くための原動力とすることです。現地でのプログラムをより充実させるためには、準備から丁寧に行うことが大切です。より良い留学となるように、がんばりましょう。

【国際プログラム】 文藻外語大学交換留学

参加対象	定員	活動期間
相模女子大学・ 相模女子大学短期大学 部留学規程に準ずる	なし (選考結果による)	半年又は1年間
活動フィールド	参加費の目安	滞在形式
高雄 (台湾)	約10万円	学生寮



活動の到達目標
半年間もしくは1年間の交換留学プログラムを通して、英語・中国語での確に意思疎通を図る能力を身につけます。また、現地の学生との交流を通して、異なる文化に触れ、様々な価値観を知り、自分自身のことや自分の住む日本という国のことを見つめ直し、さらにその経験を次の活動に活かします。

活動計画	
3 月	募集説明会、出願
4 月	出願
5 月	選考、出発前ガイダンス（～ 8 月、3 月）
8 月	出発
翌年 1・7 月	帰国後ガイダンス

活動の概要
台湾唯一の外語大学で、正規授業を英語もしくは中国語で履修するプログラムです。現地の学生だけでなく世界各国から留学生が集まっており、様々なバックグラウンドを持った学生との交流を深めることができます。 募集説明会に必ず参加してください。欠席した場合は留学に申込みことは出来ません。

職員からのメッセージ
プログラムに参加する際に大切なことは、なぜ留学をしたいのか、留学した後どんなビジョンを描いているのか等、留学に対する目標をしっかりと設定し、プログラムに対して主体的に動くための原動力とすることです。現地でのプログラムをより充実させるためには、準備から丁寧に行うことが大切です。より良い留学となるように、がんばりましょう。

【国際プログラム】 ビクトリア大学英語研修

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	10～15名程度	5週間
活動フィールド	参加費の目安	滞在形式
ビクトリア (オーストラリア)	約75万円	ホームステイ



活動の到達目標
約5週間のプログラムの中で、英語の技能を身につけることはもちろん、異なる言語、文化や価値観を持つ人々と触れ合います。また、世界各国から集まる留学生との交流を通して、改めて日本の文化や伝統について考えるとともに、異なる国や地域の文化・伝統を尊重する姿勢を育みます。

活動計画	
9 月	募集説明会
10 月	申込締め切り / 制度説明会 出発前ガイダンス（～ 1 月）
2 月	出発
4 月	帰国後ガイダンス

活動の概要
春休み期間中に語学プログラムを5週間履修する語学研修です。週末のアクティビティ活動が盛んで、授業で学んだ語学を発揮する機会がたくさん設けられています。英語を学ぶために世界各国から学生が集まっており、様々なバックグラウンドを持った留学生との交流を深めることができます。募集説明会に必ず参加してください。

職員からのメッセージ
語学プログラム自体は5週間と短く感じるかもしれませんが、より良い研修期間とするためには半年～1年以上の準備が必要です。現地の生活の中で英語の技能だけではなく、人として成長できるように、万全な準備をして出発しましょう。

【国際プログラム】 ソウル女子大学韓国語研修

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	10～15名程度	17日間
活動フィールド	参加費の目安	滞在形式
ソウル (韓国)	約30万円	学生寮

活動の到達目標

韓国語だけではなく、韓国の文化や価値観などを実際に現地で過ごすことで実感し、日本とは異なる国や地域の文化を認め、尊重する姿勢を身につけます。また、語学の向上や異文化を理解することで自身の持つ価値観や生き方を考えるきっかけとします。

活動の概要

日本人大学生を対象とした特別プログラムで、韓国語と韓国文化をバランスよく学ぶことができます。現地学生とバディを組んで宿題を教わったり外出したりできるトウミ制度が人気です。滞在形式は学生寮です。
募集説明会に必ず参加してください。



活動計画

4月	募集説明会
5月	申込締め切り / 制度説明会 出発前ガイダンス（～8月）
8月	出発
10月	帰国後ガイダンス

職員からのメッセージ

17日間の研修ですが、研修を行うための準備には多くの時間を要します。準備を丁寧にするほど、現地での活動がより意味の深いものになるはずです。より良い研修期間となるように、アドバイザーも支援します。少しでも興味のある方は説明会へお越しください。

【国際プログラム】 文藻外語大学中国語研修

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	10～15名程度	2週間
活動フィールド	参加費の目安	滞在形式
高雄 (台湾)	約27万円	ホテル (相部屋)

活動の到達目標

中国語を学ぶだけではなく、現地の学生との交流を通して、新たな文化や価値観に触れることで自分の生き方や価値観を見つめ直し、次につなげます。文化体験授業や、日本語学科の現地学生との交流により、台湾の文化だけではなく日本の文化や伝統についても見つめ、互いの文化を尊重し合う姿勢を身につけます。

活動の概要

台湾唯一の外語大学で受講する2週間の中国語研修です。文化体験やチュータリング、日本語学科の学生との交流などを通して、中国語だけでなく台湾の伝統文化も学ぶことができます。滞在形式はホテルです。募集説明会に必ず参加してください。



活動計画

10月	募集説明会
11月	申込締め切り / 制度説明会 出発前ガイダンス（～3月）
3月	出発
4月	帰国後ガイダンス

職員からのメッセージ

2週間という短い期間のプログラムです。滞在時には引率教員がつき、皆さんの現地での生活をサポートします。中国語を学ぶことはもちろん、文化体験や現地学生との交流を通して自分自身や日本について見つめ直し、今後の活動へとつなげましょう。

【外国語・英語教育】 キャンパス留学

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	なし (選考結果による)	半年又は1年間
活動フィールド	参加費の目安	
校内	通期(春・秋): 135,000円 1学期のみ: 72,500円	



活動の到達目標
半年または1年間を通して、毎日40分/週5日間、ネイティブ講師のレッスンを受けることにより英語の技能を身につけます。実践的な英会話のレッスンで、英語で的確に意思疎通を図る能力を身につけます。SDGsを英語でディスカッションする等、多様なプログラムにより英語を学ぶことができます。

活動計画	
4・9月	募集説明会
5・10月	申込締め切り／受講費納入／受講開始
7・1月	春学期（7月）／秋学期（1月）講座終了

活動の概要
この講座は授業の空き時間を利用して、キャンパス内で毎日40分/週5日(月～金)実践的な英会話のレッスンを行います。英会話が初心者という方もクラスは原則6名(一部時間帯を除く)のグループレッスンなので、楽しみながら続けられます。また英会話だけでなくアカデミックな内容(TOEIC®、Writing添削、ディスカッション等)を網羅しています。

職員からのメッセージ
日本人コーディネーターによるきめ細やかなサポート(定期的な個別カウンセリング、年度途中からの受講について等)を受けることができます。少しでも興味のある方は説明会へぜひお越しください。

【外国語・英語教育】 TOEIC® IP テスト

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	なし	年3回
活動フィールド	参加費の目安	
校内	3200円	



※詳細は、P34をご確認ください。

活動の到達目標
この活動を通して、世界の人々と的確に意思疎通を図る英語力を身につけます。

活動計画
※試験日や申込期間はお知らせ配信やポスターで確認してください。

活動の概要
試験日は年間3回設定されます。 試験日や申込期間については、SmileSagamiのお知らせ配信やポスターで周知されますので、そちらを確認の上お申し込みください。 申込期間中にパピルスメイトに受験料を振り込み、申請用紙を生涯学修支援課に提出してください。

職員からのメッセージ
TOEIC®公開テストよりも割安に受験することができます。就職活動や資格による単位認定のために受験することはもちろん、英語学習におけるモチベーション維持やレベルチェックとしても活用できます。会場が校内であることもTOEIC®IPテストの魅力の一つです。少しでも興味のある方は積極的に受験してください。

【異文化理解】 CEMLA ボランティア

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	なし	1 年間
活動フィールド	参加費の目安	
学内	なし	

活動の到達目標

神奈川県内の中学・高校に通う「外国につながる子どもたち」の学習支援を行います。学習支援ボランティアには相模女子大学の学生だけではなく、他大学の学生や様々な年齢・職業の方が参加します。日本国内で私たちと一緒に生活を送る外国につながる子どもたちとコミュニケーションをとることで自分の視野を広げ、自身を見つめ直すきっかけとします。

活動の概要

毎週土曜日に、相模女子大学内の舊館もしくはオンラインで開催される CEMLA にて、学習支援ボランティアとして外国につながる子どもたちの日本語や教科指導を行います。年 2 回、外国につながる子どもたちや学習支援ボランティアとの交流会が開催され、ゲーム等を通して交流を深めることができます。



活動計画

未定	募集説明会、申込
5～7 月	春学期講座
9～12 月	秋学期講座

職員からのメッセージ

国内で私たちと一緒に生活を送る外国につながる子どもたちとの交流を通して、日本の文化や歴史などについて改めて考え直したり自分の生き方や価値観を見つめ直すきっかけになるかもしれません。積極的に交流を図り、自分の糧にしてください。

【異文化理解】 外国人訪問学生・交換留学生サポーター

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	なし (選考結果による)	適宜
活動フィールド	参加費の目安	
学内外	未定 (活動内容による)	

活動の到達目標

本学に滞在する外国人訪問学生や交換留学生を支援し、交流を深める活動です。各々が自身の得意分野を活かしつつ、他のサポーターと協力しながら活動を進めることにより、自分の視野を広げ、自身を見つめ直すきっかけとします。

活動の概要

サポーター学生を募り、本学に滞在する外国人学生や交換留学生を支援し、交流を深める活動です。同年代の外国人学生と交流を図ることにより、日本の伝統や文化、歴史等の理解を深めると共に、異なる国や地域の伝統や文化に対する理解を深めることを目的としています。



活動計画

※活動期間や申込期間はお知らせ配信やポスターで確認してください

職員からのメッセージ

日本語を母国語としない学生との交流活動ですが、サポーターとしての活動に外国語能力は求められていません。語学力も大切ですが、相手に伝えたいという気持ちや伝えるための工夫がサポーターとしての活動を成功に導くための秘訣となるでしょう。

キャリア☆カフェ

活動の概要

多様なバックグラウンドや専門的知見を持つ外部講師や地域の方、教職員が主催する講座・座談会です。「チームビルディング講座」や「情報発信力アップ講座」「大人のマナー講座」など、多岐にわたる領域の講座を開講し、学生の皆さんの自己成長を育む取組みを支援しています。キャリア☆カフェの開催に関する情報は SmileSagami のお知らせ配信にてご確認ください。

職員からのメッセージ

多岐にわたるテーマ・内容で開催しているので、自分の学びたい領域に合わせて参加することが可能です。講座によっては、事前予約を要するものがありますので、SmileSagamiのお知らせ配信を確認した上で積極的にご参加ください。

●過去のキャリア☆カフェー覧

講座名	参加対象	講師
「女子の人間関係がちょっとラクになる“おトク女子”」(全6回シリーズ)」	全学年・全学科	外部講師
連携教育推進課×就職支援課 共同開催「活動の選び方のヒント」	全学年・全学科	連携教育推進課・ 就職支援課職員
「梅酒『翠想』やマーガレットケーキに用いる梅の収穫に関わる事前学習」	全学年・全学科	夢をかなえるセンター職員
「TOEIC セミナー」	全学年・全学科	外部講師
「情報発信力アップ講座」	全学年・全学科	外部講師
「大人のマナー講座」	全学年・全学科	外部講師
小田急電鉄(株)で働く卒業生による「1歩踏み出してみよう！」	全学年・全学科	卒業生
「夢をかなえるセンター 連携教育推進課の職員ってどんな人！？」	全学年・全学科	連携教育推進課職員
「世界遺産検定とは？」	全学年・全学科	連携教育推進課職員
「チームビルディング～リーダー・副リーダー・フォロワーの役割とは～」	プロジェクト参加学生	外部講師

●過去に開催したキャリア☆カフェのチラシ（一部抜粋）



「Sagamiチャレンジプログラム」キャリア☆カフェ講座



女子の人間関係が ちょっとラクになる “おトク女子”

【開演メッセージ】

あれやこれやと悩まされようとして人間関係が
切っ掛けで参りましょう。
七夕のご宴を楽しみにしております。

講師
原 良恵
株式会社リンク



「この人と友達になりたいな」「人付き合いが上手な」と思う人は
いますか？
◆今日の講座では、さりげなく寛量じが出来る人、トランプにうまく対処
できる人など、人間関係を円滑にするためのコツを学びます。

〈日時〉 7月7日（木） 13:00～14:30

〈対象〉 全学科・全学年

〈開催形式〉 Web会議ツール（zoom）

※添付の二次元コードよりご参加ください。
※パスワードはお知らせ配付よりご確認願います。



注意事項：
 ※Zoomの配信環境：PC（推奨）・スマートフォン・タブレット、ご利用環境により通信状況が発生する場合があります。
 ※参加にあたってはご参加ください。スマートフォン・タブレットで参加の場合はzoomのアプリのインストールが必要です。
 ※参加に関するお問い合わせは、ホームページの「お問い合わせ」のページからお問い合わせください。

※参加可能なセミナーは、研修費無料の「サガミチャレンジプログラム」になります。
 申込みの必要のないキャリア講座も実施予定です。ご不明な点がございましたら、研修費無料後援までお問い合わせください。

●お問い合わせ先●

夢をかえるセンター 連携教育推進課
MAIL: renkei@mail2.sagami-u.ac.jp

掲示期間：2022/7/7まで


「Sagamiチャレンジプログラム」キャリアカフェ講座

元NHKアナウンサーが伝授！ 傾聴力を高めて円滑な人間関係を 構築しよう



講師 山崎 るみ

◆講師プロフィール◆

◆NHK放送局員・千草放送局で5年間のキャスターを務める。その経験を活かして料理講師に転身。

NHK文化センターでタイ料理講座を担当したの、2011年から料理教室「Leh Prik-Kee-moo」を主催。また子育て支援員、チャイルドコーチング®のインストラクターを務める。

【講師メッセージ】

円滑であればあるほど人生が豊かになりうるものの一つ、人間関係。この良好な人間関係を築くため欠かせないのが「会話」です。この会話の取り方について私が今まで実践してきたことや気づきなどをアナウンサー時代の取材やインタビュー、その他料理教室やプライベートでの様々な経験をお話させていただきます。お待ちしております。





■日時：7月14日（木）13:00～14:30

■対象：全学年・全学年

■開催形式：Web会議ツール「Zoom」

※添付の二次元コードよりご参加ください。

※パスワードはお知らせ配信よりご確認ください。

注意事項：

「Zoom」の通信環境（PC・機材）・ネットワーク・インターネット、ご利用環境により通信障害が発生する場合がございますのでご注意ください。スマホ、タブレットでの参加の場合は45分間の視聴をお断りいたします。

※参加には事前にZoomのアカウントを登録し、ミーティングIDとパスワードは参加の時に必要とさせていただきます。

※本会は主催者として、学習支援プログラム「Sagamiチャレンジプログラム」により、

「参加者の学習の進捗ややり取りを記録・管理いたします。この記録を元に、通信教育指導課にて対応させていただきます。」

●お問い合わせ先

MAIL renkei@wac-j.ac.jp

夢をかなえるセンター 通学資格推進課

MAIL renkei@wac-j.ac.jp

●お申し込み先

MAIL renkei@wac-j.ac.jp

掲載期間：2022/7/14まで

ユメカナ★カフェ

学生による学生のための学びの「場」「空間」です。
参加者として出席するもよし、主催者として企画・運営するもよし。
勇気をもって一步踏み出してみよう！

活動の概要【3つの活動区分】		職員からのメッセージ
ユメカナ★カフェ	学生が主催する講座・座談会です（主に、既存の「Sagami チャレンジプログラム」に係る講座・座談会を想定）。	連携教育推進課では、学生自らが積極的に活動しやすい環境を整えてお待ちしています。 とはいえ、新しいことを始めるとき、ワクワクする気持ちと同時に不安や恐怖もあると思います。 私たち職員は、学生が安心して挑戦できるよう全力でバックアップしますので、ぜひチャレンジしてみてくださいね！
学生提案型企画	上記ユメカナ★カフェのうち、「Sagami チャレンジプログラム」の枠組みにとらわれずに、自分の興味ある事や学びを、他学生と共有したいと考える学生が主催する講座・座談会です。	

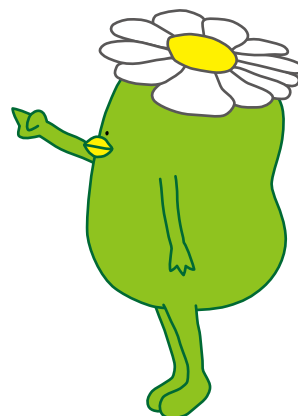
開催に関する情報は SmileSagami のお知らせ配信にてご確認ください。

●過去に開催したキャリア☆カフェのチラシ（一部抜粋）

区分	講座名	参加対象	主催者
ユメカナ★カフェ	「電子回路ペンプロジェクト」学内体験会	全学年・全学科	電子回路ペンプロジェクト学生
ユメカナ★カフェ	各プロジェクトによるメンバー募集説明会 (実績例：Pepper プロジェクト、復興支援学生ボランティア委員会、おっきオリンピック宣伝部、もとみや SMILE プロジェクト、佐渡プロジェクト)	全学年・全学科	各プロジェクト学生
学生提案型企画	「素敵な本や仲間に出会おう ～学生生活を充実させたい人あつまれ～」	全学年・全学科	英語文化コミュニケーション学科学生
学生提案型企画	「教えてセンパイ！ ～ Sagami チャレンジプログラムのすゝめ～」	全学年・全学科	管理栄養学科学生

ユメカナ★カフェを 開催したい場合は？

4月に開催するプロジェクト対象の説明会にてプロジェクト活動に関するルール等について説明します。そちらの案内に沿って手続きを進めてください。



神奈川産学チャレンジプログラム

参加対象	定員	活動期間
大学2～4年生・全学科 (短大生除く)	各チーム4～6名 *必ずチーム単位で応募 (個人単位不可)	9ヶ月
活動フィールド	参加費の目安	
神奈川県	—	



活動の到達目標
企業の課題を解決する研究コンペです。チームごとに研究テーマの選択から、課題に対する提案、検証、フィールドワークなど行います。それを通して、社会に積極的にに関わり、自分自身の発想を深めます。また、プレゼンテーションも審査対象となり、自分たちの思いや考えを他の人に対して分かりやすく説明するため、産学チャレンジ参加者を対象としたキャリア☆カフェでその力を身につけ、実践します。

活動計画	
4月	説明会（～4月末エントリー）
5月	研究テーマ決定
6～9月	レポート作成
10～11月	プレゼンテーション審査
11月	審査結果通知
12月	表彰式

活動の概要
神奈川県内の大学と一般社団法人神奈川経済同友会の会員が所属する企業とが協同し、産学連携による学生の人材育成を目的とした課題解決型研究プログラムです。企業が日常の経営課題の中から実践的な研究テーマを挙げ、それに対して学生が各テーマにチャレンジし研究成果を提出するというもので、書類審査、プレゼンテーション等の審査は全て企業が行います。

職員からのメッセージ
活動の中で、1つの企業と深く関わることができます。企業へのメールや電話、レポートの提出など、ぜひ就職活動の先取りをしてみてください。

「Sagami チャレンジプログラム」for kids プロジェクト

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	50名	8月
活動フィールド	参加費の目安	
学内	なし	



活動の到達目標
地域の小学生を対象とした夏の大学体験教室「Sagami チャレンジプログラム for kids」の企画から運営までに係わってもらいます。この活動では、イベント主催のノウハウや、子ども・保護者と触れ合うことにより、人に対する対応力を学びます。また、参加対象は全学年・全学科の学生です。イベント成功という一つの目標に向かいながら学生同士の協働力を学びます。

活動計画	
4 月	募集開始
5 ～ 7 月	イベント開催に向けての企画
8 月	イベント開催

活動の概要
「Sagami チャレンジプログラム」における各プロジェクトの学生が中心となり、学部・学科の学びや地域連携など本学園の特色ある取り組みを活かした子ども向けの体験講座を開講します。イベント当日のみならず、企画の段階から係わってもらいます。子ども・保護者と積極的に係わり参加者へ楽しんでもらうためにはどうしたらよいか? 考えて・実行する”活動です。

職員からのメッセージ
企画・運営に“主体的に”に係わってくれる“意欲ある”方、また将来子どもと係わる職業などを考えている方には絶好の機会です。ほとんどの方が初心者なので、積極的にご応募ください。

資格取得 ※申込受付期間・実施時期・費用は予定

講座・検定名称		定員	参加対象	実施場所	申込方法	申込受付期間	実施時期	費用	概要
TOEIC®IP (団体受験)		なし	全学年・全学科	学内	生涯学修支援課窓口	4月中旬 ～ 5月上旬	5月	3,200 円	リスニング(約 45 分間・100 問)、リーディング(75 分間・100 問)、合計約 2 時間で 200 問に答えるマークシート方式の一斉客観テストです。出題形式は毎回同じで、解答はすべて問題用紙とは別の解答用紙に記入します。テストは英文のみで構成されており、英文和訳・和文英訳といった設問はありません。 https://www.iibc-global.org/toEIC.html
						6月	7月		
						9月中旬 ～ 10月上旬	10月		
MOS 対策講座・検定試験	① Word ・ワード	各 100 名	全学年・全学科	学内	ホロン エデュケー ション ※学内掲示の QRコード・ URLより申込	7月	【対策講座】 8月上旬 【検定試験】 8月上旬	Word・Excel・ PowerPoint 1コース 26,000 円	マイクロソフト社の Word・Excel・PowerPoint などのパソコン操作スキルを認定する世界共通の資格です。Word コース、Excel コース、PowerPoint コースの3コースを開講します。それぞれ対策講座(3～4日間)を受講した後に検定試験を受験します。 ※合格実績(2023 年度) Word: 合格者数 51 名/合格率 100% Excel: 合格者数 69 名/合格率 99% PowerPoint: 合格者数 43 名/合格率 100% 参考: https://mos.odyssey-com.co.jp/about/
	② Excel ・エクセル					7月上旬 ～ 8月上旬	【対策講座】 8月中旬 【検定試験】 8月下旬	2コースセット 44,000 円	
	③ PowerPoint ・パワーポイント					7月上旬 ～ 8月中旬	【対策講座】 8月下旬 【検定試験】 8月下旬	3コースセット 56,000 円 ※検定料込	
ビジネス実務マナー技能 検定 2 級・3 級 (検定試験)		なし	全学年・全学科	学内	生涯学修支援課窓口	4月上旬 ～ 5月上旬	6月	2 級 5,200 円	ビジネス社会に必要なとされる基本ルールを身につけるための検定です。社会人としての判断・行動が適切にできるかどうか、人間関係やマナー、話し方を理解しているかを問われます。 試験時間: 3 級 120 分、2 級 130 分 ※合格実績(2023 年度) 3 級: 合格者数 188 名/合格率 69.6% 2 級: 合格者数 2 名/合格率 28.6% 参考: https://jitsumu-kentei.jp/BZ/index
						9月上旬 ～ 10月上旬	11月	3 級 3,800 円 ※3 級に限り 後援会からの 補助があります。	
世界遺産検定試験 2 級・3 級		なし	全学年・全学科	学内	世界遺産検定 HP	5月上旬 ～ 5月中旬	7月	3 級 4,700 円 2 級 5,800 円 ※団体受験割引 適用後の検定料です。	世界遺産検定は、人類共通の財産・宝物である世界遺産を通して、国際的な教養を身に付け、持続可能な社会の発展に寄与する人材の育成を目指した検定です。 参考: https://www.sekaken.jp/each_grade/

■資格取得に係る問合せ先: 生涯学修支援課

積極的に利用しよう！

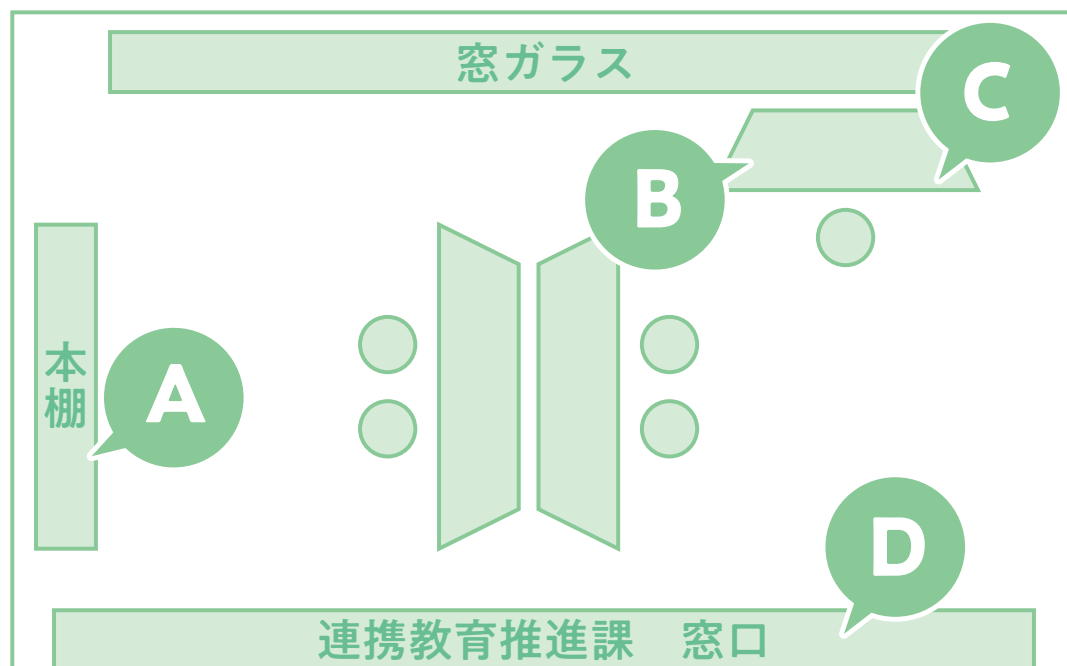
夢をかなえるセンター 連携教育推進課前スペースをご紹介します！

夢をかなえるセンター 連携教育推進課窓口前のスペースは、「Sagami チャレンジプログラム」で活用できる“ラーニングコモンズ”となります。大きく2つの特徴がありますので、本冊子にてご紹介します。この機会に積極的にご利用ください。

〈ラーニングコモンズの特徴〉①活動をサポートする施設設備 ②活動情報の発信

①活動をサポートする施設設備

●連携教育推進課前ラーニングコモンズ見取り図



A

書籍の貸出し

語学学習の際に参考になる外国語の書籍を貸出しています。TOEIC 教材や英字本、海外版の漫画等様々です。気になる本があれば、連携教育推進課職員までお声がけください。

私は、ラーニングコモンズで主に洋書を借りていました。借りようと思ったきっかけは、英語のリーディングの力を付けたいと思ったからです。新しい単語に出会い、「あの場面でこの単語が使われてたなあ」と思い出すことができるので、他国の文化を知れたり、物語を楽しむことができるのもそうですが、記憶に残る英語学習にもつながっていると思います。短編のものが多くのでとても読みやすいです！また、ほとんどの本の裏表紙に英語のレベルが書かれているので、自分の英語力に合った本を選ぶことができます。みなさんも、ぜひ手に取ってみてください！

答えてくれたのは…

英語文化コミュニケーション学科 卒業生 (2021 年度卒)



B

iPad

地域や企業の方とオンラインで交流や打合せを行う際は、ラーニングコモンズに常置している iPad を利用することが可能です。加えて、机や椅子が用意されています。机や椅子の移動は自由です。利用用途や仲間の人数などに応じて机や椅子を動かして、ミーティングを行ってください。



ラーニングコモンズでは、スマートフォンの充電をすることができます。スマートフォンを利用した情報収集をする際は、ご利用ください。

*充電器の利用中におけるスマートフォンの破損・盗難・紛失については、大学は責任を負いかねますので、充電中は傍を離れないよう注意してください。

C

ワイヤレス充電器

D

連携教育推進課 窓口

連携教育推進課では、「Sagami チャレンジプログラム」の活動をサポートしています。活動について聞きたいことがあれば、気軽に窓口の職員に相談してください。



②活動情報の発信

ラーニングコモンズを含め、学内では活動情報の発信を行っています。近日開催予定のキャリア☆カフェや募集を行っている活動の概要を示したポスター・チラシ等を掲示しています。また、シラバスには掲載していない活動や夢をかなえるセンター以外で主催している社会貢献活動の情報についてもお知らせしているので、気になる方は要チェックです。* SmileSagami のお知らせ配信でも情報発信を行っています。

掲示板

活動情報の取得方法については、6ページで詳しく紹介しています♪



よくある質問

Q. 興味はあるけど参加方法が分からない

- A. 「Sagamiチャレンジプログラム」の活動の多くは、参加希望者向けの募集説明会を事前に開催します。募集説明会の案内は、SmileSagamiのお知らせ配信より、件名に★ユメカナ★を付けて発信しています。気になる活動を見逃さないようこまめにチェックしてください。なお、本冊子のシラバスには、応募説明会の時期を掲載していますが、あくまで目安となります。年度によっては活動時期の変更や、開催の見合わせを行うこともあります。詳細が気になる活動があれば、連携教育推進課までお気軽にお問い合わせください。



6ページに掲載されている情報発信ツールから募集説明会の情報をGET

募集説明会に参加

申込み

活動への参加♪

Q. 参加する際にお金はかかりますか

- A. 活動によっては、費用が発生する場合があります。費用が発生する場合は、募集説明会で事前にお伝えします。

*「相模女子大学・相模女子大学短期大学部 後援会」地域連携助成費より、活動に係る費用の一部をご支援いただいております。

Q. 相談する場所はどこですか

- A. 夢をかなえるセンター1F 連携教育推進課までお越しください。
メールでのお問い合わせ場合：renkei@mail2.sagami-wu.ac.jp

Q. 活動報告書とはなんですか

- A. 「Sagamiチャレンジプログラム」の参加者に対して、活動の振り返りを行うために提出してもらう書類です。活動によって書式が異なりますので、連携教育推進課からのお知らせを必ず確認するようにしてください。なお、活動報告書は就職活動のエントリーシート作成や面接等にも役立ちますので、提出した活動報告書は各自保管することをおすすめしています。

夢をかなえるセンター特設サイト

夢をかなえるセンターで行う社会貢献活動や
国際教育について、情報を発信しています。
<https://ymkn.sagami-wu.jp>



相模女子大学・相模女子大学短期大学部

〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL 042-742-1411 (代表) / 小田急線相模大野駅下車徒歩10分

(大学院) 栄養科学研究科 栄養科学専攻 (博士前期課程・博士後期課程)・社会起業研究科 社会起業専攻 (専門職学位課程) (大学) [学芸学部] 日本語日本文学科・英語文化コミュニケーション学科・子ども教育学科・メディア情報学科・生活デザイン学科 [人間社会学部] 社会マネジメント学科・人間心理学科 [栄養科学部] 健康栄養学科・管理栄養学科 (短期大学部) 食物栄養学科

<https://www.sagami-wu.ac.jp/>

問合せ先

夢をかなえるセンター 連携教育推進課 社会連携推進室

TEL 042-813-5038 FAX 042-747-9599 renkei@mail2.sagami-wu.ac.jp
夢をかなえるセンター特設サイト <https://ymkn.sagami-wu.jp/>



2024年4月発行

2024年度

「Sagamiチャレンジプログラム」

学生による活動報告会

参加者募集

聞くだけ大歓迎!

～この1年間、大学の外(地域)に飛び出し果敢にチャレンジしてきた
学生の発表と、そんな学生たちと一緒に活動してくれる仲間を大募集～

3/11
(火)

相模女子大学・相模女子大学短期大学部 夢をかなえるセンターでは、
大学の外(地域)での活動を通して、主体性やキャリアを身につける
「Sagamiチャレンジプログラム」を実施しています。

この度、10の学生によるプロジェクト団体が一堂に会し、
今年度実施した活動の集大成を発表します。

また、発表を聞いて「一緒に活動したい!」と思ってくれる
学生も募集します! 当日決断しなくてもOK、聞くだけでもOKです!

開催概要

- 【日時】 2025年3月11日(火) 14:00-16:00
- 【会場】 2131教室(マーガレット本館)
- 【開催形態】 ハイブリッド
- 【参加対象】 高校生、学生、高校生や学生のご家族、
連携先の方々、教職員 等々

プログラム

- ① 開会
- ② 活動報告(5団体)
(休憩)
- ③ 活動報告(5団体)
- ④ 総括・閉会

入退場
自由

発表団体

- ①海外に子ども用車椅子を届けよう!プロジェクト
- ②丸山千枚田魅力発信プロジェクト(三重県熊野市)
- ③おっきリンピック宣伝部(群馬県富岡市)
- ④もとみやSMILEプロジェクト(福島県本宮市)
- ⑤復興支援学生ボランティア委員会(岩手県大船渡市)
- ⑥女性のはたらき方研究プロジェクト(福岡県糸島市)
- ⑦電子回路ペンプロジェクト
- ⑧佐渡プロジェクト(新潟県佐渡市)
- ⑨サガジョ 盛り上げ隊プロジェクト
- ⑩清川村特産品開発プロジェクト(神奈川県清川村)

各種SNS

連携教育推進課
公式アカウントプロジェクト
団体

お気軽にご参加ください!

お申込み

右記の申込フォームより
受け付けております。



学生の確保の見通し等を記載した書類 目次

I	新設組織の概要.....	2
1.	新設組織の概要.....	2
2.	新設組織の特色.....	2
(1)	養成する人材像	2
(2)	学位の分野を踏まえた新設組織の特色.....	2
II	人材需要の社会的な動向等.....	3
1.	新設組織で養成する人材の全国的, 地域的, 社会的動向の分析	3
2.	中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的, 地域的動向の分析	3
3.	新設組織の主な学生募集地域	5
4.	既設組織の定員充足の状況	6
III	学生確保の見通し.....	7
1.	学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	7
(1)	既設組織における取組とその目標	7
(2)	新設組織における取組とその目標	7
(3)	当該取組の実績の分析結果に基づく, 新設組織での入学者の見込み数.....	9
2.	競合校の状況分析	9
(1)	競合校の選定理由と新設組織との比較分析, 優位性.....	9
(2)	競合校の入学志願動向等.....	15
(3)	新設組織において定員を充足できる根拠等(競合校定員未充足の場合のみ)	15
(4)	学生納付金等の金額設定の理由	15
3.	先行事例分析	16
4.	学生確保に関するアンケート調査.....	16
5.	人材需要に関するアンケート調査等.....	17
IV	新設組織の定員設定の理由	18

I 新設組織の概要

1. 新設組織の概要

新設組織	入学 定員	3 年次 編入学定員	収容 定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
人間社会学部 地域クリエーション学科	60 名	5 名	250 名	神奈川県相模原市南区 文京 2-1-1

2. 新設組織の特色

(1) 養成する人材像

地域固有の資源を発掘し、地域の食、観光についてのグローバルな視点からの専門的知見をもとに地域の持続可能なウェルビーイングを総合的に分析、実践し、取り組みをストーリー化して広く地域内外に発信できる人材を育成する。

(2) 学位の分野を踏まえた新設組織の特色

地域クリエーション学科は、「社会学・社会福祉学関係」および「家政関係」の2つの学位分野にまたがる学科であり、食、観光を中心とした地域固有の資源の発掘をはかり、それをもとにストーリー化や情報発信を通じて地域創造、地域活性化に取り組むとともに、このような取り組みを担える人材を育成することを目的としている。地域クリエーション学科では、食を社会学分野の中に位置づけられる食文化の範囲にとどめることなく、生物学や化学を基盤とする家政学系の食物学分野と連携しながら研究、教育を進めていく点が特色である。そのため、文理融合型の複合型学科となっている。具体的には、社会学、経済学、経営学、法学、行政学、情報学、芸術学を含む「観光学」「政策学」に加え、栄養学、調理学、公衆衛生学、食品安全学を含む「食物学」が中心分野となる。これらの分野を結合することにより、地域創造や地域活性化のための民間の取り組みや行政の施策を生み出していくことになる。以上の点を考慮して、学科名および学士の分野には最終目的である地域創造、地域活性化を意味する言葉である「地域クリエーション」を用いた。カタカナ用語にした理由として、新たな価値を創造するだけではなく、既存の価値を再評価し再活性化させることも包含することを想定しているため、どちらかを意味する「創造」「活性化」という言葉の使用を控えたことが挙げられる。

新設組織と関連する既設組織

組織名称	入学 定員	3 年次 編入学定員	収容 定員	・所在地 ・新設組織開設後の予定
人間社会学部社会 マネジメント学科	110 名	10 名	460 名	・神奈川県相模原市南区文京 2- 1-1 ・新設組織開設後の予定はなし
栄養科学部健康栄 養学科	80 名	8 名	336 名	・神奈川県相模原市南区文京 2- 1-1 ・新設組織開設後の予定はなし
相模女子大学短期 大学部食物栄養学 科	80 名	－	160	・神奈川県相模原市南区文京 2- 1-1 ・2026 年 4 月学生募集停止

Ⅱ 人材需要の社会的な動向等

1. 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

観光業界を含む関係業界では、国内外からの旅行需要が回復している。特にインバウンド市場が急成長しており、宿泊、飲食、観光関連での人手不足が深刻化している。この課題は地方でより顕著であり、政府は観光庁を中心に「観光地・観光産業における人材不足対策事業」を展開している。この事業では、地域資源を活用できる専門知識を持つ人材の育成と確保が求められている。

地域クリエーション学科は、観光業界の現状や地方創生の政策に対応し、地域社会と観光産業の双方に貢献できる人材を育成することを目的としている。この学科では、地域資源を掘り起こし、観光や食に関する専門知識を基に地域を活性化させる人材の育成を目指す。これにより、観光業界の課題解決と地域社会の持続可能な発展への貢献を目指す。

さらに、2024 年 11 月 29 日に発表された石破総理大臣の所信表明演説では、地方創生や地域経済の強化が重要視されている。総理は「幸福を実感できる社会」の実現を掲げ、地方資源を活用した持続可能な経済成長と地域のウェルビーイングを政策の柱としている。このような社会的な動きと調和し、新設される地域クリエーション学科は、社会課題の解決に向けた学術的・実践的な貢献を果たす学科として重要な役割を担うと考えている。

2. 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本学が立地する神奈川県は、東京都に次ぐ人口を擁するとともに、大学進学時には、他県から神奈川県の大学に進学する人数の方が、他県に進学する人数よりも多い流入超過の状況となっている。2024 年度の大学全体の入学者数 671 名の出身都道府県では、神奈川県 538 名 (80.2%)、東京都 61 名 (9.1%)、静岡県 21 名 (3.1%) の 1 都 2 県で全体の 92.4%であり、その他の県から数名ずつ入学者がいる状況である。過去 5 年間を遡っても、1 都 2 県で入学者の約 9 割を確保し

ている状況が続いている。【資料 1】

神奈川県は前述したとおり流入超過の状況ではあるが、日本全国で人口が減少しているので、ここでは、本学入学者の出身割合が高い神奈川県、東京都、静岡県を中心として、中期的な 18 歳人口の動向を、国勢調査結果を参考として検証する。

2020 年の国勢調査によると、女子の人口は 14 歳が全国で 515,263 人、神奈川県 36,911 人、東京都 47,218 人、静岡県 15,716 人であり、1 都 2 県で全国の 19.4%の人口を有する。また、9 歳の女子の人口は全国で 503,635 人、神奈川県 36,271 人、東京都 49,467 人、静岡県 14,898 人であり、1 都 2 県で全国の 20%の人口を有している。さらに、4 歳の女子の人口においても、全国で 465,233 人、神奈川県 33,947 人、東京都 51,498 人、静岡県 13,124 人であり、1 都 2 県で全国の 21.2%の人口を有している。

将来的に日本の人口が減少となっていくが、中期的にみて 1 都 2 県での 18 歳人口に大きな変化はみられず、本学が入学者を確保するには十分な 18 歳人口があると考ええる。

表 地域別女子の人口

地域名	0 歳		4 歳		9 歳		14 歳	
	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
全国	397,871		465,233		503,635		515,263	
神奈川	29,082	7.3%	33,947	7.3%	36,271	7.2%	36,911	7.2%
東京	46,831	11.8%	51,498	11.1%	49,467	9.8%	47,218	9.2%
静岡	10,828	2.7%	13,124	2.8%	14,898	3.0%	15,716	3.1%
1 都 2 県合 計	86,741	21.8%	98,569	21.2%	100,636	20.0%	99,845	19.4%

(2020 年国勢調査人口等基本集計より作成)

また、大学等進学率は全国的に上昇している状況ではあるが、本学への入学者の出身割合が高い神奈川県、東京都、静岡県の 1 都 2 県の大学等進学率を、学校基本調査「高等学校(全日制・定時制)卒業後の状況調査」を参考として検証する。2023 年より過去 3 年間の神奈川県、東京都、静岡県の大学等進学状況では、2023 年の卒業者 189,085 人のうち大学等進学者は 130,086 人で大学等進学率は 68.8%、2022 年の卒業者 193,663 人のうち大学等進学者は 130,152 人で大学等進学率は 67.2%、2021 年の卒業者 195,508 人のうち大学等進学者は 126,364 人で大学等進学率は 64.6%となっている。

2021 年から 2023 年までの間に 4.2 ポイントの上昇がみられ、18 歳人口が減少している状況においても、大学等進学率は増加していることから、中期的にみても受験対象者層の人数は十分にあると考ええる。

表 年別高等学校卒業生数と大学等進学者数・進学率

卒業生数(人)	神奈川県	東京都	静岡県	合計
2023 年	62,649	96,812	29,624	189,085
2022 年	64,786	98,713	30,164	193,663
2021 年	65,293	98,943	31,272	195,508

大学等進学者数 (人)	神奈川県	東京都	静岡県	合計
2023 年	42,649	70,463	16,974	130,086
2022 年	42,779	70,555	16,818	130,152
2021 年	41,218	68,292	16,854	126,364

大学等進学率(%)	神奈川県	東京都	静岡県	合計
2023 年	68.1%	72.8%	57.3%	68.8%
2022 年	66.0%	71.5%	55.8%	67.2%
2021 年	63.1%	69.0%	53.9%	64.6%

(2023 年・2022 年・2021 年学校基本調査「高等学校(全日制・定時制)卒業後の状況調査」より作成)

3. 新設組織の主な学生募集地域

学芸学部および人間社会学部における主な学生募集地域は、神奈川県を中心としつつ隣接している東京都及び静岡県、千葉県としている。

2024 年度の学校基本調査による直近年度における出身高校の所在地県別の構成比(上位 3 県)をみると、神奈川県 52.2%、東京都 29.9%、千葉県 6.5%となっている。【別紙 1】

また、本学の既設学部(大学)における直近の 5 年間の都道府県別の入学者状況(保護者住所で算出)を見ると、神奈川を中心に東京都、静岡県出身で 9 割前後と大半を占めており、既設学部における直近 5 年間の入学状況から 1 都 3 県の出身者の本学への入学傾向は今後も続くことが見込まれる。【資料 1】

また、地区入試の会場である静岡県および近接している地域のほか、大学が地域協働活動に取り組んでいる地域については学生募集地域として十分広報活動が可能である。

以上のことから、人間社会学部地域クリエーション学科における学生募集地域の設定は妥当性があるものと考えられる。

4. 既設組織の定員充足の状況

本学の既設学部等の過去5年間の入学志願状況等(志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、定員充足率)は、【別紙2】の通りとなっている。

推薦や総合型選抜など、年内入試での受験が増えてきている。複数学科による定員未充足の外部要因は、コロナ禍において高校での進路指導や受験生の志望校選びのプロセスが変化し、併願校数を絞る傾向が強くなったことや、18 歳人口の継続的な減少により、偏差値上位大学による推薦入試等の年内入試枠の増加や入試の易化による影響が大きい。共学志向の高まりから女子大学の人気が低迷してきていることも影響している。

また、内部要因としては、2013 年度に生活デザイン学科を2 年制から4 年制へと変更したことを除くと、2008 年度以来改組を行ってきおらず、現代のニーズにあった体制になっていなかったことや、実態にあわせた定員設定の見直しを行ってこなかったことがあげられる。2026 年度には入学定員の見直しを行い、より現実的な数値となるため、2026 年度の改組をきっかけに既設学科を含め大学を広く広報していくことで、改善を図ることができると考えている。また、受験生が大学の立地等アクセスを重視する傾向が強まったことは、本学としては追い風になっている。

日本語日本文学科においては収容定員の充足率が0.64 倍となっているが、他の学科に比べ実践的なスキルを身につける機会が少なく、就職市場での需要が低いと感じられてしまうことが影響していると考えられる。文学が持つ文化的価値や、将来のキャリアにどのように役立つかということを受験生に伝えられていないことが充足率の低い原因の一つだと考えられる。定員設定が実態に合っていないことも大きな原因である。英語文化コミュニケーション学科においては収容定員の充足率が0.54 倍となっているが、英語を活かした職業は多岐にわたり、特定の資格や専門知識が求められる職業が増えていることもあり、より専門的な学部を選ぶ傾向があることが考えられる。他学部での英語教育の充実が進んでいることも影響している。そのような中でも英語文化コミュニケーション学科はキャリア教育に力を入れ、高い就職実績を出しているが、英語や英文学とキャリア教育の関連を分かりやすく受験生に周知することができていないことも充足率の低い原因の一つだと考えられる。定員設定が実態に合っていないことも大きな原因である。

一方、生活デザイン学科における現行の45 名から80 名への定員増について、当該学科の最近5 年の収容定員の充足率は、どの年度も100%を上回っており、また本学への入学率が高いオープンキャンパスへの参加においても、当該学科希望者は、どの年度も定員数の約4～5 倍の参加者(全日程合計数)が認められている。したがって、定員を充足する見通しが強く、また、当該学科のみならず大学全体の定員充足に貢献することが期待される。

Ⅲ 学生確保の見通し

1. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

(1) 既設組織における取組とその目標

既設組織の学生募集のためのPR活動の実績について、【別紙3】の通りとなっている。

ア オープンキャンパス

2024 年度高校3年生の受験対象者総数 1, 291 名のうち約 43.7%に当たる 564 名が入学しており、2023 年度の実績を見ても同程度の比率で入学している。最終的な入学者数は 2023 年度が 766 名、2024 年度が 704 名であり、入学者の約 80%がオープンキャンパスに参加していることが分かる。

イ 祝日授業公開

2024 年度高校3年生の受験対象者総数 110 名のうち約 77.3%に当たる 85 名が入学しており、かなり高い確率で入学までつながられている。

ウ 進学相談会・高校ガイダンス

進学相談会においては、受験対象者総数 240 名のうち約 17.1%に当たる 41 名が入学している、高校ガイダンスにおいては、受験対象者総数 183 名のうち約 31.7%に当たる 58 名が入学している。

(2) 新設組織における取組とその目標

新設組織の学生確保のための募集活動においては、現在の高校生の進路選択の動きにあわせた時期設定をし、行動特性にあわせたツールを用いて広報を行うことを基本とし、「情報を届けたい層に情報を届ける」ことを意識した施策を実施していく。

ア 各種広報媒体による広報

大学案内や新設組織のパンフレット等の印刷物配布においては、通常の資料請求者への対応や各種イベントでの配布に加え、大手広告代理店の保有する受験生データへのダイレクトメール発送等、積極的にアプローチをしていく。SNSにおいては LINE と Instagram を活用する。LINE では、友だち登録を、しているアカウントに対し、イベントの告知や入試情報を発信するが、Instagram では、普段の学生生活や大学の様子が分かるような情報をする事で、ツールを使い分けて情報検索をする現在の高校生にあわせて情報を発信する。また、広告代理店が企画する進学情報サイトや受験雑誌等の各種メディアも活用し、幅広くPRしていく。さらに、地域協働活動等を実施している自治体の首長からの本学への関心も高いことから、当該地域に向けた PR も強化する。

イ オープンキャンパス

年間 7 回の実施を予定しているが、高校生の進路選択行動の早期化にあわせ、年度内の早いタイミングで実施する。「タイパ」を重視する現在の高校生にあわせ、大学のことを効率的に知ることができるよう、オンデマンド動画を活用しながら、短い時間で効率的に周ることができるようなタイムスケジュールを組んで実施する。また、リアルな学生生活を知ることができるように、在学生と関わる機会を多く創出する。内容としては、教員による学部説明や体験授業、学科の学びを紹介する企画および個別相談、在学生による施設見学および個別相談、職員による入試対策セミナーおよび個別相談、保護者対象の大学説明等、様々な催しを予定している。昨年度を超える来場者数を目標値とし、来場者には積極的に新学科の PR をする。来場した受験生や保護者に丁寧な対応を行うことにより、入学率を上げていきたい。

ウ 高校訪問

学生募集の事務を所管している入試課員とアドミッションズ・オフィス室員全員で高校訪問を行う。神奈川県・東京都・静岡県東部エリアから入試課が訪問対象高校を選定し、入試課員とアドミッションズ・オフィス室員全員に担当高校を割り当てる。訪問対象高校は約 260 校を予定している。訪問前にはマニュアルを作成し、アドミッションズ・オフィス室員向けに説明会を行うことで、精度の高い案内ができるよう準備をする。神奈川県・東京都・静岡県東部以外のエリアの高校についても、年 1～2 回は訪問する機会を設ける。高校教員への情報提供内容としては、大学・学科の魅力や入試制度のポイントに加え、訪問校生徒のアプローチ状況等も伝え、信頼関係を構築し、入学者の確保につなげる。訪問の際には大学案内や入試ガイドに加え、新学科の紹介に特化したチラシを作成し、新学科広報の効果を高められるよう工夫する。なお、高校訪問は専任職員だけでなく、元高校教員の業務委託スタッフと連携して取り組む。

エ 進学相談会

全国で開催される民間業者が主催する進学相談会は、入試課員とアドミッションズ・オフィス室員全員で対応し、約 100 会場の参加を予定している。神奈川県・東京都・静岡県が中心となるが、それ以外にも北関東や東北、長野県等の会場にも参加する。大学案内等各種パンフレットを配付しながら、個別相談で大学・学科の魅力や入試制度のポイント等、幅広く情報を提供することにより、広域から学生を確保することの効果が期待される。新学科の紹介に特化したチラシを持参し、新学科の広報を積極的に行う。

オ 高校ガイダンス

各高校からの参加依頼に応える形での参加になるが、積極的に参加をしていく考えである。依頼内容は大学説明の場合もあれば、学問系統の説明の場合もあるが、特に大学説明の依頼の際には、新学科の広報を積極的に行う。なお、2023 年度の参加校数は 213 回であった。

(3) 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

上記取組を行うことにより、地域クリエーション学科 60 名を確保する。既設組織における過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析については、【別紙 3】の通りとなっており、各取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者数は 60 名（オープンキャンパス 48 名、祝日授業公開 4 名、進学相談会 3 名、高校ガイダンス 5 名）である。また、入学者数の見込みを立てることが困難であり、計算に含めていない高校訪問の取り組みもあることから、新設組織における定員充足においては十分な見込みがあるものと考えている。

2. 競合校の状況分析

(1) 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

【競合校の選定理由】

地域クリエーション学科は4年制の通学制の学科で、収容定員は 250 人である。広義の社会学、家政学を基盤に、「地域固有の資源を発掘し、地域の食、観光についてのグローバルな視点からの専門的知見をもとに地域の持続可能なウェルビーイングを総合的に分析、実践し、取組みをストーリー化して広く地域内外に発信できる人材」の育成をめざしている。学生は 4 年間一貫して神奈川県相模原市南区にあるキャンパスで学ぶ。キャンパスは最寄り駅の小田急線相模大野駅から徒歩 15 分、新宿駅や横浜駅からキャンパスまで 1 時間以内に到達できる交通至便な場所である。都市部にありながら緑あふれる広大なキャンパスを有し、相模大野周辺ではいまなお大規模な高層マンションの建設が相次いでいる。地域クリエーション学科が開設される人間社会学部の偏差値は 43～49（マナビジョン、2025 年度入試対応）となっている。

この点を踏まえ、4年生の通学制の学科で、立地条件および教育内容が比較的類似しており、学力層が本学と著しい乖離がなく、既存学科において本学と併願の見られる大学の以下の5学科・学類を選択した。

- ・桜美林大学ビジネスマネジメント学群
- ・東海大学観光学部観光学科
- ・文教大学国際学部国際観光学科
- ・國學院大學観光まちづくり学部観光まちづくり学科
- ・神奈川大学国際日本学部国際文化交流学科

学校名	定員(人) 充足率	学問分野 (学士号)	所在地	学力層 ※
相模女子大学人間社会学部 地域クリエーション学科	250 人	地域クリエーション学	相模原市南区	43～49
桜美林大学 ビジネスマネジメント学群	1,680 人 114.2%	経営政策学	東京都新宿区	46～50
東海大学観光学部 観光学科	800 人 113.0%	観光学	神奈川県平塚市 東京都港区	50～53
文教大学国際学部 国際観光学科	500 人 118.4%	国際学	東京都足立区	54～58
國學院大學観光まちづくり学部 観光まちづくり学科	900 人 106.7%	観光 まちづくり	横浜市青葉区	61～64
神奈川大学国際日本学部 国際文化交流学科	680 人 109.0%	文学	横浜市西区	55～62

※: マナビジョンの 2025 年度入試対応偏差値データを掲載

定員規模でみると、桜美林大学ビジネスマネジメント学群の収容定員 1,680 人を筆頭に、いずれの学科・学群も地域クリエーション学科に比べ数倍規模と大きくなっているが、1学部1学科・1学類であること(桜美林大学、東海大学、國學院大學)や、コース分けされていること(東海大学、神奈川大学)から、地域クリエーション学科と共通・類似分野における各学科の定員規模に関しては表面上の数値ほど大きく乖離していない(最大 2 倍程度)。

学問分野に注目すると、学士号の名称は各学科さまざまで、各大学においてこれらの学科を開設する際の経緯を踏まえ文学系から経営系まで多岐にわたるが、いずれも文学(文化)、社会学、経済・経営学、行政学(政策)など複数の学問系統をベースに学際的に観光、ホスピタリティを学ぶ学科であるという点では共通している。ただし、教育内容として、ホスピタリティやツーリズムなどのサービスに重きを置く学科(桜美林大学、神奈川大学)と、観光資源を軸に据えた地域マネジメントに重きを置く学科(國學院大學)と、両方をバランスよくめざす学科(東海大学、文教大学)に分かれる。地域クリエーション学科はバランス型である。

所在地に関しては、本学の学生募集地域の中核をなす神奈川県および東京都に所在する。交通面で見た場合、本学および競合校はいずれも最寄駅から徒歩 5～15 分の立地で、最寄り駅を通る鉄道は日中1時間当たり 6 本以上の運行があり、ほぼ類似した条件と見なすことが可能である。

学力層的には、國學院大學の偏差値が高めであるが、共学であること(同分野の女子大学に比べ偏差値が高くなる点)を考慮し、教育内容、立地上の類似性の観点から競合校として挙げている。

【競合校との比較分析】

まず、教育内容および方法に関して、相模女子大学地域クリエーション学科では、教員の所属母体が、栄養士資格を取得し主に給食分野に人材を輩出してきた短期大学部食物栄養学科(2026 年度学生募集停止)から3人、ホスピタリティ・ツーリズム分野に人材を輩出してきた学芸学

部英語文化コミュニケーション学科(2026 年度学生募集停止)から3人、地域マネジメント分野で人材を輩出してきた人間社会学部社会マネジメント学科から3人という構成になっていることから、観光系学科でありながら競合校には見られない食品衛生および大量調理分野の実践的教育を実施できる点が特徴として挙げられる。食材調達から衛生管理、公衆衛生、調理学に関する食にかかわる実践的、専門的な教育を全学生に実施できる点は、これら競合校と大きく差別化できる優位性を持つ。

また、「日経グローバル」誌の「大学の地域貢献度ランキング」において 2011 年度から 9 期連続で全国女子大学第 1 位を背景とした全国各地域との連携関係を活かして、農業体験・インターンシップ、駅弁事業者や観光施設でのインターンシップなど、実践的な学びの場が十分に確保されている点も、これら競合校に引けを取らないものとなっている。さらに、学生が一方的に地域や企業に出かけて学ぶだけではなく、学園祭地域物産展や首都圏でのイベントでの特産品販売や地域 PR などの活動面で、連携地域や連携企業と協働する機会もすでに多く確保されていることから、ホスピタリティのみならず地域マネジメントの分野においても実践的に学べる点は競合校にはない魅力であろう。

このほか、学科の入学定員が 60 人(ほかに編入学 5 人)と少ないことから、授業全般において競合校と比べて学生と教員との距離が近い教育をできることも特筆できよう。

	入試形態	入試日※	手続き最終日
相模女子大学人間社会学部 地域クリエイション学科	総合型 9 月【アピール・探究・部活動】	9/13	11/10
	総合型 10 月【アピール・調査書・部活動・基礎学力】	10/11	11/10
	総合型 11 月【アピール・調査書・部活動】	11/8	12/1
	社会人①(11 月)	11/8	12/1
	学校推薦型選抜、同窓生特別推薦選抜	11/15、16	12/8
	総合型 12 月【アピール・調査書・部活動】	12/13	12/25
	一般選抜 A 日程	1/24	2/6
	社会人②	2/4	2/19
	一般選抜 B 日程	2/6	2/19
	一般選抜 C 日程	2/18	2/27
	総合型 3 月【アピール・調査書・部活動】	3/4	3/16
	学校推薦型選抜、同窓生特別推薦選抜	3/4	3/16

桜美林大学 ビジネスマネジメント学群	総合 総合型キリスト教、スポーツ	10/19	11/15
	総合 総合型キリスト教、スポーツ	12/7	1/10
	総合 総合型基礎学力	9/28	11/15
	総合 総合型基礎学力	11/17	1/10
	総合 総合型奨学生	10/19	11/15
	総合 総合型総合評価	10/19	11/15
	総合 総合型総合評価	12/7	1/10
	総合 探究コンテスト、探究プレゼン	10/19	11/15
	総合 探究コンテスト、探究プレゼン	12/7	1/10
	総合 探究ディスカバ	10/9	11/15
	総合 探究ディスカバ	12/7	1/10
	総合 探究ディスカバ	1/11	1/24
	総合 探究ディスカバ	3/6	3/14
	推薦 公募制専願推薦、公募制併願推薦	11/23	12/16
	一般 前期(2～3教科)	2/1～4	2/13
	一般 中期(2教科)	2/19	3/5
	一般 後期(2教科)	3/6	3/14
	一般 共通テスト前期 plus(一＋共)	2/1～4	2/13
	一般 共通テスト前期(3～5教科)	1/17	2/13
	一般 共通テスト中期(2～3教科)	2/13	3/5
	一般 共通テスト中期 plus(一＋共)	2/19	3/5
	一般 共通テスト後期(2～3教科)	2/27	3/14
	一般 共通テスト後期 plus(一＋共)	3/6	3/14
東海大学観光学部 観光学科	総合 総合型学科課題型	10/20	11/14
	推薦 公募制学校推薦型	11/17	12/13
	一般 観光(3教科)	2/7～10	2/28
	一般 文系学部統一前期(3教科)	2/2、3	2/19
	一般 文系学部統一後期(3教科)	2/28	3/11
	一般 共通テスト前期(3教科)	1/27	2/19
	一般 共通テスト後期(3教科)	3/5	3/19
文教大学国際学部 国際観光学科	総合 総合型課題遂行型1期	10/13	11/11
	総合 総合型課題遂行型2期	12/1	12/17
	総合 総合型資格優先型1期	10/13	11/11
	総合 総合型資格優先型2期	12/1	12/17
	推薦 公募制推薦	11/17	12/13
	一般 A(2～3教科)	2/7～9	2/27
	一般 全国(3教科)	2/1	2/14
	一般 B(1教科)	2/24	3/11
	一般 C1(1教科)	3/4	3/14
	一般 C2(英語検定+面接)	3/4	3/15
	一般 共通テスト1期(3教科)	1/17	2/25
	一般 共通テスト2期(1～2教科)	2/3	2/27
	一般 共通テスト3期(1～2教科)	2/25	3/14
國學院大學観光まちづくり学	総合 公募制自己推薦	11/10	11/27

部 観光まちづくり学科	一般 A(3教科)	2/2～4	2/20
	一般 B(2教科)	3/2	3/19
	一般 共通テスト(3/5教科)	1/17	2/20
神奈川大学国際日本学部 国際文化交流学科	総合 AO	10/13	11/12
	総合 スポ音楽推薦公募	10/3,26,28	12/12
	総合 自己推薦英語能力	11/17	12/12
	総合 自己推薦文化芸術	11/17	12/12
	一般 前期3科目型 A 方式(3教科)	2/4、6～8	2/27
	一般 前期得意科目型B方式(2教科)	2/7	2/27
	一般 後期3科目型 A 方式(3教科)	3/4	3/18
	一般 共通テスト前期(3教科)	1/17	2/25
	一般 共テ前期併用型C方式(一＋共)	2/7	2/27
	一般 共通テスト後期(3教科)	2/21	3/18

相模女子大学のみ 2026 年度入試、その他の大学は 2025 年度入試

※ 共通テスト型の場合は出願締切日を記載

一方、入試に関しては、総合型選抜においても一般入試においても本学が競合校に比べ先行して実施することから志願者募集上は有利であるが、そのぶん入学手続きも早くなっていることから、本学を第1志望としない志願者が本学に合格しても競合校に流れる可能性が危惧される。また、一般入試の最終時期が競合校に比べ約2週間早くなっている。そのため、地域クリエーション学科で学ぶことのメリットやキャリア形成における可能性をオープンキャンパス等でしっかりと周知して、志願者に理解してもらい、第1志望先としてもらうことが本学を選択してもらう有効な方法となろう。また、本学の受験状況を見ると、推薦入試の入学者比率が年々高まっているが、2026 年度入試では、推薦入試において従来の地方会場での対面実施に代えてオンライン面接入試を導入することにより、全国各地からの受験が容易となる。この新方式の導入は競合校に対し有利に働く可能性がある。

学校名	初年度納付金	大学独自の奨学金制度
相模女子大学人間社会学部 地域クリエーション学科	1,468,000 円 (2026 年度)	原則貸与 給付(入試、緊急、留学)
桜美林大学 ビジネスマネジメント学群	1,364,000 円 (2025 年度)	原則減免 給付(入学後学業、留学)
東海大学観光学部 観光学科	1,376,300 円 (2025 年度)	原則給付 貸与(緊急)
文教大学国際学部 国際観光学科	1,322,000 円 (2025 年度)	給付
國學院大學観光まちづくり学部 観光まちづくり学科	1,325,300 円 (2025 年度)	給付
神奈川大学国際日本学部 国際文化交流学科	1,276,300 円 (2025 年度)	給付(減免を含む)

次に、学生納付金および奨学金などの修学支援制度について比較を行う。

まず、学生納付金に着目すると、2025 年度入学生と 2026 年度入学生という年度の違いは存在するが、地域クリエーション学科の初年度納付金は、競合校に比べ約 10 万円から約 20 万円高額になっている。後述するように、食品衛生、大量調理分野などの食に関する教育を実施するために必要な実習室や器材を備えるために施設費が文系学科に比べ約 10 万円高くなることが要因である。その意味では競合校に比べ優位性は失われている。しかし、表に未掲載の競合校の理系学部と比べると初年度納付金は数十万円程度安価になっていることや、本学の栄養科学部に比べると安価になっていることを踏まえ、地域クリエーション学科が文理融合型学科であり、入学者が望めば全員が国家資格である食品衛生管理者、食品衛生監視員資格を取得可能なこと、そのことが卒業後、食・農・観光分野で即戦力となることをしっかりと志願者に伝えることにより、学生納付金はやや高くなるのが大学選択で劣位に立たない努力を行いたい。

一方、奨学支援制度については、本学は競合校と比べ限られている。大学独自の給付型奨学金は入試時点の成績で決定される特別奨学生および地方学生支援特別奨学金制度が中心で、その他として協定校に留学に行く学生に給付する奨学金および経済状況激変時に半期のみ給付する緊急給付奨学金しか存在しない。そのため、奨学金の大部分は日本学生支援機構の給付型、貸与型奨学金である。したがって、入学者には貸与型奨学金を利用することを前提に、1 年次春学期の必修科目「マクロ経済学」の授業内で、バランス・シートの観点から奨学金を借用して就学することの価値や、物価上昇や金利との関係において貸与型奨学金のメリットをしっかりと伝え、経済的事情で休退学が生じないような教育を行う計画である。オープンキャンパスでも、国の修学支援制度を利用することのメリットを伝え、進学をあきらめたり、給付や貸与を受けることに伴う躊躇やマイナス・イメージの払拭に努めたい。

学校名	2023 年度就職率
相模女子大学 人間社会学部 地域クリエーション学科	2026 年度開設
桜美林大学 ビジネスマネジメント学群	97.5%
東海大学 観光学部 観光学科	100.0%
文教大学 国際学部 国際観光学科	94.1%
國學院大學 観光まちづくり学部 観光まちづくり学科	2022 年度開設
神奈川大学 国際日本学部 国際文化交流学科	97.1%

続いて、就職支援状況について競合校と比較を行う。相模女子大学は女子大学で学生数が少ないことから、就職支援課が学生一人ひとりに寄り添った就職支援を強化し、これまでに顕著な成果を上げている。競合校の 2023 年度(2024 年 5 月現在)の就職率は 94.1%から 100.0%である。それに対し、過去 3 年間の短期大学部を含む全学部合わせた就職率は 98%を超えており、その要因として個別指導の充実が挙げられる。就職支援課では、就職支援講座の実施に加え、学生一人ひとりと面談を行い、個々のニーズに合わせたサポートを提供している。このようなきめ細かな支援が、高い就職率を支える原動力となっている。この点では競合校と比べて優位に立つと考えら

れる。

最後に、資格面では、観光関係の国家資格として「(総合／国内)旅行業務取扱管理者」「通訳案内士」資格が存在するが、授業履修・単位取得だけでは資格取得はできず、国家試験の受験が必要であることから、競合校においては資格支援のための講座等を開講している。地域クリエーション学科においても講義科目の「資格支援講座」において「(総合／国内)旅行業務取扱管理者」の国家試験受験を支援する体制を整えている。

このほかの国家資格として、桜美林大学、東海大学において「学芸員」の資格取得が可能となっているほか、文教大学において「通関士」資格をめざすとしている。これらの資格は競合校の観光教育の方向性を示している。

それに対し、地域クリエーション学科では、指定科目の単位取得により「食品衛生管理者・食品衛生監視員(任用資格)」、「二等無人航空機操縦士」(実技試験免除、学科試験のみ受験)の国家資格が取得できる体制をとっている。また、講義科目の「無線通信技術と法」において「第三級陸上特殊無線技士」の国家試験受験を支援する体制を整えている。学科の人材育成目標を目に見える形でこれらの資格取得をカリキュラムの中に位置づけており、競合校の資格取得内容とは一線を画すものとなっている。なお、「二等無人航空機操縦士」の資格取得支援については、東海大学において、学生が課外活動として比較的安価に資格取得ができるようにしている。

(2) 競合校の入学志願動向等

競合校として設定した大学の過去 3 年間の志願状況は【資料 2】の通りである。地域クリエーション学科の競合校では、3 年間分の数値が確認できている大学の 3 年間の志願倍率平均値をみると、桜美林大学ビジネスマネジメント学群が 7.2 倍、東海大学観光学科が 6 倍、國學院大學観光まちづくり学科が 6.9 倍であり、いずれも十分な志願者を確保し、入学定員を充足している。上記大学の志願者数の合計の平均値をみると、国際コミュニケーション学科の競合校では 4 校合計で 2,844 名、地域クリエーション学科の競合校では 6,737 名である。以上のことから、地域クリエーション学科においても入学者を確保できると考える。

(3) 新設組織において定員を充足できる根拠等(競合校定員未充足の場合のみ)

該当なし

(4) 学生納付金等の金額設定の理由

新設組織となる地域クリエーション学科の入学時納入金は、授業料 770,000 円、施設・設備費 390,000、実験実習費 48,000 円(予定)、入学金 260,000 円に設定している。地域クリエーション学科は人間社会学部に設置され、既設学科の社会マネジメント学科・人間心理学科と比較して高めの設定となっている。これは、学科の特色でもあり競合校には見られない大量調理分野の教育を実施するための施設を擁しているためである。初年度納付金は入学金の金額設定上、競合校と比

較してやや高めとなつてはいるものの、自治会費や後援会費を除いた 4 年間の納付金は 4,993,000 円と、同分野の競合校と比較しても平均的な金額となっている。

大学及び学部運営にあたり、永続的に教育・研究活動が行えることはもちろん、競合校と比較しても差別化された教育内容や設備、中規模大学としての利点を活かしたキャリア教育を展開するための体制整備等、学生への還元を考慮した上で校納金を設定している。

学校名	学生納付金(2025 年度)
相模女子大学 人間社会学部 地域クリエーション学科	4,993,000 円(2026 年度予定)
桜美林大学 ビジネスマネジメント学群	5,206,000 円
東海大学 観光学部 観光学科	5,290,200 円
文教大学 国際学部 国際観光学科	4,520,000 円
國學院大學 観光まちづくり学部 観光まちづくり学科	4,628,200 円
神奈川大学 国際日本学部 国際文化交流学科	4,880,300 円

3. 先行事例分析

地域クリエーション学科の設置にあたり、短期大学部食物栄養学科および学芸学部英語文化コミュニケーション学科の学生募集を停止し、これらの学科の教育内容を組み込む形でカリキュラムを構成している。

近隣大学において、学生募集を停止した／する事例として、大妻女子大学短期大学部家政科生活総合ビジネス専攻(2025 年度)、日本大学短期大学部食物栄養学科(2025 年度)、帝京短期大学生活科学科食品栄養専攻(2026 年度)、戸板女子短期大学食物栄養科(2026 年度)が挙げられる。いずれの学科も廃止後に廃止した学科を包含する形で新学科を設置することは発表されていないことから、先行事例に該当するものは存在しないと言えよう。

大妻女子大学短期大学部家政科生活総合ビジネス専攻(2025 年度)

https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/basic_data/students/#target01

日本大学短期大学部食物栄養学科(2025 年度)

<https://www.ir.nihon-u.ac.jp/jc/admission/data-student/#data-student02>

帝京短期大学生活科学科食品栄養専攻(2026 年度)

<https://www.teikyo-jc.ac.jp/app/wp-content/uploads/2024/10/20240805.pdf>

戸板女子短期大学食物栄養科(2026 年度)

https://www.toita.ac.jp/toitapicks/news_category/64031/

4. 学生確保に関するアンケート調査

地域クリエーション学科の設置にあたり、同学科への志願者・入学者等の学生確保の見込みを測定することを目的に株式会社高等教育総合研究所を介してアンケート調査を実施した。【資料 3】

対象は、令和8年3月に高校卒業予定の高校2年生(令和6年度現在)とし、令和6年12月に開

催したオープンキャンパスでの配付と令和7年1月～令和 7 年3月にかけて本学の所在する神奈川県や主たる学生募集エリアと想定される近隣都県の高等学校 42 校から調査の協力を得て実施した。

高校へのアンケート調査は、協力校に対し、アンケート用紙と学科の内容を紹介する「相模女子大学 2026 年度設置構想 人間社会学部地域クリエーション学科(学科名仮称) 学芸学部国際コミュニケーション学科(学科名仮称)」のリーフレットを送付し、高校側の希望に基づき、紙方式・WEB 方式のいずれかの方法で回答を募った。アンケート調査の回答は、株式会社高等教育総合研究所に直接送付され集計された。なお、アンケート用紙を送付した協力校には、共学校も含まれていたが、集計にあたっては女子のみを抽出している。調査内容は、回答者の基本情報(性別、居住地)、卒業後の志望進路、志望する大学等の設置者、興味のある学問分野、地域クリエーション学科及び同時に設置する学芸学部国際コミュニケーション学科への受験・入学意向とし、5, 288 件の有効回答を得た。

アンケート調査をクロス集計した結果、地域クリエーション学科に対し受験意向を持ち、「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望として受験する」を選択したのは合計 206 名で、予定する入学定員 60 名の 3.4 倍の水準におよぶことが明らかとなった。また、「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は 22 名おり、同学科に合格した場合、確実に入学が見込まれる。「第二志望として受験する」「第三志望として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した合計 145 名は、他大学の合否次第ではあるが、この中から 38 名(26.2%)の入学者がいれば「入学する」とした 22 名とあわせ入学定員の充足が可能であり、必要十分な人数の高校生が同学科を志願しているといえる。

なお、高校卒業後の進路に「大学」、志望する大学の設置者に「私立」を選択し、興味のある学問分野として「社会学・家政学」を選択した上で同学科に受験・入学意向を示した人数を集計した合計は 170 名であり、同学科を「第一志望として受験する」として「入学する」と回答した人数と「第二志望として受験する」「第三志望として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合は入学する」と回答した人数を集計した合計は 32 名であった。入学定員を下回る結果となったが、同学科の学位の分野は「社会学・社会福祉学関係、家政関係」ではあるものの、その学びの内容としては地域振興、地域の食や文化、地域分野やウェルビーイングの実践に関心を持つ高校生をそのターゲットとしていることから、学位の分野＝社会学・社会福祉学関係、家政関係とは認識されていないが、人文・社会科学分野に関心を持つ幅広い層への訴求が可能と思われる。

5. 人材需要に関するアンケート調査等

2025 年 1～2 月に主に首都圏に位置する 1,270 軒の事業所を対象に実施した人材需要アンケート調査(有効回収数:224 件、有効回答率 17.64%)【資料 4】によれば、地域クリエーション学科が養成する人材について「社会的ニーズは高い」「社会的ニーズはある程度高い」と回答した割合は計 83.0%、「採用したい」と回答した割合は 64.7%、複数人採用したいと回答した割合は計 42.1%となっており、地域クリエーション学科の卒業生に対する期待が高いことが示された。

記述回答を見ると、福祉関係の事業所の回答が 6 分の 1 を占めているため、栄養士や福祉関係の資格を取得する学生が輩出されないのでは採用は難しい旨の記述はあるものの、食や農、地域活性化の領域で実践的な人材を輩出することに期待する意見も多く、アンケート結果を見る限り、量的にも質的にも地域クリエーション学科が養成する人材に対するニーズが高いことが読み取れる。

IV 新設組織の定員設定の理由

地域クリエーション学科は、既設組織である学芸学部英語文化コミュニケーション学科のホスピタリティ・ツーリズム分野、人間社会学部社会マネジメント学科の地域マネジメント分野、短期大学部食物栄養学科の食と栄養分野を融合させ、食、観光を中心とした地域固有の資源の発掘を図り、それをもとに地域創造、地域活性化に取り組むことを目的としており、人材需要に関するアンケート調査においても、83.0%の回答者が本学科の養成する人材への社会的ニーズが「高い」あるいは「ある程度高い」と評価し、64.7%がその卒業生を「採用したい」と回答しており、高いニーズが示されている。また、受験生の志願動向をみると、近隣の競合校でも入学定員を充足している大学が多い。

当学科の定員設定については、これら社会的な人材需要の状況や採用実績のある企業からの具体的な調査結果、近隣の競合校の志願動向、学生確保に関するアンケート結果、主たる学生募集エリアである東京都・神奈川県の 18 歳人口の推移、さらには大学全体の定員規模等を勘案し総合的に踏まえたものであり、合理性のある設定であると考えている。

学生の確保の見通し等を記載した書類 資料目次

資料 1 「相模女子大学・相模女子大学短期大学部出身都道府県別入学者数」	2
別紙 1 「新設組織が置かれる都道府県への入学状況」	3
別紙 2 「既設学科等の入学定員の充足状況(直近5年間)」	4
別紙 3 「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績」	14
資料 2 「地域クリエーション学科競合校入試状況」	15
資料 3 「相模女子大学新学科設置構想についての高校生アンケート調査報告書」	16
資料 4 「相模女子大学新学科設置構想についての人材需要アンケート調査報告書」	34

【資料1】相模女子大学・相模女子大学短期大学部出身都道府県別入学者数

都道府県	2020年度	割合	2021年度	割合	2022年度	割合	2023年度	割合	2024年度	割合
北海道	2	0.19	1	0.11	3	0.37	0	0.00	4	0.60
青森県	4	0.38	1	0.11	2	0.25	1	0.14	1	0.15
岩手県	1	0.09	1	0.11	0	0.00	0	0.00	0	0.00
宮城県	1	0.09	2	0.23	2	0.25	2	0.28	1	0.15
秋田県	2	0.19	1	0.11	2	0.25	1	0.14	1	0.15
山形県	1	0.09	3	0.34	4	0.50	2	0.28	4	0.60
福島県	9	0.85	3	0.34	10	1.25	8	1.13	0	0.00
茨城県	9	0.85	4	0.45	2	0.25	2	0.28	3	0.45
栃木県	11	1.04	1	0.11	9	1.12	5	0.71	3	0.45
群馬県	7	0.66	10	1.13	4	0.50	4	0.56	1	0.15
埼玉県	5	0.47	4	0.45	0	0.00	0	0.00	1	0.15
千葉県	2	0.19	6	0.68	3	0.37	3	0.42	3	0.45
東京都	111	10.51	101	11.40	80	9.99	75	10.58	61	9.09
神奈川県	774	73.30	686	77.43	604	75.41	545	76.87	538	80.18
新潟県	21	1.99	10	1.13	11	1.37	7	0.99	7	1.04
富山県	3	0.28	1	0.11	0	0.00	2	0.28	1	0.15
石川県	2	0.19	2	0.23	1	0.12	2	0.28	0	0.00
福井県	1	0.09	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.15
山梨県	8	0.76	8	0.90	7	0.87	4	0.56	5	0.75
長野県	15	1.42	5	0.56	7	0.87	4	0.56	6	0.89
岐阜県	2	0.19	0	0.00	1	0.12	0	0.00	0	0.00
静岡県	46	4.36	23	2.60	34	4.24	29	4.09	21	3.13
愛知県	1	0.09	1	0.11	2	0.25	1	0.14	1	0.15
三重県	1	0.09	0	0.00	2	0.25	0	0.00	0	0.00
滋賀県	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
京都府	1	0.09	0	0.00	0	0.00	1	0.14	1	0.15
大阪府	0	0.00	3	0.34	0	0.00	0	0.00	1	0.15
兵庫県	1	0.09	0	0.00	1	0.12	1	0.14	0	0.00
奈良県	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
和歌山県	0	0.00	1	0.11	0	0.00	0	0.00	0	0.00
鳥取県	0	0.00	0	0.00	1	0.12	0	0.00	0	0.00
島根県	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
岡山県	1	0.09	0	0.00	0	0.00	1	0.14	1	0.15
広島県	2	0.19	0	0.00	0	0.00	1	0.14	0	0.00
山口県	0	0.00	0	0.00	1	0.12	0	0.00	0	0.00
徳島県	1	0.09	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
香川県	1	0.09	0	0.00	1	0.12	0	0.00	0	0.00
愛媛県	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.14	1	0.15
高知県	1	0.09	0	0.00	0	0.00	1	0.14	1	0.15
福岡県	2	0.19	1	0.11	1	0.12	2	0.28	0	0.00
佐賀県	0	0.00	0	0.00	1	0.12	1	0.14	0	0.00
長崎県	0	0.00	1	0.11	0	0.00	0	0.00	0	0.00
熊本県	1	0.09	1	0.11	0	0.00	0	0.00	0	0.00
大分県	0	0.00	0	0.00	1	0.12	0	0.00	0	0.00
宮崎県	0	0.00	3	0.34	1	0.12	0	0.00	0	0.00
鹿児島県	1	0.09	0	0.00	2	0.25	0	0.00	2	0.30
沖縄県	4	0.38	2	0.23	1	0.12	3	0.42	1	0.15
その他	1	0.09	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
合計	1056		886		801		709		671	

●1都2県（東京都・神奈川県・静岡県）の入学者状況

2020	2021	2022	2023	2024
88.16%	91.42%	89.64%	91.54%	92.40%

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	神奈川県	18,080人	52.2%
2	東京都	10,365人	29.9%
3	千葉県	2,239人	6.5%
4	静岡県	2,065人	6.0%
5	埼玉県	1,897人	5.5%
	全 体	34,646人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	神奈川県	100.33%	98.85%	96.29%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	人文科学系学部（大学）	98.93%	96.28%	95.96%
2	社会科学系学部（大学）	102.73%	102.70%	102.48%
	家政学部（大学）	95.28%	89.01%	83.78%

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	30人	25人	25人	25人	25人	26人
	延べ人数	32人	24人	19人	21人	14人	22人
	志願者数	32人	24人	19人	21人	14人	22人
	受験者数	32人	24人	19人	21人	14人	22人
	合格者数	32人	24人	19人	20人	14人	22人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	2人	1人	0人	0人	0人	1人
	実人数	32人	24人	19人	21人	14人	22人
	志願者数	32人	24人	19人	21人	14人	22人
	受験者数	32人	24人	19人	21人	14人	22人
	合格者数	32人	24人	19人	20人	14人	22人
学校推薦型選抜	募集人数	29人	23人	19人	19人	13人	21人
	延べ人数	65人	65人	65人	65人	55人	63人
	志願者数	66人	63人	46人	41人	38人	51人
	受験者数	66人	62人	46人	41人	38人	51人
	合格者数	63人	62人	46人	41人	38人	50
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	66人	63人	46人	41人	38人	50.8
	志願者数	66人	62人	46人	41人	38人	50.6
	受験者数	66人	62人	46人	41人	38人	50
	合格者数	63人	62人	46人	41人	38人	50
一般選抜	募集人数	62人	62人	46人	39人	38人	49.4
	延べ人数	24人	27人	27人	27人	20人	25
	志願者数	156人	86人	64人	46人	31人	76.6
	受験者数	141人	72人	55人	38人	27人	66.6
	合格者数	80人	51人	50人	38人	25人	48.8
	うち追加合格者数	0人	3人	0人	0人	0人	0.6
	辞退者数	12人	18人	13人	12人	4人	11.8
	実人数	156人	86人	64人	46人	31人	76.6
	志願者数	141人	72人	55人	38人	27人	66.6
	受験者数	80人	51人	50人	38人	25人	48.8
	合格者数	80人	51人	50人	38人	25人	48.8
共通テスト利用入試	募集人数	41人	16人	12人	11人	6人	17.2
	延べ人数	11人	13人	13人	13人	10人	12
	志願者数	195人	111人	66人	49人	37人	91.6
	受験者数	195人	111人	66人	49人	37人	91.6
	合格者数	95人	63人	58人	42人	37人	59
	うち追加合格者数	0人	2人	0人	0人	0人	0.4
	辞退者数	11人	3人	3人	1人	1人	3.8
	実人数	195人	111人	66人	49人	37人	91.6
	志願者数	195人	111人	66人	49人	37人	91.6
	受験者数	95人	63人	58人	42人	37人	59
	合格者数	95人	63人	58人	42人	37人	59
その他の特別選抜	募集人数	20人	6人	2人	2人	1人	6.2
	延べ人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	志願者数	2人	2人	0人	3人	2人	1.8
	受験者数	1人	2人	0人	3人	2人	1.6
	合格者数	1人	2人	0人	3人	2人	1.6
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	2人	2人	0人	3人	2人	1.8
	志願者数	1人	2人	0人	3人	2人	1.6
	受験者数	1人	2人	0人	3人	2人	1.6
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	募集人数	130人	130人	130人	130人	110人	126人
	延べ人数	451人	286人	195人	160人	122人	243人
	志願者数	435人	271人	186人	152人	118人	232人
	受験者数	271人	202人	173人	144人	116人	181人
	合格者数	271人	202人	173人	144人	116人	181人
	うち追加合格者数	0人	5人	0人	0人	0人	1人
	辞退者数	25人	22人	16人	13人	5人	16人
	実人数	451人	286人	195人	160人	122人	243人
	志願者数	435人	271人	186人	152人	118人	232人
	受験者数	271人	202人	173人	144人	116人	181人
	合格者数	271人	202人	173人	144人	116人	181人
入学定員充足率	募集人数	130人	130人	130人	130人	110人	126人
	延べ人数	451人	286人	195人	160人	122人	243人
	志願者数	435人	271人	186人	152人	118人	232人
	受験者数	271人	202人	173人	144人	116人	181人
	合格者数	271人	202人	173人	144人	116人	181人
	うち追加合格者数	0人	5人	0人	0人	0人	1人
	辞退者数	25人	22人	16人	13人	5人	16人
	実人数	451人	286人	195人	160人	122人	243人
	志願者数	435人	271人	186人	152人	118人	232人
	受験者数	271人	202人	173人	144人	116人	181人
	合格者数	271人	202人	173人	144人	116人	181人
歩留率	募集人数	130人	130人	130人	130人	110人	126人
	延べ人数	451人	286人	195人	160人	122人	243人
	志願者数	435人	271人	186人	152人	118人	232人
	受験者数	271人	202人	173人	144人	116人	181人
	合格者数	271人	202人	173人	144人	116人	181人
	うち追加合格者数	0人	5人	0人	0人	0人	1人
	辞退者数	25人	22人	16人	13人	5人	16人
	実人数	451人	286人	195人	160人	122人	243人
	志願者数	435人	271人	186人	152人	118人	232人
	受験者数	271人	202人	173人	144人	116人	181人
	合格者数	271人	202人	173人	144人	116人	181人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	130人	130人	130人	130人	110人	126
入 学 定 員 充 足 率	1.18	0.84	0.61	0.57	0.55	0.75
歩 留 率	0.56	0.54	0.46	0.51	0.52	0.52

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
 本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないので、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

大学学部学科等名：相模女子大学学芸学部英語文化コミュニケーション学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	25人	25人	25人	25人	25人	25人
	延べ人数	24人	17人	16人	13人	9人	16人
	志願者数	24人	17人	16人	13人	9人	16人
	受験者数	24人	17人	16人	13人	9人	16人
	合格者数	24人	17人	16人	13人	9人	16人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	2人	0人	0人	0人	0人
	実人数	24人	17人	16人	13人	9人	16人
	志願者数	24人	17人	16人	13人	9人	16人
	受験者数	24人	17人	16人	13人	9人	16人
	合格者数	24人	17人	16人	13人	9人	16人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	2人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	入学者数	23人	15人	16人	13人	9人	15人
	募集人数	60人	60人	60人	60人	55人	59人
	延べ人数	84人	52人	41人	37人	31人	49人
	志願者数	83人	52人	41人	37人	31人	49人
	受験者数	73人	52人	41人	37人	31人	46.8
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0.2
	辞退者数	84人	52人	41人	37人	31人	49
	志願者数	83人	52人	41人	37人	31人	48.8
	受験者数	73人	52人	41人	37人	31人	46.8
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0.2
	辞退者数	70人	50人	41人	37人	30人	45.6
一般選抜	入学者数	70人	50人	41人	37人	30人	45.6
	募集人数	24人	24人	24人	24人	20人	23.2
	延べ人数	147人	79人	54人	38人	10人	65.6
	志願者数	138人	70人	45人	34人	10人	59.4
	受験者数	64人	56人	42人	33人	10人	41
	合格者数	0人	3人	0人	0人	0人	0.6
	うち追加合格者数	17人	24人	11人	9人	0人	12.2
	辞退者数	147人	79人	54人	38人	10人	65.6
	志願者数	138人	70人	45人	34人	10人	59.4
	受験者数	64人	56人	42人	33人	10人	41
	合格者数	0人	3人	0人	0人	0人	0.6
	うち追加合格者数	17人	24人	11人	9人	0人	12.2
	辞退者数	23人	10人	5人	6人	2人	9.2
共通テスト利用入試	入学者数	23人	10人	5人	6人	2人	9.2
	募集人数	11人	11人	11人	11人	10人	10.8
	延べ人数	182人	102人	75人	29人	17人	81
	志願者数	182人	102人	74人	29人	17人	80.8
	受験者数	82人	88人	74人	29人	17人	58
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	12人	7人	1人	0人	0人	4
	辞退者数	182人	102人	75人	29人	17人	81
	志願者数	182人	102人	74人	29人	17人	80.8
	受験者数	82人	88人	74人	29人	17人	58
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	12人	7人	1人	0人	0人	4
	辞退者数	10人	2人	2人	1人	1人	3.2
その他の特別選抜	入学者数	10人	2人	2人	1人	1人	3.2
	募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	1人	0人	1人	2人	0人	0.8
	志願者数	1人	0人	1人	2人	0人	0.8
	受験者数	0人	0人	1人	2人	0人	0.6
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	1人	0人	1人	2人	0人	0.8
	志願者数	1人	0人	1人	2人	0人	0.8
	受験者数	0人	0人	1人	2人	0人	0.6
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	1人	2人	0人	0.6
合計	入学者数	0人	0人	1人	2人	0人	0.6
	募集人数	120人	120人	120人	120人	110人	118人
	延べ人数	438人	250人	187人	119人	67人	212人
	志願者数	428人	241人	177人	115人	67人	206人
	受験者数	243人	213人	174人	114人	67人	162人
	合格者数	0人	3人	0人	0人	0人	1人
	うち追加合格者数	30人	33人	12人	9人	0人	17人
	辞退者数	438人	250人	187人	119人	67人	212人
	志願者数	428人	241人	177人	115人	67人	206人
	受験者数	243人	213人	174人	114人	67人	162人
	合格者数	0人	3人	0人	0人	0人	1人
	うち追加合格者数	30人	33人	12人	9人	0人	17人
	辞退者数	126人	77人	65人	59人	42人	74人

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	120人	120人	120人	120人	110人	118
入 学 定 員 充 足 率	1.05	0.64	0.54	0.49	0.38	0.62
歩 留 率	0.52	0.36	0.37	0.52	0.63	0.48

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
 本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	10人	10人	10人	10人	20人	12人
	延べ人数	志願者数	31人	36人	36人	25人	29人
		受験者数	31人	36人	36人	19人	29人
		合格者数	31人	36人	36人	18人	29人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	31人	36人	36人	19人	29人
		受験者数	31人	36人	36人	19人	29人
		合格者数	31人	36人	36人	18人	29人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	31人	36人	34人	18人	21人	28人
学校推薦型選抜	募集人数	45人	45人	45人	45人	50人	46人
	延べ人数	志願者数	58人	59人	65人	37人	53人
		受験者数	58人	59人	65人	37人	53人
		合格者数	57人	58人	65人	37人	52.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0.2
	実人数	志願者数	58人	59人	65人	37人	53.2
		受験者数	58人	59人	65人	37人	53.2
		合格者数	57人	58人	65人	37人	52.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0.2
	入学者数	57人	58人	64人	37人	46人	52.4
一般選抜	募集人数	34人	34人	34人	34人	21人	31.4
	延べ人数	志願者数	92人	79人	53人	30人	56.8
		受験者数	80人	70人	43人	25人	48.8
		合格者数	46人	26人	25人	25人	29.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	13人	8人	6人	3人	6.8
	実人数	志願者数	92人	79人	53人	30人	56.8
		受験者数	80人	70人	43人	25人	48.8
		合格者数	46人	26人	25人	25人	29.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	13人	8人	6人	3人	6.8
	入学者数	14人	5人	4人	4人	3人	6
共通テスト利用入試	募集人数	11人	11人	11人	11人	9人	10.6
	延べ人数	志願者数	112人	116人	67人	35人	74
		受験者数	112人	116人	67人	35人	74
		合格者数	70人	50人	46人	32人	47.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	5人	1人	2人	2人	2
	実人数	志願者数	112人	116人	67人	35人	74
		受験者数	112人	116人	67人	35人	74
		合格者数	70人	50人	46人	32人	47.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	5人	1人	2人	2人	2
	入学者数	14人	2人	1人	4人	1人	4.4
その他の特別選抜	募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	2人	3人	4人	0人	1.8
		受験者数	2人	3人	4人	0人	1.8
		合格者数	2人	3人	4人	0人	1.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	2人	3人	4人	0人	1.8
		受験者数	2人	3人	4人	0人	1.8
		合格者数	2人	3人	4人	0人	1.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	2人	3人	4人	0人	0人	1.8
合計	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	志願者数	295人	293人	225人	121人	215人
		受験者数	283人	284人	215人	116人	207人
		合格者数	206人	173人	176人	112人	161人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	18人	9人	9人	5人	9人
	実人数	志願者数	295人	293人	225人	121人	215人
		受験者数	283人	284人	215人	116人	207人
		合格者数	206人	173人	176人	112人	161人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	18人	9人	9人	5人	9人
	入学者数	118人	104人	107人	63人	71人	93人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	100人	100人	100人	100人	100人	100
入 学 定 員 充 足 率	1.18	1.04	1.07	0.63	0.71	0.93
歩 留 率	0.57	0.60	0.61	0.56	0.51	0.57

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
 本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

大学学部学科等名：相模女子大学学芸学部メディア情報学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	15人	15人	15人	15人	20人	16人
	延べ人数	37人	23人	23人	23人	23人	26人
	志願者数	37人	23人	23人	23人	23人	26人
	受験者数	37人	23人	23人	23人	23人	26人
	合格者数	37人	23人	23人	22人	23人	26人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	1人	0人	1人	1人	1人
	実人数	37人	23人	23人	23人	23人	26人
	志願者数	37人	23人	23人	23人	23人	26人
	受験者数	37人	23人	23人	22人	23人	26人
	合格者数	37人	23人	23人	22人	23人	26人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数	36人	22人	21人	18人	19人	23人
	延べ人数	37人	37人	37人	37人	47人	39人
	志願者数	50人	67人	73人	74人	77人	68人
	受験者数	50人	67人	73人	74人	77人	68人
	合格者数	50人	67人	72人	74人	77人	68
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	50人	67人	73人	74人	77人	68.2
	志願者数	50人	67人	73人	74人	77人	68.2
	受験者数	50人	67人	72人	74人	77人	68
	合格者数	50人	67人	72人	74人	77人	68
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
一般選抜	募集人数	50人	67人	72人	74人	77人	68
	延べ人数	19人	19人	19人	19人	19	19
	志願者数	141人	111人	59人	59人	26人	79.2
	受験者数	127人	105人	54人	49人	25人	72
	合格者数	41人	32人	34人	45人	25人	35.4
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	0.6
	辞退者数	5人	7人	9人	10人	7人	7.6
	実人数	141人	111人	59人	59人	26人	79.2
	志願者数	127人	105人	54人	49人	25人	72
	受験者数	41人	32人	34人	45人	25人	35.4
	合格者数	41人	32人	34人	45人	25人	35.4
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	0.6
共通テスト利用入試	募集人数	20人	12人	13人	8人	5人	11.6
	延べ人数	9人	9人	9人	9人	9人	9
	志願者数	152人	138人	75人	35人	15人	83
	受験者数	151人	137人	75人	35人	15人	82.6
	合格者数	87人	41人	37人	13人	13人	38.2
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	8人	3人	4人	0人	1人	3.2
	実人数	152人	138人	75人	35人	15人	83
	志願者数	151人	137人	75人	35人	15人	82.6
	受験者数	87人	41人	37人	13人	13人	38.2
	合格者数	87人	41人	37人	13人	13人	38.2
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
その他の特別選抜	募集人数	17人	4人	1人	1人	1人	4.8
	延べ人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	志願者数	2人	3人	4人	3人	3人	3
	受験者数	2人	3人	4人	3人	3人	3
	合格者数	2人	3人	4人	3人	3人	3
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	2人	3人	4人	3人	3人	3
	志願者数	2人	3人	4人	3人	3人	3
	受験者数	2人	3人	4人	3人	3人	3
	合格者数	2人	3人	4人	3人	3人	3
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	募集人数	80人	80人	80人	80人	95人	83人
	延べ人数	382人	342人	234人	194人	144人	259人
	志願者数	367人	335人	229人	184人	143人	252人
	受験者数	217人	166人	170人	157人	141人	170人
	合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	1人
	うち追加合格者数	14人	11人	13人	11人	9人	12人
	辞退者数	382人	342人	234人	194人	144人	259人
	志願者数	367人	335人	229人	184人	143人	252人
	受験者数	217人	166人	170人	157人	141人	170人
	合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	1人
	うち追加合格者数	14人	11人	13人	11人	9人	12人
	辞退者数	125人	108人	111人	104人	105人	111人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	80人	80人	80人	80人	95人	83
入 学 定 員 充 足 率	1.56	1.35	1.39	1.30	1.11	1.34
歩 留 率	0.58	0.65	0.65	0.66	0.74	0.66

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
 本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないので、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

大学学部学科等名：相模女子大学学芸学部生活デザイン学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	5人	5人	5人	5人	10人	6人
	延べ人数	志願者数	20人	21人	13人	17人	18人
		受験者数	20人	21人	13人	17人	18人
		合格者数	20人	21人	13人	16人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	20人	21人	13人	17人	18人
		受験者数	20人	21人	13人	17人	18人
		合格者数	20人	21人	13人	16人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	20人	21人	13人	16人	18人	18人
学校推薦型選抜	募集人数	23人	23人	23人	23人	22人	23人
	延べ人数	志願者数	26人	45人	34人	34人	35人
		受験者数	26人	45人	34人	33人	34人
		合格者数	26人	41人	34人	33人	33.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	26人	45人	34人	34人	34.6
		受験者数	26人	45人	34人	33人	34.4
		合格者数	26人	41人	34人	33人	33.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	26人	41人	34人	32人	34人	33.4
一般選抜	募集人数	11人	11人	11人	11人	8人	10.4
	延べ人数	志願者数	68人	44人	52人	38人	46.6
		受験者数	62人	38人	44人	36人	40.6
		合格者数	27人	8人	22人	32人	21.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	3人	3人	8人	9人	5
	実人数	志願者数	68人	44人	52人	38人	46.6
		受験者数	62人	38人	44人	36人	40.6
		合格者数	27人	8人	22人	32人	21.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	3人	3人	8人	9人	5
	入学者数	11人	3人	3人	6人	5人	5.6
共通テスト利用入試	募集人数	6人	6人	6人	6人	5人	5.8
	延べ人数	志願者数	83人	55人	58人	31人	50
		受験者数	83人	54人	58人	31人	49.8
		合格者数	48人	12人	26人	15人	23.4
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	0.4
		辞退者数	4人	0人	2人	0人	1.4
	実人数	志願者数	83人	55人	58人	31人	50
		受験者数	83人	54人	58人	31人	49.8
		合格者数	48人	12人	26人	15人	23.4
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	0.4
		辞退者数	4人	0人	2人	0人	1.4
	入学者数	7人	1人	0人	1人	0人	1.8
その他の特別選抜	募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	2人	1人	1人	2人	2
		受験者数	2人	1人	1人	2人	2
		合格者数	1人	1人	1人	2人	1.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	2人	1人	1人	2人	2
		受験者数	2人	1人	1人	2人	2
		合格者数	1人	1人	1人	2人	1.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	1人	1人	1人	2人	4人	1.8
合計	募集人数	45人	45人	45人	45人	45人	45人
	延べ人数	志願者数	199人	166人	158人	122人	151人
		受験者数	193人	159人	150人	119人	145人
		合格者数	122人	83人	96人	98人	98人
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	0人
		辞退者数	7人	3人	10人	9人	6人
	実人数	志願者数	199人	166人	158人	122人	151人
		受験者数	193人	159人	150人	119人	145人
		合格者数	122人	83人	96人	98人	98人
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	0人
		辞退者数	7人	3人	10人	9人	6人
	入学者数	65人	67人	51人	57人	61人	60人

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	45人	45人	45人	45人	45人	45
入 学 定 員 充 足 率	1.44	1.49	1.13	1.27	1.36	1.34
歩 留 率	0.53	0.81	0.53	0.58	0.66	0.62

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
 本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

大学学部学科等名：相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数	志願者数	36人	21人	23人	17人	23人
		受験者数	36人	21人	23人	16人	22人
		合格者数	36人	21人	23人	16人	22人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数	36人	21人	23人	17人	23人
		受験者数	36人	21人	23人	16人	22人
		合格者数	36人	21人	23人	16人	22人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数	36人	21人	20人	14人	15人	21人
学校推薦型選抜	募集人数	60人	60人	60人	60人	55人	59人
	延べ人数	志願者数	47人	62人	43人	38人	45人
		受験者数	47人	62人	43人	38人	45人
		合格者数	47人	62人	43人	38人	45.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	47人	62人	43人	38人	45.4
		受験者数	47人	62人	43人	38人	45.4
		合格者数	47人	62人	43人	38人	45.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	46人	61人	43人	37人	37人	44.8
一般選抜	募集人数	26人	26人	26人	26人	25人	25.8
	延べ人数	志願者数	201人	143人	88人	81人	108.4
		受験者数	180人	134人	76人	70人	97
		合格者数	66人	63人	66人	70人	58
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	12人	11人	21人	21人	14
	実人数	志願者数	201人	143人	88人	81人	108.4
		受験者数	180人	134人	76人	70人	97
		合格者数	66人	63人	66人	70人	58
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	12人	11人	21人	21人	14
	入学者数	24人	15人	9人	13人	4人	13
共通テスト利用入試	募集人数	14人	14人	14人	14人	10人	13.2
	延べ人数	志願者数	243人	202人	109人	93人	134
		受験者数	243人	201人	109人	93人	133.8
		合格者数	139人	136人	101人	85人	96.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	25人	15人	8人	2人	10.2
	実人数	志願者数	243人	202人	109人	93人	134
		受験者数	243人	201人	109人	93人	133.8
		合格者数	139人	136人	101人	85人	96.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	25人	15人	8人	2人	10.2
	入学者数	31人	11人	10人	7人	1人	12
その他の特別選抜	募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	3人	4人	1人	4人	2.6
		受験者数	3人	4人	1人	4人	2.6
		合格者数	3人	4人	1人	4人	2.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	3人	4人	1人	4人	2.6
		受験者数	3人	4人	1人	4人	2.6
		合格者数	3人	4人	1人	4人	2.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	3人	4人	1人	1人	4人	2.6
合計	募集人数	120人	120人	120人	120人	110人	118人
	延べ人数	志願者数	530人	432人	264人	230人	313人
		受験者数	509人	422人	252人	218人	301人
		合格者数	291人	286人	234人	210人	225人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	37人	26人	30人	23人	24人
	実人数	志願者数	530人	432人	264人	230人	313人
		受験者数	509人	422人	252人	218人	301人
		合格者数	291人	286人	234人	210人	225人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	37人	26人	30人	23人	24人
	入学者数	140人	112人	83人	72人	61人	94人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	120人	120人	120人	120人	110人	118
入 学 定 員 充 足 率	1.17	0.93	0.69	0.60	0.55	0.79
歩 留 率	0.48	0.39	0.35	0.34	0.58	0.43

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
 本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	25人	21人
	延べ人数	33人	29人	19人	28人	31人	28人
	志願者数	33人	29人	19人	27人	30人	28人
	受験者数	33人	29人	19人	26人	28人	27人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	1人	1人	0人	0人
	辞退者数	33人	29人	19人	28人	31人	28人
	志願者数	33人	29人	19人	27人	30人	28人
	受験者数	33人	29人	19人	26人	28人	27人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	1人	1人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数	32人	28人	17人	21人	26人	25人
	延べ人数	55人	55人	55人	55人	60人	56人
	志願者数	63人	77人	84人	77人	51人	70人
	受験者数	63人	77人	84人	77人	51人	70人
	合格者数	59人	70人	84人	77人	51人	68.2
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	1人	0人	1人	0人	0.4
	志願者数	63人	77人	84人	77人	51人	70.4
	受験者数	63人	77人	84人	77人	51人	70.4
	合格者数	59人	70人	84人	77人	51人	68.2
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
一般選抜	募集人数	57人	69人	83人	76人	50人	67
	延べ人数	26人	26人	26人	26人	26人	26
	志願者数	169人	156人	89人	65人	39人	103.6
	受験者数	159人	147人	77人	56人	35人	94.8
	合格者数	37人	55人	53人	53人	35人	46.6
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1.2
	辞退者数	9人	13人	14人	12人	7人	11
	志願者数	169人	156人	89人	65人	39人	103.6
	受験者数	159人	147人	77人	56人	35人	94.8
	合格者数	37人	55人	53人	53人	35人	46.6
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1.2
共通テスト利用入試	募集人数	17人	12人	12人	11人	10人	12.4
	延べ人数	9人	9人	9人	9人	9人	9
	志願者数	148人	139人	85人	58人	26人	91.2
	受験者数	148人	138人	85人	58人	26人	91
	合格者数	69人	52人	44人	43人	17人	45
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	5人	3人	1人	1人	4人	2.8
	志願者数	148人	139人	85人	58人	26人	91.2
	受験者数	148人	138人	85人	58人	26人	91
	合格者数	69人	52人	44人	43人	17人	45
	うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	0人	0.4
その他の特別選抜	募集人数	5人	4人	4人	4人	3人	4
	延べ人数	5人	4人	4人	4人	3人	4
	志願者数	5人	4人	4人	4人	3人	4
	受験者数	5人	4人	4人	4人	3人	4
	合格者数	5人	4人	4人	4人	3人	4
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	志願者数	5人	4人	4人	4人	3人	4
	受験者数	5人	4人	4人	4人	3人	4
	合格者数	5人	4人	4人	4人	3人	4
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	募集人数	110人	110人	110人	110人	120人	112人
	延べ人数	418人	405人	281人	232人	150人	297人
	志願者数	408人	395人	269人	222人	145人	288人
	受験者数	203人	210人	204人	203人	134人	191人
	合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1人
	うち追加合格者数	14人	17人	16人	15人	11人	15人
	辞退者数	418人	405人	281人	232人	150人	297人
	志願者数	408人	395人	269人	222人	145人	288人
	受験者数	203人	210人	204人	203人	134人	191人
	合格者数	0人	0人	2人	6人	0人	2人
	うち追加合格者数	14人	17人	16人	15人	11人	15人
	辞退者数	127人	124人	118人	115人	90人	115人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	110人	110人	110人	110人	120人	112
入 学 定 員 充 足 率	1.15	1.13	1.07	1.05	0.75	1.03
歩 留 率	0.63	0.59	0.58	0.57	0.67	0.61

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
 本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	10人	10人	10人	10人	15人	11人
	延べ人数	志願者数	16人	25人	17人	31人	26人
		受験者数	16人	25人	17人	30人	25人
		合格者数	16人	25人	17人	28人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	2人	1人
	実人数	志願者数	16人	25人	17人	31人	26人
		受験者数	16人	25人	17人	30人	25人
		合格者数	16人	25人	17人	28人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	2人	1人
	入学者数	16人	24人	17人	25人	30人	22人
学校推薦型選抜	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	46人	57人	48人	37人	46人
		受験者数	46人	57人	48人	37人	46人
		合格者数	41人	52人	48人	37人	46人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	46人	57人	48人	37人	46人
		受験者数	46人	57人	48人	37人	46人
		合格者数	41人	52人	48人	37人	46人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	39人	51人	48人	36人	45人	43.8
一般選抜	募集人数	18人	18人	18人	18人	16人	17.6
	延べ人数	志願者数	59人	54人	38人	23人	39.2
		受験者数	47人	44人	27人	18人	30.4
		合格者数	42人	31人	24人	17人	25
		うち追加合格者数	0人	1人	0人	0人	0.2
		辞退者数	10人	8人	3人	2人	4.6
	実人数	志願者数	59人	54人	38人	23人	39.2
		受験者数	47人	44人	27人	18人	30.4
		合格者数	42人	31人	24人	17人	25
		うち追加合格者数	0人	1人	0人	0人	0.2
		辞退者数	10人	8人	3人	2人	4.6
	入学者数	13人	10人	8人	7人	4人	8.4
共通テスト利用入試	募集人数	12人	12人	12人	12人	9人	11.4
	延べ人数	志願者数	63人	44人	34人	16人	36
		受験者数	63人	44人	34人	16人	35.8
		合格者数	55人	29人	22人	13人	26.8
		うち追加合格者数	0人	4人	0人	0人	0.8
		辞退者数	4人	0人	0人	0人	1
	実人数	志願者数	63人	44人	34人	16人	36
		受験者数	63人	44人	34人	16人	35.8
		合格者数	55人	29人	22人	13人	26.8
		うち追加合格者数	0人	4人	0人	0人	0.8
		辞退者数	4人	0人	0人	0人	1
	入学者数	4人	1人	0人	0人	0人	1
その他の特別選抜	募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	7人	4人	2人	2人	3.2
		受験者数	7人	4人	2人	2人	3.2
		合格者数	7人	4人	2人	2人	3.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	7人	4人	2人	2人	3.2
		受験者数	7人	4人	2人	2人	3.2
		合格者数	7人	4人	2人	2人	3.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	7人	4人	2人	2人	1人	3.2
合計	募集人数	80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数	191人	184人	139人	109人	151人
		受験者数	179人	174人	128人	103人	141人
		合格者数	161人	141人	113人	97人	124人
		うち追加合格者数	0人	5人	0人	0人	1人
		辞退者数	14人	9人	3人	4人	6人
	実人数	志願者数	191人	184人	139人	109人	151人
		受験者数	179人	174人	128人	103人	141人
		合格者数	161人	141人	113人	97人	124人
		うち追加合格者数	0人	5人	0人	0人	1人
		辞退者数	14人	9人	3人	4人	6人
	入学者数	79人	90人	75人	70人	80人	79人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	80人	80人	80人	80人	80人	80
入 学 定 員 充 足 率	0.99	1.13	0.94	0.88	1.00	0.99
歩 留 率	0.49	0.64	0.66	0.72	0.75	0.65

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
 本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	5人	5人	5人	5人	15人	7人
	延べ人数	8人	6人	12人	32人	27人	17人
	志願者数	8人	6人	12人	21人	22人	14人
	受験者数	8人	6人	12人	17人	18人	12人
	合格者数	8人	6人	12人	17人	18人	12人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	8人	6人	12人	32人	27人	17人
	志願者数	8人	6人	12人	21人	22人	14人
	受験者数	8人	6人	12人	17人	18人	12人
	合格者数	8人	6人	12人	17人	18人	12人
学校推薦型選抜	募集人数	50人	50人	50人	50人	50人	50人
	延べ人数	57人	51人	52人	43人	55人	52人
	志願者数	57人	51人	52人	43人	55人	52人
	受験者数	55人	45人	50人	41人	55人	49.2
	合格者数	55人	45人	50人	41人	55人	49.2
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	57人	51人	52人	43人	55人	51.6
	志願者数	57人	51人	52人	43人	55人	51.6
	受験者数	55人	45人	50人	41人	55人	49.2
	合格者数	55人	45人	50人	41人	55人	49.2
一般選抜	募集人数	27人	27人	27人	27人	24人	26.4
	延べ人数	209人	144人	116人	100人	53人	124.4
	志願者数	195人	120人	95人	79人	40人	105.8
	受験者数	82人	100人	85人	76人	38人	76.2
	合格者数	82人	100人	85人	76人	38人	76.2
	うち追加合格者数	0人	6人	0人	6人	0人	2.4
	辞退者数	14人	12人	17人	13人	11人	13.4
	実人数	209人	144人	116人	100人	53人	124.4
	志願者数	195人	120人	95人	79人	40人	105.8
	受験者数	82人	100人	85人	76人	38人	76.2
	合格者数	82人	100人	85人	76人	38人	76.2
共通テスト利用入試	募集人数	18人	18人	18人	18人	11人	16.6
	延べ人数	180人	124人	118人	112人	47人	116.2
	志願者数	179人	122人	118人	112人	47人	115.6
	受験者数	84人	90人	99人	68人	45人	77.2
	合格者数	84人	90人	99人	68人	45人	77.2
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	3人	1人	5人	0人	1人	2
	実人数	180人	124人	118人	112人	47人	116.2
	志願者数	179人	122人	118人	112人	47人	115.6
	受験者数	84人	90人	99人	68人	45人	77.2
	合格者数	84人	90人	99人	68人	45人	77.2
その他の特別選抜	募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	6人	3人	2人	1人	0人	2.4
	志願者数	6人	3人	2人	1人	0人	2.4
	受験者数	5人	1人	1人	1人	0人	1.6
	合格者数	5人	1人	1人	1人	0人	1.6
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	6人	3人	2人	1人	0人	2.4
	志願者数	6人	3人	2人	1人	0人	2.4
	受験者数	5人	1人	1人	1人	0人	1.6
	合格者数	5人	1人	1人	1人	0人	1.6
合計	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	460人	328人	300人	288人	182人	312人
	志願者数	445人	302人	279人	256人	164人	289人
	受験者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	合格者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	うち追加合格者数	0人	6人	0人	6人	0人	2人
	辞退者数	17人	13人	22人	13人	12人	15人
	実人数	460人	328人	300人	288人	182人	312人
	志願者数	445人	302人	279人	256人	164人	289人
	受験者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	合格者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
入学定員充足率	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100
	延べ人数	460人	328人	300人	288人	182人	312人
	志願者数	445人	302人	279人	256人	164人	289人
	受験者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	合格者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	うち追加合格者数	0人	6人	0人	6人	0人	2人
	辞退者数	17人	13人	22人	13人	12人	15人
	実人数	460人	328人	300人	288人	182人	312人
	志願者数	445人	302人	279人	256人	164人	289人
	受験者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	合格者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
入学定員充足率	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100
	延べ人数	460人	328人	300人	288人	182人	312人
	志願者数	445人	302人	279人	256人	164人	289人
	受験者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	合格者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	うち追加合格者数	0人	6人	0人	6人	0人	2人
	辞退者数	17人	13人	22人	13人	12人	15人
	実人数	460人	328人	300人	288人	182人	312人
	志願者数	445人	302人	279人	256人	164人	289人
	受験者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	合格者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
入学定員充足率	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100
	延べ人数	460人	328人	300人	288人	182人	312人
	志願者数	445人	302人	279人	256人	164人	289人
	受験者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	合格者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	うち追加合格者数	0人	6人	0人	6人	0人	2人
	辞退者数	17人	13人	22人	13人	12人	15人
	実人数	460人	328人	300人	288人	182人	312人
	志願者数	445人	302人	279人	256人	164人	289人
	受験者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	合格者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
入学定員充足率	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100
	延べ人数	460人	328人	300人	288人	182人	312人
	志願者数	445人	302人	279人	256人	164人	289人
	受験者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	合格者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	うち追加合格者数	0人	6人	0人	6人	0人	2人
	辞退者数	17人	13人	22人	13人	12人	15人
	実人数	460人	328人	300人	288人	182人	312人
	志願者数	445人	302人	279人	256人	164人	289人
	受験者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
	合格者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	100人	100人	100人	100人	100人	100
入 学 定 員 充 足 率	1.10	0.88	1.01	0.84	0.83	0.93
歩 留 率	0.47	0.36	0.41	0.41	0.53	0.44

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
 本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

大学学部学科等名：相模女子大学短期大学部食物栄養学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	30人	30人	30人	30人	25人	29人
	延べ人数	48人	28人	13人	16人	11人	23人
	志願者数	48人	28人	13人	16人	11人	23人
	受験者数	48人	28人	13人	16人	11人	23人
	合格者数	48人	28人	13人	15人	11人	23人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	2人	0人	0人	1人	1人
	実人数	48人	28人	13人	16人	11人	23人
	志願者数	48人	28人	13人	16人	11人	23人
	受験者数	48人	28人	13人	15人	11人	23人
	合格者数	48人	28人	13人	15人	11人	23人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	2人	0人	0人	1人	1人
学校推薦型選抜	入学者数	47人	26人	12人	15人	10人	22人
	募集人数	70人	70人	70人	70人	45人	65人
	延べ人数	60人	59人	52人	53人	33人	51人
	志願者数	59人	59人	52人	53人	33人	51人
	受験者数	59人	59人	51人	53人	33人	51
	合格者数	59人	59人	51人	53人	33人	51
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	60人	59人	52人	53人	33人	51.4
	志願者数	59人	59人	52人	53人	33人	51.2
	受験者数	59人	59人	51人	53人	33人	51
	合格者数	59人	59人	51人	53人	33人	51
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
一般選抜	入学者数	59人	56人	50人	48人	33人	49.2
	募集人数	11人	11人	11人	11人	7人	10.2
	延べ人数	29人	7人	4人	2人	3人	9
	志願者数	25人	5人	3人	2人	3人	7.6
	受験者数	20人	5人	2人	2人	3人	6.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	2人	0人	1人	0人	0.6
	辞退者数	0人	2人	0人	1人	0人	0.6
	実人数	29人	7人	4人	2人	3人	9
	志願者数	25人	5人	3人	2人	3人	7.6
	受験者数	20人	5人	2人	2人	3人	6.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	2人	0人	1人	0人	0.6
共通テスト利用入試	入学者数	12人	3人	2人	0人	2人	3.8
	募集人数	9人	9人	9人	9人	3人	7.8
	延べ人数	21人	11人	7人	5人	0人	8.8
	志願者数	21人	11人	7人	5人	0人	8.8
	受験者数	16人	11人	6人	5人	0人	7.6
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	1人	0人	1人	0人	0.8
	辞退者数	2人	1人	0人	1人	0人	0.8
	実人数	21人	11人	7人	5人	0人	8.8
	志願者数	21人	11人	7人	5人	0人	8.8
	受験者数	16人	11人	6人	5人	0人	7.6
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	2人	1人	0人	1人	0人	0.8
その他の特別選抜	入学者数	1人	0人	1人	0人	0人	0.4
	募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	1人	5人	0人	2人	2人	2
	志願者数	1人	5人	0人	2人	2人	2
	受験者数	1人	5人	0人	2人	2人	2
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	1人	5人	0人	2人	2人	2
	志願者数	1人	5人	0人	2人	2人	2
	受験者数	1人	5人	0人	2人	2人	2
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	入学者数	120人	120人	120人	120人	80人	112人
	募集人数	159人	110人	76人	78人	49人	94人
	延べ人数	154人	108人	75人	78人	49人	93人
	志願者数	144人	108人	72人	77人	49人	90人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	2人	5人	0人	2人	1人	2人
	うち追加合格者数	159人	110人	76人	78人	49人	94人
	志願者数	154人	108人	75人	78人	49人	93人
	受験者数	144人	108人	72人	77人	49人	90人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	2人	5人	0人	2人	1人	2人
	辞退者数	120人	90人	65人	65人	47人	77人
	入学者数	120人	90人	65人	65人	47人	77人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	120人	120人	120人	120人	80人	112
入 学 定 員 充 足 率	1.00	0.75	0.54	0.54	0.59	0.68
歩 留 率	0.83	0.83	0.90	0.84	0.96	0.87

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
 本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙 3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：相模女子大学・相模女子大学短期大学部のオープンキャンパス

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	2162人	2222人	①取組概要 受験生を対象に学科の紹介や体験授業、在学生とのフリートーク、各学科の学びを楽しく体験するイベント、キャンパスツアー、入試対策を実施。 R5年度入試対象(R4開催)：計10回開催 (3/19.4/30.5/22.6/19.7/10.7/31.8/21.9/18.10/8.11/27) R6年度入試対象(R5開催)：計7回開催(3/19.4/30.5/27.6/25.7/30.8/20.9/18) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 最終的な入学者数はR5が766名、R6が704名であり、入学者の約80%がオープンキャンパスに参加していることが分かる。
うち受験対象者数(b)	1344人	1291人	
うち受験者数(c)	694人	615人	
うち入学者数(d)	608人	564人	
(受験率 c/b)	51.6%	47.6%	
(入学率 d/b)	45.2%	43.7%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：相模女子大学・相模女子大学短期大学部の授業公開

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	70人	143人	①取組概要 高校生を対象に通常の大学の授業へ参加してもらい、大学の学びについて理解を深めるイベントとして実施。 R5年度入試対象(R4開催)：開催日(6/6~6/24)の木曜日を除く平日 R6年度入試対象(R5開催)：開催日(5/3.7/17)と(6/12~6/23)の木曜日を除く平日 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 R5およびR6の結果から、本イベント参加者の入学率は非常に高いことが分かる。R6の最終的な入学者数は704名であり、入学者の約7%が参加していることが分かる。
うち受験対象者数(b)	55人	110人	
うち受験者数(c)	38人	88人	
うち入学者数(d)	34人	85人	
(受験率 c/b)	69.1%	80.0%	
(入学率 d/b)	61.8%	77.3%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：相模女子大学・相模女子大学短期大学部の大学案内の配付（郵送）

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	10565人	10525人	①取組概要 次年度広報用大学案内が納品後、個人情報取得済みの受験生に対して一斉に新規資料を発送し、受験生に新しい媒体の情報を届けている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 最終的な入学者数はR5が766名、R6が704名であり、R6では入学者の約47%の入学者との新年度広報における最初の接点となっていたことが分かる。
うち受験対象者数(b)	7966人	6935人	
うち受験者数(c)	125人	398人	
うち入学者数(d)	102人	333人	
(受験率 c/b)	1.6%	5.7%	
(入学率 d/b)	1.3%	4.8%	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：相模女子大学・相模女子大学短期大学部の進学相談会

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	464人	719人	①取組概要 神奈川・東京・静岡を中心に進学相談会に参加。地区入試会場を設けている都道府県にも複数回参加。 R5年度入試対象(R4開催)：計87回参加 R6年度入試対象(R5開催)：計105回参加 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 最終的な入学者数はR5が766名、R6が704名であり、入学者の約5%が参加していることが分かる。
うち受験対象者数(b)	214人	240人	
うち受験者数(c)	47人	48人	
うち入学者数(d)	38人	41人	
(受験率 c/b)	22.0%	20.0%	
(入学率 d/b)	17.8%	17.1%	

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：相模女子大学・相模女子大学短期大学部の高校ガイダンス

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	384人	499人	①取組概要 高校にて系統別分野の説明や大学説明を実施。神奈川と東京を中心に参加。 R5年度入試対象(R4開催)：計144回参加 R6年度入試対象(R5開催)：計213回参加 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 R5およびR6の結果から、本学の説明を聞いた生徒の多くが入学に至っていることが分かる。R6の最終的な入学者数は704名であり、入学者の約8%が参加していることが分かる。
うち受験対象者数(b)	143人	183人	
うち受験者数(c)	61人	59人	
うち入学者数(d)	59人	58人	
(受験率 c/b)	42.7%	32.2%	
(入学率 d/b)	41.3%	31.7%	

【資料2】

地域クリエーション学科競合校入試状況

大学	学部	学科	令和4年度（2022年度）					令和5年度（2023年度）					令和6年度（2024年度）				
			入学定員	志願者	倍率	入学者数	定員充足率	入学定員	志願者	倍率	入学者数	定員充足率	入学定員	志願者	倍率	入学者数	定員充足率
桜美林大学	ビジネスマネジメント学類		480	3451	7.19	521	1.09	480	3435	7.16	568	1.18	480	3501	7.29	524	1.09
東海大学	観光学部	観光学科	200	1333	6.67	207	1.04	200	1209	6.05	211	1.06	200	1062	5.31	251	1.26
文教大学	国際学部	国際観光学科	—	学科別は非公表	—	—	—	—	学科別は非公表	—	—	—	125	学科別は非公表	—	162	1.30
國學院大學	観光まちづくり学部	観光まちづくり学科	300	2039	6.80	301	1.00	300	2105	7.02	313	1.04	300	2077	6.92	313	1.04
神奈川大学	国際日本学部	国際文化交流学科	170	非公表	—	192	1.13	170	非公表	—	195	1.15	170	非公表	—	170	1.00

相模女子大学
新学科設置構想についての
高校生アンケート調査
報告書

目次

1. 高校生アンケート調査 概要.....	2
2. 調査実施高等学校等一覧.....	3
3. 高校生アンケート調査 集計結果.....	4
4. 高校生アンケート調査 結果の要点.....	8

(添付資料)

高校生アンケート調査用紙.....	12
「相模女子大学2026年度設置構想」概要.....	13

1. 高校生アンケート調査 概要

調査目的	令和8年（2026年）度に相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」（入学定員各60名）における志願者・入学者等の学生確保の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	[調査対象] 令和8年3月に高校卒業予定である高校2年生（令和6年度） [調査地域] 「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」の主たる学生募集エリアと想定される地域の高等学校42校から調査の協力を得た。 また、オープンキャンパスに来場した学生には個別で調査の協力を得た。
調査内容	・回答者の基本情報（性別、居住地） ・卒業後の志望進路 ・志望する大学等の設置者 ・興味のある学問分野 ・相模女子大学「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」への受験・入学意向
調査時期	令和7年1月～3月
調査方法	高校側の希望に基づき、紙方式・WEB方式のいずれかでアンケート調査を実施。 [紙方式] ① 高校での実施依頼分については、各高校の希望に基づき、アンケート用紙・「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」概要資料を必要部数送付。ホームルームで配付の上、その場で回答し回収いただいた。 ② オープンキャンパス実施分については、協力を承諾いただいた来場者に対し、個別にアンケート用紙・「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」概要資料を配布し、その場で回答いただいた。 [WEB方式] 担当教員のメールアドレスにアンケート調査サイトURLおよびアクセス用QRコードを送付。自校対象生徒のタブレット端末等に配信の上、原則その場で回答し送信するよう促していただいた。
回収件数	有効回答数5,288件（41校実施分：計5,238件＋オープンキャンパス実施分：計50件）

2.調査実施高等学校等一覧

高校コード	高校名	回収数	高校コード	高校名	回収数
09138D	真岡女子高等学校	85	14518B	聖ヨゼフ学園高等学校	22
13303F	山崎高等学校	70	14520D	横浜商科大学高等学校	96
13559D	桐朋女子高等学校	148	14522A	英理女子学院高等学校	157
13617E	立正大学付属立正高等学校	352	14529H	横浜創学館高等学校	101
13714G	八王子実践高等学校	75	14533F	三浦学苑高等学校	45
14172A	上溝南高等学校	133	14534D	緑ヶ丘女子高等学校	60
14189F	津久井高等学校	77	14542E	平塚学園高等学校	77
14199C	上鶴間高等学校	287	14546H	北鎌倉女子学園高等学校	79
14200A	大和南高等学校	218	14547F	鎌倉女子大学高等部高等学校	108
14223K	寒川高等学校	124	14556E	聖園女学院高等学校	54
14228A	保土ヶ谷高等学校	248	14557C	向上高等学校	127
14266C	元石川高等学校	161	14559K	旭丘高等学校	122
14279E	城郷高等学校	7	14563H	相模原（私立）高等学校	306
14283C	相模田名高等学校	241	14564F	相模女子大学高等部高等学校	264
14296E	藤沢総合高等学校	201	14567A	聖セシリア女子高等学校	113
14297C	鶴見総合高等学校	115	14570A	清心女子高等学校	80
14303A	横浜緑園高等学校	69	19136B	上野原高等学校	53
14307D	小田原東高等学校	116	19501E	山梨英和高等学校	68
14313J	平塚中等教育学校	102	22119J	沼津西高等学校	170
14507G	関東学院高等学校	41	22123G	吉原高等学校	29
14510G	横浜清風高等学校	237			

3.高校生アンケート調査 集計結果

※「回答割合」 (%) はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問1 あなたの現在の居住地をお答えください。(あてはまるもの1つ)

選択肢	回答数	回答割合
神奈川県	4,213	79.7%
東京都	638	12.1%
埼玉県	4	0.1%
千葉県	3	0.1%
茨城県	3	0.1%
栃木県	86	1.6%
群馬県	4	0.1%
その他	332	6.3%
無回答	5	0.1%
合計	5,288	100.0%

問2 あなたの性別をお答えください。(あてはまるもの1つ)

選択肢	回答数	回答割合
男性	1,635	30.9%
女性	3,493	66.1%
答えたくない	140	2.6%
無回答	20	0.4%
合計	5,288	100.0%

問3 卒業後の進路をどのように考えていますか。(あてはまるものすべて)

*複数回答のため回答数はのべ／回答割合＝各回答数÷回答対象(5,288人)

選択肢	回答数	回答割合
大学	3,928	74.3%
短期大学	328	6.2%
専門職大学	254	4.8%
専門職短期大学	73	1.4%
専門学校	1,301	24.6%
就職	439	8.3%
その他	89	1.7%

問4 問3で①～④を選択した方に質問です。(※問3で①～④を選択しなかった方は問5に進んでください) 志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(あてはまるものすべて)

*複数回答のため回答数はのべ／回答割合＝各回答数÷回答対象(問3で①～④を選択した4,173人)

選択肢	回答数	回答割合
私立	3,590	86.0%
国立	811	19.4%
公立	1,048	25.1%

問5 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
(あてはまるものすべて) ※現時点で進学を希望されていない方も進学する場合を想像してお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
文学	888	16.8%
史学	298	5.6%
哲学	299	5.7%
人文科学その他	395	7.5%
社会学	488	9.2%
法学・政治学	448	8.5%
商学・経営学	864	16.3%
社会科学その他	174	3.3%
数学	180	3.4%
物理学	119	2.3%
化学	159	3.0%
生物	338	6.4%
地学	75	1.4%
理学その他	116	2.2%
機械工学	251	4.7%
電気通信工学	161	3.0%
土木建築学	163	3.1%
応用化学	65	1.2%
工学その他	161	3.0%
農学	185	3.5%
農芸化学	51	1.0%
農業工学	33	0.6%
農業経済学	35	0.7%
水産学	78	1.5%
農学その他	85	1.6%
医学	184	3.5%

選択肢	回答数	回答割合
歯学	93	1.8%
薬学	207	3.9%
看護学	425	8.0%
保健その他	326	6.2%
商船学	71	1.3%
家政学	114	2.2%
食物学	335	6.3%
被服学	137	2.6%
住居学	67	1.3%
家政その他	67	1.3%
教育学	478	9.0%
小学校課程	157	3.0%
中・高校課程	210	4.0%
体育学	306	5.8%
教育その他	173	3.3%
美術	374	7.1%
デザイン	635	12.0%
音楽	371	7.0%
芸術その他	336	6.4%
健康科学	189	3.6%
国際関係学	451	8.5%
環境学	98	1.9%
教養学	97	1.8%
総合科学	102	1.9%
無回答	0	0.0%
合計	5,288	100.0%

問6 令和8(2026)年4月に相模女子大学で設置構想中である以下の2学科のうち、あなたが特に興味のある学科を選択してください。(あてはまるもの1つ)

選択肢	回答数	回答割合
人間社会学部 地域クリエーション学科 (学科名仮称)	2,726	51.6%
学芸学部 国際コミュニケーション学科 (学科名仮称)	2,332	44.1%
無回答	230	4.3%
合計	5,288	100.0%

問7 問6で選択した最も興味のある学科が開設された場合、受験を希望しますか。次より1つ選択してください。

選択肢	回答数	回答割合
第一志望として受験する	109	2.1%
第二志望として受験する	121	2.3%
第三志望以降として受験する	338	6.4%
受験しない	4,505	85.2%
無回答	215	4.1%
合計	5,288	100.0%

問8 上記、問7で①～③を選択した方に質問です。問6で選択した学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より1つ選択してください。

選択肢	回答数	回答割合
入学する	122	21.5%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	385	67.8%
入学しない	71	12.5%
無回答	0	0.0%
合計	568	100.0%

4. 高校生アンケート調査 結果の要点

※ 「構成比」 (%) はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

※ 以降、**集計対象は女子のみ**。

■ 人間社会学部 地域クリエーション学科 (学科名仮称)

(1) 【女子のみ】受験・入学意向クロス集計結果(「3. 高校生アンケート調査 集計結果」より)

以下の図1の通り、高校生アンケート調査の問6結果より、相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科(学科名仮称)」に対し受験意向を持ち、「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」を選択したのは206人で、予定する入学定員計60名の3.4倍の水準に及ぶことが明らかとなった。

「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は22人おり、地域クリエーション学科(学科名仮称)に合格した場合、確実に入学が見込まれる。「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」のした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」合計145人は、他大学の合否次第ではあるが、この中から38人(145人中26.2%)の入学者がいれば、「入学する」とした22人とあわせ、入学定員の充足が可能であり、必要十分な人数の高校生が地域クリエーション学科(学科名仮称)を志願していると言える。

図 1

受験意向		入学意向	
第一志望として受験する	31	入学する	22
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	4
第二志望として受験する	44	入学する	13
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	30
第三志望以降として受験する	131	入学する	4
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	115

(2)【女子のみ】受験・入学意向五重クロス集計結果(「3. 高校生アンケート調査 集計結果」より)

以下の図2の通り、高校卒業後の進路に「大学」、志望する大学の設置者に「私立」を選択し、興味のある学問分野として「社会学」または「家政学」のいずれか、もしくは両方を選択した上で、相模女子大学「人間社会学部 地域クリエーション学科(学科名仮称)」に受験・入学意向を示した人数を確認した。

「大学」進学、かつ「私立」を選択し、興味のある学問分野として「社会学」または「家政学」のいずれか、もしくは両方を選択する者は合計299人で、その上で同学部学科を「第一志望として受験する」としたのは2人、「第二志望として受験する」8人、「第三志望以降として受験する」28人と合計すると38人であった。

なお「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は2人であった。「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は合計で30人いた。

図 2

進路		設置者		学問分野		興味のある 学部学科専攻		受験意向		入学意向	
大学	2,623	私立	2,321	社会学、家政学	299	人間社会学部 地域クリエーション学科 (学科名仮称)	170	第一志望として受験する	2	入学する	2
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	0
								第二志望として受験する	8	入学する	4
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	4
								第三志望として受験する	28	入学する	0
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	26

■学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）

(1)【女子のみ】受験・入学意向クロス集計結果(「3. 高校生アンケート調査 集計結果」より)

以下の図1の通り、高校生アンケート調査の間6結果より、相模女子大学が設置構想中の「学芸学部 国際コミュニケーション学科(学科名仮称)」に対し受験意向を持ち、「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」を選択したのは194人で、予定する入学定員計60名の3.2倍の水準に及ぶことが明らかとなった。

「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は12人おり、国際コミュニケーション学科(学科名仮称)に合格した場合、確実に入学が見込まれる。「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」のした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」合計142人は、他大学の合否次第ではあるが、この中から48人(142人中33.8%)の入学者がいれば、「入学する」とした 12人とあわせ、入学定員の充足が可能であり、必要十分な人数の高校生が国際コミュニケーション学科(学科名仮称)を志願していると言える。

図 1

受験意向		入学意向	
第一志望として受験する	17	入学する	12
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	4
第二志望として受験する	40	入学する	13
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	26
第三志望以降として受験する	137	入学する	8
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	116

(2)【女子のみ】受験・入学意向五重クロス集計結果(「3. 高校生アンケート調査 集計結果」より)

以下の図2の通り、高校卒業後の進路に「大学」、志望する大学の設置者に「私立」を選択し、興味のある学問分野として「文学」を選択した上で、相模女子大学「学芸学部 国際コミュニケーション学科(学科名仮称)」に受験・入学意向を示した人数を確認した。

「大学」進学、かつ「私立」を選択し、興味のある学問分野として「文学」を選択する者は合計480人で、その上で同学部学科を「第一志望として受験する」としたのは1人、「第二志望として受験する」6人、「第三志望以降として受験する」42人と合計すると49人であった。

なお「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は1人であった。「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は合計で39人いた。

本学科は学位の分野については「文学関係」ではあるものの、その学びの内容としては英語のみならず英語圏の文化に加え、韓国語・韓国文化とアジアの多様性を学ぶカリキュラムを編成しており、世界のさまざまな場所、フィールドでの活躍を目指す高校生をそのターゲットとしている。学位の分野＝文学関係とは認識されていないが、人文・社会科学、芸術やポップカルチャーなどの分野に関心をもつ幅広い層への訴求が可能と思われる。

図 2

進路		設置者		学問分野		興味のある 学部学科専攻		受験意向		入学意向	
大学	2,623	私立	2,321	文学	480	学芸学部 国際コミュニケーション学科 (学科名仮称)	241	第一志望として受験する	1	入学する	1
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	0
								第二志望として受験する	6	入学する	2
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	4
								第三志望として受験する	42	入学する	5
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	35

相模女子大学 新学科設置構想についての高校生アンケート (対象：2024年度 高校2年生の皆様)

相模女子大学では、令和8(2026)年4月に「人間社会学部 地域クリエーション学科(学科名仮称)」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科(学科名仮称)」を設置構想中です。新学科についての概要資料をご覧の上、それぞれの学科への進学意向に関する調査にご協力をお願いします。なお、この調査の結果は、統計資料としてのみ用い、他の用途に使用することはありません。

※本アンケート調査への回答は1回のみとなります。

本アンケート調査と同一内容のアンケートに過去に回答した方は回答できません。

※本アンケート調査は相模女子大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

※本アンケート調査および概要資料に記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

記入要領	1. 回答は所定の欄を塗りつぶしてください。 2. 回答用紙を汚したり、折り曲げたりしないでください。 3. 記入は必ず鉛筆及びシャープペンシルで濃く書いてください。	記入例
		良い例  悪い例     

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

問1 あなたの現在の居住地をお答えください。(あてはまるもの1つ)

- ① 神奈川県 ② 東京都 ③ 埼玉県 ④ 千葉県 ⑤ 茨城県 ⑥ 栃木県 ⑦ 群馬県
⑧ その他

問2 あなたの性別をお答えください。(あてはまるもの1つ)

- ① 男性 ② 女性 ③ 答えたくない

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

問3 卒業後の進路をどのように考えていますか。(あてはまるものすべて)

- ① 大学 ② 短期大学 ③ 専門職大学 ④ 専門職短期大学
⑤ 専門学校 ⑥ 就職 ⑦ その他

▶問4 問3で①～④を選択した方に質問です。(※問3で①～④を選択しなかった方は問5に進んでください)
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(あてはまるものすべて)

- ① 私立 ② 国立 ③ 公立

→裏面に続く

問5 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
(あてはまるものすべて) ※現時点で進学を希望されていない方も進学する場合を想像してお答えください。

人文科学	① 文学	② 史学	③ 哲学	④ 人文学その他		
社会科学	⑤ 社会学	⑥ 法学・政治学	⑦ 商学・経済学	⑧ 社会科学その他		
理 学	⑨ 数学	⑩ 物理学	⑪ 化学	⑫ 生物	⑬ 地学	⑭ 理学その他
工 学	⑮ 機械工学	⑯ 電気通信工学	⑰ 土木建築学	⑱ 応用化学	⑲ 工学その他	
農 学	⑳ 農学	㉑ 農芸化学	㉒ 農業工学	㉓ 農業経済学	㉔ 水産学	㉕ 農学その他
保 健	㉖ 医学	㉗ 歯学	㉘ 薬学	㉙ 看護学	㉚ 保健その他	
商 船	㉛ 商船学					
家 政	㉜ 家政学	㉝ 食物学	㉞ 被服学	㉟ 住居学	㊱ 家政その他	
教 育	㊲ 教育学	㊳ 小学校課程	㊴ 中・高校課程	㊵ 体育学	㊶ 教育その他	
芸 術	㊷ 美術	㊸ デザイン	㊹ 音楽	㊺ 芸術その他		
そ の 他	㊻ 健康科学	㊼ 国際関係学	㊽ 環境学	㊾ 教養学	㊿ 総合科学	

ここからは別添・相模女子大学の新学科に関する概要資料を
見てからお答えください

問6 令和8(2026)年4月に相模女子大学で設置構想中である以下の2学科のうち、あなたが
特に興味のある学科を選択してください。(あてはまるもの1つ)

- ① 人間社会学部 地域クリエーション学科 (学科名仮称)
- ② 学芸学部 国際コミュニケーション学科 (学科名仮称)

問7 問6で選択した最も興味のある学科が開設された場合、受験を希望しますか。
次より1つ選択してください。

- ① 第一志望として受験する
- ② 第二志望として受験する
- ③ 第三志望以降として受験する
- ④ 受験しない

▶問8 上記、問7で①～③を選択した方に質問です。
問6で選択した学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より1つ選択してください。

- ① 入学する
- ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ③ 入学しない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。



相模女子大学

2026年度設置構想

人間社会学部

地域クリエーション学科

(学科名仮称)

学芸学部

国際コミュニケーション学科

(学科名仮称)

SAGAMI WOMEN'S UNIVERSITY

人間社会学部

地域クリエイション学科〔 仮 称 設置構想中 〕

学科の概要

所在地：相模女子大学キャンパス 神奈川県相模原市南区文京2-1-1

入学定員 60名(収容定員:250名) ※2026年度予定

修業年限：4年

取得学位：学士(地域クリエイション学)

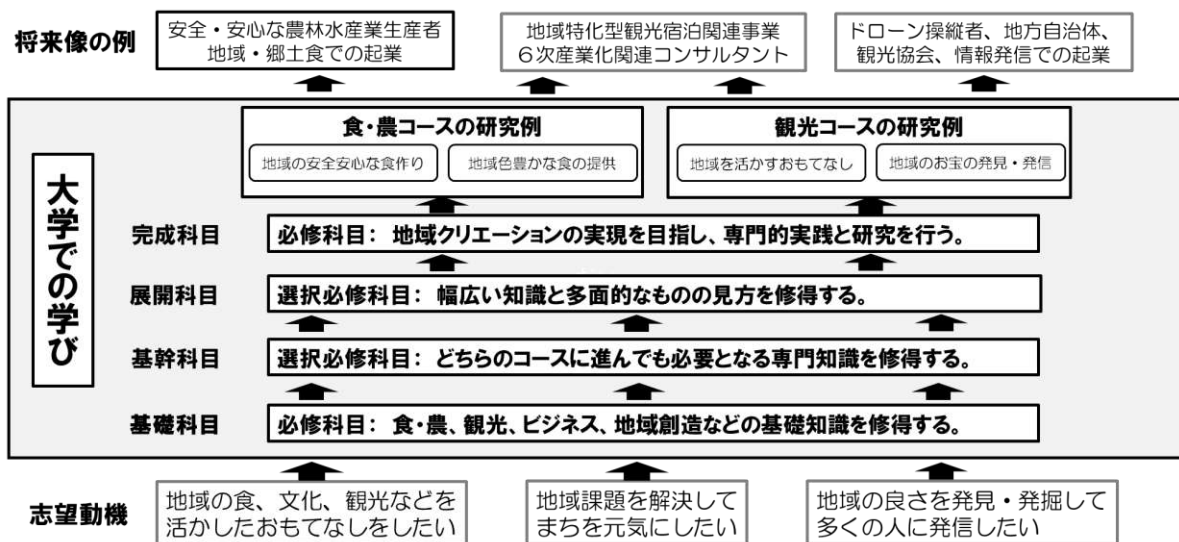
養成する人材：地域固有の資源を発掘し、地域の食、観光についてのグローバルな視点からの専門的知見をもとに、地域の持続可能なウェルビーイングを総合的に分析、実践し、取組みをストーリー化して広く地域内外に発信できる人材を育成します。

設置の理念

世界的に気候変動や自然災害に直面し、国内的にも人口減少や少子高齢化に伴う人材不足が課題となる中で、地域の居住者や生物のウェルビーイングにも配慮しながら、国内外からの来訪者に対し安心安全な食やおもてなしを提供でき、有事にも即戦力となれる人材を育成することを目的にしています。

学びの特徴

地域クリエイション学科の志望動機、学び、将来のライフプラン



■取得可能な資格・免許

食品衛生管理者・食品衛生監視員(任用資格)／二等無人航空機(ドローン)操縦士受験資格／温泉保養士(パルネオセラピスト)

卒業後の進路

- 観光業(ホテル・テーマパーク など)
- 運輸業(航空・鉄道・バス など)
- 飲食業(レストラン・カフェ など)
- 旅行業・観光協会・地方自治体
- コンサルティング業(食関係 ほか)
- 農林水産業・農協・漁協
- 卸売業(地域商社・専門商社 など)
- 起業(カフェ・映像制作 など)

アドミッションポリシー
(入学受け入れ方針)

- 地域振興に対して熱意を持って取り組める者。また、地域が抱えている諸課題の解決のために自らの考えを実践してみたいと思う者。
- 地域の食や文化、観光などに関心を持ち、居住者や国内外からの来訪者を温かく迎える気持ちを有する者。
- 地域とのかかわりのなかで、グローバルな視点から地域文化やウェルビーイングを実践し、広く地域内外に発信することに関心を持つ者。

学芸学部

国際コミュニケーション学科〔 仮 称
設置構想中 〕

学科の概要

所在地：相模女子大学キャンパス 神奈川県相模原市南区文京2-1-1

入学定員 60名(収容定員:250名) ※2026年度予定

修業年限：4年

取得学位：学士(国際コミュニケーション学)

養成する人材：キャンパス、国境、オン・オフライン、ヒトとAIの領域を主体的に横断することで、多様な人、社会、文化に共感・協働する能力を育成し、自身の特性を最大限に活かす力を養います。また、得られた多様な経験や知識を体系化し、生涯にわたり自己開発し続ける能力を培います。これにより、多様な社会で活躍する資質を備えた人材を養成します。

設置の理念

多文化・多様性社会において、日本は自らの文化や価値観を際立たせつつ、国際社会の中で対話し柔軟に対応できる人材の育成が求められています。国際コミュニケーション学科は、国内外の文化や社会について包括的に学び、自らに問いを立て、自らの視点を柔軟に転換する力、どのような環境・社会においても異なる価値観を積極的に受け入れながら、多様な人々と共感し協働できる力、新しい関係性を創り出す力、自己成長に必要な非認知能力を育成します。

学びの特徴

多様な学びの掛け合わせで、国際感覚あふれた自分を創る5つの横断型プログラム

①Area Studies Program on Korea/민국

韓国文化とアジアの多様性を学ぶ

韓国語の習得を通じ、アジアの豊かな文化を学び、ポップカルチャーや現地研修で生きた体験を重ねます。

②Communication Designer Program

デザイン・アート思考で価値を創造するコミュニケーション力

協働によって新しい価値をデザインし、関係性を深める対話力、メディアで情報を編集・発信する力を養います。

③Global Practitioner Program

実践的な社会課題への挑戦

国内外の地域や企業、教育機関でのフィールドワークやインターンシップを通じ、課題解決力や経験を学びに変える力を磨きます。

④Advanced English Studies Program

高度な英語力と異文化コミュニケーション力

英語の総合力を高め、異文化理解と柔軟な対話力、プレゼンテーション力など多文化社会でのコミュニケーション力を育成します。

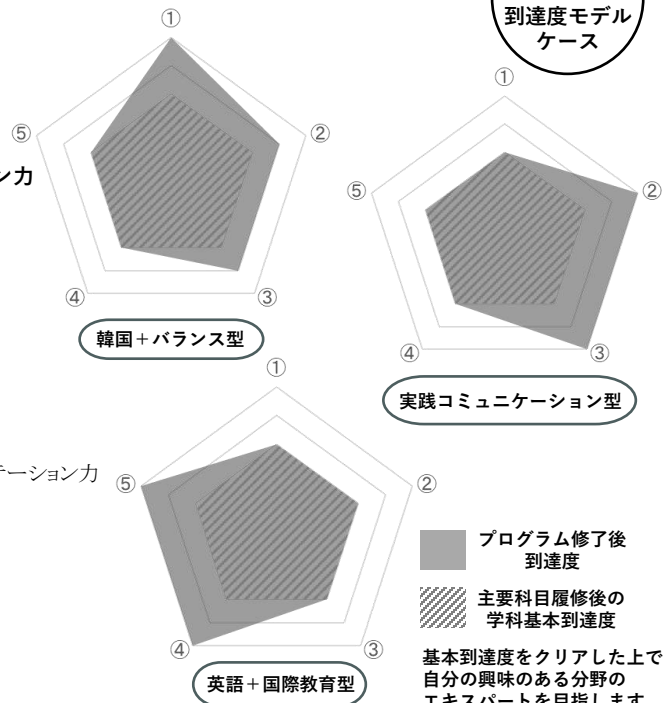
⑤Global Education Program

英語教育と国際基準の教える力の探求

国際的な基準と視点で英語教育と指導法を学び、教える力、育てる力、マネジメントする力を養います。

■取得可能な資格・免許

中学・高校教員1種(英語)、司書、司書教諭 ※予定のため変更となる場合があります。

プログラム
修了別
到達度モデル
ケース

卒業後の進路

- 貿易・商社、金融・保険
- 韓国系企業や英語圏の企業の日本支社、海外営業サポート
- 観光・ホスピタリティ業(旅行会社、ホテル)
- 教育関連(中・高英語教員、小学英語教員、英語・韓国語塾講師、インターナショナルスクール教職員)
- 国際交流団体・NPO・webメディア・エンターテインメント(韓流コンテンツ関連企業、多言語コンテンツ作成)
- 福祉・介護関連(高齢者施設・障害者支援施設スタッフ、多文化共生を目指す地域の福祉団体職員)

アドミッション
ポリシー
(入学者受け入れ方針)

- 自己のコミュニケーション能力を開発し、よりインクルーシブな社会の実現に貢献したいと考える者。
- キャンパス外での実践的な学習活動に意欲がある者。
- 英語のみならず、韓国語などの学習を通して多様な視点からグローバルなつながりに関心を持つ者。
- グローバルな視点から英語教育について探究し、指導者を志す者。

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

納 付 金	学科名	地域クリエイション学科(仮称)	国際コミュニケーション学科(仮称)
	初年度	1,518,000円	1,475,000円
	2年次以降	1,130,000円＋実験実習費※ ※年次により変動、以下「内容」を参照ください	1,085,000円＋実験実習費※ ※年次により変動、以下「内容」を参照ください
	内容	入学金:300,000円(入学時のみ)・授業料: 730,000円(毎年)・施設・設備費:390,000円(毎 年)、実験実習費:48,000円(1年次)・27,000円(2 年次)・10,000円(3年次)・8,000円(4年次)、自治 会費:20,000円(入学時のみ)、後援会費:10,000 円(毎年)、同窓会終身会費:20,000円(入学時の み)	入学金:300,000円(入学時のみ)・授業料: 725,000円(毎年)・施設・設備費:350,000円(毎 年)、実験実習費:50,000円(1年次)、55,000円(2 年次)、66,000円(3年次)、10,000円(4年次)・自 治会費:20,000円(入学時のみ)、後援会費: 10,000円(毎年)、同窓会終身会費:20,000円(入 学時のみ)

※学費は予定のものです。

▼ 住所・電話番号

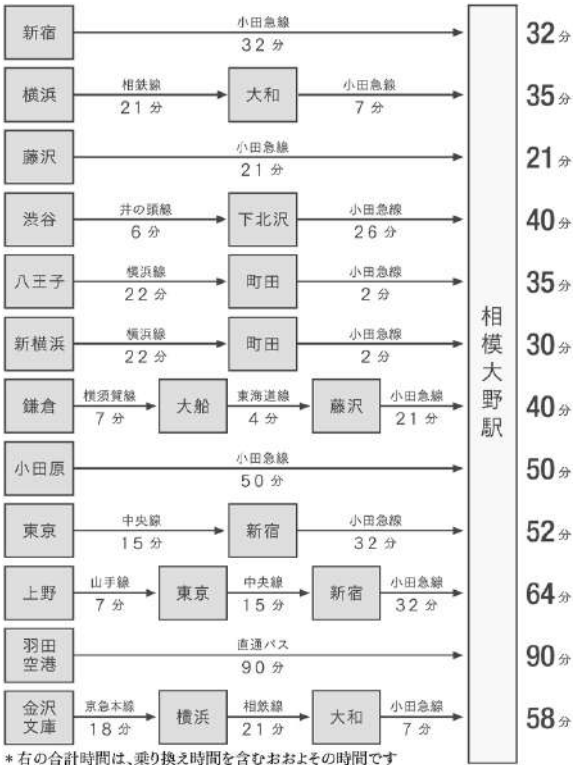
住所：神奈川県相模原市南区文京2-1-1
TEL：042-742-1411（代表）

▼ 周辺マップ



* 横浜町田I.C.から車で約20分 * 小田急線相模大野駅から徒歩約10分

▼相模大野駅までの所要時間



* 右の合計時間は、乗り換え時間を含むおおよその時間です

競	地域クリエイション学科(仮称)	国際コミュニケーション学科(仮称)
合 校	文教大学国際観光学科 國學院大学観光まちづくり学科 桜美林大学ビジネスマネジメント学類 東海大学観光学科 神奈川大学国際文化交流学科	大妻女子大学英語英文学科 共立女子大学文芸学科英語・英語圏文学専修 実践女子大学英文学科 関東学院大学英語文化学科 東海大学英語文化コミュニケーション学科

相模女子大学
新学科設置構想についての
人材需要アンケート調査
報告書

目次

1. 人材需要アンケート調査 概要	2
2. 人材需要アンケート調査 集計結果.....	3
3. 人材需要アンケート調査 結果の要点.....	13

(添付資料)

人材需要アンケート調査用紙.....	15
「相模女子大学2026年度設置構想」概要.....	17

1.人材需要アンケート調査 概要

調査目的	令和8年（2026年）度に相模女子大学が構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」（入学定員：60名）および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」（入学定員：60名）の設置における卒業後の採用・就職（人材需要）の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	[調査対象] 過去3年間に相模女子大学卒業生の採用実績がある地方公共団体や企業のうち 前述の学部学科専攻が育成する人材像に適した業種等 [業種] 卸売業、小売業、サービス業各種、IT関連業等 [調査地域] 主に首都圏を中心とするエリア [依頼件数] 1,270件
調査内容	・回答対象先の基本情報（業種・所在地・従業員／職員規模） ・相模女子大学「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」卒業生の人材ニーズ ・相模女子大学「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」卒業生の採用意向
調査時期	令和7年1月～2月
調査方法	調査対象事業所に対しアンケートを郵送し依頼することにより実施 （紙方式・web方式での回答方法を案内し、いずれかで回答を依頼）
回収件数	有効回答数224件（回収率17.64%）

2.人材需要アンケート調査 集計結果

※「構成比」(%)はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問1 貴社の本社または貴団体の本部所在地について、お答えください。

選択肢	回答数	回答割合	選択肢	回答数	回答割合
北海道	1	0.4%	滋賀県	0	0.0%
青森県	0	0.0%	京都府	0	0.0%
岩手県	0	0.0%	大阪府	4	1.8%
宮城県	1	0.4%	兵庫県	1	0.4%
秋田県	0	0.0%	奈良県	0	0.0%
山形県	0	0.0%	和歌山県	0	0.0%
福島県	1	0.4%	鳥取県	0	0.0%
茨城県	1	0.4%	島根県	0	0.0%
栃木県	2	0.9%	岡山県	0	0.0%
群馬県	1	0.4%	広島県	1	0.4%
埼玉県	2	0.9%	山口県	0	0.0%
千葉県	0	0.0%	徳島県	0	0.0%
東京都	113	50.4%	香川県	0	0.0%
神奈川県	73	32.6%	愛媛県	0	0.0%
新潟県	2	0.9%	高知県	0	0.0%
富山県	0	0.0%	福岡県	2	0.9%
石川県	0	0.0%	佐賀県	1	0.4%
福井県	0	0.0%	長崎県	1	0.4%
山梨県	3	1.3%	熊本県	0	0.0%
長野県	4	1.8%	大分県	0	0.0%
岐阜県	0	0.0%	宮崎県	0	0.0%
静岡県	6	2.7%	鹿児島県	0	0.0%
愛知県	4	1.8%	沖縄県	0	0.0%
三重県	0	0.0%	無回答	0	0.0%
			合計	224	100.0%

問2 貴社・貴団体の業種（主な事業内容）として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
農業・林業・漁業・鉱業	1	0.4%
建設業	7	3.1%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.0%
製造業	13	5.8%
通信業	1	0.4%
IT関連業	29	12.9%
放送、新聞、出版業	2	0.9%
運輸業、郵便業	2	0.9%
金融業（銀行・信託・証券・貸金）	7	3.1%
保険業	0	0.0%
学術研究、専門・技術サービス	5	2.2%
卸売業、小売業	41	18.3%
不動産業、物品賃貸業	8	3.6%
旅行業	0	0.0%
宿泊業、飲食サービス業	18	8.0%
教育・学習支援業	14	6.3%
生活関連サービス業、娯楽業	6	2.7%
医療	8	3.6%
福祉	31	13.8%
その他サービス業	18	8.0%
国家公務	0	0.0%
地方公務	3	1.3%
非営利団体	2	0.9%
その他	8	3.6%
無回答	0	0.0%
合計	224	100.0%

問3 貴社・貴団体の従業員・職員規模として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
20名未満	12	5.4%
20名以上100名未満	32	14.3%
100名以上300名未満	39	17.4%
300名以上1,000名未満	54	24.1%
1,000名以上	86	38.4%
無回答	1	0.4%
合計	224	100.0%

問4 相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」が養成する人材についての社会ニーズについてお答えください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
ニーズは高い	85	37.9%
ニーズはある程度高い	101	45.1%
ニーズはあまりない	15	6.7%
ニーズはない	2	0.9%
わからない	21	9.4%
無回答	0	0.0%
合計	224	100.0%

問5 相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」が養成する人材について採用したいと思われますか。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
採用したい	145	64.7%
採用しない	17	7.6%
わからない	62	27.7%
無回答	0	0.0%
合計	224	100.0%

問6 問5で「採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
1人	18	12.4%
2人	18	12.4%
3人	14	9.7%
4人	2	1.4%
5人以上	27	18.6%
人数は未定だが、最低1人	66	45.5%
無回答	0	0.0%
合計	145	100.0%

問7 相模女子大学が設置構想中の「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」が養成する人材についての社会ニーズについてお答えください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
ニーズは高い	85	37.9%
ニーズはある程度高い	98	43.8%
ニーズはあまりない	18	8.0%
ニーズはない	1	0.4%
わからない	22	9.8%
無回答	0	0.0%
合計	224	100.0%

問8 相模女子大学が設置構想中の「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」が養成する人材について採用したいと思われますか。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
採用したい	147	65.6%
採用しない	16	7.1%
わからない	61	27.2%
無回答	0	0.0%
合計	224	100.0%

問9 問8で「採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
1人	24	16.3%
2人	18	12.2%
3人	10	6.8%
4人	3	2.0%
5人以上	24	16.3%
人数は未定だが、最低1人	68	46.3%
無回答	0	0.0%
合計	147	100.0%

※相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」について期待される点、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

番号	回答
1	社会課題に関心を持ち、主体的に行動することのできる演習などがあるとよろしいのではと考えます
2	地域という抽象的な表現ではなく、具体的にしてほしい
3	福祉の領域とは違う分野の知識を活かし、地域社会の土台を支える活動の企画などを期待したい
4	生活の基盤である衣・食・住において強い関心を持ち、探求心に優れた人材。
5	どちらの学科においてもですが、直接的に弊社の事業と関係する分野ではありませんが、業務内容に魅力を感じ、熱意を持って取り組める方を採用したいと思います。学生時代に学業でも部活でも趣味でも何か没頭した経験ができる環境であると、いいと思います。
6	現時点ではニーズはありませんが、今後事業領域を拡大する中でニーズが生まれる可能性はあります。
7	多角的に物事が見られる力。
8	地域振興は今後重要なテーマであり、学生一般の志向としても、地元に貢献したいという意識が年々高まっているように感じていますのでとてもよいことと考えます。当社の事業領域と異なるため、③とさせていただきます。
9	災害被災地の復興を担う人材を育成していただけると、社会ニーズに貢献できるのではないのでしょうか。
10	地域の課題、食に関する文化や新たな発見。地域と関わる中で人として成長できる学科にとっても有意義な機会になると感じます。
11	社会貢献に携わっていただけるような人材
12	多様な職種にチャレンジできる人材
13	コミュニケーション能力の高い人材を求めています。カリキュラムに社会に出てからのセルフブランディングであるとかコミュニケーションの方法を期待しています
14	地域に暮らす”普通の人”だけではなく、子ども・高齢者・障がい者等まで視野を広く持つこと
15	地域の知見を持った意見を業務に活かせる
16	福祉の現場で生かせる科目があるといい
17	弊社はテレビ番組を制作するのが仕事なのでなかなか仕事と直結しない。しかし、インバウンドは増加の一方なので対応できる人材育成にはニーズがあると考えます
18	栄養士資格、管理栄養士資格も選択して取れるようであれば、採用したい。
19	教員免許が取得できると良い
20	地域振興の観点からその地域に興味を持ち学習を始めとしたさまざまな意欲をもつ人材を育てるという点でものごく関心がある。
21	地域とのつながりを大切にしている貴学ですので、地域への視点を持った学生が学びを活かされることを期待しています。
22	映像制作や、イベント運営など、音楽ライブ、SNS等の制作、運営に携わっていただけるとと思います。弊社では、芸能イベント(音楽・演劇・地域イベント)なども行っている関係で、専任が欲しい。
23	会社としての取り組みに地域振興観点の商品開発等の業務もあり 学んだ内容が行かせるとと思います
24	貴学に新設予定の「人間社会学部 地域クリエーション学科」につきまして、資料を拝読させていただきました。当社はIT企業ではございますが、分野を問わず自ら考え課題に挑戦していく人材に期待を寄せております。

25	地域社会の諸課題への取り組み方やおもてなしなどに関わるコミュニケーション能力などは、IT業界でも、重要視されるスキルです。 選考の際にまだ、IT未学習であったとしても、入社後、分析能力やコミュニケーション能力等、培ってきたスキルでじゅうぶんに頑張ってください。
26	弊社も相模原で創業し37年目に入りました。 その中で、地域に根差し・地域から発信していくことを目指しています。 いっしょに相模原からモノ作りしてくれる人材を採用したいと考えます。
27	我々は農業協同組合ですので、地域社会において好循環を創造することを理念としており、御校の人材はそれを担っていただけるものと期待しております。
28	地域について考える事により課題が見えてくると思います。それは他のどの地域にも当てはまるのかを調べることで年齢の違う人が住み生活を営んでいることにも関心が向き未来へ向け必要なことは何かを考えられる人材の育成につながると思います。
29	首都圏集中ではなく地方に目を向けられる人材を育成して頂きたいです。
30	地域の健康増進のためのイベント（食生活の改善や子ども薬剤師体験など）に力を入れておりますので、学んだことを活かしていただけると存じます。
31	弊社においてご活躍いただけるのではと、期待させていただいている点は2点ございます。 ・私たちニチレイグループでは「くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する」というミッションを掲げており、国内外の来訪者に対し安心安全な食やおもてなしを提供でき、即戦力となれる人材を育成する、という理念は当グループが求めている人材であるのではないかと期待しています。 ・アドミッションポリシーにおいて、「地域の食に興味をもち、地域が抱えている諸課題の解決のために自らの考えを実践してみたいと思う物」という箇所、弊社の事業・業務内容・働き方においてマッチング度が高いと期待しております。
32	IT業界、ソフトウェア開発に興味のある方であれば基本的にどの科学部の方でも大歓迎です。
33	懸念点： ・競合大学が多いため、特色を出す必要がある。例えば「SDGsに特化した国際教育」や「特定地域との強力な連携プログラム」などの具体性が重要。 全体的な評価と提案 1. ポジティブ要素： ・時代のニーズに合った学部構成。 ・「地域」と「国際」という対照的なテーマが学生層の幅を広げる可能性がある。 2. 注意点： ・具体的な差別化戦略（地域連携・国際教育プログラムの具体化）が不可欠。 ・持続可能な定員確保に向けたマーケティングやプロモーション戦略が必要。
34	地域振興に貢献するため、柔軟な視点で課題を捉え、自ら考え抜いて解決策を提案し、実行できる学生の育成を期待しております。
35	ITと連携した研究が行われれば採用の可能性も出てくるかと思います
36	国内では少子高齢化が進む中、政府のインバウンド増加施策は続き、今以上にオーバーツーリズムが問題視されることが予想されます。また地球温暖化対策が急務な中、難しい対応が可能な社会人の育成が期待されると思います。
37	地域振興に対して熱意をもって取り組める人材であることから、当組合の経営方針と同様であり、また地域の関わりに関心を持つ学生は企業としても採用したい人材である。
38	弊社が募集している職種は、学科と直接関連するものではないかもしれませんが、地域クリエーション学科で学ばれた課題解決能力は、職種問わず活躍して下さるものと期待しております。
39	地域の特性・調剤薬局の特性を生かした提案・活動実施
40	教員免許状を取得できない学科のため、採用ができません。そのため、教員免許状を取得可能となる場合については、状況によって採用が可能となります。
41	医療分野は地域密着型の業種であり貴校の掲げる設立理念と親和性が高いと推測される

42	資格要件が弊グループの事業とは合わないので採用は難しいですが、農福一体など、農業はどの分野ともコラボレーションできると思いますので、農業に関する知識がある人材の需要はあると思います。
43	地域クリエーション学科と弊社の企業理念が合致しております。多角的なものの見方ができ、自ら考動できる方を望みます。
44	弊社は建築の設計事務所であり、今回の新学科の生徒さん達の就職等に関わることはないと思われますが、地域に根差した考え・貢献する姿勢は同じですので将来何かしらで融合できること期待しています。
45	自ら色々なことを提案する力を身につくようにしてほしい
46	弊社IT業界に属するため、デジタルの活用に向けての学習がどの程度あるのかが分かると大変興味があります。
47	現在、観光地にてメインの客層とも言えるインバウンド層のお客様に対し、インターネットや観光書籍などから得られる情報だけではなく、ユニークな情報やおもてなし、非常時の対応が出来るような人材が養成されること。
48	当社の新卒採用は栄養士、管理栄養士、調理師の資格保有（予定）者の採用を主としているため、専門職としての採用は難しいです。ですが、総合職を僅かではありますが、募集しているため、募集要項に当てはまり、当社の希望する学生像と一致する学生がいた場合、総合職としての採用検討をさせていただきたく存じます。

※相模女子大学が設置構想中の「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」について期待される点、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

番号	回答
1	国内外において多様な文化や価値観と共生している企業、団体とのつながりをもてるよう外部講師による講義がうけられると面白いのではと思いました
2	日本国民の人口が減少する中でニーズはあると思う。Society5.0実現に向けて生徒を社会に輩出してほしい
3	特定技能実習生の雇用促進等、多文化的な関わりが増えており、今後そうした知見を持つ人材の活躍が期待されている
4	高度な英語力や多種多様な言語能力を持つ人材。
5	当法人の障害者福祉には、コミュニケーション能力が高い学生を必要としています。人材不足の中、応募いただければうれしいです。福祉分野に興味を持ってもらえるカリキュラムをぜひ整えてほしいです。
6	当外学科において、小学校教諭免許状が取得できるのであれば、本市小学校教諭（英語コース）として採用したい。
7	多角的に物事が見られる力。
8	教員の養成
9	柔軟な対応力
10	韓国の芸能プロダクションの日本進出にあたってのサポートなど、ニーズは高いのではないのでしょうか。
11	高校（英語）の免許取得者がいればぜひ採用したい
12	グローバルな視点での物事の考え方が学べ、コミュニケーション力を高められることは、学生にとっても大きな武器になると思います。
13	多様な職種に挑戦できる人材
14	地域に暮らす”普通の人”だけではなく、子ども・高齢者・障がい者等まで視野を広く持つこと
15	特定技能外国人等に関する知識
16	多様な方の支援を行っているので、コミュニケーション能力を備えられることは望ましい（どんな分野でも活かせる）
17	こういう人材の育成は他大学や機関でもすでにあると考えます。地域クリエーション学科に比べ人材育成の中身が新鮮とは思えません。
18	世界の中の日本という考えの中では国際的な学習は必要かもしれないが当社としては関心度は低い。
19	国際、コミュニケーションという言葉での学部や学科設置は他にも多いと思います。 貴学の場合は、英語力の他に多様性、韓国語や文化といった内容もあるため、学びたいという学生は多いのではないのでしょうか？ 卒業後の韓国系企業への就職が可能ならなお良いと思われます。
20	英語力を求められるIT現場が存在するため、弊社では、帰国子女が3名おります。 ニーズが高まっているため、採用を考えています。
21	海外のオーガニック市場の視察等の出張もあり 語学スキルが高い人材は有望
22	貴学に新設予定の「国際コミュニケーション学科」につきまして、資料を拝読させていただきました。当社では文系・理系を問わず幅広く採用しております。特にコミュニケーション能力の高い人材は当社でも活躍しており、貴学の開設学科ではそのような人材が成長できるようなアドミッションポリシーを掲げていると感じました

23	IT業界では、英語も多用されます。 しっかり学んでいただければ、ITの技術は習得の際にも、学びやすくなると思います。 また、コミュニケーション能力は、お仕事をすることにあって、最も重要なスキルです。 上記2点をしっかり学べる学生様は、弊社はとても期待が持てます。
24	地域も企業も成長する中で、色々な文化・環境で育ってきた人たちと共存していかないといけない時代になってきていると実感します。 そういった人たちといっしょに成長していきたいと思っています。
25	なぜ今さら「韓国文化」なのか分からない。ブームに乗じた学生集めにしか映らない。
26	韓国文化を学ぶことはいいことだと思います。これだけ韓国料理や音楽が身近になっているのに韓国の歴史については学ぶ機会がありません。歴史上の王様の名前を一人も知らないと思います。国の歴史も知らずに相手を理解することは難しいと思います。また英語でのコミュニケーション能力の向上も大切で新しい学科に期待しております。
27	患者さん対応に必要な接客、コミュニケーション能力
28	弊社においてご活躍いただけるのではと、期待させていただいている点は2点ございます。 ・2024年問題もあり、今後大きく変化が求められている物流業界に身を置く弊社として、国内外の文化や社会において多様な人々と共感し協働できる力は、即戦力となると期待しています。 ・外国のカルチャーのみならず、コミュニケーション能力の開発まで広く学ぶことができることで、これまでにない革新的な人材であるのではないかと期待しています。また、親会社であるニチレイロジグループ本社において、海外事業も行っておりますので、そういった面でもご活躍の場は広いのではないかと考えています。
29	IT業界、ソフトウェア開発に興味のある方であれば基本的にどの科学部の方でも大歓迎です。
30	弊社では、学部や専攻を問わず、志望する学生をITシステムエンジニアとして育成する体制を整えております。未経験の方でも安心してご応募いただける環境をご用意しております。 現在、2025年卒業予定でまだ就職先が決まっていない学生や、2026年卒業予定の学生の皆様に向けて、弊社でのキャリアの可能性をご紹介しますと考えております。 貴学の学生の皆様に少しでもご興味をお持ちいただけましたら、ぜひご紹介いただけますと幸いです。
31	特にありません
32	様々な国籍、文化、宗教に対し柔軟に対応し、双方の中をとりもつ、といった業務が期待されます。
33	多様性社会において様々な国や文化の方々とコミュニケーションを図る中、多様な人々と共感し協働することは今後、求められる人材であると考えます。
34	エンジニア人材においてもコミュニケーションは非常に大切な能力のため、自己コミュニケーション能力を鍛えた学生は企業に限らず、社会が必要とする人材になられることと存じます。
35	インターンシップや学校、サポーター等により、大学と学校現場での経験を往還的に深めて実践力を高めるような学びを期待しています。本市でのインターンシップや教育実習の受け入れについては、ぜひご相談いただければ幸いです。
36	昨今の医療分野では外国人需要が急速に高まっており、医療分野は御学科の育成目的とする人材の活躍出来る業種であると思われる。
37	教員免許を取得できるとのことで、弊グループの事業(放課後等デイサービス)の児童指導員として活躍いただけると思います。
38	地域クリエーション学科と同様に、学んだ知識から柔軟な発想力を育んだ方たちとお仕事を一緒にできることを期待しています。
39	弊社IT業界に属するため、デジタルの活用に向けての学習がどの程度あるのかが分かると大変興味があります。
40	こちら、さきの設問で記載したインバウンド層への対応はもちろん、そのような層へのサービス内容等の構想なども非常に重要になると考え、そういった人材養成のニーズを感じる。
41	当社の新卒採用は栄養士、管理栄養士、調理師の資格保有(予定)者の採用を主としているため、専門職としての採用は難しいです。ですが、総合職を僅かではありますが、募集しているため、募集要項に当てはまり、当社の希望する学生像と一致する学生がいた場合、総合職としての採用検討をさせていただきたく存じます。

3.人材需要アンケート調査 結果の要点

(1)「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」が養成する人材のニーズ・採用意向

相模女子大学「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」で養成する人材のニーズについては「ニーズは高い」85箇所（38.0%）、「ニーズはある程度高い」101箇所（45.0%）で合計すると186箇所（83.0%）がそのニーズの高さを認める結果となった。

また、145箇所（64.7%）が採用意向を示し、その上での採用可能人数（単年度）合計は予定する入学定員60名の5.0倍となる301人であった。

問4 養成する人材の社会ニーズ

ニーズは高い・ある程度高い	186事業所	83.0%
ニーズはない・あまりない・わからない・無回答	38事業所	17.0%
合計	224事業所	100.0%

問5 卒業生の採用意向

採用したい	145事業所	64.7%
採用しない・わからない・無回答	79事業所	35.3%
合計	224事業所	100.0%

問6 単年度の採用可能人数

	1人	2人	3人	4人	5人以上	人数は未定だが、最低1人	無回答	合計
「採用したい」の回答数	18	18	14	2	27	66	0	145
採用可能人数計 （回答数×採用可能人数）	18人	36人	42人	8人	135人	66人	0人	305人

※「5人以上」は5人として計算した。

※「人数は未定だが、最低1人」は1人として計算した。

※採用可能人数へ無回答の場合は集計から除外した。

(2)「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」が養成する人材のニーズ・採用意向

相模女子大学「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」で養成する人材のニーズについては「ニーズは高い」85箇所（38.0%）、「ニーズはある程度高い」98箇所（43.8%）で合計すると183箇所（81.7%）がそのニーズの高さを認める結果となった。

また、147箇所（65.6%）が採用意向を示し、その上での採用可能人数（単年度）合計は予定する入学定員60名の4.8倍となる290人であった。

問7 養成する人材の社会ニーズ

ニーズは高い・ある程度高い	183事業所	81.7%
ニーズはない・あまりない・わからない・無回答	41事業所	18.3%
合計	224事業所	100.0%

問8 卒業生の採用意向

採用したい	147事業所	65.6%
採用しない・わからない・無回答	77事業所	34.4%
合計	224事業所	100.0%

問9 単年度の採用可能人数

	1人	2人	3人	4人	5人以上	人数は未 定だが、 最低1人	無回答	合計
「採用したい」 の回答数	24	18	10	3	24	68	0	147
採用可能人数計 （回答数×採用 可能人数）	24人	36人	30人	12人	120人	68人	0人	290人

※「5人以上」は5人として計算した。

※「人数は未定だが、最低1人」は1人として計算した。

※採用可能人数へ無回答の場合は集計から除外した。

相模女子大学 新学科設置構想についての人材需要アンケート

相模女子大学では、令和 8(2026)年 4 月、「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」の設置を構想しております。新学科についての概要資料をご覧の上、同学科への採用意向に関する調査にご協力をお願いします。なお、この調査の結果は、統計資料としてのみ用い、他の用途に使用することはありません。また、設置計画は予定であり、今後変更となる可能性があります。

※このアンケート調査は相模女子大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※本アンケートおよび概要資料に記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

記入要領	1. 回答は所定の欄を塗りつぶしてください。	【記入例】 ☒ ① 大学 ☐ ② 短期大学
	2. この用紙は電算処理しますので汚さないようにしてください。	
	3. 記入は必ず鉛筆またはシャープペンシルで濃く書いてください。	

問 1 貴社の本社または貴団体の本部所在地について、お答えください。（あてはまるもの 1 つ）

☐ 北海道	☐ 青森県	☐ 岩手県	☐ 宮城県	☐ 秋田県	☐ 山形県	☐ 福島県
☐ 茨城県	☐ 栃木県	☐ 群馬県	☐ 埼玉県	☐ 千葉県	☐ 東京都	☐ 神奈川県
☐ 新潟県	☐ 富山県	☐ 石川県	☐ 福井県	☐ 山梨県	☐ 長野県	☐ 岐阜県
☐ 静岡県	☐ 愛知県	☐ 三重県	☐ 滋賀県	☐ 京都府	☐ 大阪府	☐ 兵庫県
☐ 奈良県	☐ 和歌山県	☐ 鳥取県	☐ 島根県	☐ 岡山県	☐ 広島県	☐ 山口県
☐ 徳島県	☐ 香川県	☐ 愛媛県	☐ 高知県	☐ 福岡県	☐ 佐賀県	☐ 長崎県
☐ 熊本県	☐ 大分県	☐ 宮崎県	☐ 鹿児島県	☐ 沖縄県		

問 2 貴社・貴団体の業種（主な事業内容）として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの 1 つ）

☐ 農業、林業、漁業、鉱業	☐ 建設業	☐ 電気、ガス、熱供給、水道業	☐ 製造業
☐ 通信業	☐ IT 関連業	☐ 放送、新聞、出版業	☐ 運輸業、郵便業
☐ 金融業（銀行・信託・証券・貸金）	☐ 保険業	☐ 学術研究、専門・技術サービス	☐ 卸売業、小売業
☐ 不動産業、物品賃貸業	☐ 旅行業	☐ 宿泊業、飲食サービス業	☐ 教育・学習支援業
☐ 生活関連サービス業、娯楽業	☐ 医療	☐ 福祉	☐ その他サービス業
☐ 国家公務	☐ 地方公務	☐ 非営利団体	☐ その他

問 3 貴社・貴団体の従業員・職員規模として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの 1 つ）

☐ 20 名未満	☐ 20 名以上 100 名未満	☐ 100 名以上 300 名未満
☐ 300 名以上 1,000 名未満	☐ 1,000 名以上	

ここからは別添・相模女子大学の新学科に関する概要資料を
見てからお答えください

◆人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）についてお聞きます。

問 4 相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」が養成する人材についての社会ニーズについてお答えください。（あてはまるもの 1 つ）

☐ ニーズは高い	☐ ニーズはある程度高い	☐ ニーズはあまりない
☐ ニーズはない	☐ わからない	

問5 相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」が養成する人材について採用したいと思われますか。（あてはまるもの1つ）

☐ ①採用したい ☐ ②採用しない ☐ ③わからない



問6 問5で「①採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

☐ 1人 ☐ 2人 ☐ 3人
☐ 4人 ☐ 5人以上 ☐ 人数は未確定だが、最低1人

※ 相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」について期待される点
ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

◆学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）についてお聞きします。

問7 相模女子大学が設置構想中の「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」が養成する人材についての社会ニーズについてお答えください。（あてはまるもの1つ）

☐ ニーズは高い ☐ ニーズはある程度高い ☐ ニーズはあまりない
☐ ニーズはない ☐ わからない

問8 相模女子大学が設置構想中の「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」が養成する人材について採用したいと思われますか。（あてはまるもの1つ）

☐ ①採用したい ☐ ②採用しない ☐ ③わからない



問9 問8で「①採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

☐ 1人 ☐ 2人 ☐ 3人
☐ 4人 ☐ 5人以上 ☐ 人数は未確定だが、最低1人

※ 相模女子大学が設置構想中の「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」について期待される点、
ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

※宜しければ貴社名をお教えてください。こちらは、どの企業にご返送いただいたかを把握するための質問であり、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・団体が識別できる情報として公表されることはございません。
（ゴム印の押印でも問題ございません）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。



相模女子大学

2026年度設置構想

人間社会学部

地域クリエーション学科

(学科名仮称)

学芸学部

国際コミュニケーション学科

(学科名仮称)

SAGAMI WOMEN'S UNIVERSITY

人間社会学部

地域クリエイション学科〔仮称 設置構想中〕

学科の概要

所在地：相模女子大学キャンパス 神奈川県相模原市南区文京2-1-1

入学定員 60名(収容定員:250名) ※2026年度予定

修業年限：4年

取得学位：学士(地域クリエイション学)

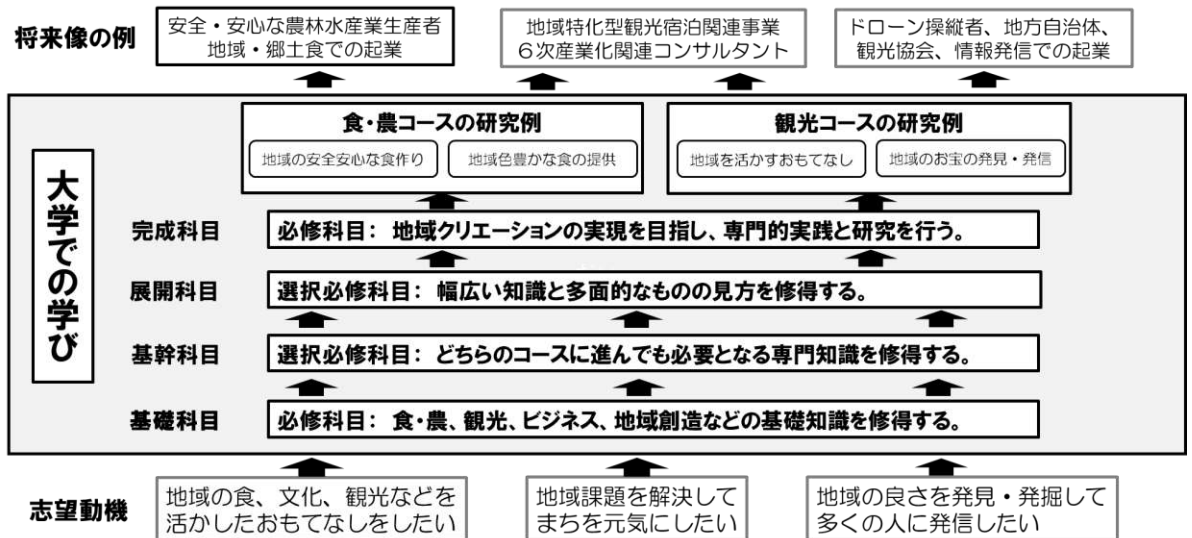
養成する人材：地域固有の資源を発掘し、地域の食、観光についてのグローバルな視点からの専門的知見をもとに、地域の持続可能なウェルビーイングを総合的に分析、実践し、取組みをストーリー化して広く地域内外に発信できる人材を育成します。

設置の理念

世界的に気候変動や自然災害に直面し、国内的にも人口減少や少子高齢化に伴う人材不足が課題となる中で、地域の居住者や生物のウェルビーイングにも配慮しながら、国内外からの来訪者に対し安心安全な食やおもてなしを提供でき、有事にも即戦力となれる人材を育成することを目的にしています。

学びの特徴

地域クリエイション学科の志望動機、学び、将来のライフプラン



■取得可能な資格・免許

食品衛生管理者・食品衛生監視員(任用資格)／二等無人航空機(ドローン)操縦士受験資格／温泉保養士(パルネオセラピスト)

卒業後の進路

- 観光業(ホテル・テーマパーク など)
- 運輸業(航空・鉄道・バス など)
- 飲食業(レストラン・カフェ など)
- 旅行業・観光協会・地方自治体
- コンサルティング業(食関係 ほか)
- 農林水産業・農協・漁協
- 卸売業(地域商社・専門商社 など)
- 起業(カフェ・映像制作 など)

アドミッションポリシー
(入学受け入れ方針)

- 地域振興に対して熱意を持って取り組める者。また、地域が抱えている諸課題の解決のために自らの考えを実践してみたいと思う者。
- 地域の食や文化、観光などに関心を持ち、居住者や国内外からの来訪者を温かく迎える気持ちを有する者。
- 地域とのかかわりのなかで、グローバルな視点から地域文化やウェルビーイングを実践し、広く地域内外に発信することに関心を持つ者。

学芸学部

国際コミュニケーション学科〔 仮 称
設置構想中 〕

学科の概要

所在地：相模女子大学キャンパス 神奈川県相模原市南区文京2-1-1

入学定員 60名(収容定員:250名) ※2026年度予定

修業年限：4年

取得学位：学士(国際コミュニケーション学)

養成する人材：キャンパス、国境、オン・オフライン、ヒトとAIの領域を主体的に横断することで、多様な人、社会、文化に共感・協働する能力を育成し、自身の特性を最大限に活かす力を養います。また、得られた多様な経験や知識を体系化し、生涯にわたり自己開発し続ける能力を培います。これにより、多様な社会で活躍する資質を備えた人材を養成します。

設置の理念

多文化・多様性社会において、日本は自らの文化や価値観を際立たせつつ、国際社会の中で対話し柔軟に対応できる人材の育成が求められています。国際コミュニケーション学科は、国内外の文化や社会について包括的に学び、自らに問いを立て、自らの視点を柔軟に転換する力、どのような環境・社会においても異なる価値観を積極的に受け入れながら、多様な人々と共感し協働できる力、新しい関係性を創り出す力、自己成長に必要な非認知能力を育成します。

学びの特徴

多様な学びの掛け合わせで、国際感覚あふれた自分を創る5つの横断型プログラム

①Area Studies Program on Korea/민국

韓国文化とアジアの多様性を学ぶ

韓国語の習得を通じ、アジアの豊かな文化を学び、ポップカルチャーや現地研修で生きた体験を重ねます。

②Communication Designer Program

デザイン・アート思考で価値を創造するコミュニケーション力

協働によって新しい価値をデザインし、関係性を深める対話力、メディアで情報を編集・発信する力を養います。

③Global Practitioner Program

実践的な社会課題への挑戦

国内外の地域や企業、教育機関でのフィールドワークやインターンシップを通じ、課題解決力や経験を学びに変える力を磨きます。

④Advanced English Studies Program

高度な英語力と異文化コミュニケーション力

英語の総合力を高め、異文化理解と柔軟な対話力、プレゼンテーション力など多文化社会でのコミュニケーション力を育成します。

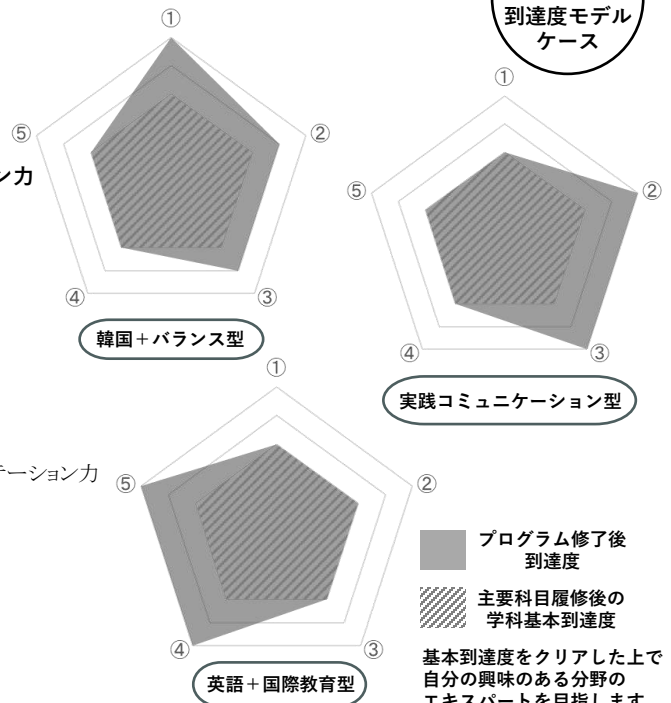
⑤Global Education Program

英語教育と国際基準の教える力の探求

国際的な基準と視点で英語教育と指導法を学び、教える力、育てる力、マネジメントする力を養います。

■取得可能な資格・免許

中学・高校教員1種(英語)、司書、司書教諭 ※予定のため変更となる場合があります。

プログラム
修了別
到達度モデル
ケース

卒業後の進路

- 貿易・商社、金融・保険
- 韓国系企業や英語圏の企業の日本支社、海外営業サポート
- 観光・ホスピタリティ業(旅行会社、ホテル)
- 教育関連(中・高英語教員、小学英語教員、英語・韓国語塾講師、インターナショナルスクール教職員)
- 国際交流団体・NPO・webメディア・エンターテインメント(韓流コンテンツ関連企業、多言語コンテンツ作成)
- 福祉・介護関連(高齢者施設・障害者支援施設スタッフ、多文化共生を目指す地域の福祉団体職員)

アドミッション
ポリシー
(入学者受け入れ方針)

- 自己のコミュニケーション能力を開発し、よりインクルーシブな社会の実現に貢献したいと考える者。
- キャンパス外での実践的な学習活動に意欲がある者。
- 英語のみならず、韓国語などの学習を通して多様な視点からグローバルなつながりに関心を持つ者。
- グローバルな視点から英語教育について探究し、指導者を志す者。

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

納 付 金	学科名	地域クリエーション学科(仮称)	国際コミュニケーション学科(仮称)
	初年度	1,518,000円	1,475,000円
	2年次以降	1,130,000円＋実験実習費※ ※年次により変動、以下「内容」を参照ください	1,085,000円＋実験実習費※ ※年次により変動、以下「内容」を参照ください
	内容	入学金:300,000円(入学時のみ)・授業料: 730,000円(毎年)・施設・設備費:390,000円(毎 年)、実験実習費:48,000円(1年次)・27,000円(2 年次)・10,000円(3年次)・8,000円(4年次)、自治 会費:20,000円(入学時のみ)、後援会費:10,000 円(毎年)、同窓会終身会費:20,000円(入学時の み)	入学金:300,000円(入学時のみ)・授業料: 725,000円(毎年)・施設・設備費:350,000円(毎 年)、実験実習費:50,000円(1年次)・55,000円(2 年次)・66,000円(3年次)・10,000円(4年次)・自 治会費:20,000円(入学時のみ)、後援会費: 10,000円(毎年)、同窓会終身会費:20,000円(入 学時のみ)

※学費は予定のものです。

▼住所・電話番号

住所：神奈川県相模原市南区文京2-1-1
TEL：042-742-1411（代表）

▼周辺マップ



* 横浜町田I.C.から車で約20分 * 小田急線相模大野駅から徒歩約10分

▼相模大野駅までの所要時間

新宿	小田急線	32分	32分
横浜	相鉄線	21分	35分
藤沢	小田急線	21分	21分
渋谷	井の頭線	6分	40分
八王子	横浜線	22分	35分
新横浜	横浜線	22分	30分
鎌倉	横須賀線	7分	40分
小田原	小田急線	50分	50分
東京	中央線	15分	52分
上野	山手線	7分	64分
羽田空港	直達バス	90分	90分
金沢文庫	京急本線	18分	58分
	相模線	21分	
	小田急線	7分	

* 右の合計時間は、乗り換え時間を含むおおよその時間です

競 合 校	地域クリエーション学科(仮称)	国際コミュニケーション学科(仮称)
	文教大学国際観光学科 國學院大学観光まちづくり学科 桜美林大学ビジネスマネジメント学類 東海大学観光学科 神奈川大学国際文化交流学科	大妻女子大学英語英文学科 共立女子大学文芸学科英語・英語圏文学専修 実践女子大学英文学科 関東学院大学英語文化学科 東海大学英語文化コミュニケーション学科

教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	タバタ マサヒデ 田畑 雅英 ＜令和3年4月＞		文学修士		相模女子大学・相模女子大学短期大学部 学長 (令和3年4月～令和9年3月)

4	基（主専）	教授	タナカ ヒロユキ 田中 啓之 ＜令和8年4月＞		工学修士※	さがみ総合講座 基礎教育講座 地域クリエーション学入門 ※ 地域クリエーション学実践 ライフデザイン ※ データ分析入門 公共政策論 ドローン操縦技術 無線通信技術と法 地域データ分析 情報通信産業論 インターンシップⅠ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 前 1 前 1 前 1 前 1 後 1 前 2 後 1 後 2 前 2 後 2 前 2 通 3 前 3 後 4 前 4 後	2 2 0.3 1 0.1 4 2 1 2 2 2 2 2 2 3 2 3 3	1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相模女子大学 人間社会学部 教授 (平20.4)	○ (令9.4～)		○ (～令9.3)	大学評議会	4日	
5	基（主専）	教授	ハダ トシヒサ 羽田 利久 ＜令和8年4月＞		博士 (国際観光学)	基礎教育講座 地域クリエーション学入門 ※ 地域クリエーション学実践 ライフデザイン ※ 観光学概論 観光地理学 観光ビジネス論 世界遺産入門 旅行業概論 資格支援講座 インターンシップⅡ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 前 1 前 1 前 1 後 1 前 2 前 2 前 2 前 2 後 2 後 3 通 3 前 3 後 4 前 4 後	2 0.1 1 0.3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 3 3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相模女子大学 学芸学部 教授 (令7.4)	○	○			4日	
6	基（主専）	教授	ヨダ（フカサワ） マミ 依田（深沢） 真美 ＜令和8年4月＞		博士 (観光学)	地域クリエーション学入門 ※ 地域クリエーション学実践 ライフデザイン ※ ウェルビーイングと観光 フードツーリズム論 地域資源発掘活用演習 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 前 1 前 1 後 2 前 2 後 2 通 3 前 3 後 4 前 4 後	0.1 1 0.3 2 2 1 2 2 3 3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相模女子大学 学芸学部 特任教授 (平29.4)	○				4日	
7	基（主専）	准教授	ヤナイ（ヤブキ） シオリ 柳内（矢吹） 志織 ＜令和8年4月＞		修士 (家政学)	地域クリエーション学入門 ※ 地域クリエーション学実践 ライフデザイン ※ 食文化論 食品の化学 調理科学 食品加工と保蔵 発酵・醸造学 フードデザイン実習（基礎調理） フードデザイン実習（応用調理） 食品加工学実習 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 前 1 前 1 後 1 前 1 前 1 後 2 前 2 後 1 後 2 前 2 後 3 前 3 後 4 前 4 後	0.3 1 0.1 2 2 2 2 2 1 1 1 2 2 3 3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相模女子大学 短期大学部 准教授 (令6.4)	○				4日	
8	基（主専）	講師	シノハラ アキコ 篠原 暁子 ＜令和8年4月＞		博士 (人間科学)	地域クリエーション学入門 ※ 地域クリエーション学実践 ライフデザイン ※ 公衆衛生学 健康と栄養 栄養機能学 栄養生理学 食と環境 ライフステージと食 栄養マネジメント実習 地域栄養学 食育活動 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 前 1 前 1 後 1 後 2 前 2 後 1 後 2 前 2 前 2 前 2 後 2 後 3 前 3 後 4 前 4 後	0.3 1 0.1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 2 2 3 3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相模女子大学 短期大学部 専任講師 (令6.4)	○				4日	
9	基（主専）	講師	タカハシ コウタ 高橋 孝太 ＜令和8年4月＞		修士 (生活科学)	基礎教育講座 地域クリエーション学入門 ※ 地域クリエーション学実践 ライフデザイン ※ 食品衛生学 食品安全学 フードブランニング論 食安全マネジメント演習 フードブランニング実習Ⅰ フードブランニング実習Ⅱ フードブランニング実習Ⅲ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 前 1 前 1 前 1 後 1 後 2 前 2 前 2 前 3 前 3 前 3 後 3 後 3 前 3 後 4 前 4 後	2 0.1 1 0.3 2 2 2 1 1 1 1 1 2 2 3 3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相模女子大学 短期大学部 専任講師 (令6.4)	○	○			4日	

10	その他	教授	イケダ ヨシト 池田 仁人 ＜令和8年9月＞		博士（学校教育学）		さがみ発想講座 ※ 問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ 問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ		1後 3通 4通	0.9 1 1	1 1 1	相模女子大学学芸学部 教授 (平20.4)						
11	その他	教授	イシカワ ユウイチ 石川 勇一 ＜令和8年4月＞		修士（人間科学）		心理学		1前・後	2	1	相模女子大学人間社会学部 教授 (平12.5)						
12	その他	教授	イトウ トシヒコ 伊東 俊彦 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		倫理学 アート ※		1前・後 1前・後	4 2	2 2	相模女子大学人間社会学部 教授 (平24.4)						
13	その他	教授	イナダ ダイスケ 稲田 大祐 ＜令和8年9月＞		修士（芸術）		さがみ発想講座 ※		1後	0.1	1	相模女子大学学芸学部 教授 (平25.4)						
14	その他	教授	オカベ ヨシヒロ 岡部 芳広 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		言語と異文化 ※ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ		1前 2前 2後	0.1 1 1	1 1 1	相模女子大学学芸学部 教授 (平22.4)						
15	その他	教授	カナモリ ツヨシ 金森 剛 ＜令和9年4月＞		博士（経営学）		マーケティング・経営戦略論 ブランド戦略・商品開発論		2前 2後	2 2	1 1	相模女子大学人間社会学部 教授 (平20.4)						
16	その他	教授	カミジョウ ミワコ 上條 美和子 ＜令和8年4月＞		文学修士 言語学修士 ※		英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 海外研修Ⅰ 海外研修Ⅱ 海外研修Ⅲ 日本語Ⅰ 日本語Ⅱ		1前・後 1前・後 1前・後 1後 2前 2後 1前 1後	2 2 2 2 2 2 1 1	2 2 2 1 1 1 1 1	相模女子大学学芸学部 教授 (平22.4)						
17	その他	教授	キモト レイイチ 木本 玲一 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		社会学		1前・後	2	1	相模女子大学人間社会学部 教授 (平20.4)						
18	その他	教授	クボ ヤスヒコ 久保 康彦 ＜令和8年4月＞		修士（商学）※		社会貢献・地域連携 ※ さがみ発想講座 ※		1前 1後	0.7 0.1	1 1	相模女子大学学芸学部 教授 (平17.4)						
19	その他	教授	クワハラ シゲル 桑原 茂 ＜令和8年9月＞		MASTER OF SCIENCE (米国)		さがみ発想講座 ※		1後	0.4	1	相模女子大学学芸学部 教授 (平30.4)						
20	その他	教授	サカモト ヨシコ 坂本 佳子 ＜令和8年4月＞		修士（学術）※		言語と異文化 ※ フランス語Ⅲ		1前 2前	0.3 1	1 1	相模女子大学学芸学部 教授 (平12.4)						

21	その他	教授	ササダ シュウサク 笹田 周作 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		身体科学 健康スポーツ		1前 1前・後	4 2	2 2	相模女子大学栄養科学部 教授 (平26.4)						
22	その他	教授	ソウノ フミトシ 宗野 文俊 ＜令和8年9月＞		論文博士（教育学）		球技スポーツ		1前・後	1	1	相模女子大学学芸学部 教授 (平27.9)						
23	その他	教授	ソン ウォンソク 宣 元錫 ＜令和8年4月＞		博士（社会学）		韓国／朝鮮語Ⅰ 韓国／朝鮮語Ⅱ 韓国／朝鮮語Ⅲ 韓国／朝鮮語Ⅳ		1前・後 1後・2前 2前 2後	5 2 1 1	5 2 1 1	相模女子大学学芸学部 非常勤講師 (令3.4)						
24	その他	教授	ツツミ リュウイチロウ 堤 龍一郎 ＜令和8年9月＞		Master of Arts in Film Studies (英国)		さがみ発想講座 ※		1後	0.1	1	相模女子大学学芸学部 教授 (平26.4)						
25	その他	教授	ナガタニ ナオコ 永谷 直子 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		言語学		1前・後	2	1	相模女子大学学芸学部 教授 (平27.4)						
26	その他	教授	ナカバヤシ マサミ 中林 正身 ＜令和8年4月＞		Doctor of Philosophy（英国）		文学 言語と異文化 ※		1前・後 1前	2 0.6	1 1	相模女子大学学芸学部 教授 (平20.4)						
27	その他	教授	ナカムラ マリ 中村 真理 ＜令和8年9月＞		文学修士※		地域協働活動 就職支援講座 英語Ⅰ		2通 3前 1前・後	1 2 1	1 1 1	相模女子大学学芸学部 教授 (平4.4)						
28	その他	教授	マツナガ サチコ 松永 幸子 ＜令和8年4月＞		博士（教育学）		言語と異文化 ※		1前	0.6	1	相模女子大学教職センター 教授 (令5.4)						
29	その他	教授	ミズカミ ユキ 水上 由紀 ＜令和8年4月＞		博士（食物栄養学）		さがみ発想講座 ※ 言語と異文化 ※		1後 1前	0.1 0.7	1 1	相模女子大学栄養科学部 教授 (平22.4)						
30	その他	教授	ミヤモト セツコ 宮本 節子 ＜令和8年4月＞		Master of Philosophy（愛蘭）		英語Ⅰ 英語Ⅱ		1前・後 1前・後	1 1	1 1	相模女子大学学芸学部 教授 (平16.4)						
31	その他	教授	ヤマグチ ユキコ 山口 由紀子 ＜令和8年9月＞		修士（法学）※		民法（契約法） 消費者問題と政策		1後 2前	2 2	1 1	相模女子大学人間社会学部 教授 (平14.3)						

32	その他	教授	ワタナベ ユキノリ 渡辺 幸倫 ＜令和8年9月＞		博士（学術）		さがみ発想講座 ※		1後	0.1	1	相模女子大学学芸学部 教授 (平19.4)						
33	その他	准教授	ゴトウ（ウエダ） ミオ 後藤（上田） 美緒 ＜令和8年9月＞		博士（社会学）		グローバリゼーションとローカリゼーション		1 後	2	1	相模女子大学人間社会学部 准教授 (令6.4)						
34	その他	准教授	シモダ ショウヘイ 下田 章平 ＜令和8年4月＞		博士（芸術学）		書道		1前・後	2	1	相模女子大学学芸学部 准教授 (平30.4)						
35	その他	准教授	タケベ マサアキ 武部 正明 ＜令和8年9月＞		博士（教育学）		心理学		1前・後	2	1	相模女子大学人間社会学部 准教授 (令6.4)						
36	その他	准教授	ツカダ シュウイチ 塚田 修一 ＜令和8年4月＞		修士（社会学） ※		メディアと文化		1前・後	2	1	相模女子大学学芸学部 准教授 (令2.4)						
37	その他	准教授	ヒゴ リエコ 肥後 梨恵子 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		ウエルネス 球技スポーツ ラケットスポーツ シーズンスポーツ		1前・後 1前・後 1前・後 1通	4 3 2 2	2 3 2 2	相模女子大学人間社会学部 准教授 (令4.4)						
38	その他	准教授	ムラマツ（オダ） アキコ 村松（小田） 彰子 ＜令和8年4月＞		論文博士（社会 人類学）		くらしと文化		1前・後	2	1	相模女子大学人間社会学部 准教授 (平23.4)						
39	その他	准教授	ヤマモト エリコ 山本 絵里子 ＜令和8年4月＞		博士（心理学）		アート ※ さがみ発想講座 ※		1前・後 1後	2 0.1	2 1	相模女子大学人間社会学部 准教授 (令2.4)						
40	その他	講師	フジタ ユウ 藤田 佑 ＜令和8年9月＞		博士（文学）		さがみ発想講座 ※		1後	0.1	1	相模女子大学学芸学部 専任講師 (令2.4)						
41	その他	講師	アサクマ ハルカ 朝熊 悠 ＜令和8年4月＞		修士（学術）		英語Ⅰ 英語Ⅱ		1前・後 1前・後	2 3	2 3	関東学院大学 非常勤講師 (平31.4) 多摩美術大学 非常勤講師 (令4.4) 東京工科大学 非常勤講師 (令4.4) 立正大学 非常勤講師 (令4.4)						

42	その他	講師	アダチ アツコ 足立 敦子 ＜令和8年4月＞		学士（文学）		書道		1前・後	2	1	相模女子大学日本語日本文学科 非常勤講師 （平27.9） YMCA茨城書道教室講師 （平27.6） 跡見女子大学中学校高等学校芸術科（書道） 非常勤講師 （令7.4）						
43	その他	講師	アンドウ イサオ 安藤 功 ＜令和9年4月＞		経営管理修士		ベンチャー論 経営組織・人事管理論		2前 2前	2 2	1 1	株式会社社会人材コミュニケーションズ パートナーコンサルタント （平25.12）						
44	その他	講師	イシオカ カツトシ 石岡 克俊 ＜令和9年9月＞		修士（法学）		知的財産権法		2後	2	1	慶應義塾大学大学院法務研究科 教授 （平9.4）						
45	その他	講師	イシガキ（コセキ） ミオ 石垣（小関） 弥麻 ＜令和8年4月＞		文学修士		英語Ⅰ		1前・後	4	4	相模女子大学学芸学部 非常勤講師 （平8.5）						
46	その他	講師	イズミ ケイスケ 泉 圭祐 ＜令和8年4月＞		体育学修士 修士（スポーツ 産業・マネジメント）		球技スポーツ ラケットスポーツ		1前・後 1前・後	1 3	1 3	相模女子大学 非常勤講師 （平20.4）						
47	その他	講師	イトウ タツヤ 伊藤 達也 ＜令和8年4月＞		修士（文学）		英語Ⅰ		1前・後	6	6	東京都立大学 非常勤講師 （平17.4）						
48	その他	講師	イヌカイ サトシ 犬飼 智 ＜令和8年4月＞		修士（文学）		日本の社会と文化		1前・後	2	1	株式会社東京教育研 嘱託 （令6.4）						
49	その他	講師	イワミ アキラ 岩見 亮 ＜令和8年4月＞		体育学士		ラケットスポーツ		1前・後	4	4	相模女子大学 非常勤講師 （平22.4）						
50	その他	講師	ウエハラ スワコ 上原 寿和子 ＜令和8年4月＞		言語学修士		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ		1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	1 3 1 1	1 3 1 1	電気通信大学情報理工学研究科 准教授 （平25.9）						
51	その他	講師	エグチ フミエ 江口 文恵 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		文学		1前・後	2	1	早稲田大学理工学術院 非常勤講師 （平23.4） 早稲田大学人間科学学術院 非常勤講師 （平27.4） 法政大学通信教育部 兼任講師 （令3.4）						
52	その他	講師	オオマエ モトノブ 大前 元伸 ＜令和8年4月＞		修士（学術）※ Master Recherche en philosophie（フ ランス）※		フランス語Ⅰ		1前・後	6	6	相模女子大学 非常勤講師 （令1.9）						

53	その他	講師	キザキ エイジ 木崎 英司 ＜令和8年4月＞		修士（経営学）		キャリア・プランニング ビジネス実務総論 プレゼンテーション入門	○	1前・後 1前・後 1前	2 2 2	1 1 1	亜細亜大学経営学部 教授 （平29.4）						亜細亜大学経営学部 「基（主専）」
54	その他	講師	キンジョウ ナナエ 金城 奈々恵 ＜令和9年9月＞		Master of Arts in Development Economics（英国）		消費者行動論		2後	2	1	株式会社オーグス総研 シニアコンサルタント （平30.5）						
55	その他	講師	クボタ ヒサシ 窪田 尚 ＜令和8年4月＞		学士（芸術学）		コンピュータリテラシー 情報リテラシー		1前・後 1前・後	2 1	1 1	日本大学芸術学部 非常勤講師 （平15.4）						
56	その他	講師	コマツ マサキ 小松 雅樹 ＜令和9年9月＞		修士（経営学）、Master of Science（米国）		スポーツ産業論		2後	2	1	日本工学院八王子専門学校 教員 （平17.4）						
57	その他	講師	サカグチ ユキオ 坂口 幸雄 ＜令和9年9月＞		修士(商学)		会計学	○	2後	2	1	専修大学経営学部 准教授 （平19.4）						専修大学経営学部 「基（主専）」
58	その他	講師	ササキ ヤスナリ 佐々木 康成 ＜令和8年4月＞		修士（人間科学）※		情報処理概論 情報リテラシー		1後 1前・後	2 3	1 3	早稲田大学人間科学部通信教育課程 教育コーチ （平16.4） 桜美林大学 非常勤講師 （平19.4） 相模女子大学 非常勤講師 （平20.4） 早稲田大学スポーツ科学学術院 非常勤講師 （平23.4） 相模原看護専門学校 非常勤講師 （平25.4） 明治大学 非常勤講師 （平26.4） 早稲田大学グローバルエデュケーションセンター 非常勤講師 （平26.4）						
59	その他	講師	シミズ ジュンコ 清水 純子 ＜令和8年4月＞		修士（国際関係学）※		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ		1前・後 1後	5 1	5 1	東海大学総合教育センター語学教育センター国際言語教育学系 非常勤講師 （平10.4） 青山学院大学青山スタンダード 非常勤講師 （平13.4） 相模女子大学 非常勤講師 （平15.4）						
60	その他	講師	スギヤマ アキラ 杉山 章 ＜令和8年4月＞		修士（経営管理）※		経済学 社会学		1前・後 1前・後	2 4	1 2	東京福祉大学 大学院 准教授 （令3.4）						

61	その他	講師	スズキ カツミ 鈴木 勝己 ＜令和8年9月＞		博士（人間科学）		くらしと文化		1前・後	2	1	早稲田大学人間科学通信教育 課程 教育コーチ （平16. 4）						
62	その他	講師	スズキ リカ 鈴木 里香 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		ドイツ語I		1前・後	2	2	相模女子大学非常勤講師 （平23. 4）						
63	その他	講師	ソノベ ユタカ 園部 豊 ＜令和8年4月＞		博士（体育科学）		健康スポーツ		1前・後	2	2	帝京平成大学 准教授 （平28. 4）						
64	その他	講師	タシロ（エノキ） ヒトミ 田代（榎木） ひとみ ＜令和8年9月＞		人文科学博士		言語学		1前・後	2	1	明治大学経営学部 兼任講師 （平21. 4）						
65	その他	講師	タブチ トシヒコ 田淵 俊彦 ＜令和9年4月＞		法学士		エンターテインメント産業論		2 前	2	1	桜美林大学芸術文化学群ビ ジュアル・アーツ専修 教授 （令5. 4）						桜美林大学芸術文化学群ビジュアル・ アーツ専修 「基（主専）」
66	その他	講師	ツムラ サチエ 津村 幸恵 ＜令和8年9月＞		教育学修士		書道		1前・後	2	1	茨城キリスト教大学文学部 兼任講師 （令1. 9） 都留文科大学文学部 非常勤講師 （令3. 4） 相模女子大学学芸学部 非常勤講師 （令4. 4）						
67	その他	講師	ナカガワ ジュンコ 中川 純子 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ		1前・後 1後・2前 2前	3 1 1	3 1 1	相模女子大学 非常勤講師 （令4. 4）						
68	その他	講師	ナカタ レイコ 中田 玲子 ＜令和9年9月＞		修士（人文科学）		メニュー開発論 テーブルコーディネート論（演習含む）		2 後 3 後	2 2	1 1	昭和学院短期大学 非常勤講師 （平成30. 4）						
69	その他	講師	ナカノワタリ カイト 中野渡 快人 ＜令和8年4月＞		修士（栄養科学）		健康スポーツ		1前・後	3	3	個人事業主 （平20. 4）						
70	その他	講師	ナカムラ コウヘイ 中村 浩平 ＜令和8年4月＞		教育修士		ラケットスポーツ 健康スポーツ		1前・後 1前・後	2 2	2 2	相模女子大学 非常勤講師 （平19. 4）						
71	その他	講師	ナカイエ ヤチヨ 中家 八千代 ＜令和8年4月＞		文学学士		ビジネス実務総論		1前・後	6	3	個人事業主 （平15. 4）						

72	その他	講師	ノゾエ キヌコ 野添 絹子 ＜令和8年4月＞		教育学修士		英語Ⅰ		1前・後	3	3	元 一般社団法人認知的個性 協会 副会長 (平27.3まで)						
73	その他	講師	ハヤカワ ヨシオ 早川 桂央 ＜令和8年9月＞		修士（中国学）		書道		1前・後	2	1	麻布大学附属高等学校 非常勤講師 (令3.4) 相模女子大学 非常勤講師 (令3.9)						
74	その他	講師	ハルヤマ ジュンイチ 春山 純一 ＜令和8年4月＞		理学博士		地域から学ぶ知の実践		1前	4	2	宇宙航空研究開発機構 助教 (平15.1)						
75	その他	講師	ヒラサワ ノブユキ 平澤 暢之 ＜令和8年4月＞		Doctorat en langue et litté rature franç aise（フランス）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ		1前・後 1後・2前	2 2	2 2	日本学術振興会 特別研究員PD (令5.4)						
76	その他	講師	フナハシ ミチコ 舟橋 倫子 ＜令和8年4月＞		博士（歴史学）		諸外国の社会と文化		1前・後	2	1	相模女子大学 非常勤講師 (平25.7)						
77	その他	講師	ホリ ヒサコ 堀 弥子 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ		1前・後 1後・2前	2 1	2 1	千葉大学 非常勤講師 (令5.4)						
78	その他	講師	ホンゴウ（マチダ） アサカ 本郷（町田） 朝香 ＜令和8年9月＞		博士（人文科学）		倫理学		1前・後	2	1	お茶の水女子大学 非常勤講師 (平17.4)						
79	その他	講師	マツイ タケハル 松井 丈晴 ＜令和8年4月＞		修士（法学）※		法学 日本国憲法		1後 1前・後	2 8	1 4	相模女子大学 非常勤講師 (平30.9)						
80	その他	講師	マツシタ ヌウイチ 松下 優一 ＜令和8年4月＞		博士（社会学）		メディアと文化 社会学		1前・後 1前・後	4 2	2 1	法政大学 兼任講師 (令和2.4)						
81	その他	講師	マツシタ ミドリ 松下 みどり ＜令和8年9月＞		文学修士※		日本の社会と文化		1前・後	2	1	相模女子大学 非常勤講師 (平10.4)						
82	その他	講師	マツナカ（オオニシ） レイコ 松中（大西） 玲子 ＜令和10年4月＞		博士（学術）		SPI対策講座		3前	2	1	東京大学大学院総合文化研究 科 特任研究員 (平25.4)						

83	その他	講師	マツモト ユキコ 松本 有希子 ＜令和8年4月＞		修士（言語文化）※		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ		1前・後 1後	4 1	4 1	相模女子大学 非常勤講師 （平30.4）						
84	その他	講師	ミツイ トシロウ 三井 敏朗 ＜令和8年4月＞		修士（英文学）※		英語Ⅰ		1前・後	4	4	相模女子大学 非常勤講師 （平8.4）						
85	その他	講師	ミツハシ ダイスケ 三橋 大輔 ＜令和8年4月＞		修士（人間科学）		データサイエンス AIと社会		1前・後 1前・後	6 6	3 3	相模女子大学 非常勤講師 （平19.9）						
86	その他	講師	ヤマオカ ワカナ 山岡 若菜 ＜令和8年4月＞		学士（運動科学）		健康スポーツ		1前・後	4	4	相模女子大学 非常勤講師 （平26.4） 東海大学 非常勤講師 （令4.4）						
87	その他	講師	ヤマギシ ミチタカ 山岸 道隆 ＜令和9年4月＞		文学士		流通論		2 前	2	1	株式会社エスシー総合管理 代表取締役 （平30.6）						
88	その他	講師	ヤマシタ タケオ 山下 雄大 ＜令和8年4月＞		修士（学術）、 Master(Sociologie et philosophie politique)（フランス）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ		1前・後 1後・2前	3 1	3 1	中央大学総合政策学部 非常勤講師 （令6.4）						
89	その他	講師	クオン ヒョクリン 権 赫麟 ＜令和8年4月＞		博士（観光学）		韓国／朝鮮語Ⅰ		1前・後	6	6	帝京大学 経済学部 准教授 （平成31.4）						
90	その他	講師	コウ ヨウシン 黄 耀進 ＜令和8年4月＞		修士（情報学）※		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前・後 1後・2前	6 4	6 4	相模女子大学 非常勤講師 （平31.4）						
91	その他	講師	シン ミョンホウ 申 明浩 ＜令和8年4月＞		芸術学修士※		韓国／朝鮮語Ⅰ 韓国／朝鮮語Ⅱ		1前・後 1後・2前	6 3	6 3	相模女子大学 非常勤講師 （平25.4）						
92	その他	講師	テイ アンクン 鄭 安君 ＜令和8年4月＞		博士（国際学）		諸外国の社会と文化 中国語Ⅱ エスニシティと地域社会		1前・後 1後・2前 2 前	4 1 2	2 1 1	相模女子大学 非常勤講師 （平22.2） 国際医療福祉大学 非常勤講師 （平30.4） 千葉大学 特任研究員 （令5.6）						

93	その他	講師	ヤク カイ 葉 会 ＜令和8年4月＞		文学修士		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前・後 1後・2前	2 2	2 2	相模女子大学 非常勤講師 (平8.9) 東京都都立国際高等学校 特別市民講師 (平5.4) 法政大学 非常勤講師 (平8.9) 青山学院大学 非常勤講師 (平15.4)					
94	その他	講師	ユウ (ゴトウ) ケイソ 熊 (後藤) 慧蘇 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前・後 1後・2前	2 1	2 1	相模女子大学 非常勤講師 (平22.4)					
95	その他	講師	リュウ レイキン 劉 靈均 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前・後 1後・2前	4 3	4 3	大阪公立大学人権問題研究セ ンター 客員研究員 (令和4.4) 元 三重大学人文学部 特任講師 (令和3.3まで)					
96	その他	講師	ベイツ, ジェイムス ウイリアム BATES, JAMES WILLIAM ＜令和8年4月＞		Doctor of Education (豪 州)		英語Ⅱ		1前・後	4	4	Seikei Institute of International Studies Associate Lecturer (令3.4)					
97	その他	講師	バーネット, ダニエル ジェーム ズ BARNETT, DANIEL JAMES ＜令和8年9月＞		M. A. English Language Teaching (英国)		英語Ⅱ		1前・後	1	1	桜美林大学 非常勤講師 (平16.9)					
98	その他	講師	マルティーナ ディエゴ Martina Diego ＜令和8年4月＞		修士 (日本近現 代文学)		イタリア語Ⅰ イタリア語Ⅱ		1前・後 1後・2前	4 2	4 2	東京大学 非常勤講師 (令4.4)					
99	その他	講師	ハセガワ トモタロウ 長谷川 朋太郎 ＜令和8年4月＞		Doctorat Esthé tique (フラン ス)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ		1前・後 1後・2前	3 2	3 2	日本学術振興会特別研究員PD (令7.4)					
100	その他	講師	ナガヤマ サトコ 永山 聡子 ＜令和8年4月＞		修士 (社会学)		ジェンダー論		1前	4	2	成城大学研究機構グローバル 研究センター 客員研究員 (令4.4)					
101	その他	講師	イカガ (コクボ) レイナ 伊香賀 (小久保) 玲奈 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)		基礎化学 基礎化学実験 食品分析学	○	1 前 2 前 2 後	2 1 2	1 1 1	大妻女子大学 非常勤講師 (令3.4) 国立健康・栄養研究所 協力研究員 (令5.4)					
102	その他	講師	モリ ユウミン (ナサ トシタ カ) 森 由民 (奈佐 年貴) ＜令和8年9月＞		理学士		アニマルウェルフェア		1 後	2	1	個人事業主 (動物園ライター) (平18.4)					
103	その他	講師	クボ リョウヘイ 久保 良平 ＜令和9年9月＞		博士 (農学)		生物と生態系		2 後	2	1	玉川大学学術研究所ミツバチ 科学研究センター 特別研究員 (平25.4)					

104	その他	講師	オクヤマ ヨシフミ 奥山 喜文 ＜令和9年4月＞		経営学修士		広報と広告		2 前	2	1	西日本旅客鉄道株式会社コーポレートコミュニケーション部 課長 (令7.4)						
105	その他	講師	サカイ マサヨシ 境 真良 ＜令和8年9月＞		学士（法学）※		社会調査法入門		1 後	2	1	経済産業省 消費者政策研究官 (令5.7)						
106	その他	講師	ササキ キョウコ 佐々木 恭子 ＜令和9年9月＞		学士（文学）		気候変動と気象予測		2 後	2	1	合同会社てんコロ 代表社員 (平22.9) TeamSABOTEN株式会社 取締役 (令7.3)						
107	その他	講師	アラタニ ヤスアキ 荒谷 康昭 ＜令和8年9月＞		農学博士		生化学		1 後	2	1	横浜国立大学 名誉教授 (令6.4) 横浜国立大学 客員教授 (令6.4)						
108	その他	講師	テラジマ ジュン 寺嶋 淳 ＜令和8年9月＞		獣医学博士		微生物学		1 後	2	1	日本食品衛生協会 学術顧問 (令6.4)						
109	その他	講師	カタギリ ヒロシ 片桐 裕史 ＜令和9年9月＞		医学博士		食品衛生学実験		2 後	1	1	北里大学医療衛生学部 助教 (平19.4)						
110	その他	講師	アラタケ ヒロコ 新竹 浩子 ＜令和9年4月＞		文学士		食文化と伝承		2 前	2	1	株式会社新竹商店 代表取締役社長 (平20.5) 松阪市観光協会理事 (平24.4)						
111	その他	講師	ヤナギサワ タカオ 柳澤 貴雄 ＜令和9年9月＞		経営学士		農水産業と地域社会		2 後	2	1	元 農林水産省関東農政局 農村計画課長 (令6.3まで)						
112	その他	講師	ヒラサカ カツヤ 平坂 勝也 ＜令和9年9月＞		博士（栄養学）		農水産物の加工と流通		2 後	2	1	長崎大学海洋未来イノベーション機構 教授 (令和6.4)						長崎大学海洋未来イノベーション機構 「基（主専）」

（注）

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。
- 4 「教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況」の欄は、教育課程の編成等についての意思決定を行う会議体で所属予定の会議体がある場合、欄に「○」を記入すること。
- 5 「申請に係る大学等の職務に従事する週当たりの平均日数」及び「申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況」の欄は、基幹教員のみ記載すること。
- 6 「申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況」の欄は、申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）で基幹教員として勤務している場合、その大学及び学部等の名称及びそれらの学部等での教員区分を記載すること。

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人	0人	0人	2人	0人	1人	0人	3人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	2人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准教授	博 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修 士	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
講 師	博 士	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	
	修 士	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
助 教	博 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合 計	博 士	0人	0人	0人	3人	0人	1人	0人	4人	
	修 士	0人	1人	1人	0人	0人	0人	2人	4人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

（注）

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、基幹教員についてのみ作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 「基幹教員の年齢構成・学位保有状況」欄の「基幹教員」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合、「専任教員」と読み替えること。
- 5 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。